

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 60

JYOGAO

城ヶ尾遺跡 I

東九州自動車道建設(末吉IC～国分IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II

旧石器時代編

2003年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

(白紙)

(合紙)

(合紙)



(白紙)



(白紙)



(白紙)



(白紙)

序 文

鹿児島県教育委員会では、東九州自動車道（末吉IC～国分IC間）の建設に伴い、平成8年度から埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

この報告書は、平成9年から平成11年にかけて発掘調査を行った、「城ヶ尾遺跡」の発掘調査報告書です。

城ヶ尾遺跡では旧石器時代、縄文時代早期を中心に多量の遺構、遺物が出土し、多大な成果を収めました。特に縄文時代早期の遺物出土状況や、旧石器時代の礫群、ブロックのあり方は当時の生活を解明するうえで貴重な資料として注目されます。

本書は、南九州に住んだ先人たちの歴史の一端を明らかにする貴重な手がかりを提供するものと考えております。文化財の保護や学術研究のための資料として活用していただければ幸いです。

終わりに、調査にあたりまして御協力いただいた日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所や関係者の方々ならびに地域の皆様に心から感謝申し上げます。

平成15年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 井 上 明 文

例

- 1 この報告書は、東九州自動車道建設(末吉IC～国分IC間)に伴う「城ヶ尾遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所の受託事業として、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 本報告書で用いたレベル数値はすべて海拔高である。
- 4 本報告書の遺物番号は各章または各節ごとの通し番号とし、挿図、表、図版の番号と一致する。
- 5 発掘調査において福山町教育委員会の協力を得た。
- 6 発掘調査における実測及び写真撮影は、調査担当者が行った。
- 7 遺構実測の一部は(株)埋蔵文化財サポートシステム、(株)エーテックに委託した。
- 8 遺物実測の一部は(株)エーテック、(株)九州文化財研究所に依頼し、その監修については長野が行った。
- 9 本報告書の制作・整理事業にはデジタル技術を導入し、図版等の作成および編集に係るデータ処理は馬籠と有馬が行った。
- 9 本報告書の編集は鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い、馬籠、有馬が担当した。なお、各項目の執筆分担は以下の通りである。

第I章 ……………有馬孝一

第II章 ……………有馬孝一

第III章

第1節～第4節

1 ……………長野眞一

2 ……………有馬孝一、馬籠亮道

3 ……………長野眞一、馬籠亮道

第5節

1 ……………長野眞一

2 ……………長野眞一、馬籠亮道

第IV章

第1節 ……………長野眞一

第2節 ……………有馬孝一

第3節 ……………鮫島伸吾、真鍋雄一郎、
長野眞一

第4節 ……………馬籠亮道、長野眞一

第V章 ……………有馬孝一

付編(1) ……………永濱功治

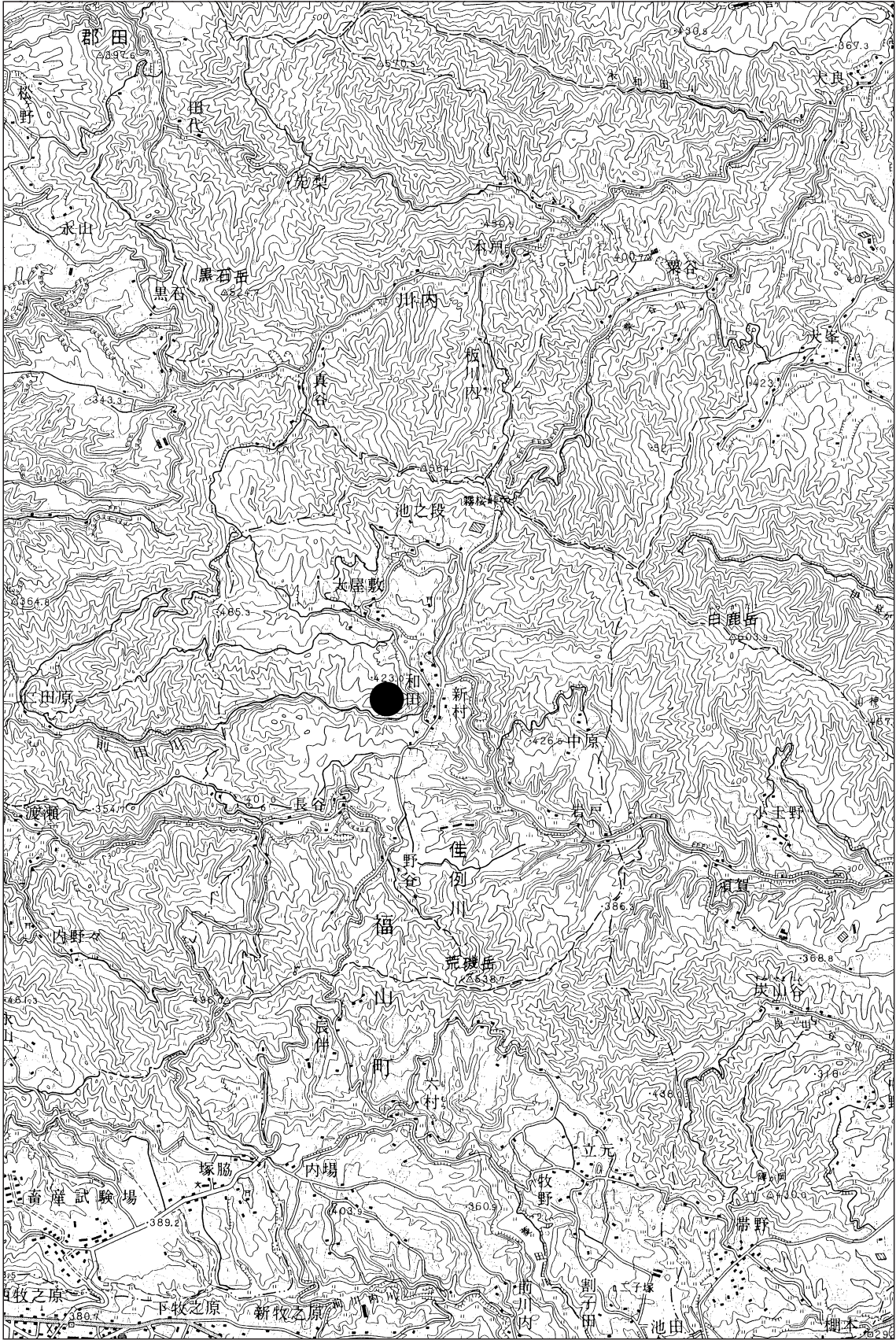
第VI章 ……………有馬孝一、馬籠亮道
長野眞一、鮫島伸吾

言

- 10 遺物に関する写真撮影は鶴田静彦、福永修一、横手浩二郎が行った。
- 11 城ヶ尾遺跡出土炭化材の樹種同定、年代測定については(株)古環境研究所に依頼し、土壌中の植物珪酸体分析、旧石器土坑、埋設土器内容物の土壌理化学分析は(株)パリノ・サーヴェイに依頼し、その分析結果報告を付編に掲載した。
- 12 掲載遺物の縮尺は、土器については1/3、石器については1/1を基本とする。しかし、礫石器等大型のものについてはこの限りではない。また、遺構については1/20を基本としたが、これについても大型の遺構についてはこの限りではない。各々、図中に示したスケールを参考とされたい。
- 13 本報告書に掲載した出土遺物、図面、写真等は鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、活用する。なお、本報告書に使用したデータの一部は鹿児島県埋蔵文化財情報管理システムおよび埋蔵文化財情報データベース(<http://www.jomon-no-mori.jp>)で公開する予定である。

報 告 書 抄 録

ふりがな	じょうがおいせき							
書名	城ヶ尾遺跡							
副書名	東九州自動車道（末吉 IC ～国分 IC 間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	II							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	60							
編著者名	有馬孝一・馬籠亮道・鮫島伸吾・真鍋雄一郎・長野眞一							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒 899-4461 鹿児島県国分市上之段 1175-1 TEL 0995-48-5811							
発行年月日	2003 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
じょうがお 城ヶ尾	かごしまけん 鹿児島県 あいらぐん 始良郡 ふくやまちょうかがわ 福山町佳例川	464518	62-8-0	30°	130°	確認調査	9,100	東九州自動車 道建設（末吉 IC ～国分 IC 間）に伴う埋 蔵文化財発掘 調査
				42′	52′	19971001 } 19971021		
				55″	49″	本調査 19980506 } 19990331 19990506 } 19990709		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
城ヶ尾	包含地	旧石器 縄文草創期 早期 前期 中期末 晩期 古墳	土坑 土坑 土器埋設遺構 土坑 土坑 住居跡	礫群 集石	三稜尖頭器, ナイフ形石器 前平式土器, 吉田式土器 石坂式土器, 塞ノ神式土器 石鏃, 磨石, 石皿等 成川式土器			



遺跡の位置図

S = 1/50000

本 文 目 次

I 旧石器時代編

第I章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 発掘調査の概要と経過	2

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3節 遺跡の層位	11

第III章 旧石器時代の調査

第1節 第I文化層の調査	
1 調査の方法と概要	18
2 遺構	19
3 遺物	20
第2節 第II文化層の調査	
1 調査の方法と概要	31
2 遺構	31
3 遺物	41
第3節 第III文化層の調査	
1 調査の方法と概要	123
2 遺構	126
3 遺物	131
第4節 第IV文化層の調査	
1 調査の方法と概要	199
2 遺構	200
3 遺物	206
第5節 第V文化層の調査	
1 調査の方法と概要	230
2 遺物	230

II 縄文・古墳時代編

第IV章 縄文時代の調査

第1節 調査の方法と概要	1
第2節 縄文時代の遺構	1
1 VIII層の遺構	1
2 VII層の遺構	43
3 VI層の遺構	79
4 V層の遺構	86
5 IV層の遺構	91
第3節 縄文時代の土器	95
1 I類土器 前平式土器	97
2 II類 吉田式土器	98
3 III類 石坂式土器	108
4 IV類 円筒形土器	119
5 V類 押型文土器	121
6 VI類 下剥釜式土器	123
7 VII類 手向山式土器	126
8 VIII類 平橋式土器	126
9 IX類 塞ノ神A式土器	129
10 X類 塞ノ神B式土器	145
11 資料別接合状況および碎片化について	180
12 XI類 轟式土器	194
13 XII類 曾畑式土器	194
14 XIII類 深浦式土器	194
15 XIV類 春日式土器	196
16 XV類 晩期土器	196
第4節 縄文時代の石器	201
1 VIII層出土石器	201
2 VI～VII層出土石器	209
3 V層出土石器	290
4 IV層出土石器	297
5 時期不明石器	298

第V章 古墳時代の調査

第1節 調査の方法と概要	302
第2節 古墳時代の遺構と遺物	302
第3節 古墳時代の遺物	307

付編 自然科学分析報告	321
城ヶ尾遺跡出土の耳栓に付着した赤色顔料について	323
城ヶ尾遺跡出土炭化材の樹種同定	325
城ヶ尾遺跡出土炭化物の放射性炭素年代測定	326
城ヶ尾遺跡の古植生と遺構内容物について	328

第VI章 まとめ	334
----------	-----

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡地図	8	第65図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(1)	68
第2図	遺跡と周辺の地形	9	第66図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(2)	69
第3図	周辺地形と調査区及びグリッド配置図	10	第67図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(3)	70
第4図	城ヶ尾遺跡標準土層図	11	第68図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(4)	71
第5図	土層断面実測図(1)	11	第69図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(5)	72
第6図	土層断面実測図(2)	12	第70図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(6)	73
第7図	土層断面実測図(3)	13	第71図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(7)	74
第8図	土層断面実測図(4)	14	第72図	第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(8)	75
第9図	第I文化層ユニット配置図及び遺構位置図	16	第73図	第II文化層第3ユニット第11エリア遺物出土状況図	77
第10図	第I文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況	17	第74図	第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(1)	78
第11図	第I文化層遺構実測図(1)	18	第75図	第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(2)	79
第12図	第I文化層遺構実測図(2)	19	第76図	第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(3)	80
第13図	第I文化層遺構実測図(3)	20	第77図	第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(4)	81
第14図	第I文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図	20	第78図	第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(5)	82
第15図	第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(1)	21	第79図	第II文化層第3ユニットエリア外出土石器実測図	84
第16図	第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(2)	22	第80図	第II文化層第4ユニット第12エリア遺物出土状況図	85
第17図	第I文化層第1ユニット第2エリア遺物出土状況図	23	第81図	第II文化層第4ユニット第12エリア出土石器実測図	86
第18図	第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(1)	24	第82図	第II文化層第4ユニット第13エリア遺物出土状況図	87
第19図	第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(2)	25	第83図	第II文化層第4ユニット第13エリア出土石器実測図	87
第20図	第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(3)	26	第84図	第II文化層第4ユニット第14エリア遺物出土状況図	88
第21図	第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(4)	27	第85図	第II文化層第4ユニット第14エリア出土石器実測図(1)	89
第22図	第I文化層第1ユニット第3エリア遺物出土状況図	28	第86図	第II文化層第4ユニット第14エリア出土石器実測図(2)	90
第23図	第I文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図	29	第87図	第II文化層第4ユニット第15エリア遺物出土状況図	91
第24図	第I文化層接合状況図	30	第88図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(1)	92
第25図	第II文化層ユニット配置図及び遺構位置図	31	第89図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(2)	93
第26図	第II文化層遺構実測図(1)	32	第90図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(3)	94
第27図	第II文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)	33	第91図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(4)	95
第28図	第II文化層遺構実測図(2)	33	第92図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(5)	96
第29図	第II文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)	34	第93図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(6)	97
第30図	第II文化層遺構実測図(3)	34	第94図	第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(7)	98
第31図	第II文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(3)	35	第95図	第II文化層第4ユニット第16エリア遺物出土状況図	100
第32図	第II文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(4)	36	第96図	第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(1)	101
第33図	第II文化層遺構実測図(4)	38	第97図	第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(2)	102
第34図	第II文化層遺構実測図(5)	39	第98図	第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(3)	103
第35図	第II文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図	40	第99図	第II文化層第4ユニット第17エリア遺物出土状況図	104
第36図	第II文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図	40	第100図	第II文化層第4ユニット第17エリア出土石器実測図	105
第37図	第II文化層第1ユニット第2エリア遺物出土状況図	41	第101図	第II文化層第4ユニットエリア外出土石器実測図	106
第38図	第II文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(1)	42	第102図	第II文化層ユニット外エリア外出土石器実測図	107
第39図	第II文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(2)	43	第103図	第II文化層出土位置不明石器実測図	107
第40図	第II文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(3)	44	第104図	第II文化層接合遺物実測図(1)	109
第41図	第II文化層第1ユニット第3エリア遺物出土状況図	45	第105図	第II文化層石器接合状況図(1)	111
第42図	第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(1)	46	第106図	第II文化層接合遺物実測図(2)	112
第43図	第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(2)	47	第107図	第II文化層接合遺物実測図(3)	113
第44図	第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(3)	48	第108図	第II文化層石器接合状況図(2)	115
第45図	第II文化層第1ユニット第4エリア出土石器実測図(1)	49	第109図	第II文化層接合遺物実測図(4)	116
第46図	第II文化層第1ユニット第4エリア遺物出土状況図	50	第110図	第II文化層接合遺物実測図(5)	117
第47図	第II文化層第1ユニット第4エリア出土石器実測図(2)	50	第111図	第II文化層接合遺物実測図(6)	118
第48図	第II文化層第1ユニット第5エリア遺物出土状況図	51	第112図	第II文化層接合遺物実測図(7)	119
第49図	第II文化層第1ユニット第5エリア出土石器実測図	51	第113図	第II文化層接合遺物実測図(8)	120
第50図	第II文化層第2ユニット第6エリア出土石器実測図	52	第114図	第II文化層接合遺物実測図(9)	121
第51図	第II文化層第2ユニット第6エリア遺物出土状況図	53	第115図	第II文化層接合遺物実測図(10)	122
第52図	第II文化層第2ユニットエリア外出土石器実測図	54	第116図	第III文化層ユニット配置図及び遺構位置図	123
第53図	第II文化層第3ユニット第7エリア遺物出土状況図	55	第117図	第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)	124
第54図	第II文化層第3ユニット第7エリア出土石器実測図(1)	56	第118図	第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)	125
第55図	第II文化層第3ユニット第7エリア出土石器実測図(2)	57	第119図	第III文化層遺構実測図(1)	125
第56図	第II文化層第3ユニット第8エリア遺物出土状況図	58	第120図	第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(3)	126
第57図	第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(1)	59	第121図	第III文化層遺構実測図(2)	127
第58図	第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(2)	60	第122図	第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(4)	128
第59図	第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(3)	61	第123図	第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(5)	130
第60図	第II文化層第3ユニット第9エリア遺物出土状況図	62	第124図	第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(6)	130
第61図	第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(1)	63	第125図	第III文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図	131
第62図	第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(2)	64	第126図	第III文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(1)	132
第63図	第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(3)	65	第127図	第III文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(2)	133
第64図	第II文化層第3ユニット第10エリア遺物出土状況図	67	第128図	第III文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(3)	134

第129図	第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア遺物出土状況図	135	第196図	第Ⅳ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)	202
第130図	第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア出土石器実測図	135	第197図	第Ⅳ文化層遺構実測図(2)	204
第131図	第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア遺物出土状況図	136	第198図	第Ⅳ文化層第1ブロック遺物出土状況図	205
第132図	第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア出土石器実測図(1)	137	第199図	第Ⅳ文化層第1ブロック出土石器実測図(1)	205
第133図	第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア出土石器実測図(2)	138	第200図	第Ⅳ文化層第1ブロック出土石器実測図(2)	206
第134図	第Ⅲ文化層第4ユニット第4エリア遺物出土状況図	139	第201図	第Ⅳ文化層第2ブロック遺物出土状況図	207
第135図	第Ⅲ文化層第4ユニット第4エリア出土石器実測図	140	第202図	第Ⅳ文化層第2ブロック出土石器実測図	207
第136図	第Ⅲ文化層第5ユニット第5エリア出土石器実測図	141	第203図	第Ⅳ文化層第3ブロック遺物出土状況図	207
第137図	第Ⅲ文化層第5ユニット第5エリア遺物出土状況図	142	第204図	第Ⅳ文化層第3ブロック出土石器実測図	208
第138図	第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア遺物出土状況図	143	第205図	第Ⅳ文化層第4ブロック遺物出土状況図	210
第139図	第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(1)	144	第206図	第Ⅳ文化層第4ブロック出土石器実測図	211
第140図	第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(2)	145	第207図	第Ⅳ文化層第5ブロック遺物出土状況図	213
第141図	第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(3)	146	第208図	第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器実測図(1)	214
第142図	第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(4)	147	第209図	第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器実測図(2)	215
第143図	第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア遺物出土状況図	148	第210図	第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器実測図(3)	216
第144図	第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器実測図(1)	149	第211図	第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器実測図(4)	217
第145図	第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器実測図(2)	150	第212図	第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器実測図(5)	218
第146図	第Ⅲ文化層第5ユニット第8エリア遺物出土状況図	151	第213図	第Ⅳ文化層第1エリア遺物出土状況図	220
第147図	第Ⅲ文化層第5ユニット第8エリア出土石器実測図	151	第214図	第Ⅳ文化層第1エリア出土石器実測図(1)	221
第148図	第Ⅲ文化層第5ユニットエリア外出土石器実測図	152	第215図	第Ⅳ文化層第1エリア出土石器実測図(2)	222
第149図	第Ⅲ文化層第6ユニット第9エリア遺物出土状況図	153	第216図	第Ⅳ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(1)	224
第150図	第Ⅲ文化層第6ユニット第9エリア出土石器実測図	154	第217図	第Ⅳ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(2)	225
第151図	第Ⅲ文化層第6ユニット第10エリア出土石器実測図	155	第218図	第Ⅳ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(3)	226
第152図	第Ⅲ文化層第6ユニット第10エリア遺物出土状況図	156	第219図	第Ⅳ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(4)	227
第153図	第Ⅲ文化層第6ユニット第11エリア遺物出土状況図	157	第220図	第Ⅳ文化層接合遺物実測図	229
第154図	第Ⅲ文化層第6ユニット第11エリア出土石器実測図	157	第221図	第Ⅳ文化層接合状況図	229
第155図	第Ⅲ文化層第6ユニット第12エリア遺物出土状況図	158	第222図	第Ⅴ文化層ユニット配置図及び遺構位置図	230
第156図	第Ⅲ文化層第6ユニット第12エリア出土石器実測図	158	第223図	第Ⅴ文化層A地区出土石器実測図(1)	231
第157図	第Ⅲ文化層第6ユニットエリア外出土石器実測図	158	第224図	第Ⅴ文化層A地区出土石器実測図(2)	232
第158図	第Ⅲ文化層第7ユニット第13エリア出土石器実測図	159	第225図	第Ⅴ文化層第1ブロック出土石器実測図	233
第159図	第Ⅲ文化層第7ユニット第13エリア遺物出土状況図	160	第226図	第Ⅴ文化層第1ブロック遺物出土状況図	234
第160図	第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア遺物出土状況図	161	第227図	第Ⅴ文化層B地区ブロック外出土石器実測図(1)	235
第161図	第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(1)	162	第228図	第Ⅴ文化層B地区ブロック外出土石器実測図(2)	236
第162図	第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(2)	163	第229図	第Ⅴ文化層B地区ブロック外出土石器実測図(3)	237
第163図	第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(3)	164	第230図	第Ⅴ文化層B地区ブロック外出土石器実測図(4)	238
第164図	第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(4)	165	第231図	第Ⅴ文化層C地区第1エリア遺物出土状況図	239
第165図	第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア遺物出土状況図	167	第232図	第Ⅴ文化層C地区第1エリア出土石器実測図	240
第166図	第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(1)	168	第233図	第Ⅴ文化層出土位置不明石器実測図	241
第167図	第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(2)	169			
第168図	第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(3)	170			
第169図	第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(4)	171			
第170図	第Ⅲ文化層第8ユニットエリア外出土石器実測図	173			
第171図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア遺物出土状況図	174			
第172図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(1)	175			
第173図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(2)	176			
第174図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(3)	177			
第175図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(4)	178			
第176図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(5)	179			
第177図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(6)	180			
第178図	第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(7)	181			
第179図	第Ⅲ文化層第9ユニット第17エリア遺物出土状況図	183			
第180図	第Ⅲ文化層第9ユニット第17エリア出土石器実測図	184			
第181図	第Ⅲ文化層第10ユニット第18エリア遺物出土状況図	185			
第182図	第Ⅲ文化層第10ユニット第18エリア出土石器実測図	185			
第183図	第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(1)	187			
第184図	第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(2)	188			
第185図	第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(3)	189			
第186図	第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(4)	190			
第187図	第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(5)	191			
第188図	第Ⅲ文化層出土位置不明石器実測図	192			
第189図	第Ⅲ文化層接合遺物実測図(1)	193			
第190図	第Ⅲ文化層石器接合状況図(1)	194			
第191図	第Ⅲ文化層石器接合状況図(2)	196			
第192図	第Ⅲ文化層接合遺物実測図(2)	198			
第193図	第Ⅳ文化層ユニット配置図及び遺構位置図	199			
第194図	第Ⅳ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)	200			
第195図	第Ⅳ文化層遺構実測図(1)	201			

表 目 次

第1表 遺跡地名表(1) ……………	6	第65表 第Ⅴ文化層A地区出土石器観察表……………	233
第2表 遺跡地名表(2) ……………	7	第66表 第Ⅴ文化層第1ブロック出土石器観察表……………	234
第3表 第Ⅰ文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表……………	22	第67表 第Ⅴ文化層B地区ブロック外出土石器観察表……………	238
第4表 第Ⅰ文化層第1ユニット第2エリア出土石器観察表……………	28	第68表 第Ⅴ文化層C地区第1エリア出土石器観察表……………	241
第5表 第Ⅰ文化層第1ユニット第3エリア出土石器観察表……………	29	第69表 第Ⅴ文化層出土位置不明石器観察表……………	241
第6表 第Ⅱ文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表……………	40		
第7表 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア出土石器観察表……………	45		
第8表 第Ⅱ文化層第1ユニット第3エリア出土石器観察表……………	48		
第9表 第Ⅱ文化層第1ユニット第4エリア出土石器観察表……………	50		
第10表 第Ⅱ文化層第2ユニット第5エリア出土石器観察表……………	51		
第11表 第Ⅱ文化層第2ユニット第6エリア出土石器観察表……………	53		
第12表 第Ⅱ文化層第2ユニットエリア外出土石器観察表……………	54		
第13表 第Ⅱ文化層第3ユニット第7エリア出土石器観察表……………	58		
第14表 第Ⅱ文化層第3ユニット第8エリア出土石器観察表……………	62		
第15表 第Ⅱ文化層第3ユニット第9エリア出土石器観察表……………	66		
第16表 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器観察表(1) ……	76		
第17表 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器観察表(2) ……	77		
第18表 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア出土石器観察表……………	83		
第19表 第Ⅱ文化層第3ユニットエリア外出土石器観察表……………	84		
第20表 第Ⅱ文化層第4ユニット第12エリア出土石器観察表……………	86		
第21表 第Ⅱ文化層第4ユニット第13エリア出土石器観察表……………	88		
第22表 第Ⅱ文化層第4ユニット第14エリア出土石器観察表……………	90		
第23表 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器観察表(1) ……	98		
第24表 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器観察表(2) ……	100		
第25表 第Ⅱ文化層第4ユニット第16エリア出土石器観察表(1) ……	104		
第26表 第Ⅱ文化層第4ユニット第16エリア出土石器観察表(2) ……	105		
第27表 第Ⅱ文化層第4ユニット第17エリア出土石器観察表……………	106		
第28表 第Ⅱ文化層第4ユニットエリア外出土石器観察表……………	106		
第29表 第Ⅱ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表……………	107		
第30表 第Ⅱ文化層出土位置不明石器観察表……………	107		
第31表 第Ⅲ文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表……………	135		
第32表 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア出土石器観察表……………	135		
第33表 第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア出土石器観察表……………	138		
第34表 第Ⅲ文化層第4ユニット第4エリア出土石器観察表……………	140		
第35表 第Ⅲ文化層第5ユニット第5エリア出土石器観察表……………	142		
第36表 第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器観察表……………	148		
第37表 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器観察表……………	150		
第38表 第Ⅲ文化層第5ユニット第8エリア出土石器観察表……………	151		
第39表 第Ⅲ文化層第5ユニットエリア外出土石器観察表……………	152		
第40表 第Ⅲ文化層第6ユニット第9エリア出土石器観察表……………	154		
第41表 第Ⅲ文化層第6ユニット第10エリア出土石器観察表……………	156		
第42表 第Ⅲ文化層第6ユニット第11エリア出土石器観察表……………	157		
第43表 第Ⅲ文化層第6ユニット第12エリア出土石器観察表……………	158		
第44表 第Ⅲ文化層第6ユニットエリア外出土石器観察表……………	158		
第45表 第Ⅲ文化層第7ユニット第13エリア出土石器観察表……………	160		
第46表 第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器観察表……………	166		
第47表 第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器観察表……………	172		
第48表 第Ⅲ文化層第8ユニットエリア外出土石器観察表……………	173		
第49表 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器観察表(1) ……	182		
第50表 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器観察表(2) ……	183		
第51表 第Ⅲ文化層第9ユニット第17エリア出土石器観察表……………	184		
第52表 第Ⅲ文化層第10ユニット第18エリア出土石器観察表……………	186		
第53表 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表(1) ……	189		
第54表 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表(2) ……	192		
第55表 第Ⅲ文化層出土位置不明石器観察表……………	192		
第56表 第Ⅳ文化層第1ブロック出土石器観察表……………	206		
第57表 第Ⅳ文化層第2ブロック出土石器観察表……………	207		
第58表 第Ⅳ文化層第3ブロック出土石器観察表(1) ……	209		
第59表 第Ⅳ文化層第3ブロック出土石器観察表(2) ……	210		
第60表 第Ⅳ文化層第4ブロック出土石器観察表……………	212		
第61表 第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器観察表(1) ……	219		
第62表 第Ⅳ文化層第5ブロック出土石器観察表(2) ……	220		
第63表 第Ⅳ文化層第1エリア出土石器観察表……………	223		
第64表 第Ⅳ文化層エリア外ブロック外出土石器観察表……………	228		

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は、東九州自動車道(末吉IC～国分IC間)の建設を計画し、事業区域内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育委員会、日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所、鹿児島県立埋蔵文化財センターとの間で協議を行い、工事予定区域内の埋蔵文化財の分布調査を行うこととした。分布調査は平成6年10月と平成7年5月に実施した。

その結果、工事予定地域内に13か所の遺物散布地や調査の必要な地点が存在することが判明した。そこで、再度協議を行い、平成8年4月から用地買収等の条件が整った区域を対象として、順次確認調査を実施することとなった。本遺跡の確認調査は、平成9年10月1日から10月21日の期間実施した。

確認調査の結果、古墳時代から旧石器時代までの多岐にわたる複合遺跡であることが判明した。調査結果に基づき遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、発掘調査を行い記録保存とすることとなり、約9,100m²を対象とした本調査を実施することとなった。

本調査は、平成10年度、11年度の2か年間実施し、平成10年5月6日～平成11年3月31日(実働196日間)、平成11年5月6日～平成11年7月9日(実働44日間)の期間で行った。

第2節 調査の組織

平成9年度 確認調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸

調査企画者

次長兼総務課長 尾崎 進

主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋

課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一

主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎

調査担当者

文化財研究員 有馬 孝一

文化財調査員 西園 勝彦

事務担当者

主 査 前屋敷裕徳

” 政倉 孝弘

主 事 追立ひとみ

平成10年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者

次長兼総務課長 尾崎 進

主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋

調査課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一

主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎

調査担当者

文化財主事 児玉健一郎

” 西郷 吉郎

文化財研究員 藤野 義久

” 山崎 克之

” 橋口 勝嗣

文化財調査員 上床 真

事務担当者

主 査 前屋敷裕徳

” 政倉 孝弘

主 事 溜池 佳子

平成11年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者

次長兼総務課長 黒木 友幸

主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋

調査課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一

主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎

主任文化財主事 長野 眞一

調査担当者

文化財研究員 藤野 義久

” 山崎 克之

” 宇都 俊一

” 有馬 孝一

事務担当者

総務係長 有村 貢

主 査 政倉 孝弘

主 事 溜池 佳子

平成12年度 報告書作成
事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
作成企画者
次長兼総務課長 黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一
課長補佐 立神 次郎
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志
主任文化財主事 長野 眞一

作成担当者
文化財主事 井ノ上秀文
事務担当者
総務係長 有村 貢
主 査 栗山 和己
主 事 溜池 佳子

平成13年度 報告書作成
事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
作成企画者
次長兼総務課長 黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一
課長補佐 立神 次郎
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志
主任文化財主事 長野 眞一

作成担当者
主任文化財主事 長野 眞一
文化財主事 井ノ上秀文
事務担当者
総務係長 前田 昭信
主 査 栗山 和己

平成14年度 報告書作成
事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
作成企画者
次長兼総務課長 田中 文雄
調査課長 新東 晃一

調査課長補佐 立神 次郎
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志
主任文化財主事 長野 眞一

作成担当者
文化財研究員 有馬 孝一
" 馬籠 亮道

事務担当者
総務係長 前田 昭信
主 査 栗山 和己

指導者・協力者

日本道路公団九州支社
日本道路公団鹿児島工事事務所
福山町教育委員会
岡村道雄(文化庁記念物課主任文化財調査官)
加藤真二(文化庁記念物課文化財調査官)
河口貞徳(鹿児島県考古学会会長)
上村俊雄(鹿児島県文化財保護審議会委員)
橘 昌信(別府大学文学部教授)
安蒜政雄(明治大学文学部教授)
阿部芳郎(明治大学文学部助教授)
織笠 昭(東海大学文学部助教授)
小畑弘己(熊本大学文学部助教授)

井ノ上秀文, 上床真, 川口武彦, 川道寛, 切通雅子,
栗山葉子, 桑波田武志, 児玉建一郎, 坂本嘉弘, 佐藤宏
之, 白石浩之, 高橋信武, 萩原博文, 宮内慶介, 宮下貴
浩, 吉岡卓真。

第3節 発掘調査の概要と経過

調査期間は以下の通りである。

確認調査

平成9年度(平成9年10月1日～10月21日)

本調査

平成10年度 (平成10年5月6日～平成11年3月31日)
平成11年度 (平成11年5月6日～平成11年7月9日)

城ヶ尾遺跡の調査対象面積は、約9,100㎡であり調査前は山林となっていた。そこで確認調査を行い、遺物包含層及び遺構の有無、時代、時期、地表面からの深さ、さらに遺物包含層の広がり把握することとした。調査は、概ね2段の平坦面をもつ発掘調査区の上段部に2か所、下段部に1か所、それぞれ2×4mのトレンチを設定し実施した。

その結果、古墳時代から旧石器時代にかけて9文化層にわたる複合遺跡であることが判明した。

それを受けた平成10年から11年にかけて、ほぼ13か月に

わたる本調査では、計画路線センター杭，STA. No. 90杭とSTA. No. 90+20杭を結んだ線を基準軸とし、10m間隔の区画(グリッド)を設定して調査を実施した。グリッドは西から東へ1, 2, 3…，北から南へA, B, C…，と呼ぶこととし、グリッドはA-1区というようにアルファベットと数字を組み合わせた呼称とした。

調査の経過については、日誌抄をもっにかえる。

平成9年度 確認調査

10月1日～10月21日

表土剥ぎ，トレンチ設定(1T～3T)，掘り下げ，遺物取り上げ，遺構実測(集石平面)，土層断面実測，写真撮影，埋め戻し

平成10年度 本調査

5月6日～5月28日

機材搬入。

B, C, D-4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，Ⅱ層からⅤa層掘り下げ，遺物取り上げ。

D-5, 6区，遺構検出状況写真撮影，掘り下げ。

Vb層上面コンタ図作成。

C-7区，確認トレンチ設定，掘り下げ。

C-4, 5, 6区，古墳時代住居跡掘り下げ。

6月1日～6月30日

A, B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，Ⅵa層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ。

C, D, E, F-2, 3, 4, 5, 6, 7区，Ⅴa層～Ⅶ層掘り下げ。

B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，Ⅸ層上面コンタ図作成。

古墳時代住居跡1号～3号掘り下げ，写真撮影，実測。集石検出状況写真撮影。ラジコンヘリによる空中写真撮影。

7月1日～7月29日

B, C, D, E-2, 3, 4, 5, 6, 7区，Ⅵa層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ。

F, G, H, I-8, 9, 10, 11区，Ⅵ層掘り下げ。

集石検出状況写真撮影，実測。土坑検出状況写真撮影，実測。塞ノ神式土器深鉢，壺形土器出土状況写真撮影。

河口貞徳先生現地指導(7月8日)

上村俊雄先生現地指導(7月9日)

吉野中学校発掘体験学習。

8月3日～8月27日

B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，Ⅸ層～ⅩⅢ層掘り下げ，遺物取り上げ。

B, C, D, E-2, 3, 4, 5, 6, 7区，Ⅵa層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ。

集石検出状況実測。集石検出状況位置図作成。土坑掘り下げ，検出状況実測。壺形土器出土状況実測。

財部町教育委員会発掘体験学習。

9月1日～9月29日

F-2, 3, 4区，Ⅶ層～Ⅸ層掘り下げ，Ⅵa層～Ⅶ層遺物

取り上げ。

A, B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，ⅩⅠ層～ⅩⅣ層掘り下げ，遺物取り上げ。

C, D, E-18, 19, 20, 21, 22, 23, 24区，Ⅳ層～Ⅵ層掘り下げ，遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ。

E, F, G-4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，Ⅴa層～Ⅵ層掘り下げ。

A, B, C, D-11, 12区，土層断面実測。

土坑掘り下げ，検出状況実測。古墳時代住居跡検出状況写真撮影，掘り下げ。

10月1日～10月30日

G-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14区，Ⅵ層掘り下げ。

D, E, F-16, 17, 18, 19, 20区，Ⅴ層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ。

C, D, E-20, 21, 22, 23, 24区，Ⅴ層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ。

E, F, G-14, 15区，Ⅴ層～Ⅵ層掘り下げ。

土坑掘り下げ，実測。旧石器土坑掘り下げ，実測。集石検出状況写真撮影。古墳時代住居跡掘り下げ，検出状況実測。ラジコンヘリによる空中写真撮影。

11月4日～11月30日

D, E, F-16, 17, 18区，Ⅶ層～Ⅸ層掘り下げ，下層確認トレンチ掘り下げ，遺物取り上げ。

E, F, G-11, 12, 13, 14, 15区，Ⅵ層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ，Ⅸ層上面コンタ図作成。

G, H-13, 14, 15区，Ⅵ層～Ⅹ層掘り下げ，遺物取り上げ。

D, E-22, 23, 24区，Ⅳ層～Ⅷ層掘り下げ，下層確認トレンチ掘り下げ，遺物取り上げ。

H, I, J-14, 15区，Ⅵ層～Ⅷ層掘り下げ。

C, D-21, 22, 23区，Ⅹ層～ⅩⅡ層掘り下げ，下層確認トレンチ掘り下げ，遺物取り上げ。

F, G, H-9, 10, 11区，Ⅹ層，ⅩⅠ層掘り下げ。

古墳時代住居跡掘り下げ。集石検出状況写真撮影，実測。

織笠昭先生現地指導(11月19, 20日)

12月1日～12月25日

E, F, G-12, 13, 14, 15区，ⅩⅠ層～ⅩⅣ層掘り下げ，遺物取り上げ。

E, F-15, 16, 17区，Ⅵ層～Ⅷ層掘り下げ，遺物取り上げ。Ⅹ層上面コンタ図作成。

E-2, 3, 4, 5区，Ⅹ層～ⅩⅢ層掘り下げ。

D, E, F-2, 3区，Ⅳ層～Ⅵ層掘り下げ。

C, D-11, 12区土層断面実測。土坑半截，検出状況写真撮影，実測。礫群，集石検出状況写真撮影。

1月5日～1月29日

F-2, 3, 4, 5区，Ⅴ層～ⅩⅣ層掘り下げ，遺物取り上げ。

G-2, 3区，Ⅴ層～ⅩⅣ層掘り下げ，遺物取り上げ。

H-2区，Ⅴ層～ⅩⅣ層掘り下げ，遺物取り上げ。

F, G, H-13, 14, 15, 16区，ⅩⅠ層～ⅩⅣ層掘り下げ，遺物取り上げ。ⅩⅣ層上面コンタ図作成。

E, F-15, 16, 17区, X層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。XIV層上面コンタ図作成。

F, G-8, 9, 10, 11区, VI層～VIII層掘り下げ。

G, H, I, J-14, 15区, X層～XIII層掘り下げ, 遺物取り上げ。

土坑掘り下げ, 実測。礫群, 埋設土坑検出状況写真撮影, 実測。集石検出状況写真撮影。

2月1日～2月26日

F, G, H-8, 9, 10, 11, 区, VIII層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。IX層上面コンタ図作成。

H, I-14区, X I層～XIII層掘り下げ, 遺物取り上げ。

G, H, I, J-13, 14, 15区, VI層～XII層掘り下げ, 遺物取り上げ。XIV層上面コンタ図作成。

G, H-9, 10区, IX層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。

集石, 礫群検出状況写真撮影, 実測。土坑実測。

3月1日～3月24日

F, G, H-9, 10, 11, 12区, X層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。XIV層上面コンタ図作成。

G, H-14, 15区, X I層～XIV層掘り下げ。

E-3, 4, 5区, X, X I層掘り下げ。

G, H-11, 12区, VI層～X層掘り下げ。

B, C, D, E-3, 4, 5, 6, 7区, X II層～XIV層掘り下げ。土坑掘り下げ, 検出状況写真撮影, 実測。

B, C, D-2, 3区, IX層～XII層掘り下げ。

G, H-11区, 土層断面実測。

礫群検出状況写真撮影, 実測。旧石器時代土坑検出状況写真撮影。

現場事務所後片付け

平成11年度 本調査

5月6日～5月28日

発掘機材準備

B, C, D, E-2, 3, 4区, X層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。XIV層上面コンタ図作成。

C, D, E-4, 5, 6, 7区, X層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。

B, C, D, E-8区東側土層断面実測。

礫群検出状況写真撮影。

6月1日～6月30日

B, C, D, E-4, 5, 6, 7区, X層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ。遺物出土状況写真撮影。XIV層上面コンタ図作成。

B, C, D, E-8区東側土層断面実測。

礫群検出状況写真撮影, 実測。流紋岩ブロック出土状況写真撮影。旧石器時代土坑科学分析土壌サンプリング, 剥ぎ取り。

7月1日～7月9日

B, C, D-3, 4, 5, 6, 7区, X II層～XIV層掘り下げ, 遺物取り上げ, 遺物出土状況写真撮影。

B, C-4, 5, 6, 7区, 下層確認トレンチ掘り下げ。

B, C, D-5, 6, 7区, XIV層上面コンタ図作成。

礫群, 旧石器時代土坑検出状況写真撮影, 実測。事務所後片付け, プレハブ撤去。

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

城ヶ尾遺跡は、鹿児島県始良郡福山町佳例川比曾木野字城ヶ尾に所在する。城ヶ尾遺跡の所在する福山町は鹿児島湾最奥部のやや東寄りに位置し、鹿児島湾の北側半分を占める始良カルデラの東北壁にあたる。東は曾於郡財部町、末吉町、大隅町、南は垂水市、曾於郡輝北町、北側は国分市に接し、西側は鹿児島湾に面している。霧島南部から南に走る高隈山脈は瓶台山、白鹿岳、福山町比曾木野の荒磯岳などを形成し、さらに南へ延びて高隈山で最高地となる。牧之原台地東方向へ広がる緩傾斜シラス台地は曾於の大平野を形成し、鹿児島湾斜面と志布志湾斜面、大淀川斜面との分水嶺をなしている。比曾木野に源を発する前田川は、西に流下し檢校川と合流し鹿児島湾に注ぐ。また東に向かって流れる横市川は大淀川と合流し太平洋へ注ぐ。南東方向に流れる佳例川は菱田川となり志布志湾に注ぐ。広大な台地上平野と比較して町西部の海岸部平野は非常に狭く、湊川、熊谷川、磯脇川などの河川が渓谷をなして鹿児島湾に注ぐ。

地勢は、海拔300～400mの四万十層の断層崖が海岸部に迫る狭隘な海岸低地の下場地区、その崖上に展開する丘陵性火山灰台地の上場地区に2大別できる。また気候の上でもこの地域性は明瞭で、年平均気温18.7度で温暖の差が小さい海洋性気候の下場地区に対し、上場地区では年平均気温15度で、冬場は氷点下を記録する日が年40日ほどを数える。

城ヶ尾遺跡が所在する比曾木野地区は福山町の北部に位置し、北に黒石岳、東に白鹿岳、南に荒磯岳といった山々をもつ山地に囲まれた西北西から東南東方向に細長い台地・丘陵部に立地している。城ヶ尾遺跡は、この台地上西部の国分平野へと緩やかに傾斜する台地を前田川が浸食し形成した河岸段丘上に立地する。

《参考文献》

- 1 福山町役場 『福山町郷土誌』1979年
- 2 芳 即正、塚田 公彦 『鹿児島県風土記』1995年

第2節 歴史的環境

城ヶ尾遺跡の所在する福山町は、農業基盤整備事業等に伴う確認調査や一部で本調査などが行われていたが、本格的な発掘調査は、東九州自動車道建設工事がその起因となった。本遺跡も東九州自動車道建設に伴う発掘調査の一環で、永磯、供養之元、前原和田遺跡等で調査を実施している。さらに、これに関連する付帯工事等で遺跡が発掘され、新たな情報を提供しつつある状況である。

旧石器時代

前原和田遺跡では、ナイフ形石器文化期の遺構、遺物が確認されている。遺構としては尾根上に東西方向に並んだ22基の礫群が検出され、遺物としてはXVI層を生活基盤としたナイフ形石器文化期の台形石器、台形様石器、切出形ナイフ、XIII層に生活主体を持つナイフ形石器文化期の切出形ナイフ、台形様石器、三稜ナイフ、三稜尖頭器が出土した。永磯遺跡でも同じくナイフ形石器文化期の遺物が出土している。

縄文時代

供養之元遺跡では縄文時代早期を主体とした遺構、遺物が確認されている。遺構としては、礫数が少なく散在する形態を示すタイプを中心に20基の集石が検出された。また、前期の落とし穴状遺構が5基検出された。遺物としては手向山式土器、平椀式土器、塞ノ神式土器、石鏃、石匙、スクレイパー、磨石、石皿等の石器が出土している。塞ノ神式土器についてはP-11を挟んで下位から撚糸文系の塞ノ神式土器、上位から貝殻文系の塞ノ神式土器が出土している。

前原和田遺跡では遺構として草創期の落とし穴状遺構2基、早期の落とし穴状遺構1基、集石2基が検出されている。遺物としては加栗山式土器、吉田式土器、手向山式土器ほか多種の土器が出土している。

また未報告ではあるが、永磯遺跡からも縄文中期末と考えられる落とし穴状遺構が多数検出されている。

弥生時代以降

遺跡近辺ではほとんど発見例がない。前原和田遺跡、供養之元遺跡で古墳時代、中世頃の古道、溝状遺構が検出されている。

周辺部まで広げると福沢地区の中尾立遺跡で平安時代の掘立柱建物跡が5棟、遺物として土師器杯、甕、内黒土師器、墨書土器等が出土している。藤兵衛坂段遺跡では文明ボラ(1471年)にバックされた畠跡が検出されている。

《参考文献》

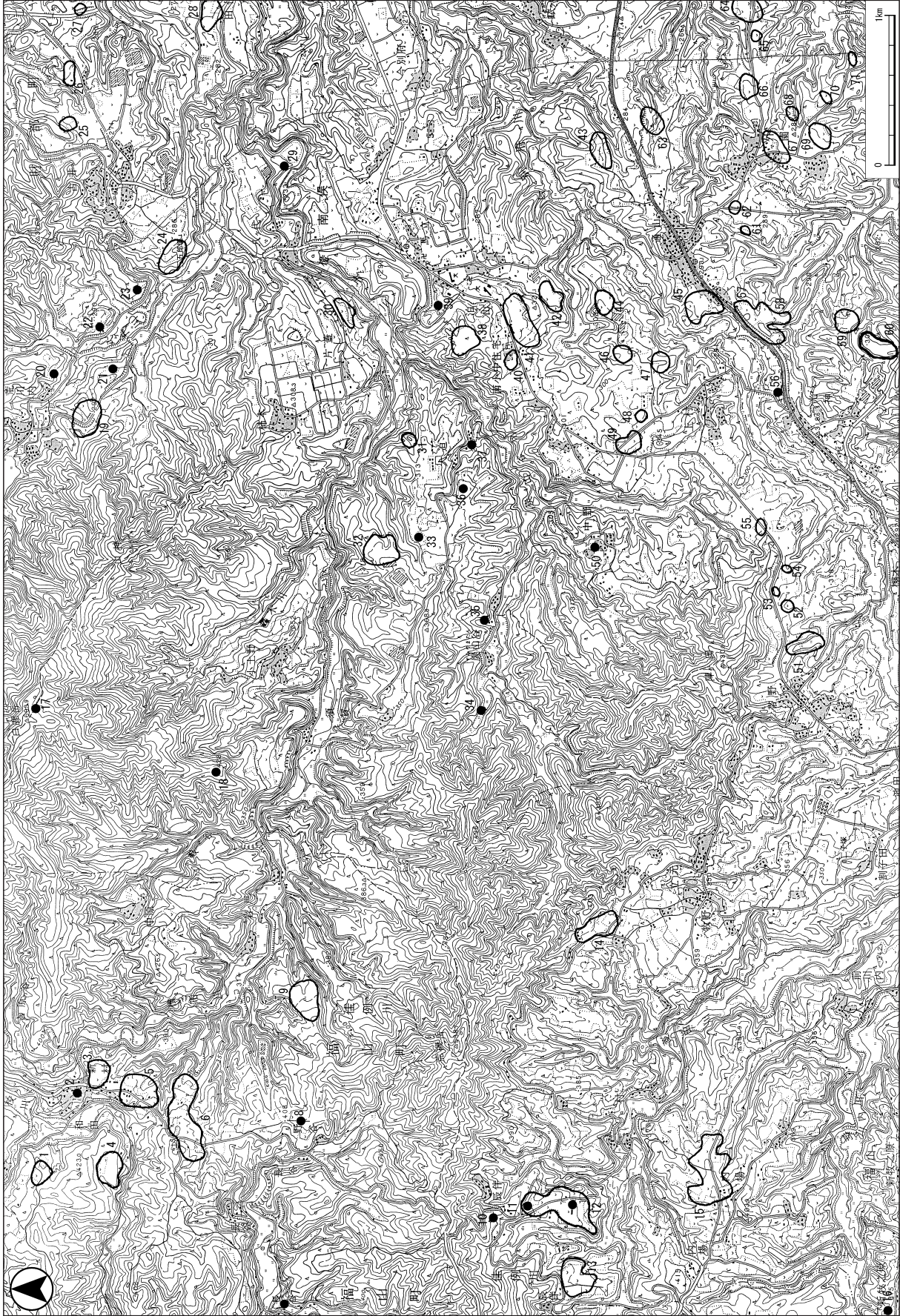
- 1 福山町役場 『福山町郷土誌』1979年
- 2 福山町教育委員会 『新原段遺跡・中尾立遺跡・藤兵衛坂段遺跡』1992年
- 3 福山町教育委員会 『中尾立遺跡』1994年
- 4 福山町教育委員会 『藤兵衛坂段遺跡』1997年
- 5 鹿児島県立埋蔵文化財センター 『九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡』2002年

第1表 遺跡地名表(1)

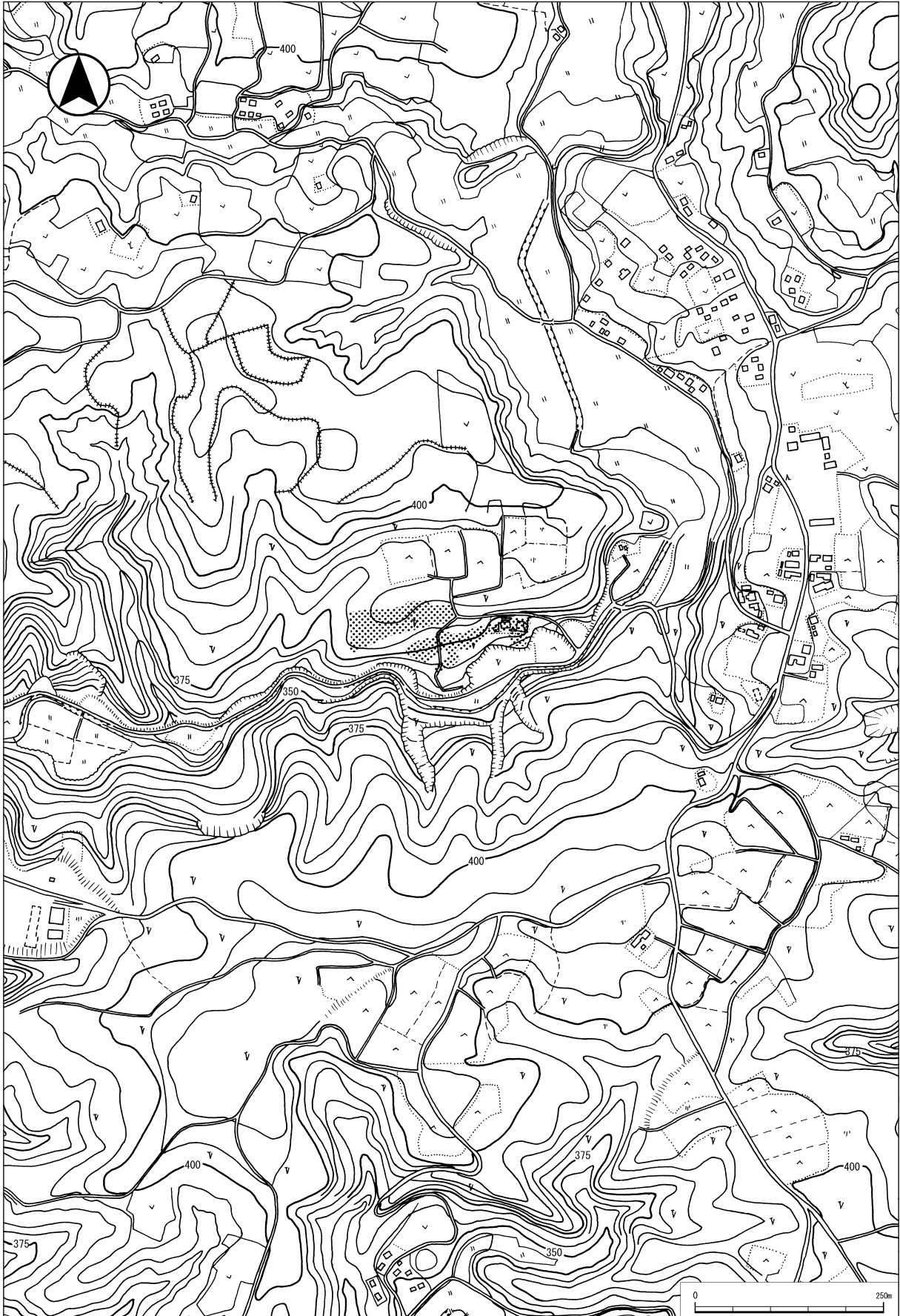
番号	遺跡名	所在地		地形	時代	遺物等	備考
1	小坂元A	福山町	比曾木野 小坂元		縄・古・歴	土器・成川式・土師器	
2	新村	"	" 新村	台地	縄(中)	岩崎式	
3	前原	"	" 前原	台地	縄・古・歴	土器・成川式・土師器	
4	城ヶ尾	"	" 城ヶ尾	台地	旧・縄・古	ナイフ形石器・塞ノ神式・成川式	本報告書
5	前原和田	"	" 前原和田	台地	旧・縄(早)	ナイフ形石器・押型文	H14.3 報告書
6	供養之元	"	" 供養之元	台地	縄・古	塞ノ神式・成川式	H14.3 報告書
7	長谷	"	" 長谷	台地	弥	大型石斧	
8	野谷下	"	" 野谷下		古・歴	成川式・土師器	
9	永磯	"	" 永磯	台地	旧・縄・歴	細石器・手向山式・土師器	H15.3 報告書
10	辰伴	福山町	佳例川 辰伴	台地	弥	土器	
11	栗ノ脇	"	" 栗ノ脇		縄	土器	
12	芹牟田	"	" 芹牟田		縄	土器	
13	赤松段	"	" 赤松段		縄	土器	
14	山神段	"	" 山神段		縄	土師器	
15	一本松	"	" 一本松	台地	縄(中・後)	阿高式・岩崎上層式・指宿式	H10 調査
16	花建原	"	下牧之原 花建原			須恵器	
17	黒棚城棚	財部町	南俣 天子馬場				
18	花平陣跡	"	" 丸鶴城ヶ原				
19	黒棚	"	北俣 黒棚	台地	縄(早)・歴	押型文・磨製石斧・土師器	
20	松峯	"	" 松峯	台地	歴	内黒土師器	
21	下戸越	"	" 下戸越	台地	歴	土師器	
22	柳ノ口	"	" 柳ノ口	台地	縄(前～後)	轟式・春日式・阿高式・指宿式・石鏃	
23	古井後ヶ谷	"	" 古井後ヶ谷	台地	縄		
24	西原	"	" 西原	台地	縄(早)・歴	押型文・土師器	
25	古井下原	"	" 古井下原	台地	歴	土師器	
26	宮後	"	" 宮後	台地	歴	土師器	
27	霧島迫B	"	" 霧島迫	台地	歴		
28	田代ノ上	"	南俣 田代ノ上	台地	縄・歴	土師器・須恵器	
29	久保谷	"	" 久保谷	台地	歴	土師器	
30	八ヶ代上	"	" 八ヶ代上	台地	縄(早・後)・歴	前平式・土師器	
31	高篠坂	"	" 高篠坂	台地	縄(早)	前平式・手向山式	H15.3 報告書
32	高篠	"	" 高篠	台地	古代	土師器・須恵器	H11～12 調査
33	大迫A	"	" 大迫	台地	縄(早・前)	轟式・黒曜石	
34	炭山谷	"	" 井牧ヶ平俣迫	台地	縄・歴	石斧・土師器	
36	大迫B	"	" 大迫	台地	歴	土師器	
37	片蓋前	"	" 片蓋前	台地	縄(早・前)	押型文・塞ノ神B式・チャート	
35	炭山	"	" 炭山	台地	縄(後)・歴	指宿式・土師器	

第2表 遺跡地名表(2)

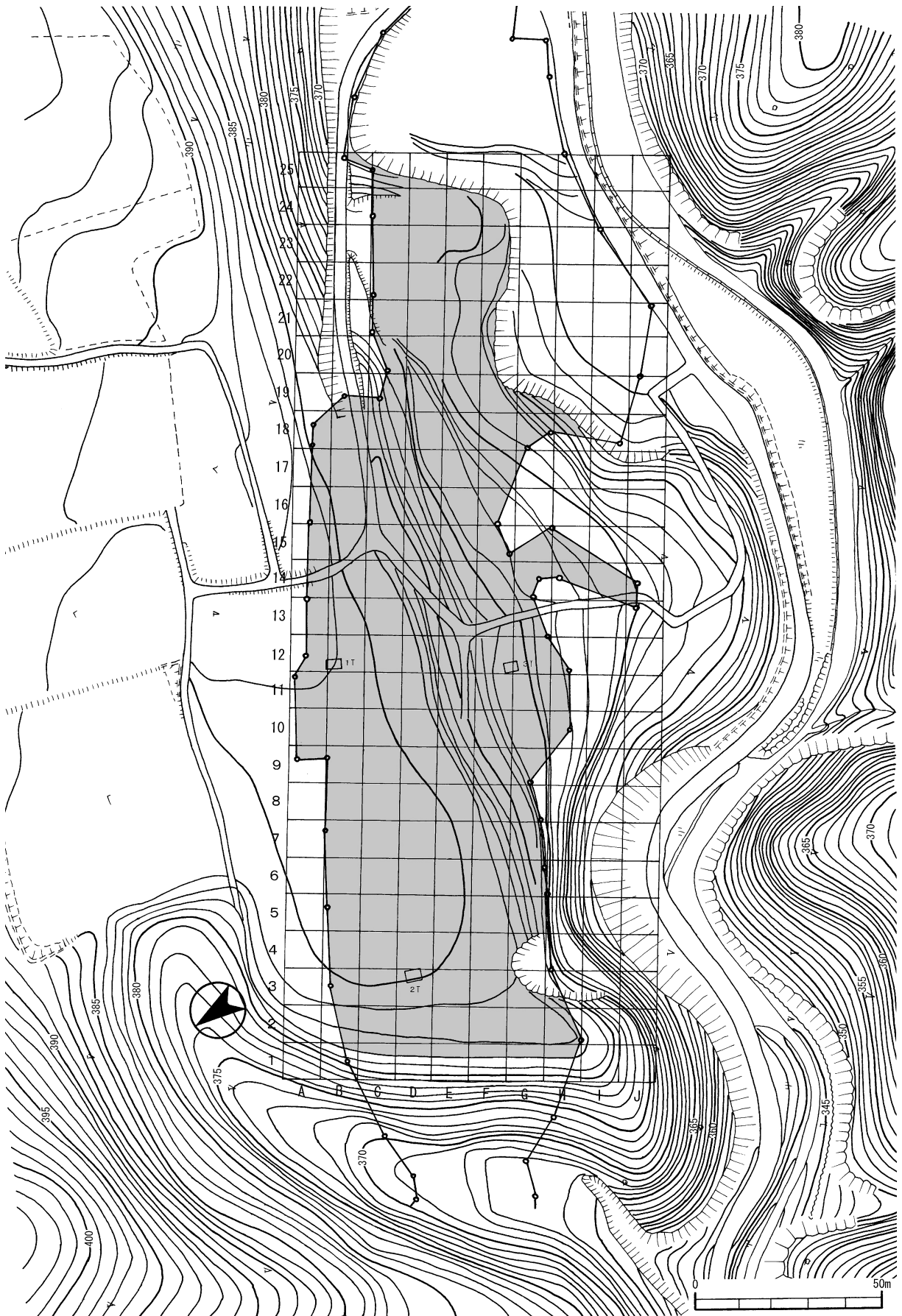
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
38	九養岡	〃 〃 九養岡	台地	旧・縄・歴	三稜尖頭器・手向山式・土師器	H11 調査
39	馬立	〃 〃 馬立	台地	歴(奈良)	土師器・須恵器	
40	石仏段	〃 〃 石仏段	台地	縄(晩)・歴	黒色磨研土器・土師器	S61 調査
41	長十塚(城ヶ尾)	〃 〃 長十塚	台地	縄・歴	土器・石鏃・土師器・須恵器・土錘	S61 調査
42	踊場	〃 〃 踊場	台地	縄(早)・歴	塞ノ神式・土師器・須恵器	H12 調査
43	王ヶ平	〃 〃 王ヶ平	台地	歴	土師器・須恵器	
44	九日田	〃 〃 九日田	台地	縄(早・後)・歴	石坂式・黒川式・土師器	H14.3 報告書
45	耳取	〃 〃 耳取	台地	旧・縄・歴	ナイフ形石器・吉田式・土師器・礫群	H11～12 調査
46	前山2	〃 〃 前山	台地	縄(晩)・歴	黒色磨研土器・土師器	
47	前山1	〃 〃 前山	台地	歴	土師器	
48	芭蕉ヶ迫2	〃 〃 芭蕉ヶ迫	台地	縄・歴	石皿・敲石・土師器	
49	芭蕉ヶ迫1	〃 〃 芭蕉ヶ迫	台地	縄・歴	土器・土師器	
50	中野	〃 〃 中野	台地	歴	土師器・須恵器	
51	長田	〃 〃 長田	台地	縄・歴	土器・土師器	
52	梅田	〃 〃 梅田	台地	縄・歴	土器・土師器	
53	荷床2	〃 〃 荷床	台地	歴	土師器	
54	八畝	〃 〃 八畝	台地	縄・歴	土器・土師器	
55	荷床1	〃 〃 荷床	台地	歴	土師器	
56	野方	〃 〃 野方	台地	縄・歴	土器・土師器・内黒土師器	
57	桐木	末吉町 諏訪方 桐木	台地	旧・縄・歴	ナイフ形石器・船元式・土師器	H9～13 調査
58	桐木B	〃 〃 桐木	台地	旧・縄・歴	塞ノ神式・深浦式・土師器・住居遺構	H12～13 調査
59	関山西	〃 〃 関山西	台地	縄・弥・中世	土器・土師器・須恵器	H13 調査
60	関山	〃 〃 関山	台地	縄	土器	H13 調査
61	通山上川路	〃 深川 五位塚通山上川路	台地	縄(晩)・中世	夜臼式	S59 調査
62	真方入口	〃 〃 真方入口	台地	縄(前・晩)	轟式	S59 調査
63	中牛牧	〃 〃 中牛牧	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
64	楠木岡C	〃 〃 楠木岡	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
65	楠木岡B	〃 〃 楠木岡	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
66	楠木岡A	〃 〃 楠木岡	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
67	白杵	〃 〃 白杵	台地			
68	下ノ窪	〃 〃 五位塚下ノ窪	台地	縄(晩)・古代	入佐式・土師器	
69	四枝道	〃 〃 四枝道	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
70	仮牧	〃 〃 五位塚仮牧	台地	古代	土師器・須恵器	S60 調査
71	五位塚渡り下	〃 〃 五位塚渡り下	台地	縄(早)	山形押型文	S60 調査



第1图 周边遗迹地图



第2図 遺跡と周辺の地形

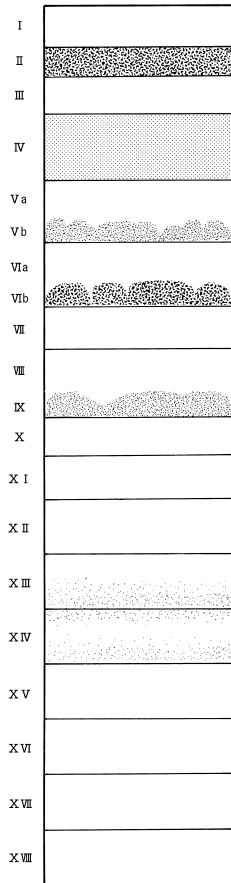


第3図 周辺地形と調査区及びグリッド配置図

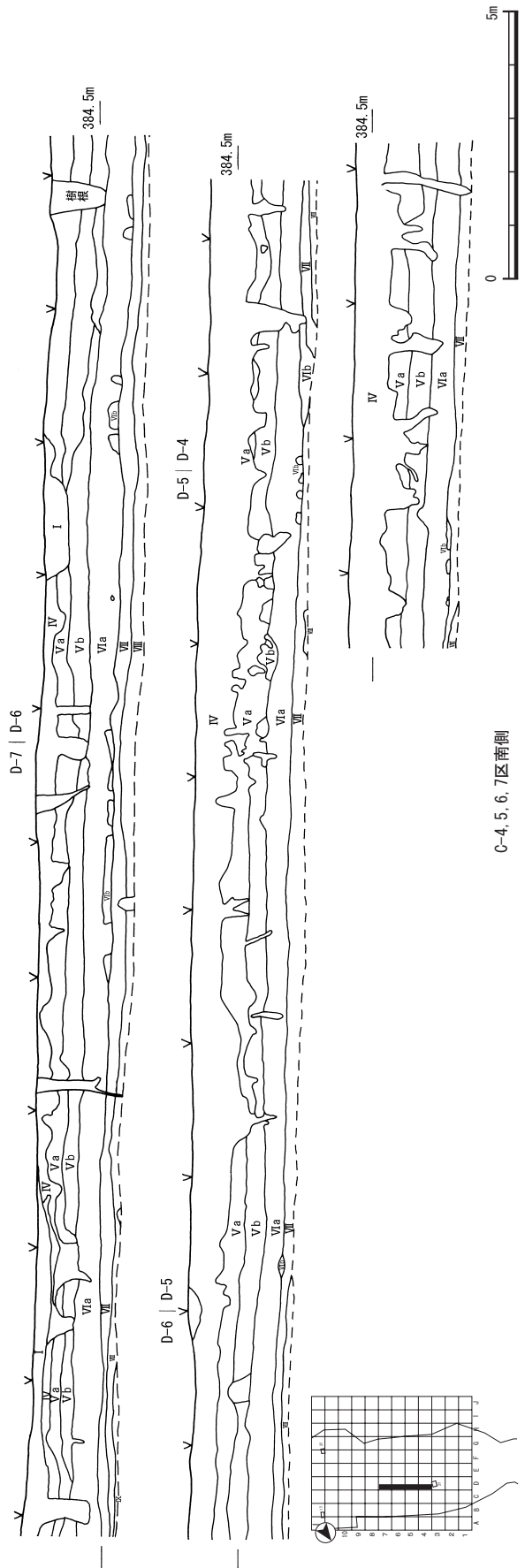
第3節 遺跡の層位

- I層 暗褐色土 現表土
- II層 黄白色軽石層 P-3。文明ボラ。西暦1471年頃の桜島の噴出物。一部に残存。
- III層 黒色腐植土 古墳時代の遺物包含層。
- IV層 黄褐色細粒軽石混硬質土 御池軽石。約4,200年前の霧島御池の噴出物。腐植した上部で古墳時代，中に縄文時代晩期の遺物が出土し，下部に軽石のピークが見られる。
- Va層 暗橙色土 Vb層の腐植土。縄文時代前期の遺物包含層。
- Vb層 明橙色火山灰 (K-Ah) 通称アカホヤ火山灰。約6300~6400年前の鬼界カルデラの噴出物。
- Vla層 黄褐色軽石混暗青灰色土 縄文時代早期の遺物包含層。
- Vlb層 黄褐色軽石層 P-11。約7400年前の桜島の噴出物。
- VII層 明茶褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。
- VIII層 黒褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。
- IX層 黄白色火山灰 P-14。薩摩火山灰。約11000年前の桜島の噴出物。
- X層 黒褐色土 縄文草創期の遺物包含層。
- X I層 暗黄褐色軟質ローム 旧石器時代遺物包含層。
- X II層 灰褐色硬質ローム 旧石器時代遺物包含層。
- X III層 暗黄橙色軟質ローム 旧石器時代遺物包含層。
- X IV層 灰褐色硬質ローム 当該層上部及び下部付近に，小粒の赤色パミスが点在する。旧石器時代遺物包含層。
- X V層 橙褐色軟質ローム
- X VI層 明黄白色角礫混砂質土 シラスの二次堆積？。
- X VII層 灰白色礫混砂質土シラスの二次堆積？。
- X VIII層 角礫混明黄白色砂質土 明白色の大きな軽石の混入がみられる。シラス層。約25,000~28,000年前の始良カルデラの噴出物。

※ P = パミス = 軽石。
桜島の噴出物に新しいものから順に番号を付している。

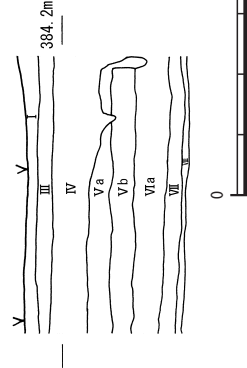
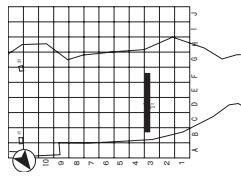
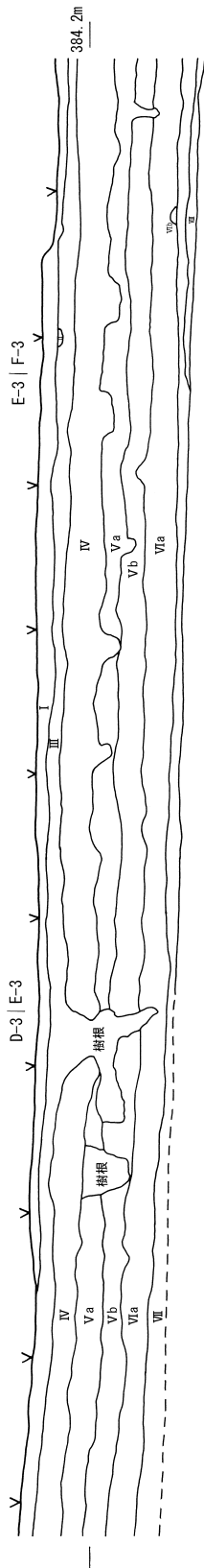
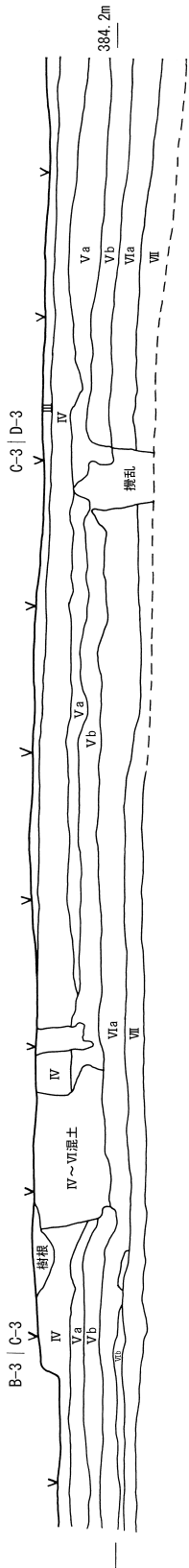


第4図 城ヶ尾遺跡標準土層図

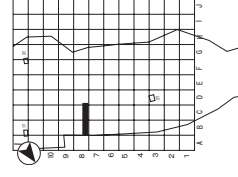
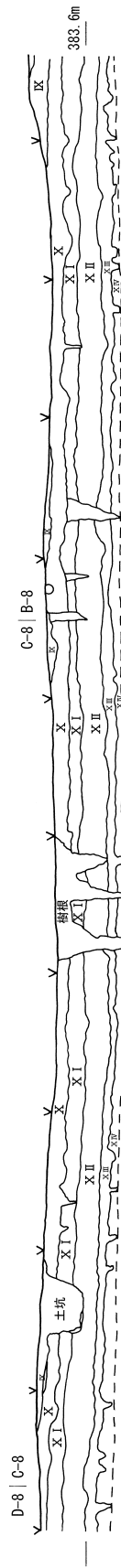


C-4, 5, 6, 7区南側

第5図 土層断面実測図(1)

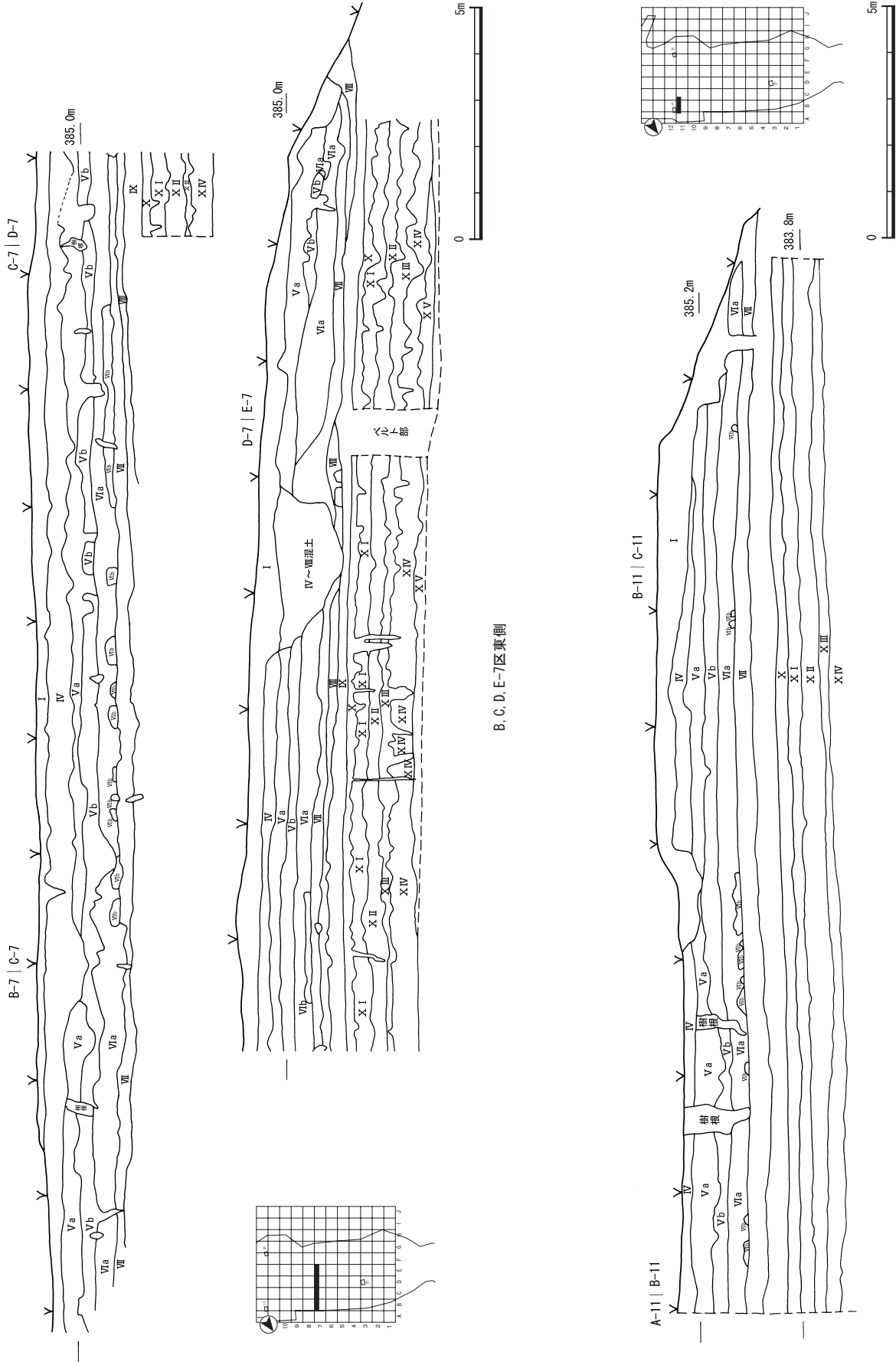


C, D, E-3区東側

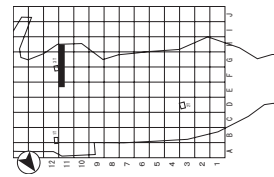
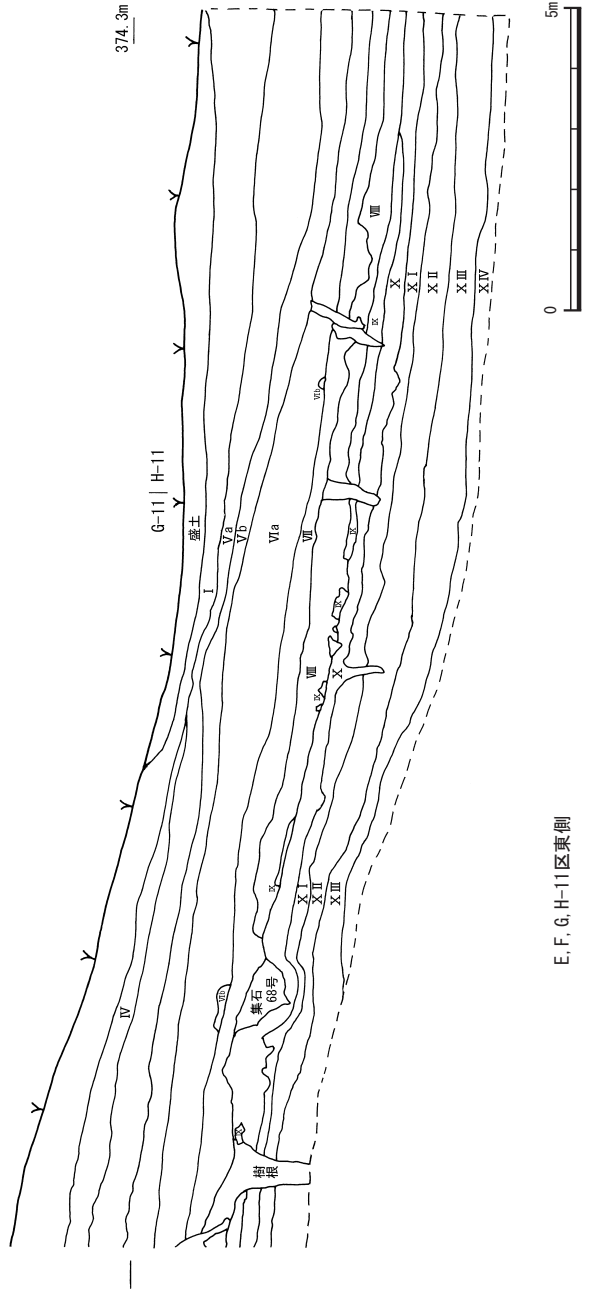
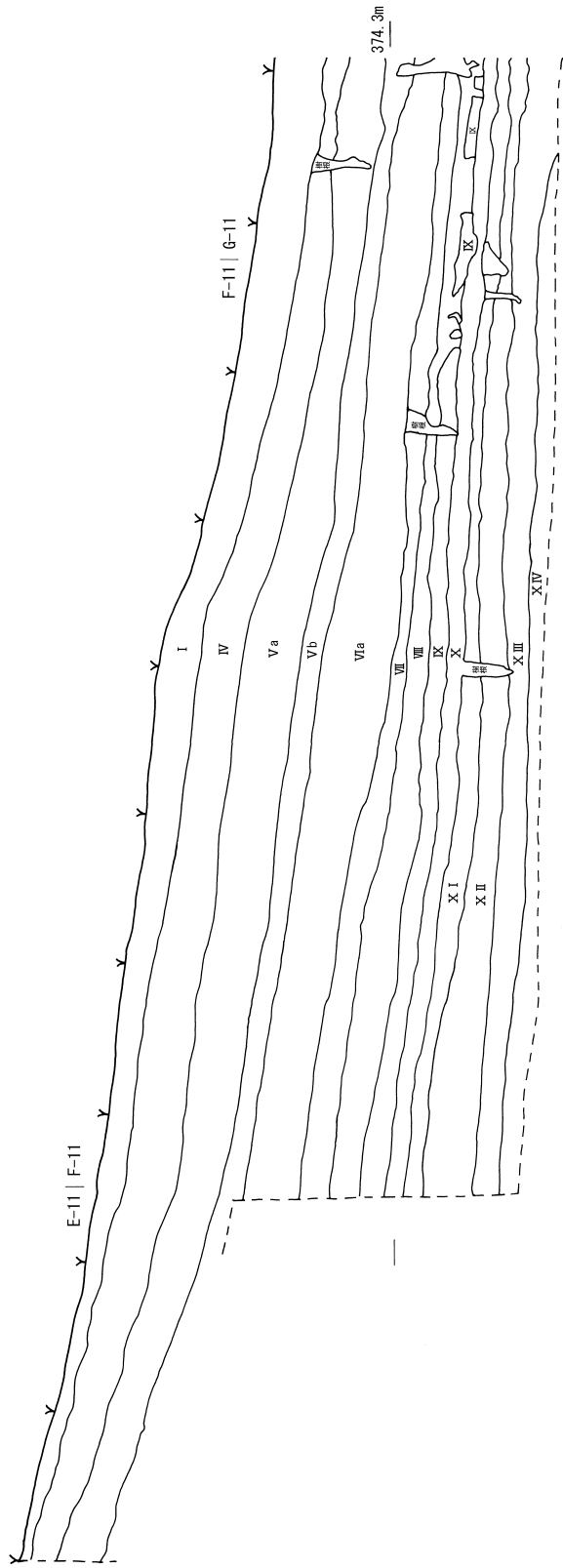


B, C, D-8区西側

第6図 土層断面実測図(2)



第7図 土層断面実測図(3)



E, F, G, H-11区東側

第8図 土層断面実測図(4)



第III章 旧石器時代の調査

旧石器時代に該当する石器群は、XV層からX層の間に出土し、総数16,000点に達している。また、それらの石器群はブロックを形成して分布することから、ブロックを設定し把握に努めることとした。

遺構については、土坑1基と礫群31基を検出した。

土坑はXIV層で検出したが、遺構内の埋土状況を検証した結果、上位のXII層該当の遺構との判断に達した。なお、詳細については、第3節2に記載した。

31基の礫群は、XIV層からXI層の間で検出している。それぞれの礫群の所属については、検出面の確認、遺物群との相関関係等を検討し所属層位毎に集約した。また、これらの礫群に関しては、礫群を構成する礫の集中度や分布状況、範囲に差異がみられることから3類に類別した。

礫群Ⅰ類：礫群分布範囲は比較的狭いが、礫がまとまるもの

礫群Ⅱ類：礫群分布範囲は比較的広いが、礫がまとまるもの

礫群Ⅲ類：散在し、礫群の礫にまとまりの無いもの

次に、旧石器時代の遺構、遺物を含む地形は、東西方向に延びた上位の平坦地と、その平坦地端部から大きく南方向に下る傾斜面からなる。調査記録の関係上、上位の平坦地(面)をA地区、9区から15区の間を傾斜面をB地区、さらにその東側に展開する地域をC地区と呼ぶ。

ブロック認定においては、遺物集中を石材ごとに捉え、平面的集中が認定できる最小単位をブロックと呼ぶ。

次に、ブロックの位置関係を平面的に検討した結果、ブロックの集中に一定のまとまりを検出することができた。本遺跡ではこのまとまりがおおむね5m~10mの単位で認識できるが、この単位を便宜的に「エリア」と呼称することにする。さらに、遺物集中を広い範囲で検討すると、ブロック、エリアの集合が確認される。本遺跡では、このエリアの集合を「ユニット」と呼称することにする。

本報告書で取り扱った器種は、ナイフ形石器、三稜尖頭器、錐状石器、スクレイパー、尖頭状石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、楔形石器、石核、剥片、ブランディングチップ、チップ、ハンマーストーン、細石核、細石刃、磨石、石皿である。

さらに、ナイフ形石器については、切出形、台形石器の細分を加え、刃潰し加工の部位により基部加工、部分加工、一側縁加工、二側縁加工、両側縁加工と呼んでいる。スクレイパーについては、刃部の観察により搔器、削器の区分もある。

微細剥離痕のある剥片は、従来使用痕のある剥片と呼ばれたものと同意である。剥片の周縁に微細な剥離痕が連続的に観察されるものを包括したものであるが、使用

痕の認定に慎重を期す観点から名称を分けて取り扱うこととした。

三稜尖頭器については、検討の過程でいくつかの分類基準を設けた。これについては、まとめて検討を行うことにする。

石材は肉眼的特徴によっておおむね次のように分類した。なお、観察表等においてはそれぞれ略号を使用し、分布図には石材ごとに色分け表示を行った。

黒曜石Ⅰ類(0B1[●])

不純物を多く含み、漆黒で光を全く通さないものを包括した。薩摩郡樋脇町上牛鼻、日置郡市来町平木場、串木野市宇都などで採取される黒曜石に類似する。

黒曜石Ⅱ類(0B2A[●], 0B2B[●], 0B2C[●])

わずかに透明感があり、不純物を多く含むものを包括した。鹿児島市の三船、大口市の日東、五女木、肝属郡根占町長谷、熊本県球磨郡球磨村の白浜などで採取できる黒曜石に類似する。肉眼的にヴァリエーションが広いため、さらに細分した。

黒曜石Ⅱ-A類：黒色~暗いビール瓶様の色調を呈する黒曜石で、白色の不純物を含む。透明度には個体差があるが、透明感のあるものでは流理が観察されるものがある。大口市周辺の日東、五女木などで採取される黒曜石のほか、根占町長谷で採取される黒曜石に類似するものがかかなり含まれている。

黒曜石Ⅱ-B類：青みがかった灰色の色調を呈するもので、白色の不純物を多く含む。石材の特徴から黒曜石Ⅱ-A類のうち風化が進んだグループとも考えられるが、肉眼的に著しい差異が認められたため、区分を設けた。

黒曜石Ⅱ-C類：青みがかった灰色~ビール瓶様の色調を呈する黒曜石で、透明の不純物を多く含む。黒曜石Ⅱ-A類やⅡ-B類でみられる白色の不純物はあまり含まない。鹿児島市三船で採取できる黒曜石に類似する一群である。

黒曜石Ⅲ類(0B3[●])

黒色~飴色の透明感があって不純物をほとんど含まない黒曜石を包括した。おおむね宮崎県えびの市の桑ノ木津留、大口市上青木などで採取できる黒曜石に類似するものであるが既知の原産地資料と特徴が一致しないものも含まれている。

黒曜石Ⅳ類(0B4[●])

黒色で不純物を含まない良質の黒曜石を包括した。佐賀県伊万里市腰岳産の黒曜石に類似する。

黒曜石V類(OB5[●])
 黒灰色で不純物を少量含む黒曜石を包括した。長崎県佐世保市の針尾中町などで採取できる黒曜石に類似する。

黒曜石VI類(OB6[●])
 青灰色で不純物を少量含むものを包括した。長崎県佐世保市東浜などで採取できる黒曜石に類似する。

黒曜石VII類(OB7[●])
 不純物をほとんど含まない、薄い灰色～オリーブ色を呈する黒曜石である。本遺跡ではほとんど出土していないが、佐賀県嬉野町の椎葉川流域で採取できる黒曜石に類似する。

黒曜石VIII類(OB8[●])
 不純物をほとんど含まない、灰白色～灰色の黒曜石を包括する。大分県の姫島で採取できる黒曜石に類似する。

安山岩(AN[●])
 本遺跡では無斑晶質の安山岩を包括する。サヌカイトに類似するものと、上牛鼻付近で採取できる玻璃質安山岩が含まれる。

ギョクズイ(CC[●])
 熱水鉱床等で発達する白色～黄色の珪質岩と鉄石英を包括した。

チャート(CH[●])
 淡緑色～白色の節理が目立つものと、白色に黒色の筋が入る良質の石材がある。

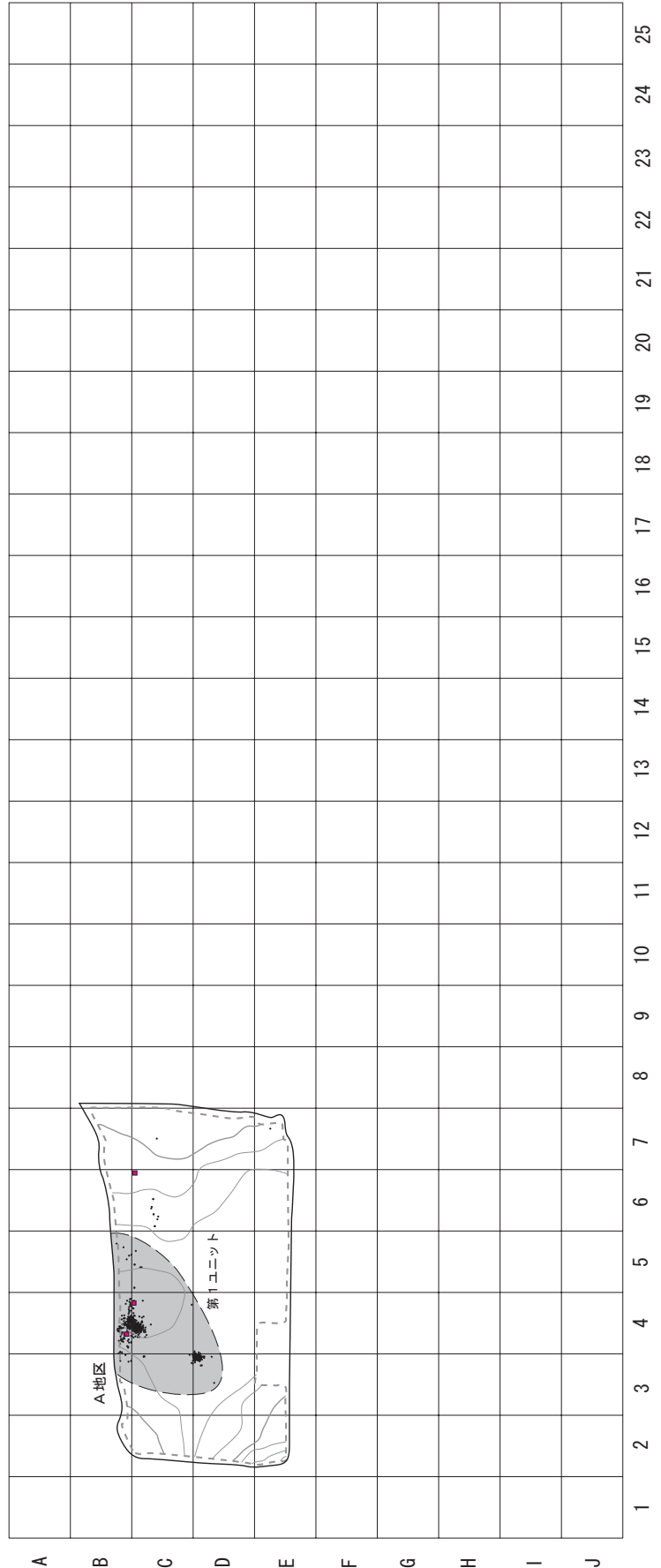
水晶(CR[●])
 無色透明の柱状のものが多い。

頁岩(SH[●])
 節理を多く内包する淡緑色頁岩や青灰色の珪質頁岩、光沢のない硬質の頁岩を包括している。時間的な制約から母岩別の検討までは行えなかったが、おおむね淡緑色の節理を多く内包する頁岩が主体を占めている。

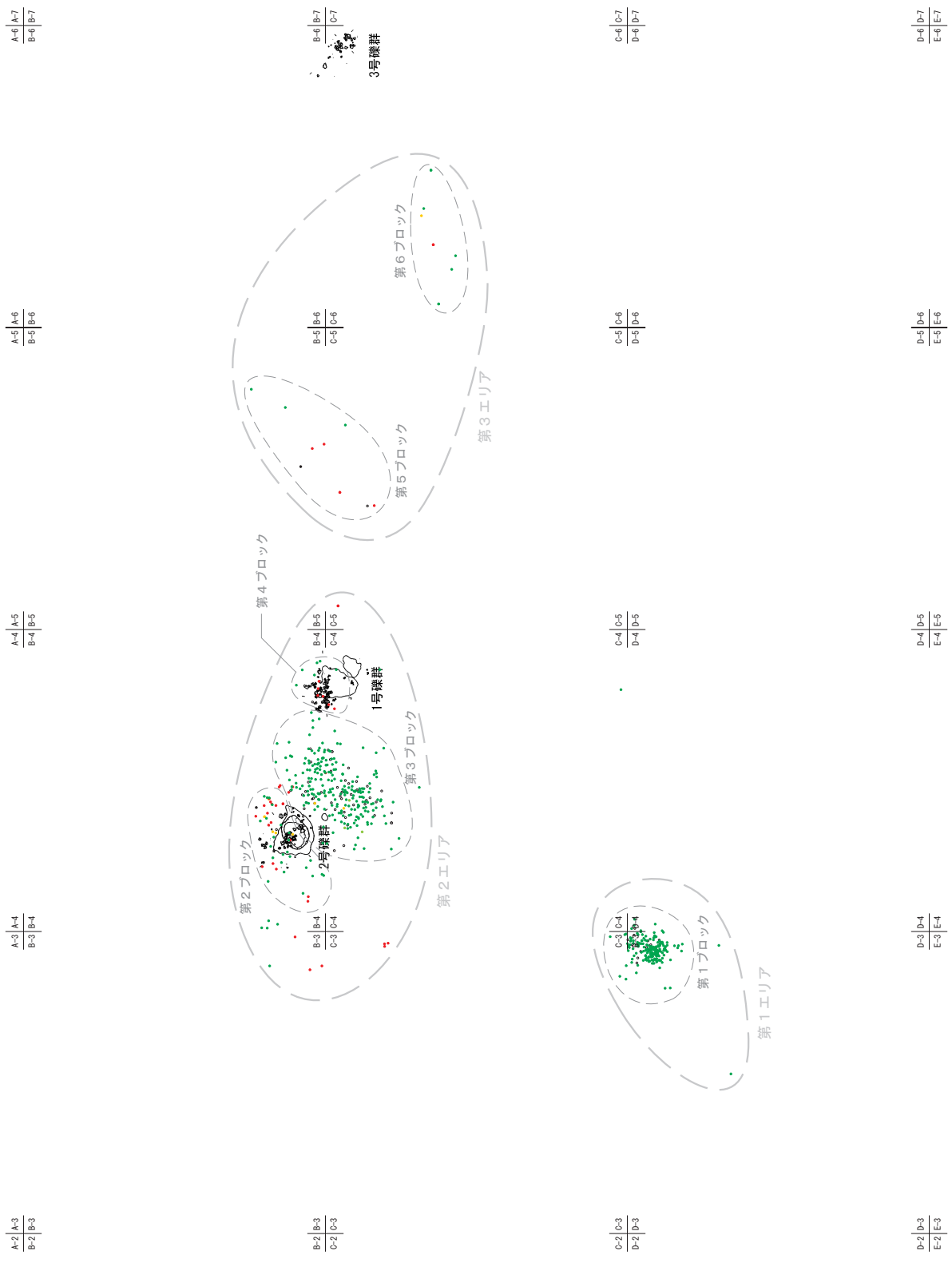
砂岩(SS[●])
 本遺跡では比較的緻密な砂岩がわずかながら剥片石器に利用されているほか、磨石/敲石、石皿/台石類に若干利用されている。細別分類は行わなかった。

輝石安山岩(PA)
 黒色鉱物を含む、斑晶のあまり発達しない火成岩を一括して包括した。本遺跡では、磨石/敲石、ハンマーストーンに積極的な利用が認められるほか、大型の剥片を採取して削器類に利用されている。

花崗岩(PG)
 本遺跡では、斑晶が発達する白色の花崗岩が利用されている。ほとんどが磨石/敲石に使用されている。



第9図 第I文化層ユニット配置図及び遺構位置図



第10図 第I文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況



第11図 第I文化層遺構実測図(1)

第1節 第I文化層の調査

1 調査の方法と概要

第I文化層は、発掘調査においてXV層、XIV層出土として取り扱ったもので、遺物集中の上下関係や石器組成、レベル等を検討した結果、二つの文化層の区分は困難であるとの結論に達した。そのため、本遺跡最古の文化層として一括して取り扱うこととした。

調査段階では、限定した部分ではXIV層の上部でP-15、下部ではP-17の桜島起源のオレンジ軽石が点在することを確認している。

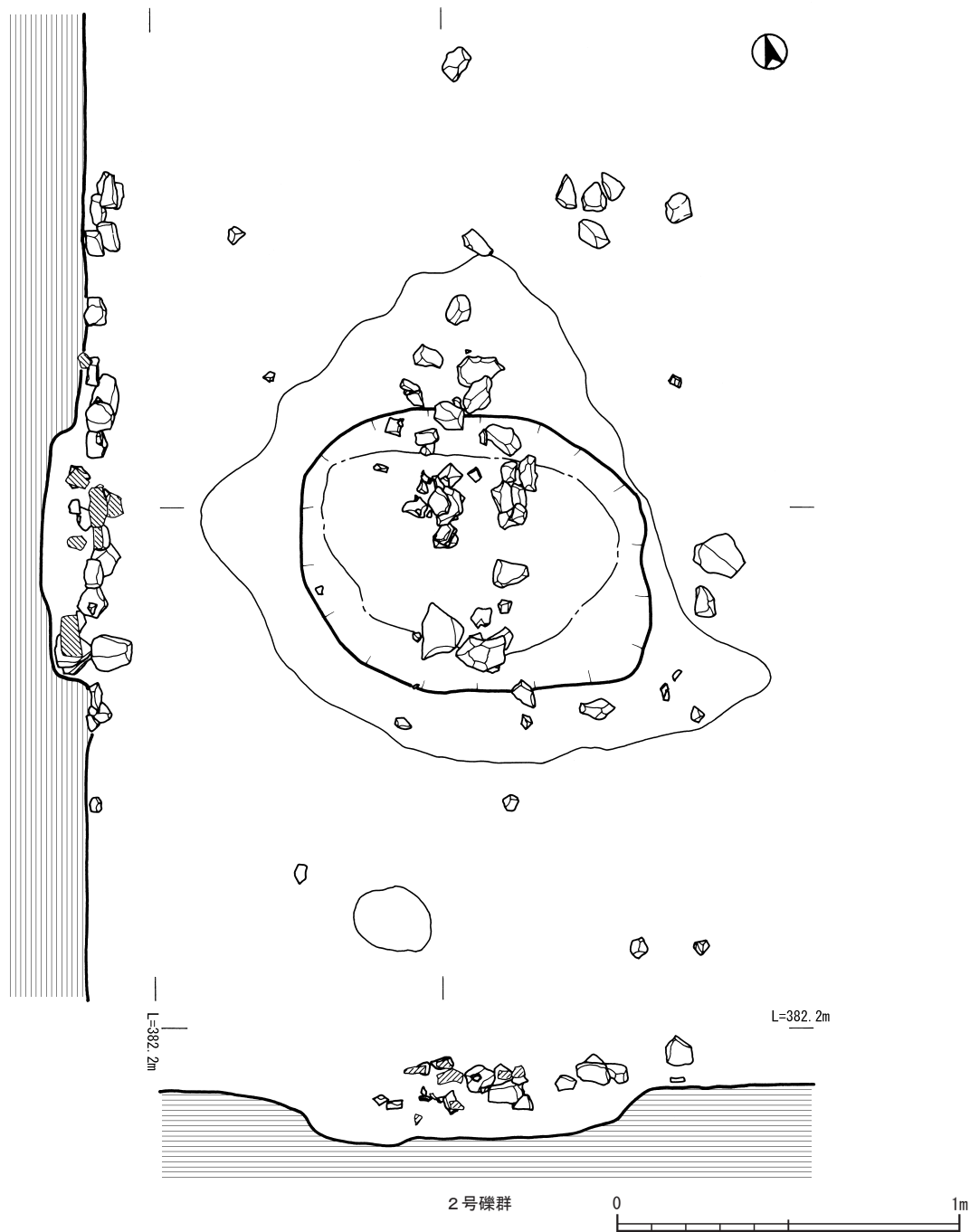
遺構、遺物の出土はA地区に限られ、調査区の

B, C, D-3, 4, 5, 6区で出土している。

遺物の分布は狭い範囲に限定され、遺構と遺物に密接な関係が読みとれる。調査範囲においていくつかの遺物集中域を検出することができたが、この遺物集中区については、さらに調査区外へのびる可能性が高い。

第I文化層の遺物集中区の検出状況及び遺構配置図を第10図に示した。

また、第I文化層の出土遺物については接合作業を行っている。整理期間の制約上図化することはできなかったが、第1ブロックで剥片剥離の過程を検討可能な良好な資料が得られている。接合状況図は第24図に示した。



第12図 第I文化層遺構実測図(2)

2 遺構

礫群

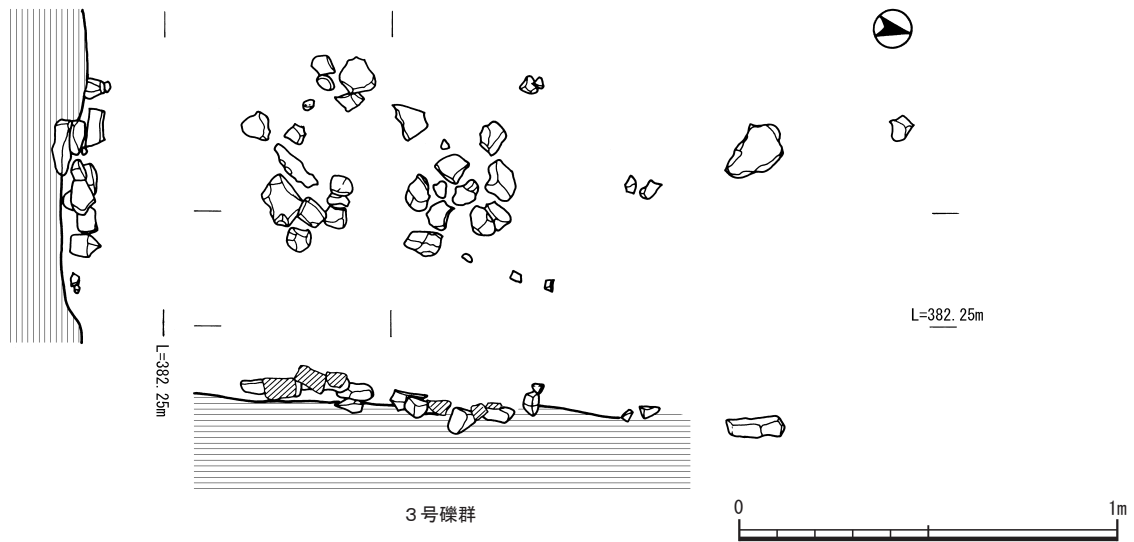
第I文化層(XV層, XIV層)では3基の礫群を検出した。遺構の分布は南側急傾斜からやや奥に入ったA地区の西側平坦面にのみみられる。1号礫群と2号礫群は隣接する状況で検出し、およそ20mほど離れて3号礫群を検出した。

1号礫群(第11図)

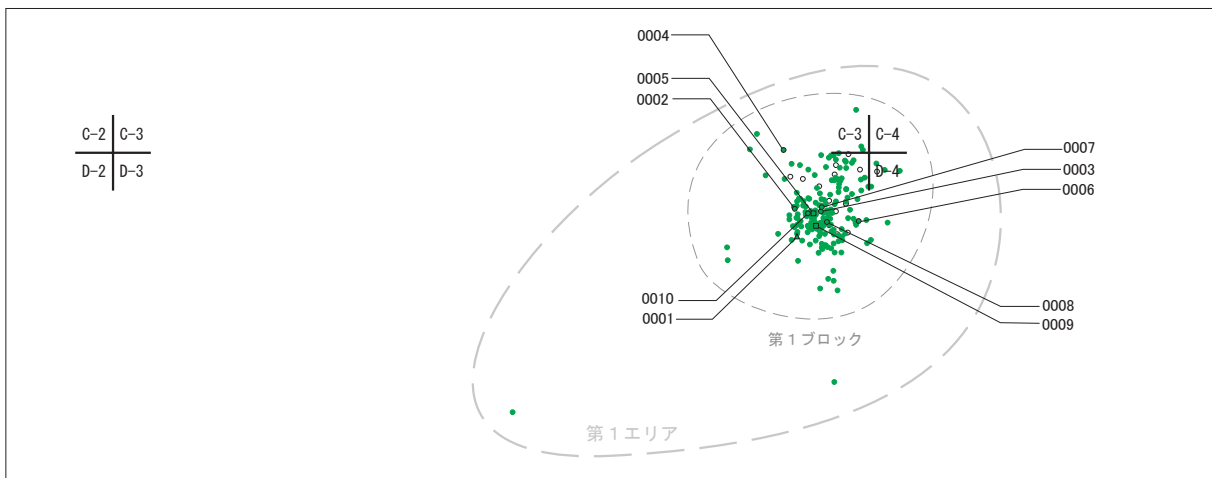
B, C-4区で検出した。砂岩を使用し、10cm前後の中型の礫が多い。礫形状は角礫であるが摩滅している。中には熱破碎したような小礫もみられるが、礫の赤化は顕著でない。断面で5cm程度の若干の掘り込みがみられる。礫集中部から南西側に炭化物の広がりがみられる。

皿状の浅い掘り込み内からは遺物は出土していないが、掘り込みライン外の礫群は第2エリア第4ブロック群の遺物と重なる。

(礫群Ⅱ類)



第13図 第I文化層遺構実測図(3)



第14図 第I文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図

2号礫群(第12図)

B-4区で検出した。砂岩を使用し、10～15cm前後の比較的大きな礫が多い。礫形状は角礫であるが摩滅している。中には熱破碎したような小礫もみられるが、礫の赤化は顕著でない。礫下位に長軸約100cm、短軸約80cm、深さ約15cmの掘り込みが確認でき、そこを中心に炭化物が広がりをみせる。

礫群は、第2エリア第2ブロックの遺物と重複する。
(礫群Ⅱ類)

3号礫群(第13図)

C-6区で検出した。砂岩主体の礫を使用し、比較的大きな礫が多い。中には熱破碎したような小礫もみられるが、礫の赤化は顕著でない。断面で3cm程度の若干の掘り込みがみられる。

第3エリアの東に位置し、礫群の周辺では遺物は確認されていない。

(礫群Ⅱ類)

3 遺物

遺物の出土はA地区に限られ、遺物はB, C, D-3, 4, 5区を中心に分布する。遺物分布はさらに調査区外へ展開する可能性が高いが、現時点ではこの範囲を第1ユニットとしてとらえておきたい。

具体的なエリア設定と、詳細な第I文化層の出土状況は第9図と第10図に示した。

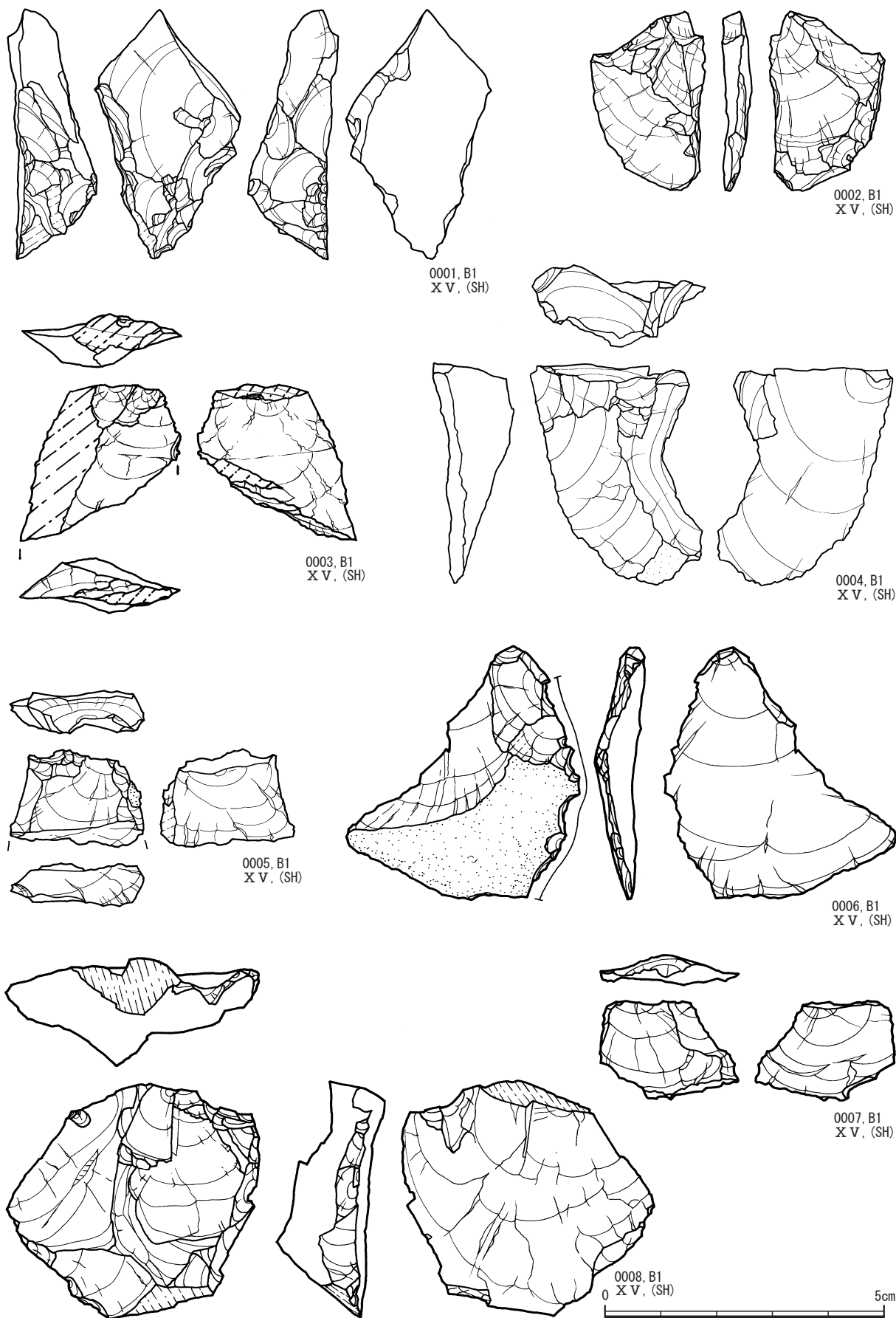
第I文化層のユニットは、ブロックを含む第1エリア(1ブロック)、第2エリア(3ブロック)、第3エリア(2ブロック)で構成している。

第1エリア(第14, 第15, 16図)

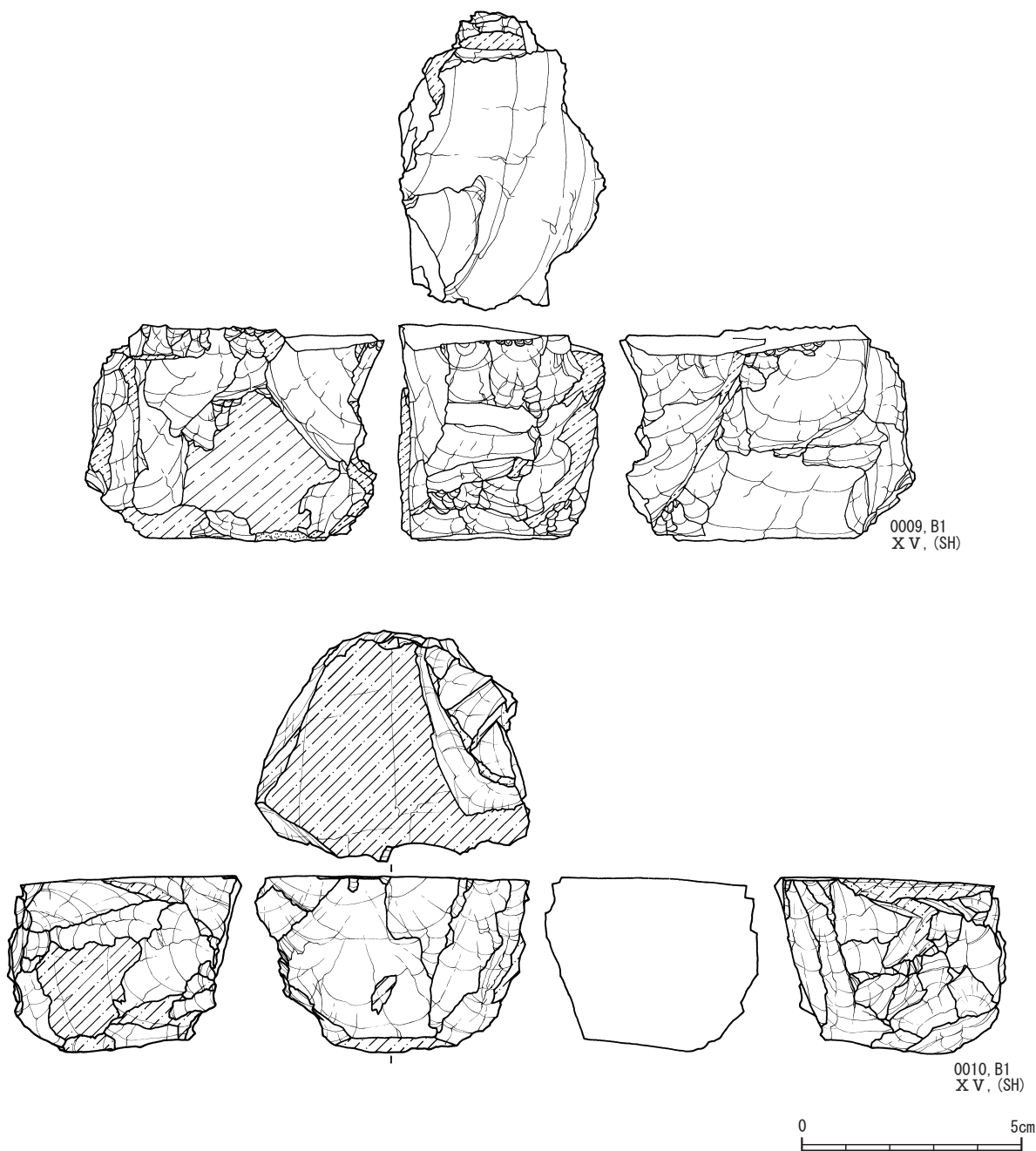
D-3, 4区の境界付近にあり、頁岩のみで構成する。

明確な石器はナイフ形石器が1点で(0001)、微細離痕を持つ剥片(0006)と石核2点(0009, 0010)の他、剥片、折断剥片2点(0003, 0005)、ブランディングチップ(0007)が出土している。

ナイフ形石器の腹面は節理面に相当し、白ヌキで表示



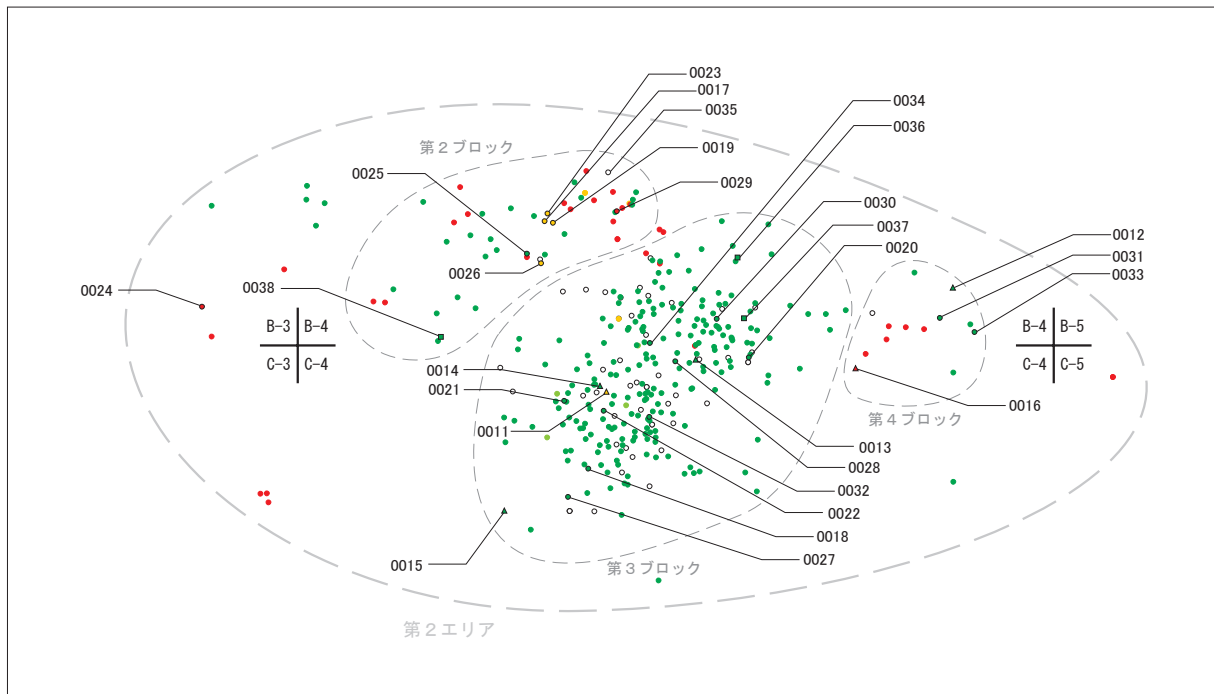
第15図 第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(1)



第16図 第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(2)

第3表 第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
15	0001	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A1	B1	SH	-	44.6	26.3	14.0	11.56	24971	X V	D-3	-
	0002	剥片	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	32.1	20.7	5.1	2.85	25106	X V	D-3	-
	0003	剥片	折断剥片	-	I	U1	A1	B1	SH	-	(28.2)	(28.8)	(9.1)	(4.78)	24990	X V	D-3	-
	0004	剥片	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	39.5	30.9	15.1	10.39	25090	X V	C-3	-
	0005	剥片	折断剥片	-	I	U1	A1	B1	SH	-	(17.6)	(24.0)	(7.3)	(3.24)	24973	X V	D-3	145
	0006	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	I	U1	A1	B1	SH	-	45.6	42.0	8.7	7.80	24953	X V	D-3	133
	0007	チップ	ブランディングチップ	-	I	U1	A1	B1	SH	-	17.9	25.1	5.5	1.50	25093	X V	D-3	-
	0008	剥片	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	42.3	45.5	16.7	21.28	24983	X V	D-3	119
16	0009	石核	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	49.4	47.3	67.5	200.82	24987	X V	D-3	153
	0010	石核	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	40.5	62.5	52.5	162.87	24977	X V	D-3	119



第17図 第I文化層第1ユニット第2エリア遺物出土状況図

した。右側縁先端部は先行した剥離面をそのまま活かし、加工の状況から石器本体の二側縁に刃潰しした切出形のナイフ形石器と判断している。刃潰し加工は、主に腹面から行っているが、背面方向も数回認められる。0007についてはその形状からブランティングチップと判断しているが、出土している石器の実体と整合しない課題も残る。0005は、折断剥片の可能性が高い。石核0009は単剥離打面、0010は節理面を打面とし、作業面の観察からは、横広の剥片が取り出された可能性が高い。

第1ブロックでは多数の節理を持つ石材を石核に選択しているため、節理でのダメージが影響し、縦長素材剥片等の安定的な入手は困難であったと思われる。

第2エリア(第17図, 第18~21図)

B, C-4区の中央部境界にある。

第2ブロックは主体石材が頁岩で、続いて黒曜石II-A類, ギョクズイが加わる。第3ブロックは頁岩を主体とし、黒曜石II-A類, ギョクズイ, チャートが数点ずつ混入する。第4ブロックは黒曜石II-A類と頁岩で構成する。

ナイフ形石器5点(0011~0015), ハンマーストーン1点(0035), 石核3点(0036~0038)の他、剥片・ブランティングチップ(0018, 0019, 0021)を確認している。

ナイフ形石器の0011以外は、二側縁に刃潰しした切出形石器で、0012は直刃、他の3点は斜刃を成している。0011はその後、0017の折断剥片と接合することが追加調査で明らかになっている。0011の背面と0017の背面右剥離面とが接合し、0011が先行して剥離されている。なお、0011のナイフ形石器は先端部を鋭く作り出した一側縁加工

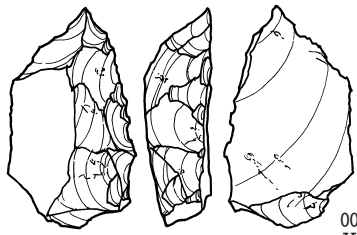
に属する。0012の二側縁は背面から刃潰しを実施し、先端部右側は使用により欠損している。0013の刃潰し加工は腹面からが中心となり、背面からの細かい調整剥離が重なる。また、底面にも腹面からも刃潰し加工が加えられる。0014はその後ブランティングチップと接合することが確認されている。今回は残念ながら表示できていないが、接合している資料は左側縁から基部にかけてのブランティングチップである。これを観察すると刃部を形成する背面の剥離面を、腹面から除去する作業(ブランティング)を順次繰り返していることがわかる。接合後も2回以上の作業が認められる。また、素材剥片を大きく変化しながら石器製作を行い製品化した様相も読みとれる。0015の刃潰し加工は両面から入念に行い、稜の最上部には稜上剥離も見られ、石器の厚さを減じた意図が感じられる。腹面の基部には平坦剥離らしき痕跡も残る。

0016は黒曜石II-A類を使用したもので、表示した右側縁部が挟入状のスクレイパーに使用されたと思われる。0034の剥片の左上部は、節理のダメージで欠落した可能性がある。

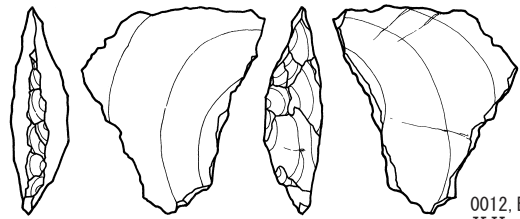
0035のハンマーストーンは大きく破損しているが、敲打痕が明瞭に観察できる。0031, 0033の2点も接合しているが、その要因はアクシデントによる分割である。

石核0037の打面は単剥離面であるが、節理面の可能性もある。

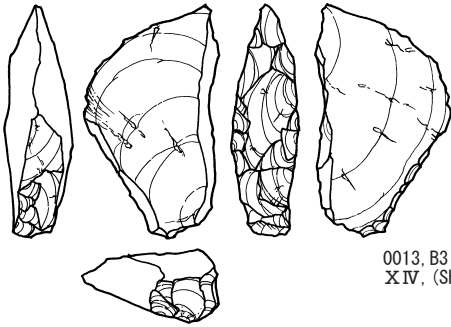
石核の作業面や残された剥片の観察からは、縦長剥片を安定的に生産することは困難だった感がある。抽出できた主な出土遺物は第3ブロックにあり、頁岩を用いた製作場の色彩が強く感じられる。



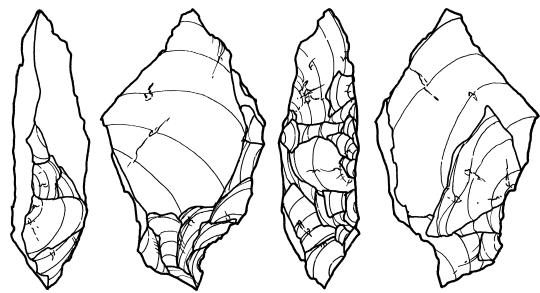
0011. B3
XIV, (CC)



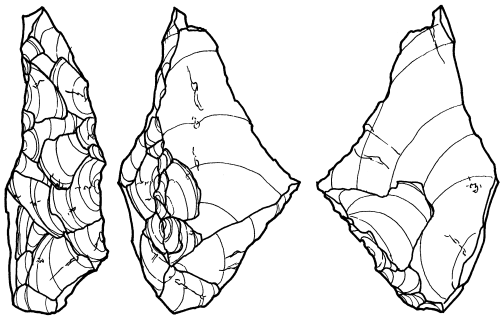
0012. B4
XV, (SH)



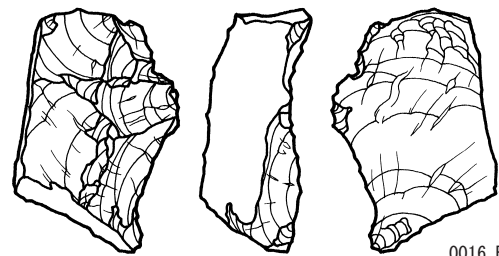
0013. B3
XIV, (SH)



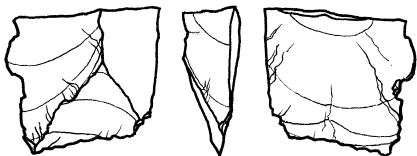
0014. B3
XIV, (SH)



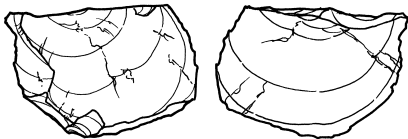
0015. B3
XIV, (SH)



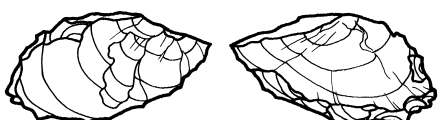
0016. B4
XV, (OB2A)



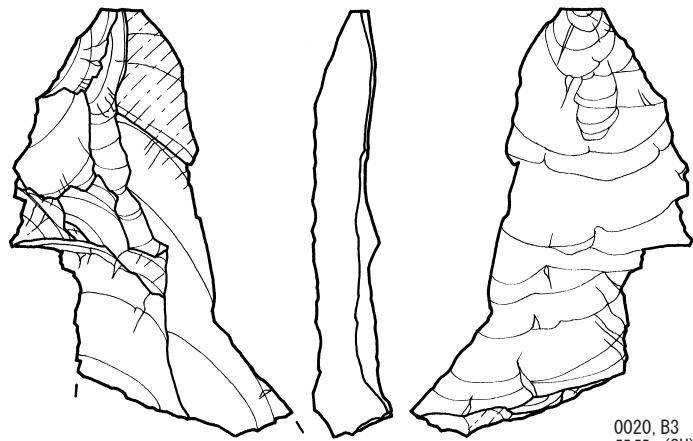
0017. B2
XV, (CC)



0018. B3
XIV, (SH)



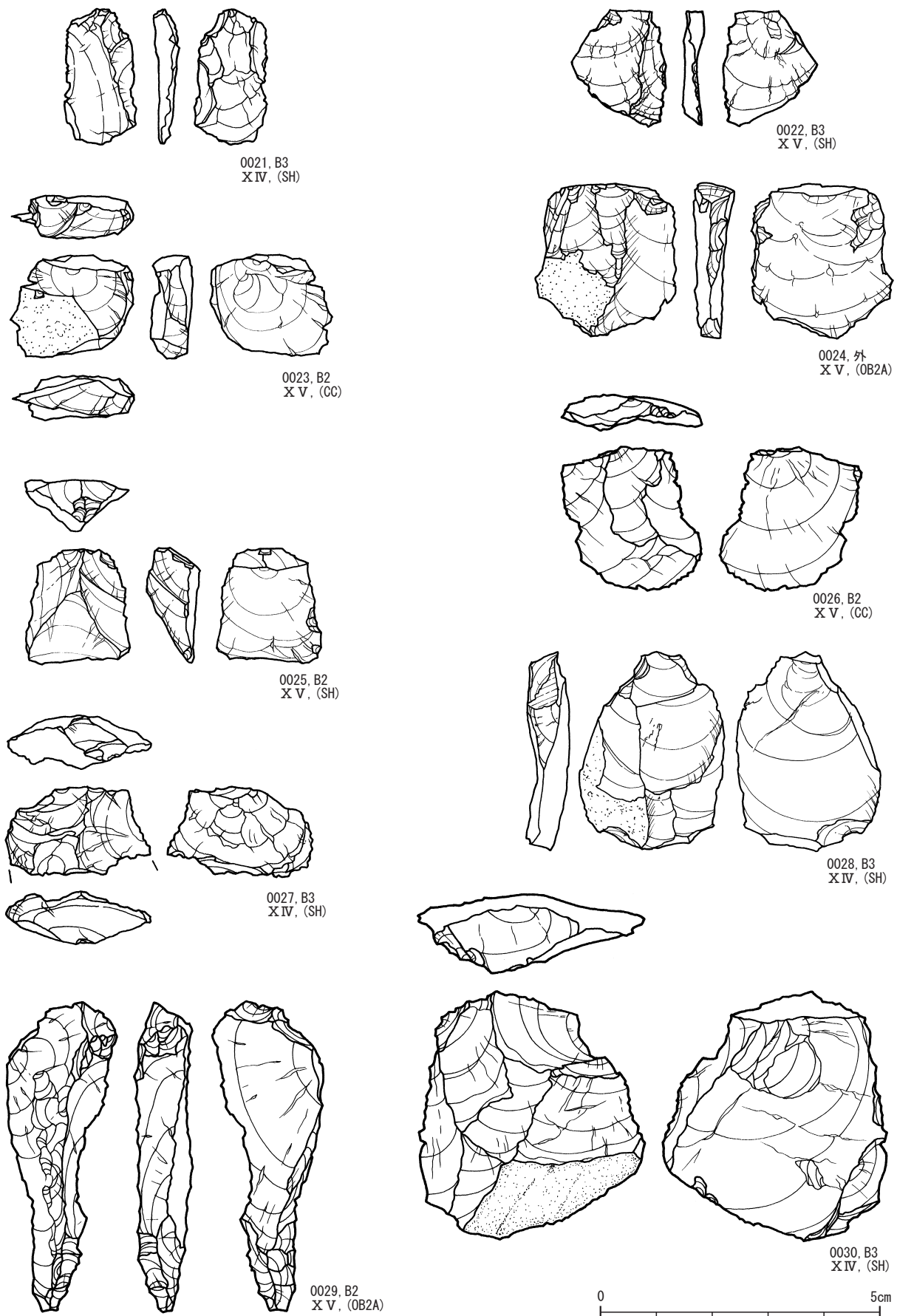
0019. B2
XV, (CC)



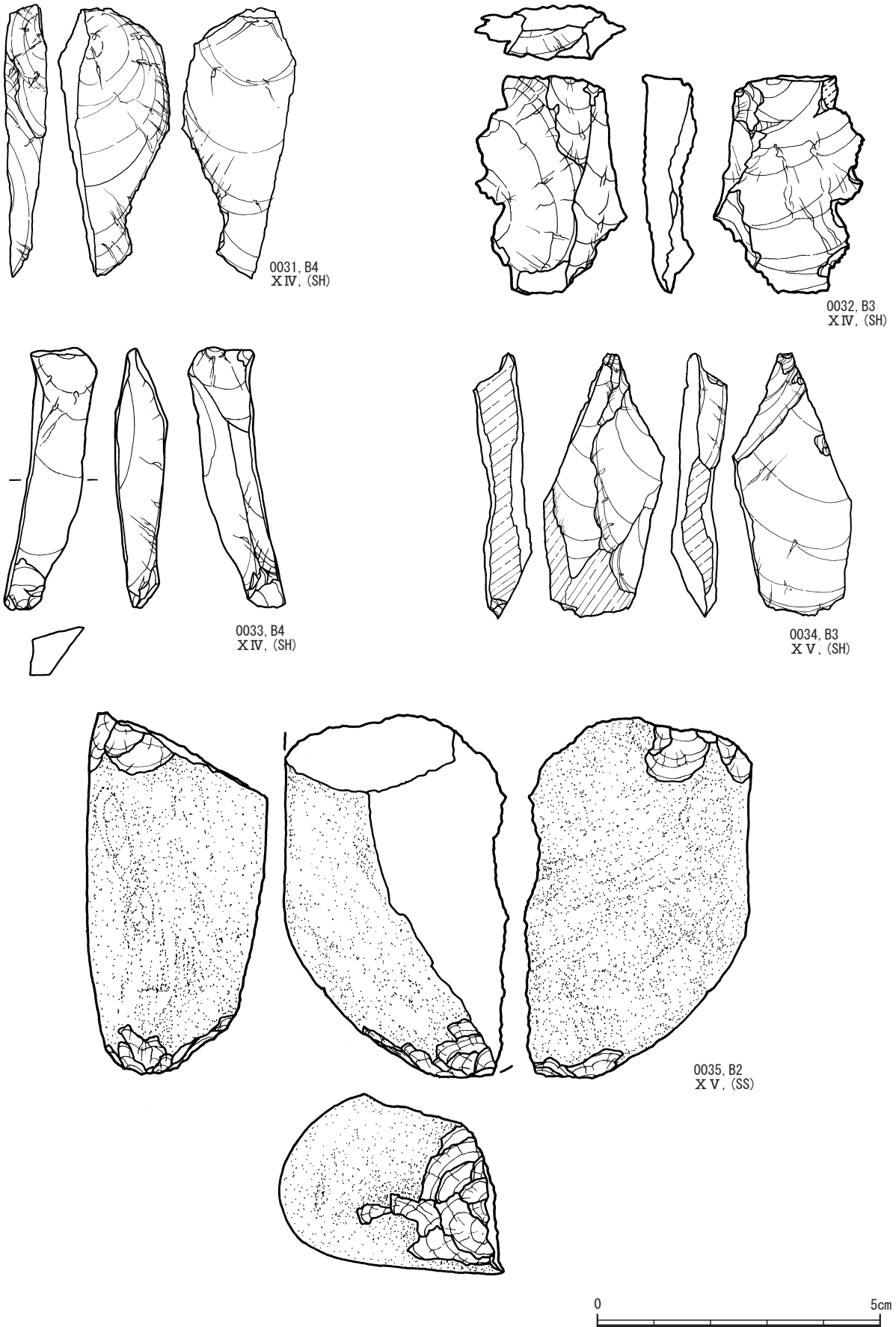
0020. B3
XV, (SH)



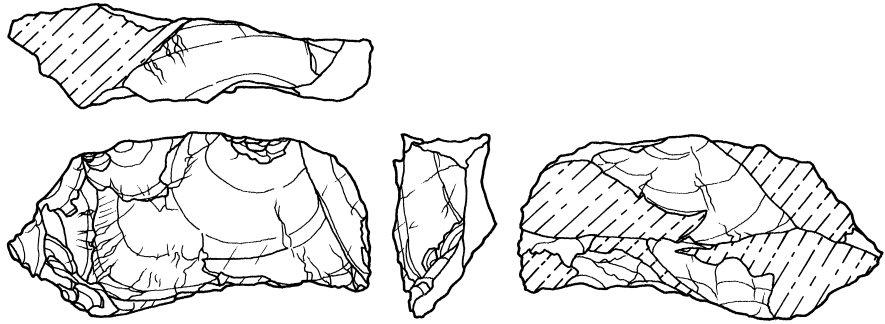
第18図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(1)



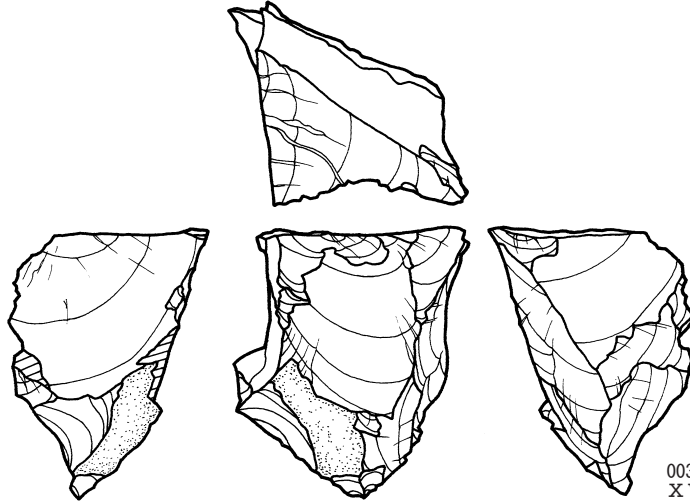
第19図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(2)



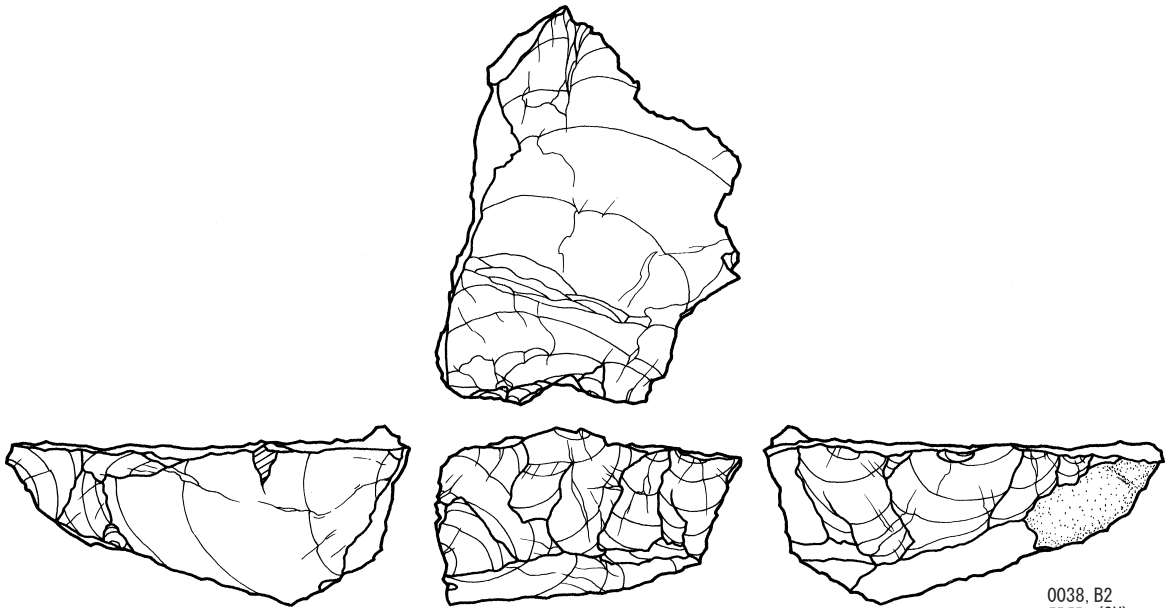
第20図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(3)



0036, B3
X IV, (SH)



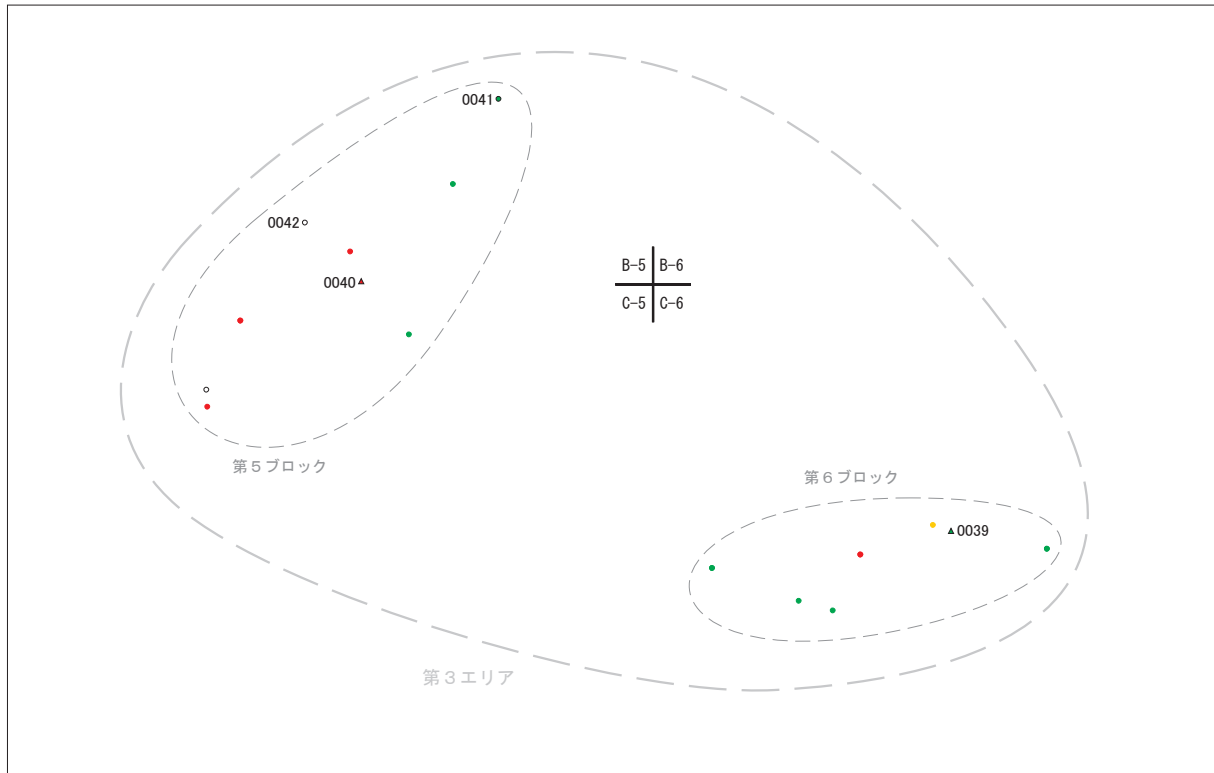
0037, B3
X V, (SH)



0038, B2
X V, (SH)



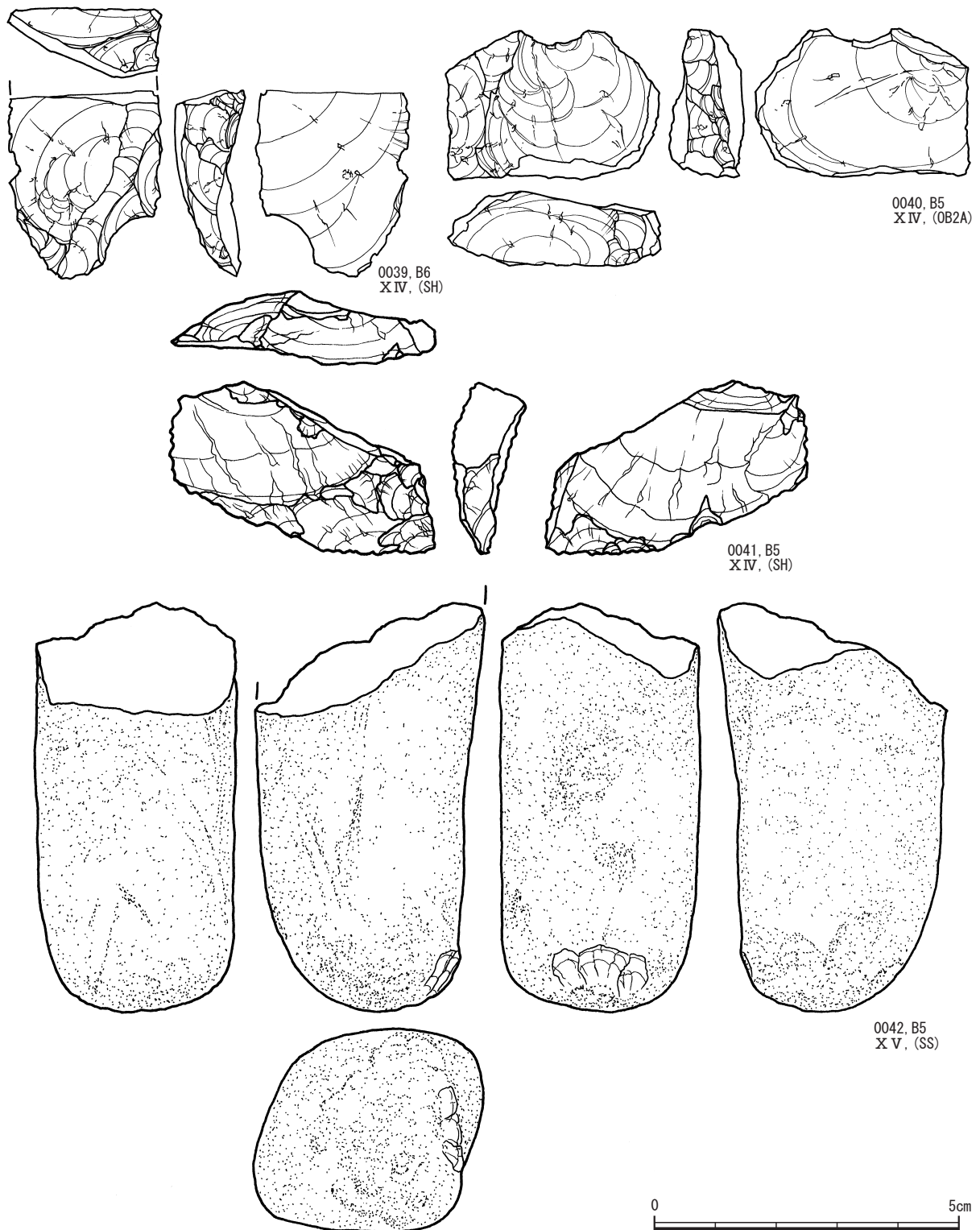
第21図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(4)



第22図 第I文化層第1ユニット第3エリア遺物出土状況図

第4表 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
18	0011	石器	ナイフ形石器	-	I	U1	A2	B3	CC	-	29.1	17.2	8.8	4.14	23423	XIV	C-4	152
	0012	石器	ナイフ形石器	台形石器	I	U1	A2	B4	SH	-	27.4	24.4	7.7	3.56	24996	XV	B-4	-
	0013	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A2	B3	SH	-	31.0	18.0	9.0	4.53	24691	XIV	C-4	-
	0014	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A2	B3	SH	-	37.2	21.8	9.7	6.79	24854	XIV	C-4	164
	0015	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A2	B3	SH	-	40.4	24.2	12.7	8.78	24720	XIV	C-4	-
	0016	石器	二次加工痕のある剥片	-	I	U1	A2	B4	OB2	A	32.4	22.1	13.0	8.91	25069	XV	C-4	-
	0017	剥片	折断剥片	-	I	U1	A2	B2	CC	-	19.5	20.6	7.2	2.35	25056	XV	B-4	152
	0018	チップ	ブランディングチップ	-	I	U1	A2	B3	SH	-	17.7	25.6	6.0	2.78	23436	XIV	C-4	149
	0019	チップ	ブランディングチップ	-	I	U1	A2	B2	CC	-	14.8	27.3	5.2	1.52	25034	XV	B-4	-
	0020	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	(56.5)	(37.4)	(10.9)	(10.60)	25017	XV	C-4	-
19	0021	チップ	ブランディングチップ	-	I	U1	A2	B3	SH	-	24.3	13.1	3.5	0.90	24857	XIV	C-4	-
	0022	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	21.1	17.1	3.0	0.88	24930	XV	C-4	-
	0023	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	CC	-	18.5	22.2	6.8	2.91	25112	XV	B-4	-
	0024	剥片	-	-	I	U1	A2	外	OB2	A	27.4	25.4	6.6	4.03	25080	XV	B-3	-
	0025	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	SH	-	20.9	18.8	9.2	2.66	25008	XV	B-4	140
	0026	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	CC	-	26.0	25.3	6.0	2.55	25033	XV	B-4	-
	0027	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	(16.2)	(26.1)	(9.7)	(3.45)	23434	XIV	C-4	-
	0028	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	35.5	26.1	7.2	6.29	24693	XIV	C-4	-
	0029	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	OB2	A	55.5	20.0	9.0	7.30	25037	XV	B-4	-
	0030	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	44.5	40.6	12.8	21.23	24830	XIV	B-4	141
20	0031	剥片	-	-	I	U1	A2	B4	SH	-	47.4	19.9	7.8	6.48	23363	XIV	B-4	115
	0032	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	38.8	26.9	9.0	6.93	23405	XIV	C-4	-
	0033	剥片	-	-	I	U1	A2	B4	SH	-	46.1	17.4	7.7	4.17	23361	XIV	B-4	115
	0034	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	46.6	21.5	8.0	7.25	24908	XV	B-4	-
	0035	石器	ハンマー	-	I	U1	A2	B2	SS	-	(64.2)	(40.0)	(31.0)	(95.27)	25004	XV	B-4	-
21	0036	石核	残核	-	I	U1	A2	B3	SH	-	24.5	48.0	14.0	13.11	23389	XIV	B-4	-
	0037	石核	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	36.0	31.4	26.0	18.96	25042	XV	B-4	-
	0038	石核	-	-	I	U1	A2	B2	SH	-	23.7	40.6	53.0	45.16	25059	XV	B-4	140



第23図 第I文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図

第5表 第I文化層第1ユニット第3エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
23	0039	石器	ナイフ形石器	-	I	U1	A3	B6	SH	-	(30.9)	(25.4)	(11.0)	(7.51)	23972	XIV	C-6	-
	0040	石器	スクレイパー	搔器	I	U1	A3	B5	OB2	A	24.8	35.2	12.0	10.96	24632	XIV	B-5	-
	0041	剥片	-	-	I	U1	A3	B5	SH	-	28.6	43.8	11.7	9.13	23965	XIV	B-5	-
	0042	石器	ハンマー	-	I	U1	A3	B5	SS	-	(67.2)	(38.0)	(32.4)	(119.29)	25074	XV	B-5	-

第3エリア (第22図, 第23図)

B, C-5, 6区に散在する19点を対象とした。

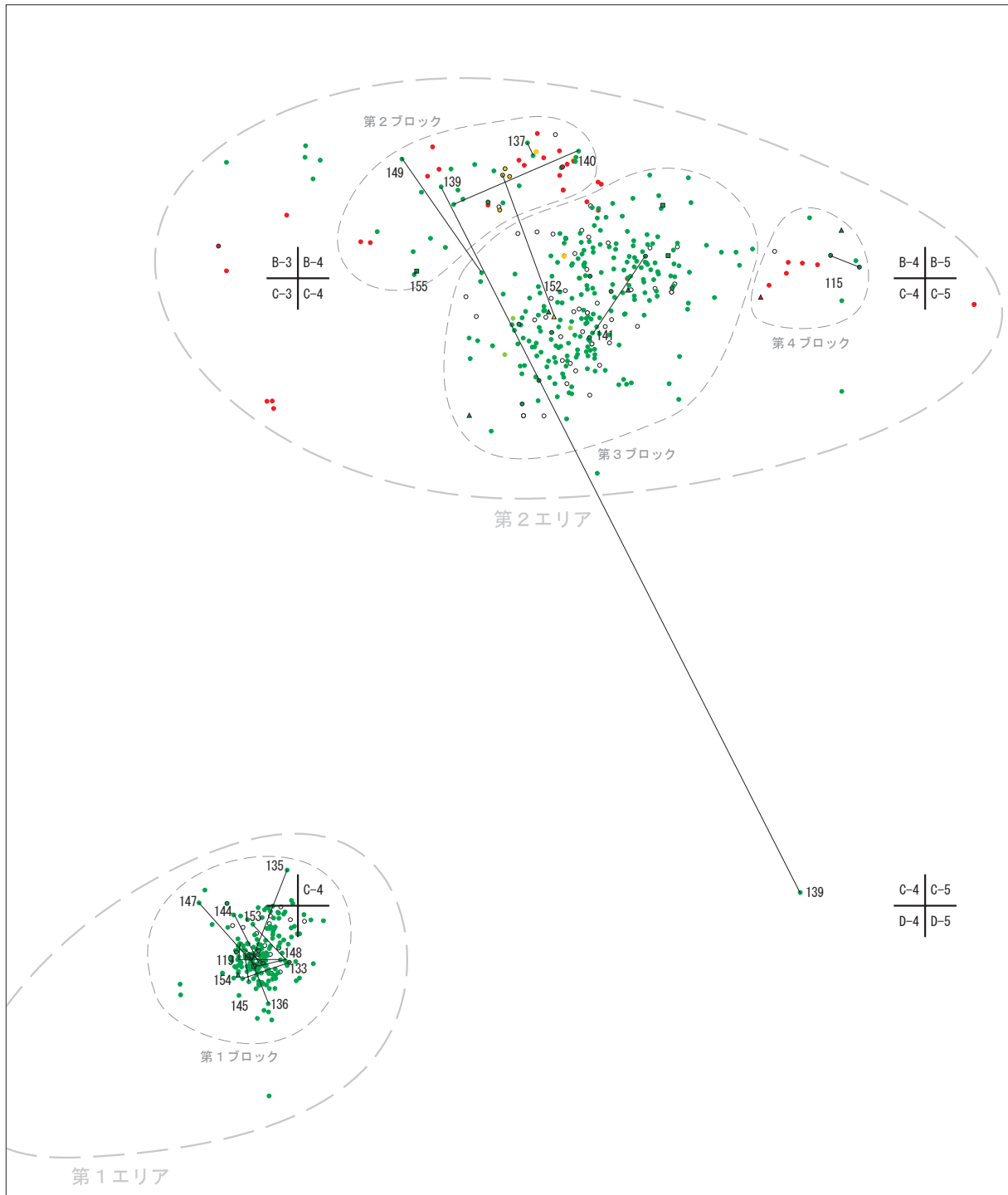
第5ブロックは黒曜石Ⅱ-A類, 頁岩, 砂岩, 第6ブロックは頁岩, ギョクズイ, 黒曜石Ⅱ-A類で石材を構成する。

0039は天地逆の可能性もあるが, 刃潰し状の加工が残ることから, 先端部を欠く横長剥片の一侧縁ナイフ形石器と判断できる。

0040は石材黒曜石Ⅱ-A類を折断し, 右側縁に搔器状

の刃部を残している。

0042のハンマーストーンは砂岩を用い, 下端部を主に使用の痕跡が残る。



第24図 第I文化層接合状況図

第2節 第II文化層の調査

1 調査の方法と概要

第II文化層は、発掘調査時にXIII層として取り上げられた遺構、遺物を主体として構成する。その後整理作業において、遺物分布の検討を行う過程でXIII層からXII層への遺物の浮き上がりがみとめられたため、接合状況と石材ごとの遺物集中傾向を考慮してXII層の遺物の一部を第II文化層に所属するものとして取り扱った。

遺物の出土傾向については、A地区においてはB、C-5区からB、C-12区の東西方向にほぼ直線的に分布する傾向が読みとれる。さらにB、C-9、10区を境に分布が大きく2か所に分かれることから、それぞれをユニットで括り、西側を第1ユニット、東側を第2ユニットとした。また、それぞれのユニットは1～5か所のエリアに区分でき、第1ユニットを5つのエリア(第1エリア～第5エリア)に、第2ユニットは1つのエリア(第6エリア)に区分している。さらに、各エリアは一つあるいは複数のブロックで構成される。

B地区においては、G-8区からG-15区付近にかけて遺物が濃密に集中し、北の急傾斜を背にしながら南方向に開けた階段状の狭い平坦面を利用している。

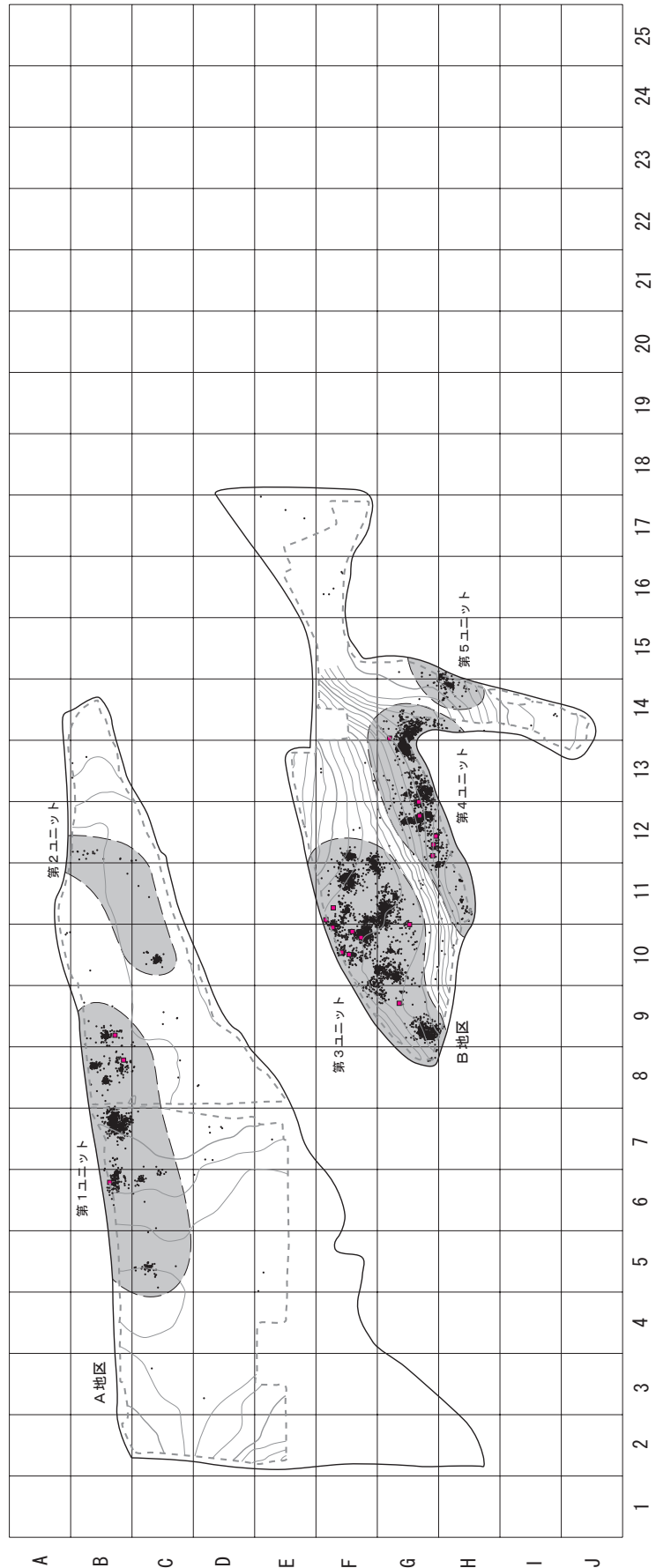
この階段状の平坦面のうち、上段に展開する遺物収集区を第3ユニット、下段部分の遺物集中区を第4ユニットとして認定した。B地区においてはさらに、第4ユニットと一定の間隔を持ってG、H-14、15区の境界付近にも遺物集中が認められる。この遺物集中区は調査区外へさらに展開する可能性が考えられるため、地形を考慮して第5ユニットとして包括した。

2 遺構

第II文化層では、A地区において3基、B地区において15基の計18基の礫群を検出した。遺構はA地区においては南側急傾斜からやや奥に入った、中央に分布する。B地区においては背後に急傾斜が控える小平坦面の北側にあたる部分と、そこからやや南側に下った部分に遺構の集中部がみられる。

4号礫群(第26図)

G-12区で検出した。小型の砂岩を使用している。礫の一部には被熱による赤化と、熱破砕がみられる。掘り込み等は確認していない。



第25図 第II文化層ユニット配置図及び遺構位置図



第26図 第Ⅱ文化層遺構実測図(1)

A-4 | A-5
B-4 | B-5

A-5 | A-6
B-5 | B-6

A-6 | A-7
B-6 | B-7

A-7 | A-8
B-7 | B-8

B-4 | B-5
C-4 | C-5

B-5 | B-6
C-5 | C-6

B-6 | B-7
C-6 | C-7

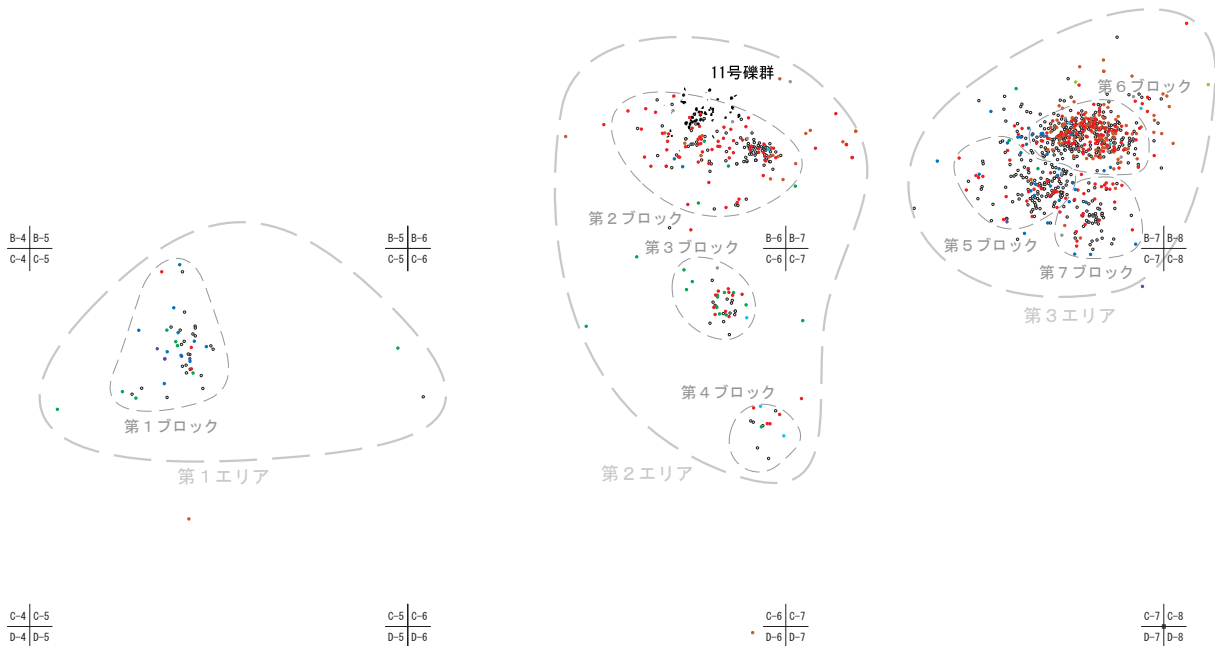
B-7 | B-8
C-7 | C-8

C-4 | C-5
D-4 | D-5

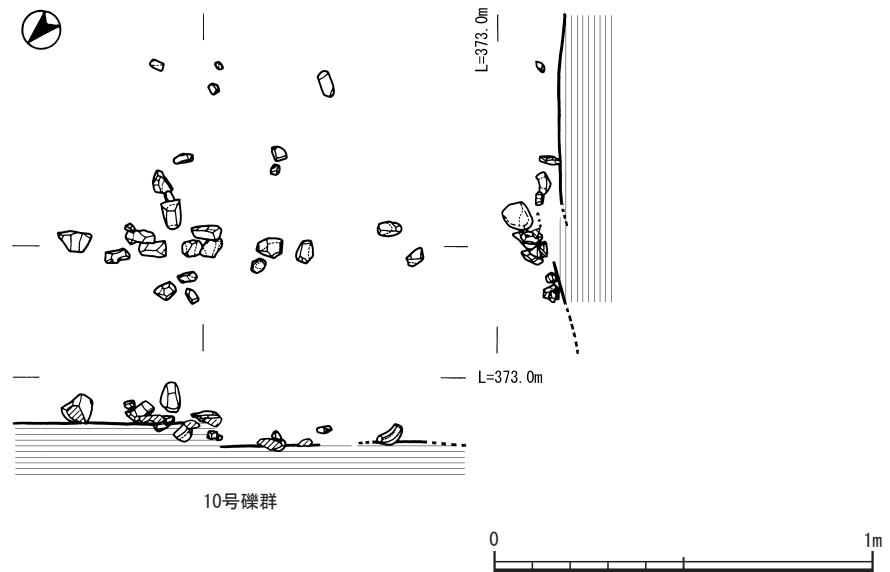
C-5 | C-6
D-5 | D-6

C-6 | C-7
D-6 | D-7

C-7 | C-8
D-7 | D-8



第27図 第Ⅱ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)



第28図 第Ⅱ文化層遺構実測図(2)

礫群は、15号礫群、21号礫群と同一の第13エリア内にある。なお、礫群と遺物の分布に直接的な重複関係はみられない。
(礫群Ⅰ類)

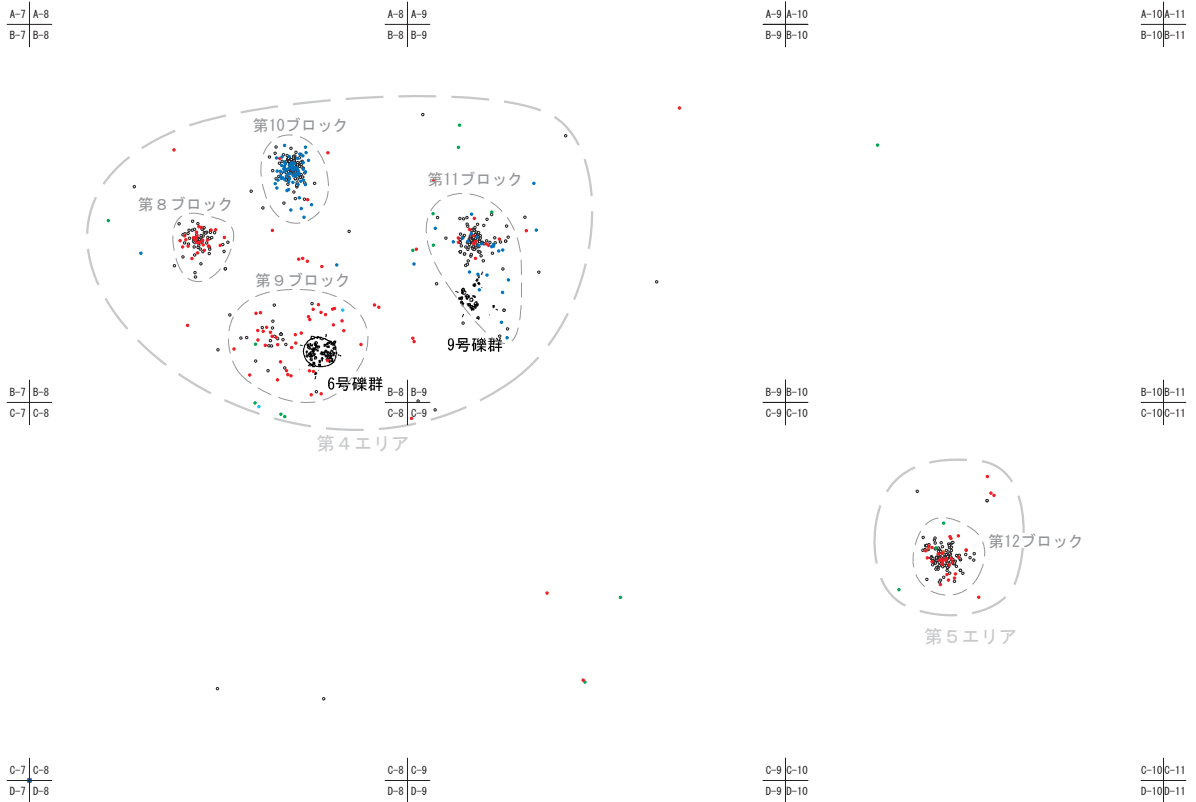
5号礫群(第26図)

G-11区で検出し、第10エリアに含まれる。安山岩を使用しており、一部頁岩、砂岩が混ざる。10cm前後の角礫

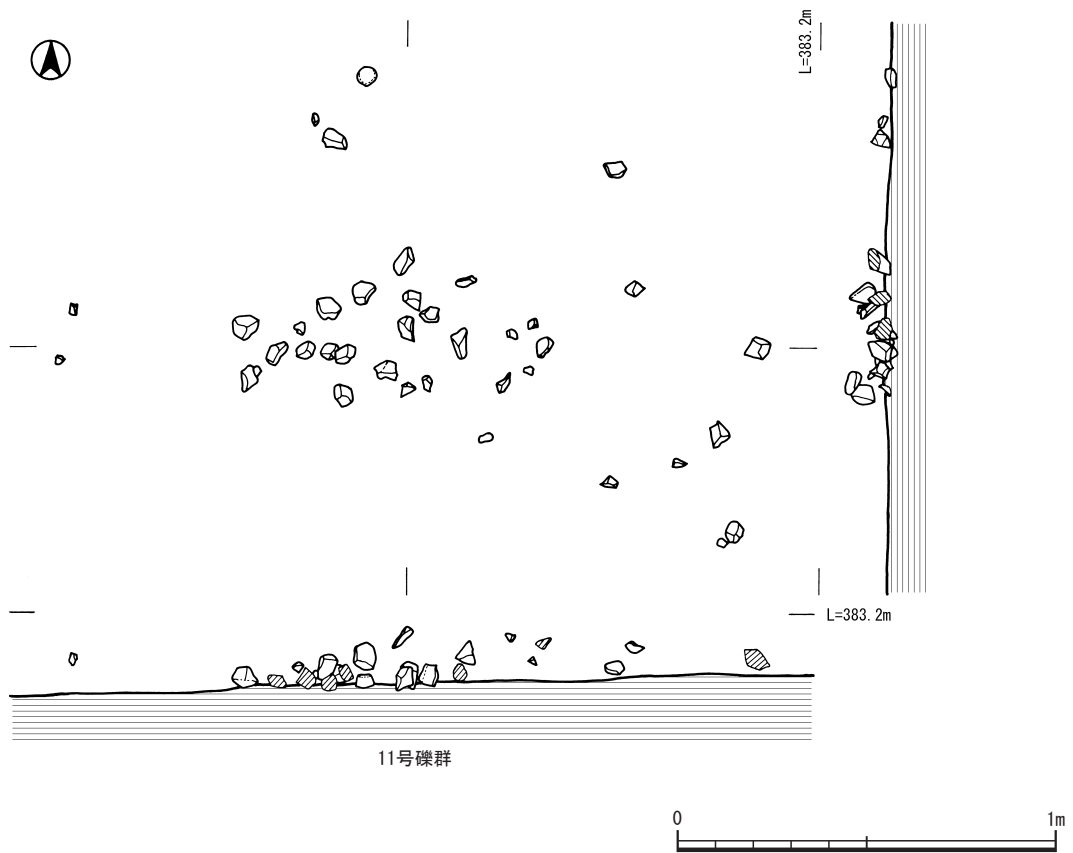
が多いが、大半は摩滅している。一部は被熱により赤化している。なお、掘り込み等は、特に確認していない。
(礫群Ⅰ類)

6号礫群(第26図)

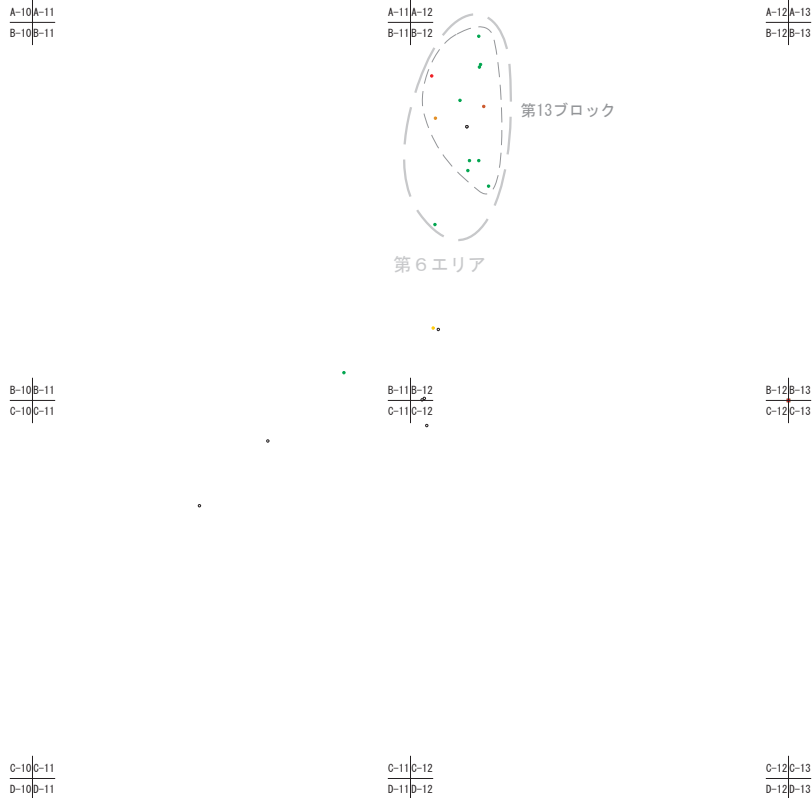
B-8区で検出し、第4エリア第9ブロックと重複する。安山岩を使用し、一部砂岩、粘板岩が混ざる。10cm以下の小型の礫が多い。礫形状は角礫であるが摩滅している。



第29図 第Ⅱ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)



第30図 第Ⅱ文化層遺構実測図(3)



第31図 第Ⅱ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(3)

礫は全体的に被熱により赤化している。中心部に長径約85cm, 短径約75cm, 深さ約3cmの皿状の窪みがみられ、炭化物粒が混ざる灰褐色土が充たしている。
(礫群Ⅱ類)

7号礫群(第26図)

G-12区で検出し, 第15エリア第48ブロックと重なる。摩滅した角礫を使用し, 被熱により赤化した中型の礫が多い。礫群と関連する掘り込み等は確認していない。
(礫群Ⅲ類)

8号礫群(第26図)

F-11区で検出し, 第9エリア第24ブロックと接する位置にある。安山岩を使用し, 小型の礫が多い。ほとんどの礫は被熱により赤化がみられる。やや南西側に傾斜をもって礫が残る。掘り込みを確認するに至っていない。
(礫群Ⅲ類)

9号礫群(第26図)

B-9区で検出し, 第4エリア第11ブロック内にある。安山岩を使用して, 一部粘板岩が混ざる。中型の礫を使用している。礫は被熱により赤化がみられ, 若干の炭化物粒もみられる。掘り込み等の確認は無い。
(礫群Ⅲ類)

10号礫群(第28図)

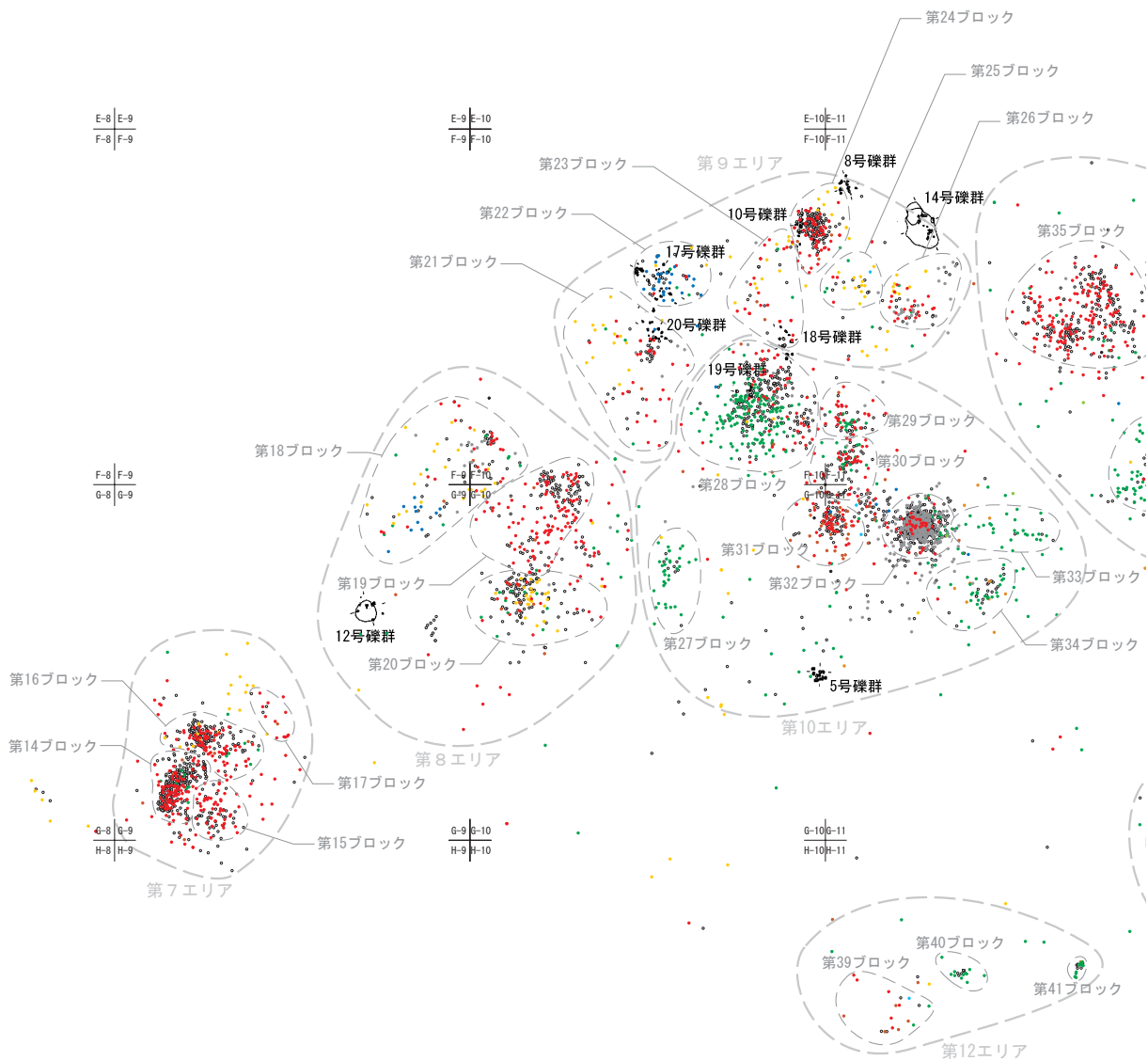
F-10区で検出し, 第9エリア第24ブロックに重なる。小型の礫を使用している。礫の一部は被熱により赤化している。やや傾斜をもって礫が残る。掘り込み等は確認していない。
(礫群Ⅲ類)

11号礫群(第30図)

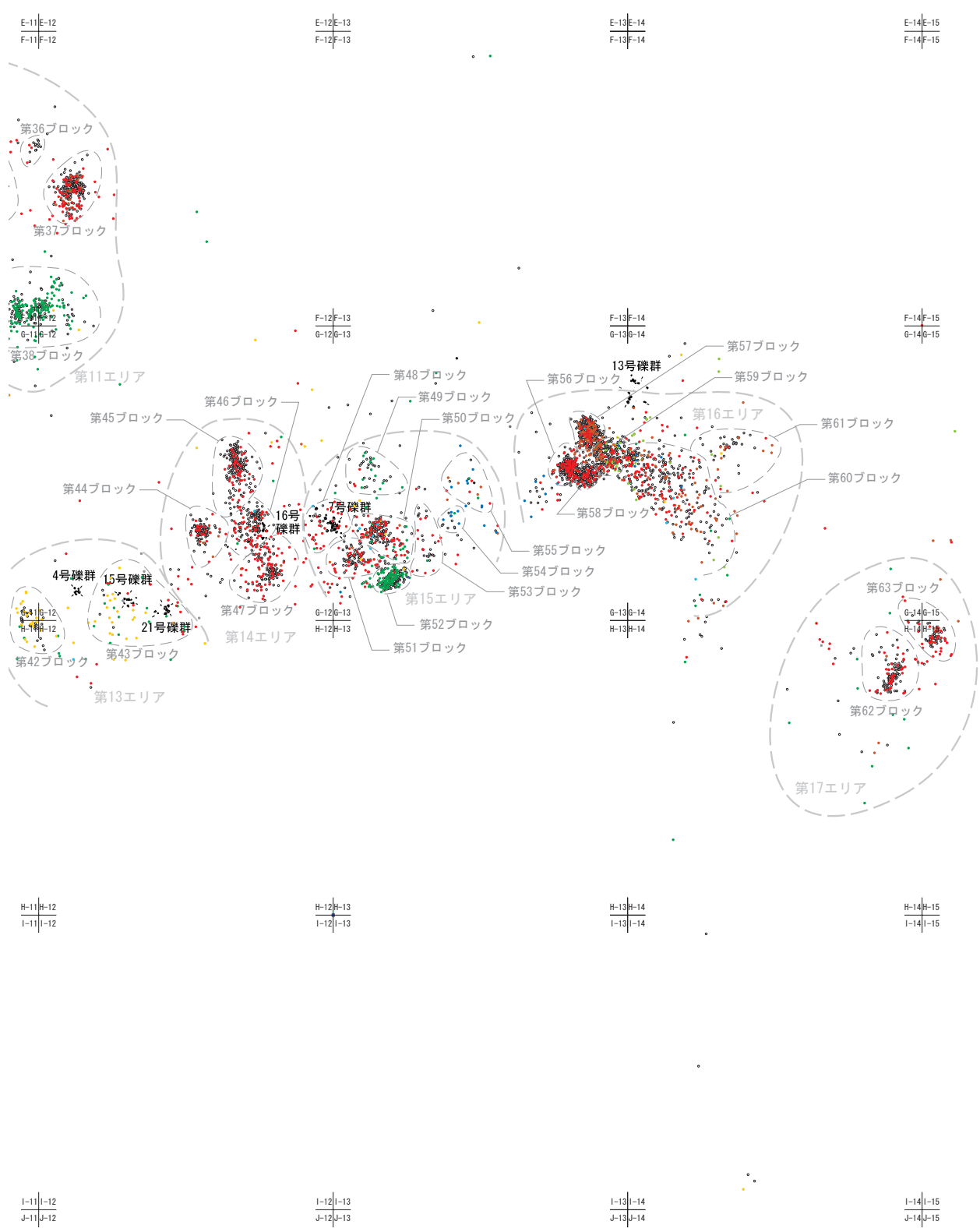
B-6区で検出し, 第2エリア第2ブロックと重なる。砂岩を使用し, 小型の礫が多い。一部の礫には被熱による赤化と破碎がみられる。破碎礫はやや浮遊した状態を示す。掘り込み等は確認していない。
(礫群Ⅲ類)

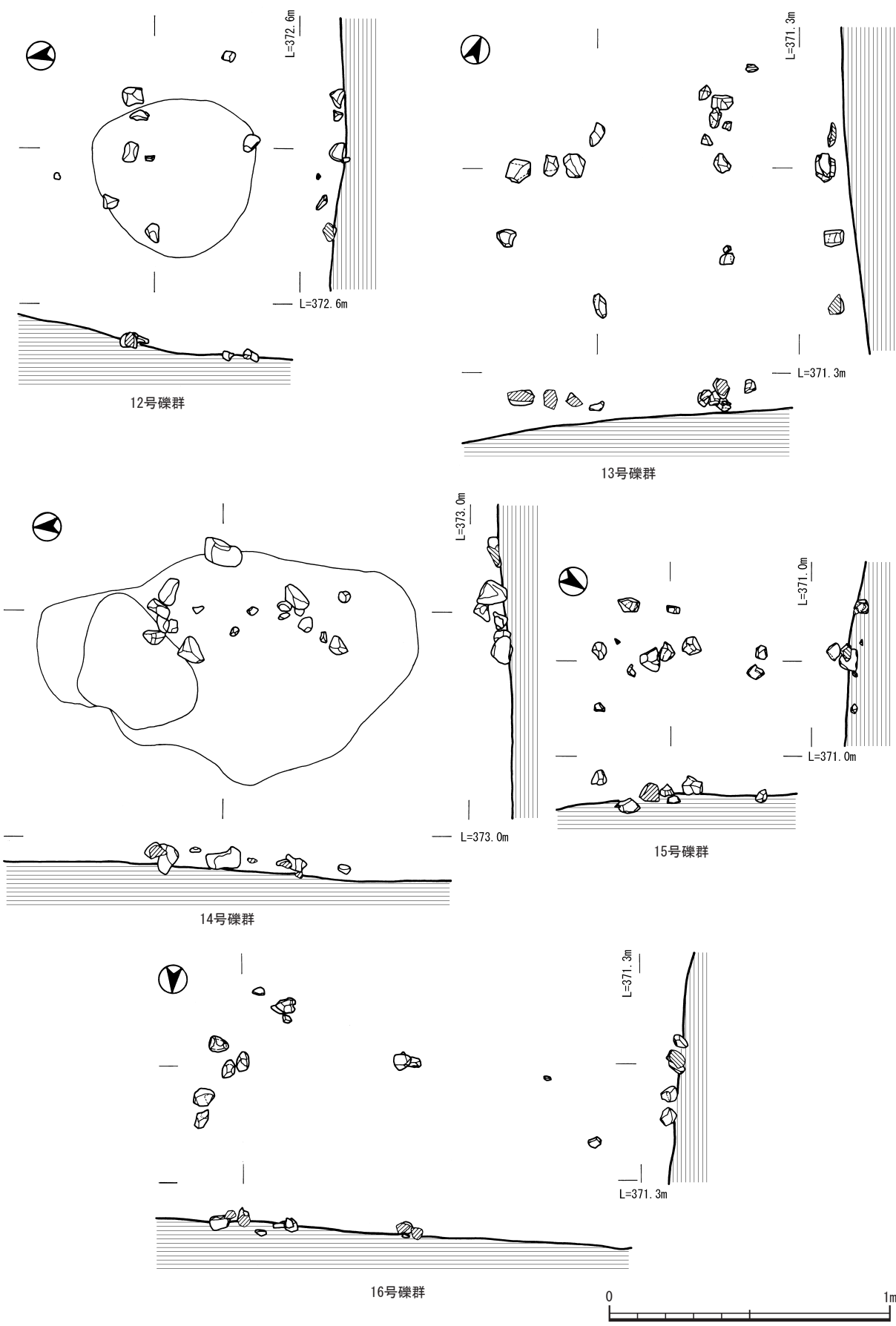
12号礫群(第33図)

G-9区で検出し, 第8エリアに含まれる。安山岩, 砂岩を使用し, 小型の礫が多い。礫は被熱により赤化している。特に安山岩の被熱の度合いが大きく脆く崩れやすくなっている。周辺に炭化物粒の分布がみられるが, 焼土跡を検出するには至っていない。やや南側に傾斜をもって礫が残る。検証するに至っていないが, 礫の残存状況から皿状の掘り込みが存在した可能性がある。
(礫群Ⅲ類)

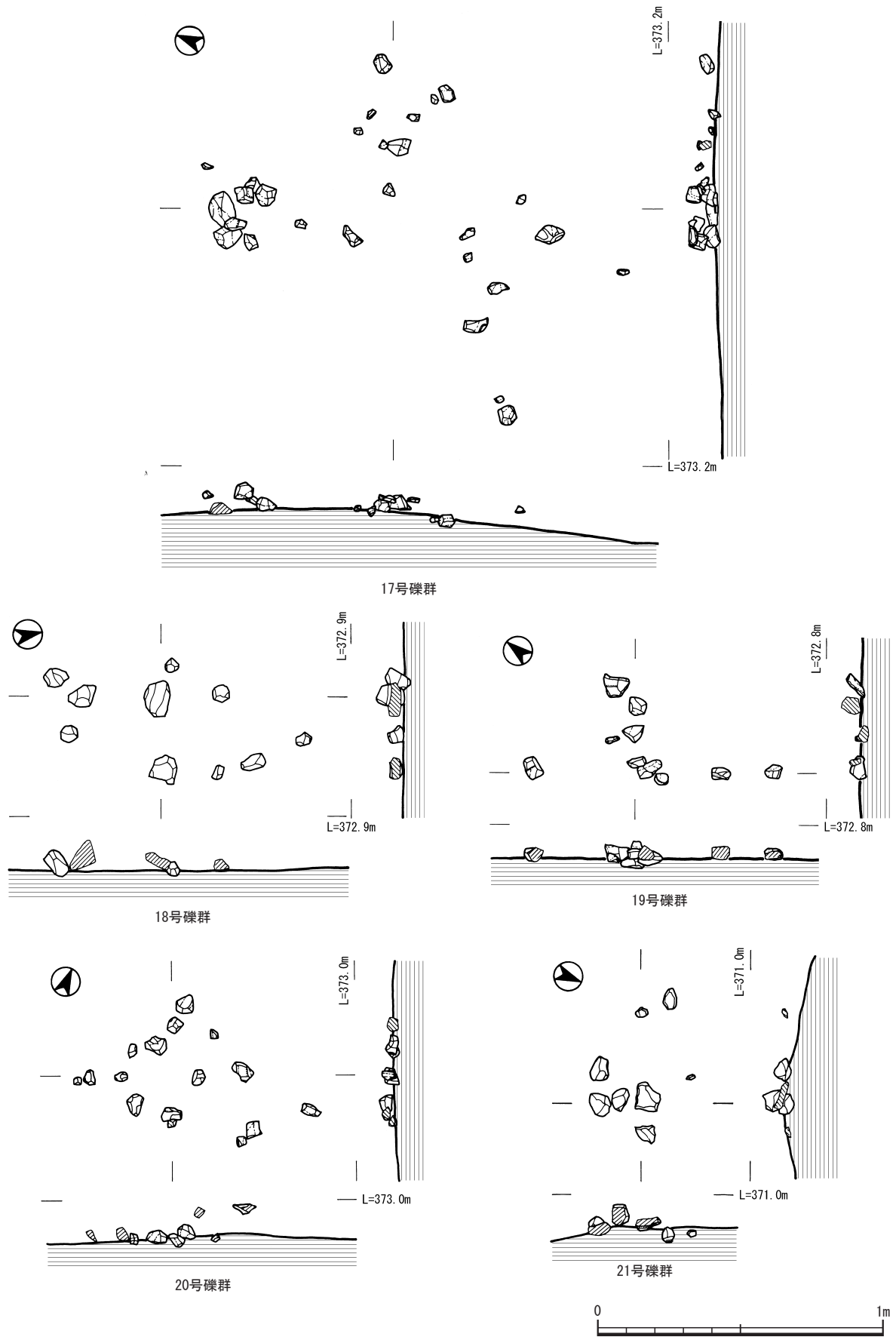


第32図 第Ⅱ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(4)





第33图 第Ⅱ文化層遺構実測图(4)



第34図 第Ⅱ文化層遺構実測図(5)

13号礫群 (第33図)

G-14区で検出し、第16エリアと接触する位置にある。全体的に硬質の石材を使用している。礫の絶対数は多くないが、中型礫が南西側、小型の礫が北東側と分布域が分かれる傾向にある。一部の礫には被熱による赤化がみられる。掘り込み等は確認していない。

(礫群Ⅲ類)

14号礫群 (第33図)

F-11区で検出し、第9エリアに接する。砂岩を使用し、若干安山岩が混ざる。中型の礫が多く、一部熱破砕した小礫が混ざる。礫の分布は大きく2ヶ所に分かれる。北側の礫のまとまりは被熱により赤化、黒変している。さらに北よりに、炭化物粒の集中がみられ、そこから南側に炭化物粒の散らばりがみられる。わずかに南側に傾斜して礫が残る。

(礫群Ⅲ類)

15号礫群 (第33図)

G-12区で検出し第13エリア第43ブロック内にあり、同ブロックには21号礫群もある。砂岩を使用し、小型の礫が多い。中でも大きな部類の礫には、被熱による赤化、黒変がみられる。被熱により熱破砕した小礫も混ざる。隣接する21号礫群と石材が類似する。

(礫群Ⅲ類)

16号礫群 (第33図)

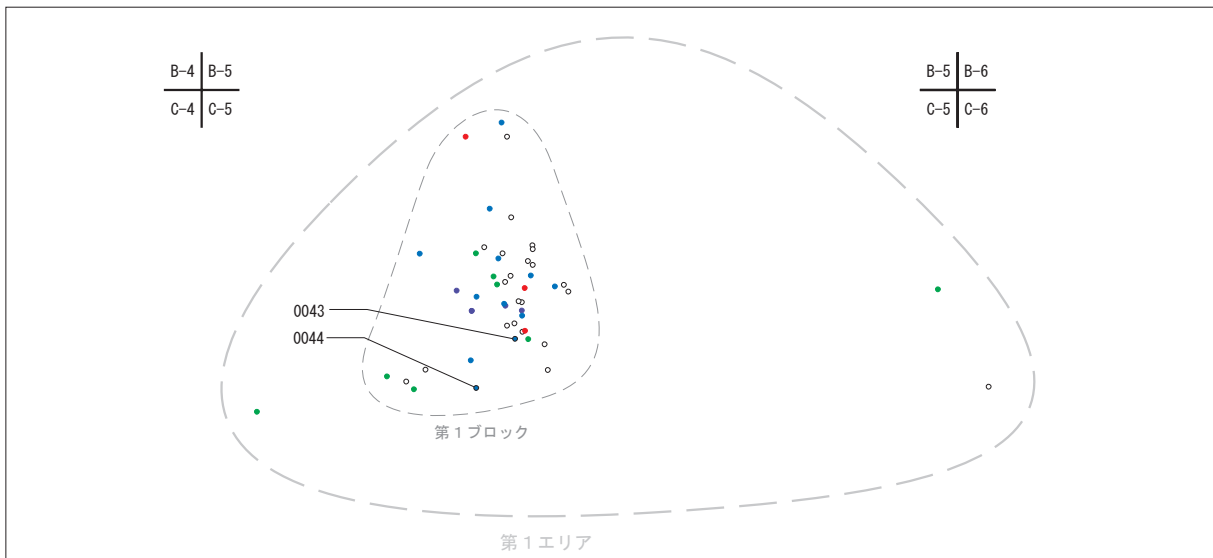
G-12区で検出し、第14エリア第46ブロック内にある。安山岩を使用し、一部堆積岩系の礫が混じる。小型の礫が多い。一部の礫は被熱により赤化している。わずかに南西側に傾斜して礫が残る。

(礫群Ⅲ類)

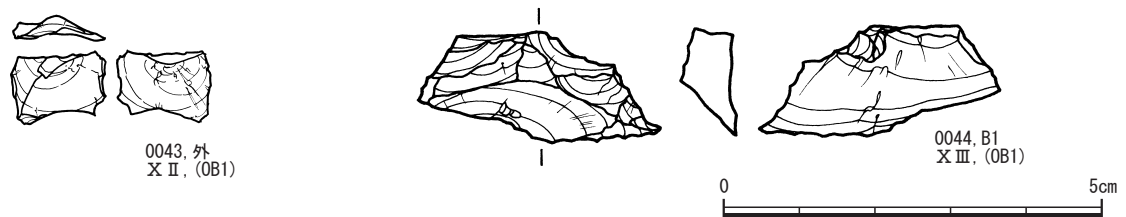
17号礫群 (第34図)

F-10区で検出し、第9エリア第22ブロック内の北端にある。中型の砂岩を使用し、小形の安山岩が混ざる。中心部付近にわずかに炭化物粒がみられるが、礫に被熱の様子はほとんどうかがえない。

(礫群Ⅲ類)



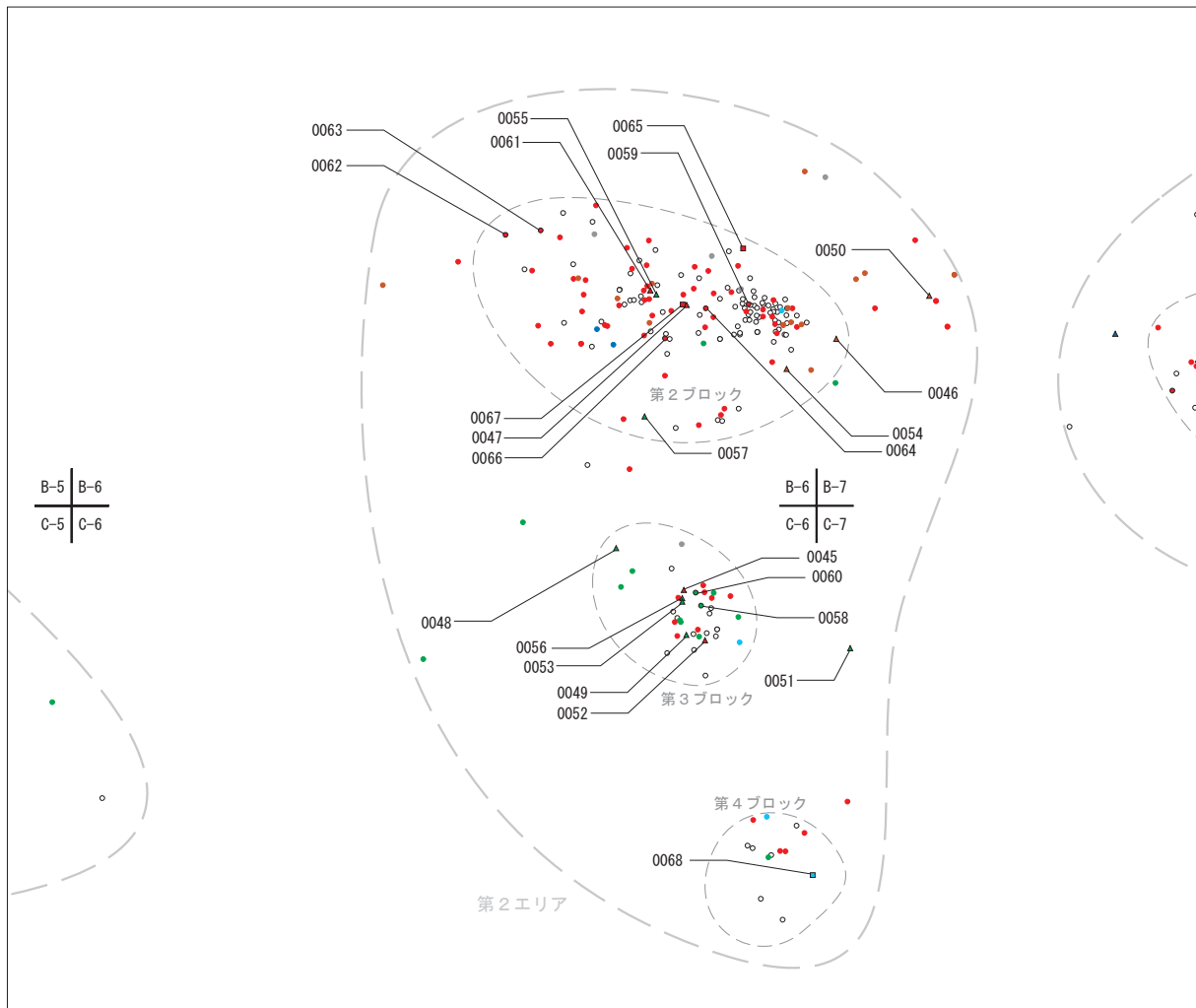
第35図 第Ⅱ文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図



第36図 第Ⅱ文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図

第6表 第Ⅱ文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
36	0043	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U1	A1	外	OB1	-	9.8	12.7	2.4	0.26	23794	X II	C-5	-
	0044	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U1	A1	B1	OB1	-	14.9	32.3	7.0	2.25	23804	X III	C-5	-



第37図 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア遺物出土状況図

18号礫群 (第34図)

F-10区で検出し、第9エリア第23ブロックの南端にある。砂岩を使用し、大型礫から小型礫が混在する。一部の礫は被熱により赤化している。礫群の東北寄りにわずかに炭化物粒がみられる。

(礫群Ⅲ類)

19号礫群 (第34図)

F-10区で検出し、第10エリア第28ブロック内にあり、18号礫群と近い位置にある。火成岩系の礫を使用し、小型の礫が多い。礫形状は角礫であるが摩滅している。ほとんどの礫が被熱により赤化している。

(礫群Ⅲ類)

20号礫群 (第34図)

F-10区で検出し、第9エリア第21ブロックの東端にある。砂岩と安山岩を使用し、小型の礫が多い。中心付近の礫は被熱により赤化がみられる。炭化物粒もわずかにみられる。

(礫群Ⅲ類)

21号礫群 (第34図)

G-12区で検出し、第13エリア第43ブロック内にあり、同ブロックには15号礫群がある。砂岩を使用し、中型の礫が多い。礫は全体的に被熱により赤化、黒変がみられる。一部熱破砕による小礫も混ざる。

(礫群Ⅲ類)

3 遺物

第Ⅱ文化層ではXⅢ層から出土した遺物を中心に取り扱った。

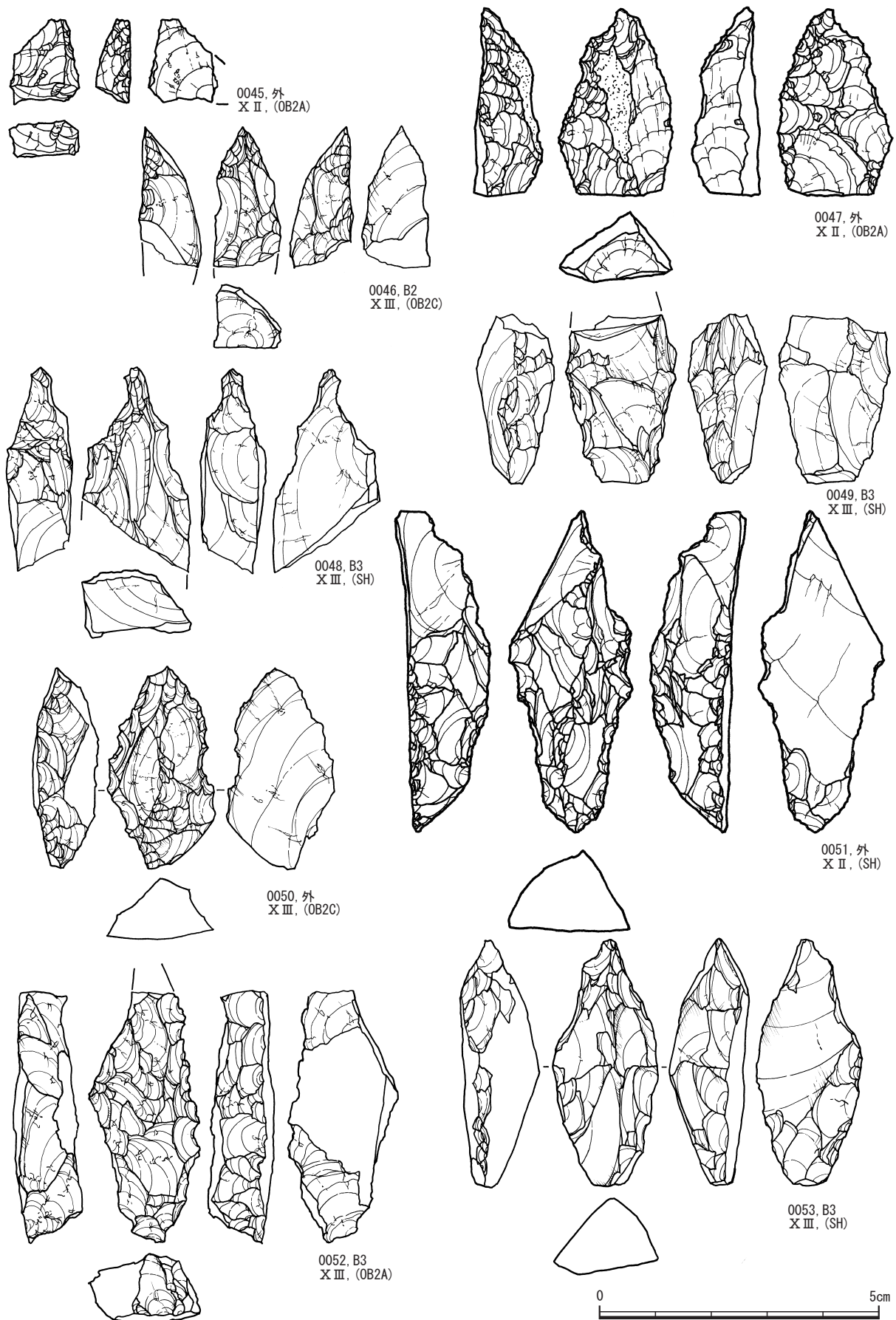
第Ⅱ文化層のユニット配置と出土状況の概要は、第25図を参照されたい。

第1ユニット

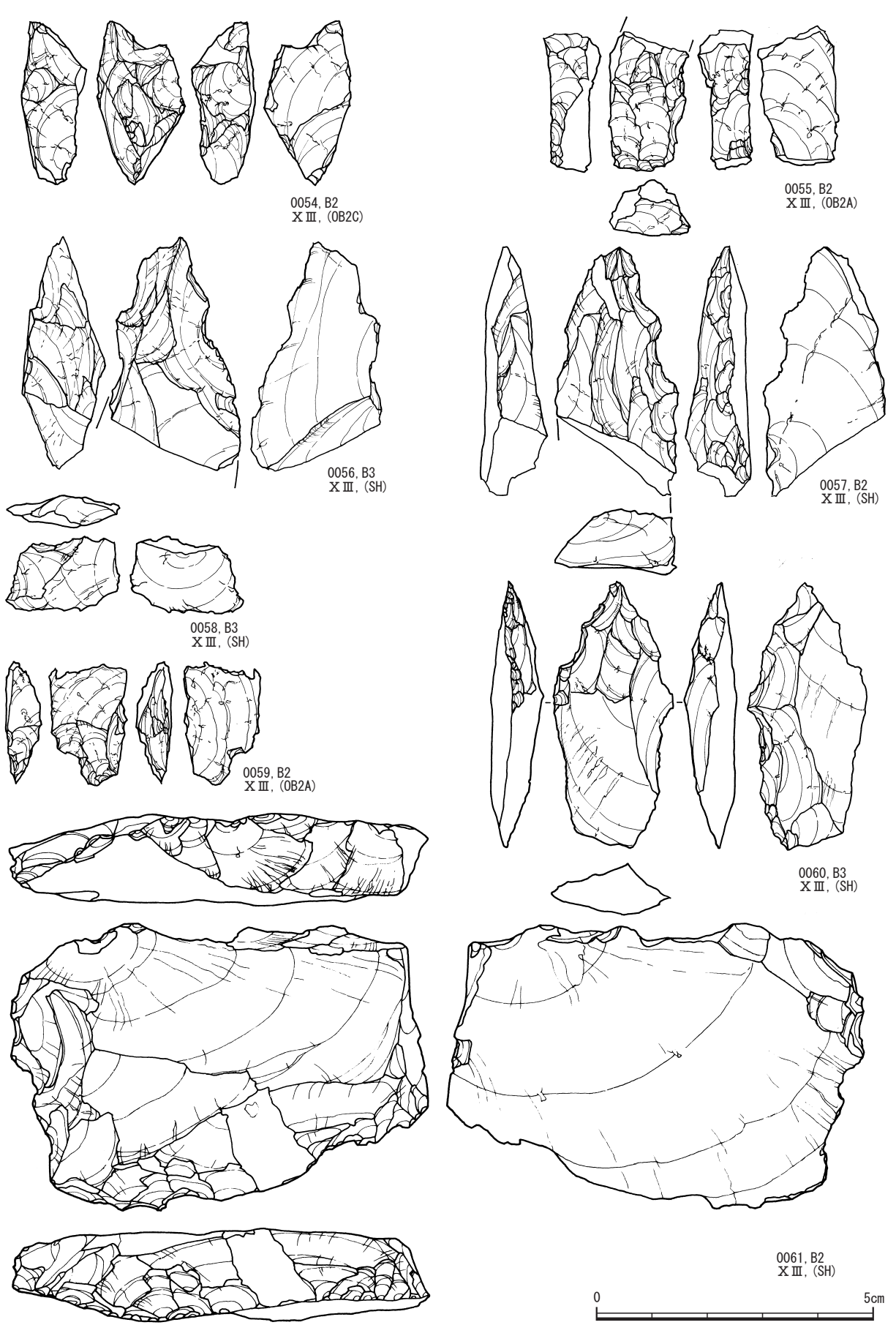
第1エリア (第35図, 第36図)

C-5区にあり、黒曜石Ⅰ類、黒曜石Ⅱ-A類、安山岩、頁岩の4種の石材で構成する。

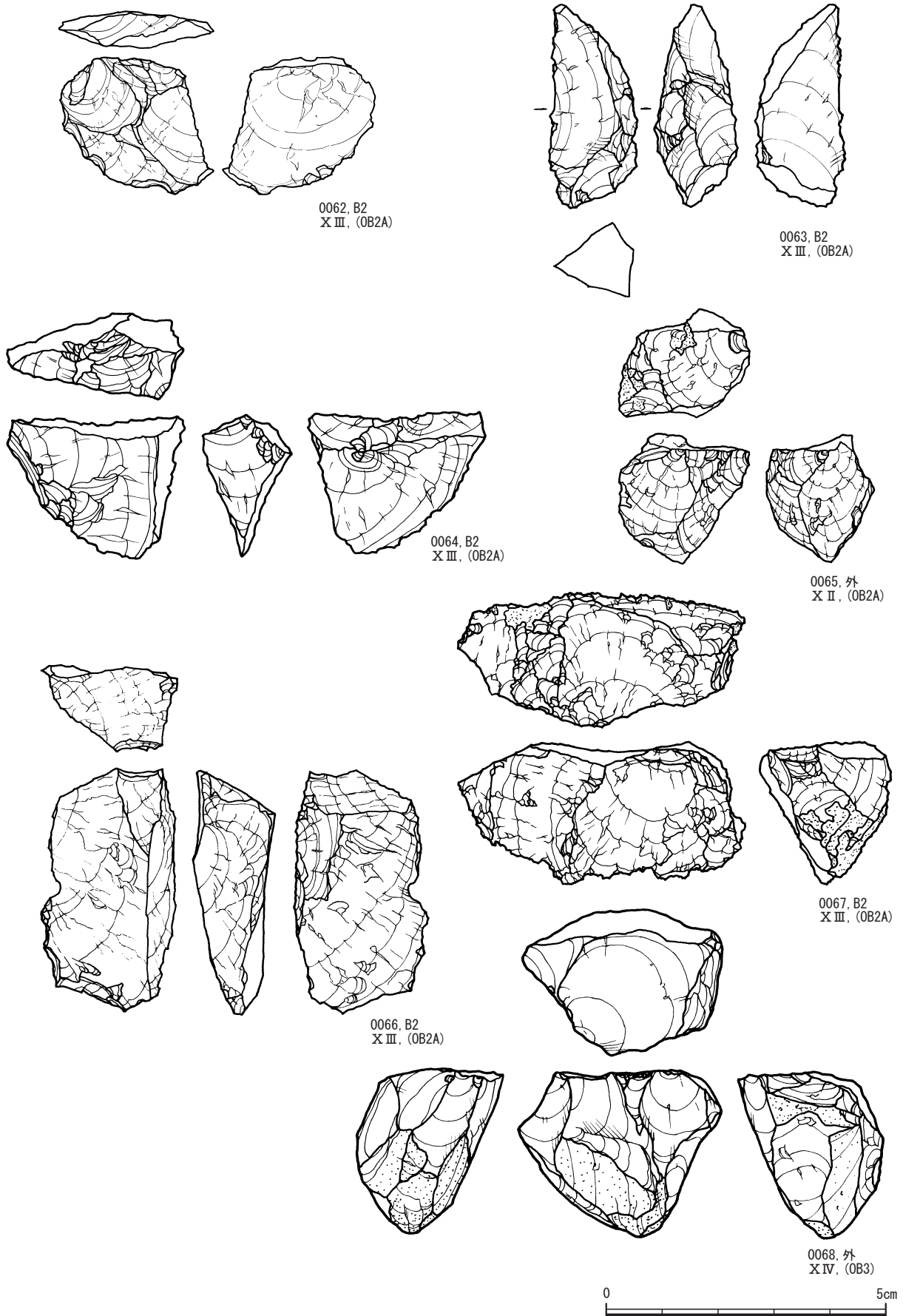
主にブランディングチップ(0043, 0044)やチップからなり、定型の石器は確認されない。



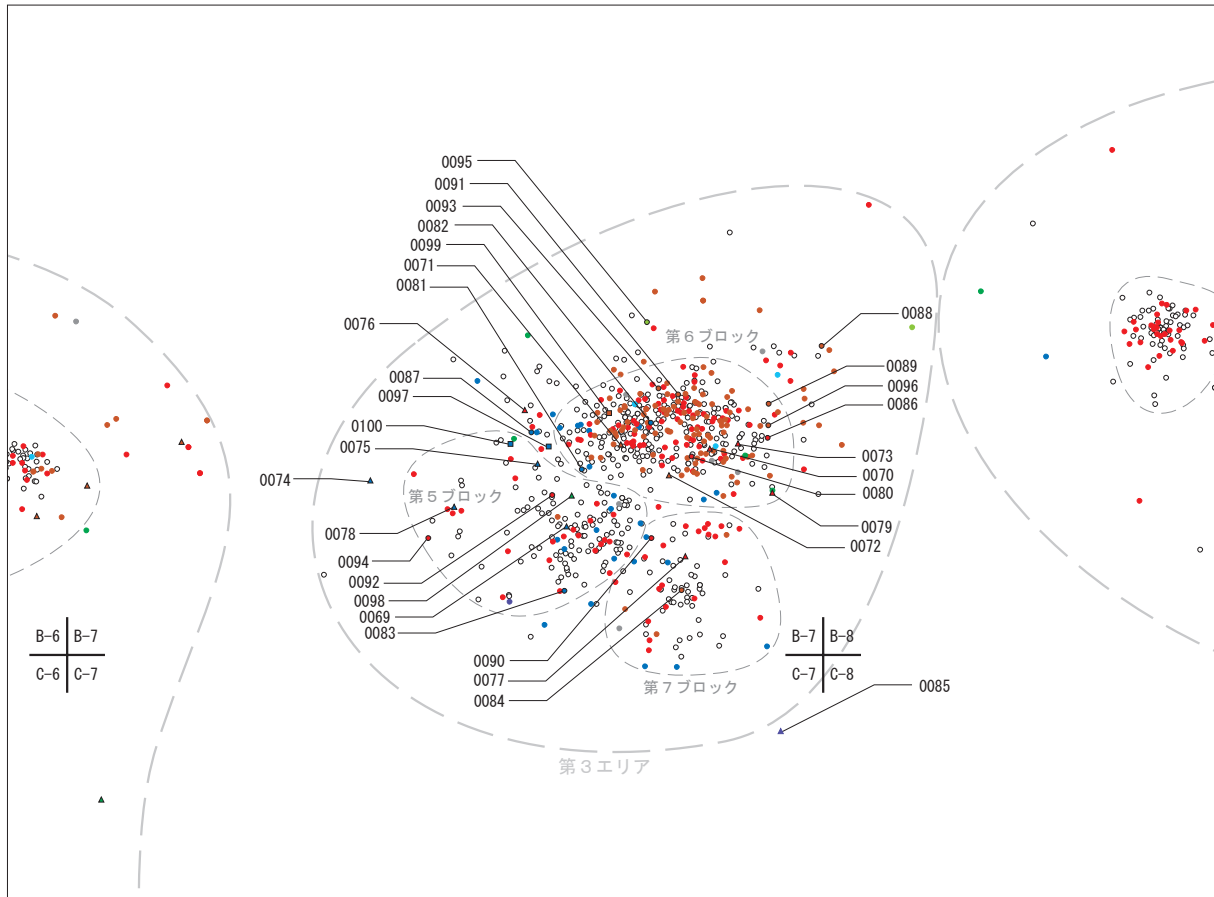
第38図 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(1)



第39図 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(2)



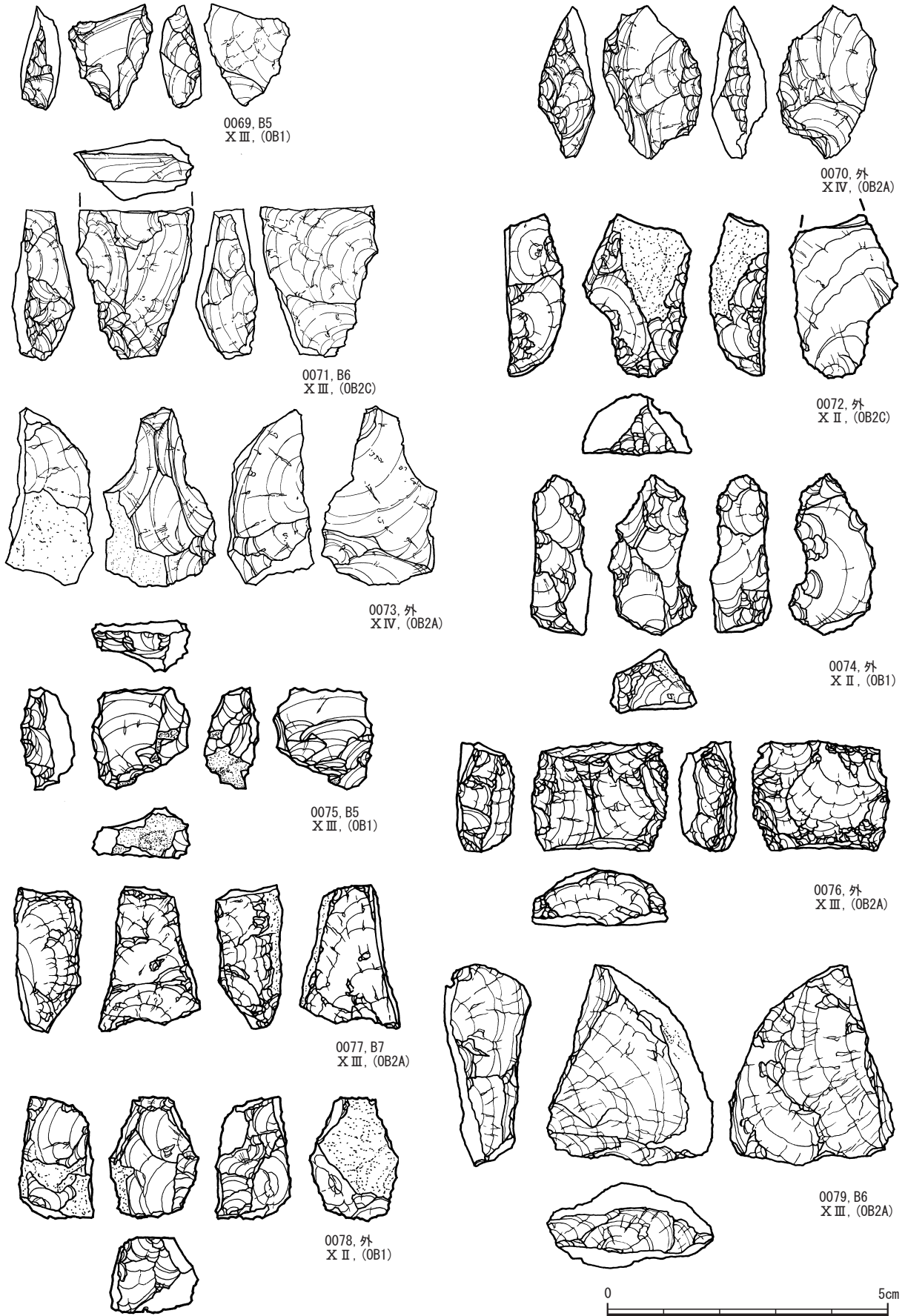
第40図 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(3)



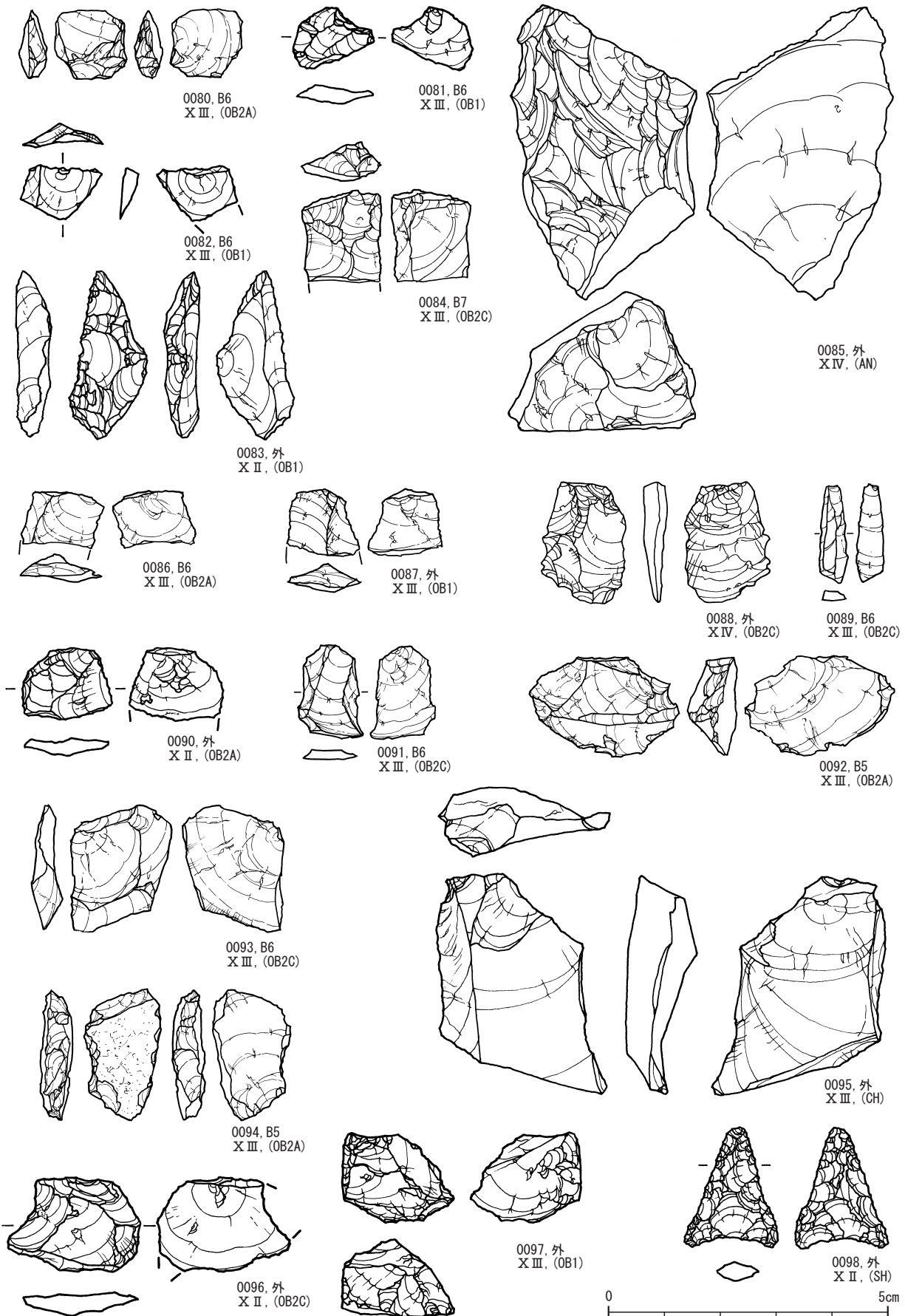
第41図 第Ⅱ文化層第1ユニット第3エリア遺物出土状況図

第7表 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア出土石器観察表

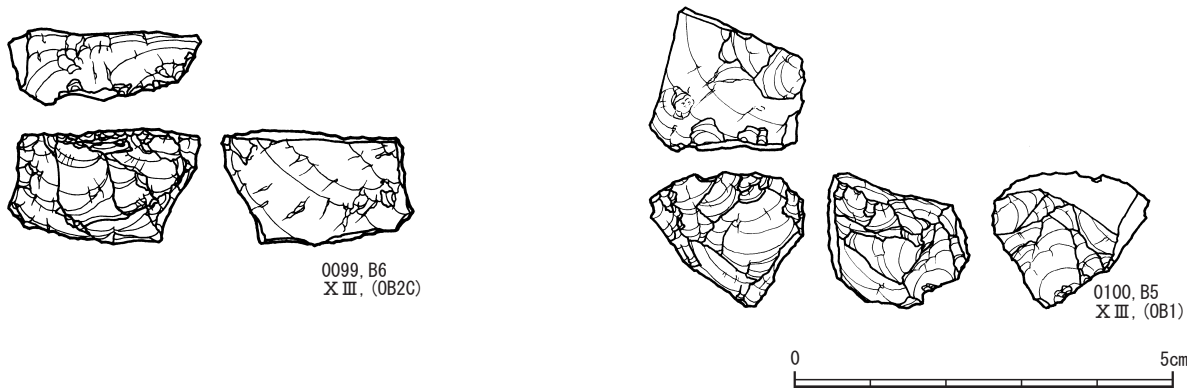
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
38	0045	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U1	A2	外	OB2	A	(15.5)	(12.7)	(6.0)	(0.98)	23760	XⅡ	C-6	-
	0046	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	C	(25.2)	(12.2)	(12.0)	(2.09)	24257	XⅢ	B-7	-
	0047	石器	尖頭状石器	-	Ⅱ	U1	A2	外	OB2	A	33.7	20.7	14.4	6.31	23574	XⅡ	B-6	-
	0048	石器	錐状石器	-	Ⅱ	U1	A2	B3	SH	-	(36.7)	(19.5)	(12.0)	(6.09)	24317	XⅢ	C-6	-
	0049	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	B3	SH	-	(30.3)	(20.0)	(14.1)	(8.03)	24466	XⅢ	C-6	-
	0050	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	外	OB2	C	36.2	19.5	12.1	6.60	24255	XⅢ	B-7	-
	0051	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	外	SH	-	57.7	22.4	17.5	14.50	23489	XⅡ	C-7	-
	0052	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	B3	OB2	A	(44.8)	(20.0)	(12.5)	(9.77)	24319	XⅢ	C-6	56
	0053	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	B3	SH	-	44.3	19.1	12.5	8.97	24312	XⅢ	C-6	-
39	0054	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	C	29.6	16.1	11.0	4.12	24023	XⅢ	B-6	-
	0055	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	(25.3)	(14.6)	(8.8)	(3.59)	24295	XⅢ	B-6	-
	0056	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	B3	SH	-	(42.1)	(23.8)	(15.0)	(8.61)	23528	XⅢ	C-6	60
	0057	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A2	B2	SH	-	(44.8)	(22.5)	(10.4)	(8.79)	24302	XⅢ	B-6	-
	0058	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U1	A2	B3	SH	-	13.7	20.7	6.0	1.33	24460	XⅢ	C-6	60
	0059	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	22.1	14.3	6.5	1.69	24018	XⅢ	B-6	-
	0060	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U1	A2	B3	SH	-	47.9	21.9	9.4	6.18	24459	XⅢ	C-6	-
	0061	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅱ	U1	A2	B2	SH	-	51.9	75.4	15.1	73.70	24453	XⅢ	B-6	-
40	0062	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	24.5	27.6	6.2	3.35	24455	XⅢ	B-6	-
	0063	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	36.5	16.0	15.2	5.92	24454	XⅢ	B-6	49
	0064	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	25.6	32.0	14.7	7.33	24446	XⅢ	B-6	-
	0065	石核	-	-	Ⅱ	U1	A2	外	OB2	A	23.4	23.5	18.9	7.41	23582	XⅡ	B-6	-
	0066	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	43.5	24.3	14.2	10.82	23999	XⅢ	B-6	-
	0067	石核	-	-	Ⅱ	U1	A2	B2	OB2	A	25.7	51.4	24.0	23.40	24289	XⅢ	B-6	48
	0068	石核	-	-	Ⅱ	U1	A2	外	OB3	-	30.1	36.6	26.1	24.21	24900	XⅣ	C-6	-



第42図 第Ⅱ文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(1)



第43図 第Ⅱ文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(2)



第44図 第Ⅱ文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(3)

第2エリア(第37図, 第38~40図)

B, C-6, 7区, に分布し, 3つのブロックからなる。

第2ブロックは黒曜石Ⅱ-A類を主に黒曜石Ⅰ類, 第3ブロックは黒曜石Ⅱ-A類と頁岩で主体は頁岩, 第4ブロックは黒曜石Ⅱ-A類を主に黒曜石Ⅰ類の石材で構成する。

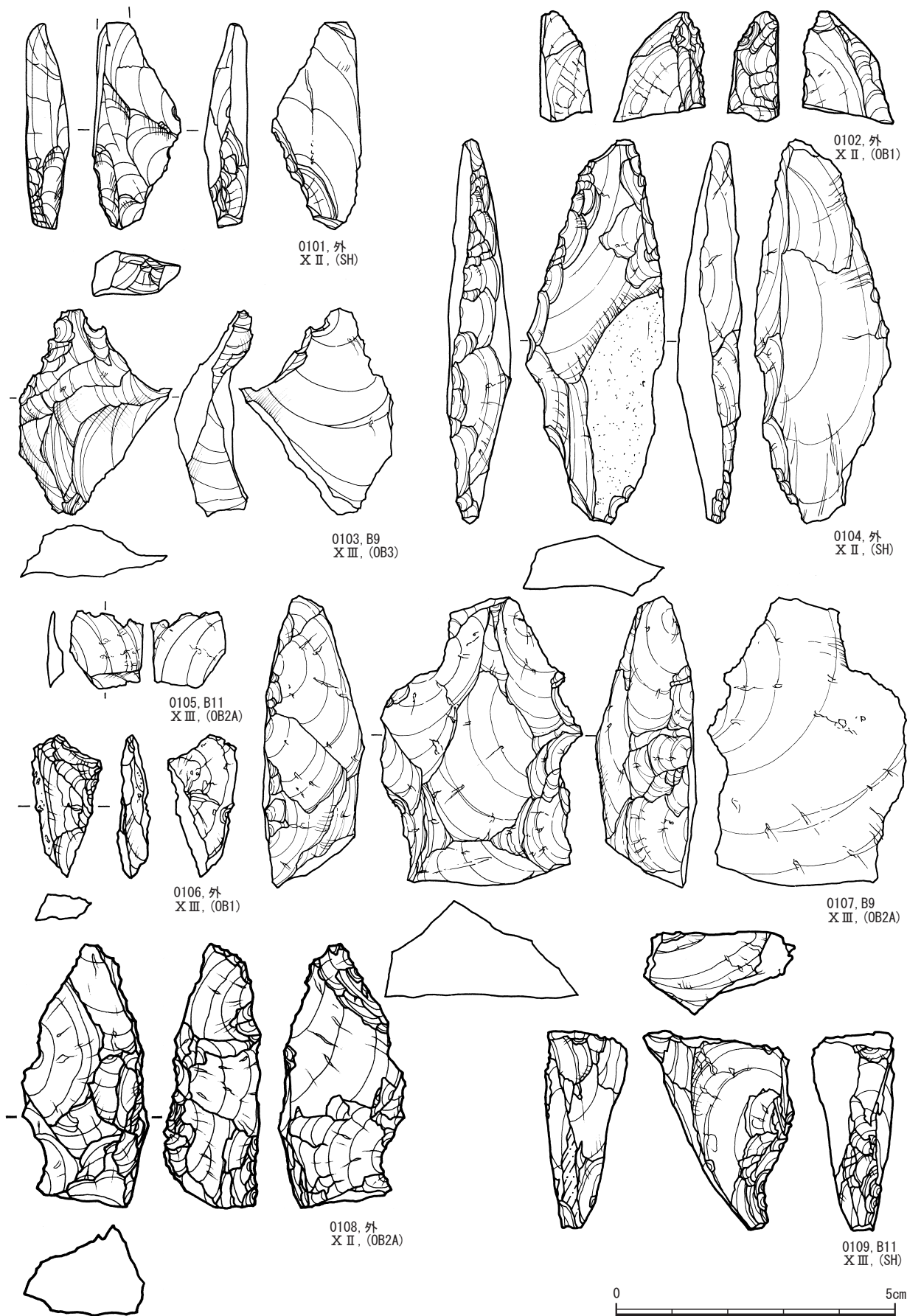
器種構成としては, ナイフ形石器1点(0045), 尖頭状石器(0047)1点, 三稜尖頭器8点(0046, 0049

~0053, 0056, 0057), 錐状石器1点(0048), 二次加工のある剥片3点(0054, 0055, 0061), 石核3点(0065, 0067, 0068)を抽出できる。

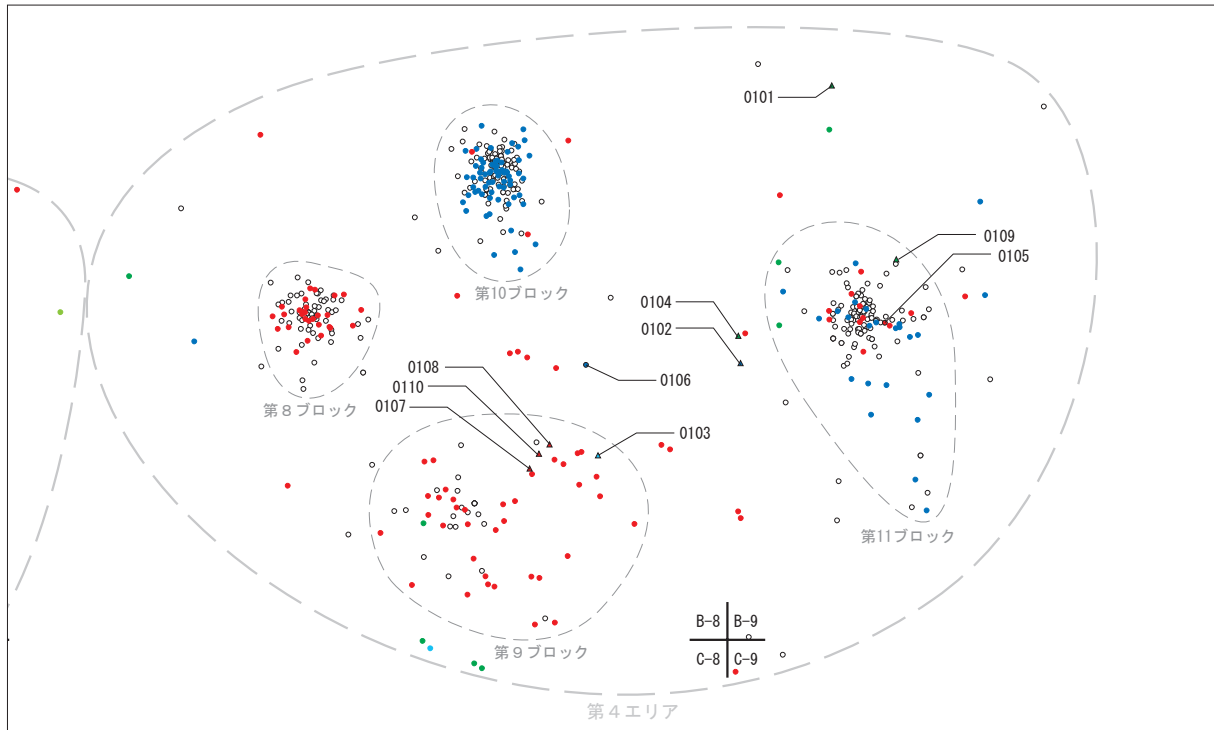
ナイフ形石器の0045は先端部破損品で, 右側縁に腹面から刃潰し加工を行っている。0047は左側縁に刃潰し加工, 腹面に平坦状剥離が認められ, 先端部の形状加工意識が高いことと尖頭器状の仕上げが看取できることから尖頭状石器として取り扱った。

第8表 第Ⅱ文化層第1ユニット第3エリア出土石器観察表

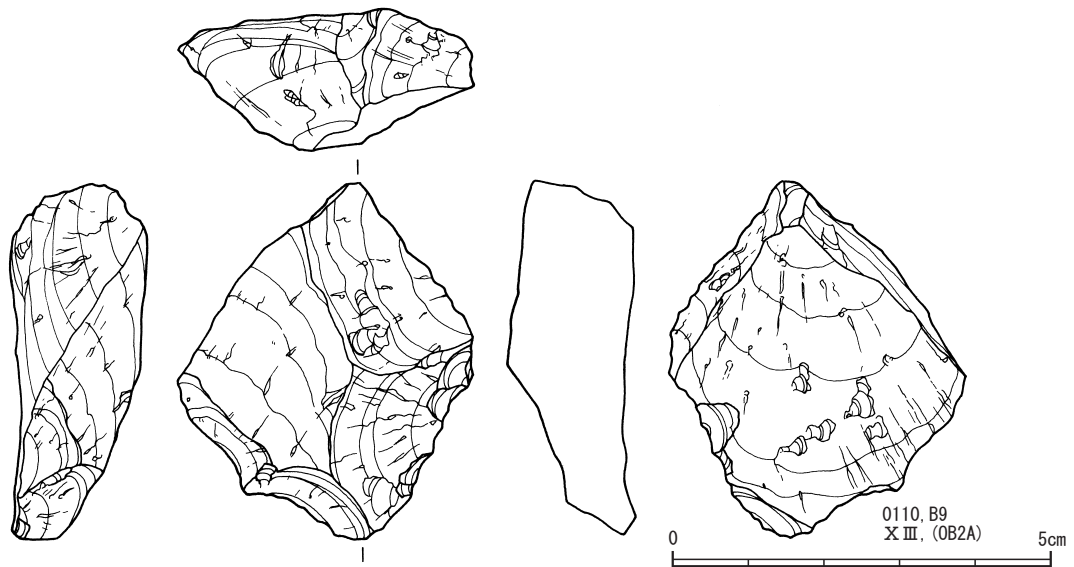
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
42	0069	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U1	A3	B5	OB1	-	18.9	15.1	7.7	1.36	24507	XⅢ	B-7	-
	0070	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	A	27.3	17.8	10.2	3.62	24813	XⅣ	B-7	-
	0071	石器	ナイフ形石器	ナイフ?	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	C	(27.1)	(21.0)	(11.0)	(5.62)	24380	XⅢ	B-7	-
	0072	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	C	(29.2)	(19.6)	(10.5)	(4.52)	23653	XⅡ	B-7	130
	0073	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	A	32.0	20.2	15.5	7.47	24809	XⅣ	B-7	-
	0074	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	Ⅱ	U1	A3	外	OB1	-	28.7	16.0	11.6	4.16	23611	XⅡ	B-7	-
	0075	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅱ	U1	A3	B5	OB1	-	18.4	17.7	9.5	2.50	23943	XⅢ	B-7	-
	0076	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	A	19.7	24.5	10.3	5.17	23941	XⅢ	B-7	-
	0077	石器	二次加工痕のある剥片	スクレイパー	Ⅱ	U1	A3	B7	OB2	A	25.9	18.3	12.0	5.65	23853	XⅢ	B-7	-
	0078	石器	二次加工痕のある剥片	残核	Ⅱ	U1	A3	外	OB1	-	22.0	16.2	13.3	4.89	23615	XⅡ	B-7	-
0079	石器	スクレイパー	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	A	36.0	29.8	15.8	12.94	23814	XⅢ	B-7	-	
43	0080	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	A	12.5	13.0	5.2	0.68	24082	XⅢ	B-7	-
	0081	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB1	-	11.1	14.7	3.8	0.38	24616	XⅢ	B-7	-
	0082	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB1	-	(10.0)	(14.8)	(3.3)	(0.26)	24603	XⅢ	B-7	-
	0083	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB1	-	30.2	14.2	6.6	1.73	23625	XⅡ	B-7	-
	0084	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U1	A3	B7	OB2	C	(16.6)	(14.4)	(7.2)	(1.40)	24510	XⅢ	B-7	-
	0085	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A3	外	AN	-	52.8	33.4	25.0	38.81	24945	XⅣ	C-7	-
	0086	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	A	(10.3)	(15.0)	(5.6)	(0.47)	23819	XⅢ	B-7	-
	0087	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB1	-	(12.2)	(13.1)	(4.9)	(0.69)	24161	XⅢ	B-7	-
	0088	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	C	21.8	15.3	5.0	1.04	24946	XⅣ	B-7	-
	0089	チップ	-	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	C	17.6	5.4	2.2	0.19	24061	XⅢ	B-7	-
	0090	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	A	(13.1)	(16.4)	(3.3)	(0.72)	23862	XⅡ	B-7	-
	0091	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	C	16.8	11.9	2.0	0.41	24484	XⅢ	B-7	-
	0092	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A3	B5	OB2	A	18.0	27.0	9.0	3.28	24401	XⅢ	B-7	-
	0093	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	C	22.7	18.3	5.5	1.72	24106	XⅢ	B-7	-
	0094	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A3	B5	OB2	A	23.5	14.0	6.1	1.89	24177	XⅢ	B-7	-
	0095	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U1	A3	外	CH	-	39.6	30.7	12.6	10.80	23833	XⅢ	B-7	-
	0096	剥片	-	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB2	C	(17.2)	(24.0)	(4.6)	(1.57)	23670	XⅡ	B-7	-
	0097	石核	残核	-	Ⅱ	U1	A3	外	OB1	-	16.3	20.2	14.1	4.17	23932	XⅢ	B-7	-
0098	石器	石鏃	-	Ⅱ	U1	A3	外	SH	-	21.8	17.0	3.0	0.79	23678	XⅡ	B-7	-	
44	0099	石核	残核	-	Ⅱ	U1	A3	B6	OB2	C	15.5	25.5	10.3	3.56	24389	XⅢ	B-7	-
	0100	石核	-	-	Ⅱ	U1	A3	B5	OB1	-	18.0	20.6	19.0	4.88	24163	XⅢ	B-7	-



第45図 第Ⅱ文化層第1ユニット第4エリア出土石器実測図(1)



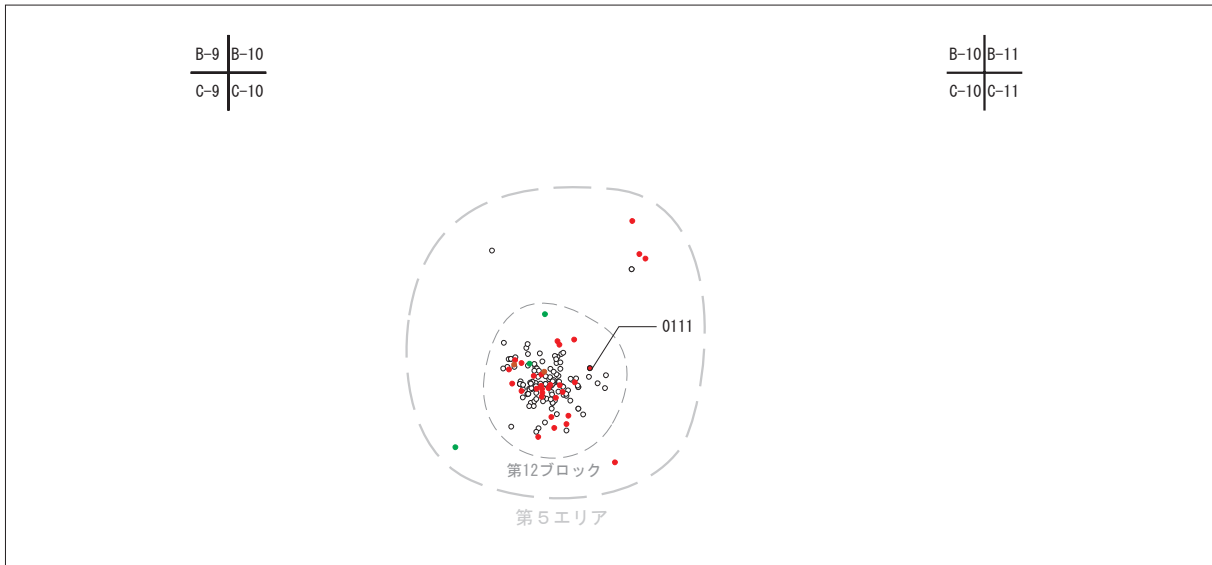
第46図 第Ⅱ文化層第1ユニット第4エリア遺物出土状況図



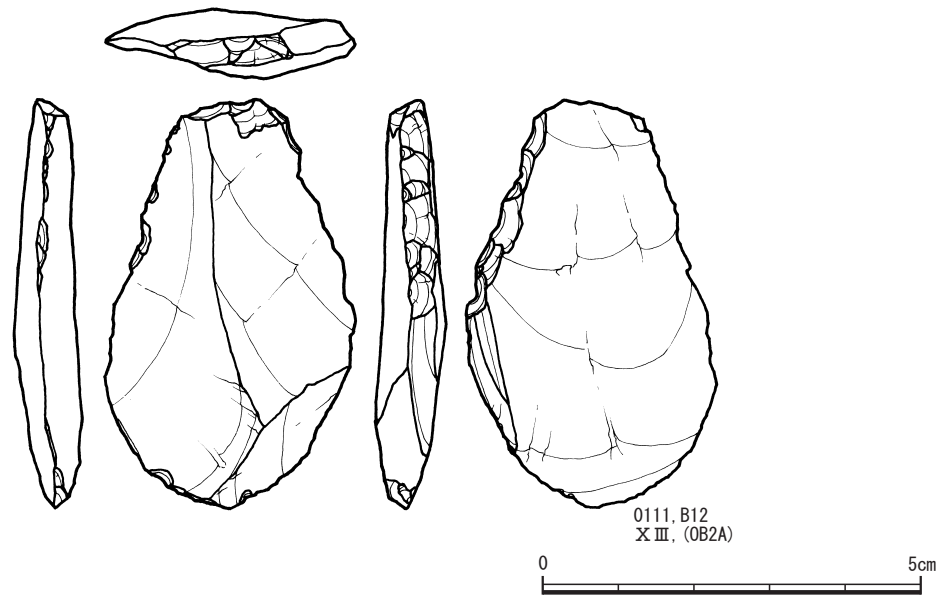
第47図 第Ⅱ文化層第1ユニット第4エリア出土石器実測図(2)

第9表 第Ⅱ文化層第1ユニット第4エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
45	0101	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U1	A4	外	SH	-	(37.2)	(16.1)	(7.3)	(4.14)	6141	XⅡ	B-9	-
	0102	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U1	A4	外	OB1	-	19.7	16.7	8.7	2.34	5910	XⅡ	B-9	-
	0103	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A4	B9	OB3	-	36.9	27.5	13.5	6.64	6418	XⅢ	B-8	-
	0104	石器	尖頭状石器	-	Ⅱ	U1	A4	外	SH	-	69.0	25.0	10.8	16.03	5909	XⅡ	B-9	-
	0105	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U1	A4	B11	OB2	A	14.1	13.3	3.0	0.52	6178	XⅢ	B-9	-
	0106	剥片	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U1	A4	外	OB1	-	25.6	12.8	5.2	1.36	6285	XⅢ	B-8	-
	0107	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A4	B9	OB2	A	51.8	36.3	17.8	29.07	6411	XⅢ	B-8	-
	0108	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U1	A4	外	OB2	A	47.6	23.0	15.4	15.18	6424	XⅡ	B-8	-
	0109	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A4	B11	SH	-	35.8	27.2	15.1	9.48	6159	XⅢ	B-9	-
47	0110	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U1	A4	B9	OB2	A	47.2	39.2	17.5	25.55	6422	XⅢ	B-8	-



第48図 第Ⅱ文化層第2ユニット第5エリア遺物出土状況図



第49図 第Ⅱ文化層第2ユニット第5エリア出土石器実測図

三稜尖頭器の0053の側縁加工は右側縁に集中し、左側縁の形状を大きく変えていない。先端部は意識的な仕上がりが見られ、腹面の基部調整は丁寧と言える。0046は鋭利な仕上がりの先端部、0056、0057も先端部と判断したが、調整加工が一方に偏る傾向が認められる。

0050の稜上からの調整剥離は、両面とも最終段階で実施し、石器の厚みを減じる目的と思われる。なお、石器自体は完成品とみられる。0051は、先端部両側縁の大剥離は稜上からの調整剥離で、特に中央部周辺の稜上剥離は石器の厚みを減じている。器種の判断は、基部周辺の稜上剥離とさらに腹面調整も認められることから、三稜

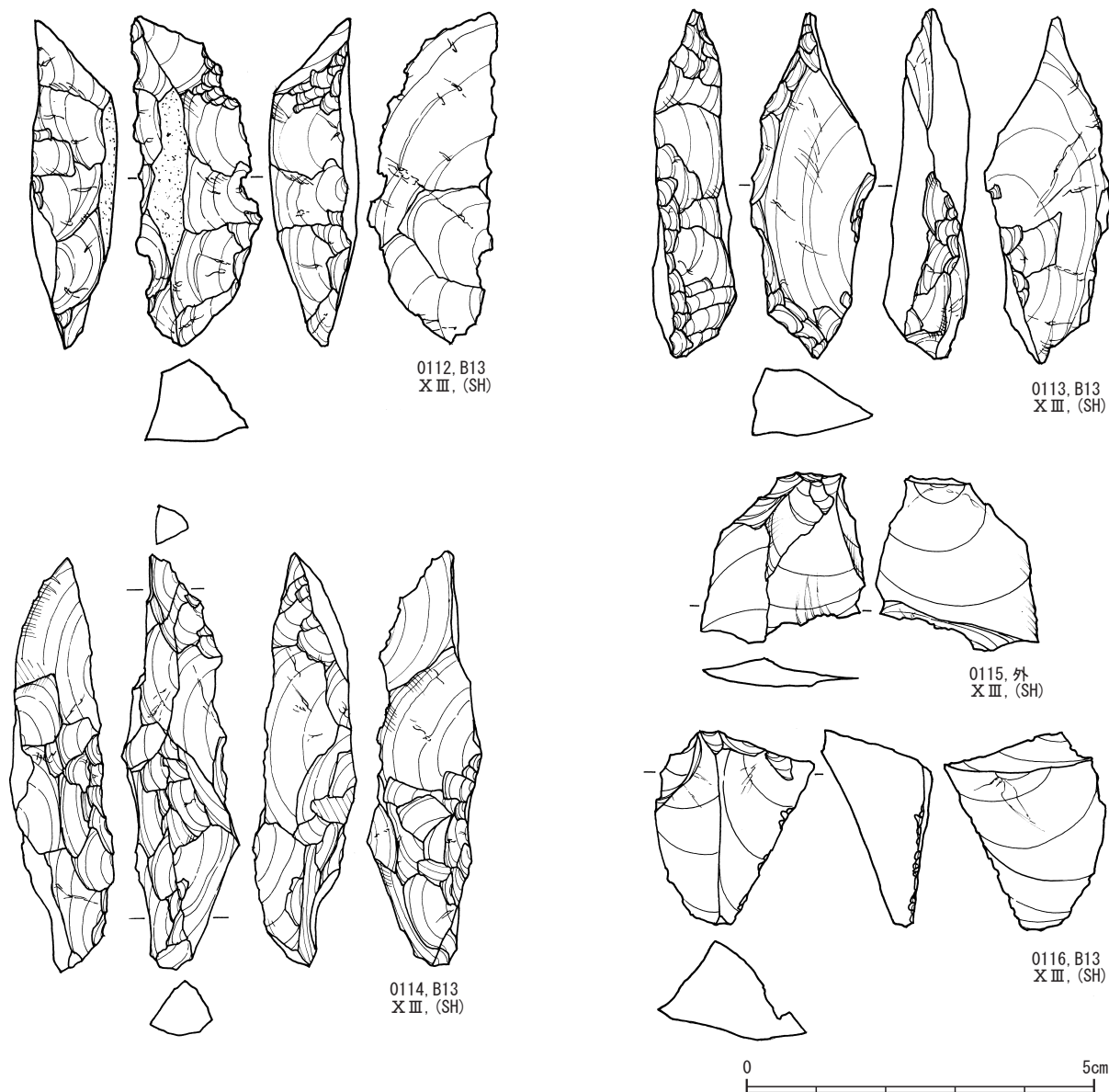
尖頭器とした。0052の中央部付近の稜上剥離も同様に厚みを減じている。0049は背面に平坦面を持つが、三稜尖頭器の基部と判断したもので、側縁加工、基部腹面加工が認められる。

0048の先端部は腹面からの剥離と背面からの微細な調整剥離で、特に強調されることから、錐状石器と判断した。二次加工のある剥片の0061は剥片の4面に刃潰し状の加工痕が認められるが、その用途についてはスクレイパー様の想定をしている。なお、下端図の白抜き部分は剥落面である。

0060については、三稜尖頭器あるいはそれに類する尖

第10表 第Ⅱ文化層第2ユニット第5エリア出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
49	0111	剥片	-	-	Ⅱ	U2	A5	B12	OB2	A	54.2	33.4	7.5	12.04	6081	XⅢ	C-10	-



第50図 第Ⅱ文化層第2ユニット第6エリア出土石器実測図

頭状石器のブランディングチップと判断している。石核とした0065は残核に近い状態とみられる。0065も含め0067と0068の石核からは、随時打点移動が行われたことが読みとれる。

この第2エリアの中心石材は黒曜石Ⅱ-A類で、黒曜石Ⅱ-A類を素材とした石器製作が行われていたと判断できる。一方、製品に関しては、頁岩を用いる比率が高く、製品の持ち込みが想定される。

第3エリア(第41図, 第42~44図)

B-7, 8区に分布し、黒曜石を主体とする3ブロックが認められる。これらの石材を中心に、特に集中する部分を第6ブロックとし、その他ブロック周辺に散在するものを含め、第3エリアとした。

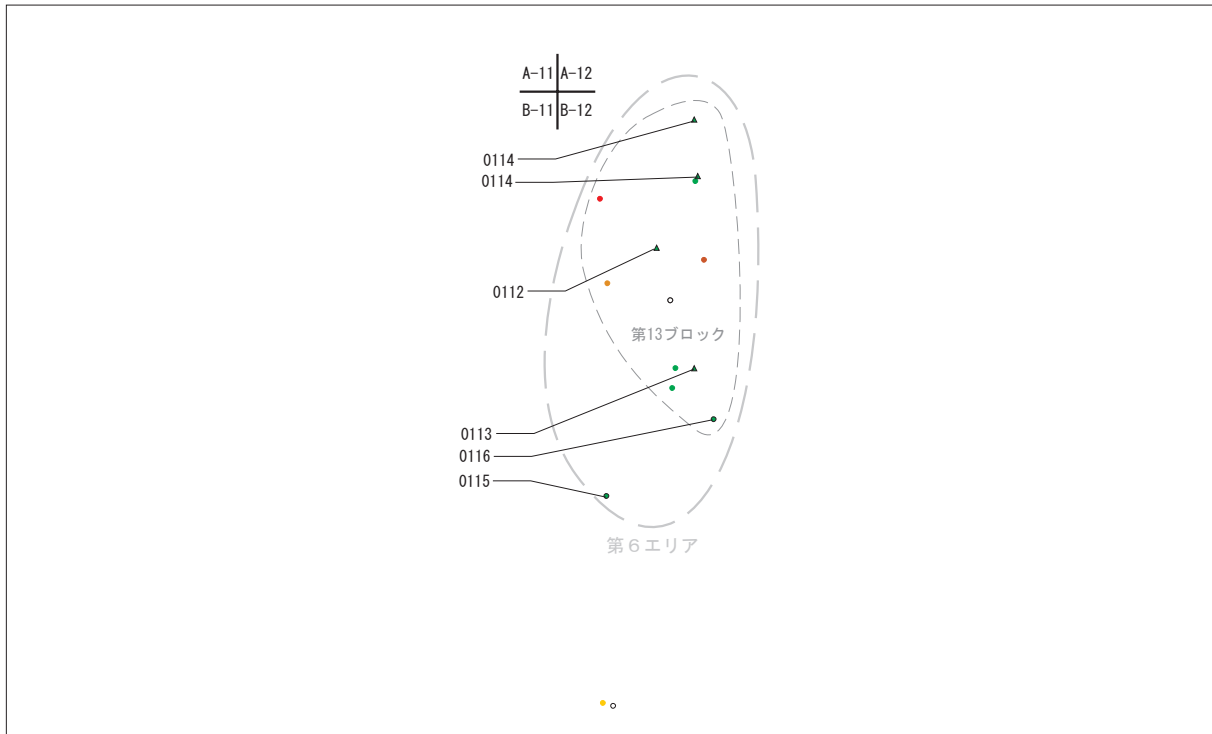
第5ブロックは黒曜石Ⅱ-A類と黒曜石Ⅰ類、第6ブ

ロックは黒曜石Ⅱ-C類を主体に黒曜石Ⅱ-A類、黒曜石Ⅰ類、黒曜石Ⅱ-B類、黒曜石Ⅲ類、頁岩で、第7ブロックは黒曜石Ⅱ-A類を主体に黒曜石Ⅰ類と黒曜石Ⅱ-C類が3点ずつ加わる。

4点のナイフ形石器(0069~0072)と三稜尖頭器1点(0073)、二次加工のある剥片6点(0074~0078, 0085)、スクレイパー1点(0079)と石鏃1点(0098)等を確認できる。

ナイフ形石器の0069は稜の高い剥片を素材に、両側縁に刃潰し加工を行い、刃部を直刃に仕上げている。0070では、両側縁と底面一部の3面に刃潰し加工が認められる。0071の左側縁の刃潰し加工は明瞭であるが、右側縁は分割面の可能性もある。

二次加工のある剥片の0075の腹面は打瘤の除去が、左側縁には明瞭な刃潰し加工が認められ、先端部が欠落し



第51図 第Ⅱ文化層第2ユニット第6エリア遺物出土状況図

たと想定されるが、欠落想定面に微細な剥離痕が観察できることから再利用と判断している。0076の打瘤も除去が実施され、先端部が欠落したと判断した

三稜尖頭器の0073は、製作の早い段階で破損したとみられる。同時に、素材剥片の復元に繋がる可能性を秘めている。

0079は下端部に二次加工が見られ、スクレイパー的要素がある。また、0074は打瘤の除去を行い、三稜尖頭器の破損品ないしは側縁部がスクレイパー状の刃部として機能した可能性もある。

0100は小型の石核とみられるが、0097, 0099は残核と判断した。いずれにしても、小型の剥片を求めていたはずであるが、該当する石器は抽出できない。0086, 0087は折断剥片と見られ、小型化の指向があったことは推測できる。0083は三稜尖頭器製作に伴うもので、稜上からの調整によるブランティングチップである。その他、ブランティングチップと判断できるものに、0080, 0081, 0082, 0083, 0093がある。なお、0098の石鏃は、上層からの転入と判断している。

第3エリアではチャート素材の0095以外は黒曜石を使用し、さらに、両側縁を刃潰したナイフ形石器が卓越

する特徴が指摘できる。

ブランティングチップやチップが集中し、0083のブランティングチップの存在からも三稜尖頭器等の製作を行った可能性が高い。

第4エリア(第46図, 第45図)

B-8, 9区に分布し、4つのブロックで構成する。第8, 第9ブロックは黒曜石Ⅱ-A類主体、第10ブロックは黒曜石Ⅰ類、第11ブロックは黒曜石Ⅱ-A類と黒曜石Ⅰ類に頁岩が1点混ざる。

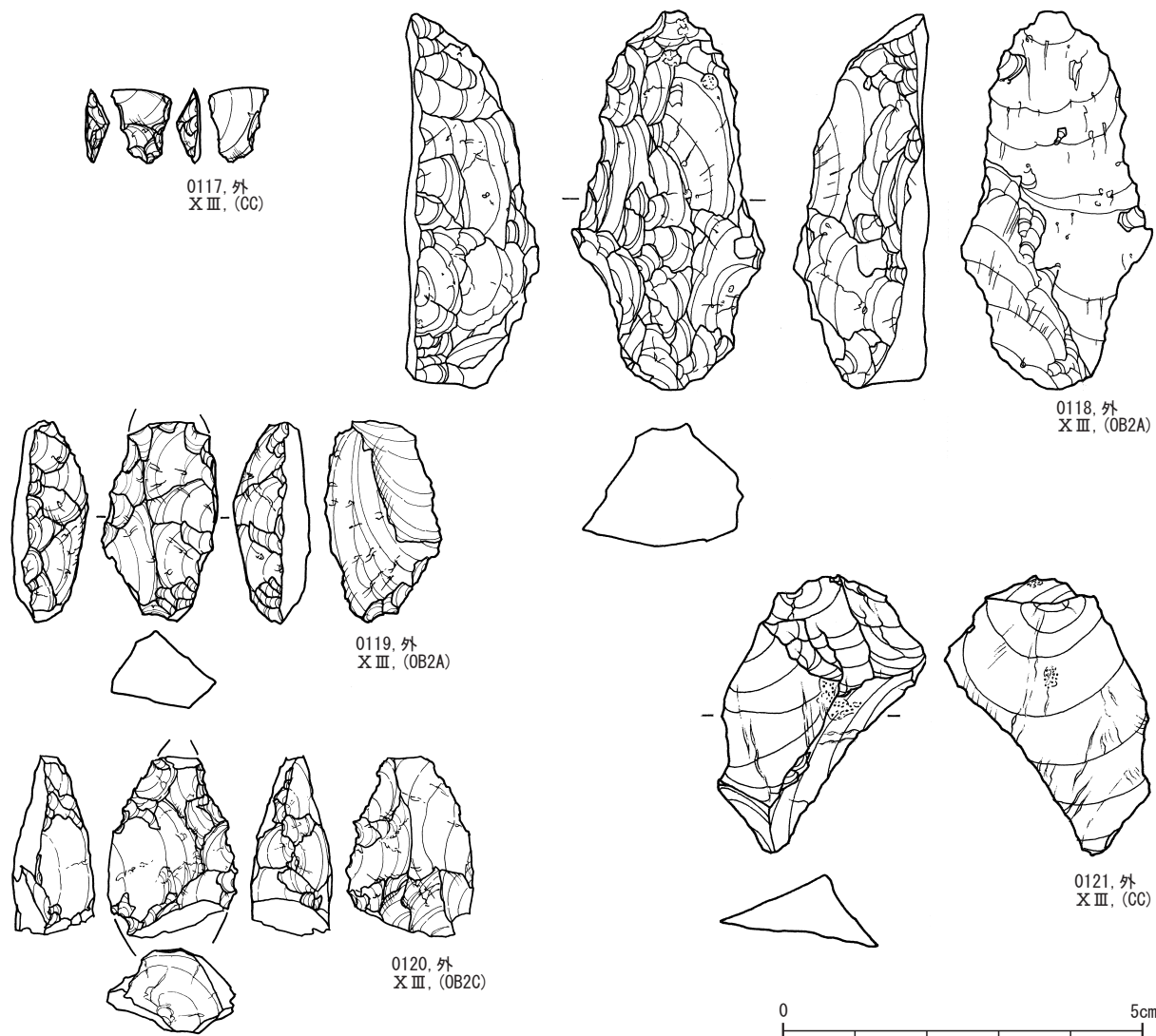
器種構成は、ナイフ形石器2点(0101, 0102)、三稜尖頭器2点(0107, 0108)、尖頭状石器1点(0104)、二次加工のある剥片3点(0103, 0109, 0110)が確認できる。

ナイフ形石器の0101は縦長剥片素材を用い、基部周辺にのみ加工が施されている。また、腹面の打瘤の除去も認められる。0102はナイフ形石器の先端部と想定でき、右側縁に入念な刃潰し加工が認められる。両面の観察からは、翼状剥片を素材とした可能性もうかがえる。

尖頭状石器の0104は扁平な剥片を素材とし、正面の左側縁は腹面から、右側縁では背面からと逆方向からの調整剥離がみられる。

第11表 第Ⅱ文化層第2ユニット第6エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
50	0112	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U2	A6	B13	SH	-	47.5	19.1	11.6	9.26	5854	XⅢ	B-12	-
	0113	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U2	A6	B13	SH	-	49.7	18.3	12.0	7.64	5860	XⅢ	B-12	-
	0114	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U2	A6	B13	SH	-	59.7	17.2	13.1	11.44	270, 271	XⅢ	B-12	-
	0115	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U2	A6	外	SH	-	24.7	23.8	5.0	2.68	5863	XⅢ	B-12	-
	0116	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U2	A6	B13	SH	-	28.1	23.0	16.0	4.28	5862	XⅢ	B-12	-



第52図 第Ⅱ文化層第2ユニットエリア外出土石器実測図

三稜尖頭器の0107は初期段階での放棄と見られ、また、天地逆の可能性もある。0108は稜上からの調整剥離を実施したもので、基部の腹面調整も確認できる。なお、0107は横広の分厚い剥片であることから、三稜尖頭器の素材剥片の可能性もある。

二次加工のある剥片はいずれも用途が明らかにできないが、0109は抉入石器、0110は削器状のスクレイパー的機能が考えられる。

0106は腹面ないし稜上からのブランティングチップで、三稜尖頭器の製作と深く関わると判断している。

第7ブロックからは石器は出土していないが、0106の

ブランティングチップは同一石材であり、石器製作が行われたことは充分理解できる。

第5エリア(第48図, 第49図)

C-10区中央部にあり、黒曜石Ⅱ-A類の集中する第12ブロックとその周辺の散布域を対象とした。

チップが主体のブロックで、剥片1点を示した。

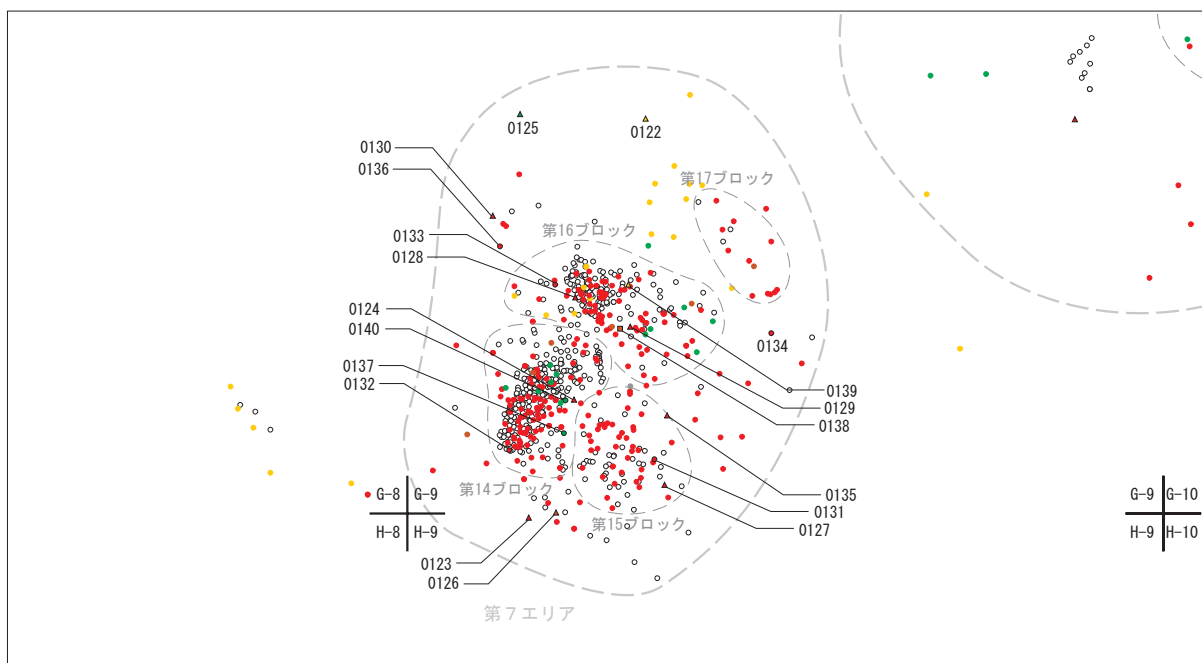
第2ユニット

第6エリア(第51図, 第50図)

B-12区にあり、頁岩を中心に黒曜石Ⅱ-A類、黒曜石

第12表 第Ⅱ文化層第2ユニットエリア外出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
52	0117	石器	ナイフ形石器	台形石器	Ⅱ	U2	外	外	CC	-	10.3	8.6	3.0	0.22	6034	XⅢ	A-10	-
	0118	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U2	外	外	OB2	A	52.9	27.0	18.5	19.71	6128	XⅢ	B-9	-
	0119	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U2	外	外	OB2	A	(27.9)	(16.4)	(10.6)	(4.05)	6201	XⅢ	C-9	-
	0120	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U2	外	外	OB2	C	(25.3)	(18.2)	(11.4)	(4.22)	23310	XⅢ	D-7	-
	0121	剥片	-	-	Ⅱ	U2	外	外	CC	-	38.7	29.0	9.2	6.47	5841	XⅢ	B-13	-



第53図 第Ⅱ文化層第3ユニット第7エリア遺物出土状況図

I類, ギョクズイが1点ずつ混在する状況で点在している第13ブロックを第6エリアとした。

3点の三稜尖頭器(0112, 0113, 0114)と折断剥片(0115), 微細剥離痕のある剥片(0116)を確認できる。

三稜尖頭器とした0112の腹面に平坦剥離が一撃見られ, 打瘤除去の可能性がある。背面中央に礫皮面を残し, 主軸はノ字状に曲がる。0113の先端部は入念な調整加工が認められ, また, 右先端部の剥離が素材剥離に先行することなどから器種認定した。0114は細身で稜の高い剥片を選択し, 腹面全体に平坦剥離手法で整形を加えている。0113は左方向に偏るが, 3点とも横長で横広の剥片を素材としている。

第6エリアで確認できる石器は, 全て頁岩を使用したものである。エリア内には黒曜石Ⅱ-A類も存在するが, 頁岩で石器製作の痕跡を示す材料は確認できない。このことから, 頁岩に関してはエリア内での石器製作は行っただとは考えられず, むしろ持ち込まれたと判断したい。

第2ユニットエリア外(第52図)

ナイフ形石器(0117)と三稜尖頭器3点(0118~0120)の石器がある。

ナイフ形石器の0117は両側縁に丁寧な刃潰し加工を持つ小型の台形石器で, 折断技法による素材選択が考えられる。

三稜尖頭器の0118は基部が強調され, 腹面からの調整加工を中心に稜上からも行い, 基部の稜上剥離は水平に加撃されることから本体の厚みを減じる目的と判断できる。0119は先端部, 0120は端部と基部が欠落する。3点とも腹面の打瘤除去等の整形が確認できる。

第3ユニット

第3ユニットは, G-9区からF-12区に最大長約40m, 最大幅20mの楕円形状に展開し, 后背の急傾斜地に最も近い部分に位置する。また, ユニット内は5つのエリア(第7~第11エリア)で構成される。

第7エリア(第53図, 第54, 55図)

第7エリアはG-9区に分布し, 黒曜石Ⅱ-A類を主体として集中する4つのブロックからなる。

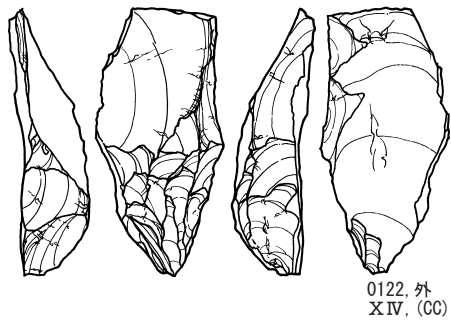
石器の器種構成は, ナイフ形石器1点(0122), 三稜尖頭器4点(0123~0126), 二次加工のある剥片5点(0127~0130, 0139)からなり, 他に剥片とブランディングチップ, 多量のチップを確認している。

ナイフ形石器は不定形剥片を使用し, 両側縁に刃潰し加工を持つ切出形に近い形状となる。

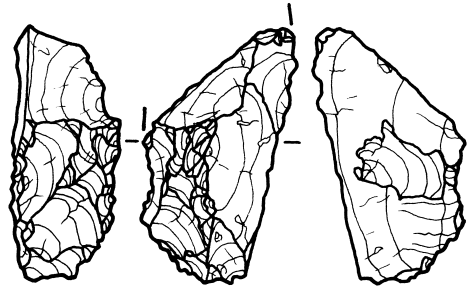
0125の三稜尖頭器はブロックに含まれないもので, 分割した礫素材の稜部をそのまま利用し, 両側面はかなりの部分礫皮面を残している。側縁部に加えて稜上からの整形剥離を行い, 基部の腹面加工も認められる。0124は第14ブロックに属し, 0124は先端部, 0126は基部が破損したものと判断した。また, 腹面の観察からは, 稜部を持つ横長剥片を素材としたことがわかる。調整加工からは, 概ね本体の横断面を三角形に整形する位置が伺われ, 左側縁の加工が先行し, 右側縁では調整加工と判断できそうな剥離痕を観察できる。0124の器種認定は, 基部の稜上剥離に基づいている。

0127~0130, 0139の二次加工のある剥片のうち, 剥片の二次加工状況から0128はナイフ形石器, 0129, 0127は三稜尖頭器の製作に関わる資料と判断される。

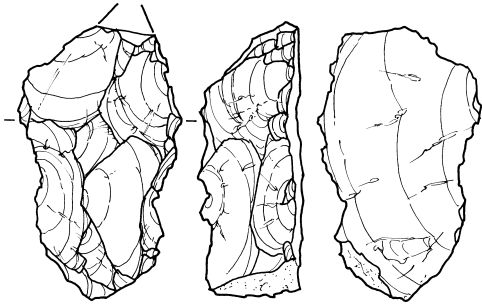
0135は先端部が両面からの2回の加撃で鋭利に作り出



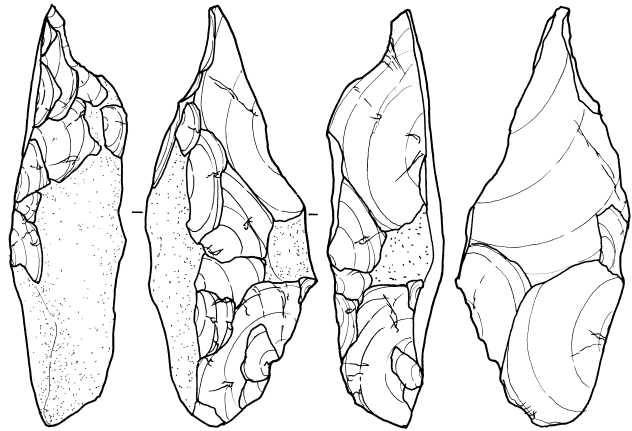
0122, 外
X IV, (CC)



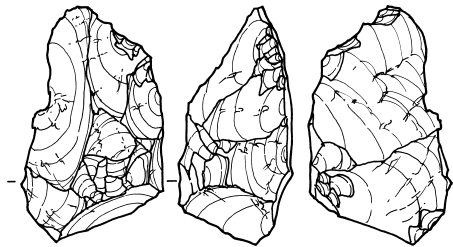
0123, 外
X III, (OB2A)



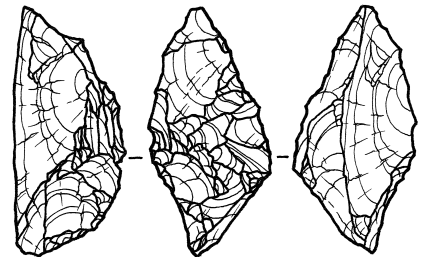
0124, B14
X III, (OB2A)



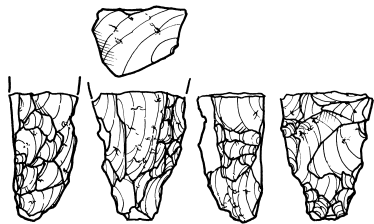
0125, 外
X III, (SH)



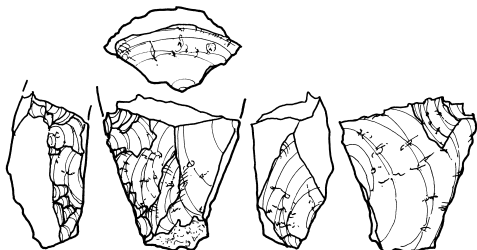
0126, 外
X III, (OB2C)



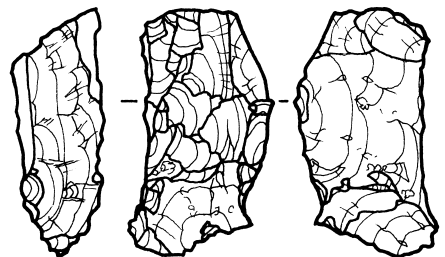
0127, 外
X II, (OB2A)



0128, B16
X III, (OB2A)



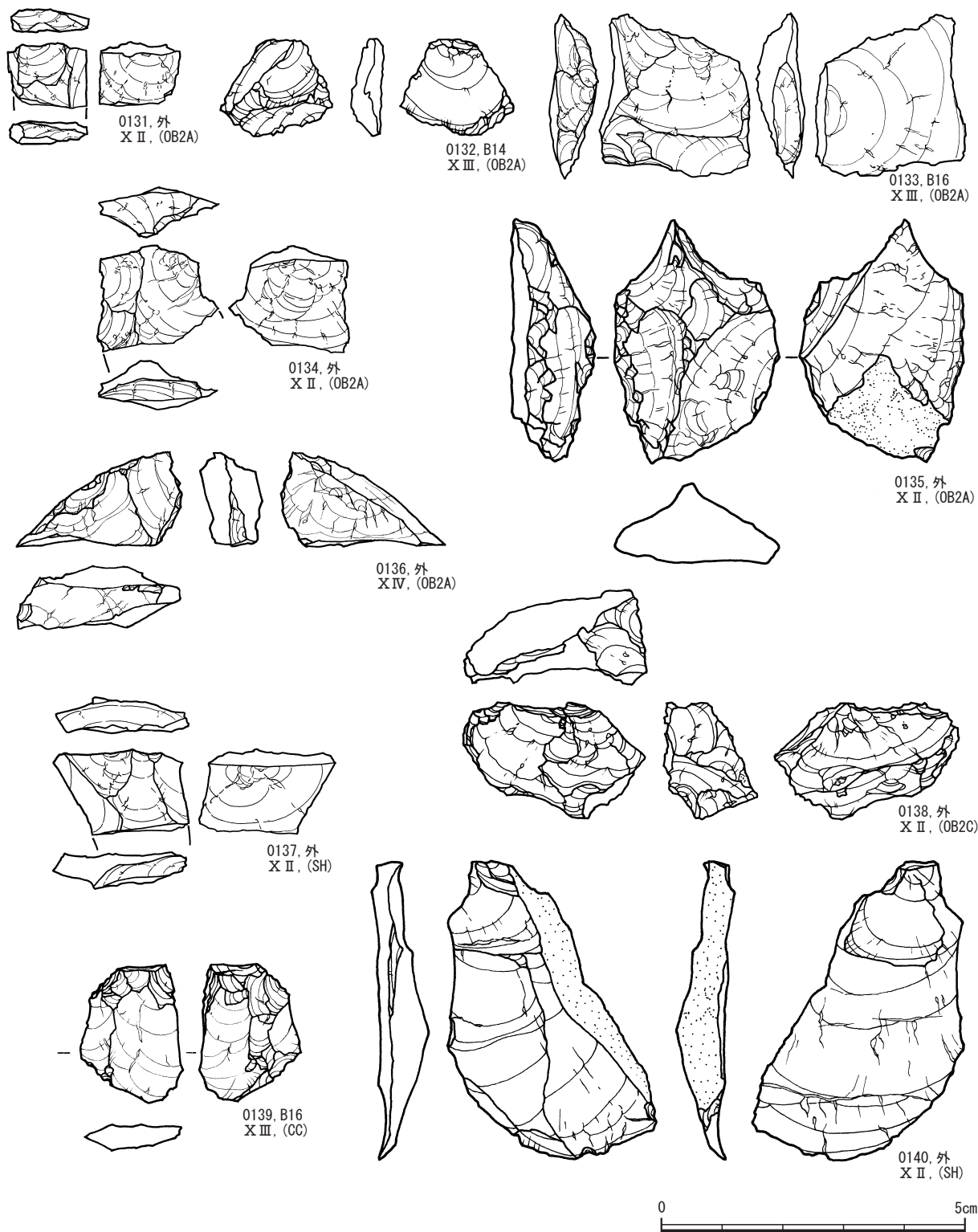
0129, B16
X III, (OB2A)



0130, 外
X III, (OB2A)



第54図 第II文化層第3ユニット第7エリア出土石器実測図(1)



第55図 第Ⅱ文化層第3ユニット第7エリア出土石器実測図(2)

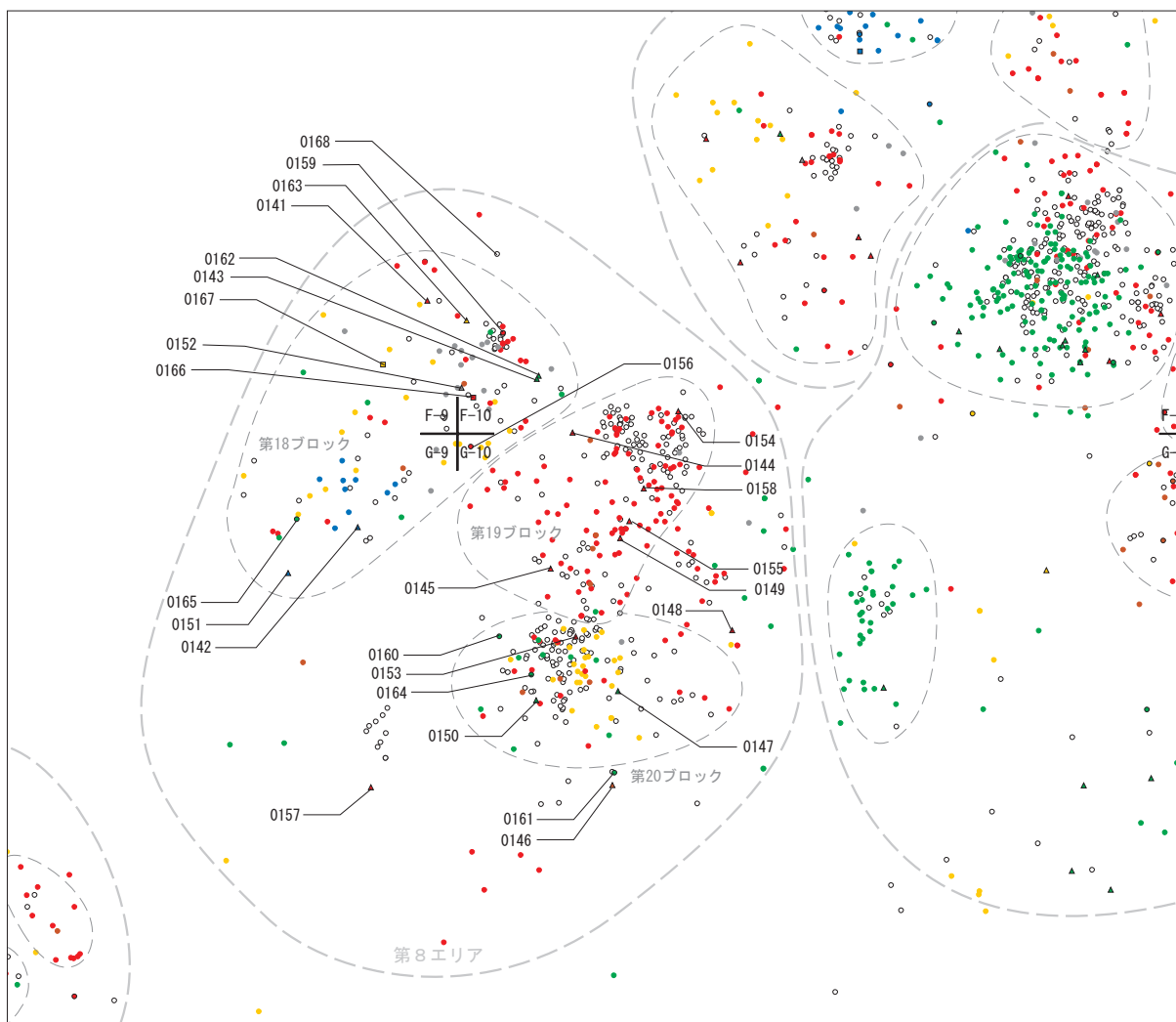
されており、錐状石器と判断した。

その他、第7エリアではギョクズイが使用された痕跡も認められる。ブロック内及びブロック間の接合が確認できており、また、三稜尖頭器の破損品やブランディングチップやチップも集中することから、三稜尖頭器の製作エリアの可能性を高く示している。

第8エリア(第56図, 第57~59図)

第8エリアはF-9, 10区からG-9, 10区に広がり、3か所の遺物集中(ブロック)からなる。

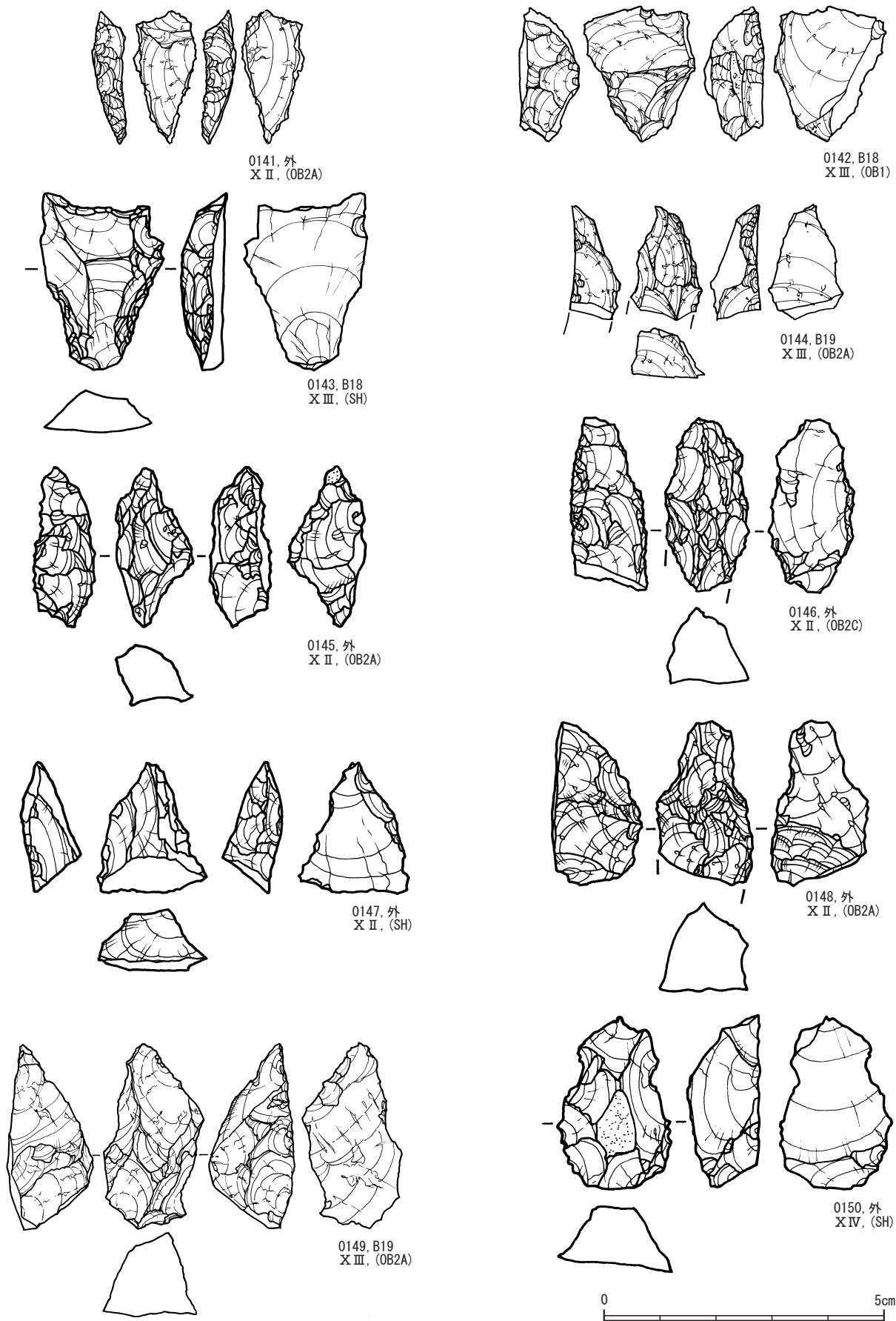
第18ブロックはやや散在的であるが黒曜石Ⅰ類, 黒曜石Ⅱ-A類, 黒曜石Ⅱ-B類, 黒曜石Ⅲ類, ギョクズイ, 頁岩の6種類の石材で、第19ブロックは黒曜石Ⅱ-A類



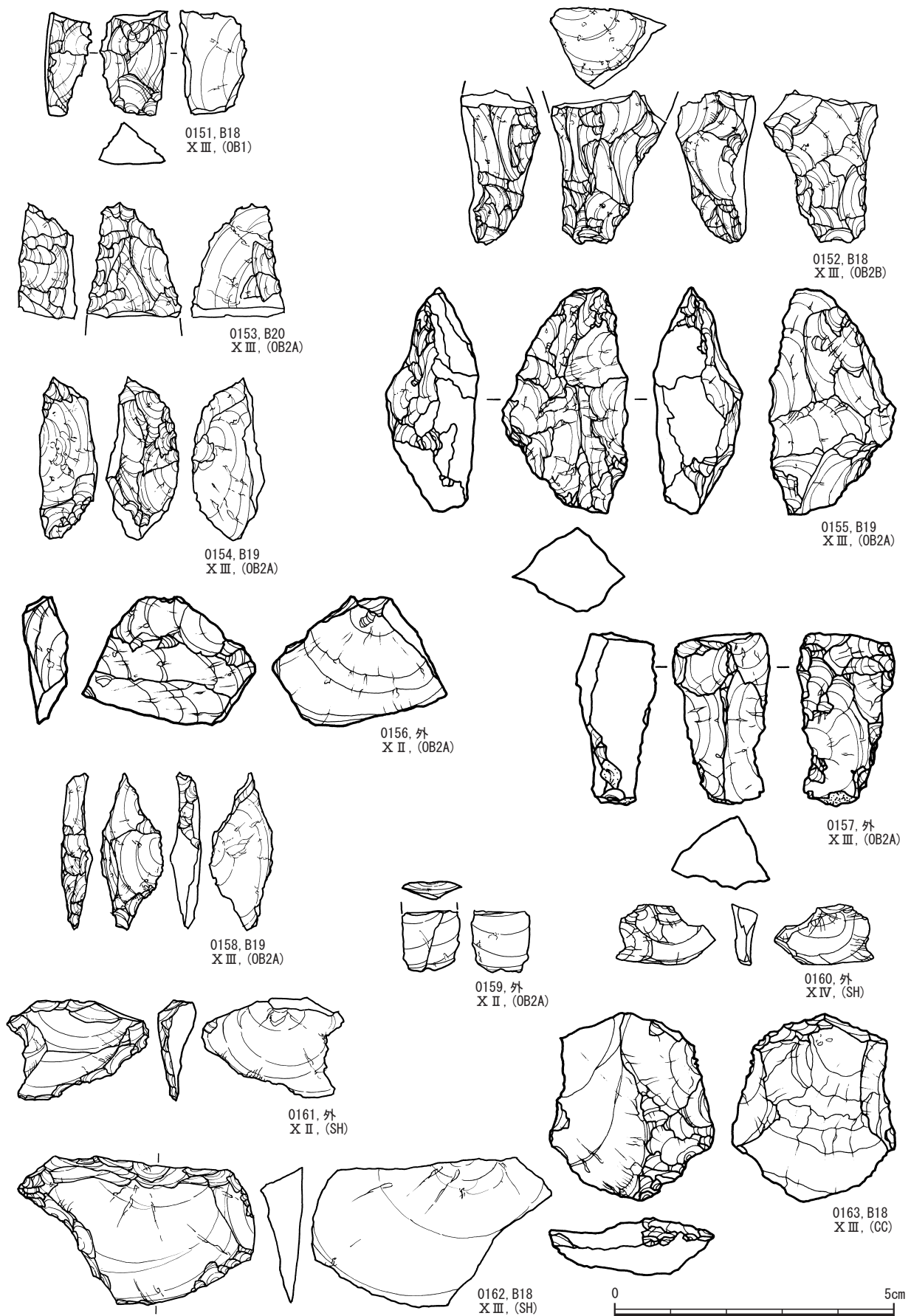
第56図 第Ⅱ文化層第3ユニット第8エリア遺物出土状況図

第13表 第Ⅱ文化層第3ユニット第7エリア出土石器観察表

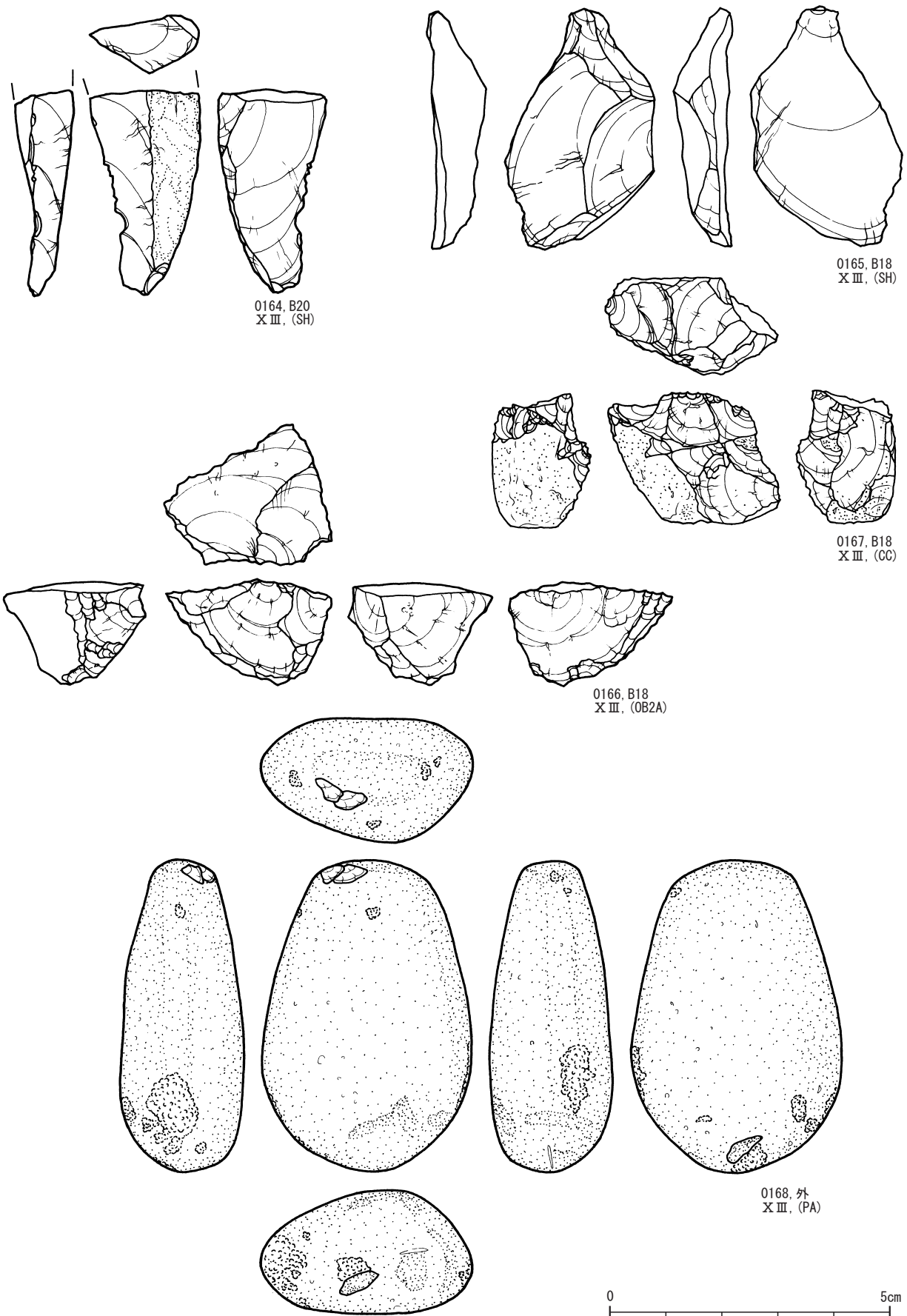
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
54	0122	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A7	外	CC	-	35.4	17.1	10.7	5.00	21907	XIV	G-9	-
	0123	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	(33.9)	(21.0)	(14.6)	(6.68)	17062	XIII	H-9	-
	0124	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A7	B14	OB2	A	(36.3)	(21.8)	(14.0)	(9.23)	17272	XIII	G-9	28
	0125	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A7	外	SH	-	55.6	22.9	15.7	14.47	19180	XIII	G-9	-
	0126	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	C	31.2	19.0	15.1	6.99	17587	XIII	G-9	-
	0127	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	33.1	16.5	15.0	5.36	16841	XII	G-9	-
	0128	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	Ⅱ	U3	A7	B16	OB2	A	(17.1)	(12.5)	(9.3)	(1.92)	17532	XIII	G-9	-
	0129	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	Ⅱ	U3	A7	B16	OB2	A	(20.6)	(18.2)	(11.0)	(3.35)	17300	XIII	G-9	-
	0130	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	32.7	19.5	12.5	6.30	17418	XIII	G-9	-
55	0131	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	(10.9)	(13.2)	(4.0)	(0.57)	16836	XII	G-9	-
	0132	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U3	A7	B14	OB2	A	16.0	18.6	5.7	1.01	17202	XIII	G-9	-
	0133	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A7	B16	OB2	A	26.8	24.9	8.3	4.07	17534	XIII	G-9	-
	0134	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	(17.7)	(20.2)	(8.6)	(1.99)	16960	XII	G-9	-
	0135	石器	錐状石器	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	40.2	27.5	14.5	11.44	16834	XII	G-9	-
	0136	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	A	15.8	27.4	10.7	2.61	21902	XIV	G-9	-
	0137	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A7	外	SH	-	(14.2)	(22.5)	(5.8)	(1.70)	16971	XII	G-9	-
	0138	石核	-	-	Ⅱ	U3	A7	外	OB2	C	19.3	30.1	15.5	6.03	16854	XII	G-9	-
	0139	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	Ⅱ	U3	A7	B16	CC	-	22.8	16.9	5.6	1.90	17039	XIII	G-9	-
	0140	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A7	外	SH	-	49.0	34.7	10.0	8.87	16858	XII	G-9	-



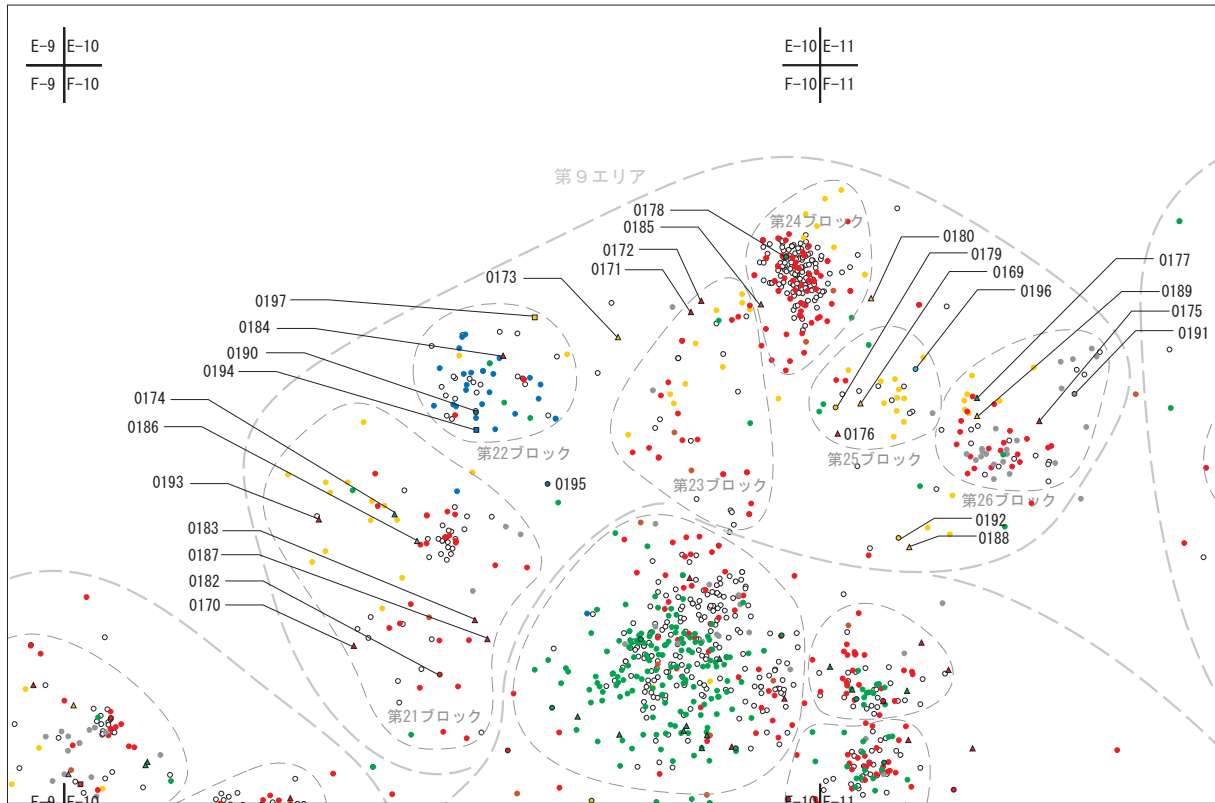
第57図 第Ⅱ文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(1)



第58図 第Ⅱ文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(2)



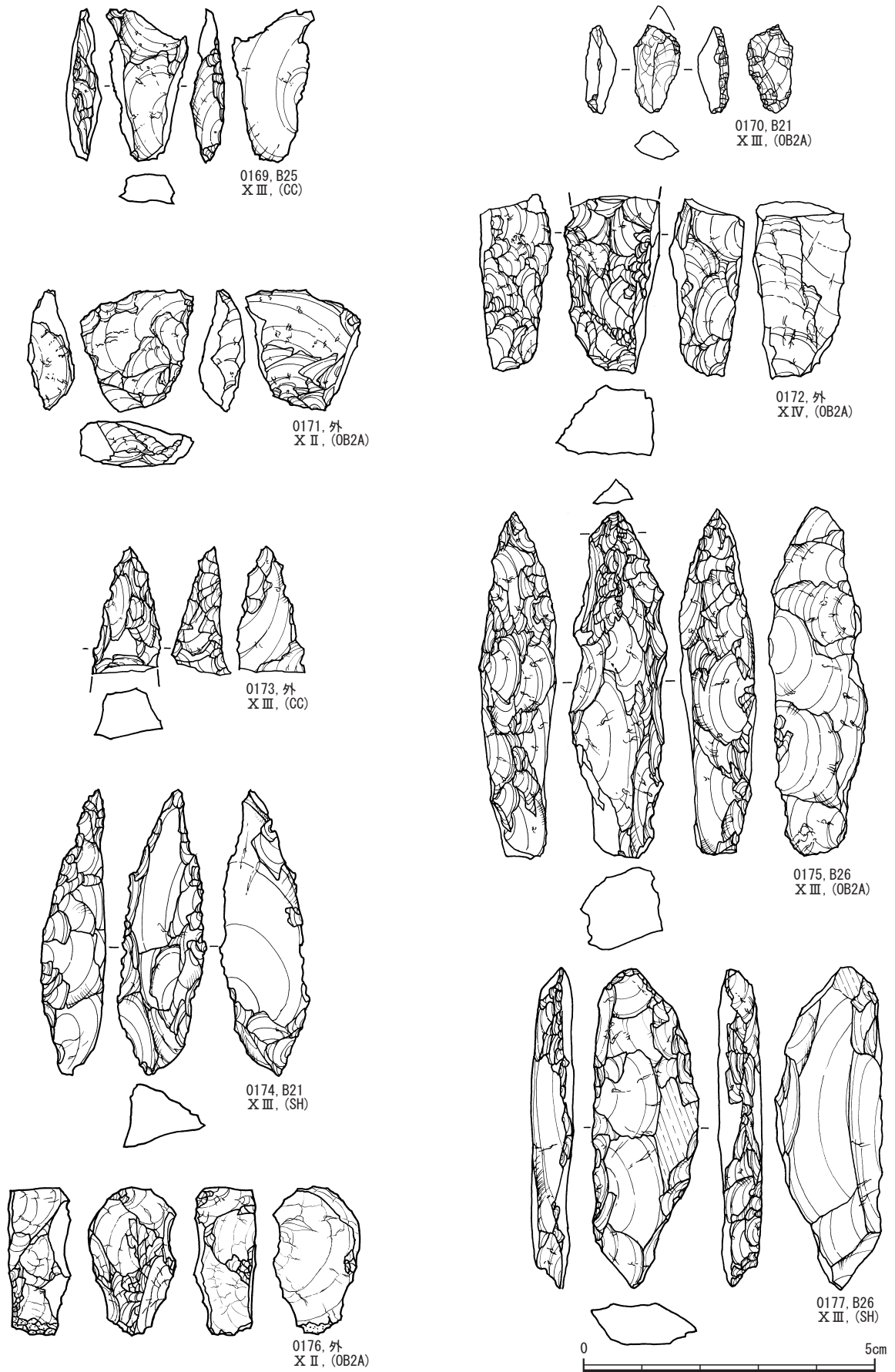
第59図 第Ⅱ文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(3)



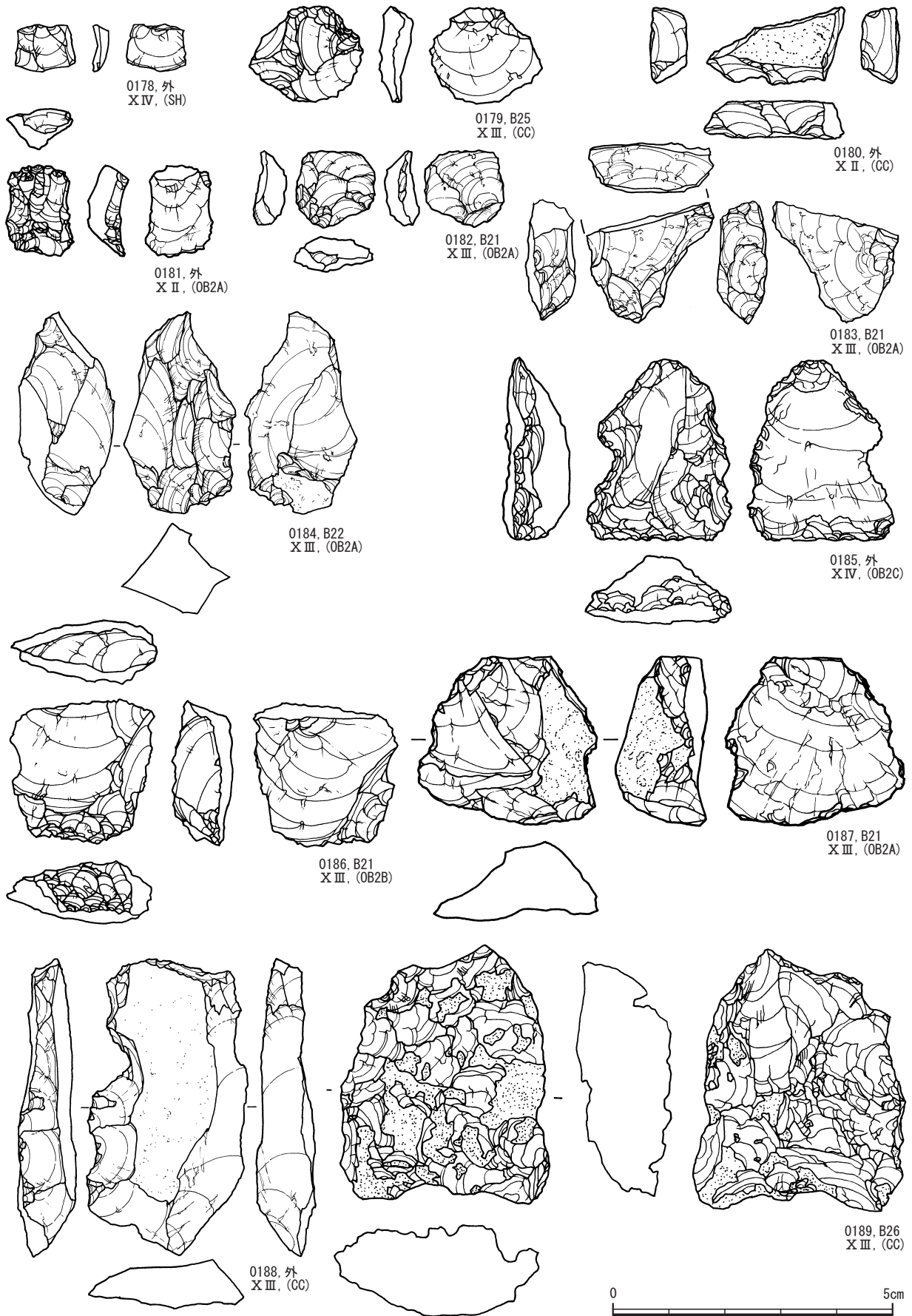
第60図 第II文化層第3ユニット第9エリア遺物出土状況図

第14表 第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器観察表

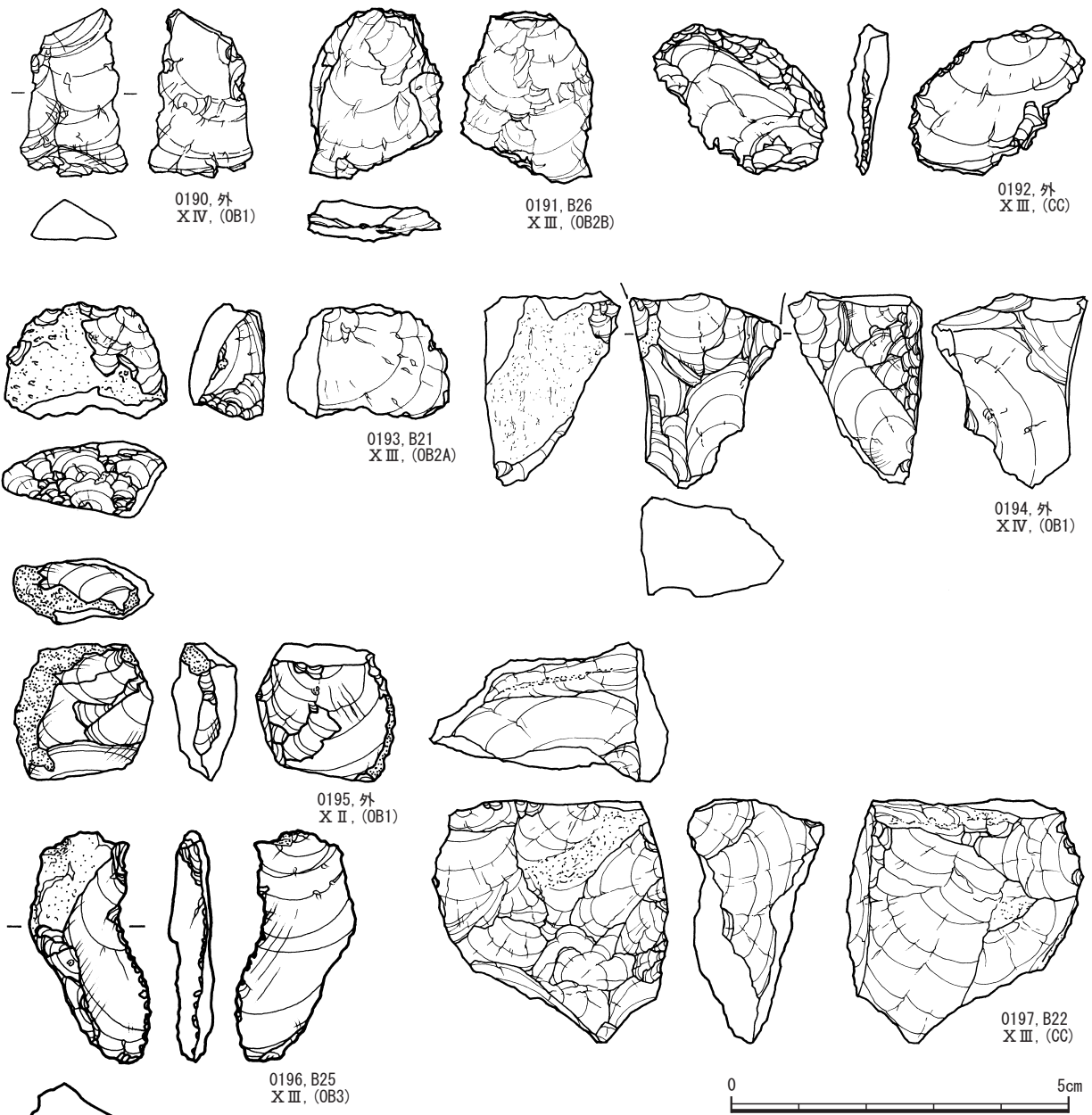
挿入No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
57	0141	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A8	外	OB2	A	23.8	11.3	6.5	1.51	16925	X II	F-9	-
	0142	石器	ナイフ形石器	台形石器	II	U3	A8	B18	OB1	-	24.3	20.0	11.0	4.35	19195	X III	G-9	-
	0143	石器	ナイフ形石器	台形様石器	II	U3	A8	B18	SH	-	31.7	22.3	7.6	4.97	20466	X III	F-10	-
	0144	石器	三稜尖頭器	先端部	II	U3	A8	B19	OB2	A	(20.5)	(13.0)	(9.1)	(1.60)	18179	X III	F-10	-
	0145	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	OB2	A	28.6	14.2	11.5	3.12	17491	X II	G-10	-
	0146	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	OB2	C	(31.1)	(15.3)	(14.3)	(5.72)	18051	X II	G-10	-
	0147	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	SH	-	23.5	19.9	11.0	2.89	17494	X II	G-10	-
	0148	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	OB2	A	(29.5)	(17.6)	(16.5)	(6.57)	17483	X II	G-10	81
	0149	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B19	OB2	A	33.1	18.1	15.7	6.21	18643	X III	G-10	94
	0150	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	SH	-	31.0	20.7	13.2	7.35	21795	X IV	G-10	-
58	0151	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B18	OB1	-	18.8	12.7	8.8	1.72	20459	X III	G-9	-
	0152	石器	三稜尖頭器	基部背面加工	II	U3	A8	B18	OB2	B	(27.5)	(20.7)	(14.1)	(5.62)	19162	X III	F-10	-
	0153	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B20	OB2	A	(20.7)	(17.1)	(10.8)	(3.64)	19228	X III	G-10	-
	0154	石器	二次加工痕のある剥片	部分加工	II	U3	A8	B19	OB2	A	29.3	13.2	10.4	3.37	18604	X III	F-10	94
	0155	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B19	OB2	A	40.5	22.7	16.9	10.36	18646	X III	G-10	-
	0156	剥片	折断剥片	-	II	U3	A8	外	OB2	A	23.1	31.2	8.2	3.97	21237	X II	G-10	-
	0157	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U3	A8	外	OB2	A	30.9	17.7	14.7	5.72	18689	X III	G-9	-
	0158	石器	ブランディングチップ	-	II	U3	A8	B19	OB2	A	28.1	11.4	5.8	1.11	18210	X III	G-10	-
	0159	剥片	折断剥片	-	II	U3	A8	外	OB2	A	(11.1)	(10.6)	(3.2)	(0.33)	18004	X II	F-10	-
	0160	チップ	ブランディングチップ	-	II	U3	A8	外	SH	-	11.0	17.9	4.7	0.55	21792	X IV	G-10	-
59	0161	チップ	ブランディングチップ	-	II	U3	A8	外	SH	-	18.2	25.5	7.0	1.64	17434	X II	G-10	-
	0162	石器	スクレイパー	削器	II	U3	A8	B18	SH	-	26.7	42.5	9.1	7.32	18677	X III	F-10	-
	0163	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A8	B18	CC	-	33.8	29.7	10.5	8.21	19167	X III	F-10	-
	0164	剥片	-	-	II	U3	A8	B20	SH	-	(36.6)	(20.0)	(10.6)	(4.98)	18150	X III	G-10	-
	0165	剥片	-	-	II	U3	A8	B18	SH	-	43.1	27.0	10.9	8.72	19649	X III	G-9	-
	0166	石核	-	-	II	U3	A8	B18	OB2	A	19.2	29.8	25.5	9.52	19163	X III	F-10	-
	0167	石核	-	-	II	U3	A8	B18	CC	-	23.8	30.9	17.6	12.06	19174	X III	F-9	-
	0168	石器	ハンマー	-	II	U3	A8	外	PA	-	55.7	37.7	22.2	64.63	19665	X III	F-10	-



第61図 第Ⅱ文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(1)



第62図 第Ⅱ文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(2)



第63図 第Ⅱ文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(3)

に、頁岩とギョクズイが1点ずつの3種類の石材で、第20ブロックはギョクズイを主体に黒曜石Ⅱ-A類、頁岩が加わる構成がみられる。

器種は、ナイフ形石器3点(0141～0143)、三稜尖頭器11点(0144～0153, 0155)、スクレイパー1点(0162)、二次加工のある剥片3点(0154, 0157, 0163)、石核2点(0166, 0167)とハンマーストーン1点(0168)、ブランディングチップ3点(0158, 0160, 0161)で構成される。

ナイフ形石器のうち、0141は横長剥片の打面部と端部を両側縁とし刃潰し加工したもので切出形に、0142は剥片剥離方向の移動する石核から取り出した肉厚の不定形剥片を分割し、その分割面と側縁に刃潰し加工を行い台形状に、0143も同様の剥片剥離によるもので、剥片の両側縁に腹面方向からの刃潰しを行い、台形様石器の形状

に仕上げている。

0146は基部が欠落しているが、形状及び整形剥離、特に、稜上剥離の実施等三稜尖頭器の特徴が良く残されている。0150は初期段階での放棄と判断している。0148は天地逆の可能性もあり、その場合基部に該当する。0144, 0147, 0153は形状及び側縁部の剥離状況から三稜尖頭器の先端部、0152は腹面加工を持つ基部に該当し、0155は分厚い横広剥片を使用し、加えて腹面加工を行うことから、横断面は菱形を呈している。

0162はほぼ全域に緩傾斜の刃部が残ることから削器と判断した。

二次加工のある剥片の中で、0163は削器様の用途が考えられる。0154と0157は三稜尖頭器の製作に関する残片の一部と判断している。

石核とした2点(0166, 0167)はいずれも小型で、エリア内に残された器種とは直接の関係は見いだせない。

0168のハンマーストーンは、扁平な卵形で頭部や下端部を中心に側縁の稜部が多用されている。

三稜尖頭器の占める率が高く、0158は稜部からのブランディングチップであることも想定されることから、第8エリアも三稜尖頭器を主として製作した可能性を示している。

第9エリア(第60図, 第61~63図)

第9エリアと第10エリアは接した状態で検出されているが、ブロックを形成する使用石材が異なることと若干の干渉帯を見いだせることから区分している。

F-10, F-11区に広がり、6か所のブロックからなる。第21ブロックは黒曜石II-A類とギョクズイに黒曜石II-B類や頁岩の6種類、第22ブロックは黒曜石I類主体の石材、第23ブロックは黒曜石II-A類とギョクズイがほぼ同数に黒曜石II-B類、黒曜石II-C類、頁岩の5種類、第24ブロックは黒曜石II-A類主体にギョクズイ他2種類、第25ブロックはギョクズイ主体に数点の黒曜石II-A類と頁岩で構成され、第26ブロックは黒曜石II-B類と黒曜石II-A類の2種類を中心にギョクズイ、頁岩で構成する。

器種は、ナイフ形石器3点(0169~0171)、三稜尖頭器5点(0172~0176)、尖頭状石器1点(0177)、二次加工のある剥片4点(0180, 0183, 0184, 0193)、スクレイパー5点(0185~0189)、微細剥離痕のある剥片2点(0181, 0196)からなる。

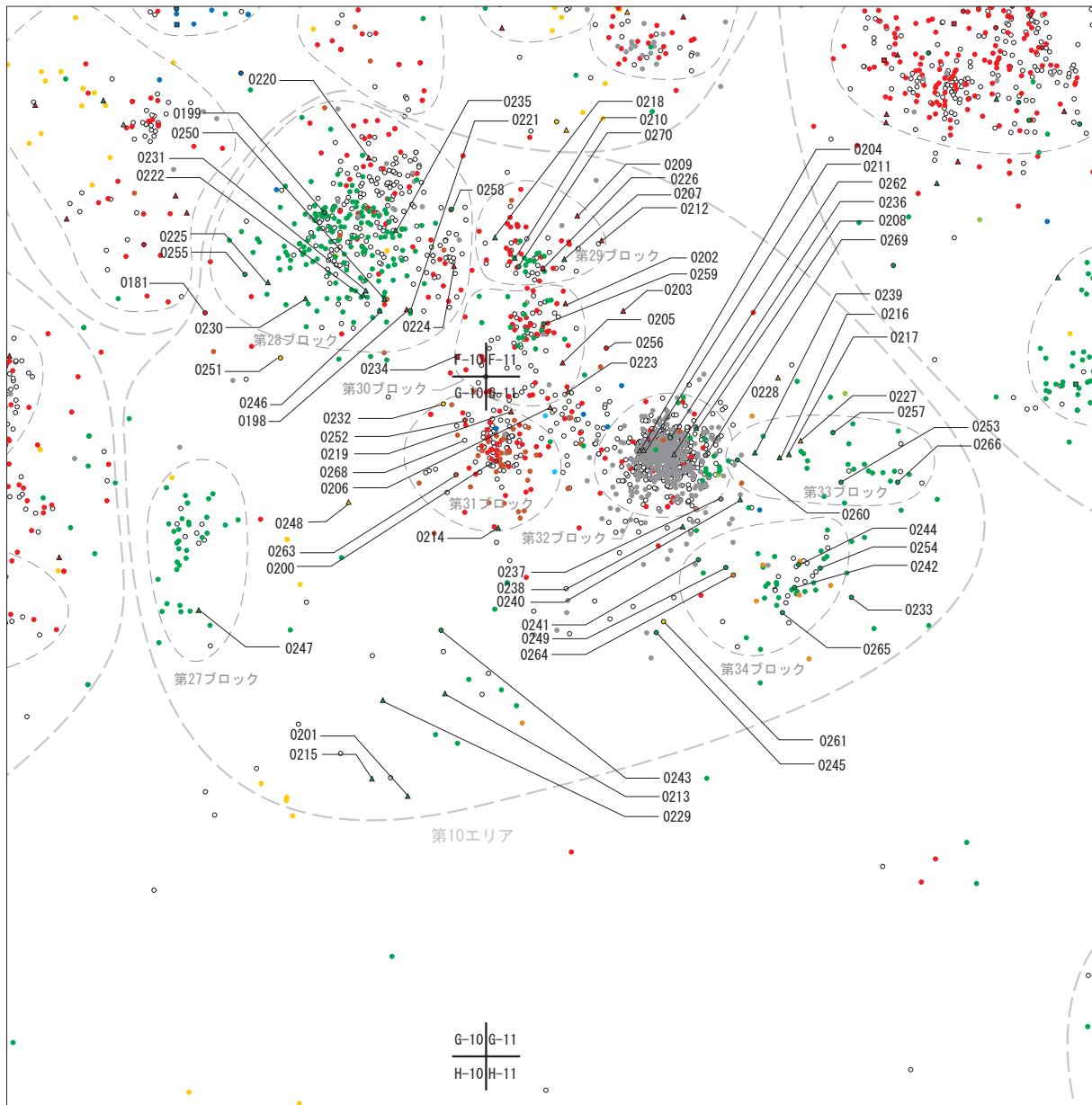
0169のナイフ形石器は、横剥ぎ剥片の打面部とその端部に刃潰し加工を施した両側縁加工で、素材の形状から斜刃を成す。0170は不定型な小型剥片を用い、0171は底面と右側縁に刃潰し加工し、左側縁は折断面をそのまま利用し両側縁加工に準じる。

0177の尖頭状石器については背面の一部に節理面を残す横長剥片を用い、剥片の側縁に刃潰しが認められ、且つ、加工が背面を中心に体部中央まで進むことや、明瞭な刃部が認められないことからナイフ形石器の範疇から外した。

0173は三稜尖頭器の先端部、0174, 0175はその全容を残す資料である。2点ともに厚手の横長剥片を使用し、特に、0174は翼状剥片の特徴も認められる。基部は剥片の形状を大きく変化させ、打面を右側縁に用いた可能性がある。なお、腹面の剥離は基部加工に相当する。0175は分厚い横長剥片を用いたもので、稜上剥離は全域のみられる。先端部には細かい剥離が集中し、中央部から基部にかけては水平方向の剥離が加えられる。この水平方

第15表 第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
61	0169	石器	ナイフ形石器	台形石器?	II	U3	A9	B25	CC	-	26.0	14.2	6.0	1.55	18562	X III	F-11	-
	0170	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	(15.0)	(7.9)	(5.5)	(0.46)	17699	X III	F-10	-
	0171	石器	ナイフ形石器	台形石器	II	U3	A9	外	OB2	A	21.0	19.5	8.2	2.83	16922	X II	F-10	-
	0172	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A9	外	OB2	A	(30.6)	(16.6)	(12.8)	(6.65)	19271	X IV	F-10	-
	0173	石器	三稜尖頭器	先端部	II	U3	A9	外	CC	-	(22.0)	(12.0)	(10.2)	(1.68)	18584	X III	F-10	-
	0174	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A9	B21	SH	-	49.0	15.5	11.5	7.34	20569	X III	F-10	-
	0175	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A9	B26	OB2	A	59.5	17.1	13.3	12.61	18542	X III	F-11	-
	0176	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A9	外	OB2	A	25.7	15.2	11.0	3.99	16803	X II	F-11	-
	0177	石器	尖頭状石器	-	II	U3	A9	B26	SH	-	54.8	18.6	7.2	9.04	18549	X III	F-11	-
62	0178	チップ	ブランディングチップ	-	II	U3	A9	外	SH	-	8.6	10.9	3.0	0.22	21980	X IV	F-10	-
	0179	チップ	ブランディングチップ	-	II	U3	A9	B25	CC	-	17.2	20.5	6.2	1.32	18564	X III	F-11	-
	0180	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A9	外	CC	-	14.0	24.8	7.0	2.49	17750	X II	F-11	-
	0181	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A9	外	OB2	A	16.4	12.4	7.8	1.05	21241	X II	F-10	-
	0182	剥片	-	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	13.9	14.3	6.1	0.99	18602	X III	F-10	-
	0183	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	II	U3	A9	B21	OB2	A	(21.7)	(22.8)	(9.2)	(3.71)	19676	X III	F-10	-
	0184	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A9	B22	OB2	A	36.1	20.2	17.5	8.62	18589	X III	F-10	-
	0185	石器	スクレイパー	挟入石器	II	U3	A9	外	OB2	C	32.6	26.0	12.3	7.89	19279	X IV	F-10	-
	0186	石器	スクレイパー	-	II	U3	A9	B21	OB2	B	26.0	25.9	11.0	6.57	19130	X III	F-10	-
	0187	石器	スクレイパー	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	30.2	32.1	16.5	11.55	19260	X III	F-10	-
	0188	石器	スクレイパー	-	II	U3	A9	外	CC	-	52.9	29.0	10.5	13.55	19720	X III	F-11	-
63	0189	石器	スクレイパー	-	II	U3	A9	B26	CC	-	46.3	37.6	18.9	34.60	17753	X III	F-11	-
	0190	剥片	-	-	II	U3	A9	外	OB1	-	25.0	16.0	6.5	1.94	21939	X IV	F-10	-
	0191	剥片	-	-	II	U3	A9	B26	OB2	B	25.4	19.8	6.2	2.63	17756	X III	F-11	3
	0192	剥片	-	-	II	U3	A9	外	CC	-	22.4	25.8	6.0	1.97	19369	X III	F-11	-
	0193	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	17.5	24.2	11.5	4.48	20575	X III	F-10	-
	0194	石核	-	-	II	U3	A9	外	OB1	-	(29.0)	(22.5)	(20.5)	(9.04)	21938	X IV	F-10	-
	0195	剥片	-	-	II	U3	A9	外	OB1	-	20.3	20.7	9.8	3.57	17337	X II	F-10	-
	0196	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A9	B25	OB3	-	34.5	18.3	6.8	2.72	18559	X III	F-11	-
	0197	石核	-	-	II	U3	A9	B22	CC	-	36.0	35.1	20.0	19.98	18587	X III	F-10	-



第64図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア遺物出土状況図

向の剥離は、明らかに厚みを減じる目的であったと思われる。両側縁は急角度で整形され、腹面にも数回の整形剥離が認められる。0172と0176は三稜尖頭器の基部に想定される。

5点のスクレイパーのうち、0185は下端部の刃部と側縁に抉入部を持ち、0186、0187は剥片の端部に二次加工を施す。0189は礫素材の求心状剥離石核を転用している。0188は削器的機能を想定したが、抉入石器の可能性もある。

二次加工のある剥片のうち、0184は三稜尖頭器の製作に関連しそうである。0183は削器の可能性も考えられるが判断しづらい。

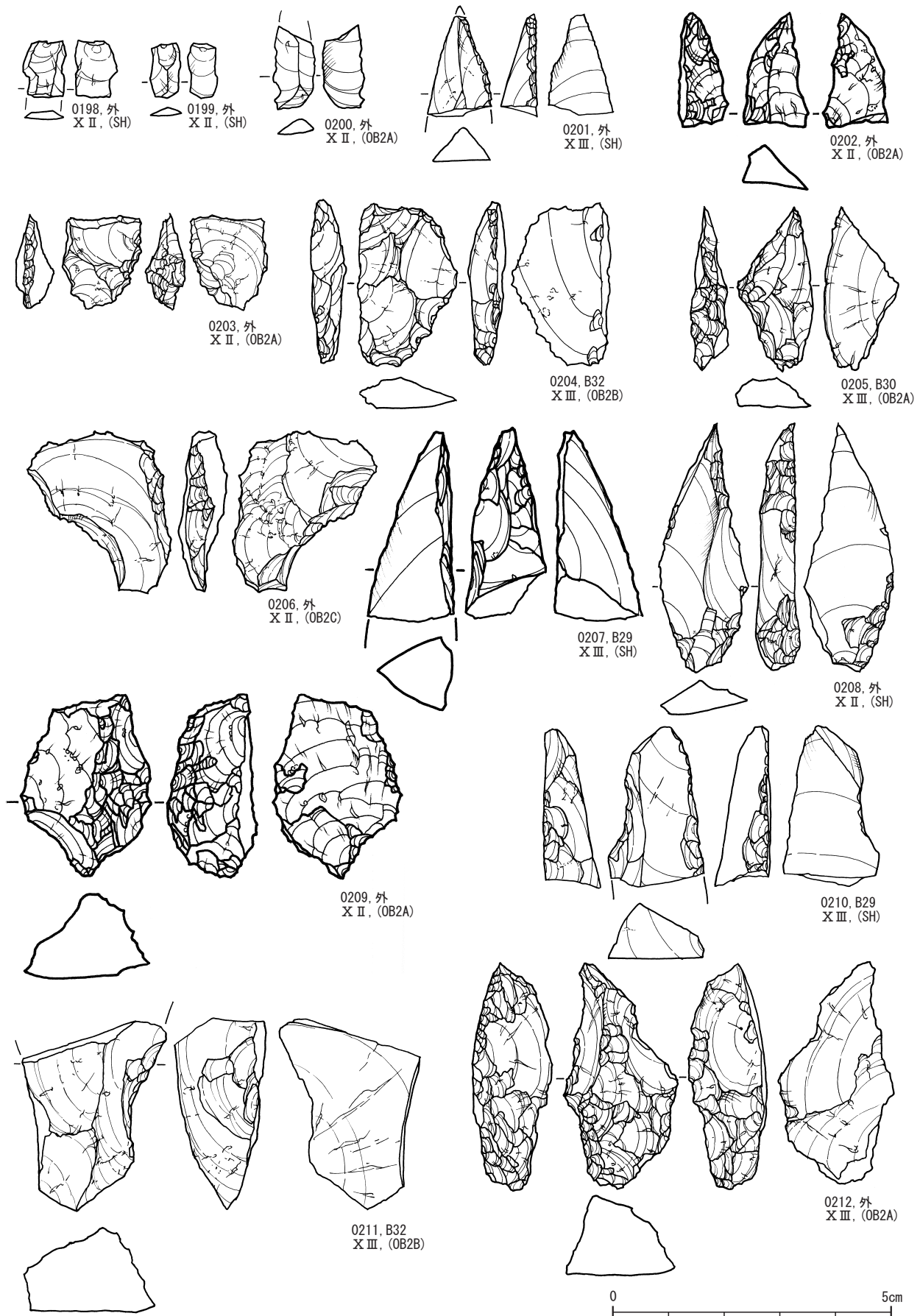
三稜尖頭器の完成度が高い割合にブランディングチップやチップの総数が少なく、注意が必要である。

2点の石核からは、打点移動が頻繁にあったことが読みとれる。

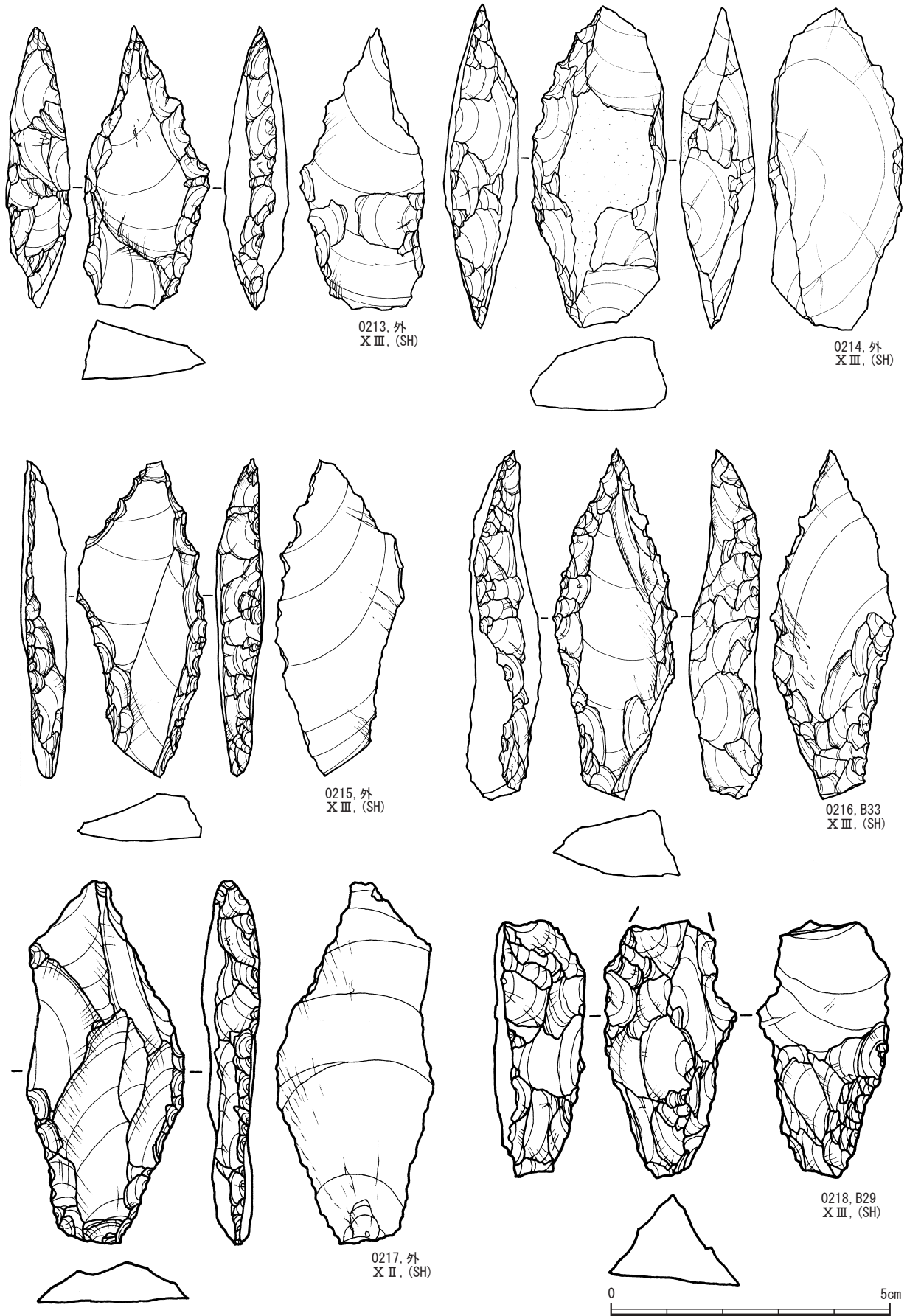
第10エリア(第64図, 第65～72図)

第10エリアは第3ユニットの中央部に位置し、8か所のブロックからなる。第27ブロックと第33ブロックは頁岩の単独石材で、第28ブロック、第29ブロック、第30ブロックも頁岩を主体としながらそれに黒曜石Ⅱ-A類が加わる状況が読みとれる。一方、第31ブロックは黒曜石Ⅱ-A類が、第32ブロックは黒曜石Ⅱ-B類を主体に黒曜石Ⅱ-A類と少量の頁岩やギョクズイ、黒曜石Ⅱ-C類が加わる状況が読みとれ、第34ブロックは頁岩に砂岩と黒曜石Ⅱ-A類・黒曜石Ⅱ-B類が加わる。

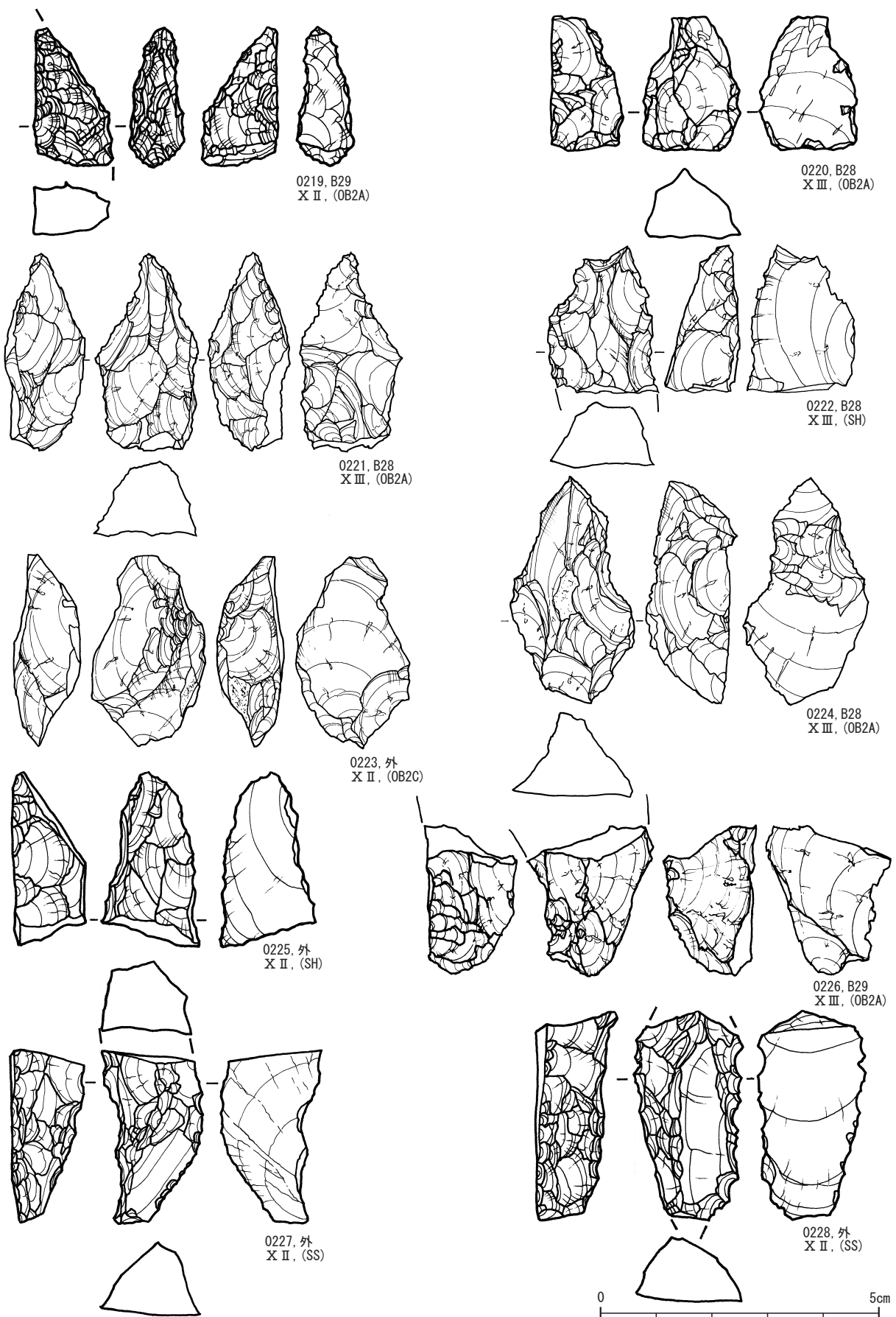
器種構成は、細石刃3点(0198～0200)、ナイフ形石



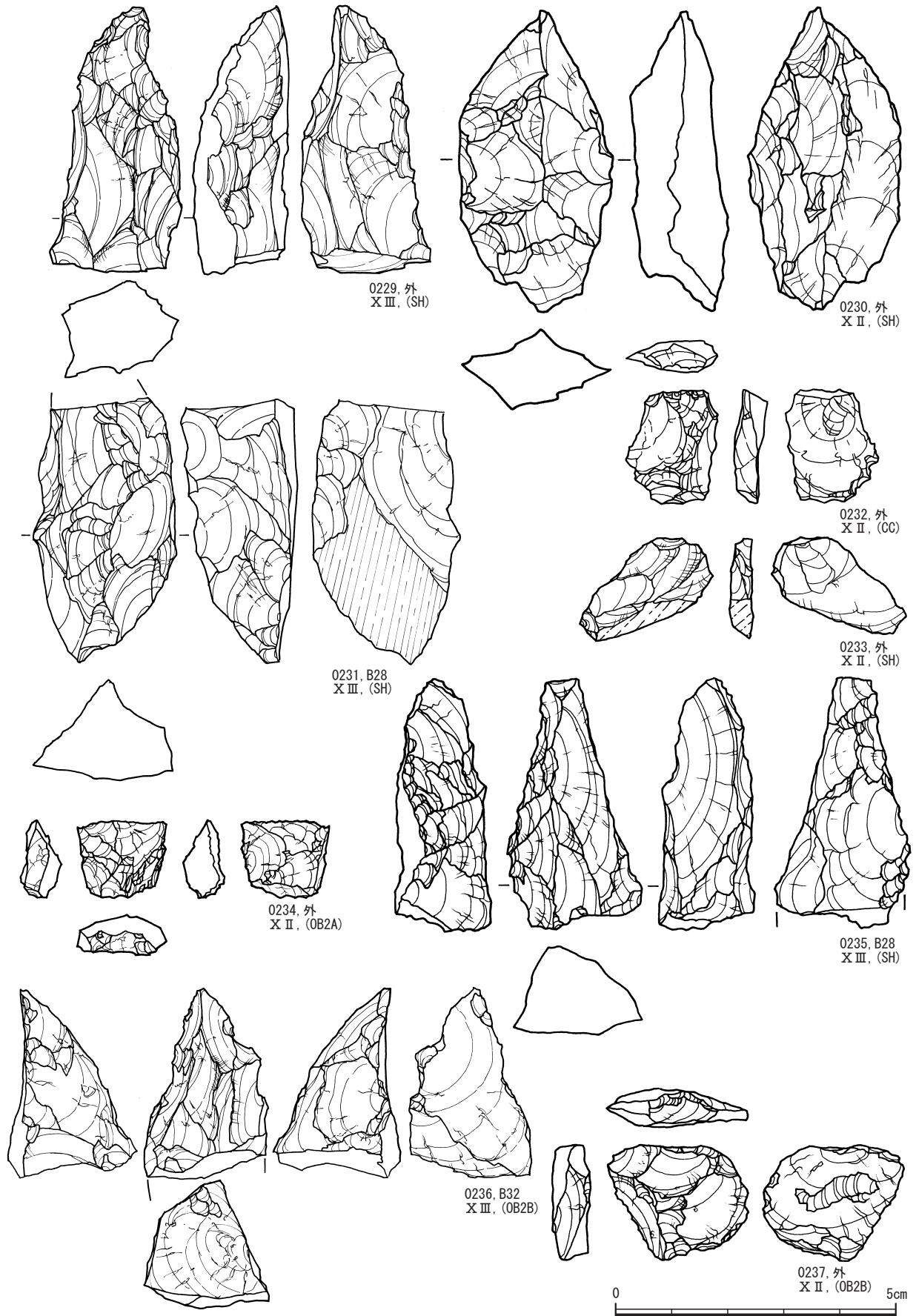
第65図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(1)



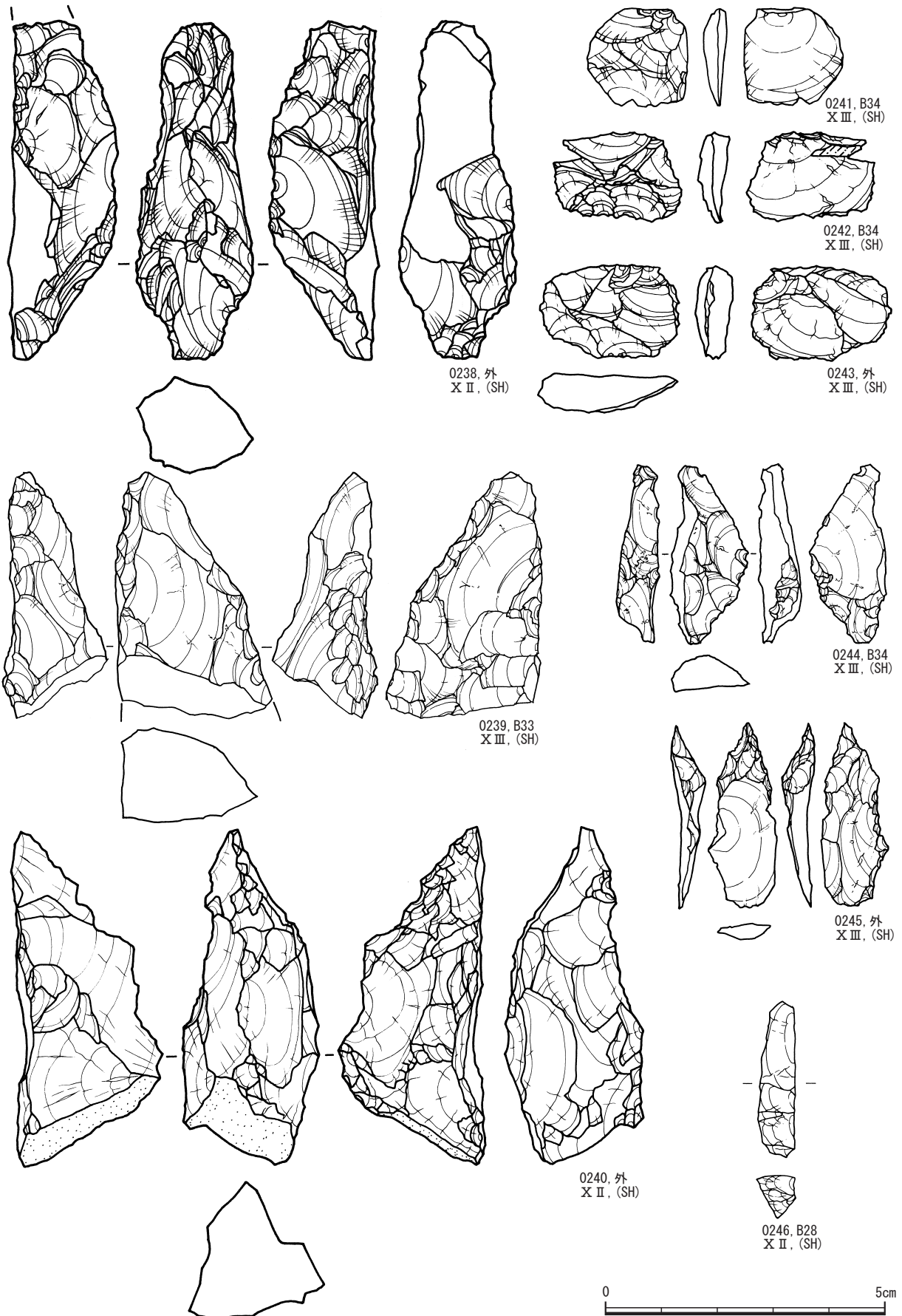
第66図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(2)



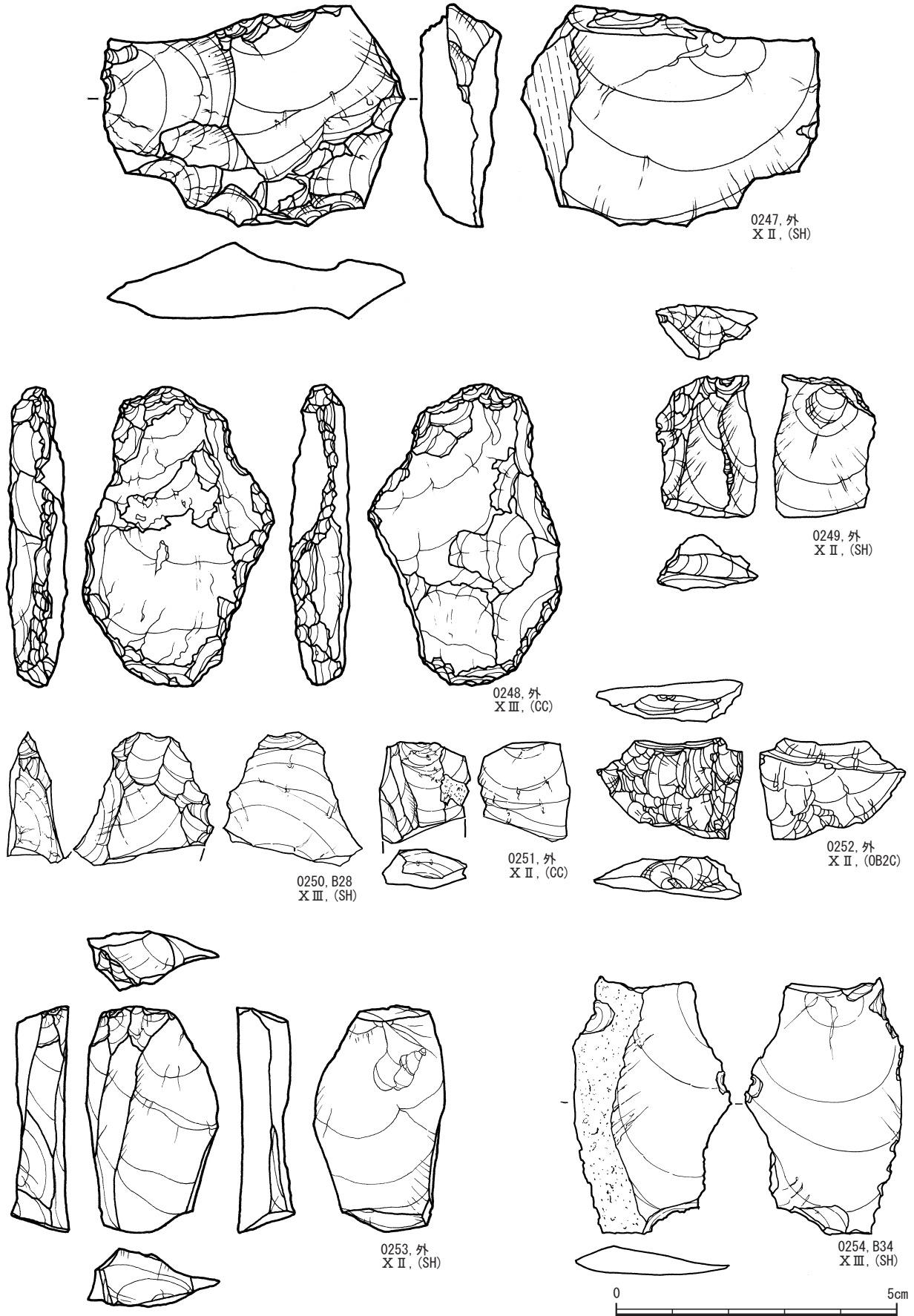
第67図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(3)



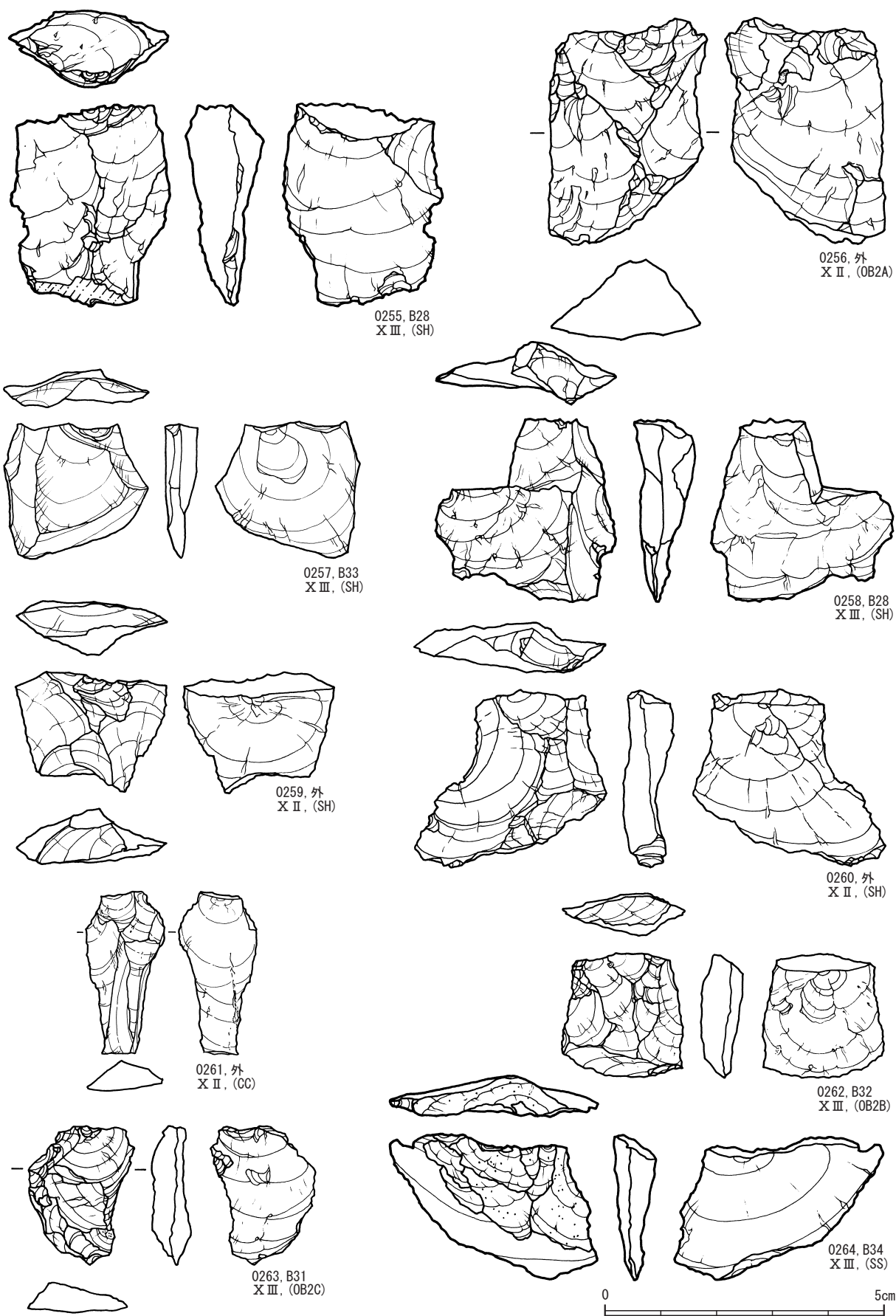
第68図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(4)



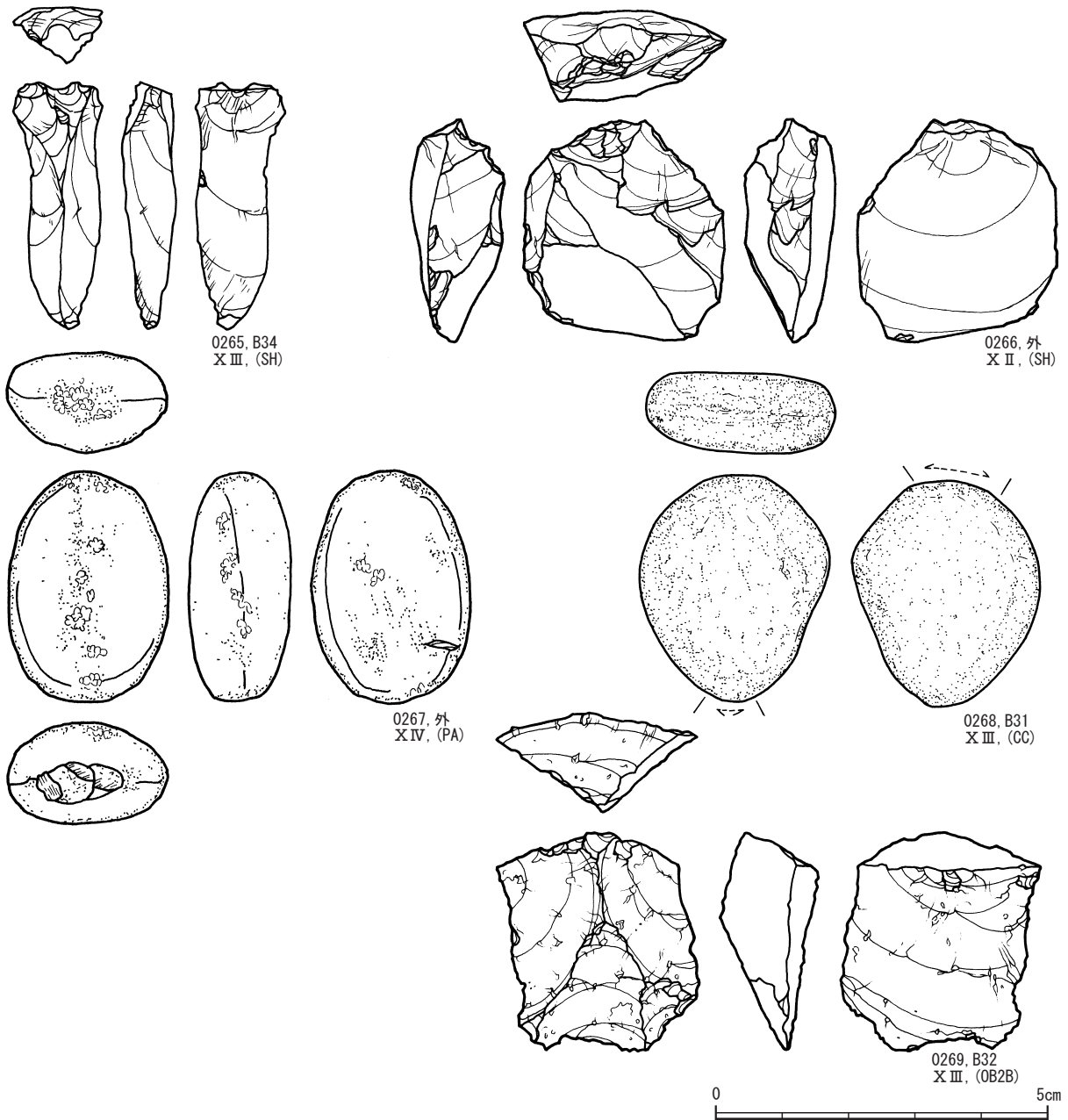
第69図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(5)



第70図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(6)



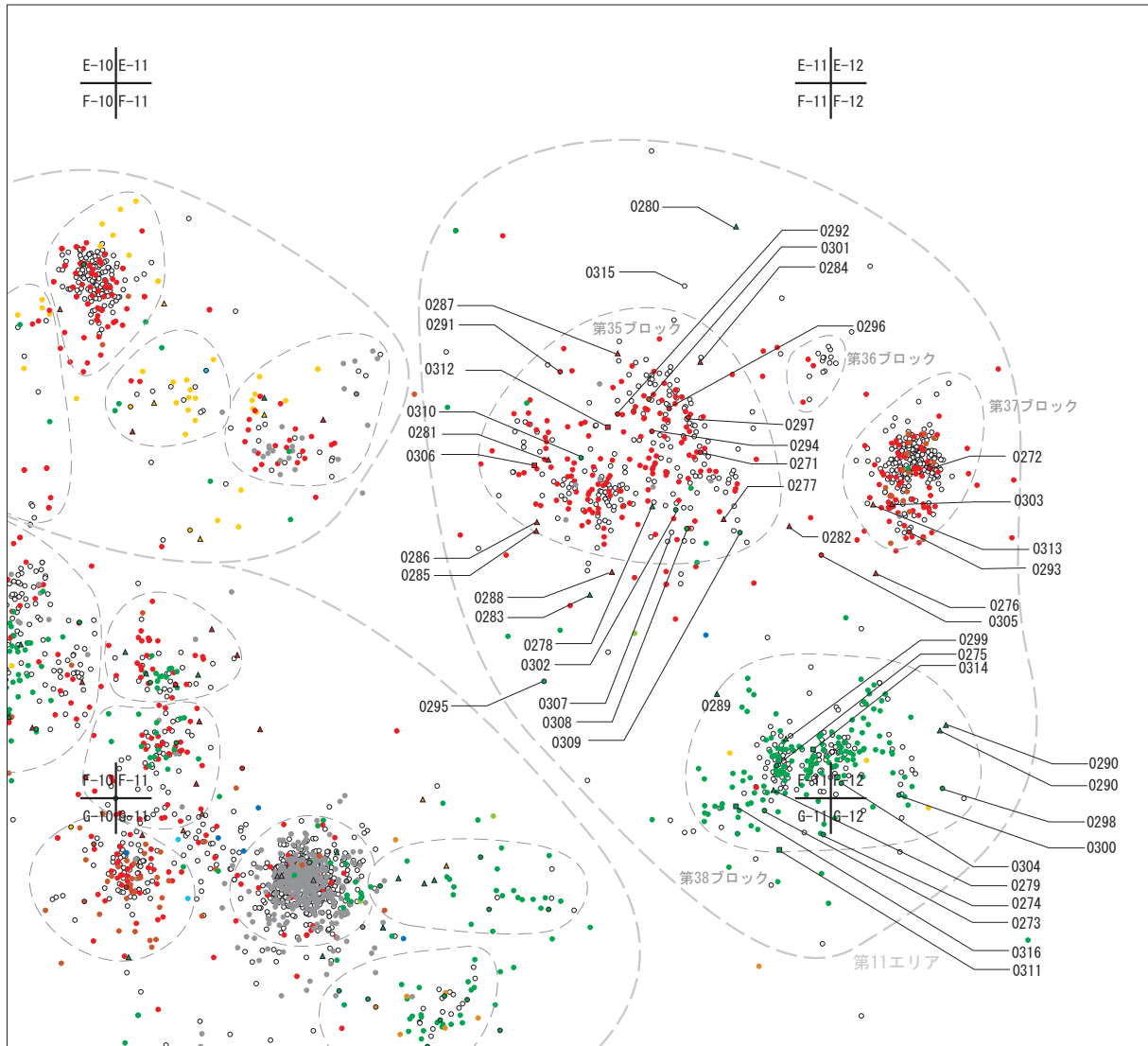
第71図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(7)



第72図 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(8)

第16表 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器観察表(1)

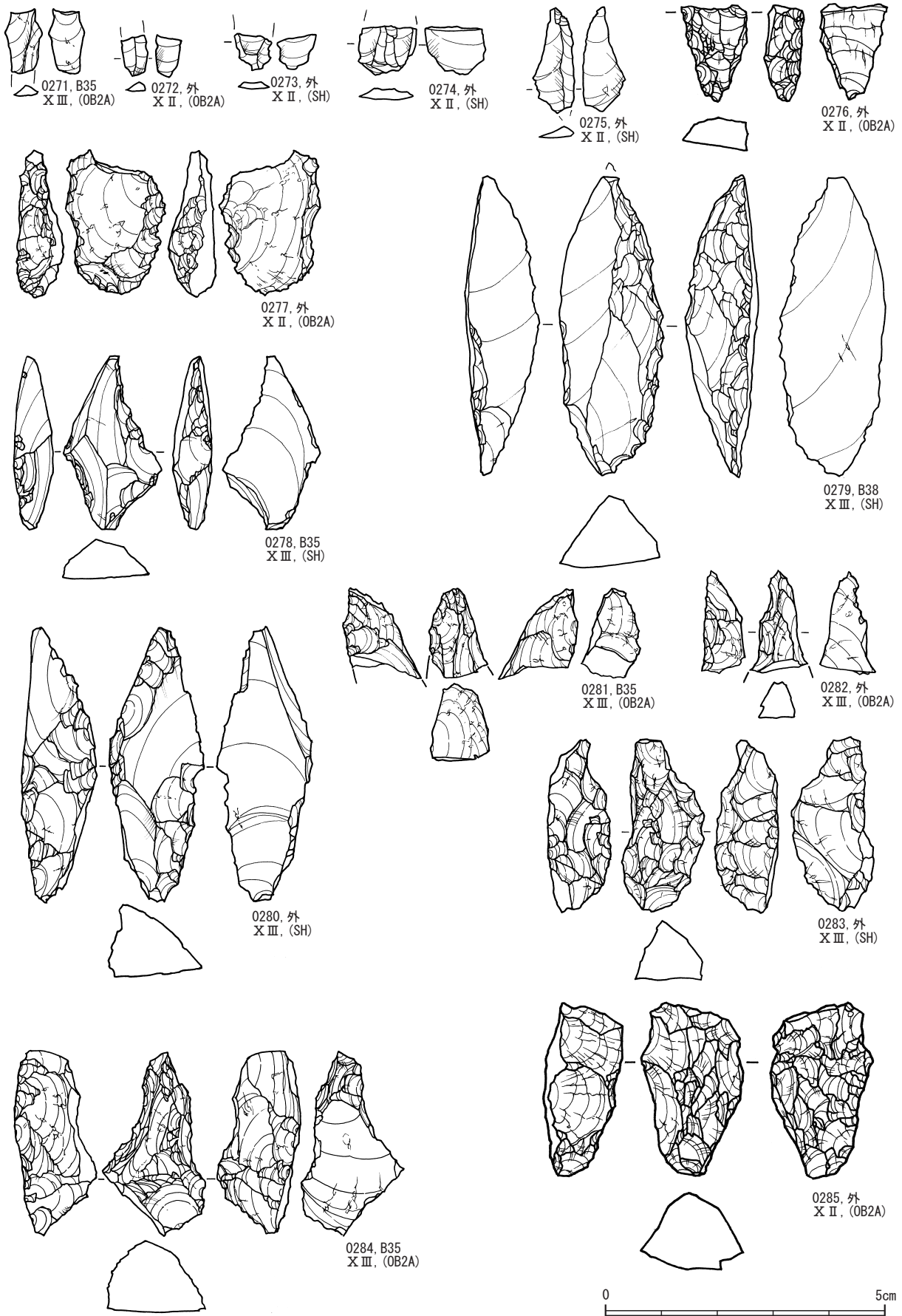
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
65	0198	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	(10.3)	(7.9)	(1.8)	(0.13)	19956	XⅡ	F-10	-
	0199	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	10.0	5.7	1.8	0.07	20013	XⅡ	F-10	-
	0200	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	(15.1)	(7.7)	(2.9)	(0.22)	20847	XⅡ	G-11	-
	0201	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	(18.1)	(11.7)	(6.6)	(0.91)	20708	XⅢ	G-10	-
	0202	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	20.8	12.0	9.1	1.31	18906	XⅡ	F-11	-
	0203	石器	ナイフ形石器	台形石器	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	16.9	14.4	7.0	1.27	18903	XⅡ	F-11	-
	0204	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	29.3	18.1	6.7	3.06	21684	XⅢ	G-11	-
	0205	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	B30	OB2	A	29.7	13.8	7.0	1.78	22815	XⅢ	F-11	-
	0206	石器	ナイフ形石器	台形様石器	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	C	29.2	26.0	8.8	4.33	21377	XⅡ	G-11	-
	0207	石器	ナイフ形石器	一側縁加工	Ⅱ	U3	A10	B29	SH	-	(34.4)	(15.8)	(14.5)	(4.88)	19734	XⅢ	F-11	-
	0208	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	44.8	16.3	8.1	4.08	20724	XⅡ	G-11	-
	0209	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	32.7	23.8	16.6	8.63	18933	XⅡ	F-11	-
0210	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	B29	SH	-	(28.7)	(17.3)	(10.2)	(4.01)	20105	XⅢ	F-11	99	
0211	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	(34.2)	(26.0)	(16.9)	(10.50)	22274	XⅢ	G-11	-	
0212	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B29	OB2	A	40.6	20.8	14.3	8.66	19745	XⅢ	F-11	-	
66	0213	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	50.9	22.8	12.0	10.94	21585	XⅢ	G-10	-
	0214	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	57.6	24.3	13.3	19.22	22155	XⅢ	G-11	-
	0215	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	56.7	23.5	8.5	10.30	20264	XⅢ	G-10	-
	0216	石器	三稜尖頭器	基部背面加工	Ⅱ	U3	A10	B33	SH	-	63.0	22.5	13.5	14.94	21197	XⅢ	G-11	-
	0217	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	65.1	28.5	10.9	15.49	20346	XⅡ	G-11	-
	0218	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B29	SH	-	(46.3)	(24.0)	(16.6)	(15.63)	22519	XⅢ	F-11	-
67	0219	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	(25.3)	14.2	(10.4)	(2.87)	20356	XⅡ	G-11	-
	0220	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	B28	OB2	A	24.3	17.8	13.4	5.14	21307	XⅢ	F-10	35
	0221	石器	三稜尖頭器	基部背面加工	Ⅱ	U3	A10	B28	OB2	A	35.4	18.7	14.5	7.46	21273	XⅢ	F-10	-
	0222	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	(26.5)	(20.1)	(13.5)	(6.41)	21269	XⅢ	F-10	-
	0223	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	C	34.4	20.7	12.5	6.58	20352	XⅡ	G-11	-
	0224	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	OB2	A	40.8	22.5	16.3	9.77	21277	XⅢ	F-10	-
	0225	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	31.6	18.0	13.9	5.77	20323	XⅡ	F-10	-
	0226	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器	Ⅱ	U3	A10	B29	OB2	A	(27.1)	(22.9)	(16.5)	(7.19)	20454	XⅢ	F-11	-
	0227	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SS	-	(31.3)	(18.6)	(13.7)	(5.97)	20709	XⅡ	G-11	126
	0228	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SS	-	(37.8)	(20.0)	(15.0)	(9.86)	20124	XⅡ	G-11	126
68	0229	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	47.4	23.8	17.3	21.71	21584	XⅢ	G-10	-
	0230	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	53.9	27.8	17.7	18.64	20324	XⅡ	F-10	-
	0231	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	(47.3)	(25.7)	(21.2)	(23.32)	21766	XⅢ	F-10	-
	0232	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	20.4	16.6	6.0	1.51	20398	XⅡ	G-10	-
	0233	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	18.6	24.0	4.5	1.24	18476	XⅡ	G-11	-
	0234	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	14.0	16.1	7.5	1.29	20008	XⅡ	F-10	-
	0235	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	44.9	24.3	17.4	15.16	20613	XⅢ	F-10	-
	0236	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	(34.1)	(22.3)	(23.3)	(10.59)	22937	XⅢ	G-11	-
	0237	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	B	20.8	25.3	7.0	2.97	20171	XⅡ	G-11	-
69	0238	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	(60.4)	(21.3)	(20.0)	(20.53)	21093	XⅡ	G-11	-
	0239	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B33	SH	-	(44.1)	(28.1)	(19.0)	(17.28)	21196	XⅢ	G-11	97
	0240	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	60.1	24.7	27.5	28.91	21620	XⅡ	G-11	97
	0241	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	17.7	18.1	4.2	1.16	21470	XⅢ	G-11	-
	0242	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	16.1	23.1	6.0	1.27	20889	XⅢ	G-11	-
	0243	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	16.9	25.1	7.0	2.38	21588	XⅢ	G-10	-
	0244	チップ	ブランディングチップ	基部加工	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	32.1	14.2	8.0	2.43	20881	XⅢ	G-11	-
	0245	チップ	ブランディングチップ	基部加工	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	33.2	12.5	6.3	1.29	20906	XⅢ	G-11	-
	0246	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	28	6.8	7.8	1.07	20333	XⅡ	F-10	-
70	0247	石器	スクレイパー	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	39.5	54.2	14.5	27.25	21041	XⅡ	G-10	-
	0248	石器	楔形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	53.5	34.4	11.0	20.07	21553	XⅢ	G-10	-
	0249	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	25.5	18.2	10.0	3.70	20178	XⅡ	G-11	-
	0250	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	(23.7)	(25.1)	(10.0)	(5.43)	20590	XⅢ	F-10	-
	0251	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	(18.3)	(16.3)	(7.2)	(1.88)	20344	XⅡ	F-10	-
	0252	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	C	18.2	26.1	6.8	3.25	21013	XⅡ	G-10	-



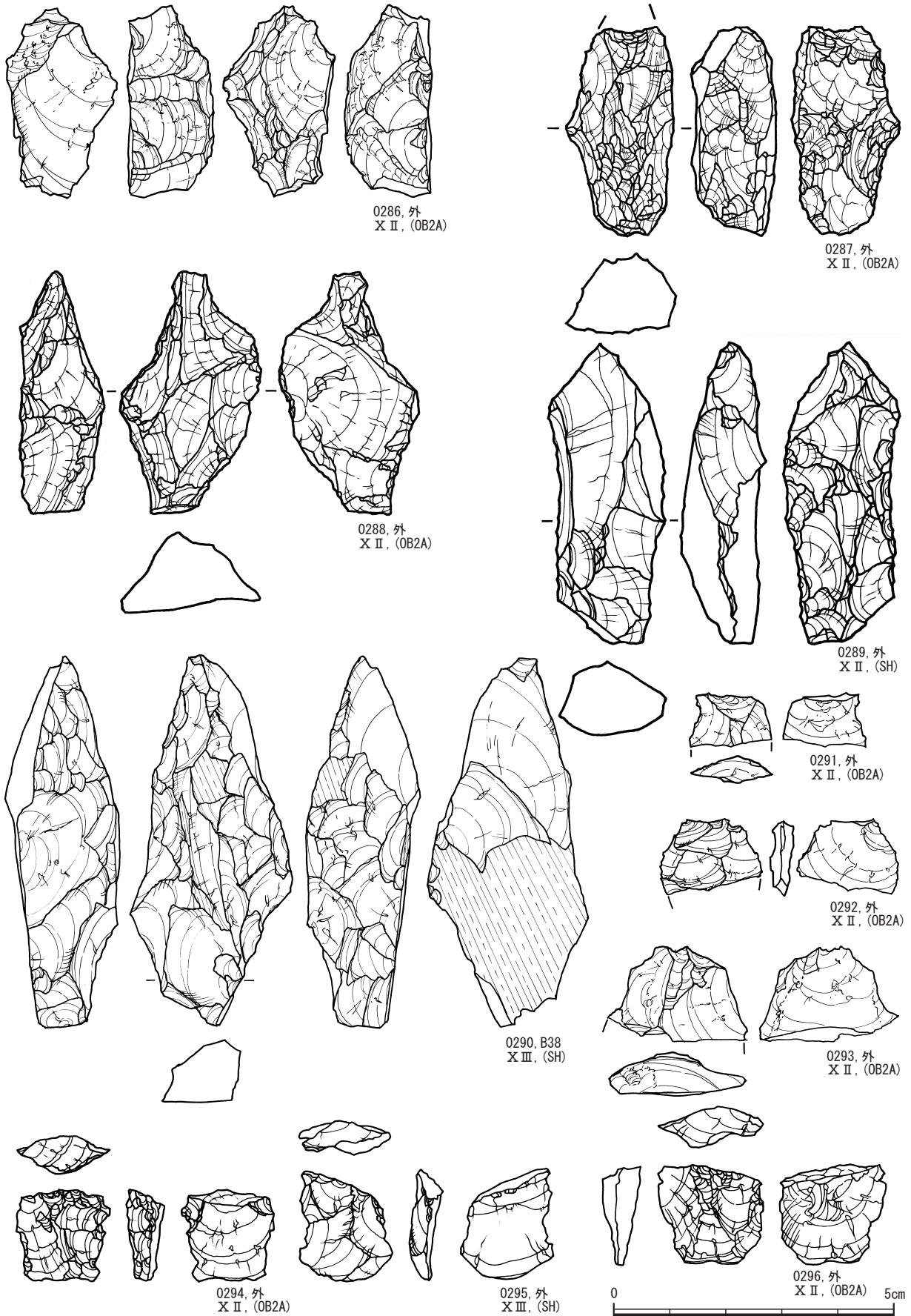
第73図 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア遺物出土状況図

第17表 第Ⅱ文化層第3ユニット第10エリア出土石器観察表(2)

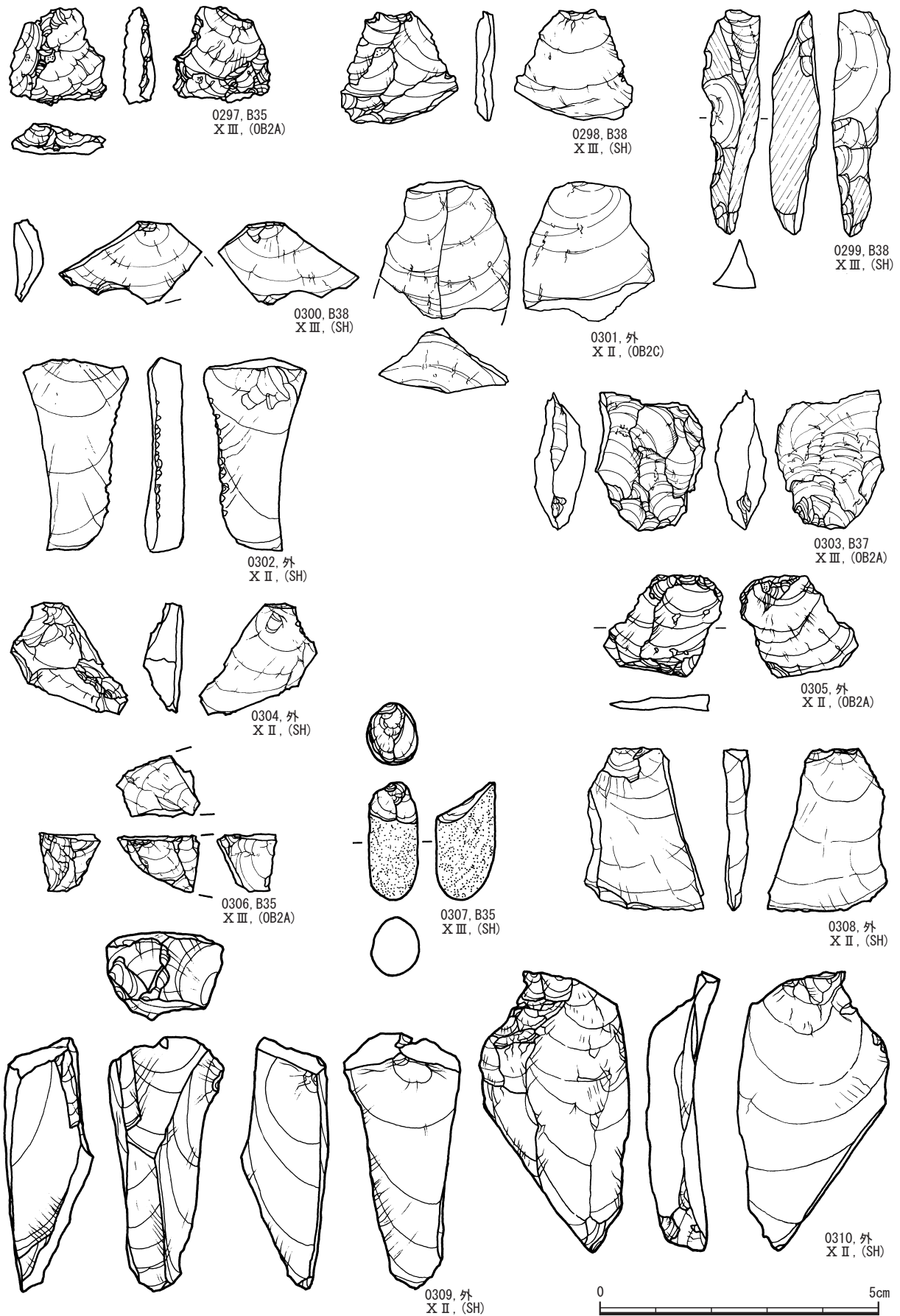
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
70	0253	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	40.4	23.9	10.5	9.60	18470	XⅡ	G-11	108
	0254	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	45.9	28.5	8.1	7.56	20875	XⅢ	G-11	-
71	0255	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	36.4	28.8	14.0	10.48	21242	XⅢ	F-10	-
	0256	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	40.6	28.6	15.2	13.76	18905	XⅡ	F-11	-
	0257	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B33	SH	-	24.5	25.9	6.0	2.41	18901	XⅢ	G-11	-
	0258	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	32.9	32.6	11.2	5.98	21288	XⅢ	F-10	-
	0259	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	21.7	27.2	10.0	4.09	18910	XⅡ	F-11	-
	0260	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	31.9	34.5	9.0	5.89	20953	XⅡ	G-11	-
	0261	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	29.1	14.3	5.5	1.94	20871	XⅡ	G-11	-
	0262	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	22.4	22.0	7.6	3.23	22329	XⅢ	G-11	-
	0263	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B31	OB2	C	25.0	19.2	7.0	2.36	20396	XⅢ	G-10	-
	0264	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SS	-	26.3	37.4	8.0	4.80	21213	XⅢ	G-11	-
72	0265	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	37.2	13.7	7.9	3.06	21218	XⅢ	G-11	-
	0266	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	33.3	30.6	14.0	13.12	18462	XⅡ	G-11	98
	0267	石器	ハンマー	-	Ⅱ	U3	A10	外	PA	-	34.9	24.3	15.1	16.48	22907	XⅣ	G-11	-
	0268	石器	ハンマー	-	Ⅱ	U3	A10	B31	CC	-	34.3	28.9	12.5	18.06	22054	XⅢ	G-10	-
	0269	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	33.1	30.8	15.0	8.85	21627	XⅢ	G-11	-



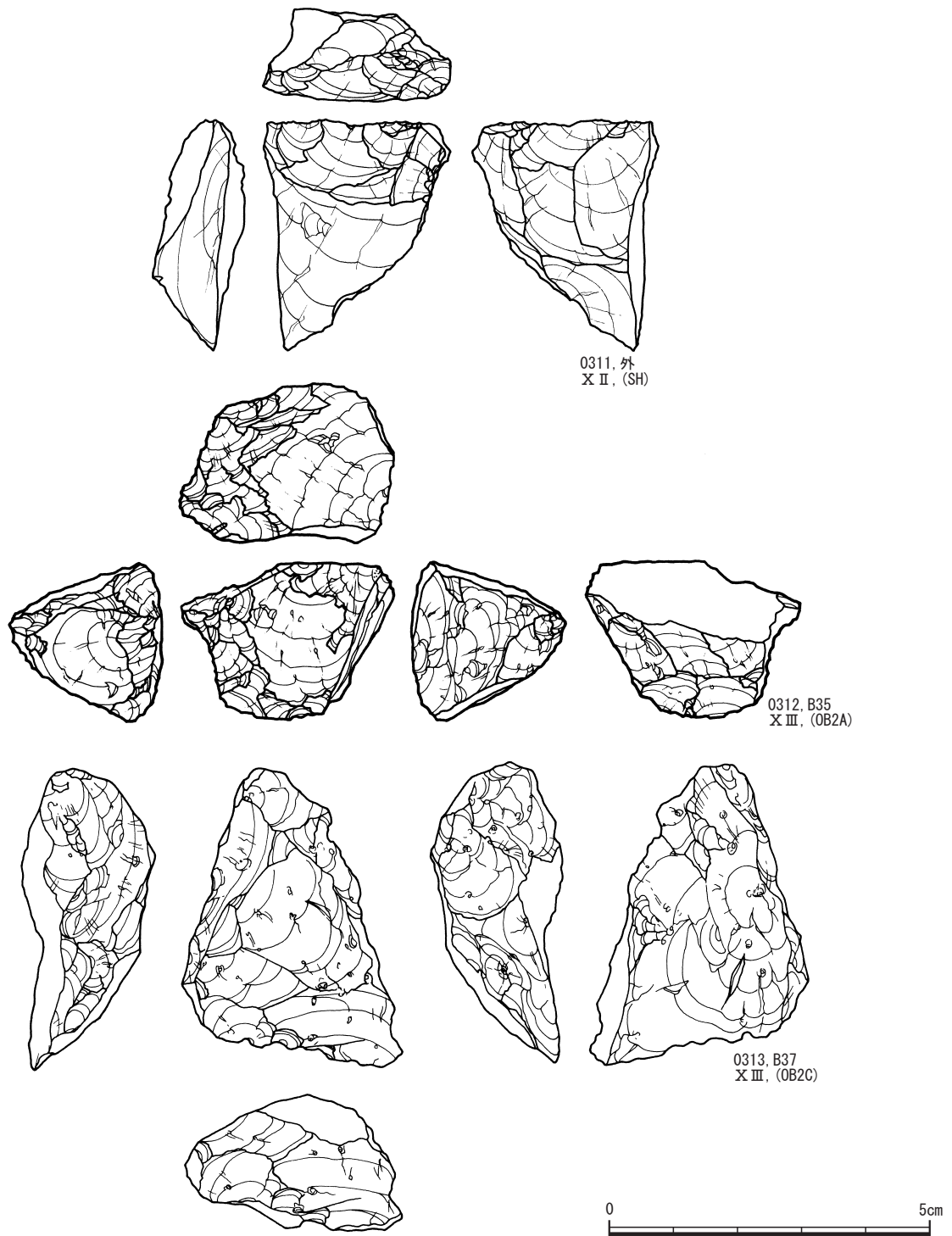
第74図 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(1)



第75図 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(2)



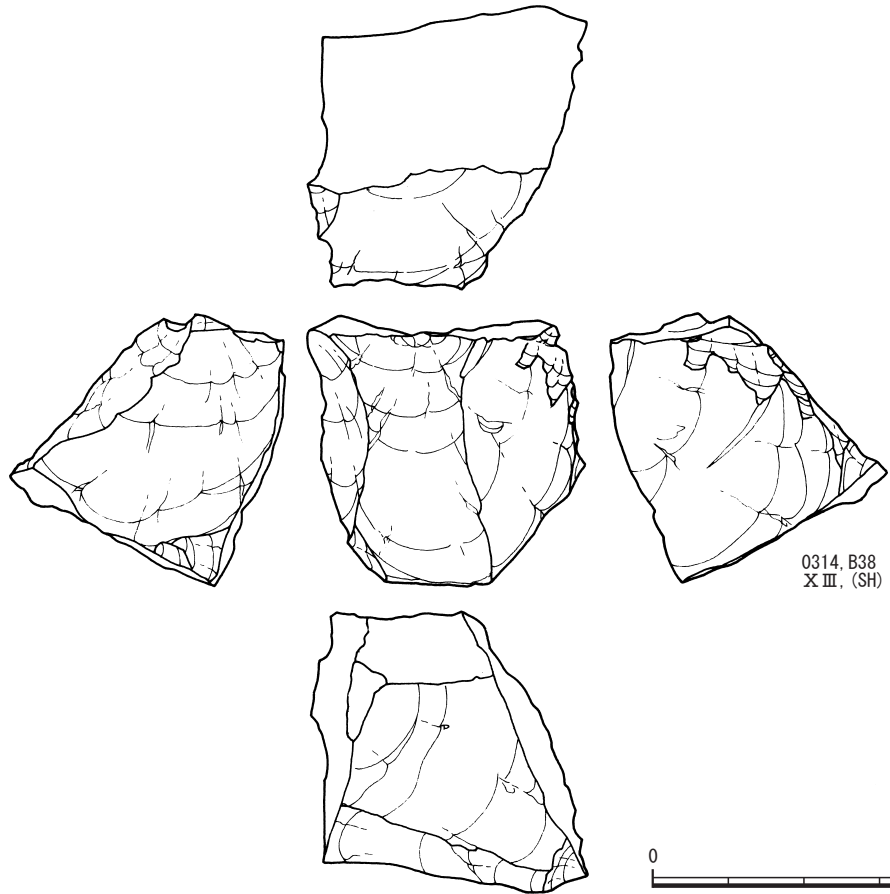
第76図 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(3)



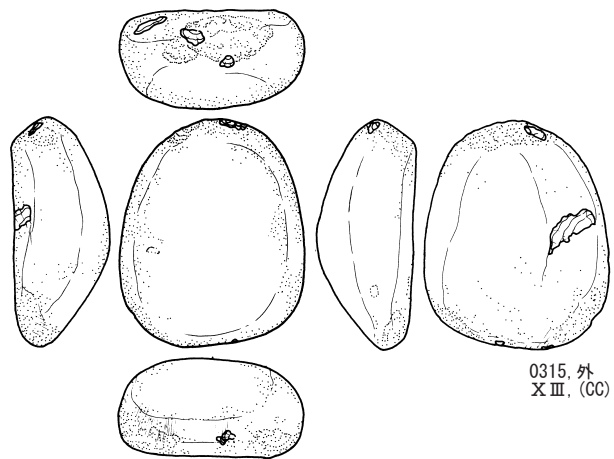
第77図 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(4)

器12点(0201, 0203~0210, 0214, 0215, 0217), 二次加工のある剥片7点(0202, 0211, 0220, 0223, 0226, 0246, 0250), 三稜尖頭器19点(0212, 0213, 0216, 0218, 0219, 0221, 0222, 0224, 0225, 0227~0231, 0235, 0236, 0238~0240), スクレイパー1点(0247), 楔形石器1点(0248), 微細剥離痕のある剥片2点(0254, 0255), ハンマーストーン2点(0267, 0268)が確認できる。また, 剥片の中で(0249, 0251~0253)の4点は, 折断剥片と観察できる。

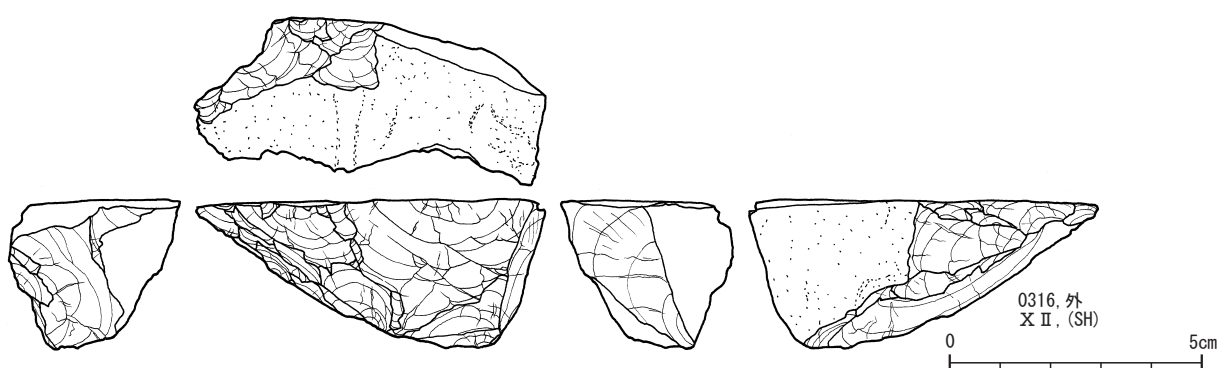
0201のナイフ形石器は先端部に相当し, 右側縁に細かい刃潰しを確認できる。良質な素材を選択したと思われる。0207も先端部で, 打面側に刃潰し加工を行う。素材剥片は翼状剥片の可能性が高く, 急角度の刃部を成している。0205は打面側の左側の側縁に刃潰し加工が集中する。0203, 0204, 0206は不定形剥片の両側縁を主に腹面から刃潰し加工した両側縁加工(台形及び台形様石器)である。0208は剥離方向の移動した縦長剥片を使用したも



0314, B38
X III, (SH)



0315, 外
X III, (CC)



0316, 外
X II, (SH)

第78図 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(5)

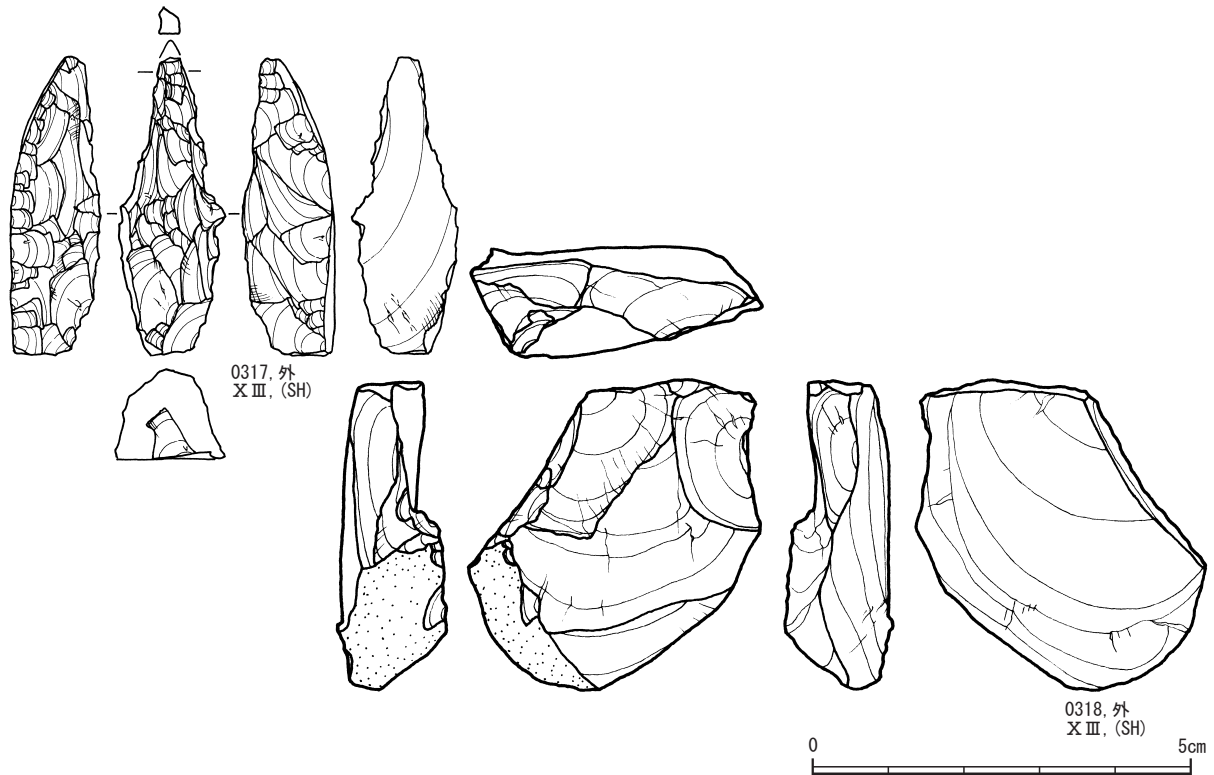
ので、基部と先端部側縁に刃潰し加工が見られ、腹面にも及ぶ。0215は扁平な縦長剥片を用いた二側縁加工ナイフ形石器で、二側縁に急角度の入念な刃潰し加工がみられる。なお、刃部にみられる小剥離は刃こぼれと認識できる。0214の背面には礫皮面が残され、分厚い横長剥ぎ剥片の打面側に腹面から刃潰し加工を行い、端部側は背面からの整形剥離をそのまま活かし、先端部が刃部となる。素材剥片の特徴をそのまま残し、体部中央は厚く残

される。0217も剥離方向の移動する剥片を使用し、二側縁に刃潰し加工がみられる。

三稜尖頭器は19点とした。0213は先にナイフ形石器とした0215と近似した剥片を用い、刃潰し加工により鋭い尖頭部を作り出している。同様なことは0216でも認められ、扁平な素材の側縁は腹面からの明瞭な刃潰し加工で鋭い尖頭部を作り出している。また、平坦剥離と入念な基部の腹面加工が認められる。0221, 0224, 0238の3点以

第18表 第Ⅱ文化層第3ユニット第11エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
74	0271	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A11	B35	OB2	A	(11.8)	(6.8)	(2.1)	(0.12)	18821	XⅢ	F-11	-
	0272	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	(7.5)	(5.0)	(1.6)	(0.05)	9604	XⅡ	F-12	-
	0273	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	(6.8)	(6.8)	(1.4)	(0.04)	18448	XⅡ	G-11	-
	0274	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	(9.0)	(10.6)	(2.0)	(0.13)	22757	XⅡ	G-11	-
	0275	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	(18.9)	(7.7)	(2.1)	(0.18)	19540	XⅡ	F-11	-
	0276	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	17.5	12.0	7.5	1.25	9408	XⅡ	F-12	-
	0277	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	25.9	18.0	8.6	2.86	18417	XⅡ	F-11	-
	0278	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A11	B35	SH	-	33.1	18.0	7.4	2.56	19491	XⅢ	F-11	-
	0279	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A11	B38	SH	-	(53.4)	18.9	(13.5)	(12.11)	19548	XⅢ	F-11	-
	0280	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	49.0	17.2	13.7	8.50	23121	XⅢ	F-11	-
	0281	石器	三稜尖頭器	先端部	Ⅱ	U3	A11	B35	OB2	A	(16.1)	(10.7)	(14.1)	(1.44)	19418	XⅢ	F-11	-
	0282	石器	三稜尖頭器	先端部	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	(18.5)	(10.5)	(8.0)	(0.98)	19518	XⅢ	F-11	-
	0283	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	31.0	15.0	11.7	4.58	18886	XⅢ	F-11	-
	0284	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	B35	OB2	A	33.0	18.6	15.0	5.80	22515	XⅢ	F-11	-
	0285	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	31.1	18.6	14.5	6.46	18405	XⅡ	F-11	87
75	0286	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	34.1	20.2	15.7	9.46	18404	XⅡ	F-11	-
	0287	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	(37.6)	(19.6)	(15.5)	(11.09)	16917	XⅡ	F-11	-
	0288	石器	錐状石器	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	43.4	25.5	15.7	12.07	18877	XⅡ	F-11	-
	0289	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	53.6	21.2	15.5	14.93	18431	XⅡ	F-11	107
	0290	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	A11	B38	SH	-	66.1	29.1	21.0	29.62	266,267	XⅢ	F-12	-
	0291	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	(9.8)	(14.7)	(5.0)	(0.70)	18966	XⅡ	F-11	-
	0292	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	(13.6)	(18.4)	(4.4)	(0.71)	16915	XⅡ	F-11	-
	0293	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	(17.1)	(25.1)	(8.0)	(2.53)	9480	XⅡ	F-12	-
	0294	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	16.6	17.0	6.8	1.35	16745	XⅡ	F-11	-
	0295	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	19.8	16.8	6.2	1.23	19534	XⅢ	F-11	-
	0296	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	17.9	19.0	7.0	1.63	16902	XⅡ	F-11	-
76	0297	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A11	B35	OB2	A	17.7	17.6	5.8	1.38	19443	XⅢ	F-11	-
	0298	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U3	A11	B38	SH	-	20.3	21.1	3.8	1.06	268	XⅢ	F-12	-
	0299	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A11	B38	SH	-	40.3	10.5	9.0	2.62	19826	XⅢ	F-11	-
	0300	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U3	A11	B38	SH	-	(15.0)	(25.7)	(5.5)	(0.95)	10574	XⅢ	F-12	-
	0301	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	C	(24.9)	(23.5)	(11.0)	(4.44)	16909	XⅡ	F-11	-
	0302	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	34.4	19.0	7.0	3.34	18383	XⅡ	F-11	-
	0303	石器	二次加工痕のある剥片	部分加工	Ⅱ	U3	A11	B37	OB2	A	24.9	19.8	9.0	3.58	10552	XⅢ	F-12	-
	0304	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	20.3	21.2	7.5	1.61	22763	XⅡ	F-12	-
	0305	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	OB2	A	18.4	21.5	5.0	1.25	22730	XⅡ	F-11	-
	0306	石核	残核	-	Ⅱ	U3	A11	B35	OB2	A	(10.5)	(14.9)	(11.0)	(1.22)	18872	XⅢ	F-11	-
	0307	石器	ハンマー	-	Ⅱ	U3	A11	B35	SH	-	21.4	9.2	10.5	2.35	20084	XⅢ	F-11	-
	0308	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	29.3	21.6	5.0	2.74	18415	XⅡ	F-11	-
	0309	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	45.8	21.0	15.6	11.65	18881	XⅡ	F-11	-
	0310	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	50.6	27.3	13.0	11.58	18869	XⅡ	F-11	-
77	0311	石核	残核	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	36.2	29.3	14.5	12.27	18455	XⅡ	G-11	-
	0312	石核	-	-	Ⅱ	U3	A11	B35	OB2	A	24.8	33.4	24.5	15.03	16798	XⅢ	F-11	-
	0313	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A11	B37	OB2	C	46.6	34.5	21.0	22.21	9774	XⅢ	F-12	-
78	0314	石核	-	-	Ⅱ	U3	A11	B38	SH	-	35.9	36.9	36.5	40.99	22737	XⅢ	F-11	-
	0315	石器	ハンマー	-	Ⅱ	U3	A11	外	CC	-	45.0	36.7	18.7	45.50	21091	XⅢ	F-11	-
	0316	石核	-	-	Ⅱ	U3	A11	外	SH	-	29.9	69.3	33.8	57.64	19555	XⅡ	G-11	-



第79図 第Ⅱ文化層第3ユニットエリア外出土石器実測図

外はほとんどが欠損品ないしは製作途上と判断される。0221では、先端部右側縁に微細な調整剥離が、また、基部の腹面加工も認められることから完成品と判断できそうである。0218は稜上剥離や入念な基部の腹面調整もみられるが、先端部の欠落の背景は明らかでない。なお、基部の稜上剥離は、器高を減少する目的とみられる。また、腹面の細かい調整剥離、基部の稜上剥離からは、装着意図が強く感じ取られる。0229～0231, 0239, 0240は製作途上での欠損あるいは放棄と判断できると同時に、腹面への調整加工の痕跡が目立つ。

二次加工のある剥片とした0220, 0223, 0226は三稜尖頭器関連とみられる。なお、0223は、三稜尖頭器の素材剥片に近いのかもしれない。

0248は、その整形位置や形状から楔形石器として取り扱った。0247は厚手の剥片の下端部に二次加工し刃部を作り出したもので、スクレイパー的機能が考えられる。ブランティングチップの0241～0243については、三稜尖頭器製作時の稜上からの調整剥片と判断し、0244, 0245は基部の腹面調整剥片の可能性が考えられる。

2点のハンマーストーンはいずれも小型で、0267は上下両端と側縁、0268は上下の両端に敲打痕やハンマーストーン特有の痕跡が残る。

この第10エリアが分布範囲も広く、出土遺物も最も充実している。

第1に注目したいのが頁岩を使用した扁平な縦長剥片素材の石器の存在である。製品は確認されているがその一方、その石材の石核や剥片、石器製作に直結するブランティングチップはほとんど見いだせない。

次に、厚手の剥片を素材とした黒曜石及び頁岩の三稜尖頭器は、未製品や破損品が多く残されることから、エリア内で製作が行われたことを示している。したがって、第10エリアでは、エリア内での石器製作行為とそれにより作り出された製品と、エリア外で製作した扁平な縦長剥片から作り出され持ち込まれた可能性の高い製品が存在することとなる。

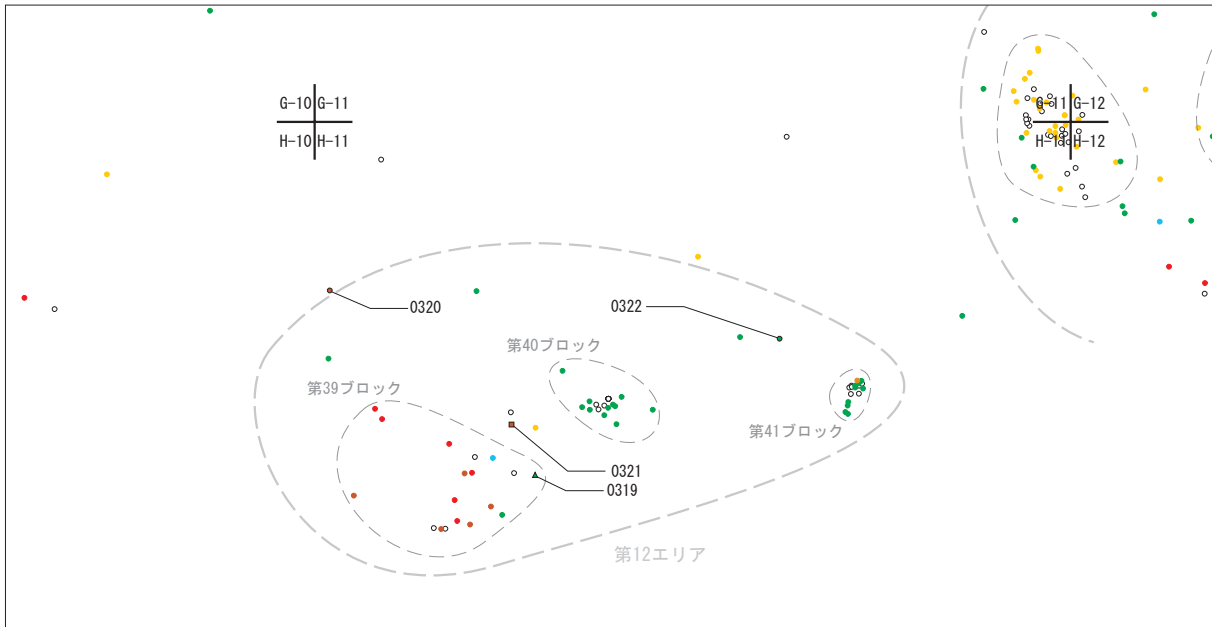
第11エリア(第73図, 第74～78図)

第11エリアはF, G-11, 12区に展開し、4か所のブロックからなる。第35ブロックは黒曜石Ⅱ-A類主体、第36ブロックは黒曜石Ⅱ-A類3点の単独、第37ブロックは黒曜石Ⅱ-A類中心に黒曜石Ⅱ-C類等が少量混じる石材、第38ブロックは頁岩の主体石材で形成される。

器種は、細石刃5点(0271～0275)、ナイフ形石器5点(0276～0280)、三稜尖頭器9点(0281～0290)、錐状石器

第19表 第Ⅱ文化層第3ユニットエリア外出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
-	0317	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U3	外	外	SH	-	(39.5)	(14.3)	(12.1)	(3.98)	9828	XⅢ	F-12	-
-	0318	石核	-	-	Ⅱ	U3	外	外	SH	-	41.3	38.9	15.0	22.38	9829	XⅢ	F-12	-



第80図 第Ⅱ文化層第4ユニット第12エリア遺物出土状況図

1点(0288), 二次加工のある剥片3点(0299, 0303, 0313), 石核5点(0306, 0311, 0312, 0314, 0316), ハンマーストーン2点(0307, 0315)の他, 折断剥片, 微細剥離痕のある剥片等で構成される。

ナイフ形石器の0276は破損しているが, 基部と判断できる。0277は剥片の両側縁と下端部の3面に刃潰し加工を行い, 台形様に仕上げている。0278は打瘤部を除去し, 横剥ぎ剥片の形状を大きく変えずに刃潰しを行っている。0279は素材剥片の特徴を活かし, 剥片の断面三角形の一面を刃潰し加工し, 稜上からの加工も認められる。シャープな一辺を刃部とし, 基部は, 装着を意識した加工が感じられる。0280も類似の剥片を用いているが, 刃部の先端部は頂部方向からのダメージで欠損している。

0281, 0282は三稜尖頭器の先端部, 0284, 0286は図示と逆の基部の可能性もある。0283は小型であるが調整加工の状態から完成品であろう。0287は先端部が破損した後, 破損部から表裏面に再加工した痕跡が観察される。0289は背面の調整より腹面への加工が認められる。0290は主として側縁からの加工が行われ, 稜上からの加工は認められない。

二次加工のある剥片0299は稜の高い細身の剥片に刃潰し状の加工を行っている。0313は天地逆で, 両側縁に刃潰し加工を持つ台形様の形態を持つ。

5点の石核のうち0306は残核, これらの石核からは剥離方向が移動していることが観察できる。0312, 0314は分割面を, 0316は礫皮面をそのまま打面としている。その他, 微細剥離痕を持つ0302, 折断剥片0291～0294, 0297, 0301等が確認できる。

0307のハンマーストーンは小型の棒状で, 上位は破損している。的確に図示できていないが, 下端部に特有の使用痕が残される。0315は扁平な円礫を用い, 主に上下

の両端が使用されている。

ここ第11エリアでもブランディングチップや剥片等が存在することから, 石器製作に関わっていたと思われる。また, 第10エリアとの区分については, 第33ブロック第34ブロックとの間に干渉帯が見い出せることから判断したが, 第10エリアで特徴的であった頁岩使用のナイフ形石器も存在することから, 再考も視野に入れる必要もある。

エリア外(第79図)

第3ユニットのエリア外の遺物として, 0317の三稜尖頭器と0318の石核を示した。

0317はわずかに先端部が欠損しているが, 側縁及び稜上調整も入念に行っている。0318の石核は礫を4分割した可能性を示している。

第4ユニット

第4ユニットは, G, H-11区からH-15区に最大長40m, 最大幅20mの楕円形状に分布し, 南側半分は調査区域外に逃げる。このユニットは, 傾斜面の中央部平坦面に立地し, さらに, 5つのエリア(第12～第16エリア)で構成される。

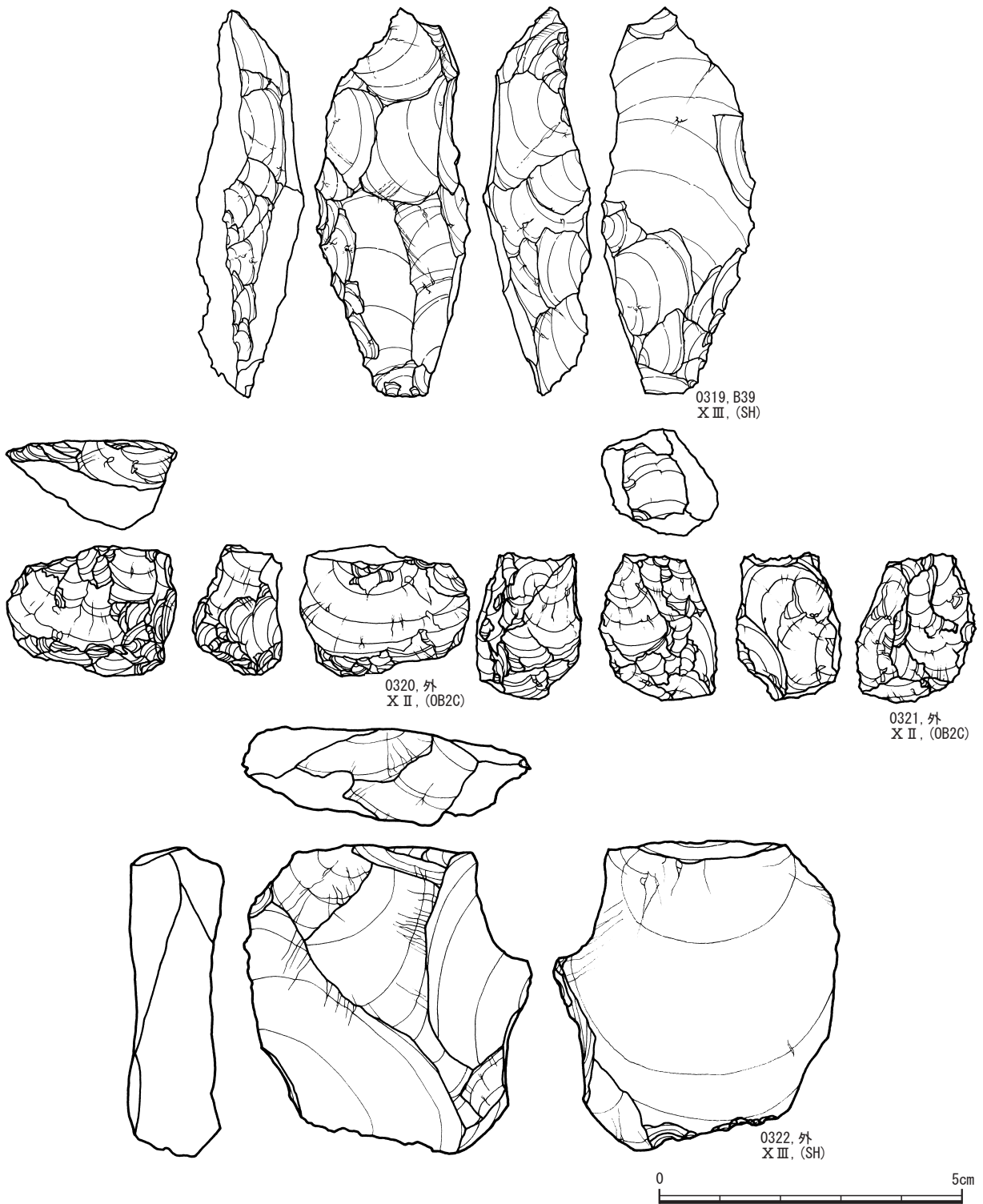
この付近には大量の遺物が集中して出土している。

第12エリア(第80, 第81図)

第12エリアはH-11区に分布し, 遺物の集中は他と比べて多くはないが, 3か所のブロックからなる。

ブロックを構成する石材は第39ブロックでは黒曜石Ⅱ-A類, 黒曜石Ⅱ-C類, 黒曜石Ⅲ類, 頁岩, 第40ブロック, 第41ブロックは頁岩となる。

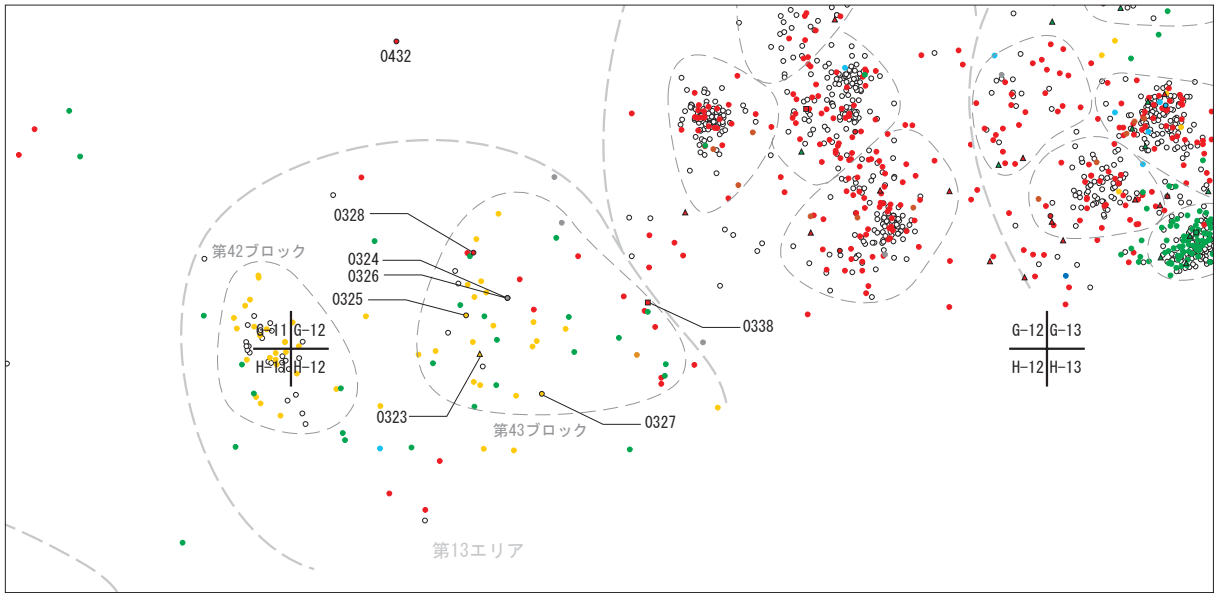
遺物は第39ブロックからナイフ形石器1点(0319)が確



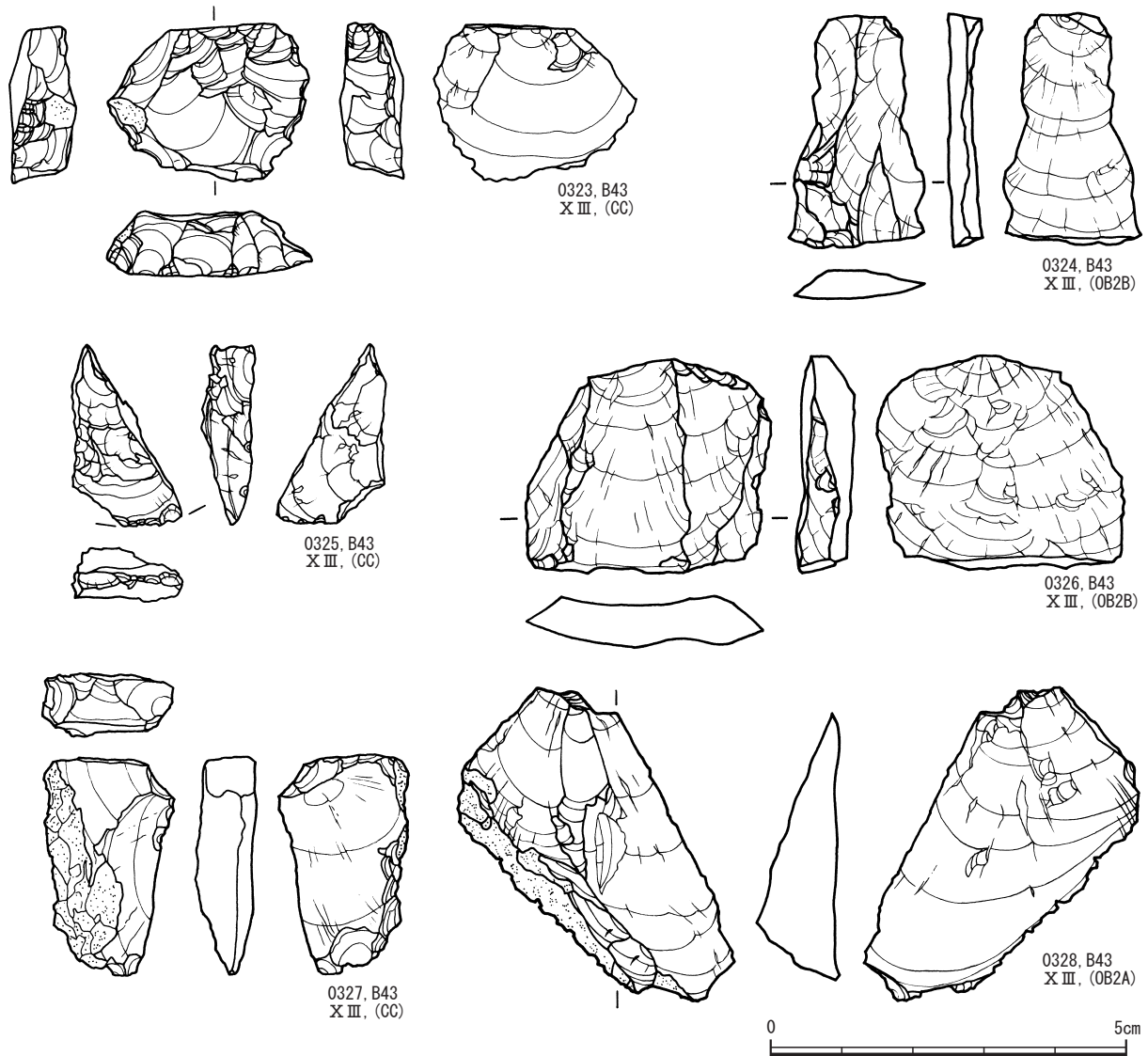
第81図 第Ⅱ文化層第4ユニット第12エリア出土石器実測図

第20表 第Ⅱ文化層第4ユニット第12エリア出土石器観察表

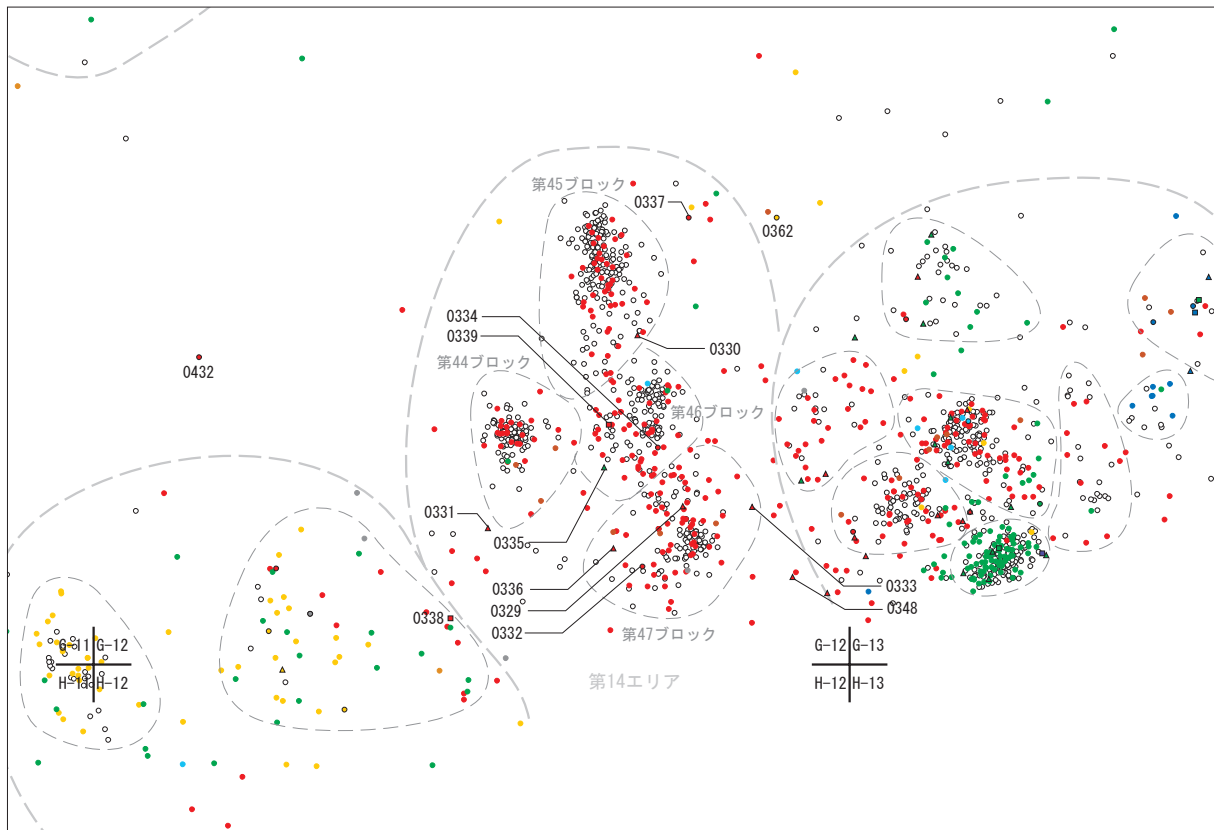
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニ ット	エリ ア	ブロッ ク	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリ ッド	接合 No
81	0319	石器	ナイフ形石器	基部背面加工	Ⅱ	U4	A12	B39	SH	-	64.2	25.8	18.0	22.35	23073	XⅢ	H-11	-
	0320	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A12	外	OB2	C	21.8	28.1	15.0	6.67	23057	XⅡ	H-11	-
	0321	石核	-	-	Ⅱ	U4	A12	外	OB2	C	24.4	19.7	17.5	7.94	21599	XⅡ	H-11	-
	0322	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A12	外	SH	-	51.1	47.7	16.8	34.58	21079	XⅢ	H-11	-



第82図 第Ⅱ文化層第4ユニット第13エリア遺物出土状況図



第83図 第Ⅱ文化層第4ユニット第13エリア出土石器実測図



第84図 第Ⅱ文化層第4ユニット第14エリア遺物出土状況図

認められている。素材剥片は分厚い縦長剥片で、右側縁全域と左側縁中央部までに、腹面方向から刃潰し加工を行い、左先端部を刃部としている。基部の腹面加工は打瘤の除去を兼ねたものである。なお、先端部は欠損とみられる。

0320以下はブロック外からの出土遺物で、0321は石核、0322の剥片の下端部には微細な剥離痕が見られ、二次的に使用されている。

チップも存在することから、石器製作を行ったと判断される。

第13エリア(第82図, 第83図)

第12エリアとは遺物の分布しない明らかな干渉帯が存在し、一方、第14エリアとは接しているが、使用石材の相違を根拠にエリア区分を行った。なお、第42ブロックではギョクズイ中心、第43ブロックは石材黒曜石Ⅱ-A類、ギョクズイ、頁岩がほぼ同様に構成する。

明確な器種としては0323のスクレイパー1点で、剥片の下端部に角度の大きい刃部、右側縁に角度の小さい刃部を設けている。搔器と削器を併用した感がある。0325の下端部には微細な剥離痕が残る。0324, 0326は折断剥片、0327, 0328は剥片である。

チップが主体であることから、石器製作に関するエリアである可能性が高い。

第14エリア(第84図, 第85, 86図)

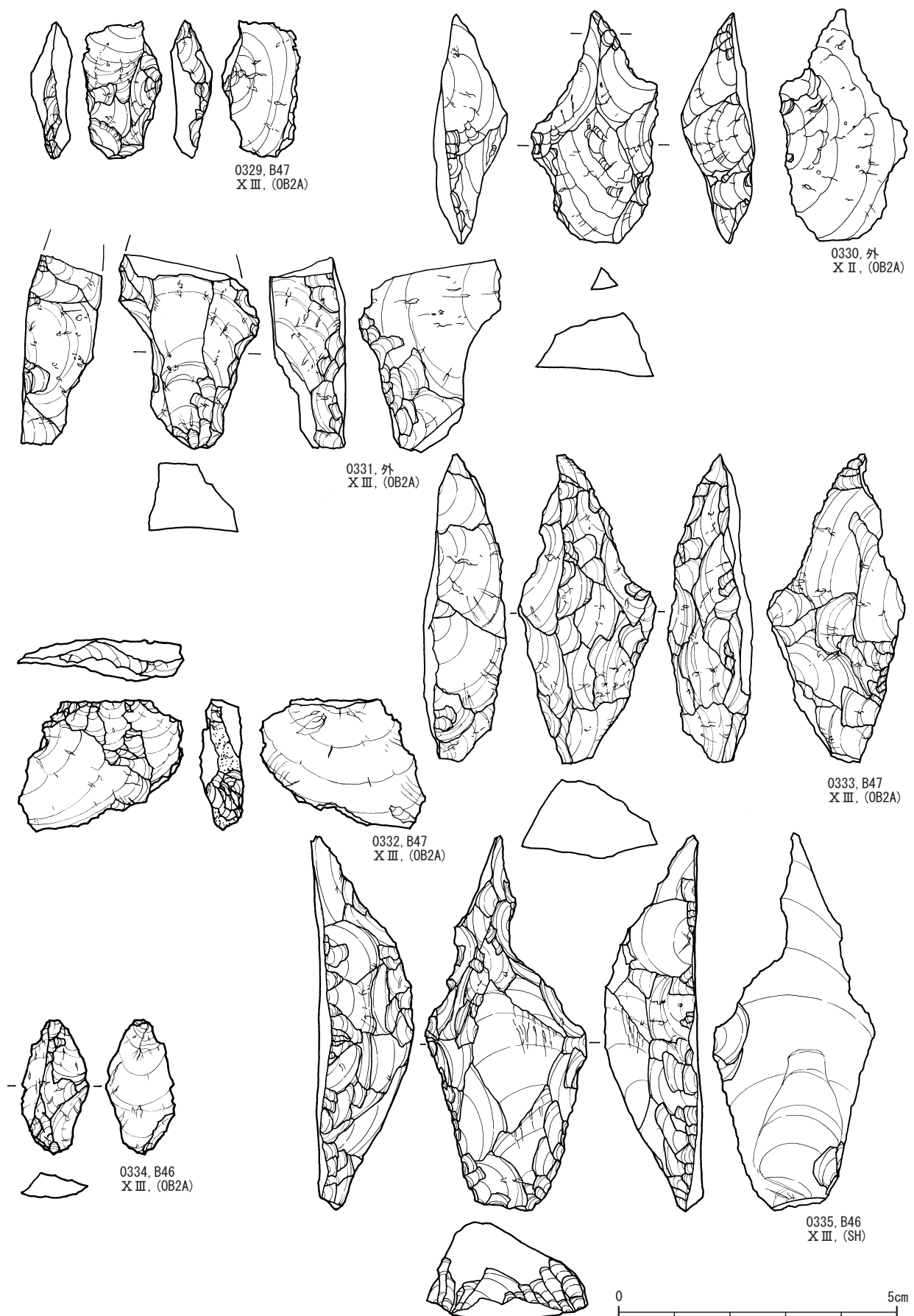
第4ユニットの中央部に位置し、G-12区に展開し、4か所のブロックを把握している。

ブロックは全て、黒曜石Ⅱ-A類主体の石材で構成する。

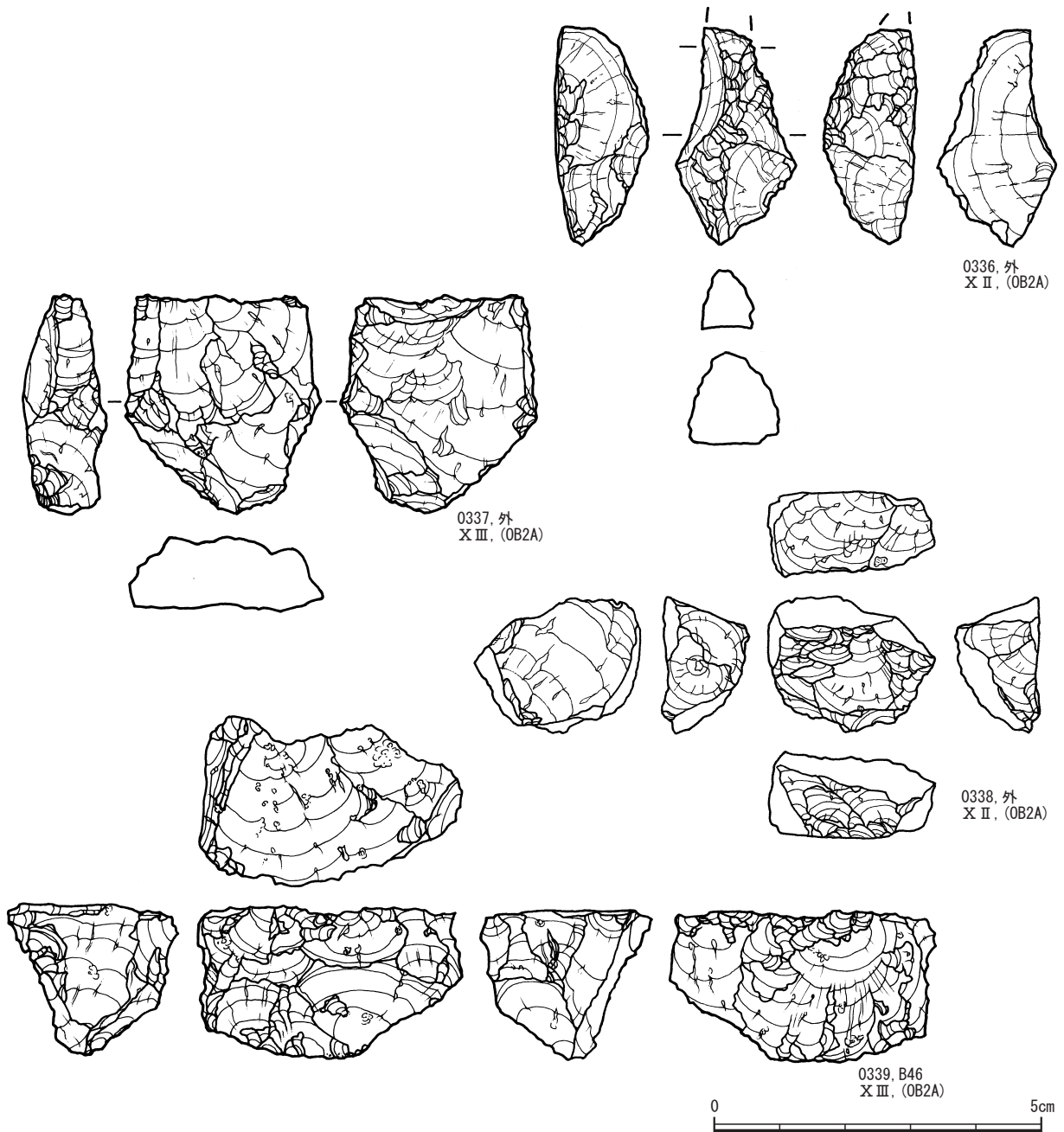
石器の器種は、ナイフ形石器1点(0329)、三稜尖頭器3点(0333, 0335, 0336)、錐状石器1点(0330)、剥片尖頭器1点(0331)、石核2点(0338, 0339)と微細剥離痕のある剥片(0334)である。

第21表 第Ⅱ文化層第4ユニット第13エリア出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
83	0323	石器	スクレイパー	搔器	Ⅱ	U4	A13	B43	CC	-	22.2	28.5	9.5	6.51	9865	XⅢ	H-12	-
	0324	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U4	A13	B43	OB2	B	32.7	19.4	5.1	2.26	9858	XⅢ	G-12	-
	0325	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A13	B43	CC	-	(25.7)	(15.6)	(7.7)	(2.04)	9854	XⅢ	G-12	-
	0326	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U4	A13	B43	OB2	B	30.3	34.7	8.6	8.72	9858	XⅢ	G-12	-
	0327	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A13	B43	CC	-	30.8	18.6	9.0	4.72	9868	XⅢ	H-12	-
	0328	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A13	B43	OB2	A	44.1	39.1	13.2	12.74	10494	XⅢ	G-12	-



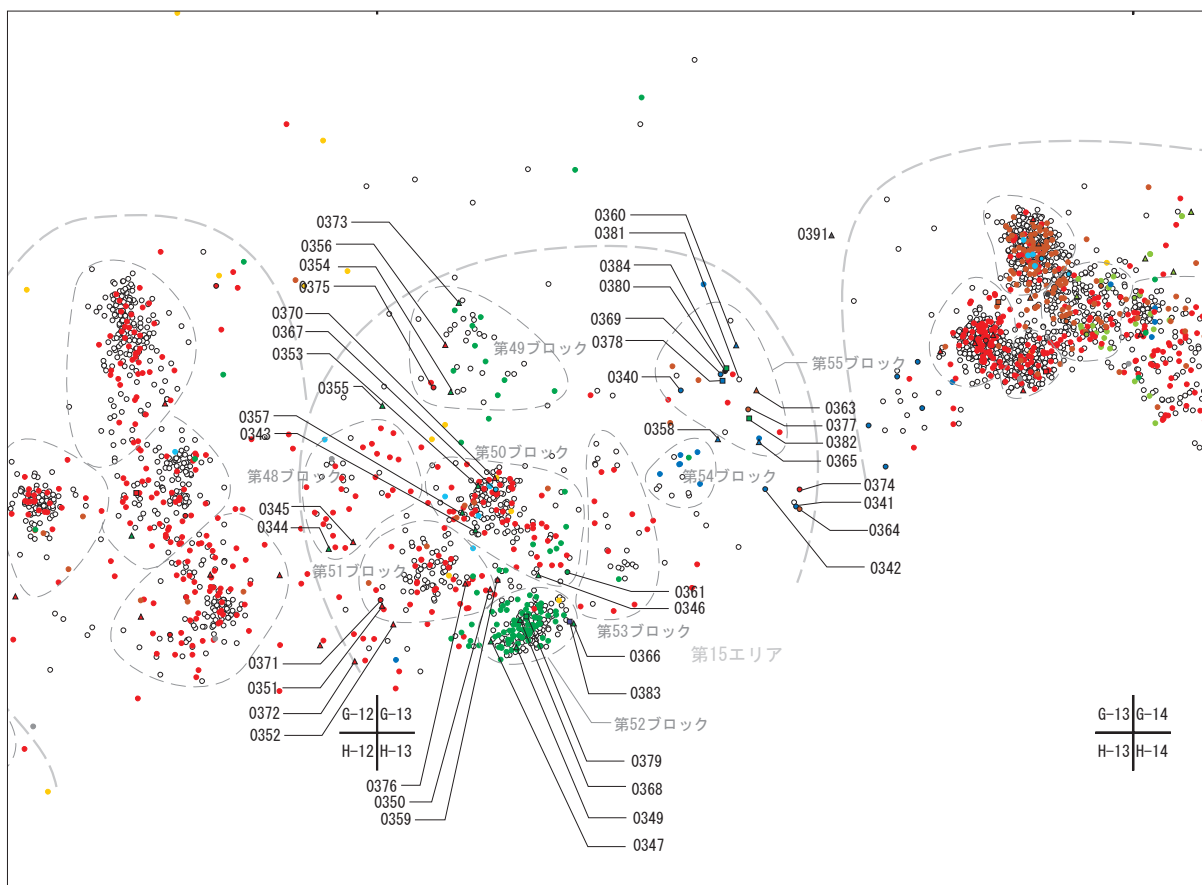
第85図 第Ⅱ文化層第4ユニット第14エリア出土石器実測図(1)



第86図 第Ⅱ文化層第4ユニット第14エリア出土石器実測図(2)

第22表 第Ⅱ文化層第4ユニット第14エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
85	0329	石器	ナイフ形石器	台形石器?	Ⅱ	U4	A14	B47	OB2	A	24.9	14.6	7.5	2.00	10268	XⅢ	G-12	-
	0330	石器	錐状石器	-	Ⅱ	U4	A14	外	OB2	A	41.8	23.0	13.2	7.44	9195	XⅡ	G-12	-
	0331	石器	剥片尖頭器	-	Ⅱ	U4	A14	外	OB2	A	(35.1)	25.4	(14.0)	(9.59)	10911	XⅢ	G-12	-
	0332	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A14	B47	OB2	A	23.6	29.9	8.0	4.31	10236	XⅢ	G-12	-
	0333	石器	三稜尖頭器	基部背面加工	Ⅱ	U4	A14	B47	OB2	A	55.5	25.0	15.0	14.08	10977	XⅢ	G-12	-
	0334	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A14	B46	OB2	A	24.3	12.3	5.1	1.03	11314	XⅢ	G-12	-
	0335	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A14	B46	SH	-	67.4	29.2	18.5	23.17	10909	XⅢ	G-12	-
86	0336	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A14	外	OB2	A	(33.3)	18.7	(14.8)	(6.37)	9303	XⅡ	G-12	-
	0337	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A14	外	OB2	A	33.6	30.2	13.0	11.35	10796	XⅢ	G-12	62
	0338	石核	残核	-	Ⅱ	U4	A14	外	OB2	A	21.0	25.8	13.5	6.90	10210	XⅡ	G-12	-
	0339	石核	-	-	Ⅱ	U4	A14	B46	OB2	A	23.5	40.6	26.5	20.46	11323	XⅢ	G-12	-



第87図 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア遺物出土状況図

0329のナイフ形石器については、両側縁と底面に調整剥離痕が存在することから、台形様石器と判断した。0331は剥片尖頭器としているが、使用石材が類例の少ない黒曜石を用いていること、また、剥片尖頭器の特徴である基部の挟り整形が密でないことなどから認定には課題も残る。

三稜尖頭器0336の先端部は欠落し、0333は完成品と判断できる。2点とも稜上からの調整剥離、基部の腹面加工は安定している。0335については厚手の剥片を用い、両側縁に調整加工が明瞭にあり、稜上からの調整剥離も認められることから判断している。0330の錐状石器は、先端部が一回の剥離で終わり、微細な調整剥離がみられることから判断しているが、基本的には三稜尖頭器の製作手法と変わらない。

微細剥離痕のある剥片0334の下端部、側縁には明瞭な刃こぼれが残される。

石核の2点のうち、0338は残核、0339は作業面高で4cm程しか無く、出土している石器が5cmを越すものも存在することと食い違いが見える。打面転移が繰り返されたことが、読みとれる。

第15エリア(第87図、第88～94図)

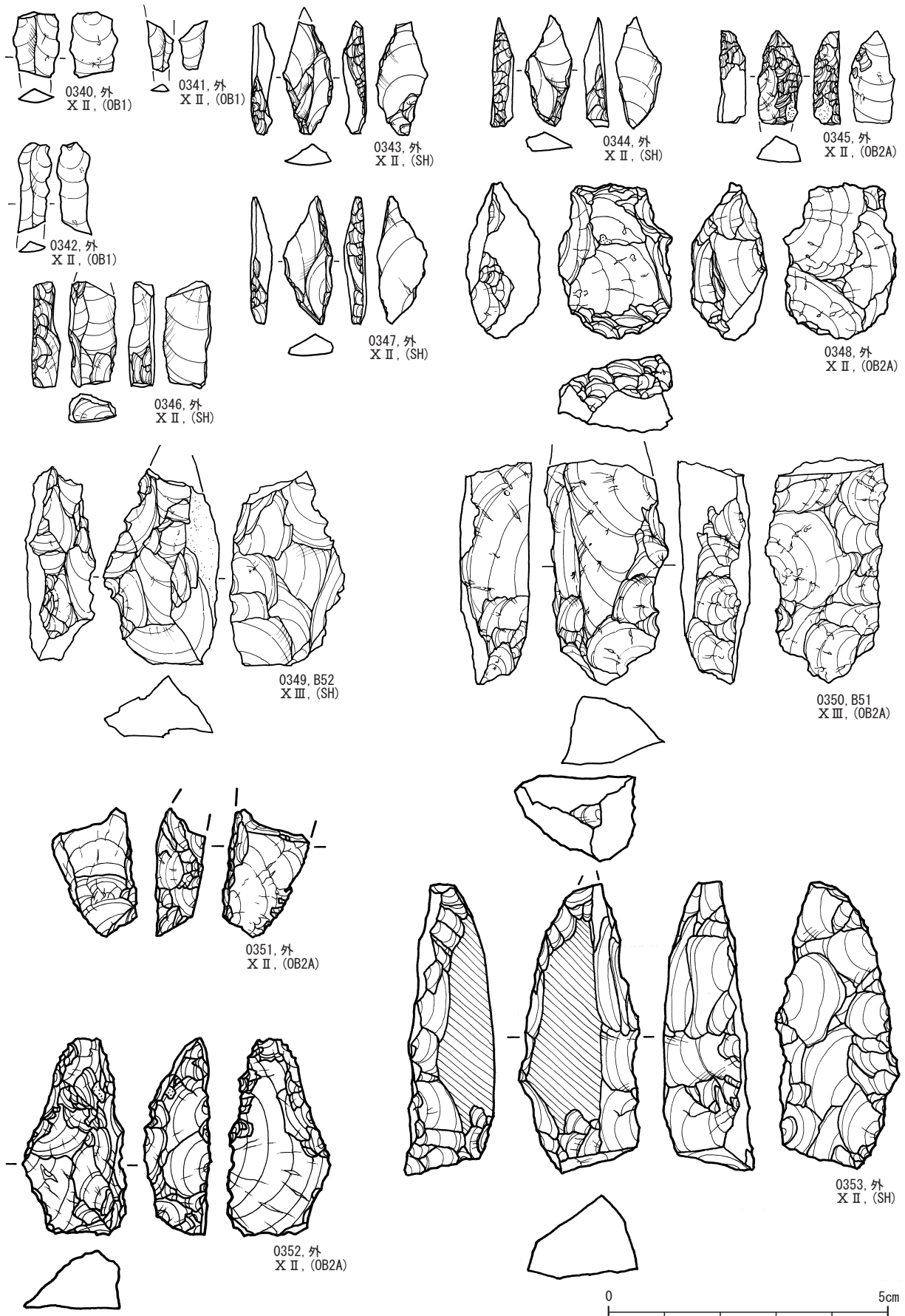
G-12, 13区に展開し、南側は調査範囲からはずれるため直線的な分布傾向を示している。遺物密集部を中心に広域に散在するが、使用石材等から8か所のブロックに細分した。

第48～51, 53ブロックの主要石材は黒曜石Ⅱ-A類、第49, 52ブロックでの主要石材は頁岩、第54ブロックでは黒曜石Ⅰ類、第55ブロックでは黒曜石Ⅰ類、黒曜石Ⅱ-A類、黒曜石Ⅱ-C類、頁岩が使われている。

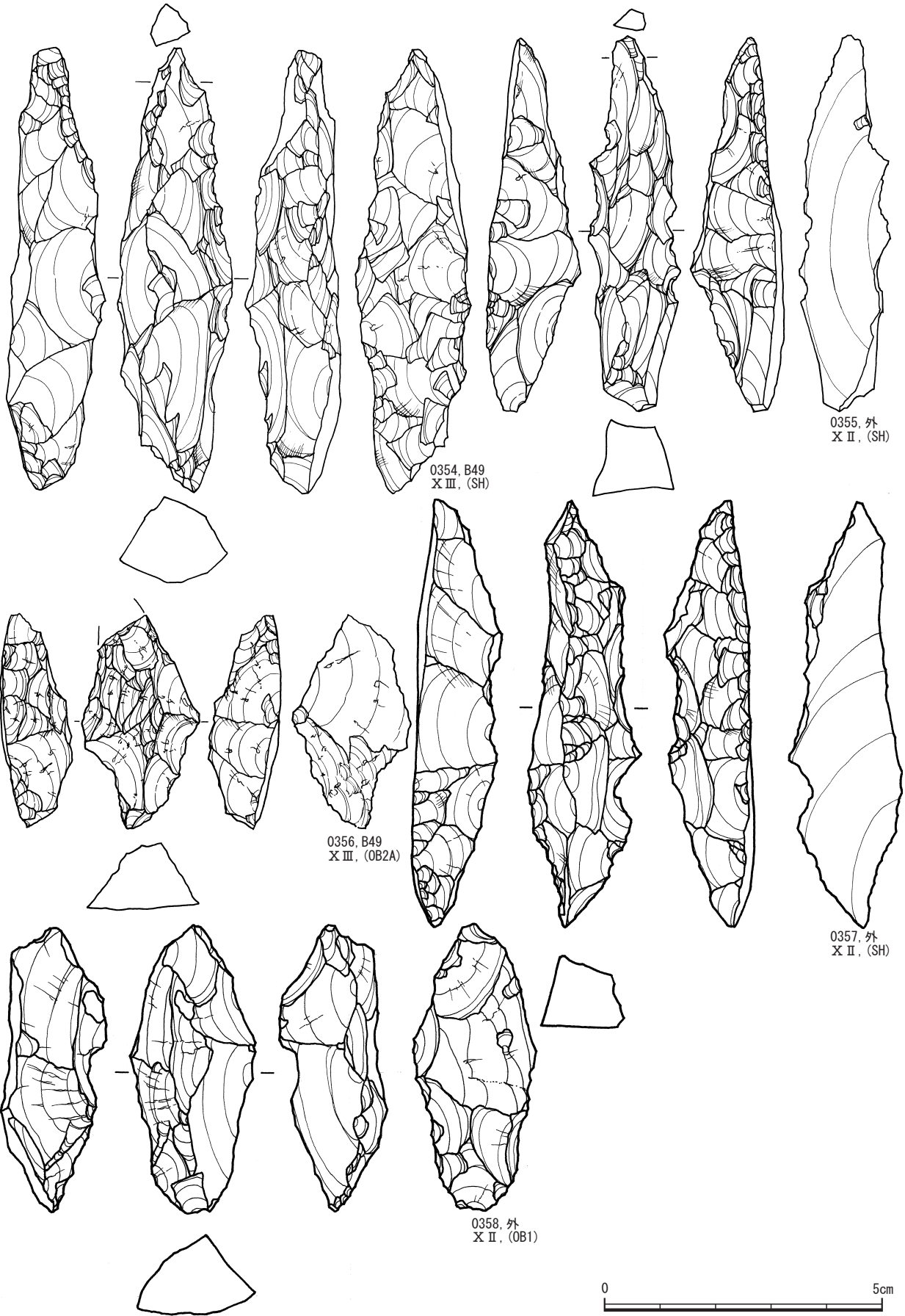
石器の器種は、細石刃3点(0340～0342)、ナイフ形石器9点(0343～0351)、三稜尖頭器9点(0352～0358, 0360, 0363)、二次加工のある剥片5点(0365, 0368, 0370, 0373, 0376)、スクレイパー3点(0359, 0366, 0372)、石核4点(0378, 0379, 0382, 0383)、ブランク1点(0384)、ハンマーストーン2点(0380, 0381)で構成する。

0343, 0344, 0347の3点は二側縁加工の小型ナイフ形石器で、同一の石材、素材剥片の形状、刃潰し加工の位置まで良く類似している。0345も小型で先端部を主に調整されている。0346は基部と判断し、0348は両側縁と底面の3面に刃潰し加工が見られ直刃をなす。0349と0350は腹面に平坦剥離が見られ、先端部を欠くと判断した。0351は基部に想定している。

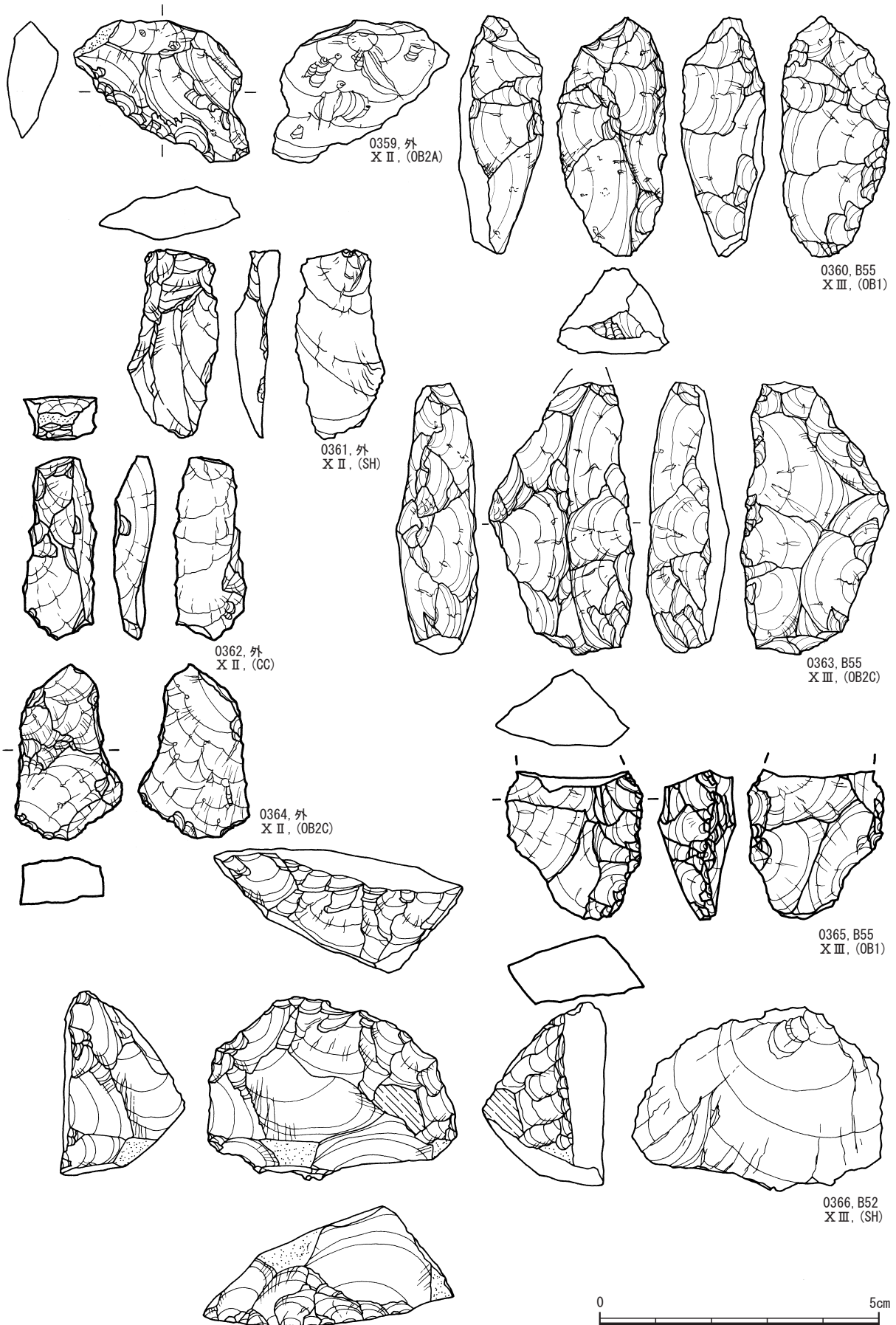
9点の三稜尖頭器を確認しているが中でも、0354, 0355, 0357の3点の存在は特徴的である。いずれも



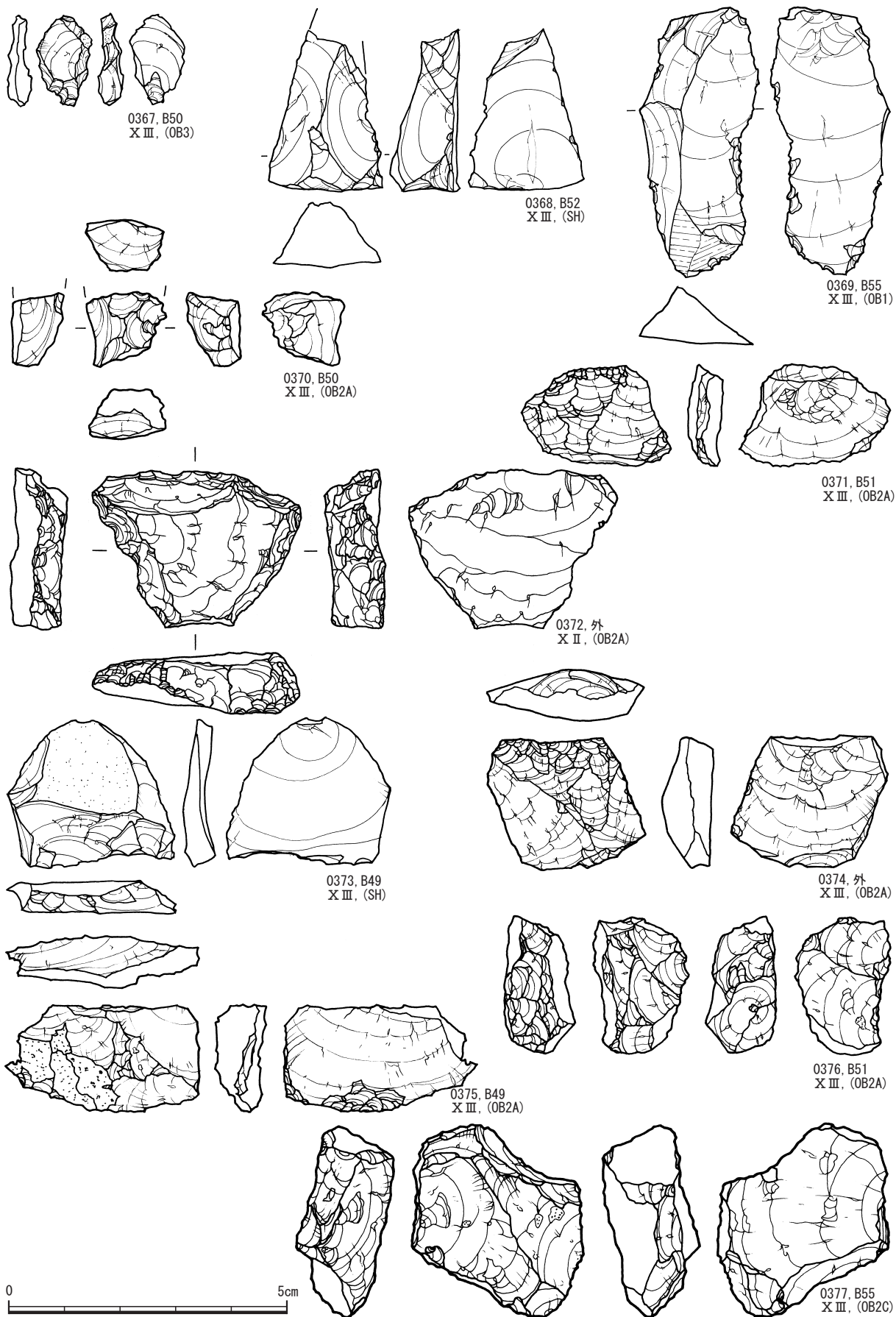
第88図 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(1)



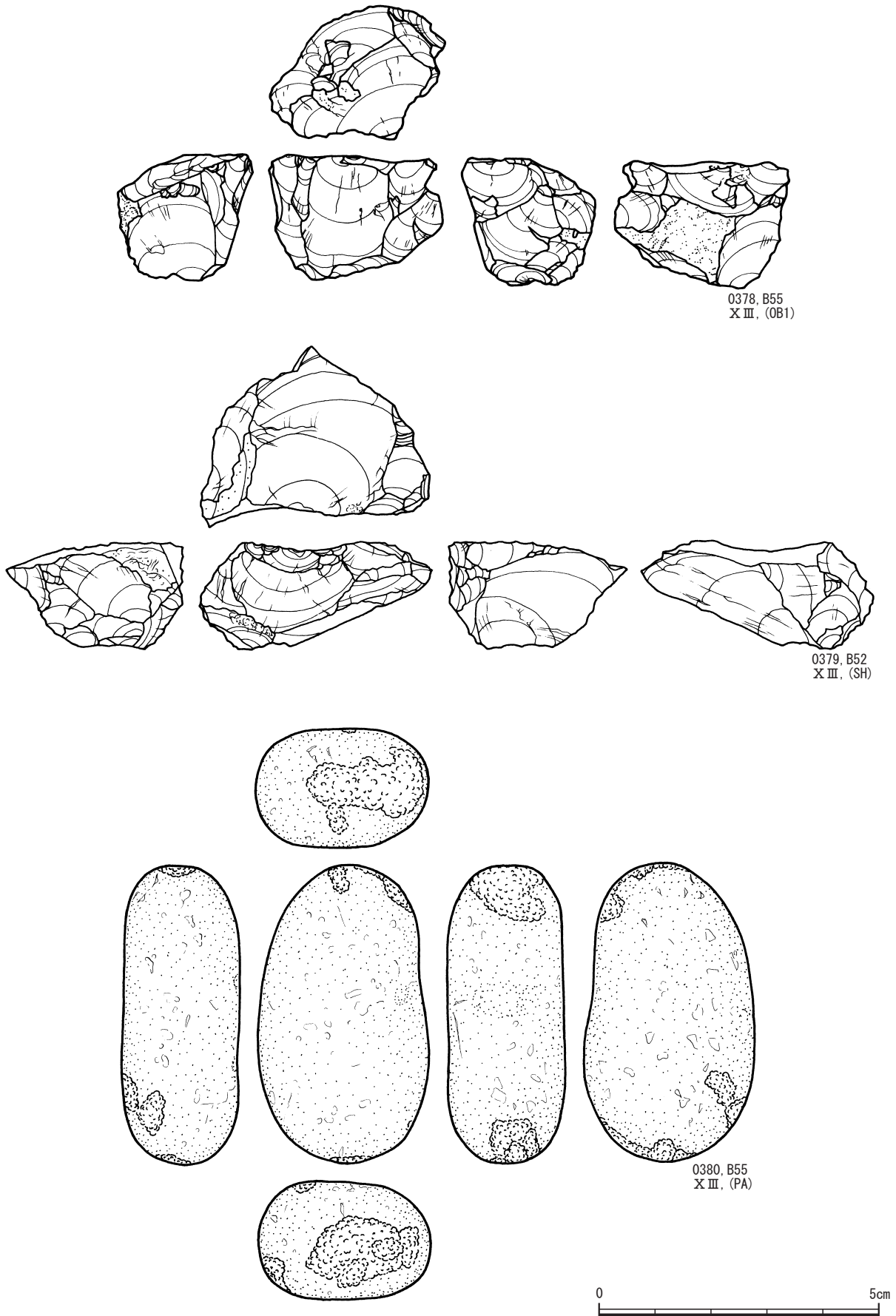
第89図 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(2)



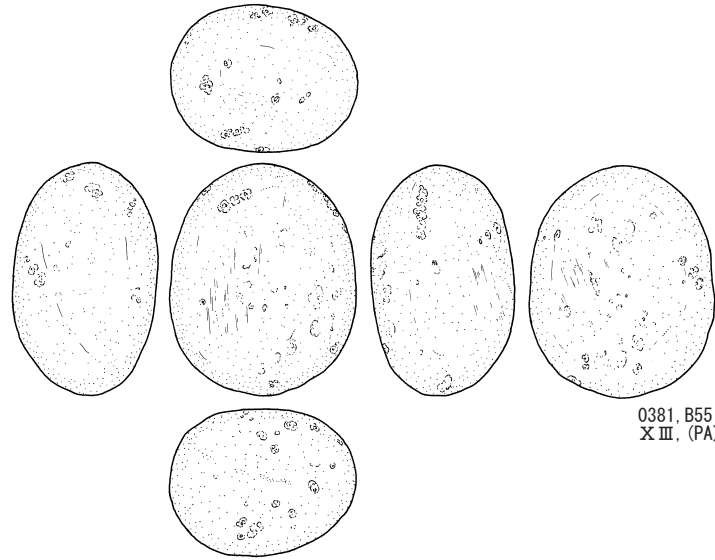
第90図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(3)



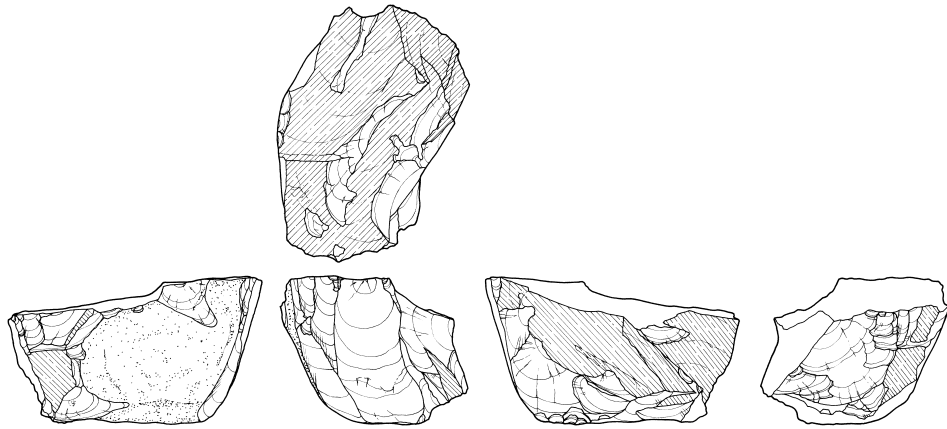
第91図 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(4)



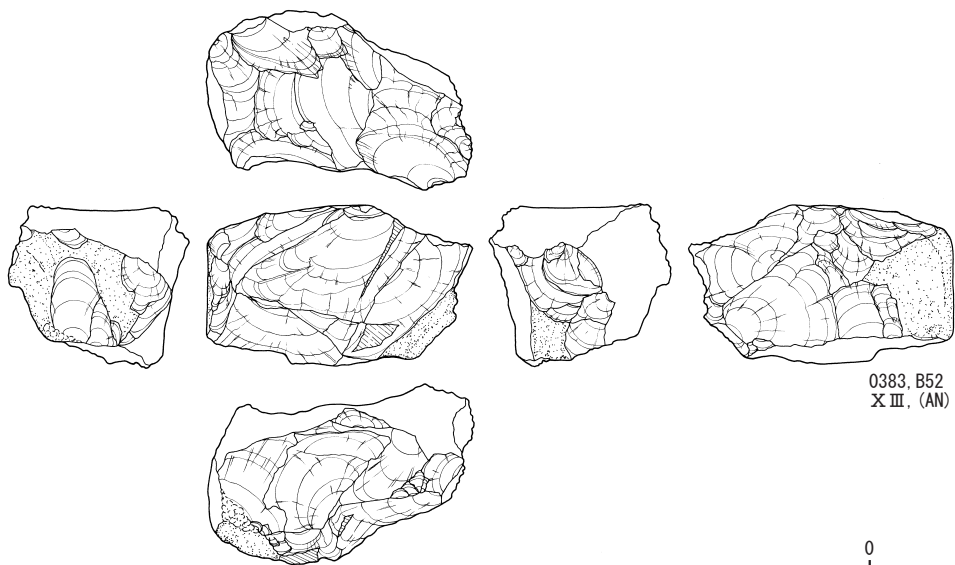
第92図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(5)



0381, B55
X III, (PA)



0382, B55
X III, (SH)



0383, B52
X III, (AN)



第93図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(6)



第94図 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(7)

第23表 第Ⅱ文化層第4ユニット第15エリア出土石器観察表(1)

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
88	0340	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB1	-	(11.8)	8.5	(3.3)	(0.31)	9990	XⅡ	G-13	-
	0341	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB1	-	(9.3)	(5.0)	(1.0)	(0.03)	9964	XⅡ	G-13	-
	0342	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB1	-	(16.2)	6.2	(2.1)	(0.14)	9966	XⅡ	G-13	-
	0343	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	(20.3)	9.1	(4.0)	(0.64)	9221	XⅡ	G-13	-
	0344	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	20.2	8.3	4.5	0.57	9199	XⅡ	G-12	-
	0345	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB2	A	16.9	8.1	5.2	0.65	9198	XⅡ	G-12	-
	0346	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	(19.0)	(8.8)	(5.0)	(0.90)	9277	XⅡ	G-13	-
	0347	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	23.0	9.0	4.0	0.54	9214	XⅡ	G-13	-
	0348	石器	ナイフ形石器	台形様石器	Ⅱ	U4	A15	外	OB2	A	27.9	20.5	13.5	7.19	10198	XⅡ	G-12	-
	0349	石器	ナイフ形石器	背面加工	Ⅱ	U4	A15	B52	SH	-	(35.1)	20.8	(13.0)	(8.38)	12276	XⅢ	G-13	-
	0350	石器	ナイフ形石器	背面加工	Ⅱ	U4	A15	B51	OB2	A	(40.3)	22.3	(13.0)	(11.58)	11475	XⅢ	G-13	-
	0351	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB2	A	(23.2)	(15.4)	(9.0)	(1.97)	9219	XⅡ	G-13	-
	0352	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB2	A	35.5	18.9	13.5	6.30	9220	XⅡ	G-13	-
	0353	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	(51.9)	22.2	(16.5)	(16.79)	9231	XⅡ	G-13	-
89	0354	石器	三稜尖頭器	背面加工	Ⅱ	U4	A15	B49	SH	-	80.0	21.0	18.0	24.07	10036	XⅢ	G-13	-
	0355	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	67.5	16.8	16.3	13.68	12637	XⅡ	G-13	-
	0356	石器	三稜尖頭器	基部背面加工	Ⅱ	U4	A15	B49	OB2	A	(38.5)	21.5	(13.0)	(6.93)	10020	XⅢ	G-13	-
	0357	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	76.9	20.9	16.0	17.73	9228	XⅡ	G-13	-
	0358	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB1	-	52.1	23.0	19.0	16.49	9271	XⅡ	G-13	-
90	0359	石器	スクレイパー	削器	Ⅱ	U4	A15	外	OB2	A	25.7	31.8	10.4	5.87	10140	XⅡ	G-13	-
	0360	石器	三稜尖頭器	背面加工	Ⅱ	U4	A15	B55	OB1	-	42.8	19.9	15.2	11.58	9994	XⅢ	G-13	-
	0361	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A15	外	SH	-	33.9	16.5	8.2	2.81	9224	XⅡ	G-13	-
	0362	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A15	外	CC	-	32.9	13.5	7.8	2.81	9570	XⅡ	G-12	-
	0363	石器	三稜尖頭器	背面加工	Ⅱ	U4	A15	B55	OB2	C	(48.8)	26.2	(15.0)	(14.39)	12795	XⅢ	G-13	-
	0364	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A15	外	OB2	C	31.7	19.5	8.3	4.26	9965	XⅡ	G-13	-
	0365	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A15	B55	OB1	-	(26.8)	(24.8)	(14.0)	(7.44)	12856	XⅢ	G-13	63
	0366	石器	スクレイパー	搔器	Ⅱ	U4	A15	B52	SH	-	33.0	44.8	22.2	29.34	10683	XⅢ	G-13	-
91	0367	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	U4	A15	B50	OB3	-	16.4	10.1	4.7	0.51	10404	XⅢ	G-13	-
	0368	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	Ⅱ	U4	A15	B52	SH	-	(29.1)	20.6	(12.5)	(6.50)	10699	XⅢ	G-13	-

横長の横剥ぎで、厚手の剥片を素材とし、結果的に細身、長身の形状に仕上げている。さらに、側縁は急角度で加工することから鋸歯状を成している。

0354の側縁整形は急角度に行い、稜上剥離は稜に沿い全域に及ぶ。その稜上剥離はほぼ水平に横方向から行われ、明らかに分厚い器高の減少を目的としている。先端部には微調整剥離も観察できる。また、腹面加工もほぼ全域に平坦剥離が及んでいる。0355と0357は腹面は剥離面をそのまま活かし、0354と同じ目的で背面の稜上剥離を水平に行っている。0353の背面は節理面を活かし、腹面は平坦剥離が全域に及ぶ。0358, 0360, 0363の腹面加工は一部剥離面を残す。

二次加工のある剥片の0365, 0368, 0370, 0376は、その形状及び調整加工の特徴から三稜尖頭器製作に関わるものと判断できる。

0366のスクレイパーはいわゆる搔器に属し、ほぼ全周に腹面から急角度の刃部加工が整然とみられる。背面に残る礫皮面から、円礫を分割した剥片を素材としたとみられる。0372も急角度の刃部を持つ。

0378, 0379, 0383の石核からは打点移動を繰り返しながら不定形剥片が、0382からは縦長剥片が取られているが、作業面高が短い。0384のブランクは節理で生じた平坦面を打面とし、打面長は14cm程ある。

2点のハンマーストーンはブランクと同一の第55ブロックからの出土である。

細石刃については、上位の文化層からの転入と判断したい。

第16エリア (第95図, 第96～98図)

第16エリアはG-13, 14区の中央部で両区の境界にあり、6か所のブロックからなる。南西方向が調査区域外となることから、エリアの3分の2程の外観とみられる。第56, 第58ブロックでは黒曜石Ⅱ-A類, 第57ブロックは黒曜石Ⅱ-C類を主に黒曜石Ⅱ-A類, 第59ブロックでは黒曜石Ⅱ-A類, 黒曜石Ⅱ-C類, チャートが近似した状況で用いられている。第60ブロックでは黒曜石Ⅱ-A類を中心に黒曜石Ⅱ-C類, チャートが続き黒曜石Ⅰ類, 黒曜石Ⅱ-B類, 黒曜石Ⅲ類, ギョクズイ, 頁岩が少数混在している。第61ブロックでは、黒曜石Ⅱ-C類と黒曜石Ⅱ-A類, チャートが混在する。

器種は、細石刃6点(0385～0390), ナイフ形石器10点(0391～0394, 0396～0401), 三稜尖頭器7点(0402, 0404～0409), スクレイパー1点(0420), 二次加工のある剥片4点(0395, 0403, 0410, 0413), 石核2点(0421, 0422)等がある。

細石刃の0389は全長を残し、頭部片が目立つ。

ナイフ形石器で注目されるのが0398と0401で、この2点は瀬戸内技法による翼状剥片を素材とした国府型ナイフ形石器(一側縁加工ナイフ形石器)に該当する。また、使用石材もチャートと特異であり、0396, 0399, 0400でも

同一石材を使用している。

0391では基部と一側縁, 0392では基部と先端部, 0393では基部に刃潰し加工がみられる。3点とも素材剥片の形状を大きく変えていない。

三稜尖頭器の0404は先端部を鋭く作り出し、微調整剥離も丁寧に行っている。0408は先端部を失うが稜上剥離を繰り返し、腹面に平坦剥離を確認できる。0405は素材剥片の特徴をそのまま活かしたと見られ、分厚い素材剥片を用いたことが分かる。0406, 0407は基部と見られ、稜上剥離を繰り返したことが明瞭である。0409は三稜尖頭器として取り扱ったが、三稜尖頭器の素材剥片を良く示す製作初期の資料とも捉えられる。

二次加工のある剥片の0395, 0403はその特徴から三稜尖頭器の先端部, 0410, 0413も関連するものとみられる。

0420のスクレイパーはいわゆる搔器に属し、腹面からの刃部加工がみられる。

第16エリアの特徴は、黒曜石主体の石器製作と国府型ナイフ形石器の存在である。国府型ナイフ形石器に使用された石材チャートは、製品以外に発見されていない。従って、チャート製品は製品としてエリア内に持ち込まれた可能性が極めて高い。

第5ユニット

B地区の南端にあたり、大半は調査区域外に逃げることとなる。ユニット内に1エリア(第17エリア)を設定している。

第17エリア (第99図, 第100図)

第17エリアはG, H-14, 15に展開し、エリア内には2つのブロックが確認できる。第62ブロックは黒曜石Ⅱ-A類, 第63ブロックは黒曜石Ⅱ-A類に数点の黒曜石Ⅱ-C類を含む石材使用がみられる。

器種は、ナイフ形石器1点(0423), 三稜尖頭器4点(0424～0427), 二次加工のある剥片1点(0431)が認められる。

0423のナイフ形石器はブロック外から出土し、両側縁加工の斜刃をなす小型ナイフ形石器で、切出形である。刃潰し加工は基本的に、腹面から行う。

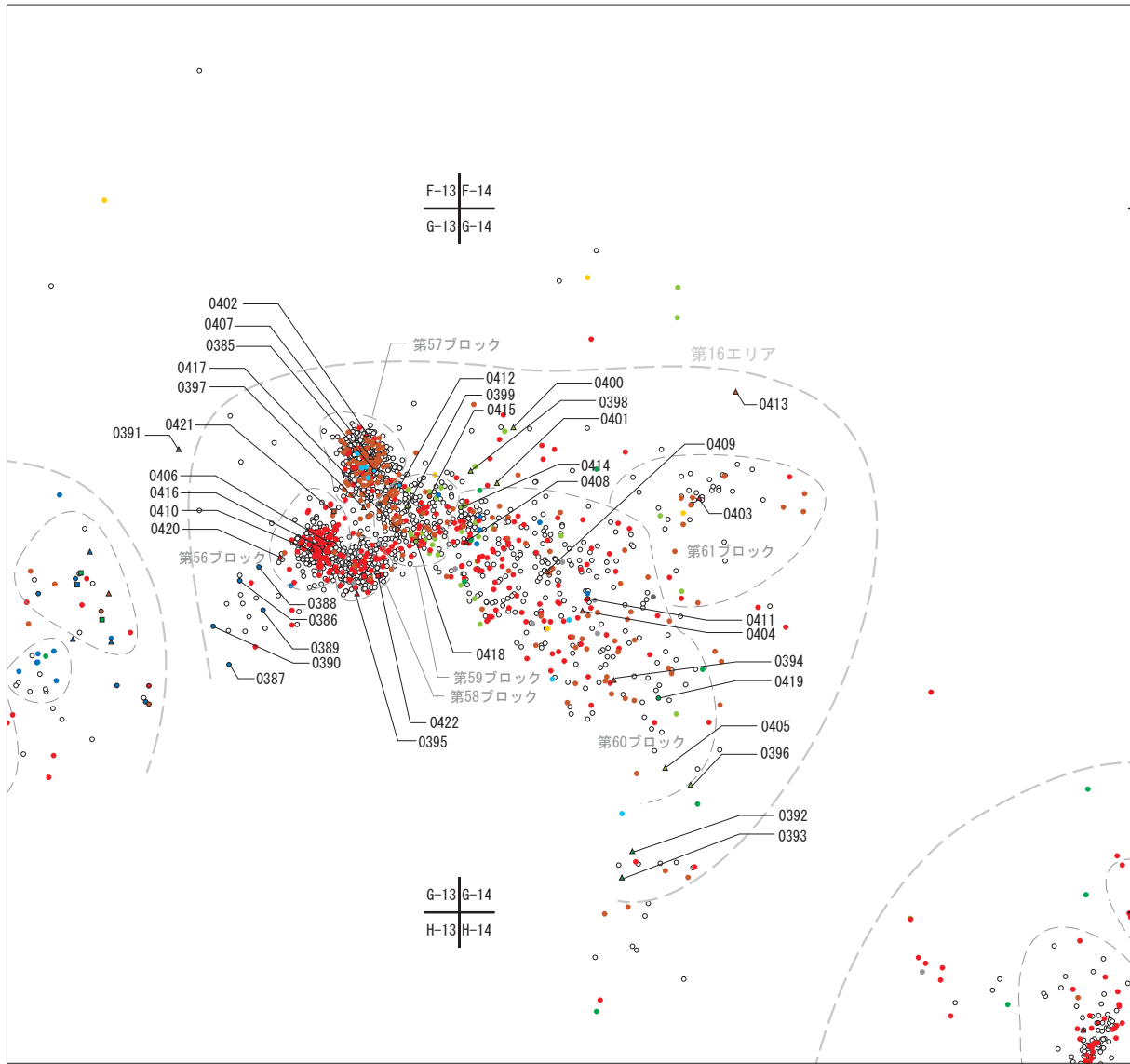
0426の三稜尖頭器は破損しているが、基部と判断できる。0424, 0425は腹面加工を伴うもので、0427は打瘤の除去は果たしているが、中心軸がノ字状に仕上がる。

0430の厚手横広の剥片は、三稜尖頭器の素材の可能性もうかがえる。

第4ユニットエリア外 (第101図)

G-13区から0432の折断剥片と0433のハンマーストーン1点がみられる。

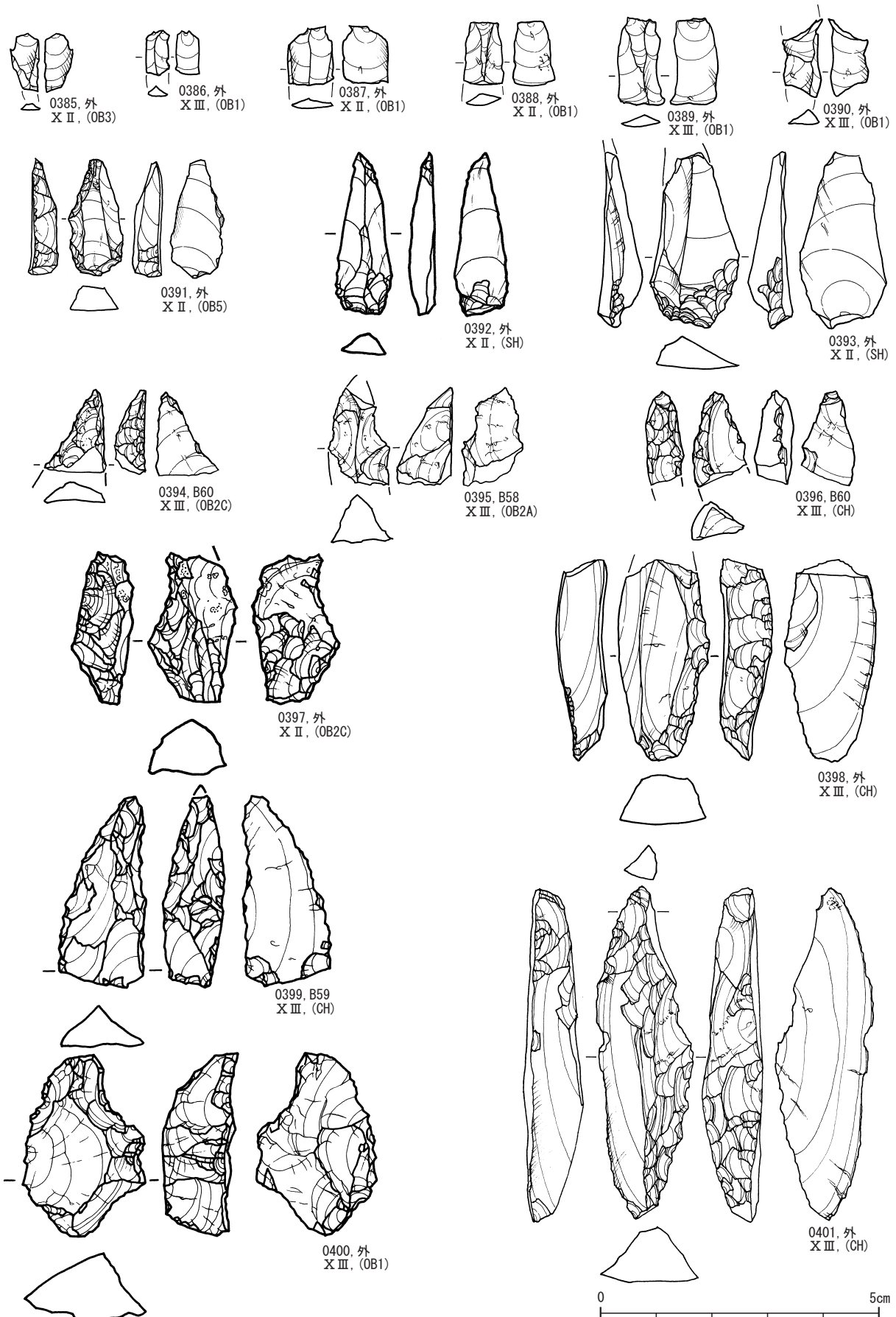
ハンマーストーンは棒状で、頭部に剥離痕、下端部と側縁の稜線に特有の敲打痕が残る。



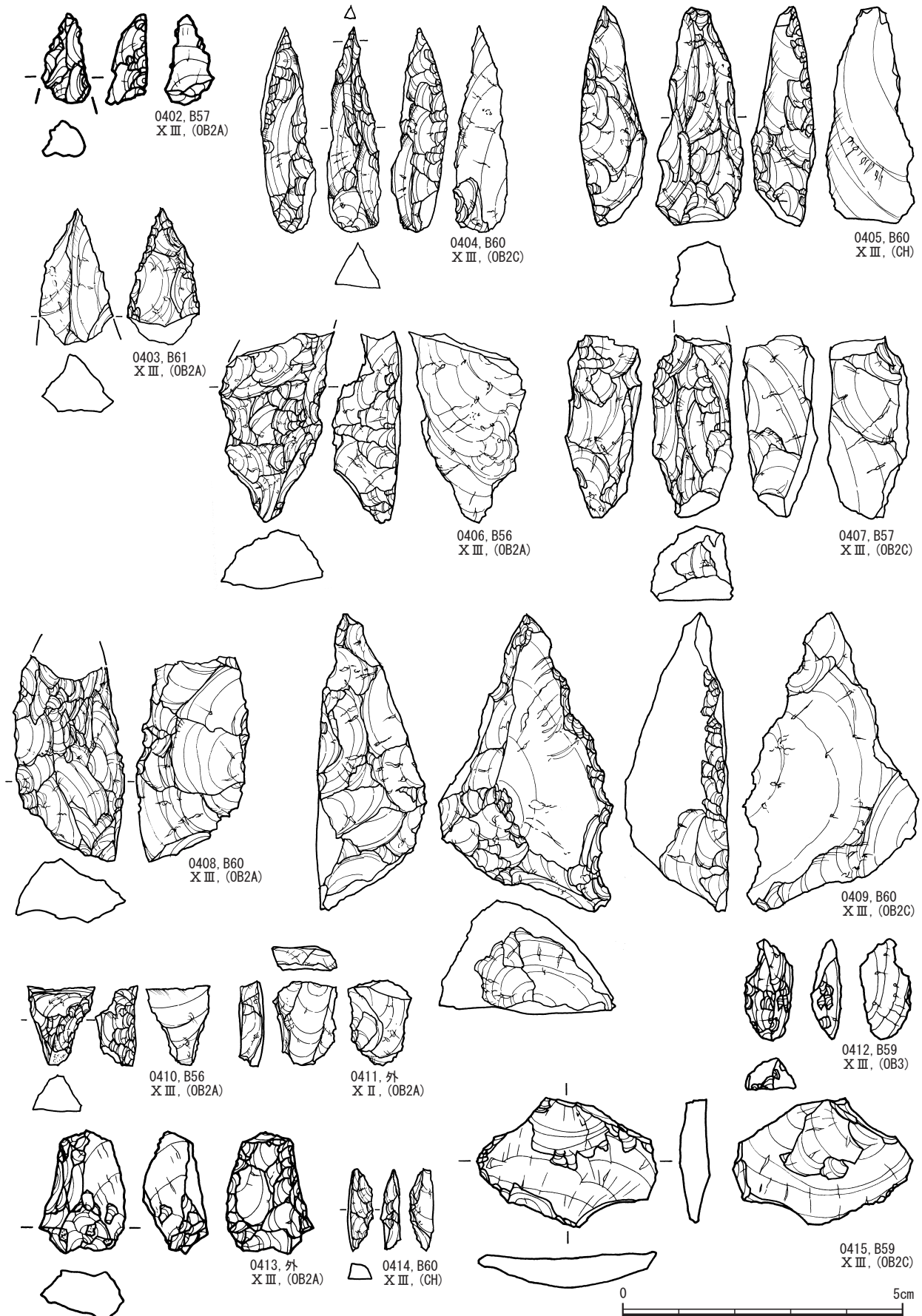
第95図 第II文化層第4ユニット第16エリア遺物出土状況図

第24表 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器観察表(2)

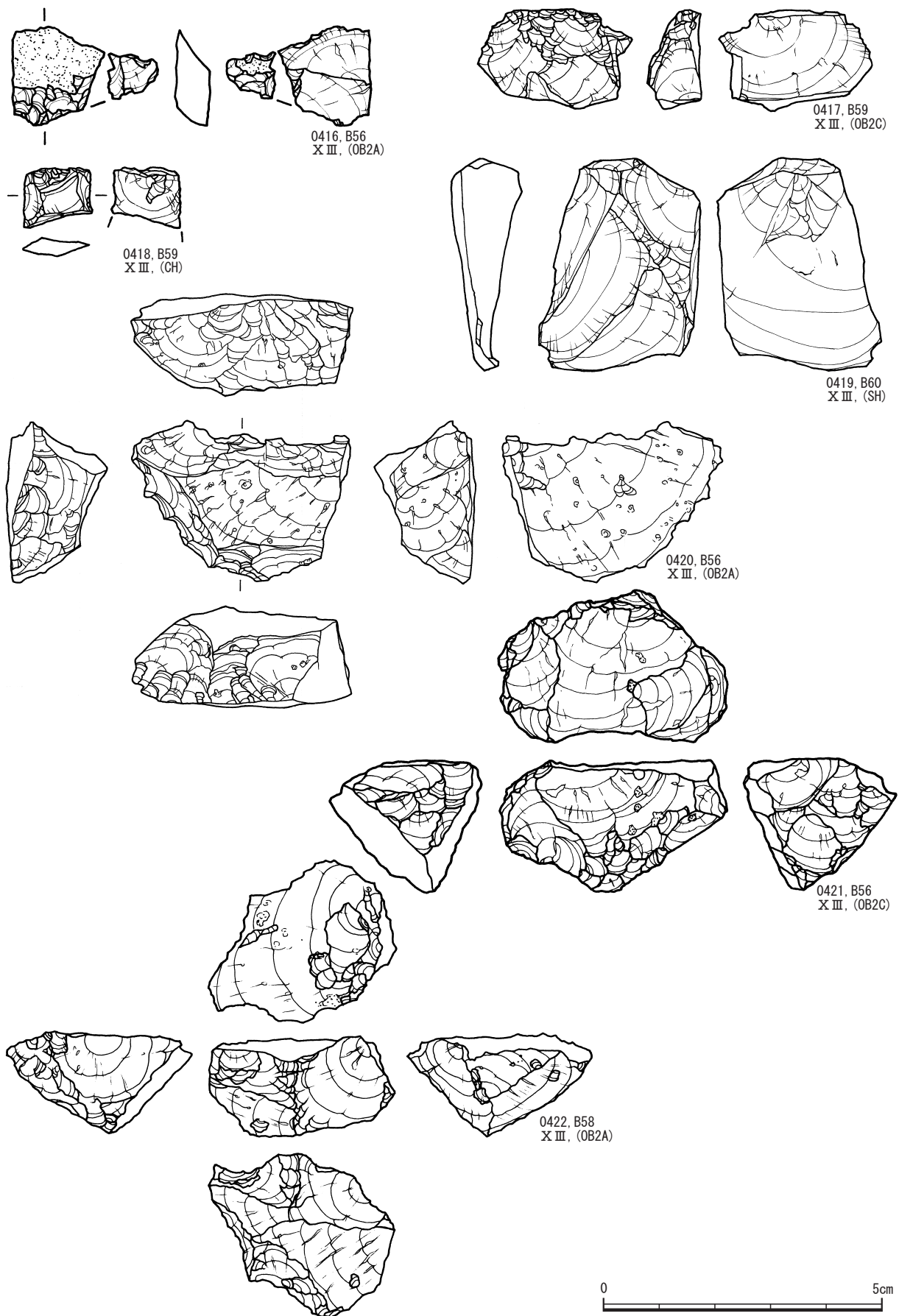
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
91	0369	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	B55	OB1	-	48.6	21.7	10.8	8.25	9993	XIII	G-13	-
	0370	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U4	A15	B50	OB2	A	(13.8)	(14.6)	(9.7)	(1.64)	10751	XIII	G-13	-
	0371	剥片	-	-	II	U4	A15	B51	OB2	A	18.1	27.1	6.6	2.68	10189	XIII	G-13	-
	0372	石器	スクレイパー	搔器	II	U4	A15	外	OB2	A	28.4	37.7	11.0	9.42	16100	XII	G-12	80
	0373	石器	二次加工痕のある剥片	削器	II	U4	A15	B49	SH	-	26.7	30.2	6.2	4.19	10358	XIII	G-13	-
	0374	剥片	-	-	II	U4	A15	外	OB2	A	23.9	28.6	9.5	5.29	10667	XIII	G-13	-
	0375	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	B49	OB2	A	19.4	35.1	9.3	5.16	10032	XIII	G-13	-
	0376	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	II	U4	A15	B51	OB2	A	24.7	17.5	13.0	5.19	10431	XIII	G-13	-
0377	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	B55	OB2	C	34.8	31.1	17.8	13.96	12796	XIII	G-13	-	
92	0378	石核	-	-	II	U4	A15	B55	OB1	-	22.6	31.3	23.0	13.45	10367	XIII	G-13	-
	0379	石核	-	-	II	U4	A15	B52	SH	-	19.5	41.8	32.0	22.11	10698	XIII	G-13	-
	0380	石器	ハンマー	-	II	U4	A15	B55	PA	-	53.5	30.9	21.0	52.67	11848	XIII	G-13	-
93	0381	石器	ハンマー	-	II	U4	A15	B55	PA	-	61.5	49.5	37.6	158.01	11849	XIII	G-13	-
	0382	石核	-	-	II	U4	A15	B55	SH	-	39.5	49.7	70.2	143.11	12797	XIII	G-13	-
94	0383	石核	-	-	II	U4	A15	B52	AN	-	42.7	70.4	48.0	163.03	11528	XIII	G-13	-
	0384	石核	石核	ブランク	II	U4	A15	B55	SH	-	47.3	143.9	76.0	512.00	10366	XIII	G-13	-



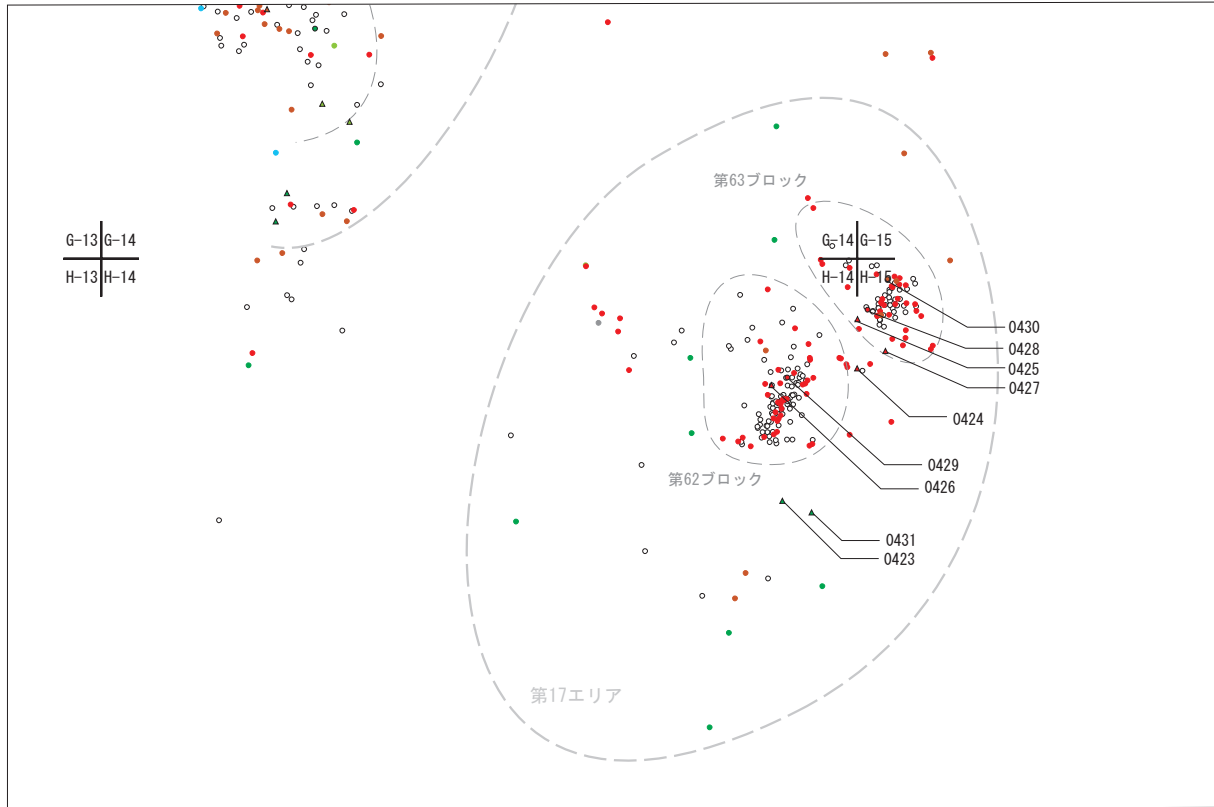
第96図 第Ⅱ文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(1)



第97図 第Ⅱ文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(2)



第98図 第Ⅱ文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(3)



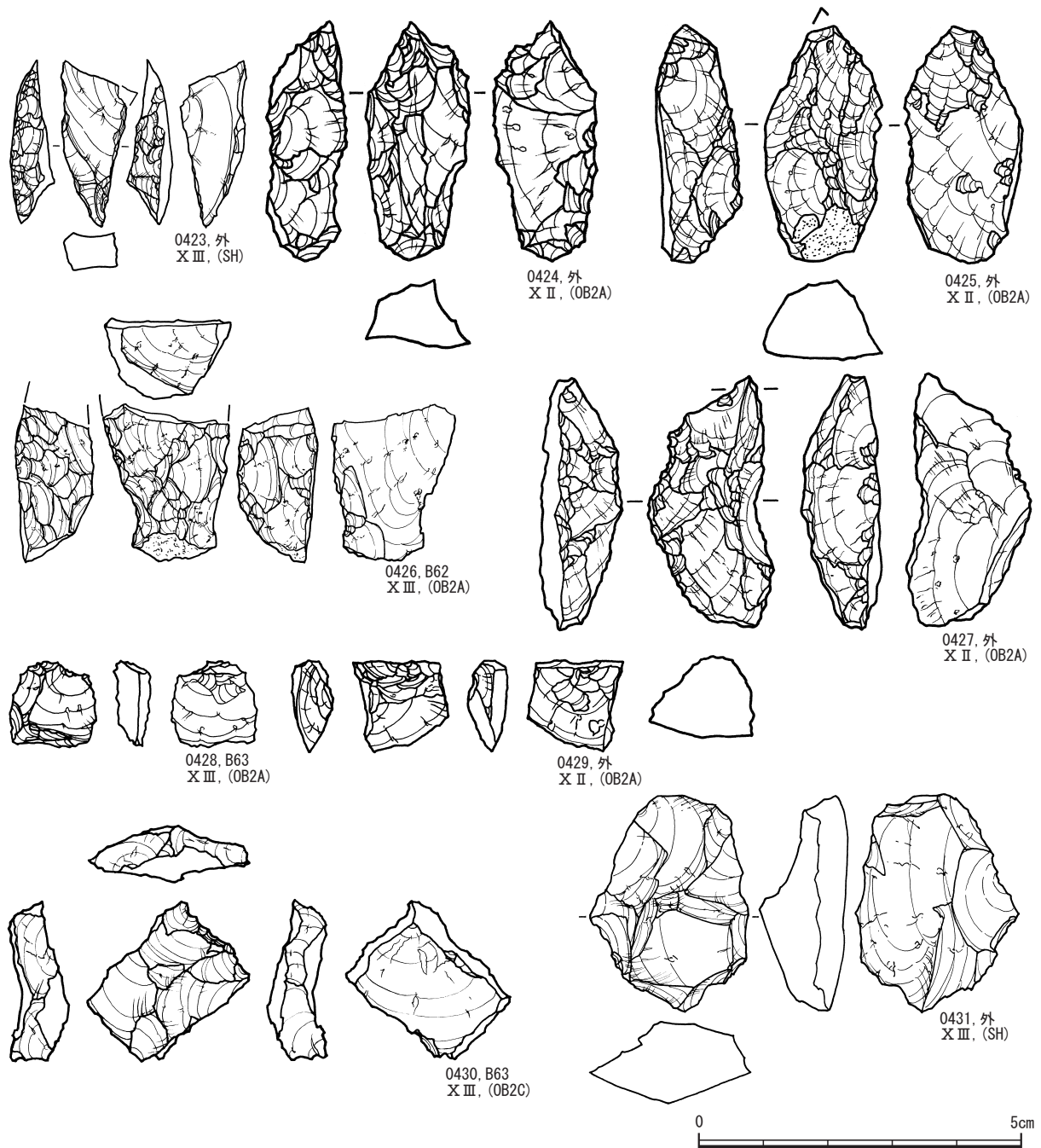
第99図 第II文化層第4ユニット第17エリア遺物出土状況図

第25表 第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器観察表(1)

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
96	0385	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB3	-	(10.5)	(5.4)	(1.1)	(0.04)	10348	X II	G-13	-
	0386	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(8.2)	(4.4)	(1.3)	(0.04)	9958	X III	G-13	-
	0387	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(10.7)	(8.4)	(2.0)	(0.15)	9961	X II	G-13	-
	0388	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(11.3)	(7.3)	(2.0)	(0.14)	9287	X II	G-13	-
	0389	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	15.9	8.6	2.2	0.21	9949	X III	G-13	-
	0390	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(14.1)	(7.3)	(3.1)	(0.19)	9960	X III	G-13	-
	0391	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	OB5	-	20.9	10.0	5.6	0.92	9970	X II	G-13	-
	0392	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	SH	-	29.1	10.5	5.1	0.94	18808	X II	G-14	-
	0393	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	SH	-	(31.7)	15.8	(8.0)	(2.52)	18256	X II	G-14	-
	0394	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	B60	OB2	C	(15.1)	(11.2)	(5.8)	(8.64)	19086	X III	G-14	-
	0395	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U4	A16	B58	OB2	A	(17.6)	(11.2)	(10.0)	(1.24)	13290	X III	G-13	-
	0396	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	B60	CH	-	(17.2)	(9.9)	(7.0)	(0.87)	18804	X III	G-14	-
	0397	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	OB2	C	(27.1)	16.1	(11.2)	(3.97)	9929	X II	G-13	-
	0398	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	CH	-	(36.1)	16.6	(9.6)	(5.90)	14091	X III	G-14	-
	0399	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	B59	CH	-	34.4	16.0	11.4	5.31	13165	X III	G-13	-
	0400	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	OB1	-	32.9	22.3	14.0	7.20	13886	X III	G-14	67
0401	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	CH	-	59.7	17.5	11.0	8.64	14090	X III	G-14	-	
97	0402	石器	三稜尖頭器	先端部	II	U4	A16	B57	OB2	A	(16.3)	(9.0)	(8.3)	(0.70)	12789	X III	G-13	-
	0403	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U4	A16	B61	OB2	A	(24.6)	(13.0)	(10.4)	(1.91)	13874	X III	G-14	64
	0404	石器	三稜尖頭器	-	II	U4	A16	B60	OB2	C	36.6	9.8	10.0	2.51	19049	X III	G-14	-
	0405	石器	三稜尖頭器	-	II	U4	A16	B60	CH	-	39.0	15.8	12.0	6.38	19100	X III	G-14	-
	0406	石器	三稜尖頭器	-	II	U4	A16	B56	OB2	A	(34.1)	(20.7)	(12.8)	(6.80)	13000	X III	G-13	-
	0407	石器	三稜尖頭器	三稜尖頭器?	II	U4	A16	B57	OB2	C	(32.7)	14.5	(13.8)	(6.38)	12894	X III	G-13	-
	0408	石器	三稜尖頭器	背面加工	II	U4	A16	B60	OB2	A	(36.7)	20.3	(13.1)	(8.25)	14529	X III	G-14	-
	0409	石器	三稜尖頭器	-	II	U4	A16	B60	OB2	C	53.3	31.3	20.0	20.53	19592	X III	G-14	-
	0410	石器	二次加工痕のある剥片	台形石器?	II	U4	A16	B56	OB2	A	14.3	12.2	7.5	0.85	13714	X III	G-13	-
	0411	剥片	-	-	II	U4	A16	外	OB2	A	15.1	11.6	4.8	0.75	19048	X II	G-14	-

第26表 第Ⅱ文化層第4ユニット第16エリア出土石器観察表(2)

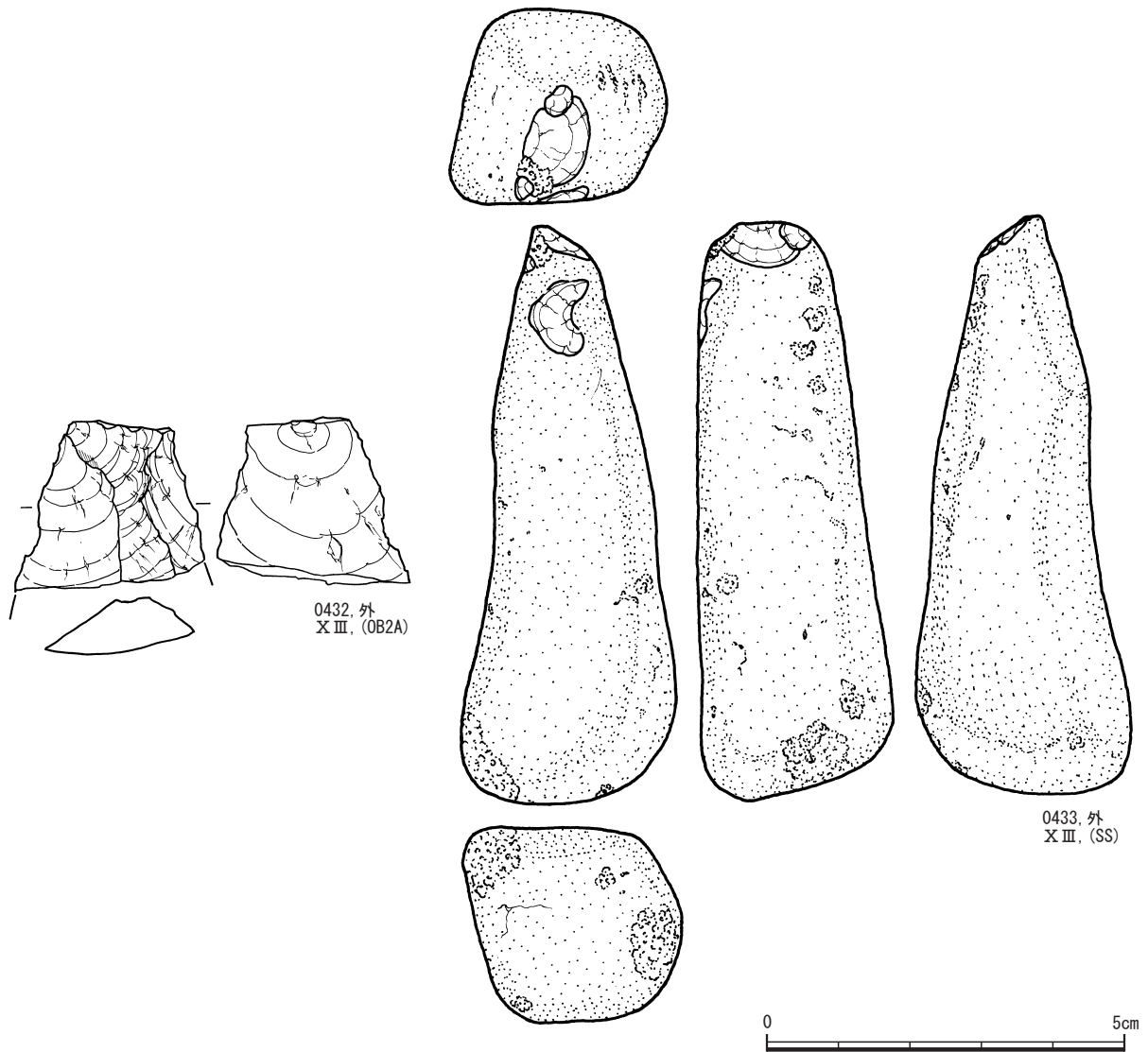
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
97	0412	チップ	-	-	Ⅱ	U4	A16	B59	OB3	-	18.3	8.9	5.5	0.54	11876	XⅢ	G-13	-
	0413	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	Ⅱ	U4	A16	外	OB2	A	22.2	15.7	12.0	2.70	13777	XⅢ	G-14	64
	0414	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U4	A16	B60	CH	-	14.9	4.8	4.0	0.20	14526	XⅢ	G-14	-
	0415	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A16	B59	OB2	C	23.3	32.4	6.0	3.57	12489	XⅢ	G-13	-
98	0416	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A16	B56	OB2	A	18.0	(26.4)	(7.0)	(1.84)	13904	XⅢ	G-13	-
	0417	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A16	B59	OB2	C	18.1	27.9	10.0	3.95	11638	XⅢ	G-13	-
	0418	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U4	A16	B59	CH	-	(10.9)	(12.7)	(3.3)	(0.32)	14146	XⅢ	G-13	-
	0419	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A16	B60	SH	-	38.3	29.2	13.0	10.72	19096	XⅢ	G-14	-
	0420	石器	スクレイパー	搔器	Ⅱ	U4	A16	B56	OB2	A	29.0	39.4	18.3	18.06	12638	XⅢ	G-13	-
	0421	石核	-	-	Ⅱ	U4	A16	B56	OB2	C	23.9	41.1	27.8	19.98	11857	XⅢ	G-13	-
	0422	石核	-	-	Ⅱ	U4	A16	B58	OB2	A	18.3	33.6	29.2	13.55	12470	XⅢ	G-13	112



第100図 第Ⅱ文化層第4ユニット第17エリア出土石器実測図

第27表 第Ⅱ文化層第4ユニット第17エリア出土石器観察表

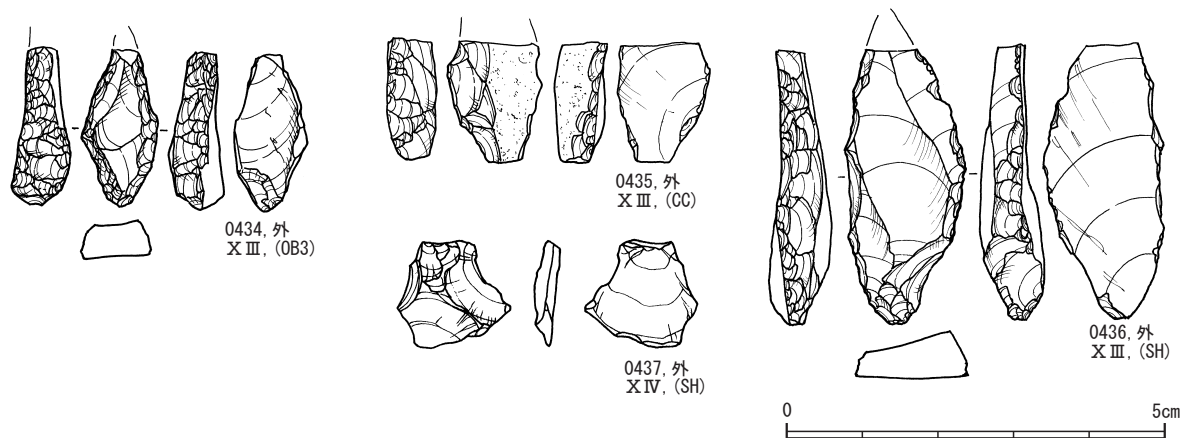
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
100	0423	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U4	A17	外	SH	-	(26.0)	(10.5)	(7.0)	(1.32)	15829	XⅢ	H-14	-
	0424	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A17	外	OB2	A	37.0	16.5	12.5	6.54	15974	XⅡ	H-15	-
	0425	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A17	外	OB2	A	(36.7)	(18.6)	(13.5)	(7.80)	15927	XⅡ	H-15	-
	0426	石器	三稜尖頭器	基部	Ⅱ	U4	A17	B62	OB2	A	(24.5)	(19.7)	(12.5)	(4.74)	16996	XⅢ	H-14	59
	0427	石器	三稜尖頭器	-	Ⅱ	U4	A17	外	OB2	A	39.1	19.8	13.0	7.63	15926	XⅡ	H-15	-
	0428	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅱ	U4	A17	B63	OB2	A	13.4	13.7	6.0	0.73	16323	XⅢ	H-15	-
	0429	チップ	-	-	Ⅱ	U4	A17	外	OB2	A	14.2	15.1	6.8	1.06	16993	XⅡ	H-14	-
	0430	剥片	-	-	Ⅱ	U4	A17	B63	OB2	C	24.9	25.3	9.5	3.19	16701	XⅢ	H-15	-
	0431	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U4	A17	外	SH	-	33.6	24.7	14.0	8.92	15935	XⅢ	H-14	-



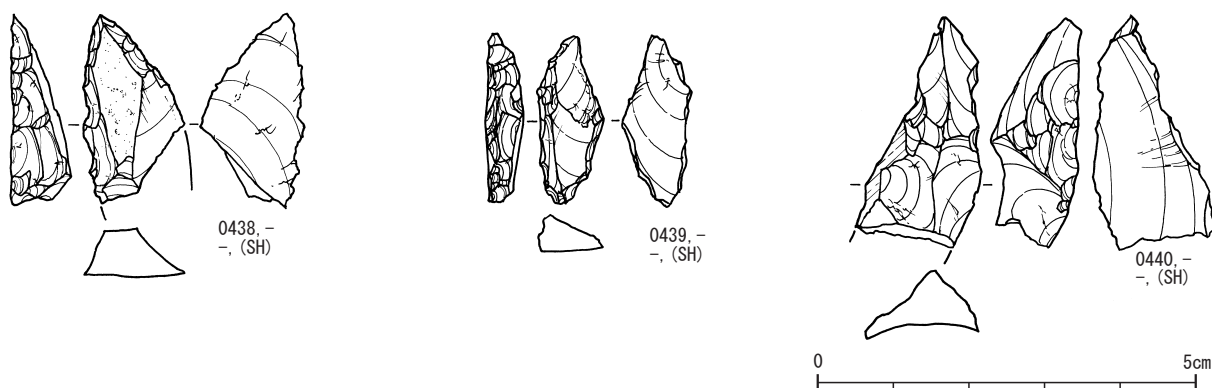
第101図 第Ⅱ文化層第4ユニットエリア外出土石器実測図

第28表 第Ⅱ文化層第4ユニットエリア外出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
101	0432	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U4	外	外	OB2	A	(23.9)	(26.5)	(7.8)	(4.34)	9835	XⅢ	G-12	-
	0433	石器	ハンマー	-	Ⅱ	U4	外	外	SS	-	81.0	30.4	28.0	76.31	10792	XⅢ	G-13	-



第102図 第Ⅱ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図



第103図 第Ⅱ文化層出土位置不明石器実測図

第Ⅱ文化層ユニット外エリア外 (第102図)

ナイフ形石器 3点(0434~0436)、ブランディングチップ 1点(0437)を確認できる。

0434はやや厚手の剥片を用いた小型ナイフ形石器で、全周に細かい刃潰し加工がみられる。0435は先端部を欠落するが、やはり小型に属する。0436は、計画的に取り出された縦長剥片素材の均整のとれた二側縁加工ナイフ形石器である。

0437のブランディングチップの石材は、0436とナイフ形石器と同じ、頁岩である。

第29表 第Ⅱ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
102	0434	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	外	外	外	OB3	-	(21.0)	(10.3)	(7.8)	(1.40)	15275	XⅢ	F-16	-
	0435	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	外	外	外	CC	-	(16.0)	(12.5)	(6.9)	(1.57)	16584	XⅢ	I-14	-
	0436	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	外	外	外	SH	-	(36.8)	(16.0)	(8.5)	(4.86)	10591	XⅢ	F-13	-
	0437	チップ	ブランディングチップ	-	Ⅱ	外	外	外	SH	-	14.3	15.1	3.8	0.49	21973	XⅣ	-	-

第30表 第Ⅱ文化層出土位置不明石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
103	0438	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	-	-	-	SH	-	(25.0)	(13.6)	(8.4)	(2.20)	一括	-	-	-
	0439	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	-	-	-	SH	-	22.3	9.0	8.0	0.91	一括	-	-	-
	0440	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	-	-	-	SH	-	(30.5)	(16.8)	(12.2)	(4.17)	一括	-	-	-

接合資料(第104図, 第107図)

接合作業で判明した第Ⅱ文化層について、実測作業の進行した分を記載した。

接合No. 48(第104図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第2エリア第2ブロック]

3点の接合で、石核と剥片の接合である。

2枚の剥片、24004と24448は同一剥片として剥離されている。その後、剥片の打面に加撃し、2個に細分した可能性が高い。図示した石核24289の正面を最終剥離面として示したが、本来接合した剥片(24004, 24448)が最終剥片となる。したがって、打点移動を行い、打面転移(直前の剥離面)を行ったと解釈できる。

接合No. 56(第104図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第2エリア第3ブロック]

2点の接合で、三稜尖頭器(24319, 第38図0052)とブランディングチップ(24321)の接合である。

2点の接合資料から、三稜尖頭器の製作工程を復元すると次のようになる。①ブランディングチップ24321の左側縁に、腹面から3回以上の調整剥離が残される。この先行したブランディングは、右側縁のブランディング作業と並行して行った可能性が高い。②背面基部の平坦面からの加撃による24321の除去、この作業により、三稜尖頭器が小型化する。③24321除去後、剥離面24319(0052)に腹面から2回のブランディングを行い、基部が完成する。④その後、24319の左稜線部の稜上剥離を実施し、完成する。

接合No. 60(第106図)

頁岩 [第2エリア第3ブロック]

2点の接合で、二次加工のある剥片(23528, 第39図0056)とブランディングチップ(24460, 第39図0058)の接合である。

二次加工のある剥片の左側縁に相当し、ブランディングは先端部から後退しながら、腹面から行ったことが分かる。

接合No. 23(第106図)

頁岩 [第10エリア第27ブロック]

個体としては2点の接合である。剥離の先行した(21774, 21770)、後続した(21555, 21772)の接合である。それぞれの剥片は、剥片剥離の際、節理に沿ったアクシデントで分離している。

接合No. 27(第107図)

頁岩 [第10エリア第28ブロック]

3点の接合で、不定型な横広剥片(19262, 21748)と先行して剥離した(22545)の接合である。

19262と21748は、折断の可能性が高い。また、22545

も取り出した剥片を折断している可能性がある。打点位置が約90度移動している。

接合No. 98(107図)

頁岩 [第10エリア第33ブロック]

2点の接合で、剥片(18462, 第72図0266)と剥片18898の接合である。

剥片18462が先行して剥離され、18898が後続する。なお、打面は共有している

接合No. 109(第109図)

頁岩 [第10エリア第34ブロック, ブロック外]

3点の接合で、34ブロック内2点、ブロック外1点の接合である。

3点の資料は折断剥片であり、頭部(20184)と尾部(20389, 21465)に相当する。尾部の細分は、折断加撃時のアクシデントである。

接合No. 18(第109図)

頁岩 [第11エリア第38ブロック]

チップ2点(19809, 20429)の接合である。

同一打面で、19809が先行して剥離される。

接合No. 37(第109図)

黒曜石Ⅱ-B類

[第11エリア第35ブロック, ブロック外]

2点の接合で、剥片(18833)と調整剥片(19523)の接合である。

接合No. 87(第110図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第11エリア第35ブロック]

2点の接合で、三稜尖頭器の基部(18405, 第74図0285)と先端部(18867)欠損の接合である。

腹面加工も入念に行っており、体部中央から基部にかけては稜上剥離もみられる。欠損部の分割面からは右側縁の中央部付近に力点が観察される。

接合No. 1(第110図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第7エリア第14, 15ブロック]

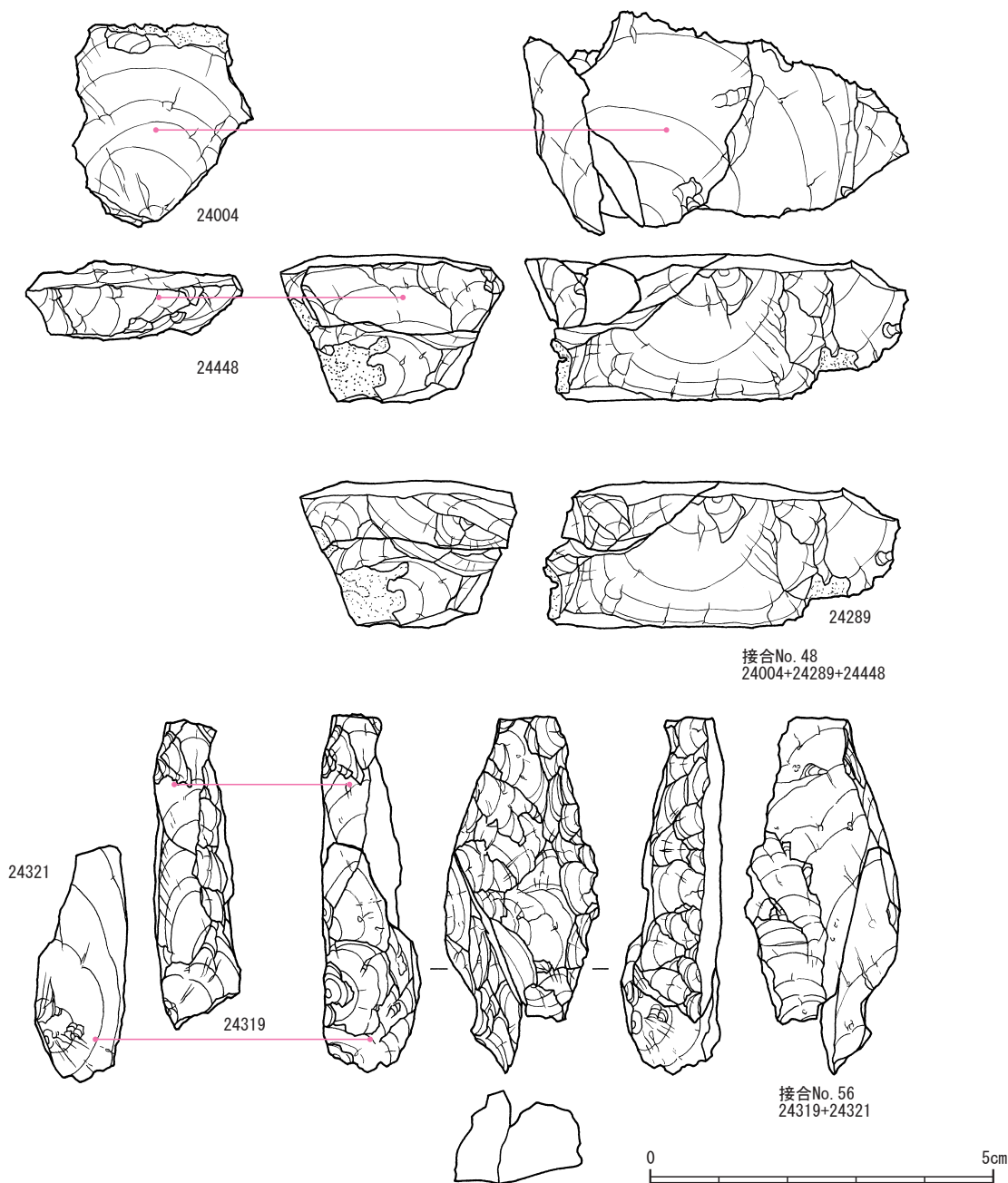
的確に表現できていないが、4点の接合である。

石核(19182)と剥片(17282)、剥片(17271+17197)の接合で、17282が先行して剥離されている。17271+17197は横長剥片として取り出された後、腹面から折断した可能性がある。

接合No. 7(第110図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第7エリア第16ブロック]

2点のチップあるいはブランディングチップの接合で、同一打面から剥離し、17440が先行する。



第104図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(1)

接合No. 28 (第111図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第7エリア第14ブロック]

3点の接合で、三稜尖頭器(17272, 第54図0124)とブランティングチップ2点(17948, 17650)の接合である。

17948は腹面からのブランティングで、17650は稜上剥離によるブランティングチップである。

接合No. 9 (第111図)

ギョクズイ [第8エリア第18ブロック]

4点の接合で、19178+19647+19185間にも打点が残されるが、取り出した剥片の形状は不定形である。19183は調整剥片とみられる。

接合No. 15 (第111図)

頁岩

[第8エリア第18ブロック, 第9エリア第21ブロック]
エリア間ブロック間の2点の接合で、石核(19252)と剥片(18001)の接合である。

石核の裏面は平坦な節理面を、打面は礫面をそのまま活かしている。したがって、剥片18001の打面にも礫面が残される。

接合No. 30 (第112図)

ギョクズイ [第8エリア第18ブロック]

2点の接合で、その形状から2点ともブランティング

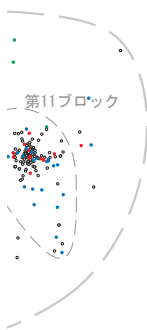


第105図 第Ⅱ文化層石器接合状況図(1)

A-9 | A-10
B-9 | B-10

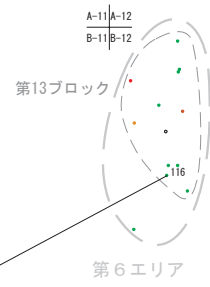
A-10 | A-11
B-10 | B-11

A-11 | A-12
B-11 | B-12



A-9 | A-10
B-9 | B-10

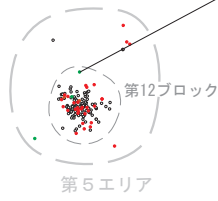
122
A-11
B-11



B-9 | B-10
C-9 | C-10

B-10 | B-11
C-10 | C-11

B-11 | B-12
C-11 | C-12



132

C-9 | C-10
D-9 | D-10

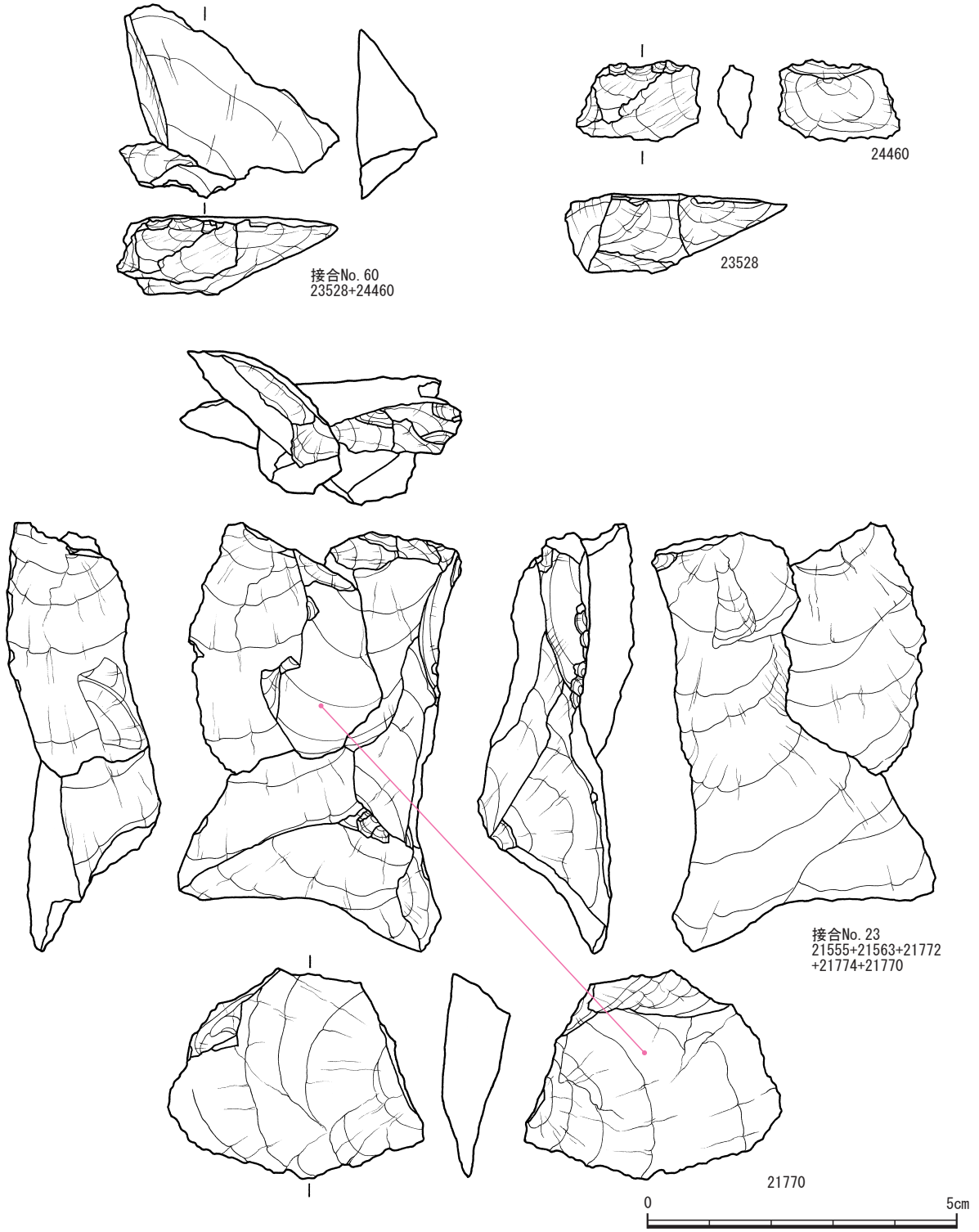
C-10 | C-11
D-10 | D-11

C-11 | C-12
D-11 | D-12

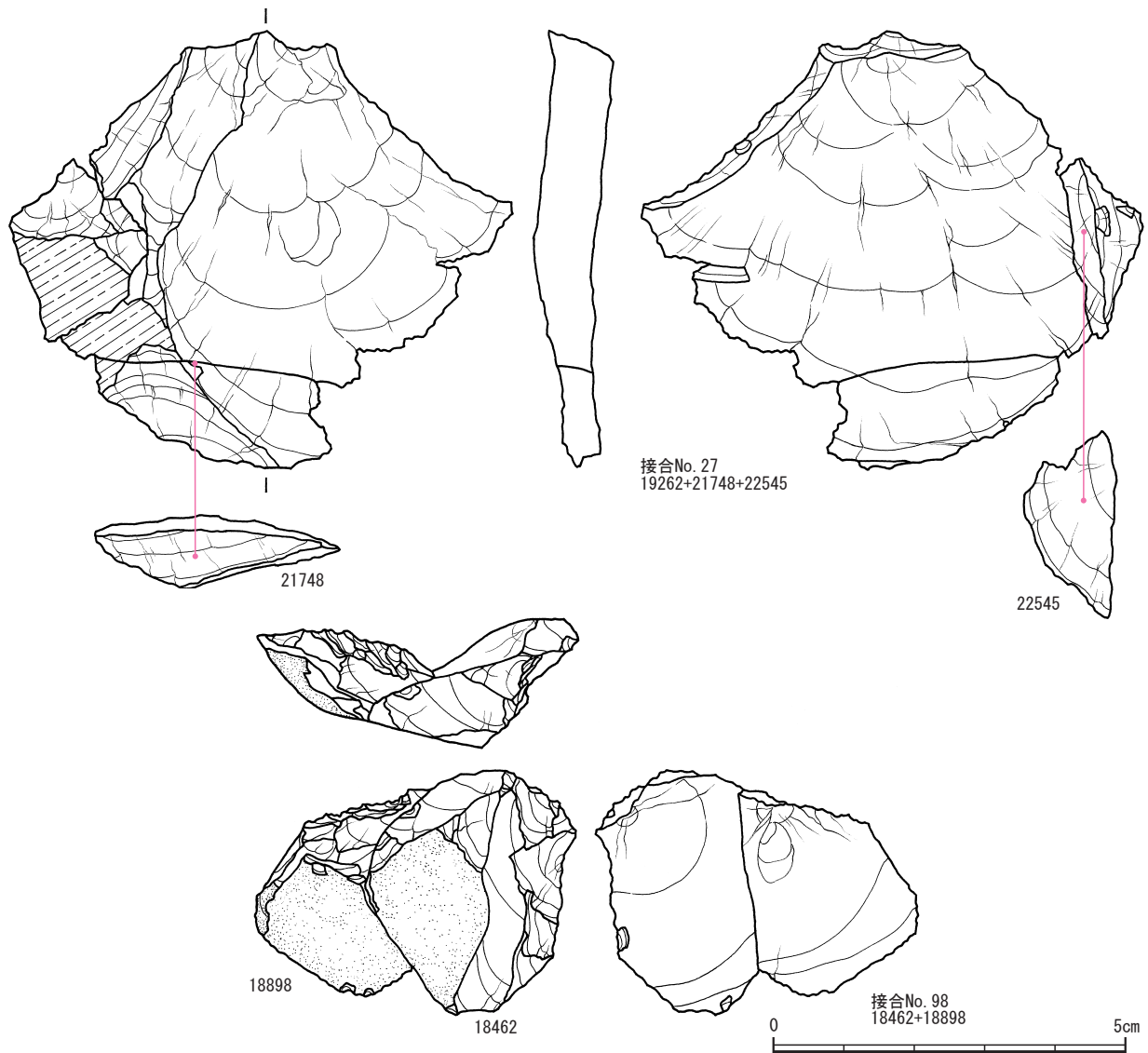
D-9 | D-10
E-9 | E-10

D-10 | D-11
E-10 | E-11

D-11 | D-12
E-11 | E-12



第106图 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(2)



第107図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(3)

チップの可能性がある。

20462に先行して20460が剥がされ、打点位置はほぼ同一である。

接合No. 81 (第112図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第8エリアブロック外]

2点の接合で、三稜尖頭器の先端部(17483, 第57図0148)と基部(17486)の接合である。

2点の打点は、腹面にあり、腹面基部の調整剥離時点のヒンジクラフチャーによるアクシデント剥離の可能性が高い。

接合No. 16 (112図)

頁岩 [第9エリア第25ブロック]

2点の接合で、調整剥片あるいはブランティングチップの接合である。18978に先行して18566が剥離され、打点位置は同一である。

接合No. 35 (第112図)

黒曜石Ⅱ-A類

[第9エリア第23ブロック, 第10エリア第28ブロック]
エリア間ブロック間の2点の接合で、三稜尖頭器(21307, 第67図0220)と先端部(18583)の接合である。

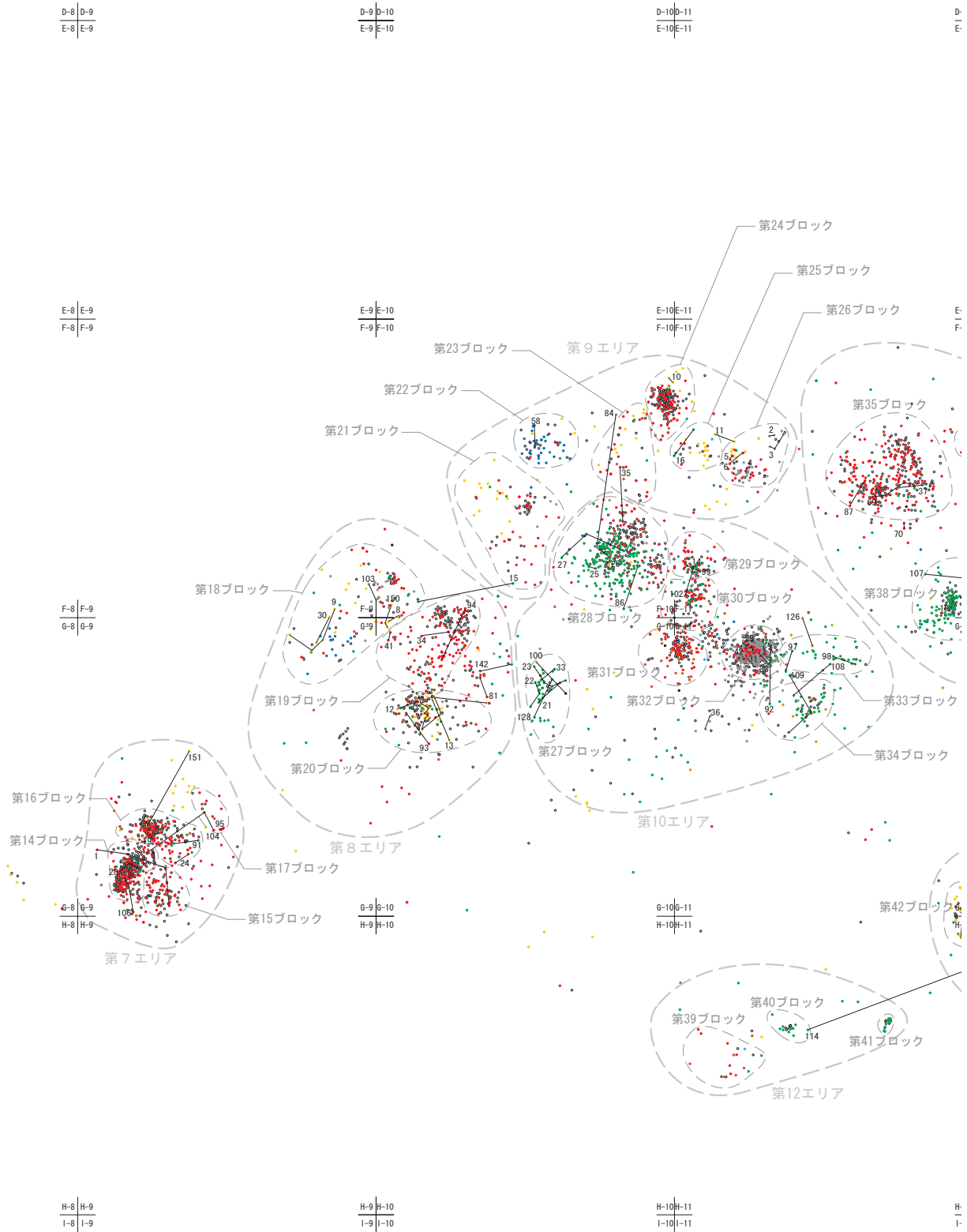
形状及び調整加工の状態から三稜尖頭器としては、完成品と見られ、右側縁上部に打点が観察できるが、破損の原因は明らかでない。

接合No. 32 (第113図)

ギョクズイ [第13エリア第42ブロック]

2点の接合で、調整剥片あるいはブランティングチップの接合である。

21085に先行して、23093が剥離されている。



第108図 第Ⅱ文化層石器接合状況図(2)

-11D-12
-11E-12

D-12D-13
E-12E-13

D-13D-14
E-13E-14

D-14D-15
E-14E-15

-11E-12
-11F-12

E-12E-13
F-12F-13

E-13E-14
F-13F-14

E-14E-15
F-14F-15

-11E-12
-11F-12

F-12F-13
G-12G-13

F-13F-14
G-13G-14

F-14F-15
G-14G-15

-11E-12
-11F-12

G-12G-13
H-12H-13

G-13G-14
H-13H-14

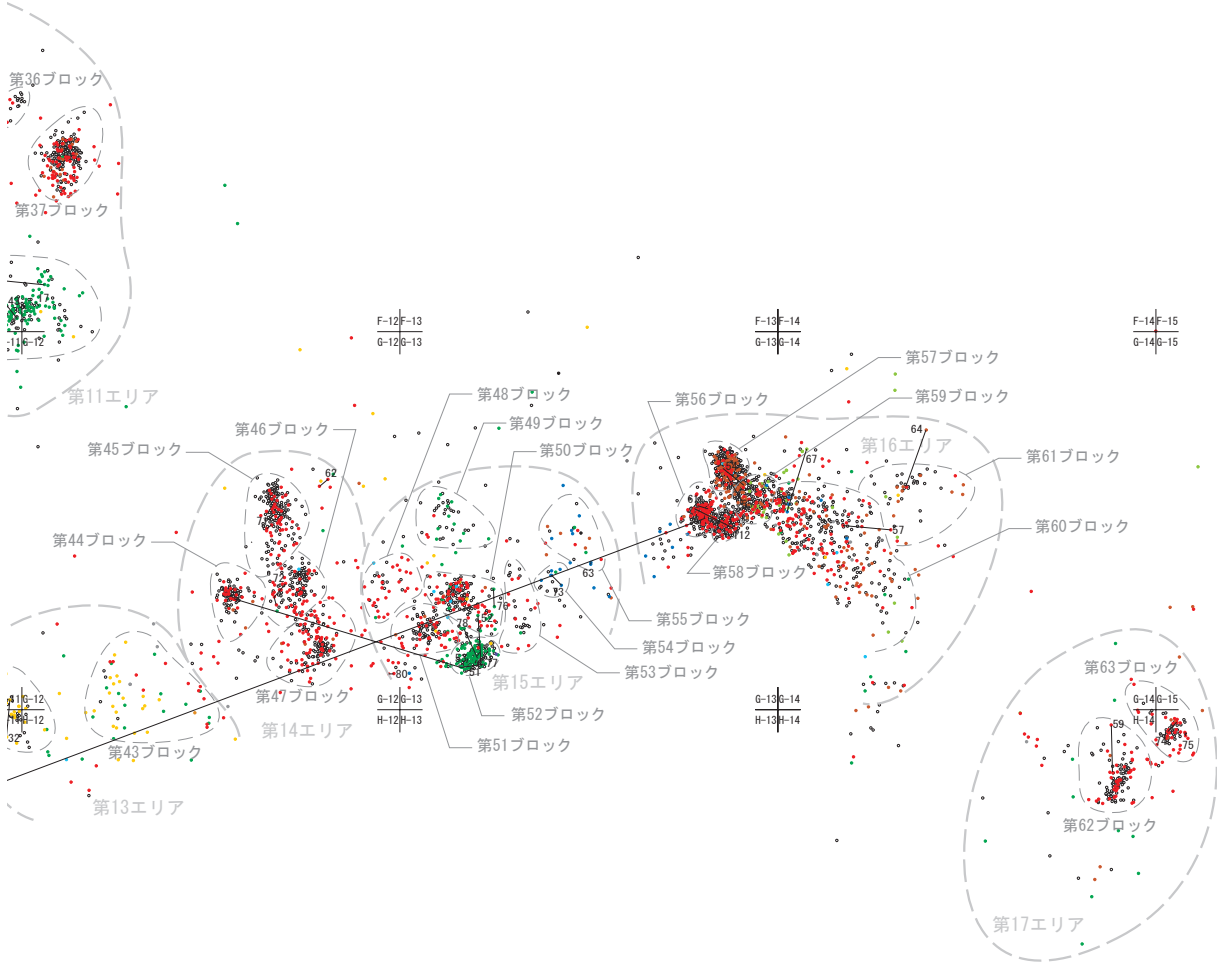
G-14G-15
H-14H-15

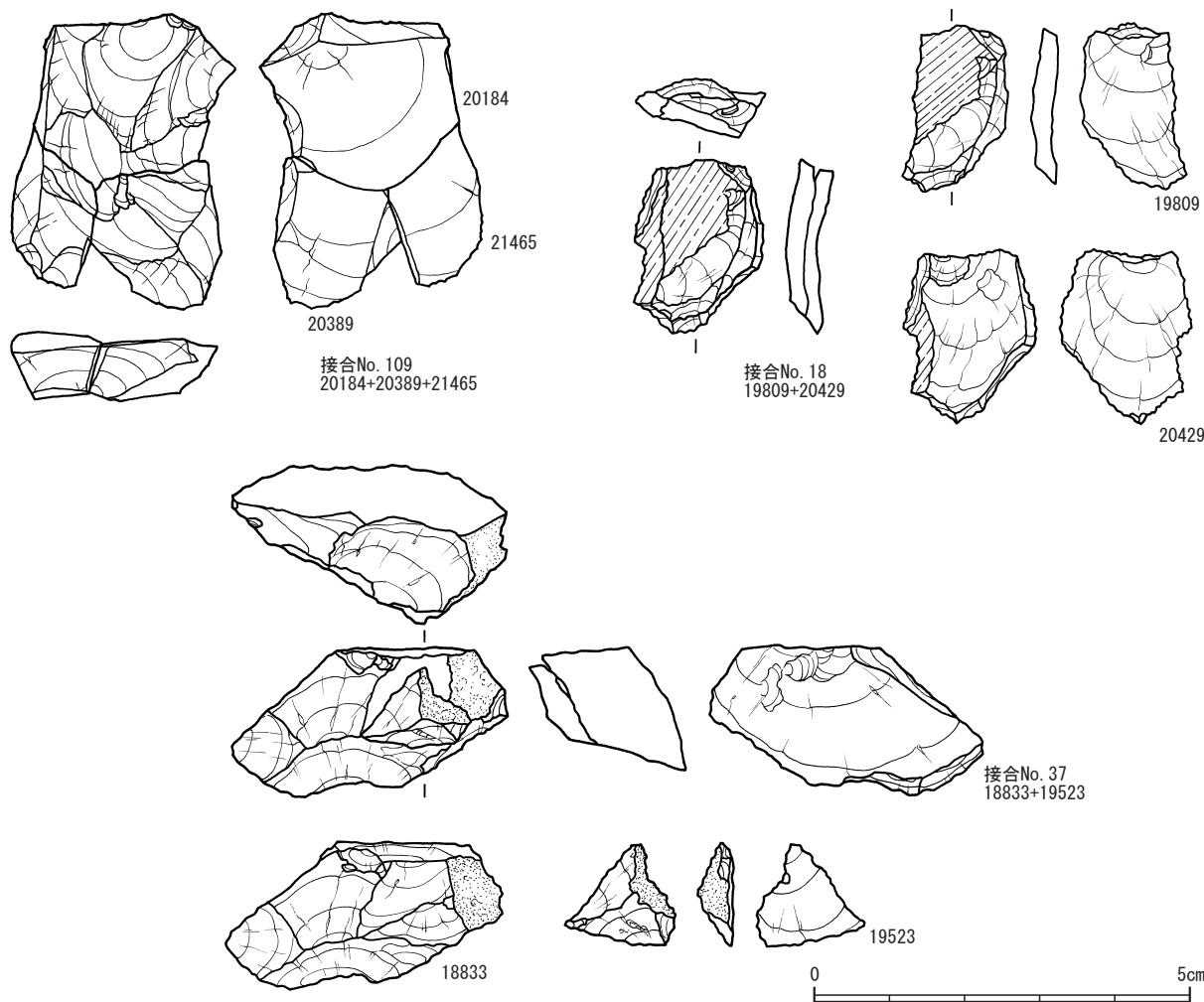
-11H-12
-11I-12

H-12H-13
I-12I-13

H-13H-14
I-13I-14

H-14H-15
I-14I-15





第109図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(4)

接合No. 71 (第113図)
 黒曜石Ⅱ-A類 [第14エリア第45ブロック]
 2点の接合で、腹面からの刃潰し状の二次加工がみられる。
 10305は礫皮面を一部残すが、10846の周縁には腹面からの加工痕が巡る。

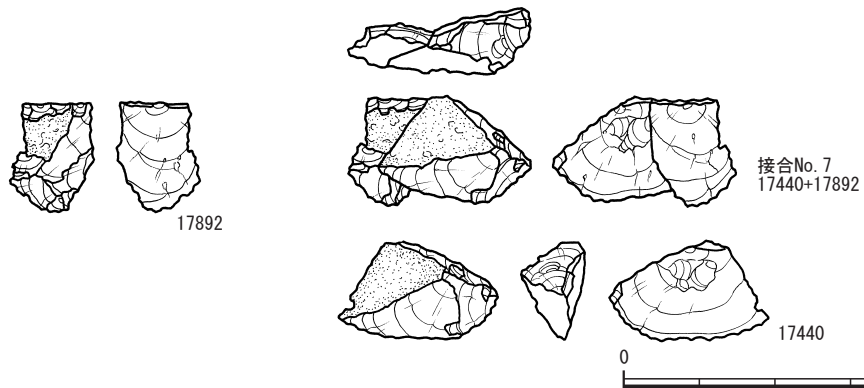
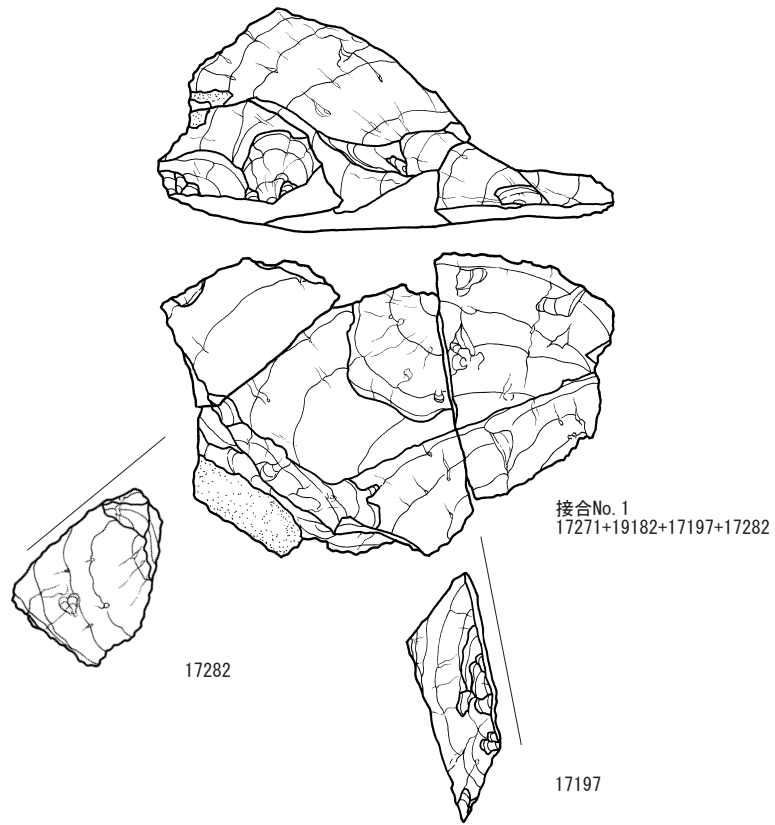
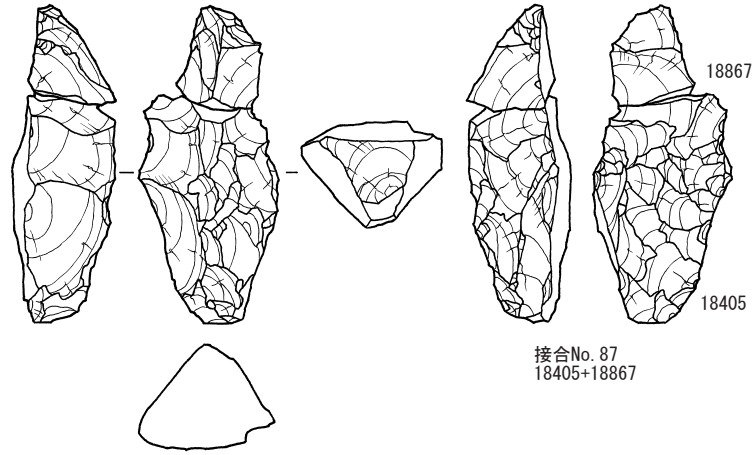
接合No. 46 (第113図)
 頁岩 [第15エリア第52ブロック]
 2点(12369+10701)の接合で、折断剥片の可能性がある。

接合No. 63 (第114図)
 黒曜石Ⅰ類 [第15エリア第55ブロック]
 2点の接合で、二次加工のある剥片(12856, 第90図0365)と(12855)の接合である。
 両側縁に調整剥離が加えられることから、三稜尖頭器を意識した可能性が高い。腹面の稜線部に打点がみられるが、破損の原因は明らかでない。

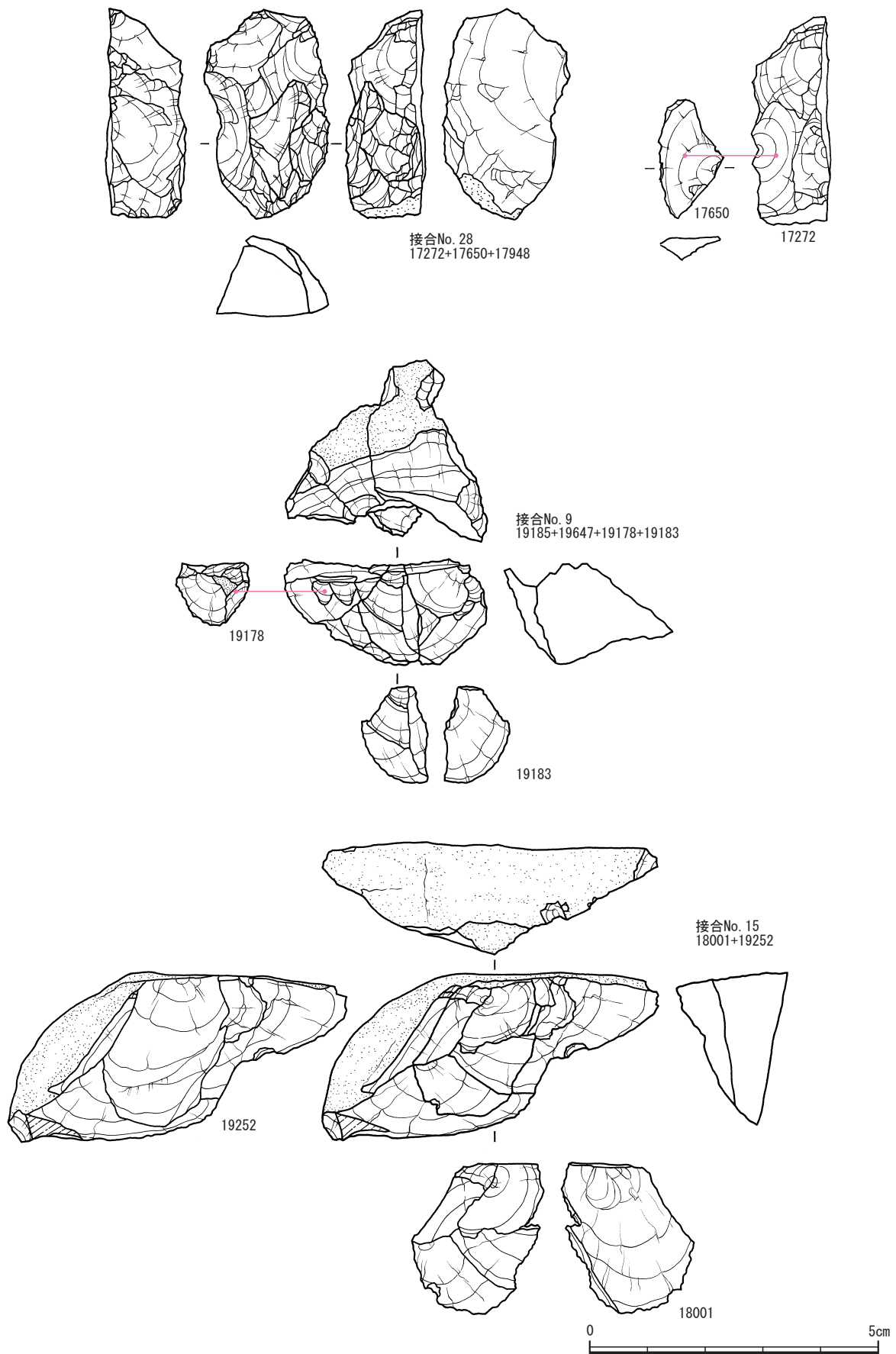
接合No. 80 (第114図)
 黒曜石Ⅱ-A類 [第15エリアブロック外]
 2点の接合で、スクレイパー(16100, 第91図0372)と(16099)の接合である。16100については先にスクレイパーと器種認定したが、16099の先端部の加工状況から判断すると錐状石器の可能性もある。分割面の腹面に打点らしき痕跡がみられる。

接合No. 57 (第114図)
 黒曜石Ⅱ-A類 [第16エリア第60ブロック]
 2点の接合で、剥片(18737)と調整剥片(18726)の接合である。

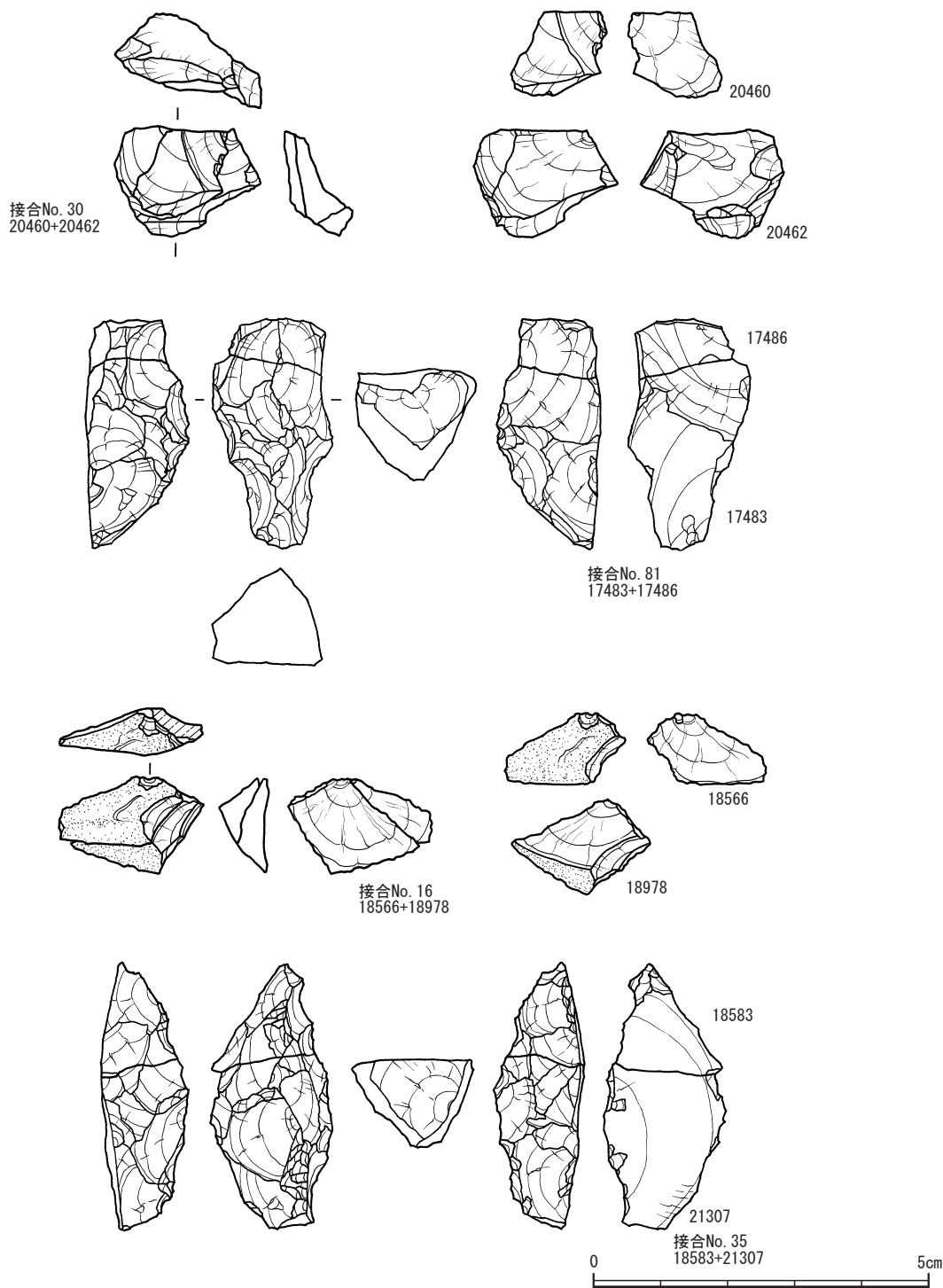
接合No. 61 (第115図)
 黒曜石Ⅱ-A類 [第16エリア第56ブロック]
 2点の接合で、剥片(13431)と剥片(13456)の接合である。2点とも背面に礫皮面を残すことから、調整剥片の可能性も考えられる。打面から推測すると、単剥離打面石核から取り出したとみられる。



第110図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(5)



第111図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(6)



第112図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(7)

接合No. 64 (第115図)

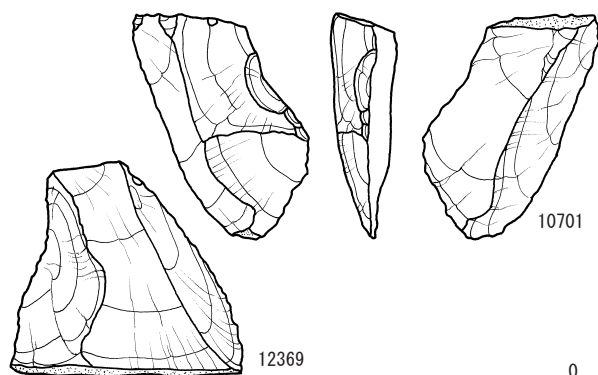
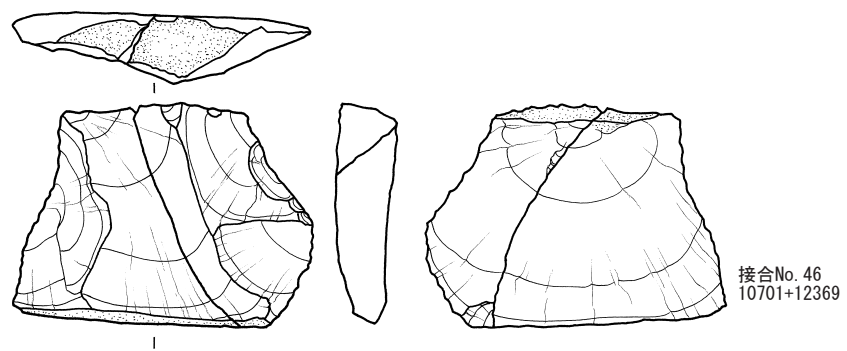
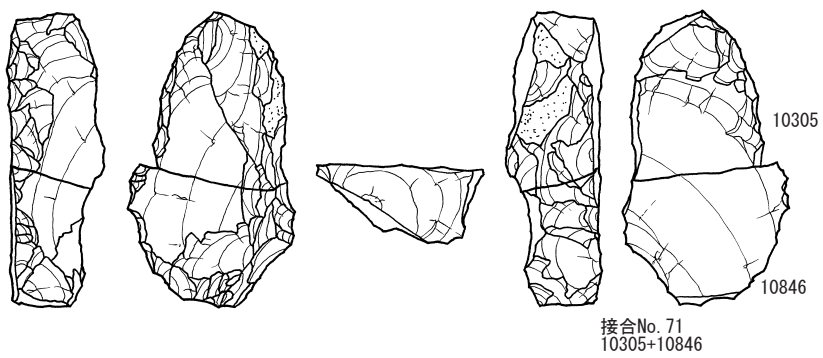
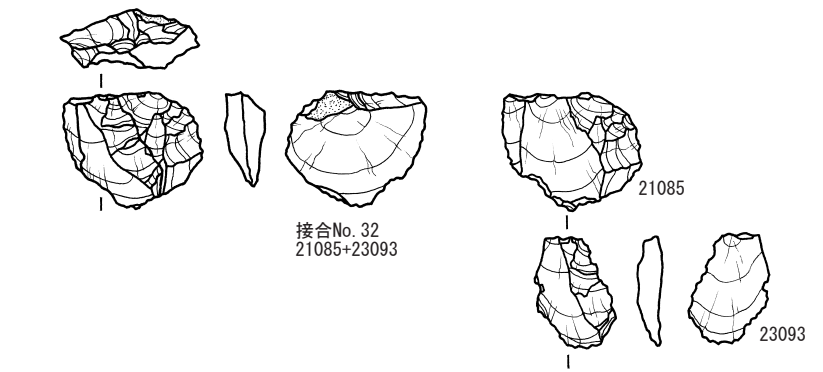
黒曜石Ⅱ-A類[第16エリア第61ブロック, ブロック外]
三稜尖頭器の頭部(13874, 第97図0403)と基部(13777)
の接合である。

0403については二次加工のある剥片で区分し、三稜尖頭器の可能性もあるとの判断をしていた。接合面に、不純物粒子が数点観察されることから、これらが分割の要因となった可能性が高い。

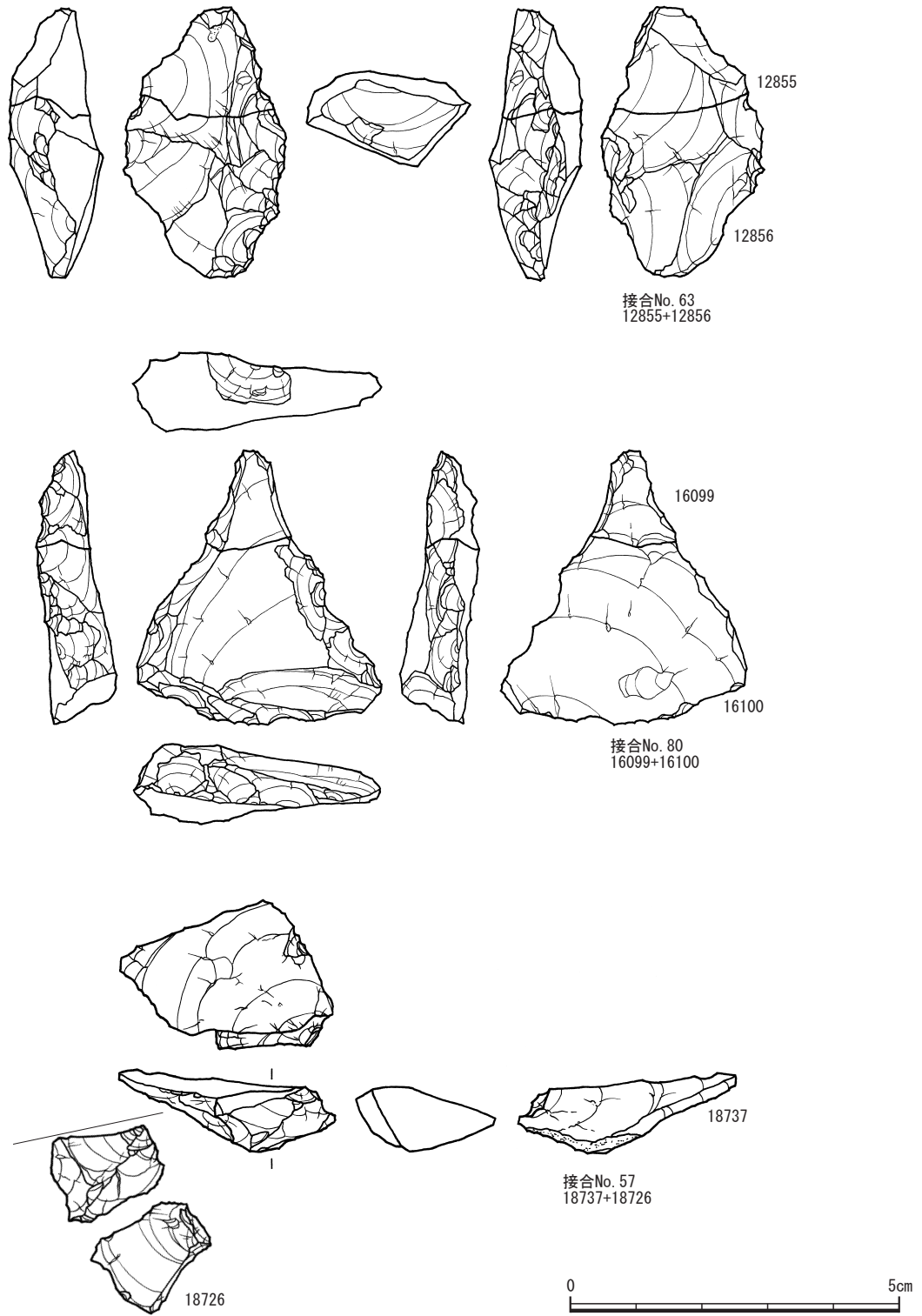
接合No. 67 (第115図)

黒曜石Ⅰ類 [第16エリア第60ブロック, ブロック外]
ナイフ形石器とした(13886, 第96図0400)とブランティ
ングチップ(14159)の接合である。

ナイフ形石器の左側縁に加撃し、背面中央部に平坦面
を作り出すとともに体部の厚みを減少している。



第113图 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(8)



第114図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(9)

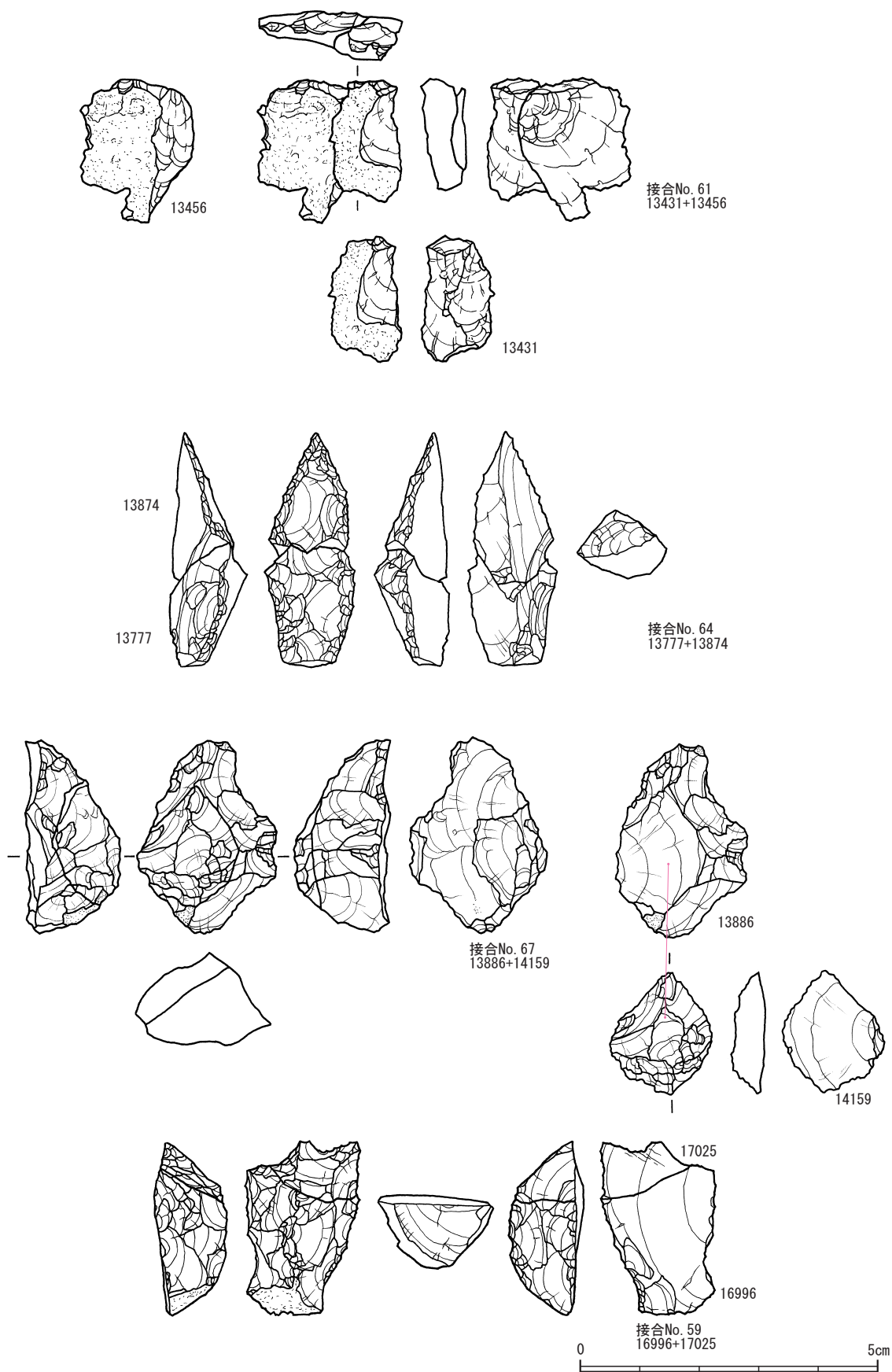
接合No. 59 (第115図)

黒曜石Ⅱ-A類 [第17エリア第62ブロック]

三稜尖頭器の基部とした(16996, 第100図0426)と二次加工のある剥片(17025)の接合である。

接合復元の形状からは、三稜尖頭器とは認定しがたい。先端部に2カ所の深い剥離痕が加わることから、挟入石

器あるいは鋸歯縁石器の可能性もある。



第115図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(10)

第3節 第Ⅲ文化層の調査

1 調査の方法と概要

第Ⅲ文化層は、発掘調査においてXⅡ層として取り上げた遺構、遺物を中心に構成する。

ただし、XⅡ層出土遺物のうちXⅢ層の浮き上がりと判断した遺物は第Ⅱ文化層で取り扱ったので、結果的に第Ⅲ文化層は下位の層の遺物集中とは平面的に重複しないXⅡ層単独の遺物集中群を包括することになる。

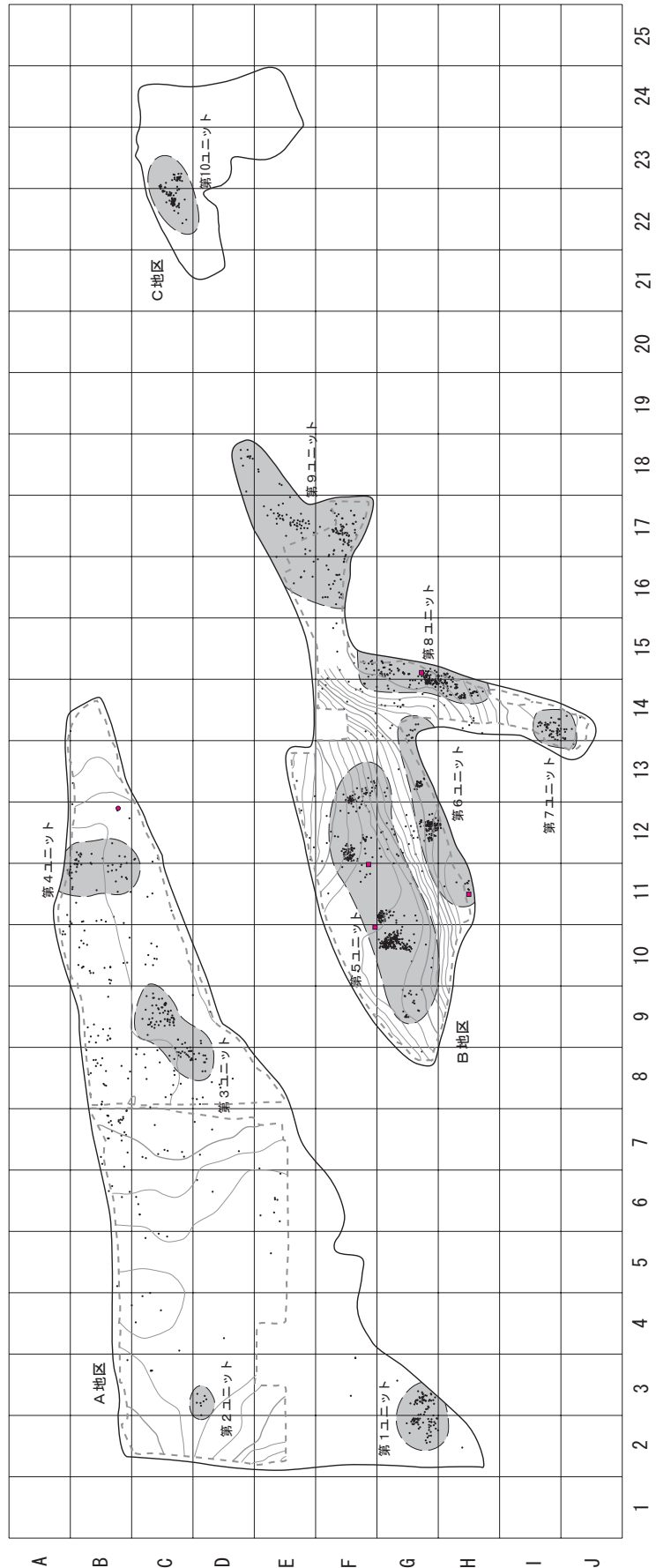
遺物分布の傾向は、A地区においては、比較的広い範囲に分散して点在する傾向を示す。ブロック認定においては、比較的遺物が集中するまとまりをブロックとして包括し、それぞれで便宜的にエリア設定及びユニット設定を行った。A地区においては、第1ユニットから第4ユニットを認定した。

一方、B地区は北に急傾斜の後背地を持ち、南側に階段状に傾斜しながら平坦面を形成する地形であり、遺物集中はスポット的なまとまりを示しながら広い範囲に点在する。

遺物集中についてはブロック認定後エリア設定を行い、地形を考慮しながら第5ユニットから第9ユニットまでを設定した。

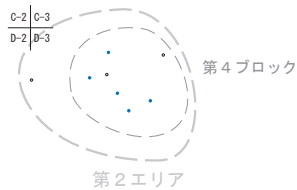
なお、B地区第6ユニット、第7ユニット、第8ユニットについては、遺物分布が調査区域外へ展開する可能性が高い。

C地区は、最も東側で確認された遺物集中区で、C、D-22、23区にあり第10ユニットを形成する。調査範囲が限定されているため周囲の状況は分からないが、調査区内においては複数のブロックが確認できる。



第116図 第Ⅲ文化層ユニット配置図及び遺構位置図

C-1	C-2
D-1	D-2



C-3	C-4
D-3	D-4

C-4	C-5
D-4	D-5

D-1	D-2
E-1	E-2

D-2	D-3
E-2	E-3

D-3	D-4
E-3	E-4

D-4	D-5
E-4	E-5

E-1	E-2
F-1	F-2

E-2	E-3
F-2	F-3

E-3	E-4
F-3	F-4

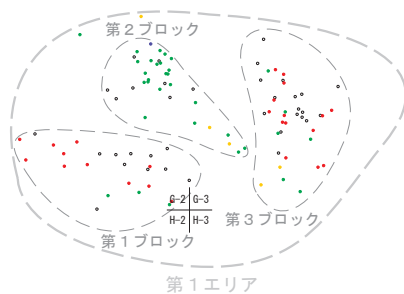
E-4	E-5
F-4	F-5

F-1	F-2
G-1	G-2

F-2	F-3
G-2	G-3

F-3	F-4
G-3	G-4

F-4	F-5
G-4	G-5

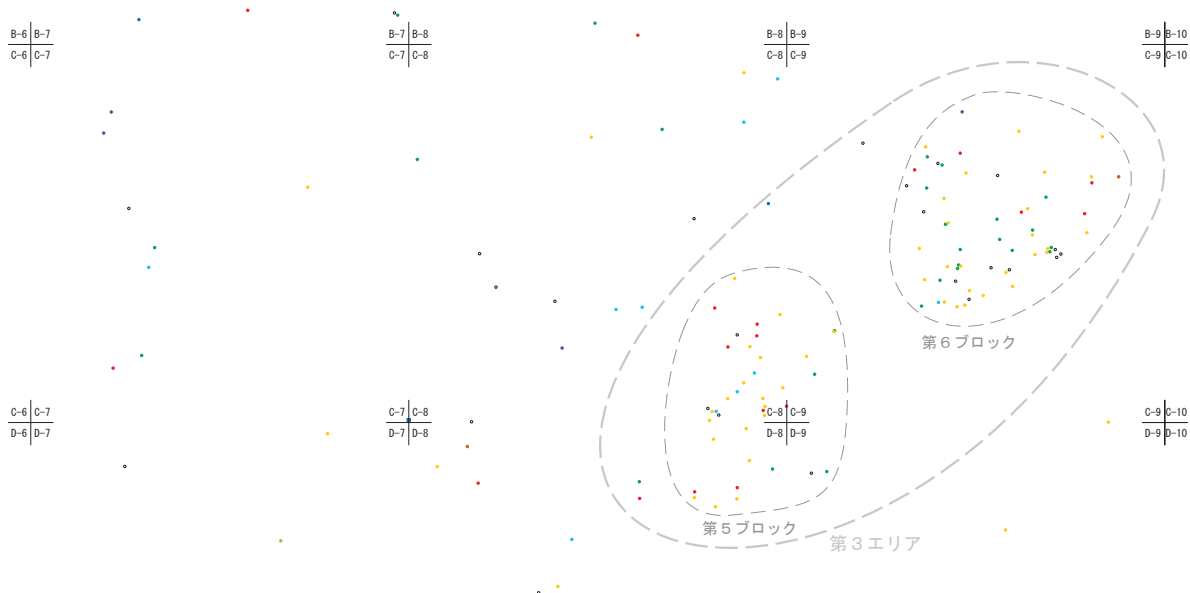


G-1	G-2
H-1	H-2

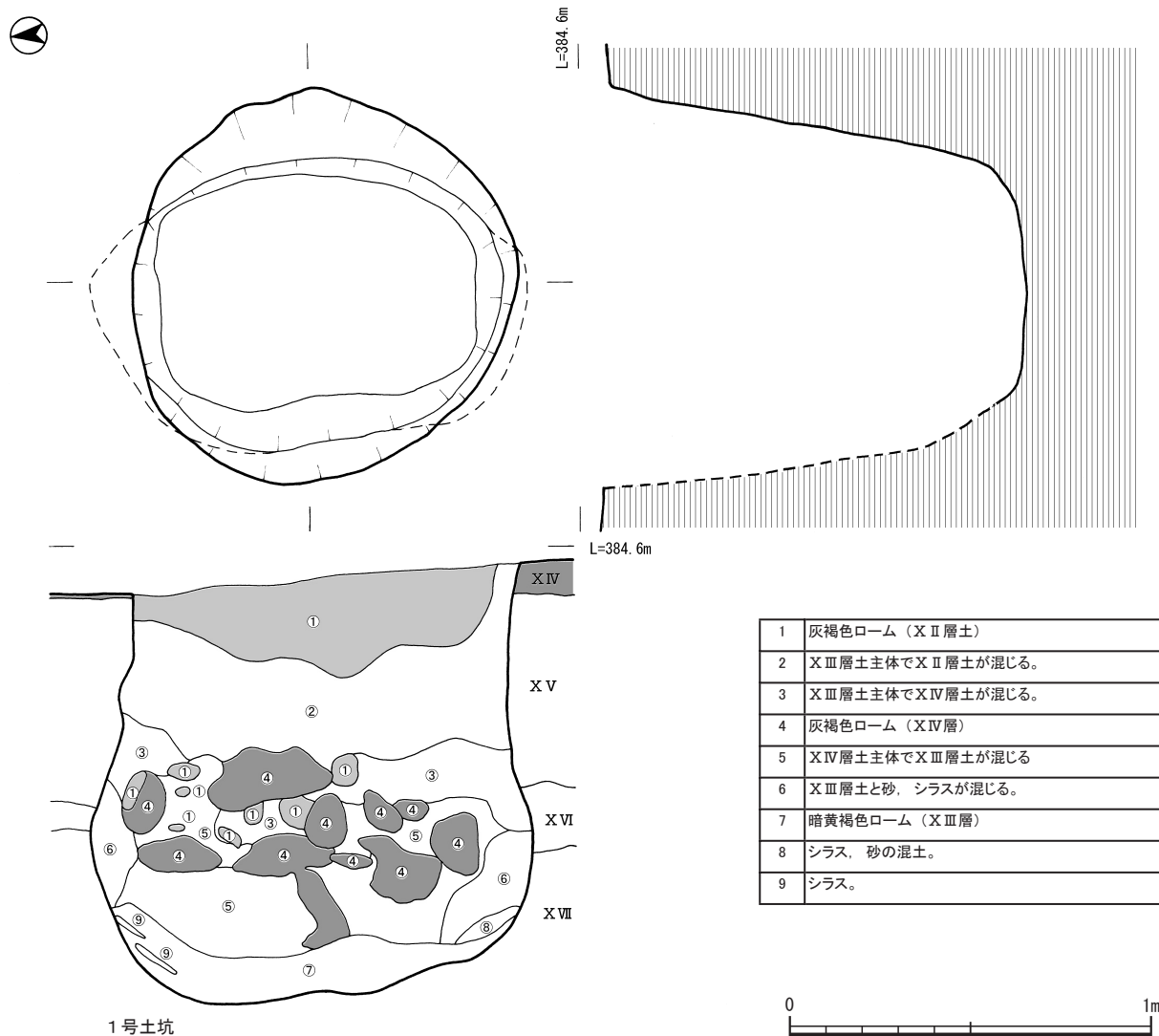
G-3	G-4
H-3	H-4

G-4	G-5
H-4	H-5

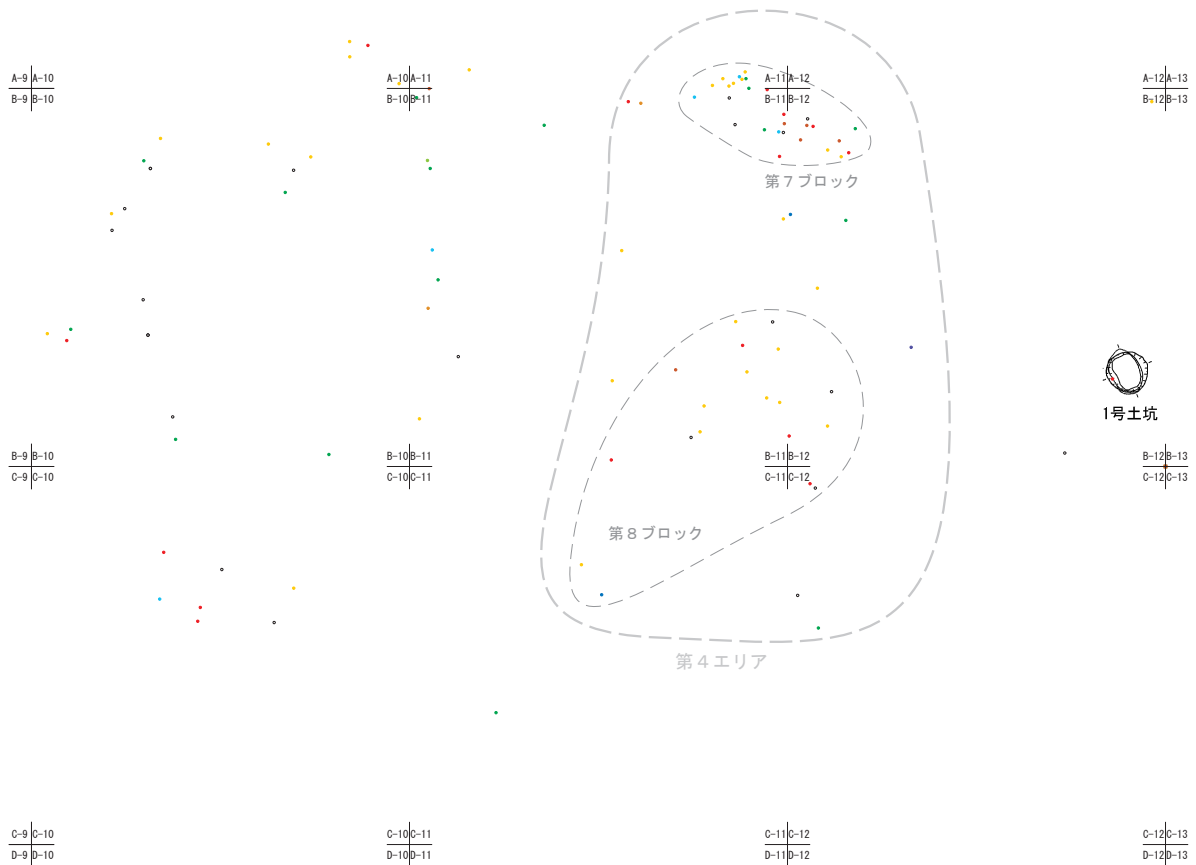
第117図 第三文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)



第118図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)



第119図 第Ⅲ文化層遺構実測図(1)



第120図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(3)

2 遺構

土坑

第Ⅲ文化層(XⅡ層)ではB-12区で1基、土坑を検出した。A地区東側の急傾斜面際で検出され、周囲からの遺物出土もほとんどみられなかった。

1号土坑(第119図)

B-12区、XⅣ層でほぼ円形の平面プランをした径1.12m、検出面からの深さ1.24mを測る土坑を検出した。掘り込みは水成作用によると思われる砂礫層を掘り抜きシラスまで達している。掘り込み壁面下部はXⅥ層、XⅦ層付近でやや崩壊し、袋状を呈している。

遺構内の埋土は、床面直上に暗黄褐色ロームすなわち、本遺跡XⅢ層(⑦)が先行し、その上位にXⅣ層主体土にXⅢ層が混入土(⑤)の流入堆積が確認される。次に、土坑の中位には、XⅣ層の土塊(④)とXⅡ層の土塊(①)が堆積し、その後、③、②が流入、最終埋土①が流入することとなる。

この土坑で注目されるのが、土坑の中位にある土塊堆積(ブロック、20~30cm)である。土塊の残存状況からは、土坑の掘り下げ作業で掘り出された排土塊が、何らかの原因で再び土坑の中央部の一角を充填したと捉えることもできる。また、⑦、⑤の埋土が先行し堆積し、その後、

排土塊が堆積することから、掘り下げ作業と土塊の充填の間には、⑦、⑤が流入に要した分だけの時間差が生じることとなる。しかし、①、④の土塊が排土塊に近い状態にあることから推測すると、その間は短期間であったと考えざるを得ない。

土坑製作時期については、検出面での最終埋土がXⅡ層の灰褐色土であることから、XⅡ層に限りなく近いと判断している。

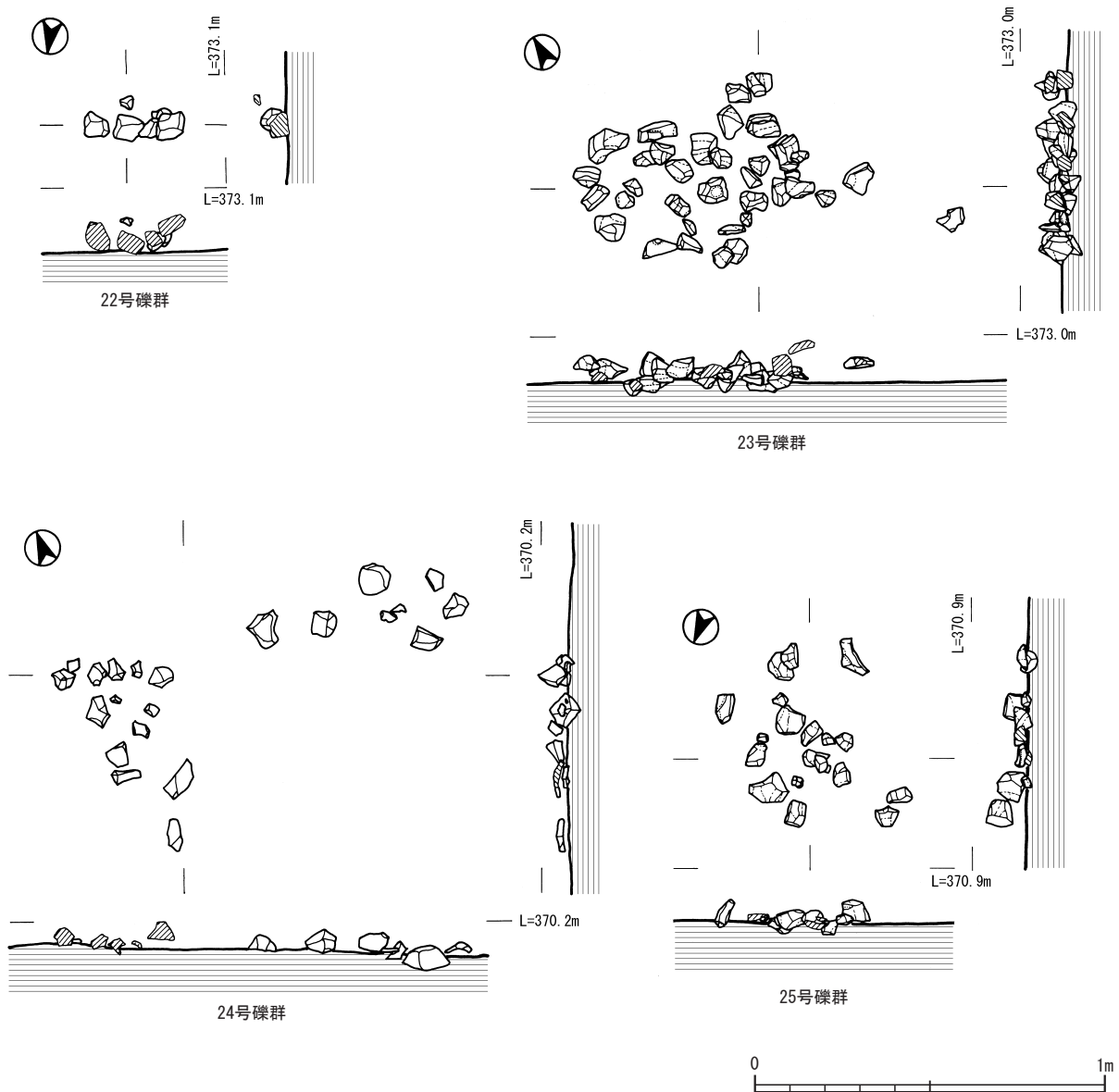
土坑の性格を判断するため、埋土の植物珪酸体分析とリン分析を行った。リン酸については検出できなかった。珪酸体分析では、土坑底部付近、最上位の覆土からススキ属単細胞珪酸体が目立つことが報告され、底部付近にはススキ属の植物遺体が多く存在した可能性が指摘されている。

土坑の可能性としては、落とし穴、貯蔵穴、墓坑等が考えられる。土坑の性格を判断する上で最も課題となるのが、土塊の存在である。この土塊が人為的あるいは自然崩落的に遺構の中程を充填したとしても、その行為は、遺構掘削後の早い段階であったはずである。

詳細な埋土状況は(第119図)に示した。

礫群

第Ⅲ文化層(XⅡ層)では4基の礫群を検出した。遺構はB地区にのみ分布し、それぞれが10~30mの間隔を



第121図 第三文化層遺構実測図(2)

もって配置する。背後に急傾斜が控える小平坦面の北側にあたる部分に2基と、そこからやや南側に下った部分に1基、離れてその東側に1基を検出した。

22号礫群 (第121図)

F-10区で検出した。火成岩系の礫を使用し、小形の礫が多い。礫形状は角礫である。礫は被熱により赤化している。(礫群Ⅰ類)

23号礫群 (第121図)

F-11区で検出した。砂岩を使用し、若干頁岩が混ざる。中型の礫が多く、頁岩は熱破碎している。半数ほどの礫は被熱により赤化している。(礫群Ⅱ類)

24号礫群 (第121図)

G-15区で検出した。小形の安山岩と中形の砂岩を使用する。小型の礫が西寄りに、中型の礫が東寄りにやや分布域を異にする。わずかに被熱による赤化がみられる。(礫群Ⅲ類)

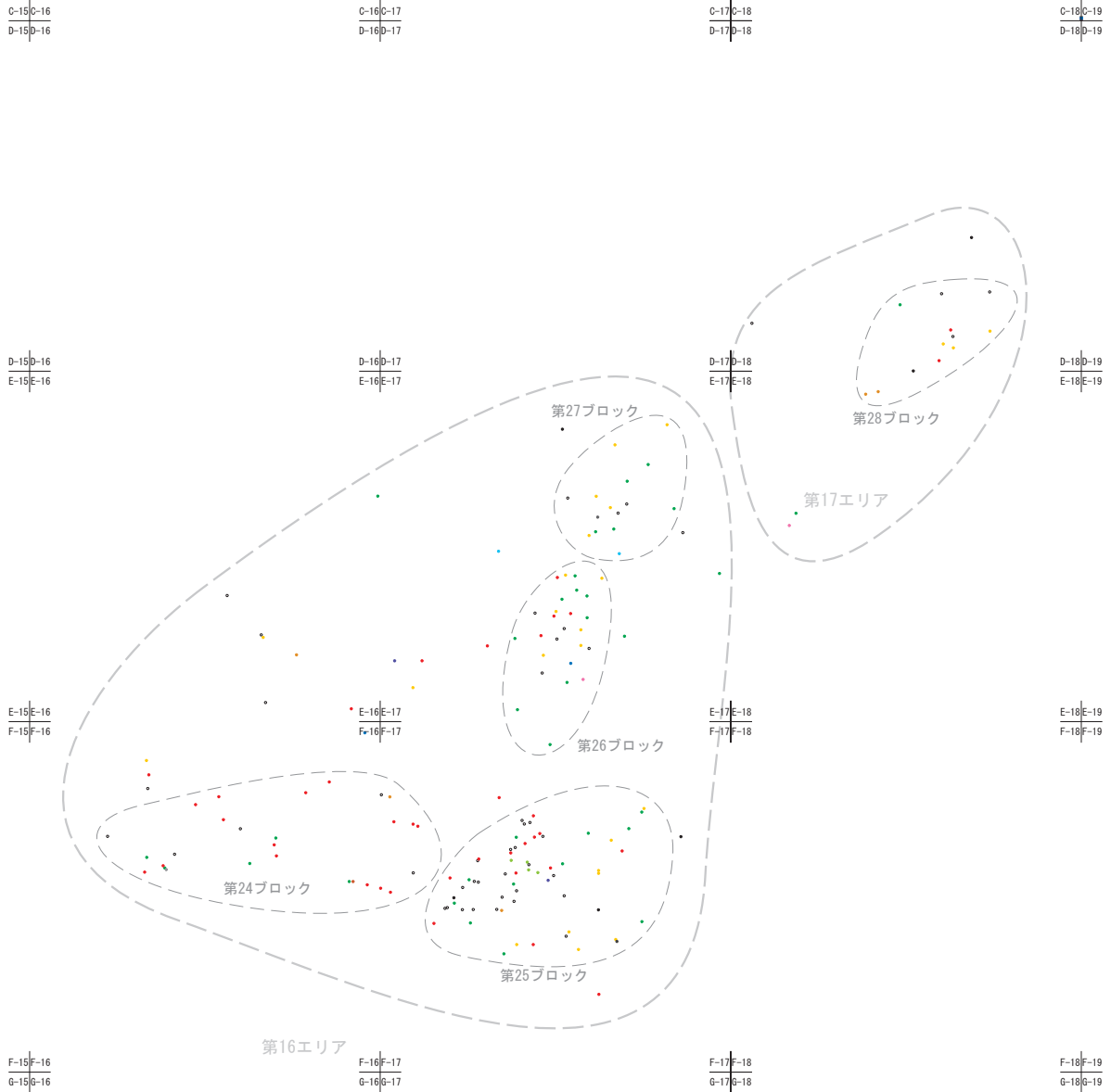
25号礫群 (第121図)

H-11区で検出した。安山岩を使用し、若干砂岩が混ざる。小型の礫が多い。礫形状は角礫であるが摩滅している。一部の礫は被熱により赤化がみられ、熱破碎しているものもみられる。(礫群Ⅲ類)

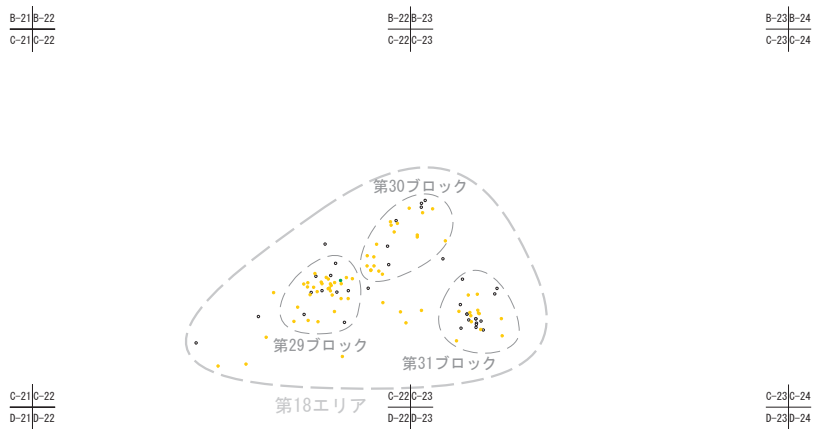


第122図 第三文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(4)

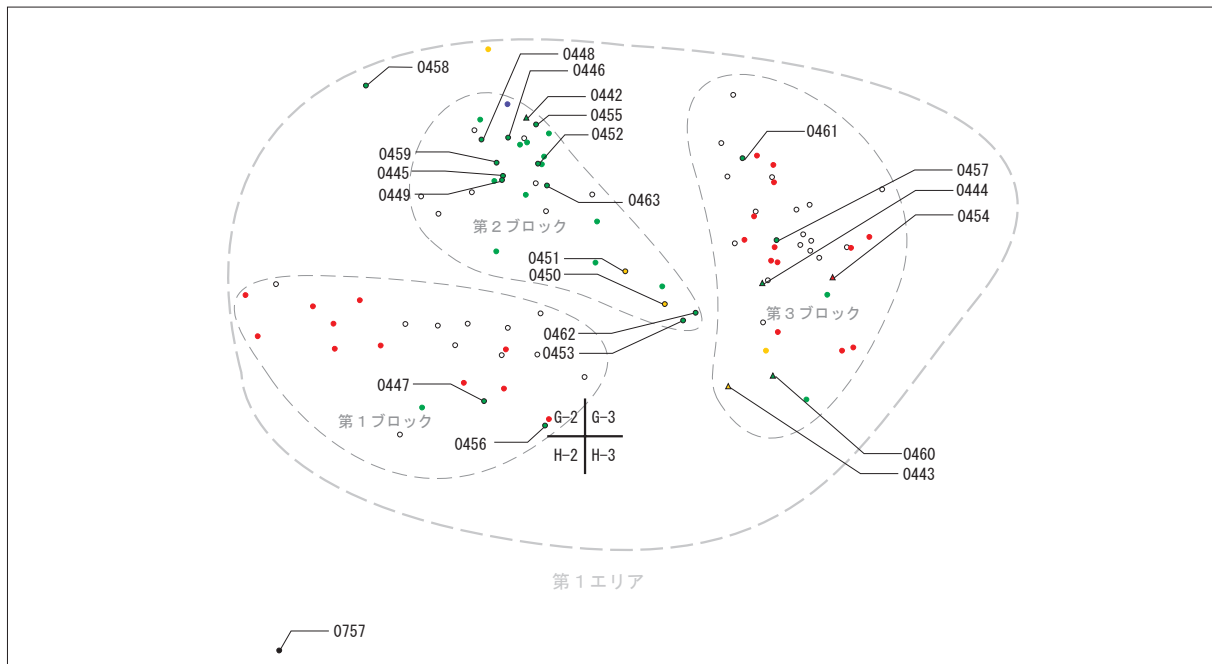




第123図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(5)



第124図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(6)



第125図 第三文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図

3 遺物

第1ユニット

第1エリアを第1ユニットと認定した。

第1エリア(第125図, 第126~128図)

G-2, 3区に分布するものを、第1エリアとし、さらに、遺物の集中状況から3つのブロックに区分し、第1ブロック、第2ブロック、第3ブロックとした。

第1ブロックは黒耀石II-A類を主体に数点の頁岩、第2ブロックは頁岩を主に安山岩、ギョクズイ、第3ブロックは黒耀石II-A類とギョクズイ、頁岩で構成する。

器種は、ナイフ形石器3点(0442, 0443, 0444)、楔形石器1点(0454)、スクレイパー1点(0460)の他、微細剥離痕のある剥片(0462, 0463)と剥片が確認できる。

0442のナイフ形石器は、小型の不定型剥片の左側縁に刃潰し加工を行い、先端部は尖り、剥片の形状を大きく変えていない。0443は切出状の形状を持つナイフ形石器で、先端部は欠損するが両側縁は両方向から丁寧な刃潰

し加工がみられる。0444も同様で、特に左側縁は腹面からの丁寧な調整が認められ、刃部の一部を欠くが鋭い刃先を持つ。

0463は下端部に礫皮面を残す剥片に微細剥離痕が認められる。剥片は多彩で、縦長剥片と不定形横長剥片が同居した感がある。0452は、交互剥離石核の打面部の調整剥片の可能性はある。

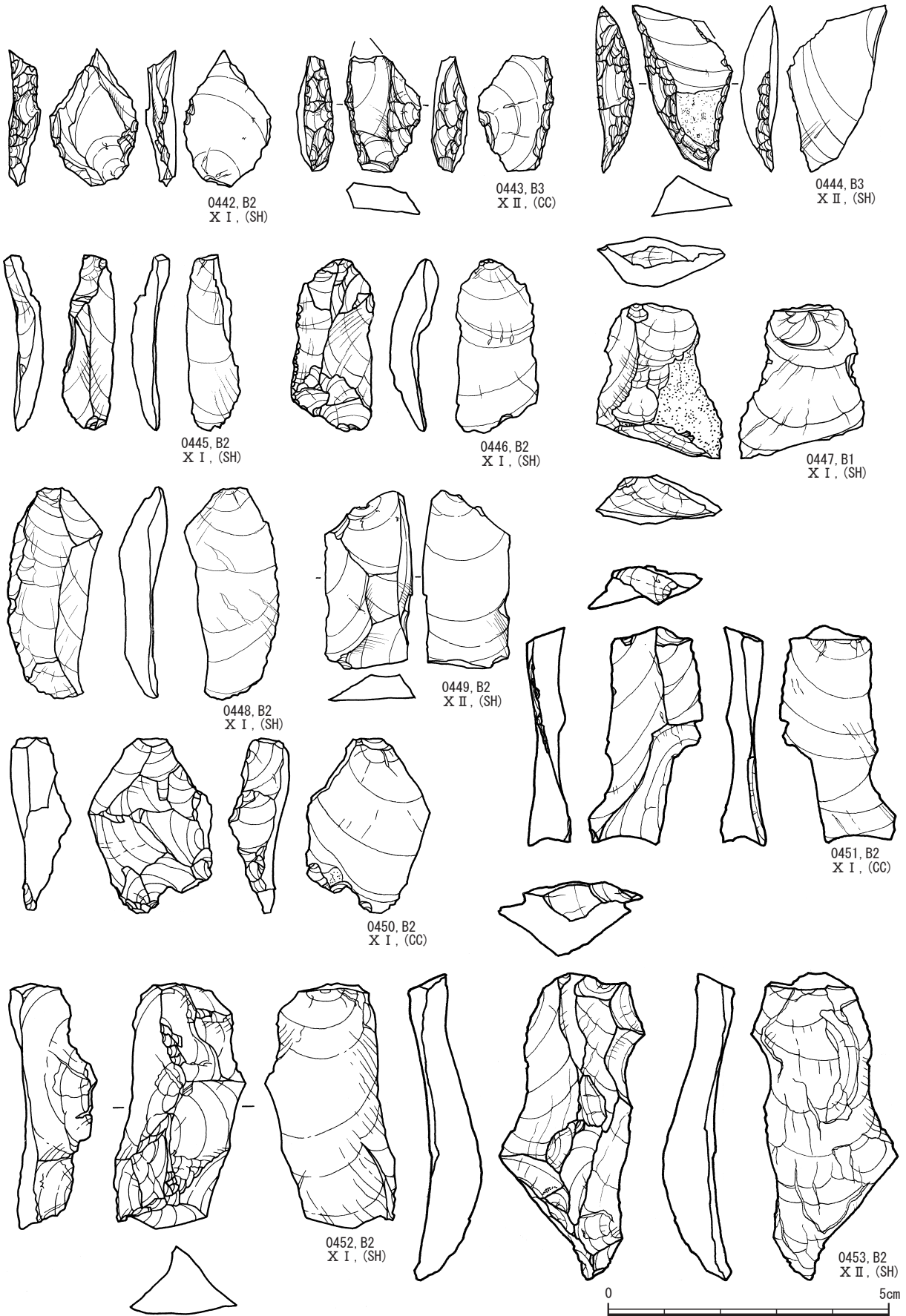
楔形石器とした0454は、腹面に整形剥離が数回施される。

0460のスクレイパーは、剥片下面から右方向に削器状の刃部が残される。

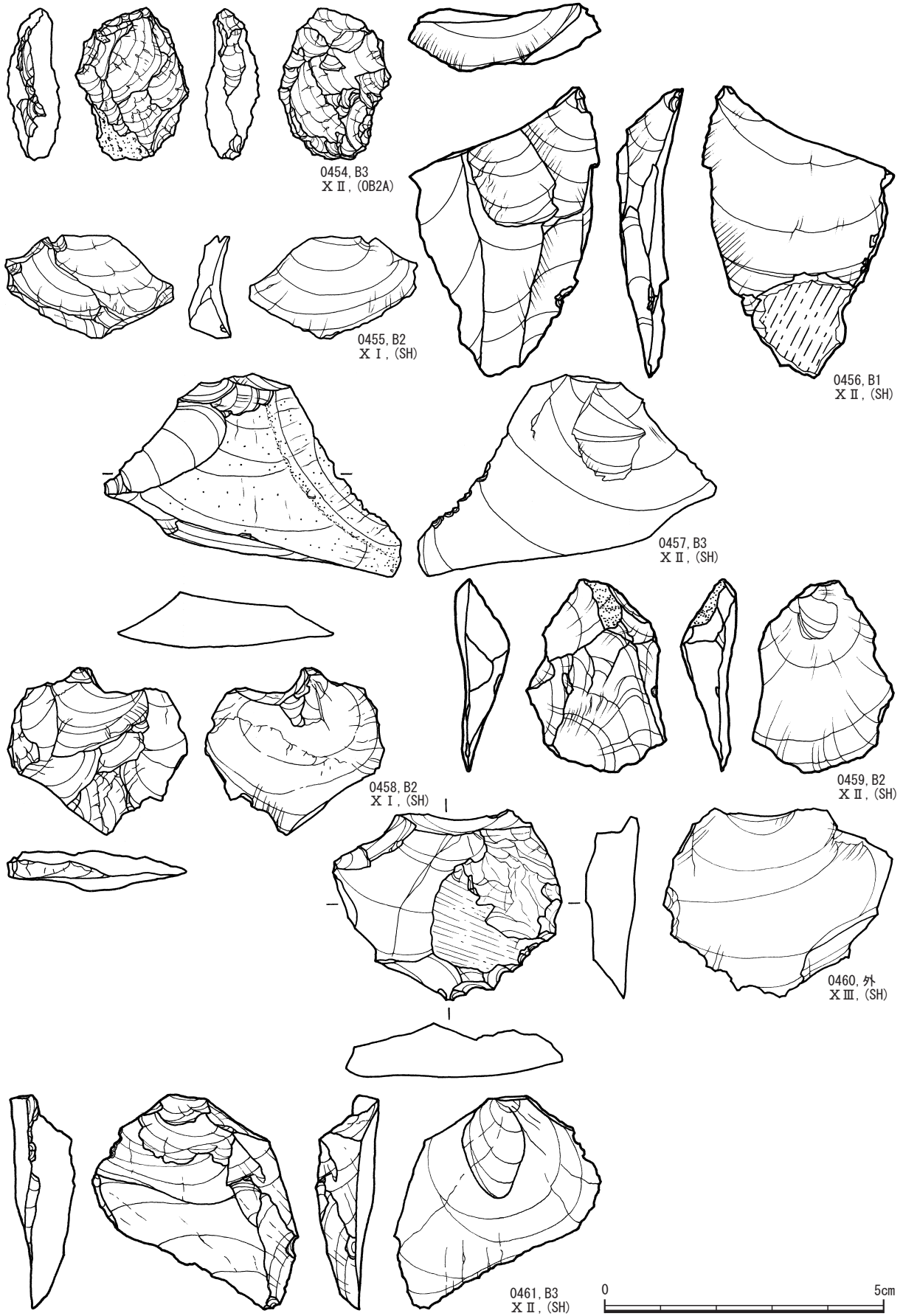
0462と0463の下端部には微細な剥離痕が認められる。

ナイフ形石器中心の構成で、剥片の形状からは多彩な剥片剥離技術の存在がうかがえる。

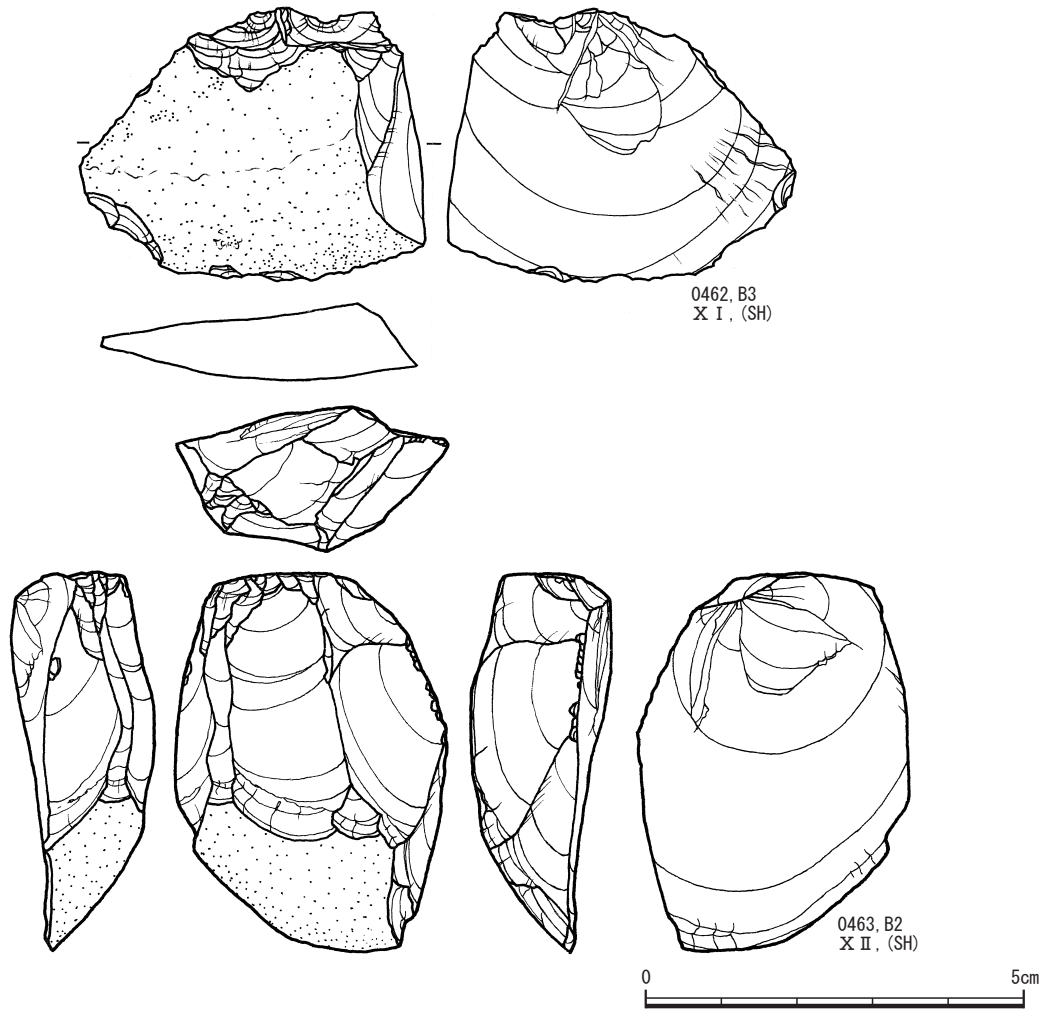
0445, 0448, 0463の3点は挿図作成後、接合することが判明している。



第126図 第Ⅲ文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(1)



第127図 第三文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(2)



第128図 第Ⅲ文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(3)

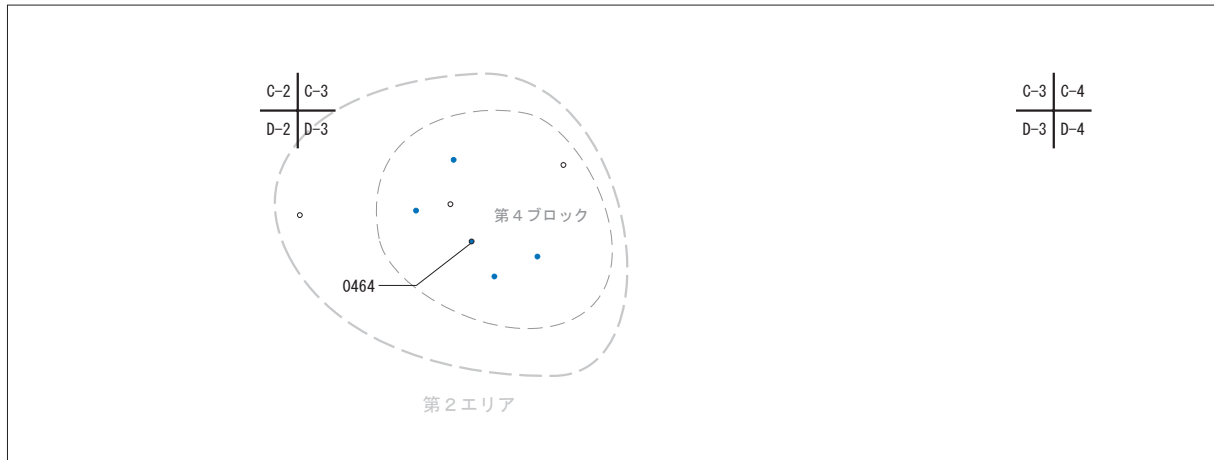
第2ユニット

第2エリアを第2ユニットと認定した。

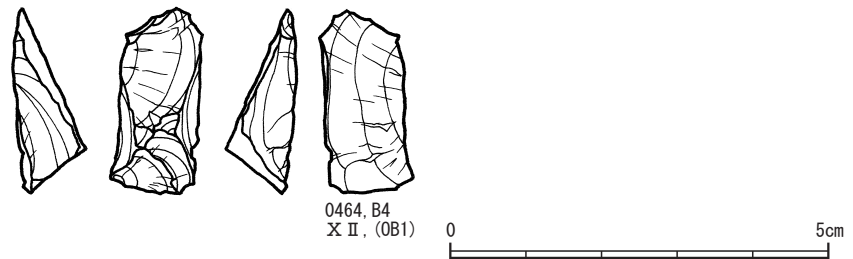
第2エリア(第129図, 第130図)

D-3区に集中し, 黒耀石I類を用いた5点の遺物が確認できる。

0464の1点を図示した。不定形剥片の頂部と端部を折断している。



第129図 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア遺物出土状況図



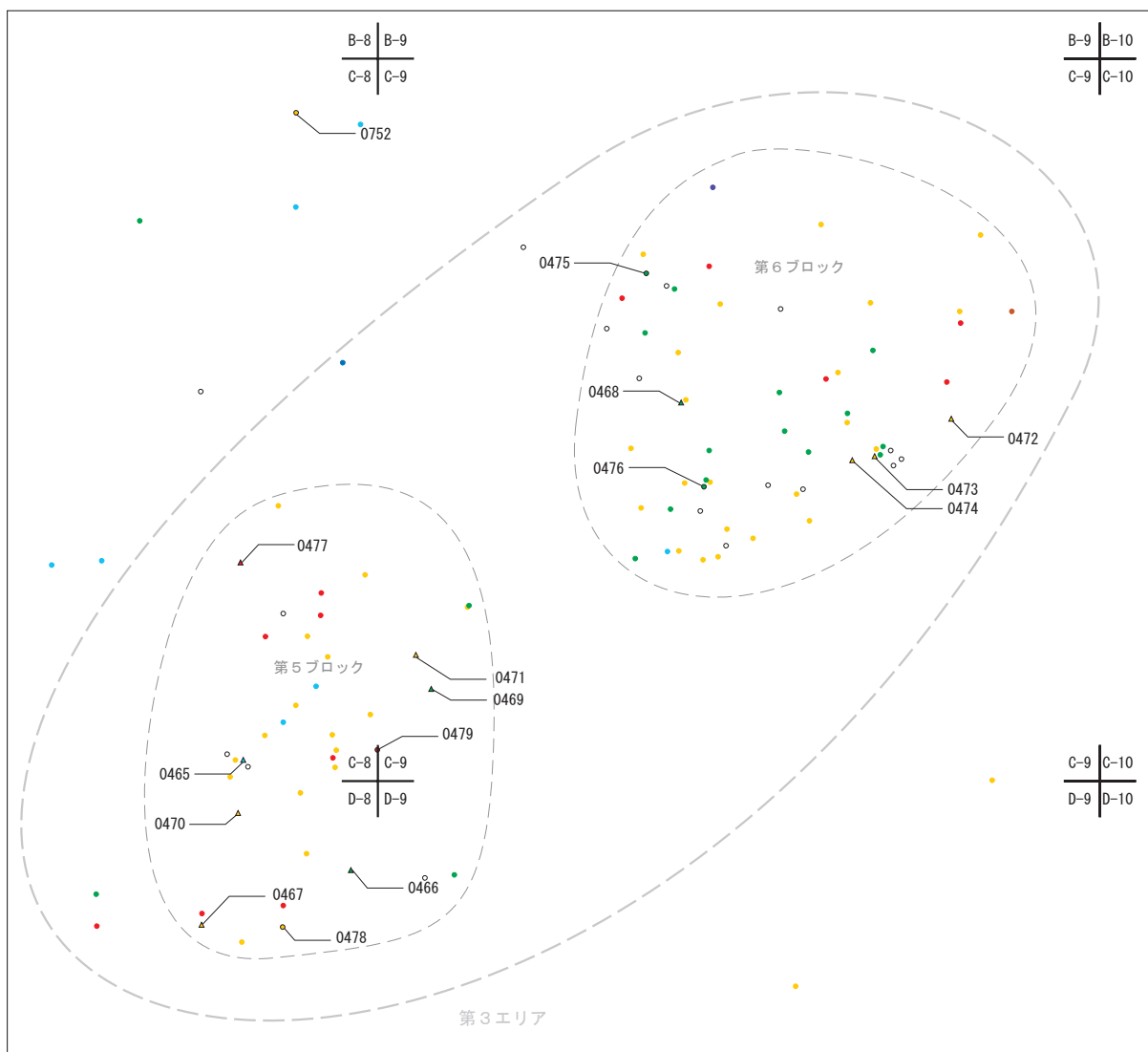
第130図 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア出土石器実測図

第31表 第Ⅲ文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
126	0442	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	24.5	15.9	5.5	1.61	15526	X I	G-2	-
	0443	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U1	A1	B3	CC	-	(21.0)	(13.7)	(5.8)	(1.64)	15652	X II	G-3	-
	0444	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U1	A1	B3	SH	-	29.5	18.0	7.0	2.10	15615	X II	G-3	-
	0445	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	31.3	9.7	7.1	1.16	15551	X I	G-2	-
	0446	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	30.9	15.1	8.5	2.40	15533	X I	G-2	124
	0447	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B1	SH	-	27.8	22.7	9.0	3.48	15585	X I	G-2	-
	0448	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	37.6	17.0	9.0	3.37	15537	X I	G-2	124
	0449	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	31.6	15.8	4.2	2.72	15553	X II	G-2	-
	0450	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	CC	-	31.3	22.2	11.2	5.07	15649	X I	G-3	-
	0451	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	CC	-	38.9	20.5	8.2	2.93	15646	X I	G-3	-
	0452	剥片	調整剥片	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	43.8	23.8	15.9	10.67	15593	X I	G-2	-
	0453	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	54.7	26.1	13.0	7.68	15651	X II	G-3	-
127	0454	石器	楔形石器	-	Ⅲ	U1	A1	B3	OB2	A	27.5	20.5	10.0	4.82	15629	X II	G-3	-
	0455	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	18.6	30.3	8.0	2.34	15524	X I	G-2	-
	0456	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U1	A1	B1	SH	-	51.9	34.2	12.0	11.46	15589	X II	G-2	-
	0457	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B3	SH	-	36.5	53.3	11.0	15.58	15635	X II	G-3	-
	0458	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	30.1	32.4	7.5	5.27	15543	X I	G-2	-
	0459	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	34.7	25.4	10.1	5.97	15654	X II	G-2	125
	0460	石器	スクレイパー	-	Ⅲ	U1	A1	外	SH	-	34.3	41.2	10.0	12.26	15621	X III	G-3	123
128	0461	剥片	-	-	Ⅲ	U1	A1	B3	SH	-	38.7	37.1	11.5	9.46	15605	X II	G-3	-
	0462	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	U1	A1	B3	SH	-	36.2	45.9	11.5	18.75	15650	X I	G-3	-
	0463	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	U1	A1	B2	SH	-	50.2	36.3	19.0	34.10	15655	X II	G-2	124

第32表 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
130	0464	剥片	-	-	Ⅲ	U2	A2	B4	OB1	-	24.8	12.6	9.5	2.08	23190	X II	D-3	-



第131図 第三文化層第3ユニット第3エリア遺物出土状況図

第3ユニット

第3エリア(第131図, 第132, 133図)

C, D-8区からC-9区に展開し, 第5ブロックと第6ブロックを形成する。

第5ブロック, 第6ブロックともにギョクズイを中心に黒耀石Ⅱ-A類, 黒耀石Ⅲ類, 頁岩等が混じる石材で構成する。

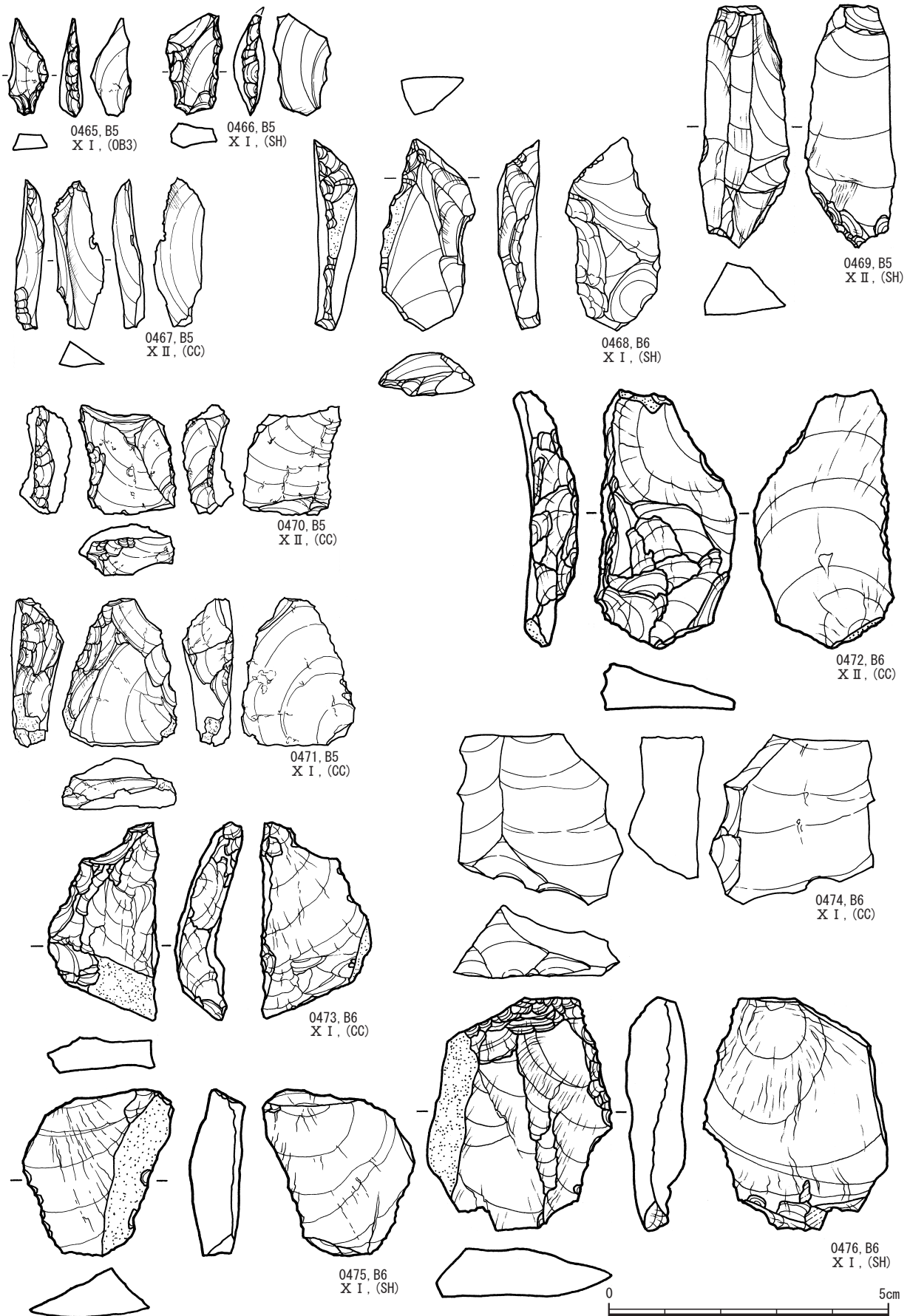
器種は, ナイフ形石器5点(0465~0468, 0472), 二次加工のある剥片5点(0469~0471, 0473, 0477)と微細剥離痕のある剥片(0476)と剥片を確認している。

ナイフ形石器の0465は小型横長剥片の打点側を刃潰しした一側縁加工, 0466は両側縁と底面に刃潰しした切出形, 0467は不定形剥片の一部に刃潰しした部分加工, 0468は左側縁に丁寧な刃潰し加工が集中する部分加工で, 右側縁は背面に調整剥離が向けられ, 刃部は鋭利に残る。0472も刃潰し加工は左側縁に集中する。したがって, 素材剥片を巧みに利用していると言える。

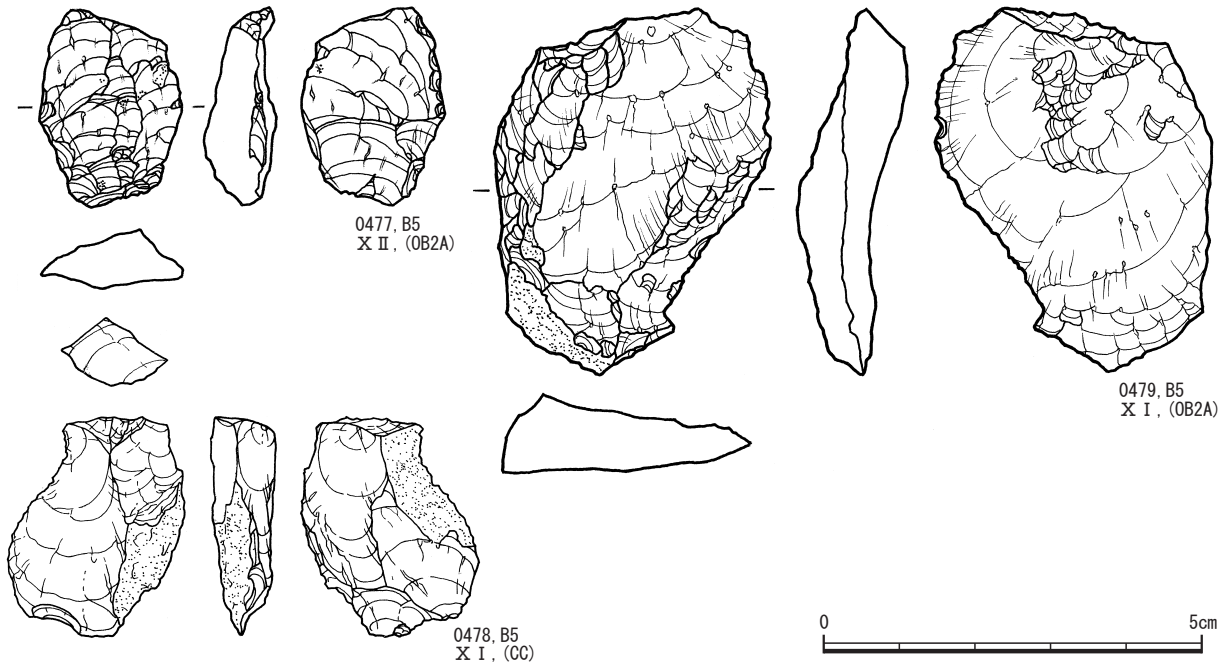
二次加工のある剥片の0470は削器状, 0471は尖頭状石器あるいはナイフ形石器の基部が想定される。

0476は右側縁に微細な剥離痕が確認できる。

ナイフ形石器の形状から, 小型化と素材剥片の巧みな使い方が注目される。



第132図 第三文化層第3ユニット第3エリア出土石器実測図(1)



第133図 第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア出土石器実測図(2)

第4ユニット

第4エリアを第4ユニットと認定した。

0483は折断剥片に微細な剥離痕が認められる。

0486の縦長剥片は、単剥離打面石核から取り出されている。

第4エリア(第134図, 第135図)

B-11, 12区を中心とし、第7ブロックと第8ブロックを形成する。第7ブロックはギョクズイを主体に頁岩、黒耀石Ⅱ-A類、黒耀石Ⅱ-C類が混り、第8ブロックはギョクズイに少数の黒耀石Ⅱ-A類等が混在する構成がみられる。

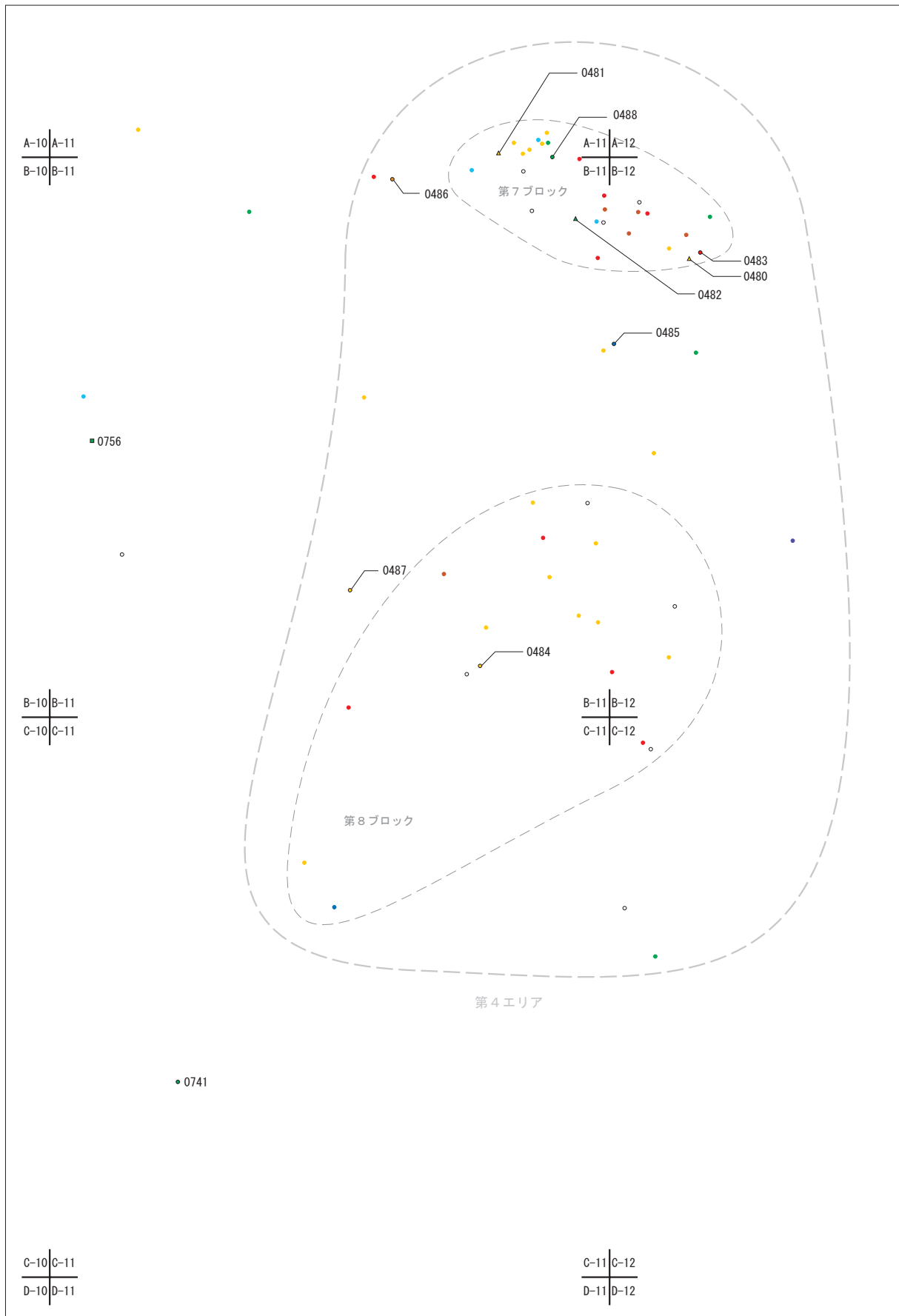
ナイフ形石器3点(0480~0482)と剥片、微細剥離痕のある剥片(0483)がある。

ナイフ形石器の0480は横剥ぎの小型剥片の打点側の一側縁に刃潰し加工し、0481は両側縁に刃潰し加工を持つ小型の切出形、0482は横剥ぎ剥片を使用し、打点側と対抗する端部の一部に刃潰し加工がみられる。

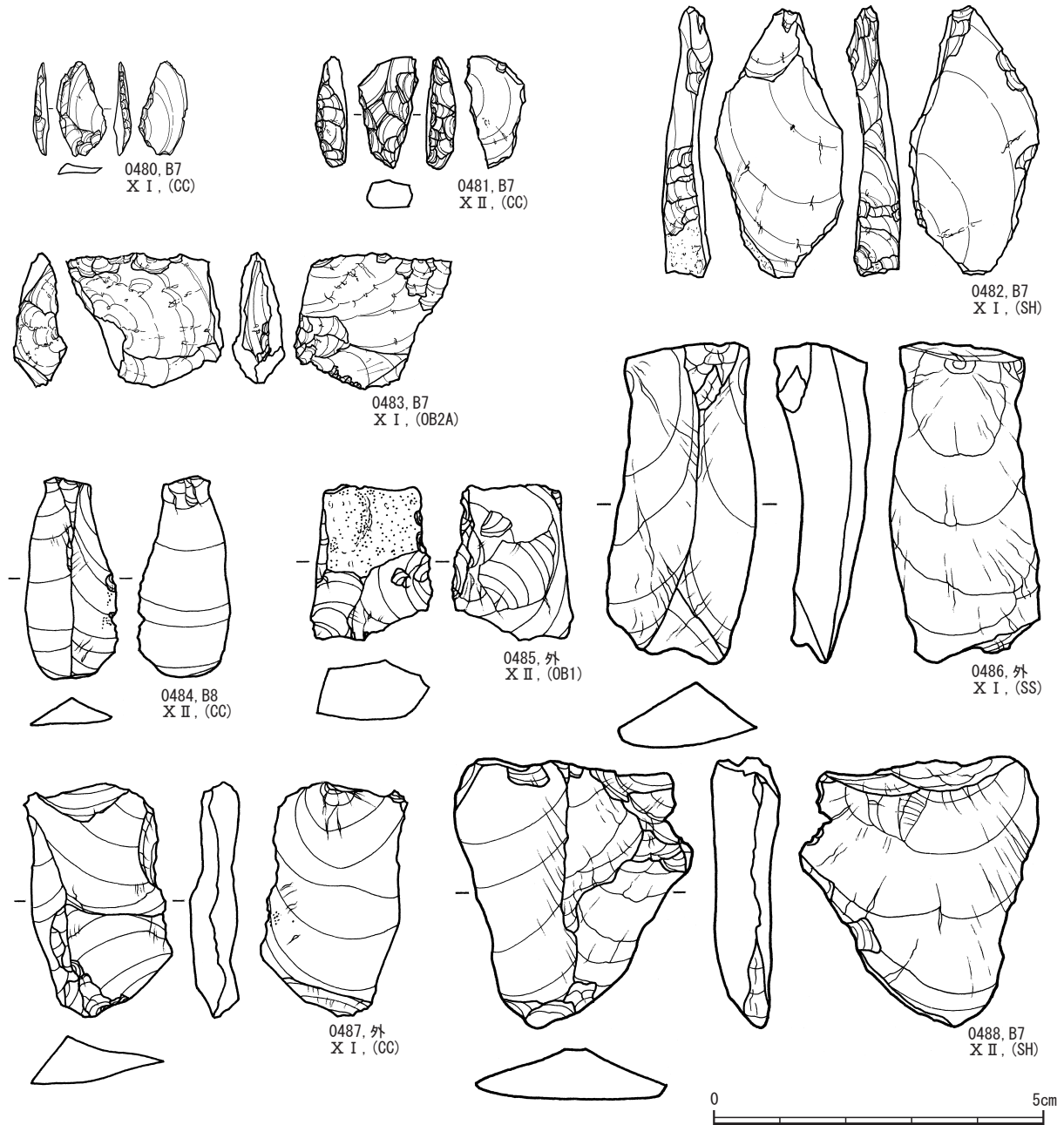
ここでも、ナイフ形石器の小型化の傾向が指摘できる。

第33表 第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア出土石器観察表

挿入No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
132	0465	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U3	A3	B5	OB3	-	18	7.2	4.2	0.47	6475	X I	C-8	-
	0466	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U3	A3	B5	SH	-	18.3	10.3	6.0	0.89	6481	X I	D-8	-
	0467	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U3	A3	B5	CC	-	26.7	9.5	5.9	0.76	6487	X II	D-8	-
	0468	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U3	A3	B6	SH	-	34.4	17.2	8.0	3.38	5984	X I	C-9	-
	0469	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅲ	U3	A3	B5	SH	-	43.3	16.4	9.5	7.47	6211	X II	C-9	-
	0470	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅲ	U3	A3	B5	CC	-	19.8	17.6	9.2	2.63	6478	X II	D-8	-
	0471	石器	二次加工痕のある剥片	尖頭状石器?	Ⅲ	U3	A3	B5	CC	-	26.6	20.5	9.2	4.42	6210	X I	C-9	-
	0472	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U3	A3	B6	CC	-	46.4	25.6	12.0	8.10	5961	X II	C-9	-
	0473	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U3	A3	B6	CC	-	35.6	20.1	12.2	5.28	5965	X I	C-9	-
	0474	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U3	A3	B6	CC	-	30.5	30	13.2	10.09	5973	X I	C-9	-
	0475	剥片	-	-	Ⅲ	U3	A3	B6	SH	-	30.0	27.3	10.1	5.56	5943	X I	C-9	-
	0476	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	U3	A3	B6	SH	-	41.9	33.3	11.1	14.13	5991	X I	C-9	-
133	0477	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅲ	U3	A3	B5	OB2	A	26.3	19.1	10.0	3.44	6450	X II	C-8	-
	0478	剥片	-	-	Ⅲ	U3	A3	B5	CC	-	29.2	23.5	8.9	4.61	6482	X I	D-8	-
	0479	剥片	-	-	Ⅲ	U3	A3	B5	OB2	A	48.6	36.8	15.0	14.80	6464	X I	C-8	-



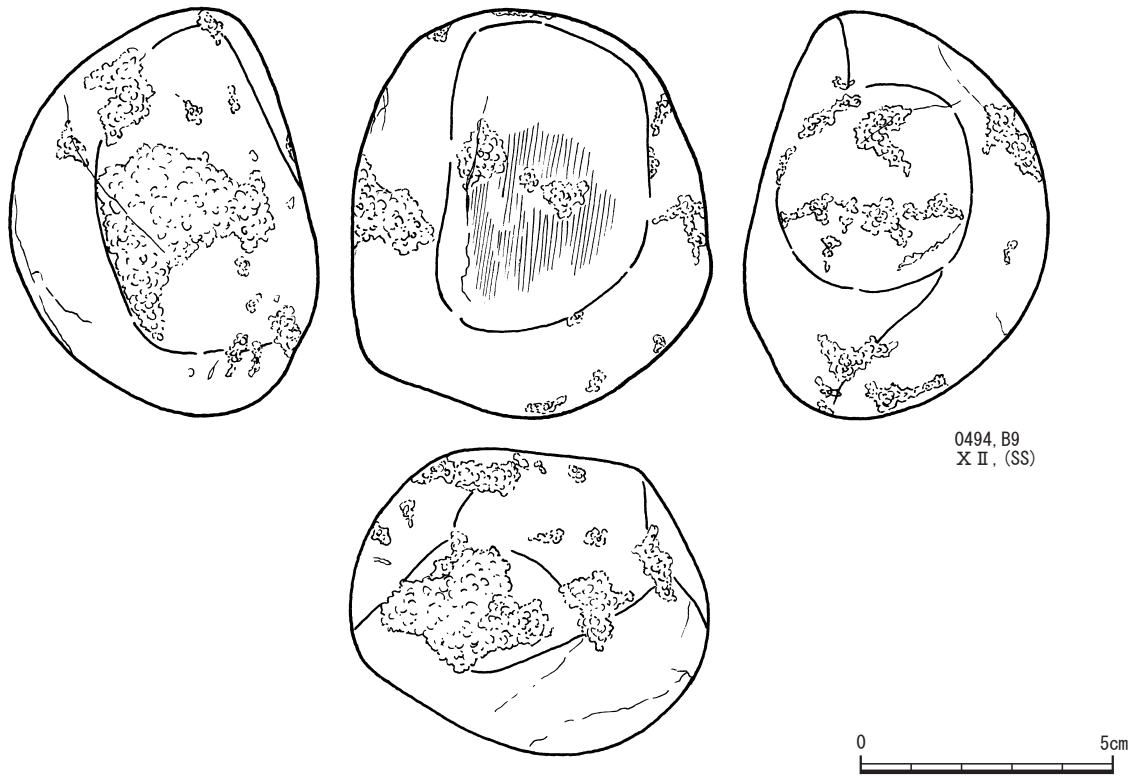
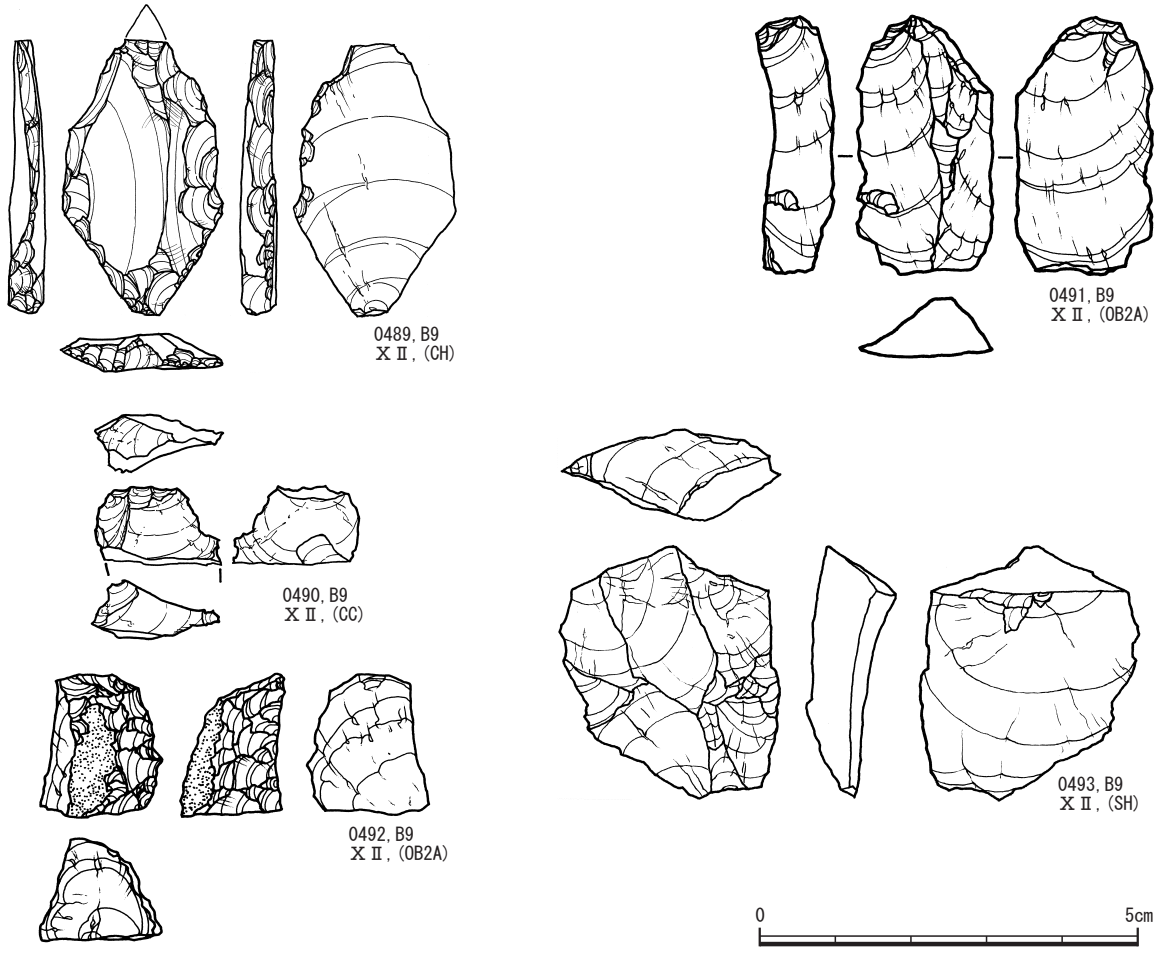
第134図 第三文化層第4ユニット第4エリア遺物出土状況図



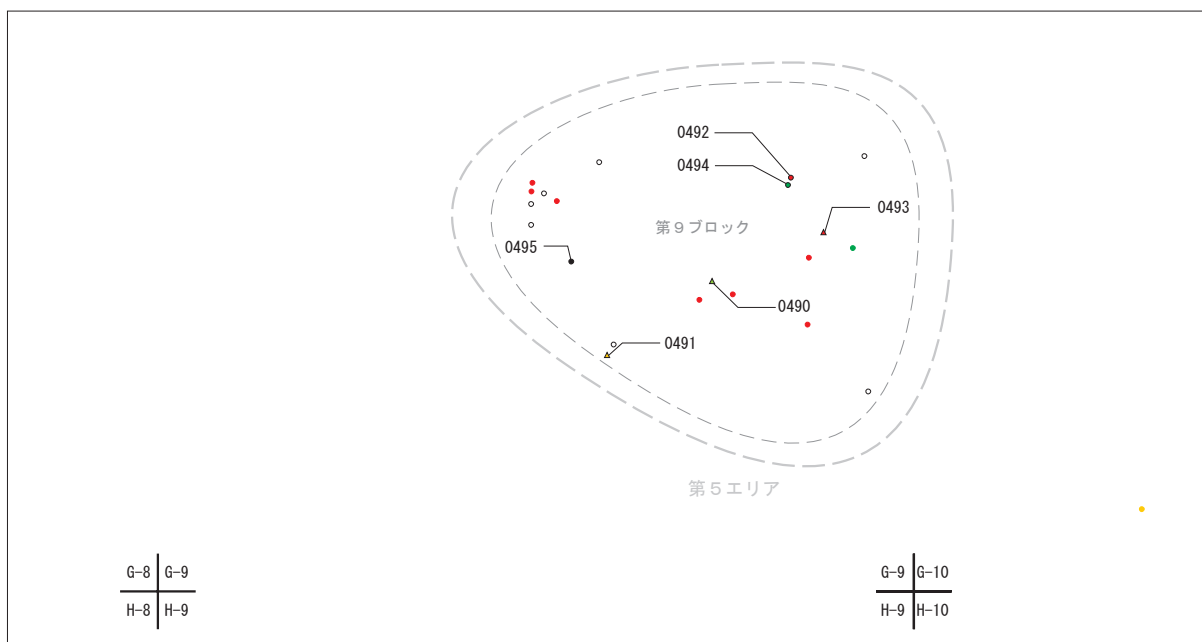
第135図 第三文化層第4ユニット第4エリア出土石器実測図

第34表 第三文化層第4ユニット第4エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
135	0480	石器	ナイフ形石器	-	III	U4	A4	B7	CC	-	14.5	7.7	3.0	0.48	233	X I	B-12	-
	0481	石器	ナイフ形石器	-	III	U4	A4	B7	CC	-	17.0	9.3	4.8	0.72	5881	X II	A-11	-
	0482	石器	ナイフ形石器	-	III	U4	A4	B7	SH	-	40.9	19.6	8.1	5.35	5891	X I	B-11	-
	0483	剥片	折断剥片	微細剥離痕	III	U4	A4	B7	OB2	A	20.4	23.9	8.1	2.97	232	X I	B-12	-
	0484	剥片	-	-	III	U4	A4	B8	CC	-	30.7	14.3	4.8	1.65	6007	X II	B-11	-
	0485	剥片	折断剥片	-	III	U4	A4	外	OB1	-	23.8	18.7	9.8	3.68	5898	X II	B-12	-
	0486	剥片	-	-	III	U4	A4	外	SS	-	48.9	22.9	14.8	12.14	5807	X I	B-11	-
	0487	剥片	-	-	III	U4	A4	外	CC	-	35.6	22.7	7.8	4.32	6005	X I	B-11	-
0488	剥片	-	-	III	U4	A4	B7	SH	-	41.0	36.4	10.9	11.24	5875	X II	A-11	-	



第136図 第三文化層第5ユニット第5エリア出土石器実測図



第137図 第Ⅲ文化層第5ユニット第5エリア遺物出土状況図

第5ユニット

G-9区からF,G-13区に最長40m, 10m幅で展開する。これらの範囲に、第5から第8までの4つのエリアを包括し、それぞれブロックを設定した。

第5エリア(第137図, 第136図)

G-9区にあり、第9ブロックを構成する。黒耀石Ⅱ-A類に頁岩2点ギョクズイ1点, チャート1点, 砂岩1点加わる。

ナイフ形石器2点(0489, 0490), スクレイパー1点(0493)とハンマーストーンと磨石を兼ねた(0495), 剥片が確認できる。

0489は不定形剥片の両側縁に刃潰しした小型の切出形

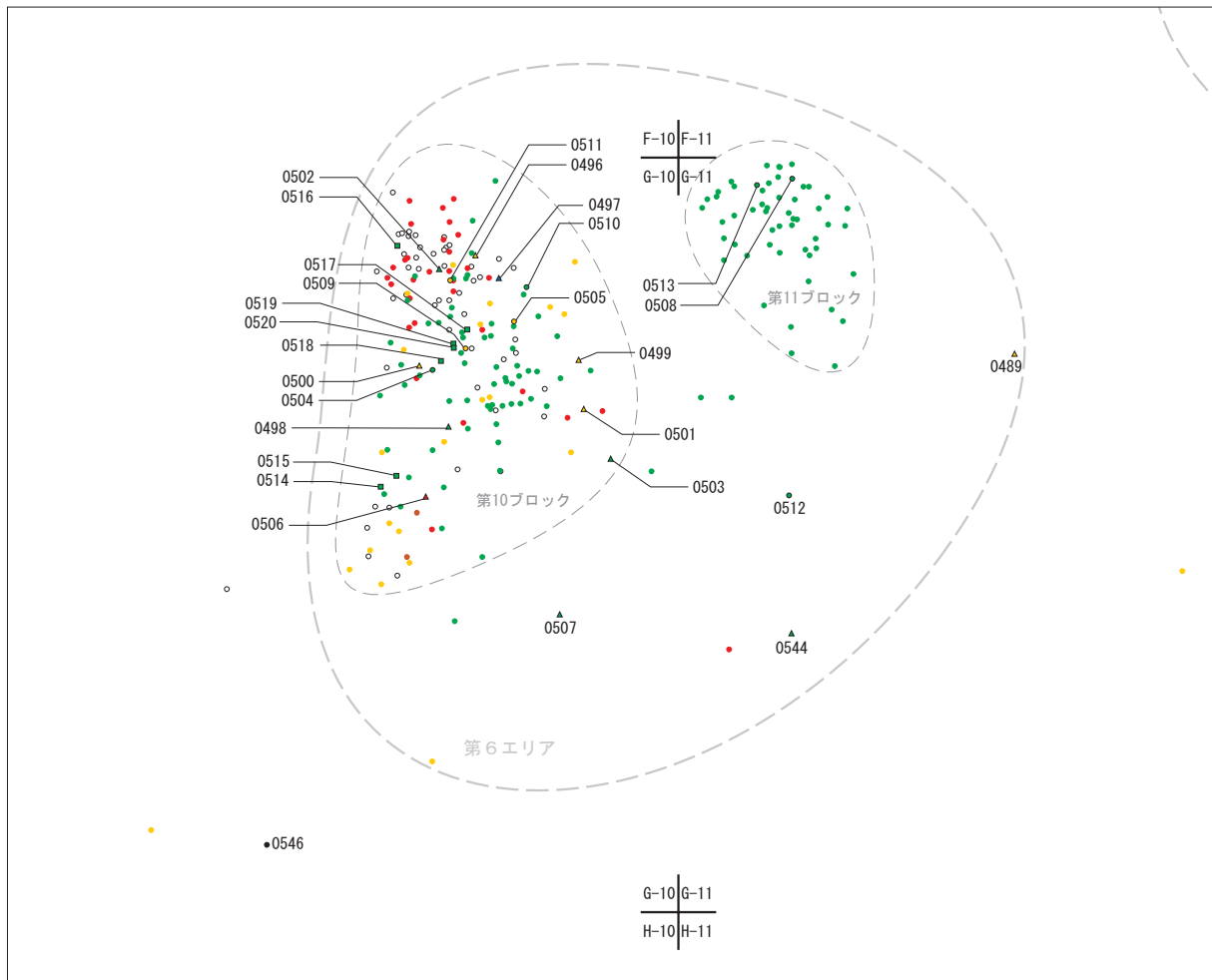
ナイフ形石器で、0490は打面転移石核から取り出した剥片の刃部以外の側縁に刃潰しが見られ、木葉形状の仕上がりなす。

0491は折断剥片とみられる。0493は搔器状の刃部を持つ。

0495は円礫の側縁と下端部に敲打痕を持ち、正面の平坦面に摩耗面が観察でき、敲打と磨石の両機能を兼ねたものと判断できる。

第35表 第Ⅲ文化層第5ユニット第5エリア出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
136	0489	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A5	B9	CH	-	(36.5)	(21.4)	(5.0)	(3.47)	16976	XⅡ	G-9	-
	0490	石器	折断剥片	-	Ⅲ	U5	A5	B9	CC	-	(10.6)	(16.9)	(7.5)	(1.18)	16974	XⅡ	G-9	-
	0491	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A5	B9	OB2	A	34.3	18.3	10.9	5.21	17498	XⅡ	G-9	-
	0492	石器	スクレイパー	-	Ⅲ	U5	A5	B9	OB2	A	19.0	16.3	13.5	3.46	17177	XⅡ	G-9	-
	0493	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A5	B9	SH	-	33.5	29.2	12.0	7.96	17175	XⅡ	G-9	-
	0494	石器	磨石/ 敲石	-	Ⅲ	U5	A5	B9	SS	-	81.3	71.7	60.0	450.00	16816	XⅡ	G-9	-



第138図 第三文化層第5ユニット第6エリア遺物出土状況図

第6エリア(第138図, 第139~142図)

G-10, 11区にあり, 2つのブロックを持つ。

第10ブロックは頁岩を主体にギョクズイと黒耀石II-A類が加わり, 第11ブロックは頁岩単独で構成する。

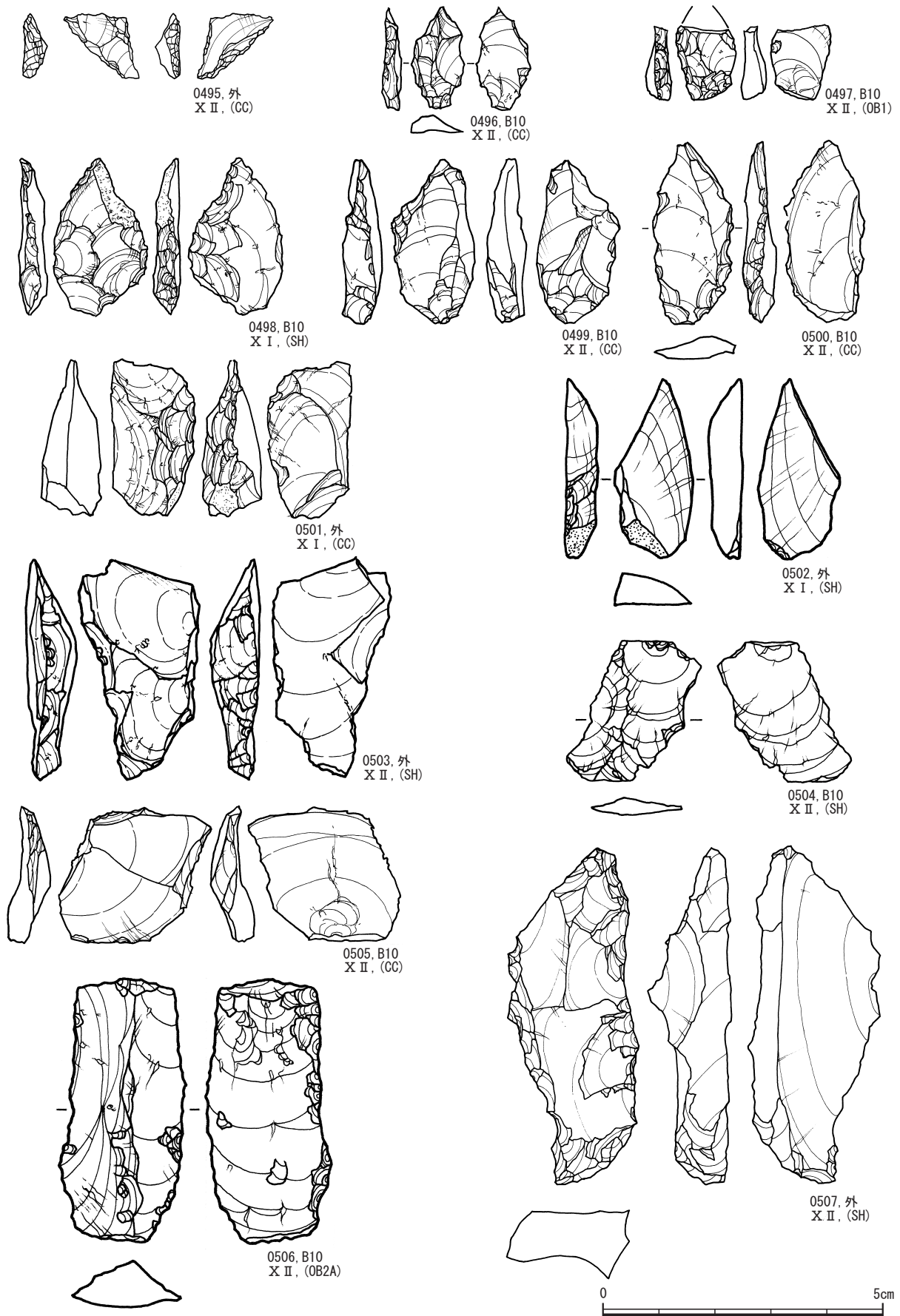
器種は, ナイフ形石器8点(0496~0503), スクレイパー1点(0506), 二次加工のある剥片1点(0507), 石核7点(0514~0520)等が確認できる。

ナイフ形石器の0496, 0497は基部と一側縁に刃潰し加工を持つ小型ナイフ, 0498~0500は打瘤の除去が認められる部分加工, 0501は素材剥片の特徴を活かし一側縁加工, 0503は両側縁に刃潰しを行い, 台形様に仕上げている。なお, 刃潰しは全て腹面からである。0502は部分加工のナイフ形石器である。

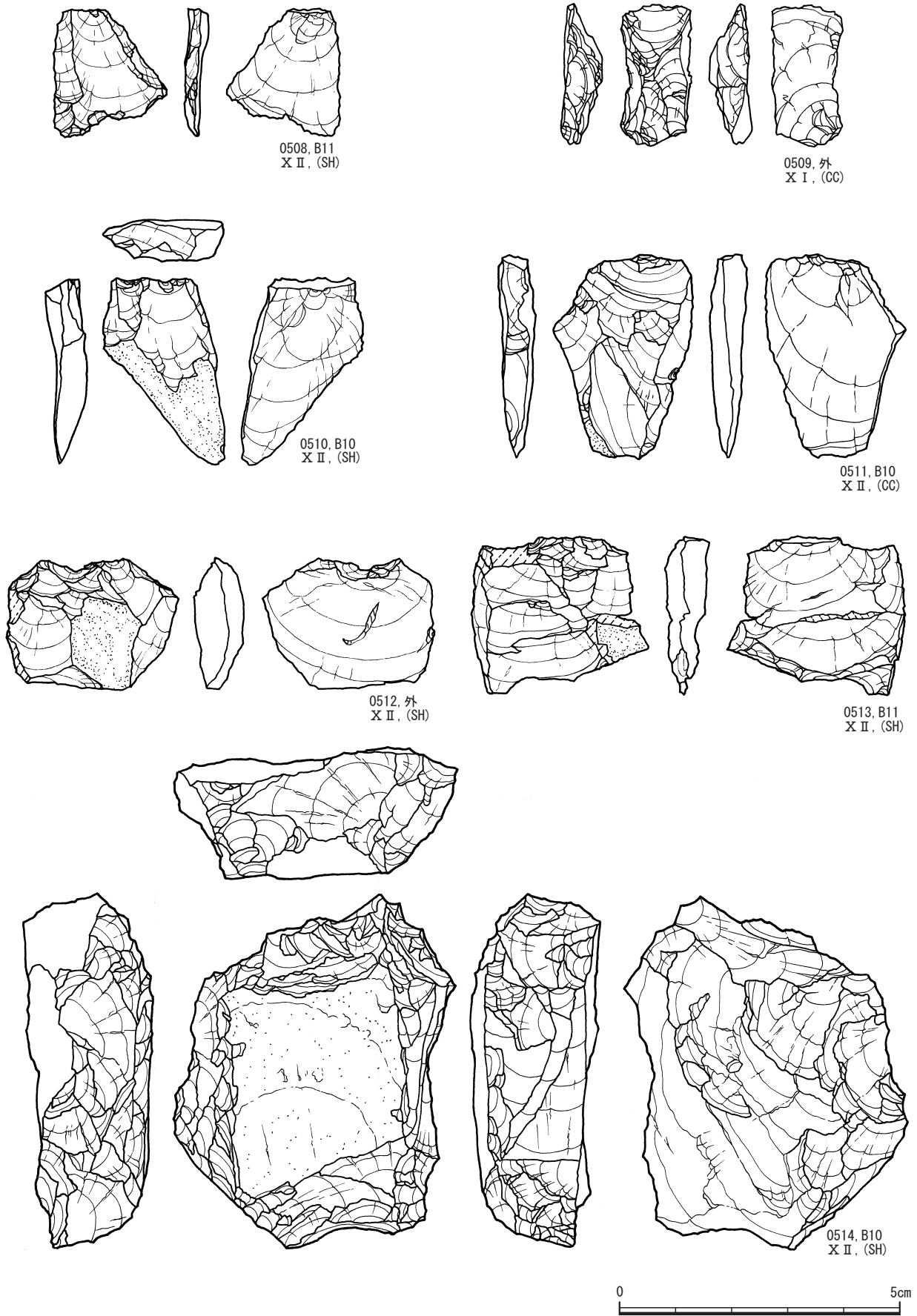
0498, 0502は横剥ぎ剥片, 0499, 0500, 0503は打点移動石核から取り出されている。

0507は二次加工のある剥片で分類し, 側縁加工を持つことと先端部の作り出しが強調されることから, 尖頭状石器とした。0506は用途が限定されるとの判断から, スクレイパーとした。

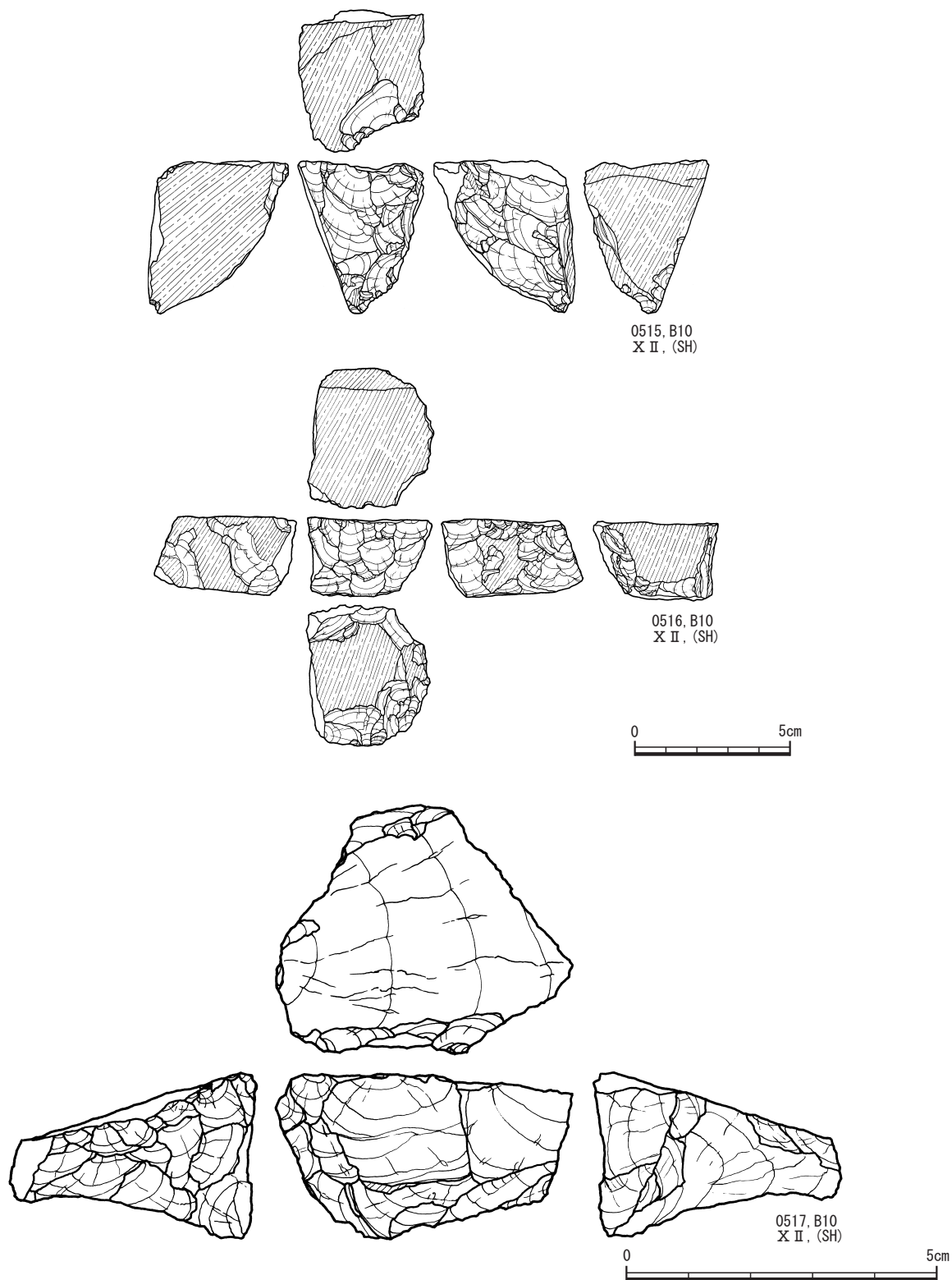
石核の8点は, 全て節理が多数入る頁岩を用いている。そのため, 縦長剥片の取り出しは困難だったとみられる。そのことは, 出土した剥片の形状からもうかがえる。石核の形態は基本的に単剥離打面で, 摂理面を打面としたものが多い。



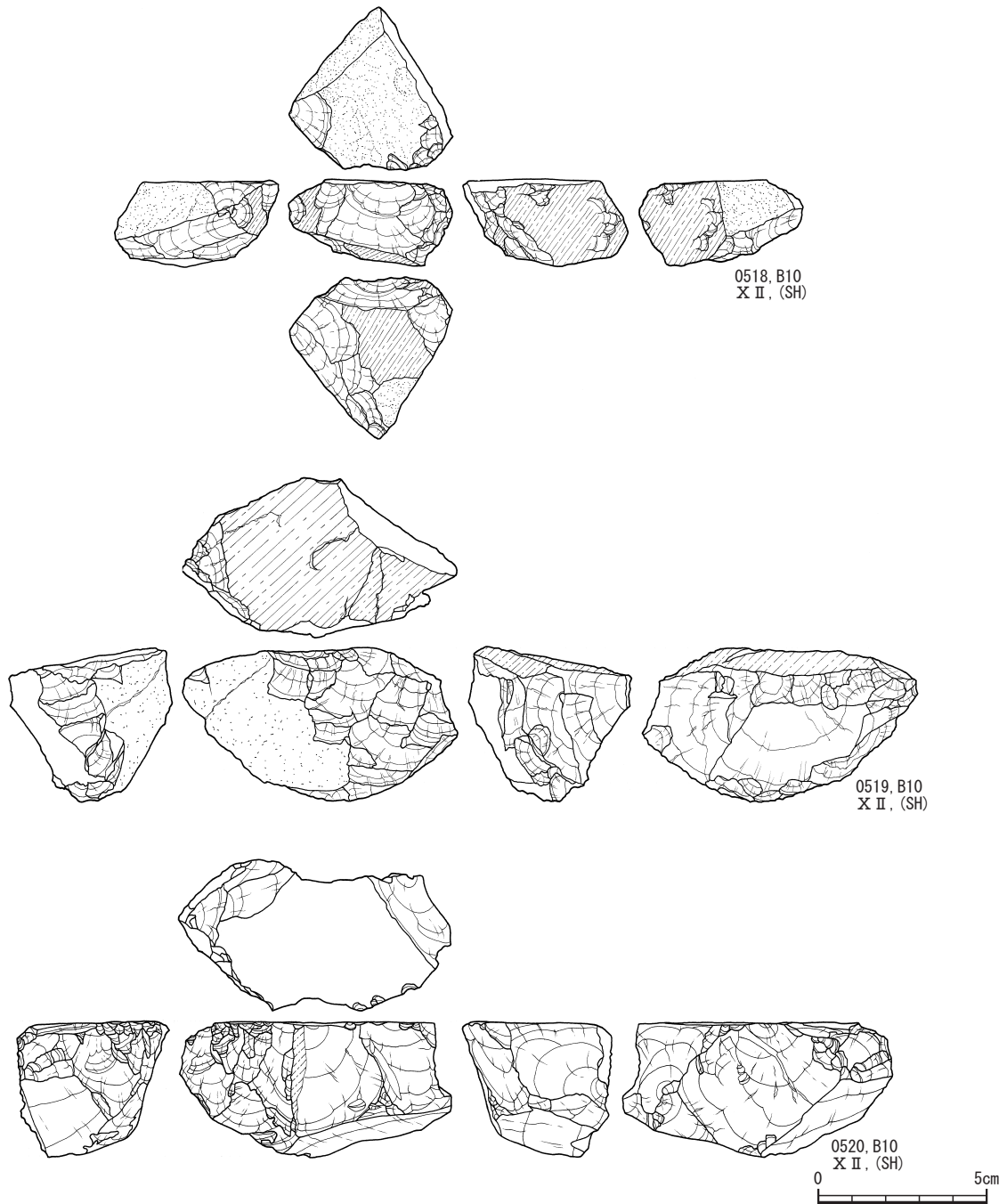
第139図 第三文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(1)



第140図 第三文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(2)



第141図 第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(3)



第142図 第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(4)

第7エリア(第143図, 第144, 145図)

F-11, 12区にあり, 2つのブロックを持つ。

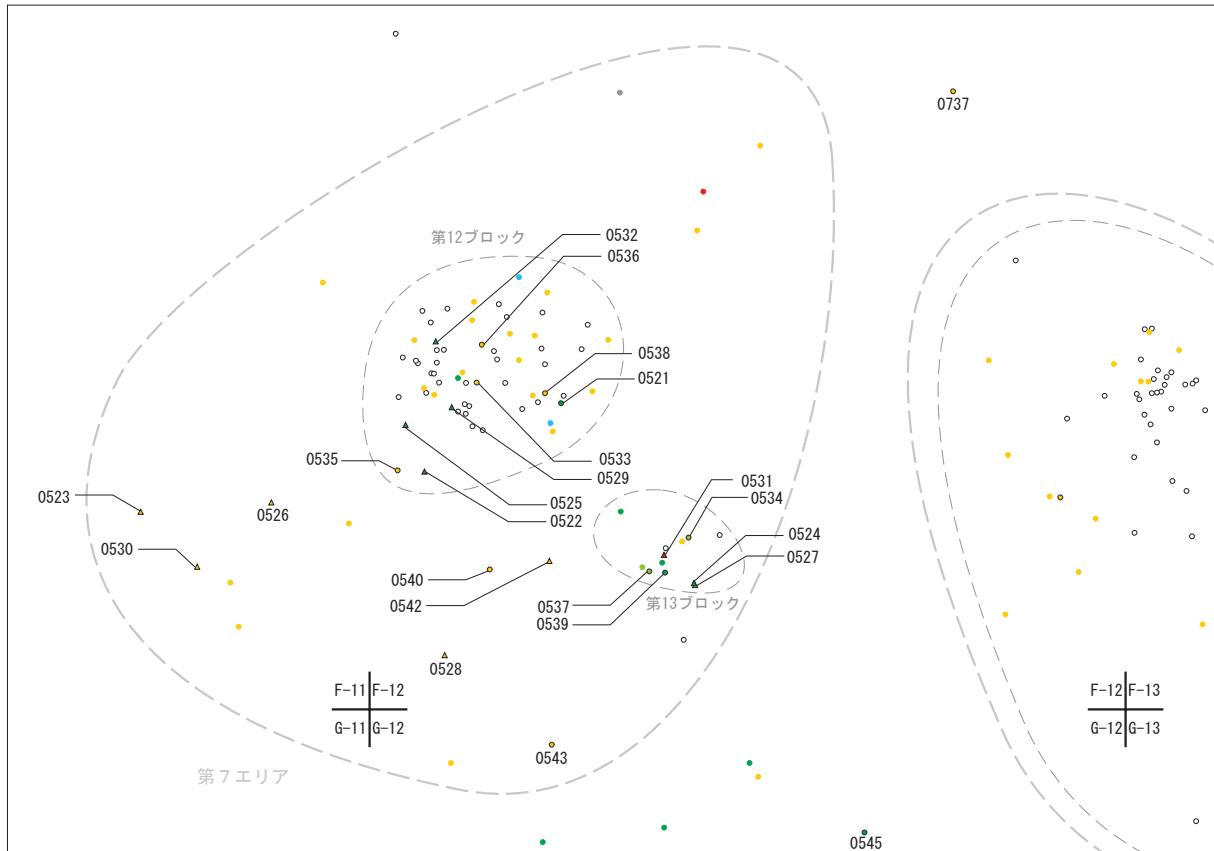
第12ブロックは黒耀石Ⅱ-A類とギョクズイを主体に, 少数の頁岩, 黒耀石Ⅲ類が入る。第13ブロックは黒耀石Ⅱ-A類, ギョクズイ, チャート, 頁岩が数点で構成される。

器種構成は, 細石刃1点(0521), ナイフ形石器8点(0522~0529), 二次加工のある剥片3点(0530~0532)と微細剥離痕のある剥片等が出土している。

ナイフ形石器の0522は小型の剥片の形状を大きく変えることなくそのまま利用したもので, 先端部付近に刃潰

し加工が集中する。0524, 0525も剥片の形状をそのまま活かしている。なお, 刃潰し加工は, 基部周辺の一部にみられる。0523は打点側を刃部とし, 先端部と基部に, 0529は断面三角形の剥片の特徴を活かしたもので, 刃部は鋭い。一方, 刃潰し加工は側縁は急角度に, 基部加工は腹面にもみられる。0526は基部と一側縁, 0528は基部を中心の部分加工, 0527は欠落しているが良質の素材を利用している。

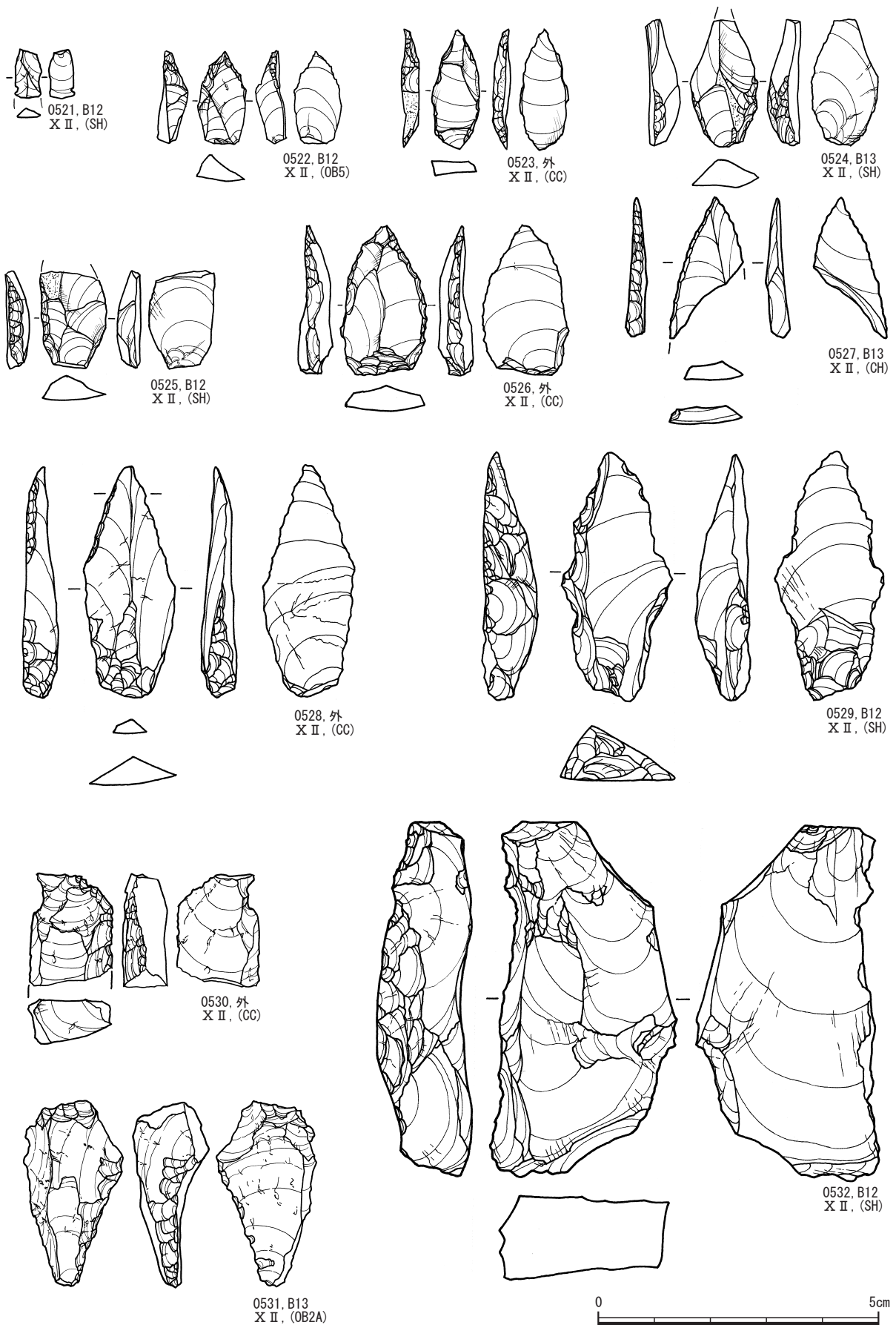
二次加工のある剥片の0352は縦長剥片の側縁に刃潰し状の加工がみられるが, その用途は明らかでない。



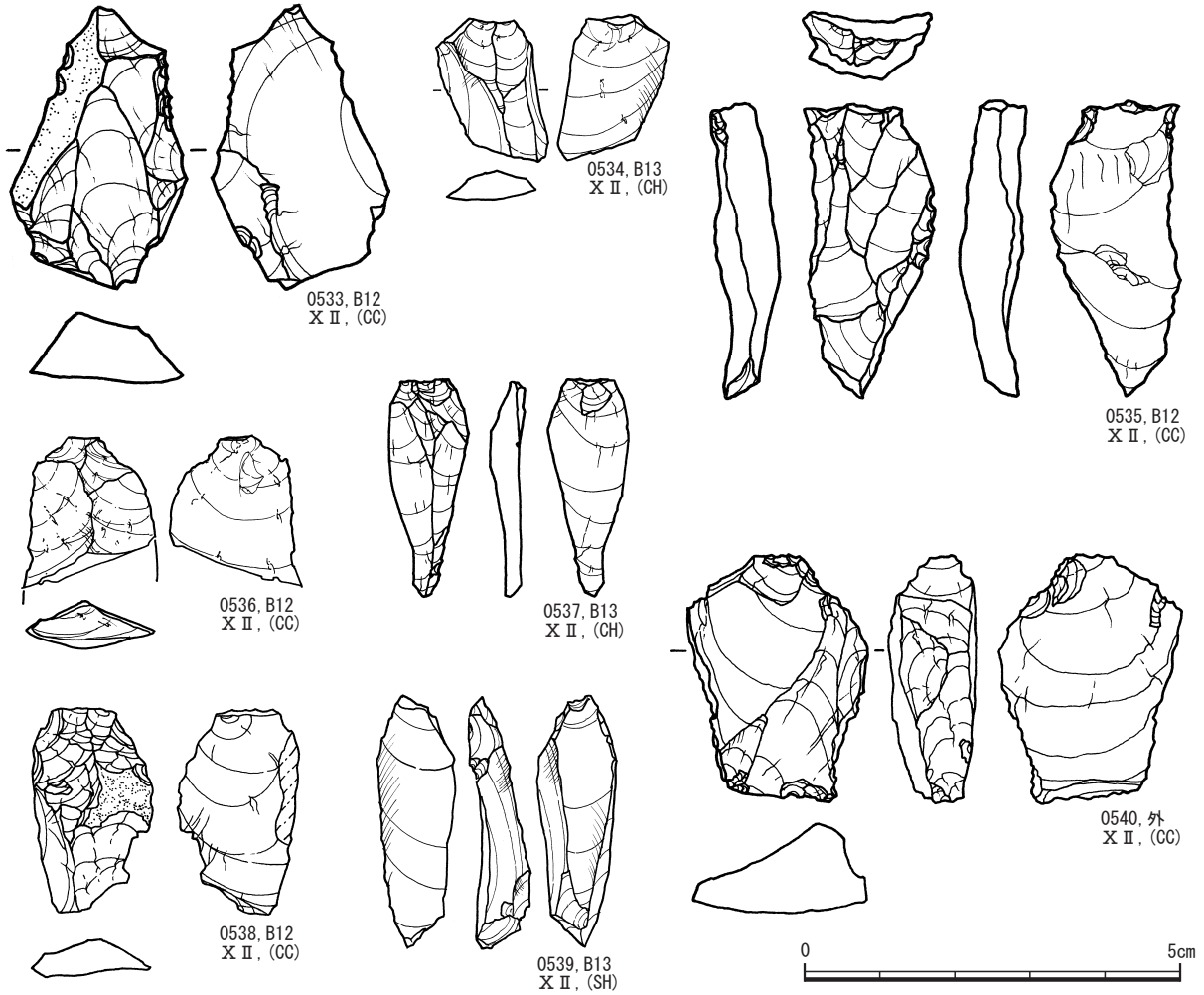
第143図 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア遺物出土状況図

第36表 第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニ ット	エリ ア	ブロ ック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリ ッド	接合 No
139	0495	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	外	CC	-	11.8	13.5	4.5	0.32	20176	X II	G-11	-
	0496	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	18.2	9.7	3.9	0.56	20214	X II	G-10	-
	0497	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	OB1	-	(13.4)	(11.0)	(4.2)	(0.57)	20006	X II	G-10	-
	0498	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	28.3	17.0	5.1	1.90	19896	X I	G-10	-
	0499	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	29.3	15.2	7.3	2.37	20221	X II	G-10	105
	0500	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	32.6	14.6	6.2	2.26	20249	X II	G-10	-
	0501	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	外	CC	-	28.2	15.3	11.0	3.55	19877	X I	G-10	-
	0502	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	32.2	14.5	6.2	2.23	19914	X I	G-10	-
	0503	石器	ナイフ形石器	台形様石器	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	39.4	21.9	9.0	6.51	20694	X II	G-10	-
	0504	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	25.3	24.1	3.2	1.29	20248	X II	G-10	-
	0505	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	24.4	27.4	8.0	3.13	21048	X II	G-10	-
	0506	石器	スクレイパー	削器	Ⅲ	U5	A6	B10	OB2	A	47.4	23.1	9.1	9.64	21049	X II	G-10	-
	0507	石器	二次加工痕のある剥片	尖頭状石器	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	60.1	23.6	15.1	13.19	20707	X II	G-10	-
140	0508	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B11	SH	-	23.0	20.5	4.3	1.26	20821	X II	G-11	-
	0509	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	外	CC	-	25.4	12.9	8.0	2.35	19905	X I	G-10	-
	0510	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	33.5	21.9	8.0	4.11	20218	X II	G-10	-
	0511	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	36.6	25.1	7.0	5.48	20239	X II	G-10	-
	0512	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	23.5	30.9	9.2	5.99	20198	X II	G-11	-
	0513	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B11	SH	-	28.2	31.6	8.1	5.59	20826	X II	G-11	-
	0514	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	63.2	50.5	23.2	79.96	20257	X II	G-10	-
141	0515	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	49.2	40.7	46.0	83.78	20408	X II	G-10	-
	0516	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	25.9	40.3	46.0	62.60	20644	X II	G-10	129
	0517	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	26.9	47.9	40.0	37.23	20235	X II	G-10	-
142	0518	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	26.1	48.8	48.0	54.51	20247	X II	G-10	129
	0519	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	45.8	81.8	47.4	147.74	20236	X II	G-10	-
	0520	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	40.6	80.8	45.0	159.17	20404	X II	G-10	-



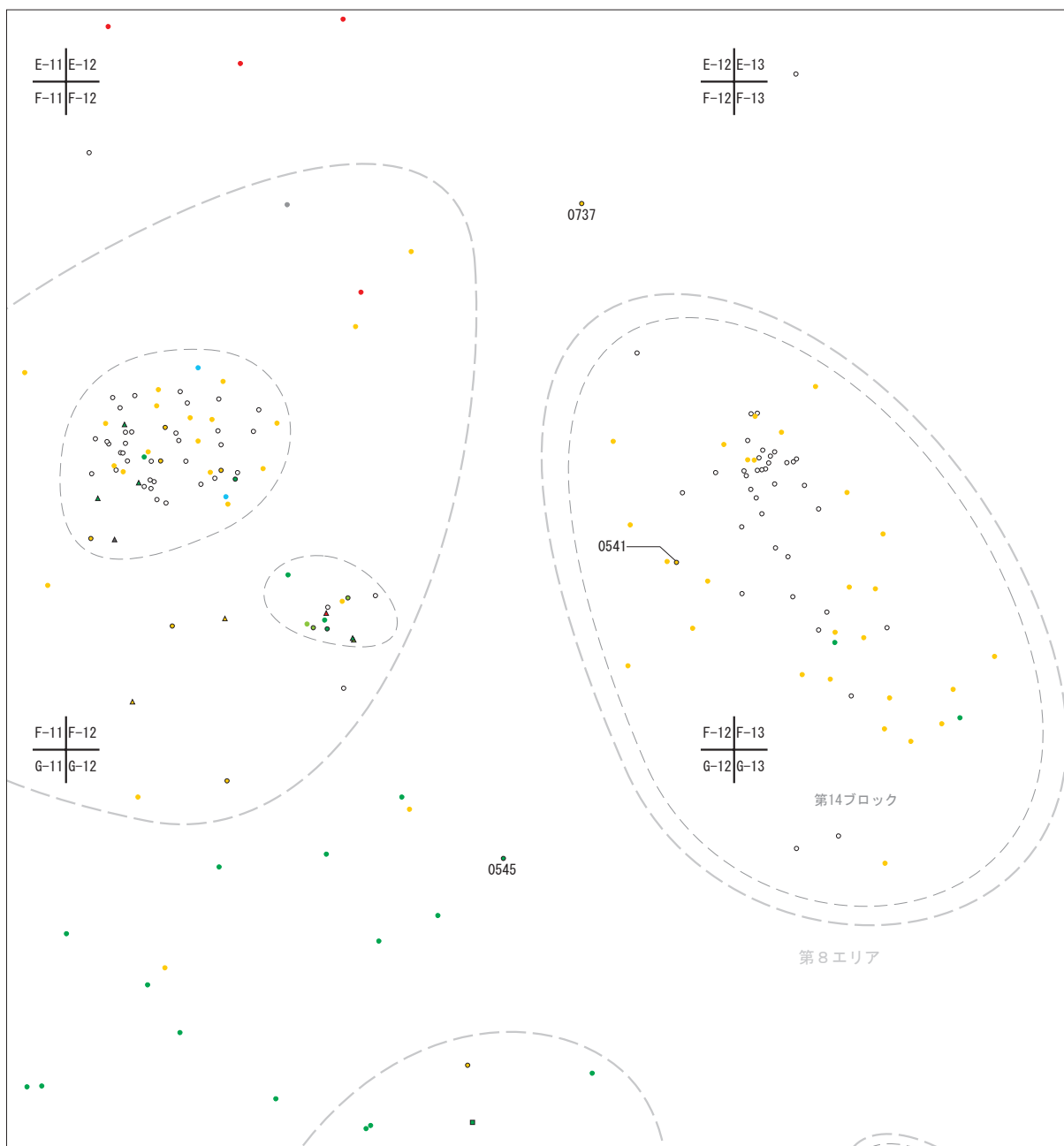
第144図 第三文化層第5ユニット第7エリア出土石器実測図(1)



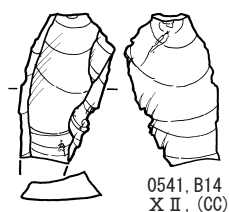
第145図 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器実測図(2)

第37表 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
144	0521	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U5	A7	B12	SH	-	(8.9)	(4.9)	(1.5)	(0.06)	9436	XⅡ	F-12	-
	0522	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	B12	OB5	-	16.7	8.9	5.8	0.50	9409	XⅡ	F-12	-
	0523	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	外	CC	-	21.4	8.7	3.2	0.61	18424	XⅡ	F-11	-
	0524	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	B13	SH	-	(22.7)	(12.2)	(6.2)	(1.32)	9451	XⅡ	F-12	-
	0525	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	B12	SH	-	(17.7)	(12.0)	(4.2)	(0.96)	8768	XⅡ	F-12	-
	0526	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	外	CC	-	26.8	15.6	6.5	2.39	17788	XⅡ	F-11	-
	0527	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	B13	CH	-	(25.3)	(13.4)	(5.0)	(0.56)	9481	XⅡ	F-12	-
	0528	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	外	CC	-	41.4	16.6	6.8	3.59	9457	XⅡ	F-12	-
	0529	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A7	B12	SH	-	44.5	20.1	10.0	5.68	9487	XⅡ	F-12	-
	0530	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U5	A7	外	CC	-	(20.2)	(15.1)	(8.0)	(2.75)	18429	XⅡ	F-11	-
	0531	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U5	A7	B13	OB2	A	33.1	17.9	14.0	4.84	9452	XⅡ	F-12	-
	0532	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U5	A7	B12	SH	-	63.5	33.6	17.8	38.25	9601	XⅡ	F-12	-
	145	0533	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	U5	A7	B12	CC	-	37.7	23.8	10.0	7.29	9418	XⅡ	F-12
0534		剥片	-	-	Ⅲ	U5	A7	B13	CH	-	19.2	15.1	4.2	1.23	9449	XⅡ	F-12	-
0535		剥片	-	-	Ⅲ	U5	A7	B12	CC	-	39.3	17.7	9.2	4.22	9407	XⅡ	F-12	-
0536		剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U5	A7	B12	CC	-	(20.2)	(17.9)	(6.2)	(1.42)	9595	XⅡ	F-12	-
0537		剥片	-	-	Ⅲ	U5	A7	B13	CH	-	29.0	10.9	5.0	0.85	9454	XⅡ	F-12	-
0538		剥片	-	-	Ⅲ	U5	A7	B12	CC	-	27.3	16.2	7.0	2.39	9431	XⅡ	F-12	-
0539		剥片	-	-	Ⅲ	U5	A7	B13	SH	-	33.5	10.8	8.1	2.19	9620	XⅡ	F-12	-
0540		剥片	-	-	Ⅲ	U5	A7	外	CC	-	33.1	24.2	12.0	8.71	254	XⅡ	F-12	-



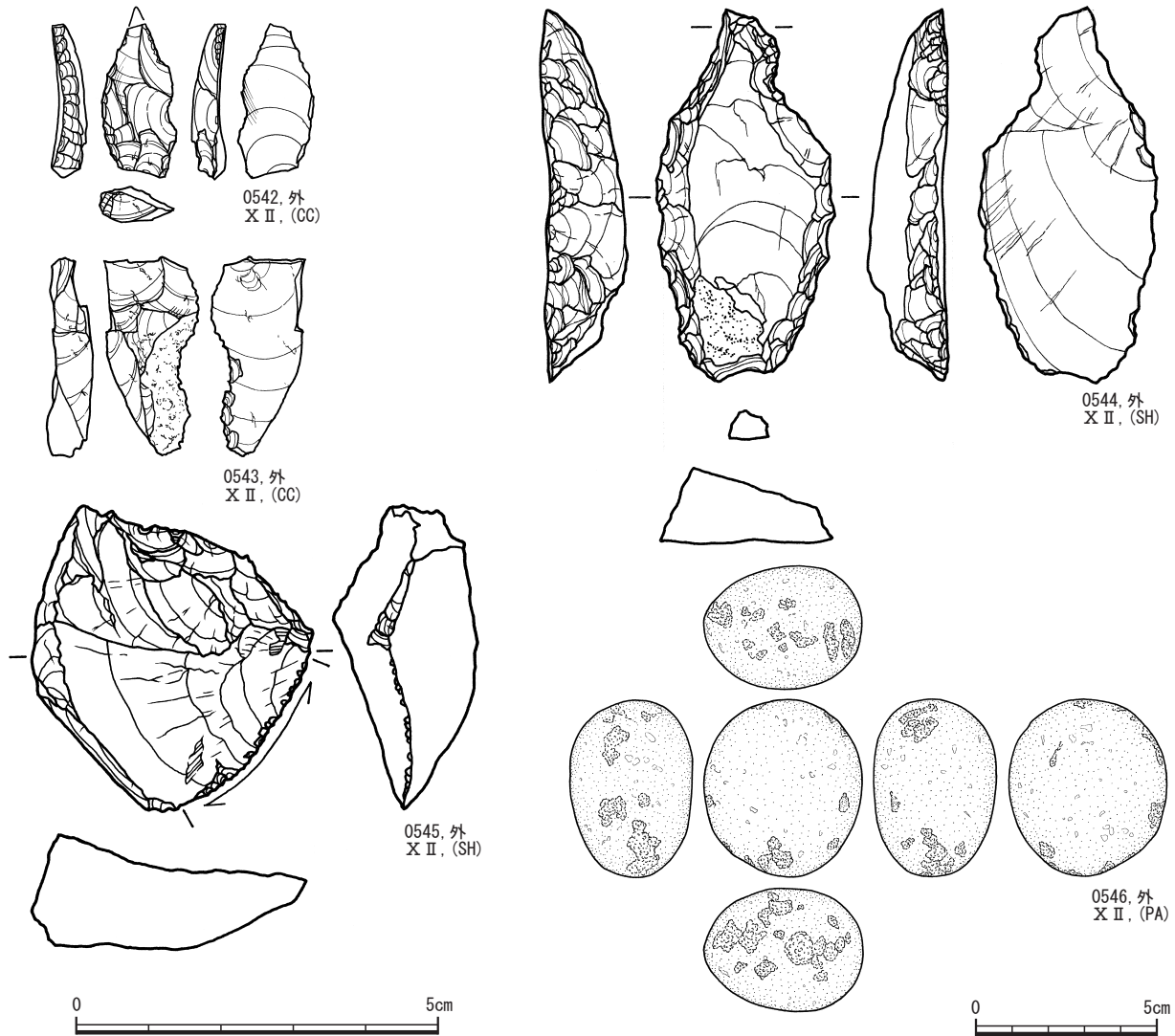
第146図 第三文化層第5ユニット第8エリア遺物出土状況図



第147図 第三文化層第5ユニット第8エリア出土石器実測図

第38表 第三文化層第5ユニット第8エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
147	0541	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A8	B14	CC	-	(19.9)	(12.8)	(4.0)	(0.92)	9508	X II	F-12	-



第148図 第三文化層第5ユニットエリア外出土石器実測図

0530, 0531にも二次加工があり、一見ナイフ形石器の刃潰し状である。

細石刃は、他器種との関係についてはやや疑問の残るものと判断している。

第8エリア(第146図, 第147図)

第5ユニットの東端に位置し、F-12, 13区にあり、第14ブロックを包括する。

第14ブロックはギョクズイの集中で、頁岩が2点混じる。

示したのは0541の剥片1点で、折断した可能性がある。

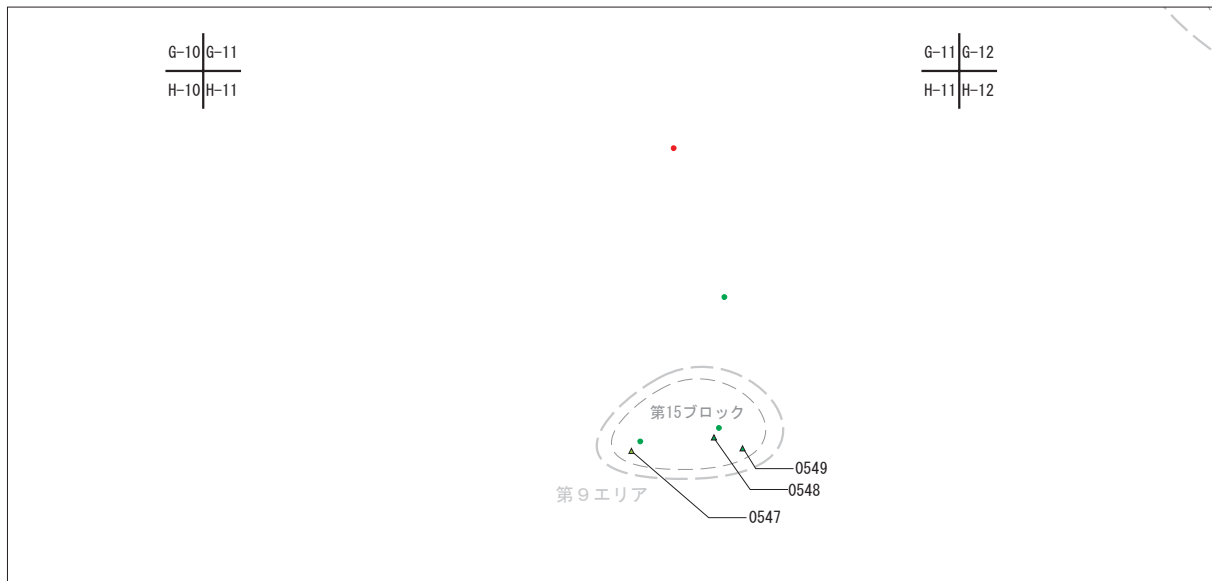
エリア外(第148図)

0542は二側縁加工のナイフ形石器、0544は横長剥片を素材としたもので、全周に入念な刃潰し加工を施すもので、用途は尖頭器も想定できるが、先端部の形状から錐状石器と判断した。

0546のハンマーストーンは両端と側縁を使用している。0543と0545は側縁に明瞭な微細剥離痕が認められる。

第39表 第三文化層第5ユニットエリア外出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
148	0542	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	外	外	CC	-	(21.4)	(10.5)	(5.0)	(0.82)	250	X II	F-12	-
	0543	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U5	外	外	CC	-	27.5	13.2	7.0	1.75	264	X II	G-12	-
	0544	石器	錐状石器	-	III	U5	外	外	SH	-	51.5	24.9	11.5	12.64	18535	X II	G-11	-
	0545	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U5	外	外	SH	-	42.4	39.1	20.3	23.00	9639	X II	G-12	-
	0546	石器	ハンマー	-	III	U5	外	外	PA	-	49.1	44.0	34.0	99.69	16946	X II	G-10	-



第149図 第三文化層第6ユニット第9エリア遺物出土状況図

第6ユニット

第6ユニットは、G, H-11区からG, H-14区にベルト状に分布し、第5ユニットに並行するように南側に展開する。ユニット内は4つのエリアで区分し、ブロックも構成する。

第9エリア(第149図, 第150図)

H-11区にあり、主に製品が集中している。

頁岩5点チャート1点の石材で構成する。

ナイフ形石器1点(0547)、三稜尖頭器2点(0548, 0549)がある。

ナイフ形石器は縦長剥片を用い、先端部は欠落しているが腹面から丁寧に刃潰しした二側縁加工である。

三稜尖頭器の0548は蒲鉾状の分厚い剥片を用い、腹面のほぼ全域に平坦剥離による整形剥離を実施している。背面の稜上剥離は分厚い素材剥片の頂部に集中し、器高の減少化を目的としている。0549はエリア内で接合し、調整剥離は腹面からを専らとするが、先端部では稜上剥離も確認できる。腹面の先端部に調整剥離、基部は平坦剥離と調整剥離が見られ、丁寧に仕上げ、狭小で長身の形状に仕上げている。

第10エリア(第152図, 第151図)

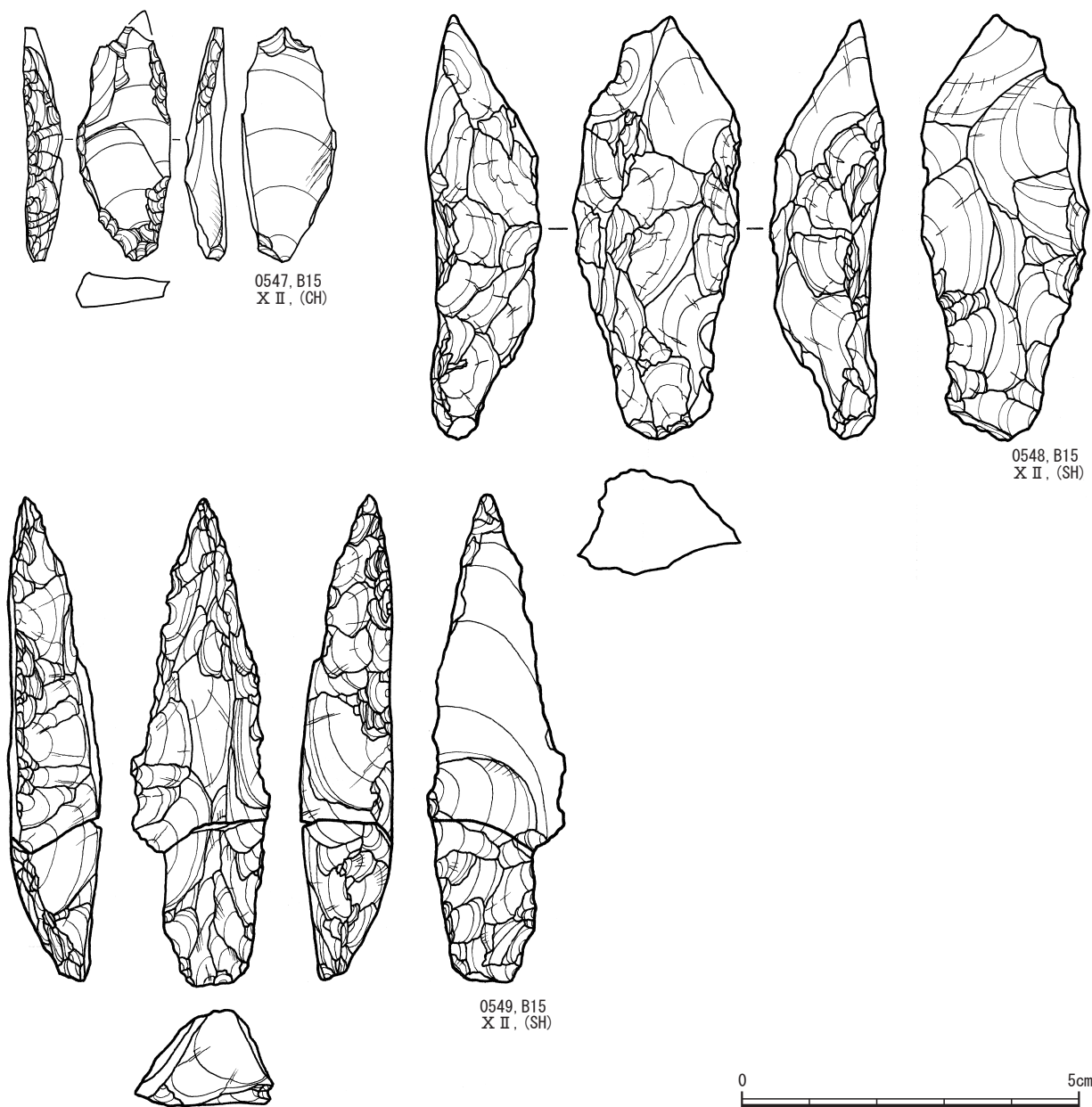
G-12区にあり、頁岩を主体に黒耀石Ⅱ-A類が加わる状況がみられる。

器種は細石刃2点(0550, 0551)、ナイフ形石器4点(0552~0554, 0556)と微細剥離痕のある剥片(0557)と石核(0558)等がある。

細石刃2点は上層の遺物と考えられる。

ナイフ形石器の0552は薄手の剥片を使用し、入念な刃潰しがみられる。0553は先端部と判断したが、基部の可能性もある。0554は素材の特徴を良く活かしている。0556は均整のとれた縦長剥片を素材に、刃潰し加工は基部と左側縁にみられ、側縁は急角度の加工が観察される。さらに腹面基部に平坦加工、先端部腹面にも細かい調整加工を行っている。したがって、意識が先端部に向けられることとなる。

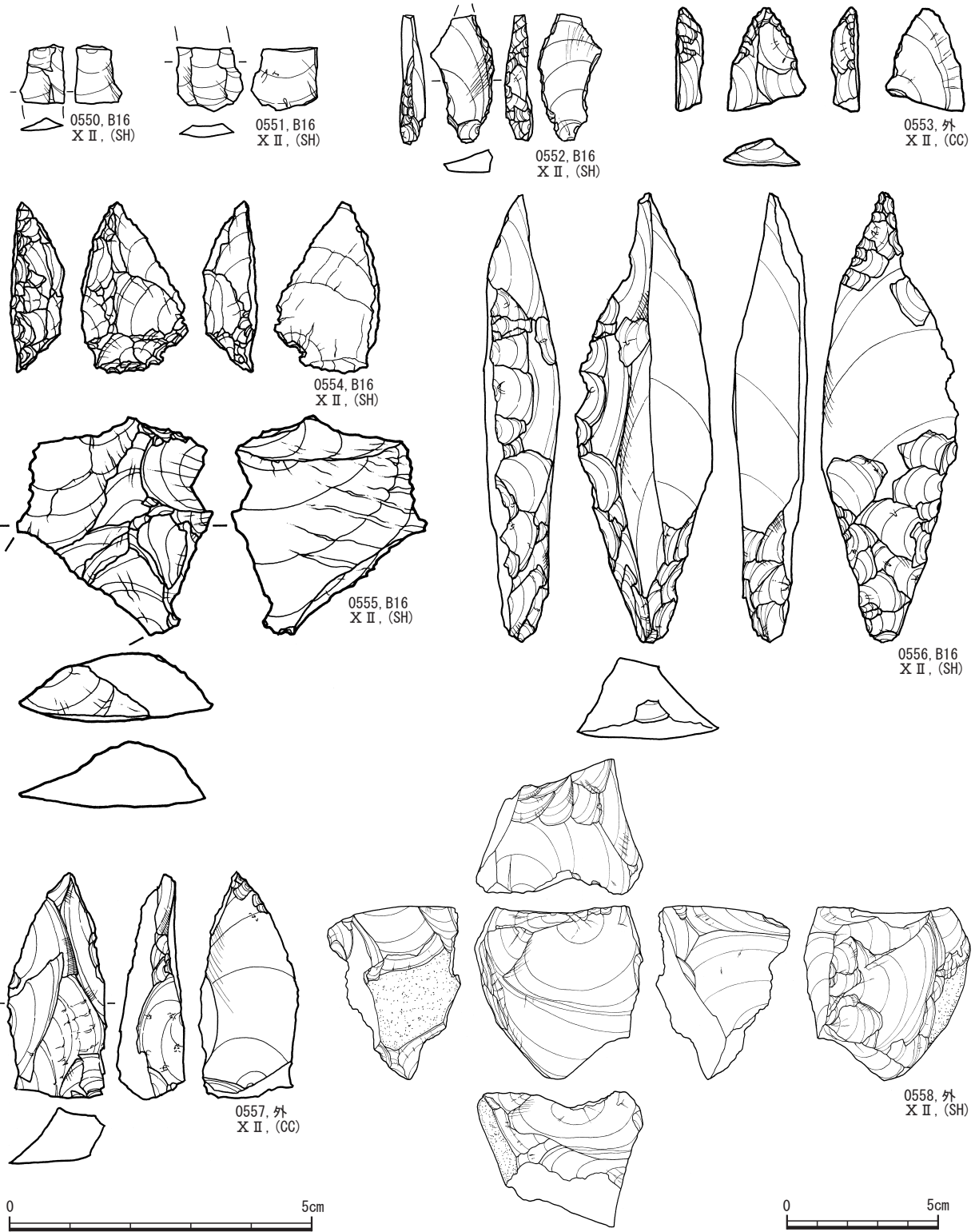
0558の石核からは横に長い不定形剥片が取り出されたと推測される。



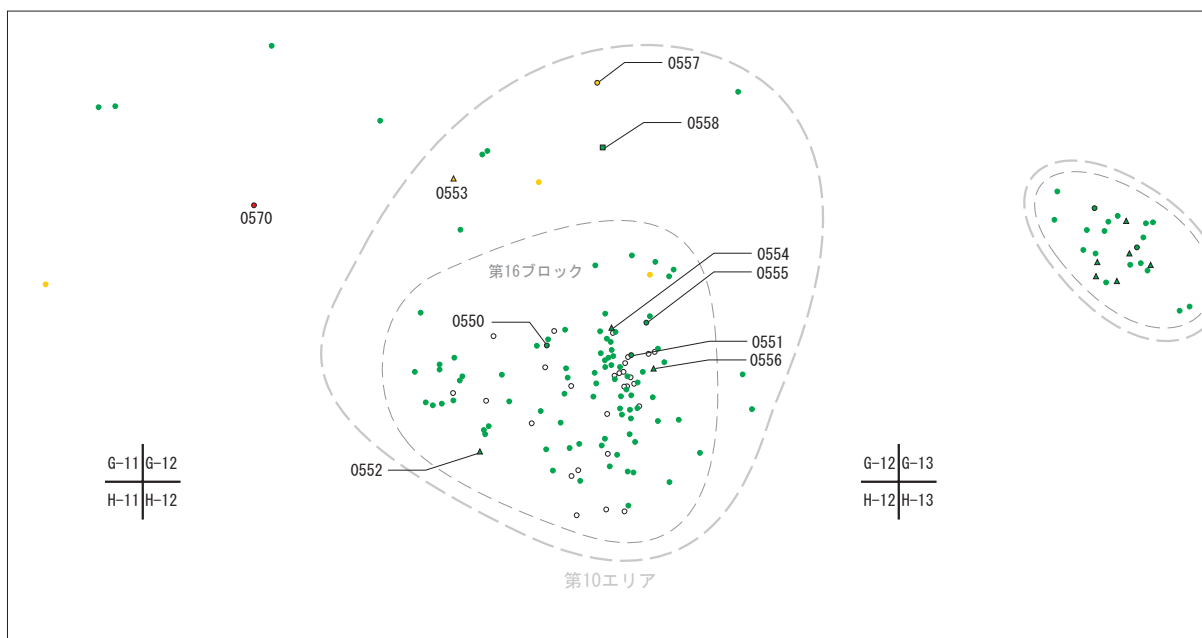
第150図 第三文化層第6ユニット第9エリア出土石器実測図

第40表 第三文化層第6ユニット第9エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
150	0547	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A9	B15	CH	-	(34.7)	(14.1)	(6.8)	(2.99)	18532	X II	H-11	-
	0548	石器	三稜尖頭器	-	III	U6	A9	B15	SH	-	62.7	25.2	17.2	22.28	18959	X II	H-11	-
	0549	石器	三稜尖頭器	-	III	U6	A9	B15	SH	-	72.5	20.8	14.0	17.38	18529	X II	H-11	-



第151図 第三文化層第6ユニット第10エリア出土石器実測図



第152図 第三文化層第6ユニット第10エリア遺物出土状況図

第11エリア (第153図, 第154図)

G-13区にあり, 第17ブロックが主体となる。
頁岩中心の石材を使用し, 黒耀石Ⅱ-A類が2点含まれる。

細石刃2点(0559, 0560), ナイフ形石器5点(0561~0565), 二次加工のある剥片(0566)の器種で構成する。

2点の細石刃に関しては, 上層(第Ⅳ文化層)との照合が必要と思われる。

ナイフ形石器の0561と0563は横剥ぎの剥片を用い, 打面側を背部としている。0561は切出状, 0562は部分加工, 0563と0565は一側縁加工である。なお, 0565は天地逆も考えられる。0564は折断剥片を用い, 打面側に刃潰加工し, 折断面はそのまま側縁に使用した台形石器と判断した。

0566は腹面に平坦剥離による二次加工がみられるが, その意図は読みとれない。削器状の用途の可能性が高いとみられる。

第12エリア (第155図, 第156図)

G-14区にあり, 第6ユニットの東端に位置する。

第18ブロックは黒耀石Ⅱ-A類とギョクズイを主体にし, 他の石材(黒耀石Ⅱ-B類, 黒耀石Ⅰ類)が1点ずつ加わる。

ナイフ形石器1点(0567)と(0568)のブランディングチップが出土している。

ナイフ形石器は不定型な小型剥片を使用し, 打面側に細かい刃潰し加工がみられる。

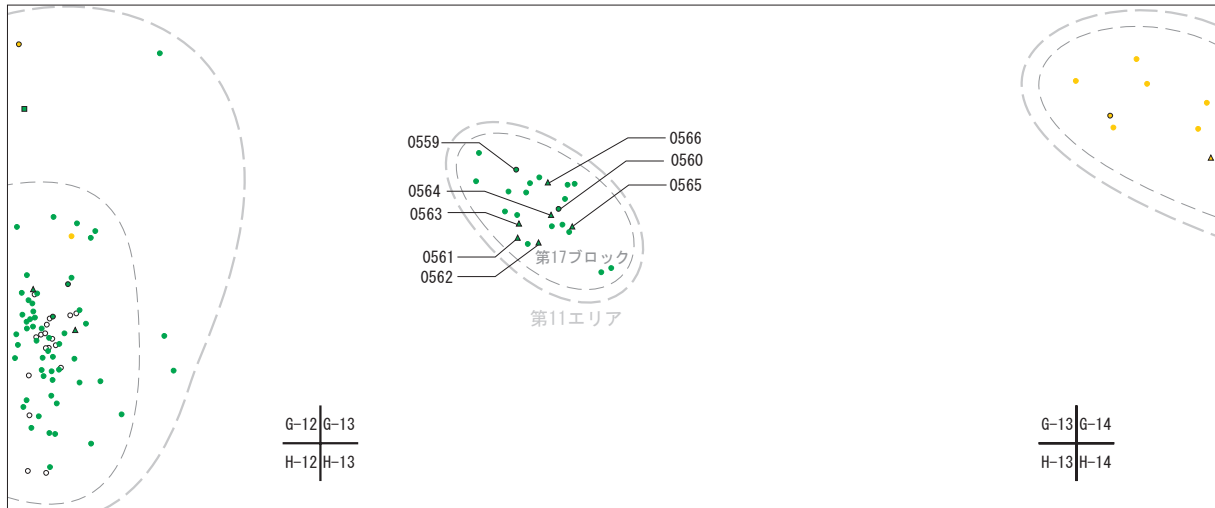
ブランディングチップはナイフ形石器ないしは三稜尖頭器の製作と関わるとみられる。

エリア外 (第157図)

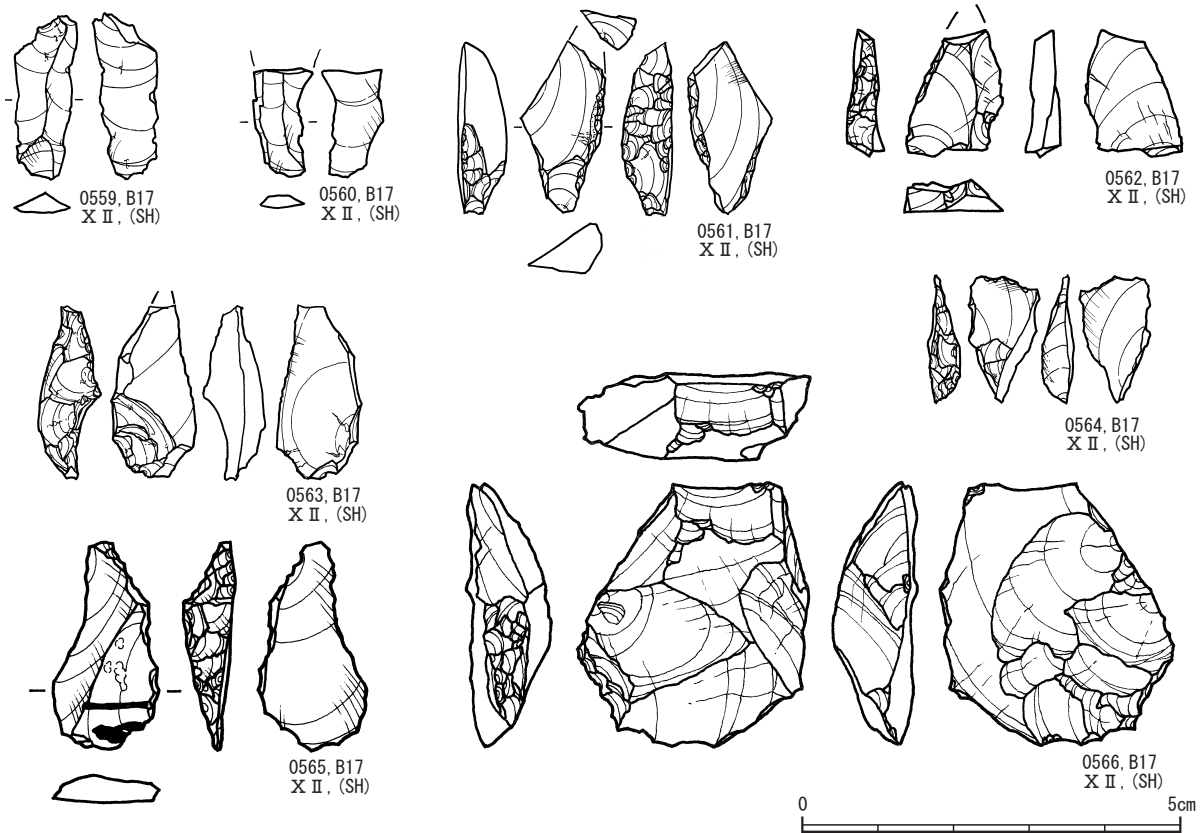
二次加工のある剥片0569と折断剥片0570を示した。2点とも石材に黒耀石Ⅱ-A類を用いている。

第41表 第三文化層第6ユニット第10エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
151	0550	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U6	A10	B16	SH	-	(9.9)	(7.5)	(1.8)	(0.12)	10259	X II	G-12	-
	0551	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U6	A10	B16	SH	-	(10.7)	(11.2)	(2.2)	(0.24)	9306	X II	G-12	-
	0552	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U6	A10	B16	SH	-	(21.1)	(10.7)	(5.0)	(0.78)	9082	X II	G-12	-
	0553	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U6	A10	外	CC	-	17.2	13.2	5.0	0.79	9106	X II	G-12	-
	0554	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U6	A10	B16	SH	-	28.4	17.9	9.1	3.60	9175	X II	G-12	-
	0555	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U6	A10	B16	SH	-	(36.3)	(32.6)	(12.4)	(10.83)	9173	X II	G-12	-
	0556	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U6	A10	B16	SH	-	74.3	22.9	12.8	16.51	10254	X II	G-12	-
	0557	剥片	-	-	Ⅲ	U6	A10	外	CC	-	37.3	16.6	11.5	5.69	9568	X II	G-12	-
0558	石核	-	-	Ⅲ	U6	A10	外	SH	-	57.4	55.8	44.2	159.71	9190	X II	G-12	65	



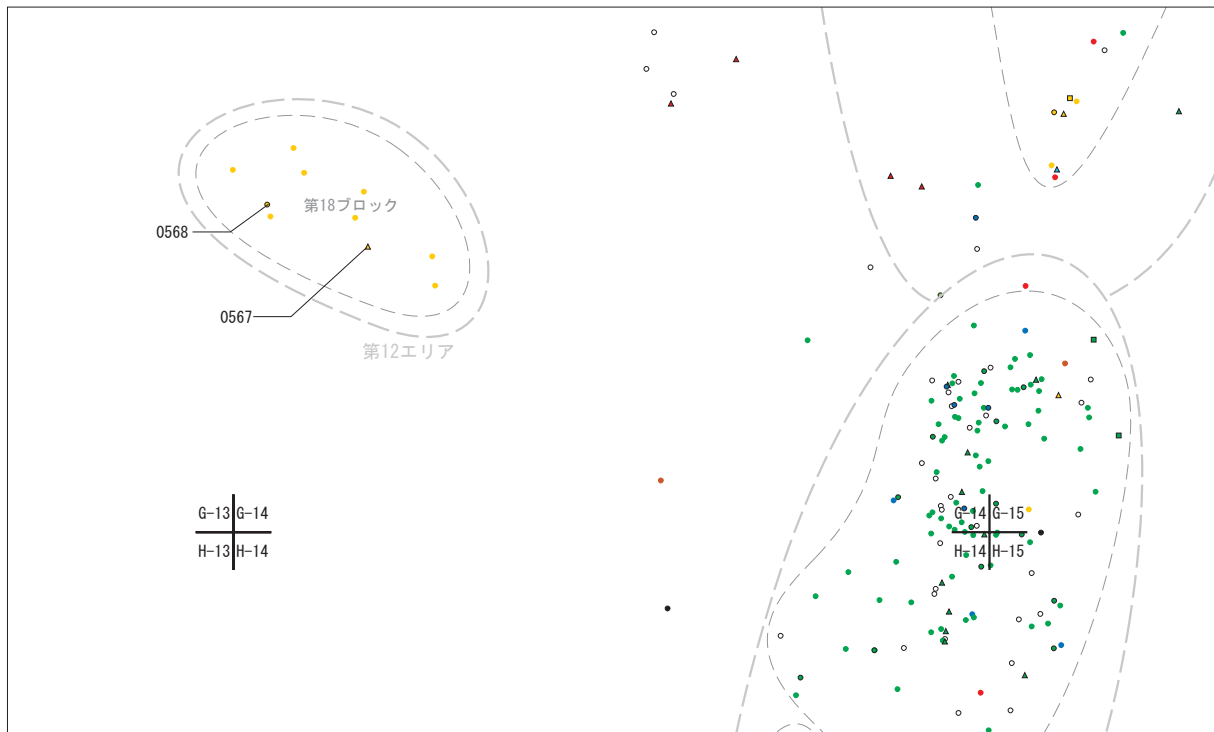
第153図 第三文化層第6ユニット第11エリア遺物出土状況図



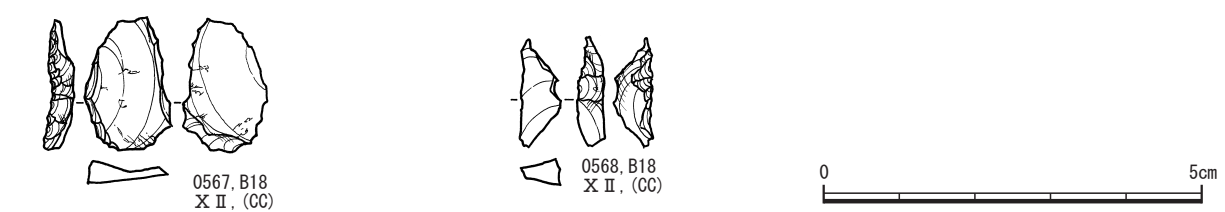
第154図 第三文化層第6ユニット第11エリア出土石器実測図

第42表 第三文化層第6ユニット第11エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニ ット	エ リ ア	ブ ロ ッ ク	石 材 L1	石 材 L2	最 大 長 (mm)	最 大 幅 (mm)	最 大 厚 (mm)	重 量 (g)	遺 物 No	層 位	グ リ ッ ド	接 合 No
154	0559	剥片	細石刃	-	III	U6	A11	B17	SH	-	21.8	8.4	3.1	0.43	9269	X II	G-13	-
	0560	剥片	細石刃	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(14.6)	(8.1)	(1.5)	(0.16)	9258	X II	G-13	-
	0561	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(22.8)	(11.4)	(7.0)	(1.31)	9249	X II	G-13	-
	0562	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(16.9)	(13.0)	(5.0)	(0.78)	9251	X II	G-13	-
	0563	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(22.8)	(11.5)	(8.3)	(1.57)	9248	X II	G-13	-
	0564	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	16.7	9.6	4.2	0.52	9256	X II	G-13	-
	0565	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	27.6	14.3	7.1	1.15	9261	X II	G-13	-
	0566	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U6	A11	B17	SH	-	35.1	30.9	11.5	11.68	9263	X II	G-13	-



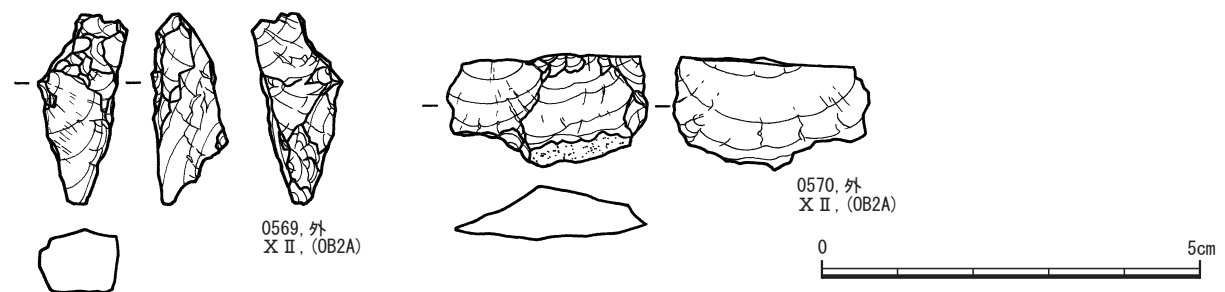
第155図 第三文化層第6ユニット第12エリア遺物出土状況図



第156図 第三文化層第6ユニット第12エリア出土石器実測図

第43表 第三文化層第6ユニット第12エリア出土石器観察表

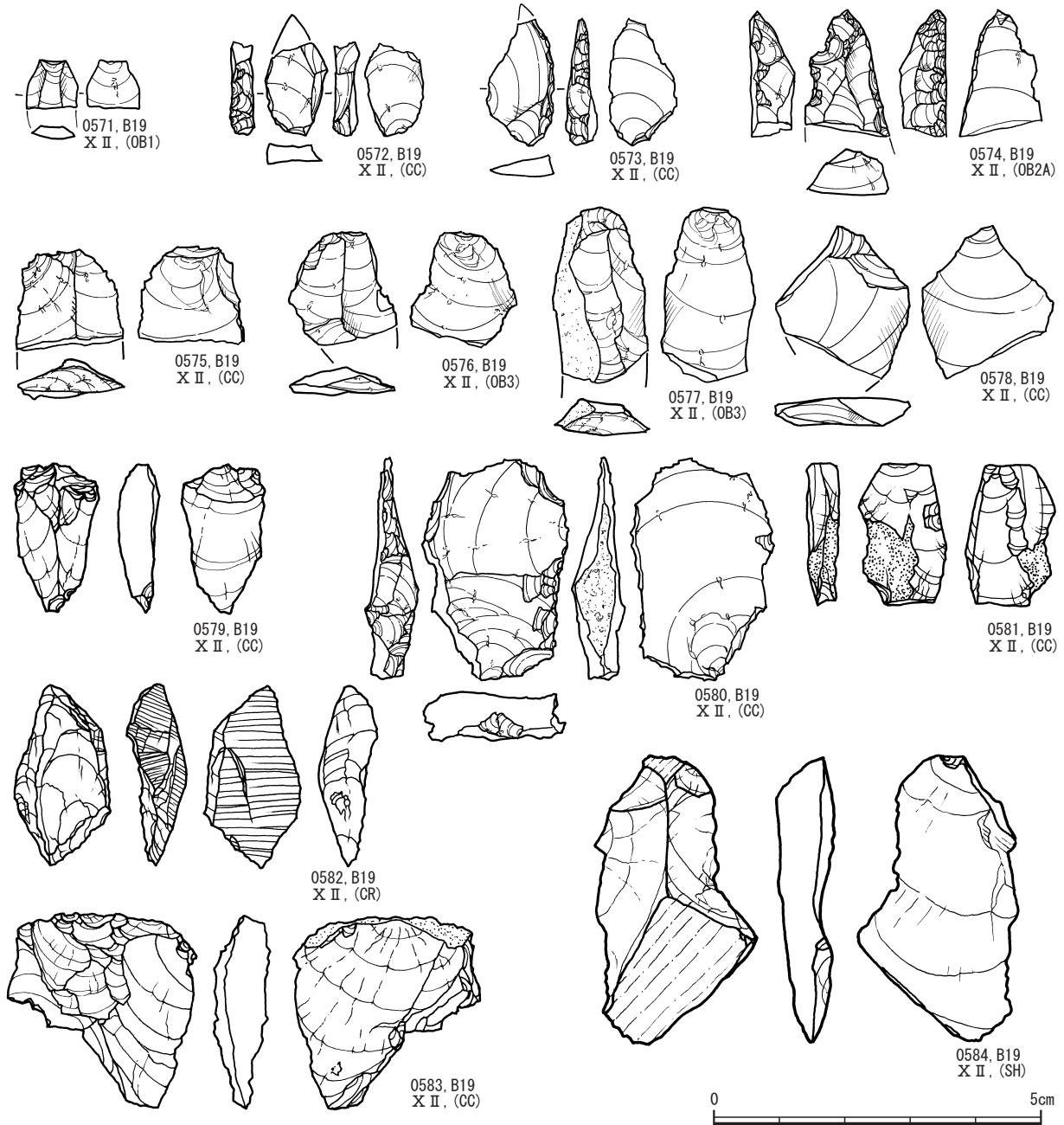
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
156	0567	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A12	B18	CC	-	17.7	11.8	4.1	0.53	18311	X II	G-14	-
	0568	チップ	ブランティングチップ	-	III	U6	A12	B18	CC	-	14.4	5.7	3.6	0.20	18330	X II	G-14	-



第157図 第三文化層第6ユニットエリア外出土石器実測図

第44表 第三文化層第6ユニットエリア外出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
157	0569	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U6	外	外	OB2	A	25.5	12.0	10.5	2.04	14565	X II	G-14	-
	0570	剥片	折断剥片	-	III	U6	外	外	OB2	A	15.1	26.7	7.5	2.69	9111	X II	G-12	-



第158図 第三文化層第7ユニット第13エリア出土石器実測図

第7ユニット

J-13区, J, I-14区にあり, 第19ブロックを包括する。

第13エリア (第159図, 第158図)

第19ブロックはギョクズイ, 黒耀石II-A類, 黒耀石I類, 黒耀石II-C類, 水晶, 頁岩の石材が使用されている。

細石刃1点(0571), ナイフ形石器3点(0572~0574), 二次加工のある剥片2点(0579, 0580)と剥片, チップが確認できる。

細石刃については, 検討の余地がある。

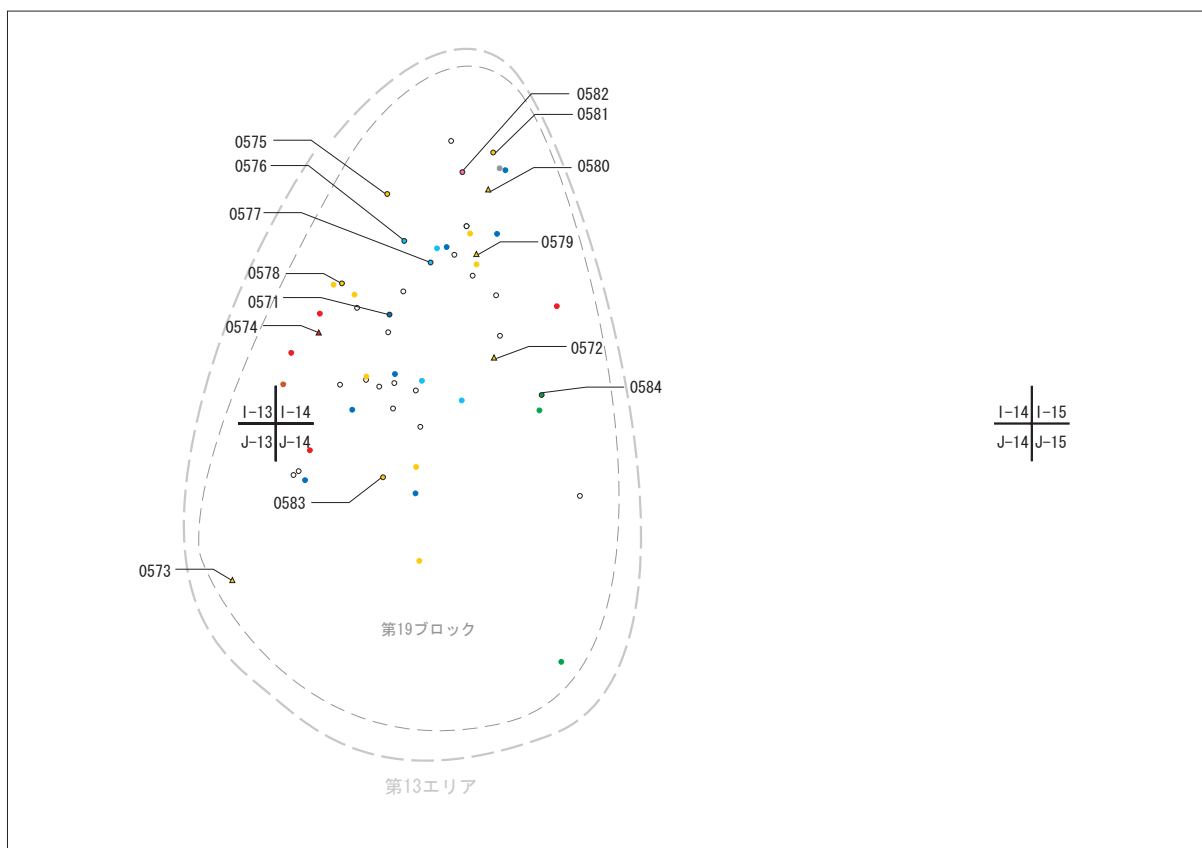
ナイフ形石器の0572, 0573は小型に属し, 剥離方向の

異なる剥片剥離手法が読みとれる。刃潰しは, 一側縁加工である。0574は先端部まで刃潰しがみられるが, 剥片の利用方法から先端部と判断している。

剥片では, 0575, 0577, 0578等の折断手法の存在が目立つ。

0582は楔形石器の破碎片の可能性もある。

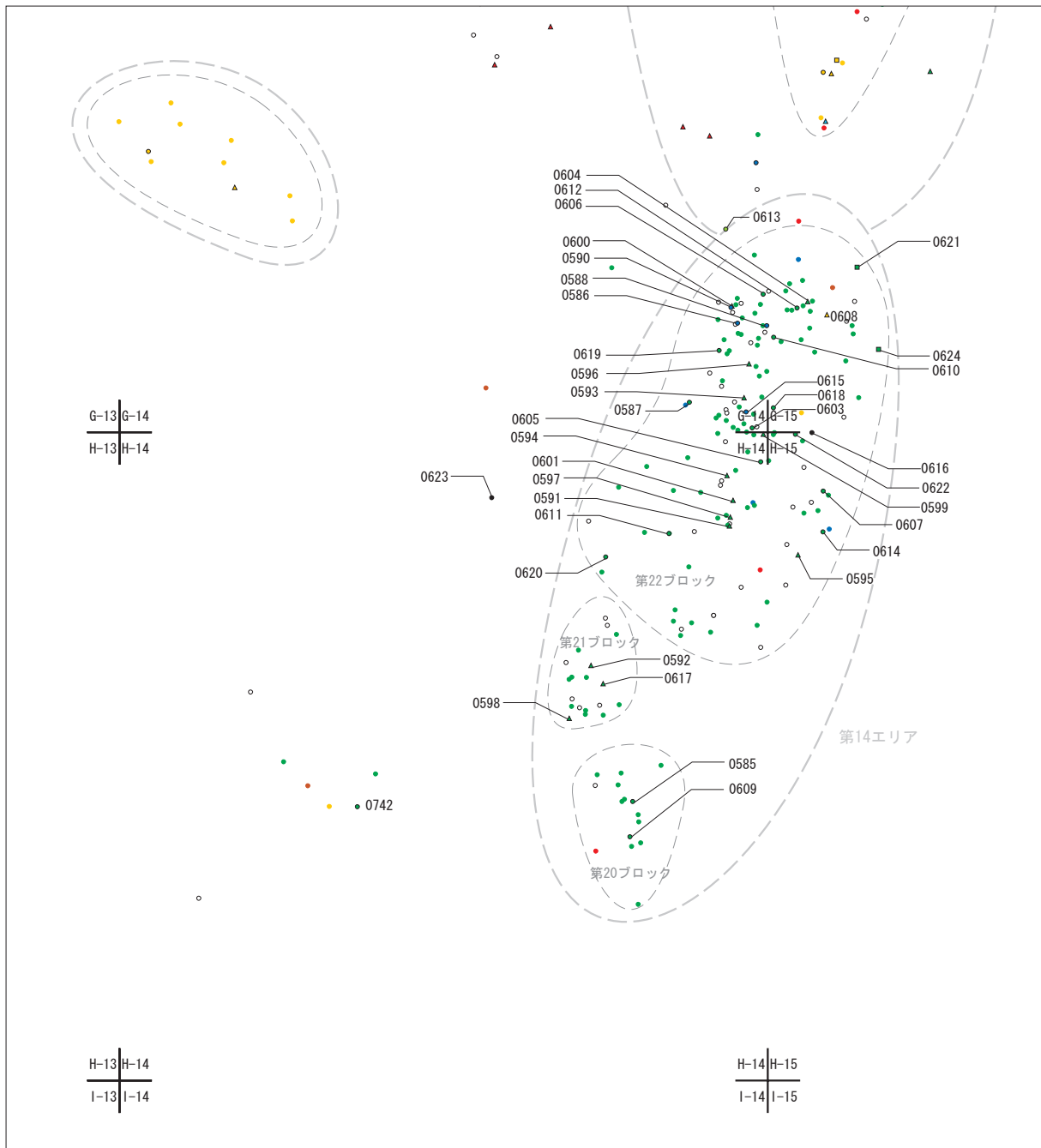
エリア内の遺物からは, ギョクズイを石材にした小型ナイフ形石器の存在と同じ石材の折断剥片の存在が目目される。



第159図 第三文化層第7ユニット第13エリア遺物出土状況図

第45表 第三文化層第7ユニット第13エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
158	0571	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U7	A13	B19	OB1	-	(7.6)	(8.0)	(2.0)	(0.12)	16635	X II	I-14	-
	0572	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	(14.2)	(9.8)	(4.0)	(0.56)	16612	X II	I-14	-
	0573	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	(19.4)	(10.5)	(5.0)	(0.72)	16700	X II	J-13	-
	0574	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U7	A13	B19	OB2	A	(19.4)	(13.1)	(7.5)	(1.39)	16642	X II	I-14	-
	0575	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	(15.5)	(16.5)	(6.0)	(1.32)	16619	X II	I-14	-
	0576	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U7	A13	B19	OB3	-	(17.4)	(16.7)	(4.2)	(0.86)	16617	X II	I-14	-
	0577	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U7	A13	B19	OB3	-	(26.9)	(14.8)	(5.5)	(2.02)	16616	X II	I-14	-
	0578	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	(23.4)	(20.6)	(4.4)	(1.69)	16626	X II	I-14	-
	0579	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	22.8	13.2	6.8	1.34	16605	X II	I-14	-
	0580	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	33.8	22.5	8.2	4.97	16597	X II	I-14	-
	0581	剥片	-	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	21.8	13.6	5.2	1.62	16943	X II	I-14	-
	0582	剥片	-	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CR	-	28.0	15.1	9.8	2.79	16595	X II	I-14	-
	0583	剥片	-	-	Ⅲ	U7	A13	B19	CC	-	29.8	29.0	9.0	5.59	16927	X II	J-14	-
	0584	剥片	-	-	Ⅲ	U7	A13	B19	SH	-	44.4	25.0	9.2	5.97	16585	X II	I-14	-



第160図 第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア遺物出土状況図

第8ユニット

F, G, H-14, 15区の南北方向に分布し、第15エリアと第16エリアで構成する。

第14エリア(第160図, 第161~164図)

G, H-14, 15区にあり、3つのブロックで構成する。東側部分は調査区域外に相当する。

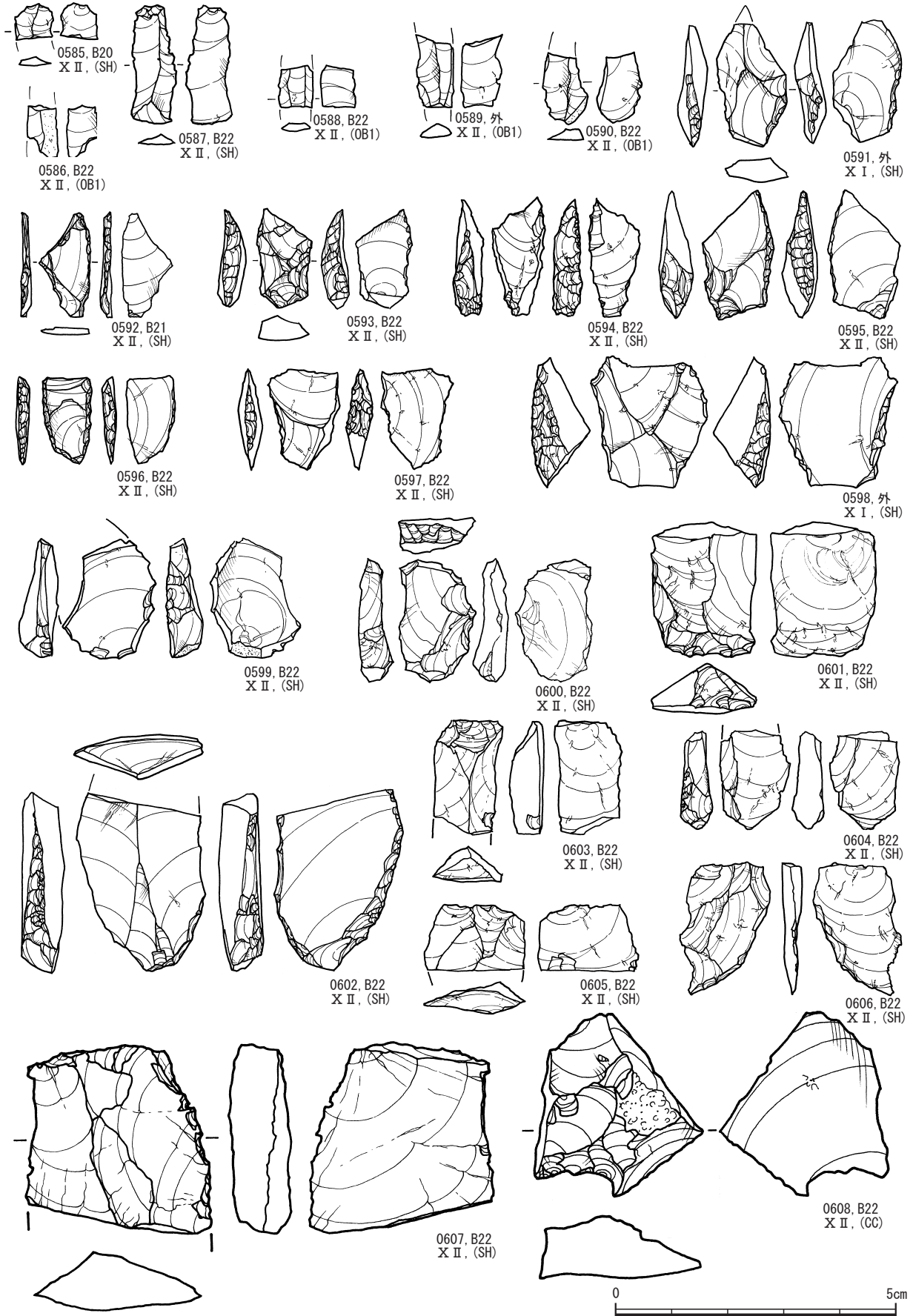
第20, 第21, 第22ブロックは頁岩主体ブロックで、第22ブロックでは黒耀石Ⅰ類, 黒耀石Ⅱ-C類, ギョクズイが少数重なる石材利用がみられる。

細石刃6点(0585~0590), ナイフ形石器10点(0591~

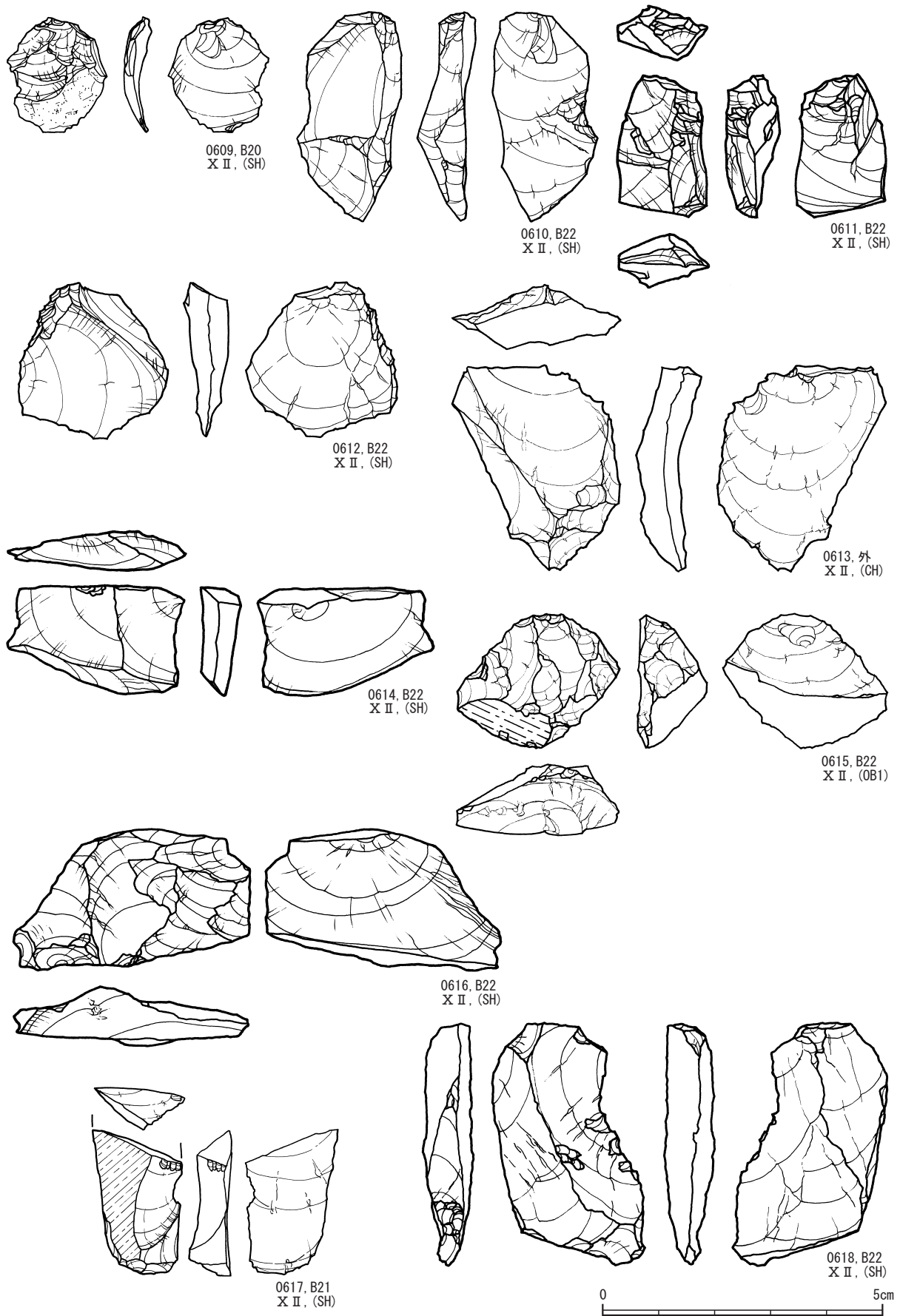
0599・0602), スクレイパー1点(0608), 二次加工のある剥片3点(0600, 0601, 0604), ハンマーストーン2点(0623, 0622), 石核2点(0624, 0621), 微細剥離痕のある剥片1点(0606)のほか剥片等が確認できる。

6点の細石刃については、上層との関係で再考の余地がある。

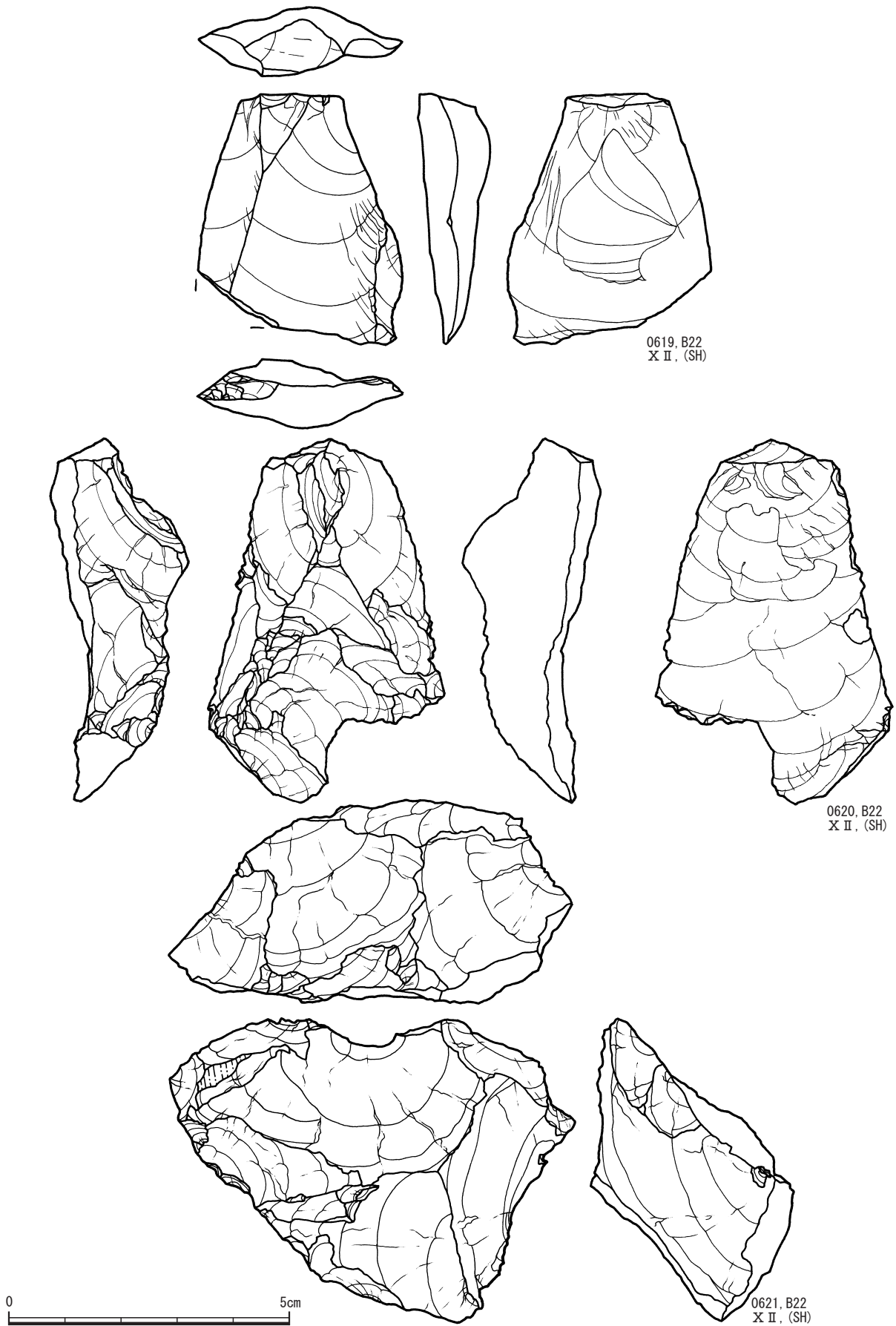
ナイフ形石器(0592~0595)は二側縁に刃潰し加工した切出形, 0596, 0597, 0598は両側縁に刃潰しを行い直刃を持ついわゆる台形石器に相当する。0591は基部周辺に刃潰し加工を持つ。0602は先端部を欠くが、良質の縦長剥



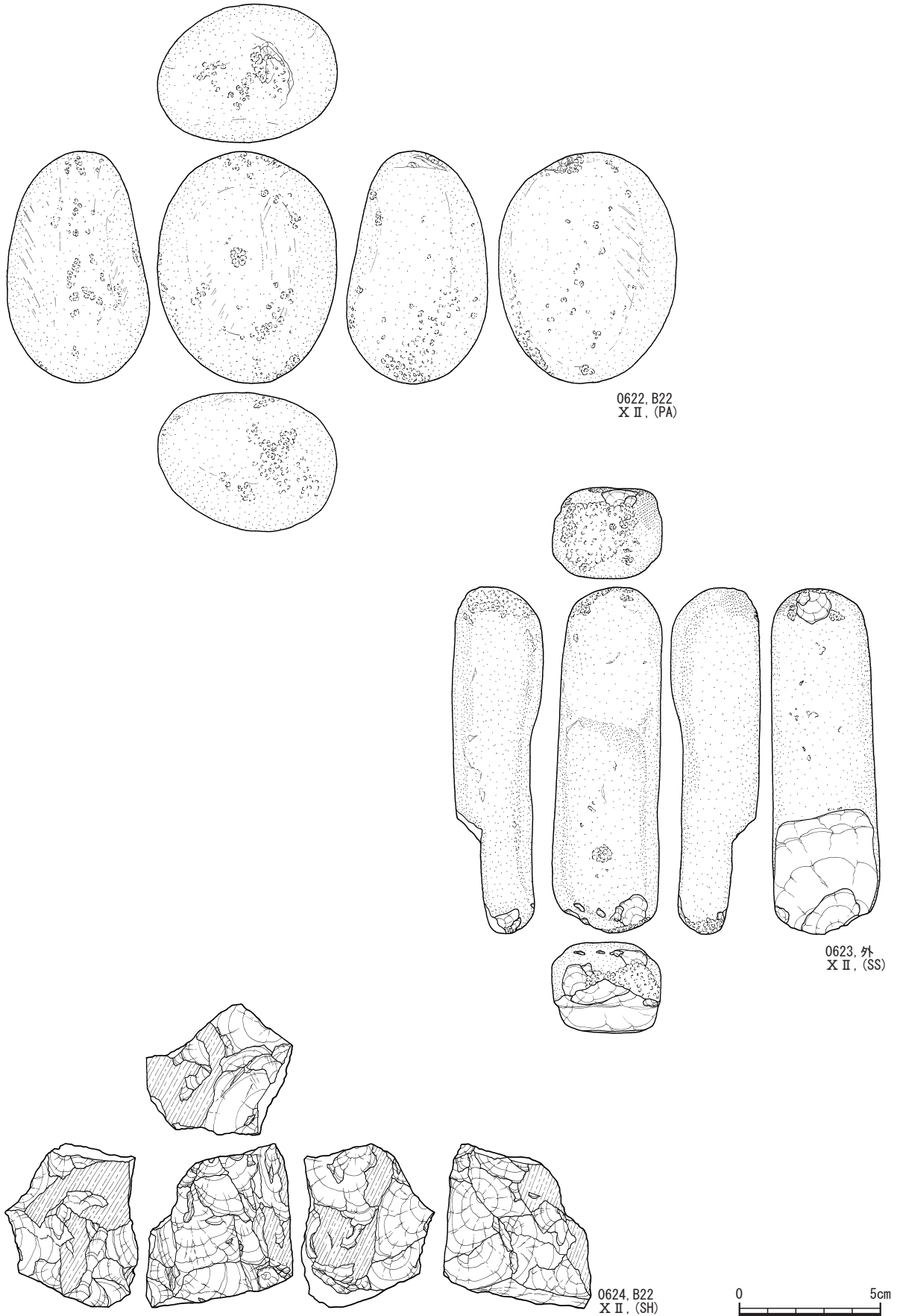
第161図 第三文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(1)



第162図 第三文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(2)



第163図 第三文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(3)



第164図 第三文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(4)

片を用い、基部中心に丁寧な刃潰しがみられる。

0602は縦長剥片、0591は横剥ぎの剥片、他の7点は剥片剥離方向の異なる石核から取り出された不定型な剥片を素材としている。

0608は挟入状のスクレイパー。

二次加工のある剥片の2点は、剥片の一端に削器状の刃部を持つ。

ハンマー石の0623は主として上下両端を使用し、敲打痕と剥離痕がみられる。0622は上下両端と側縁部に敲打痕が多数観察できる。

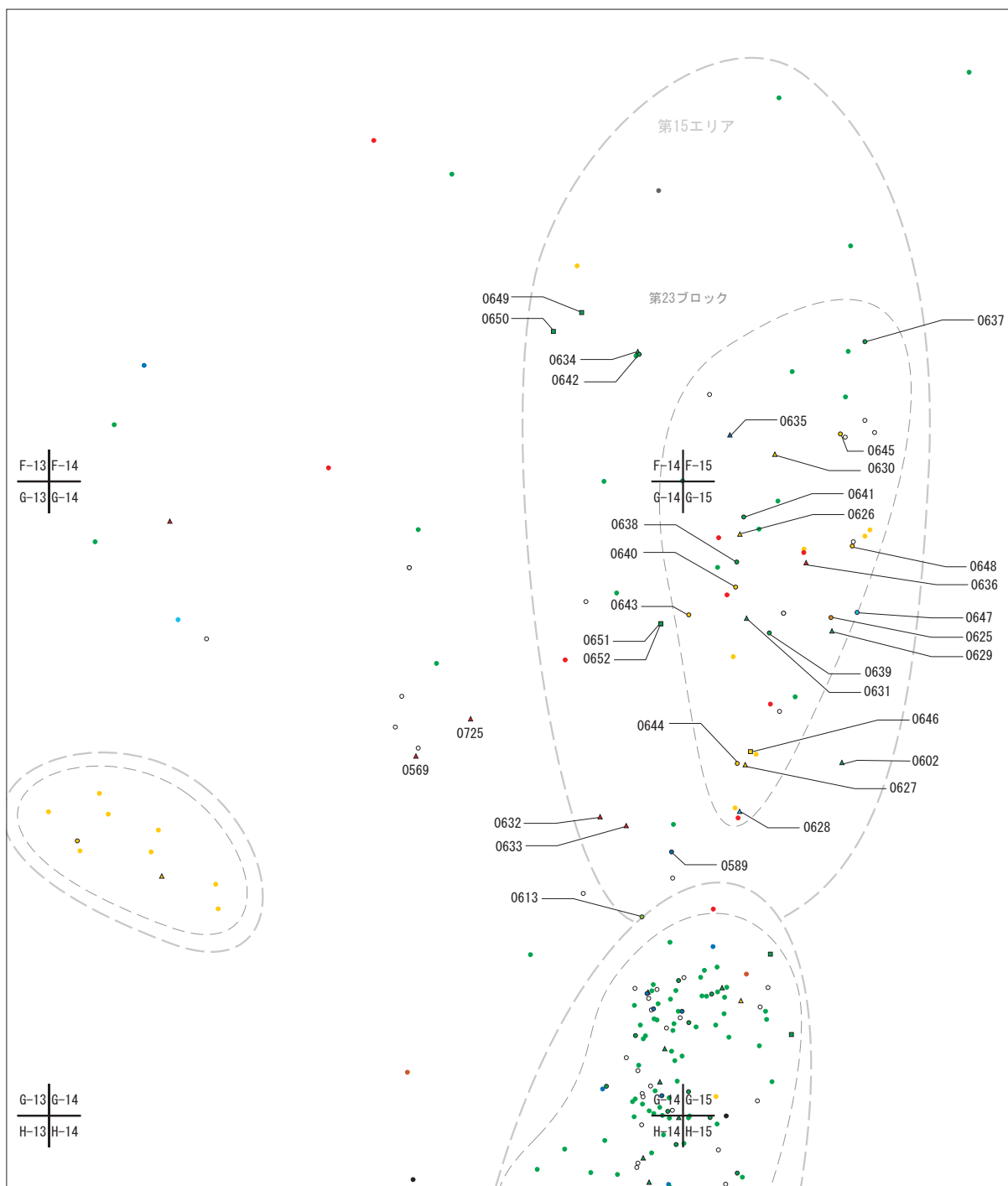
0620, 0621の分厚い剥片は、三稜尖頭器の素材剥片の

可能性を指摘したい。

エリア内の出土遺物については、細石刃は再度慎重を期したい。ナイフ形石器については、切出し形と台形石器が安定して存在し、同時にナイフ形石器の小型化の傾向を指摘できる。

第46表 第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器観察表

挿入No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
161	0585	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A14	B20	SH	-	(6.7)	(7.1)	(2.0)	(0.09)	15868	X II	H-14	-
	0586	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A14	B22	OB1	-	(9.6)	(5.8)	(1.9)	(0.11)	14664	X II	G-14	-
	0587	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	21.3	8.3	1.8	0.38	15808	X II	G-14	-
	0588	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A14	B22	OB1	-	(7.7)	(6.4)	(1.5)	(0.06)	15907	X II	G-14	-
	0589	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A14	外	OB1	-	(13.1)	(7.0)	(2.5)	(0.20)	14678	X II	G-14	-
	0590	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A14	B22	OB1	-	(12.9)	(8.3)	(2.0)	(0.18)	14666	X II	G-14	-
	0591	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A14	外	SH	-	(22.0)	(12.3)	(5.8)	(1.23)	14658	X I	H-14	-
	0592	石器	ナイフ形石器	切出形	Ⅲ	U8	A14	B21	SH	-	18.7	9.4	2.2	0.26	15838	X II	H-14	-
	0593	石器	ナイフ形石器	切出形	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	17.9	10.0	5.0	0.80	15779	X II	G-14	-
	0594	石器	ナイフ形石器	切出形	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	21.3	9.7	5.3	0.98	16988	X II	H-14	-
	0595	石器	ナイフ形石器	切出形	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	23.2	13.0	6.7	1.55	15812	X II	H-15	-
	0596	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(15.5)	(9.0)	(3.0)	(0.38)	15796	X II	G-14	-
	0597	石器	ナイフ形石器	台形石器	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	18.1	13.1	5.0	0.87	15990	X II	H-14	-
	0598	石器	ナイフ形石器	台形石器	Ⅲ	U8	A14	外	SH	-	23.6	21.0	10.3	3.52	15179	X I	H-14	-
	0599	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(21.4)	(16.9)	(6.9)	(1.80)	21616	X II	H-14	-
	0600	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	22.1	13.9	6.2	1.68	15918	X II	G-14	-
	0601	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	24.3	18.9	9.0	4.05	16116	X II	H-14	-
	0602	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(31.9)	(23.2)	(8.0)	(6.03)	14475	X II	G-15	-
	0603	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(20.6)	(12.5)	(6.1)	(1.40)	21612	X II	G-14	-
	0604	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(17.8)	(12.7)	(6.0)	(1.13)	15747	X II	G-15	-
	0605	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(12.1)	(18.2)	(6.0)	(1.10)	15987	X II	H-14	-
	0606	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	23.8	16.3	4.0	0.92	15804	X II	G-14	-
	0607	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	(33.6)	(33.4)	(11.5)	(13.79)	15922	X II	H-15	-
0608	石器	スクレイパー	挟入石器	Ⅲ	U8	A14	B22	CC	-	32.8	30.3	12.0	10.32	15748	X II	G-15	-	
162	0609	チップ	ブランティングチップ	-	Ⅲ	U8	A14	B20	SH	-	20.6	18.0	5.1	1.07	15872	X II	H-14	-
	0610	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	37.4	18.9	10.2	4.14	15754	X II	G-15	-
	0611	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	25.6	16.4	10.0	3.12	17017	X II	H-14	-
	0612	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	28.1	26.9	8.2	4.48	15975	X II	G-15	-
	0613	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	外	CH	-	36.8	30.2	12.0	6.80	15806	X II	G-14	-
	0614	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	19.7	31.9	7.5	3.79	16112	X II	H-15	-
	0615	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	OB1	-	24.2	29.2	12.5	6.45	15980	X II	G-14	-
	0616	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	25.4	42.5	11.8	8.00	16530	X II	H-15	-
	0617	石器	剥片	-	Ⅲ	U8	A14	B21	SH	-	(25.9)	(16.2)	(7.8)	(2.05)	15836	X II	H-14	110
	0618	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	43.5	27.6	9.2	9.96	16104	X II	G-15	-
163	0619	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	45.0	36.7	13.1	15.40	15784	X II	G-14	-
	0620	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	64.9	42.4	25.0	38.32	15846	X II	H-14	-
	0621	石核	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	54.4	72.3	36.5	94.98	17013	X II	G-15	-
164	0622	石器	ハンマー	-	Ⅲ	U8	A14	B22	PA	-	82.2	63.8	50.0	366.00	15982	X II	H-15	-
	0623	石器	ハンマー	-	Ⅲ	U8	A14	外	SS	-	122.5	39.3	32.0	228.87	15853	X II	H-14	-
	0624	石核	-	-	Ⅲ	U8	A14	B22	SH	-	58.2	52.3	47.6	132.68	16526	X II	G-15	-



第165図 第三文化層第8ユニット第15エリア遺物出土状況図

第15エリア(第165図, 第166~169図)

F, G-14, 15区にあり, 頁岩とギョクズイに黒耀石Ⅰ類, 黒耀石Ⅱ-A類, 黒耀石Ⅲ類が少数加わる。

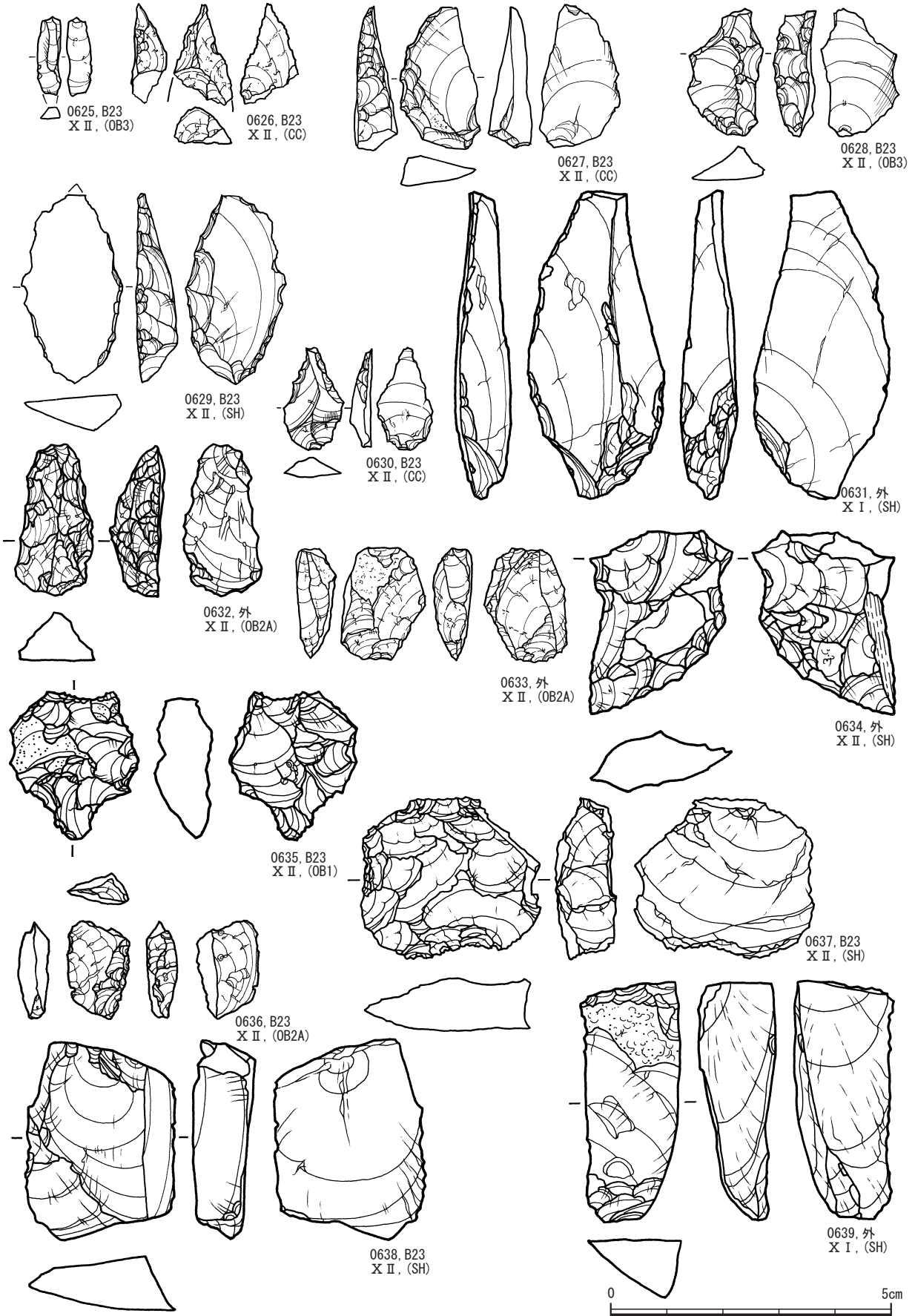
細石刃1点(0625), ナイフ形石器4点(0626~0629, 0631), 三稜尖頭器1点(0632), 楔形石器2点(0633, 0635), スクレイパー2点(0634, 0637), 石核5点(0646, 0649~0651), 石皿1点(0653), 剥片等の器種が確認できる。

細石刃については再検討の余地があるといえる。

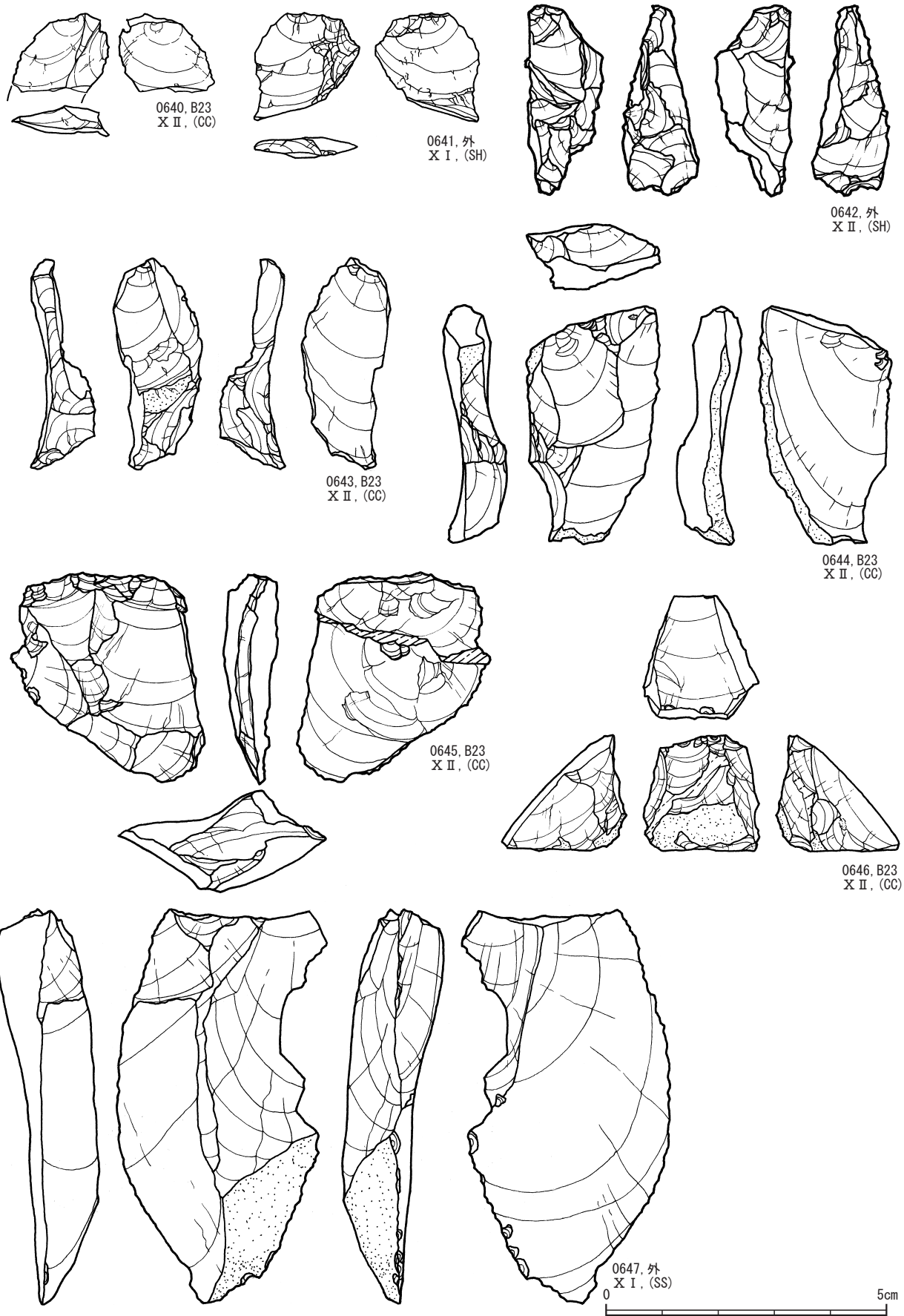
ナイフ形石器の0627~0629の3点は一側縁加工で, 0627と0628は不定形剥片を使用し, 0628は先端部は欠落している。なお, 0629は背面の剥離方向は読みとれない。先端部を欠く0631は, 基部を中心に刃潰し加工がみられる。

0632の三稜尖頭器は破損した痕跡が無く, 製作途上の小型資料と判断している。

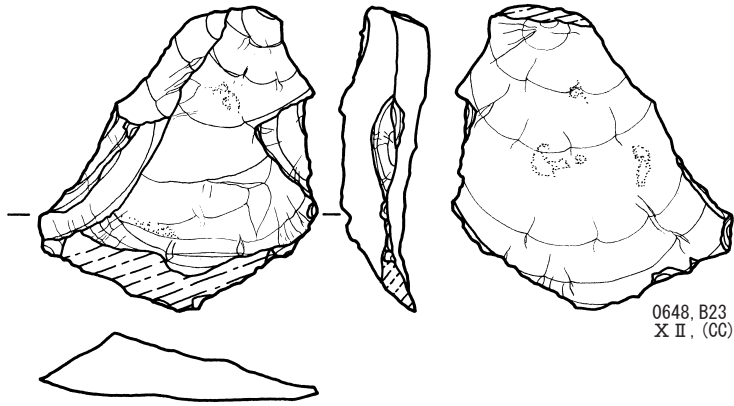
0633と0635は楔形石器と判断したもので, 特に, 0633



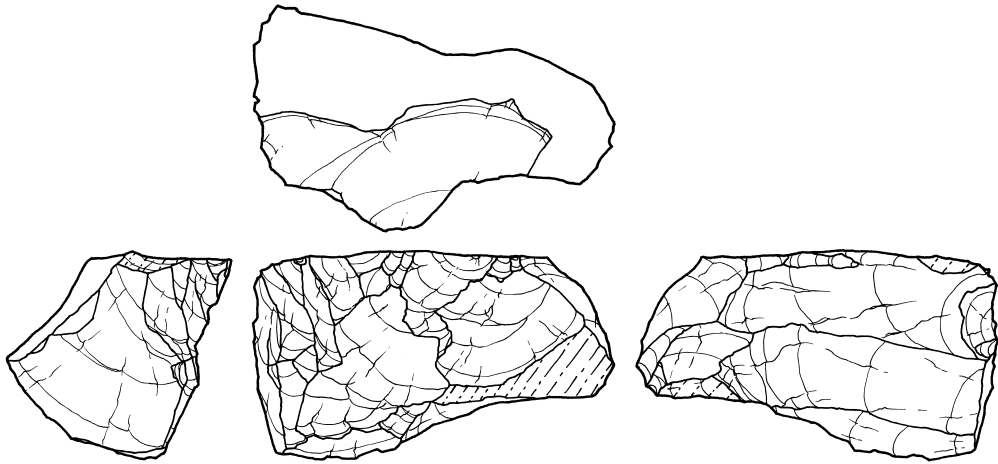
第166図 第三文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(1)



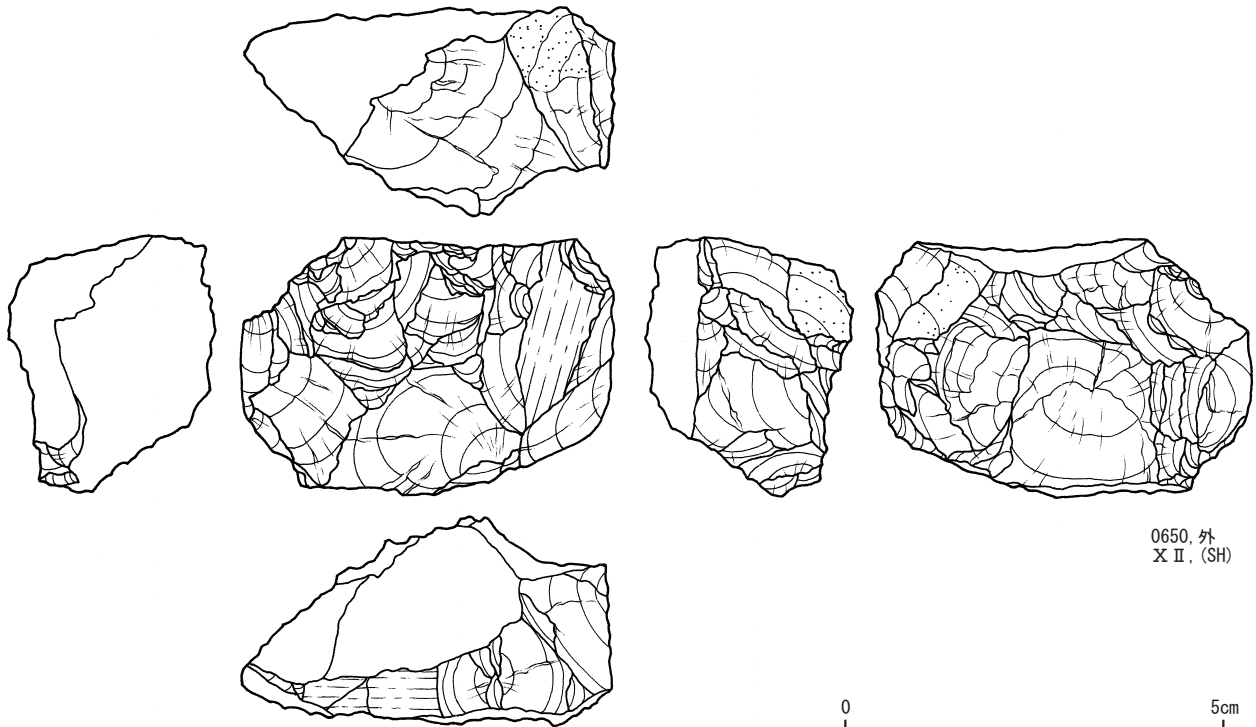
第167図 第三文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(2)



0648, B23
X II, (CG)



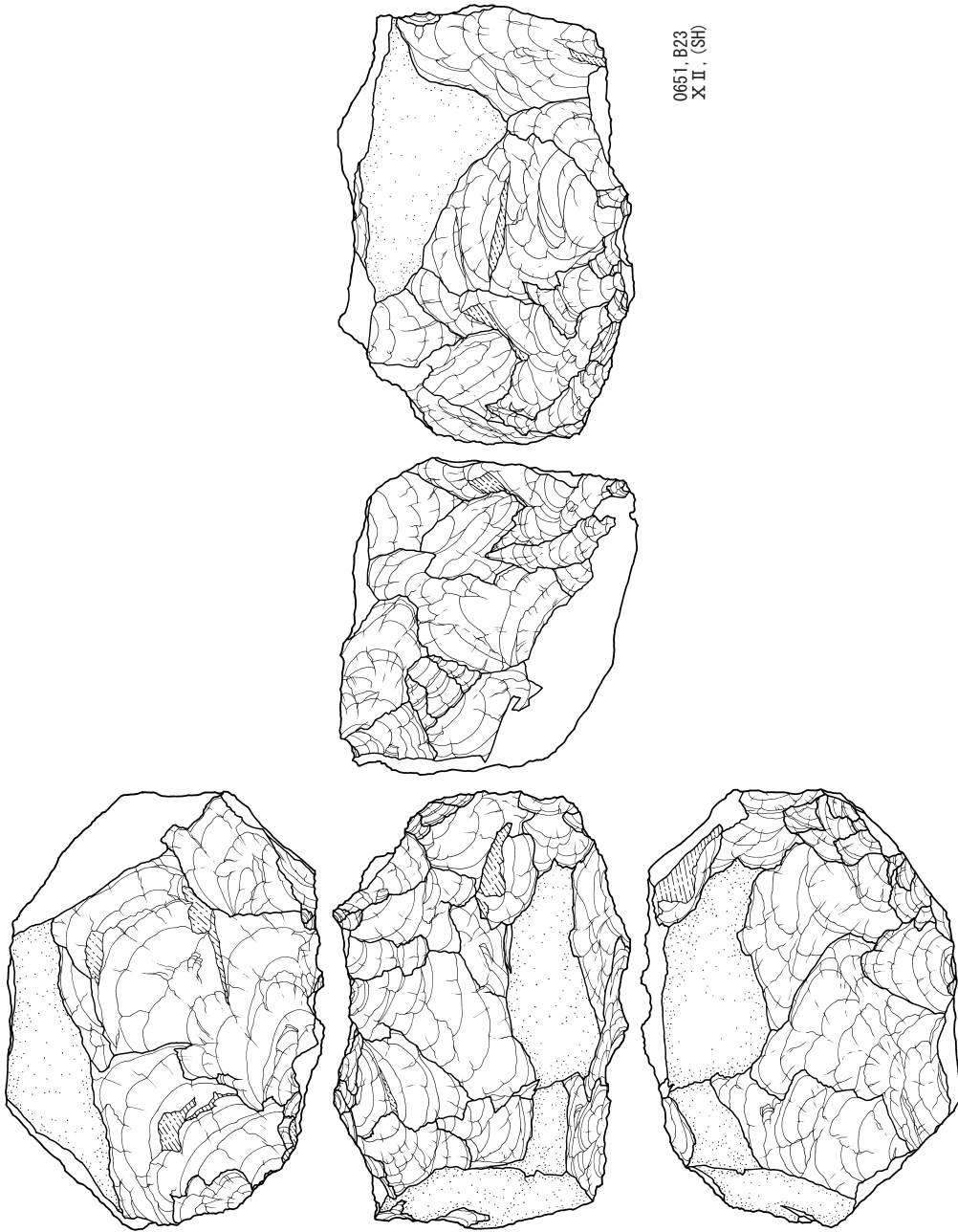
0649, 外
X II, (SH)



0650, 外
X II, (SH)



第168図 第三文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(3)



0651, B23
X II, (SH)



第169図 第三文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(4)

は上下からの作出が明瞭で、上端には狭い平坦面を持ち、下端部には使用痕もみられる。0635も上端に狭い平坦面を確保している。

2点のスクレイパー(0634, 0637)は、削器的機能が高いとみられる。

石核は節理の多い石材のため、良質の剥片を取り出していないとみえる。0651の石核からは、やや幅広の不定形剥片が取り出されたとみられる。0651は打面が稜線を成す交互剥離石核で、現状で取り出された剥片は不定形剥片である。

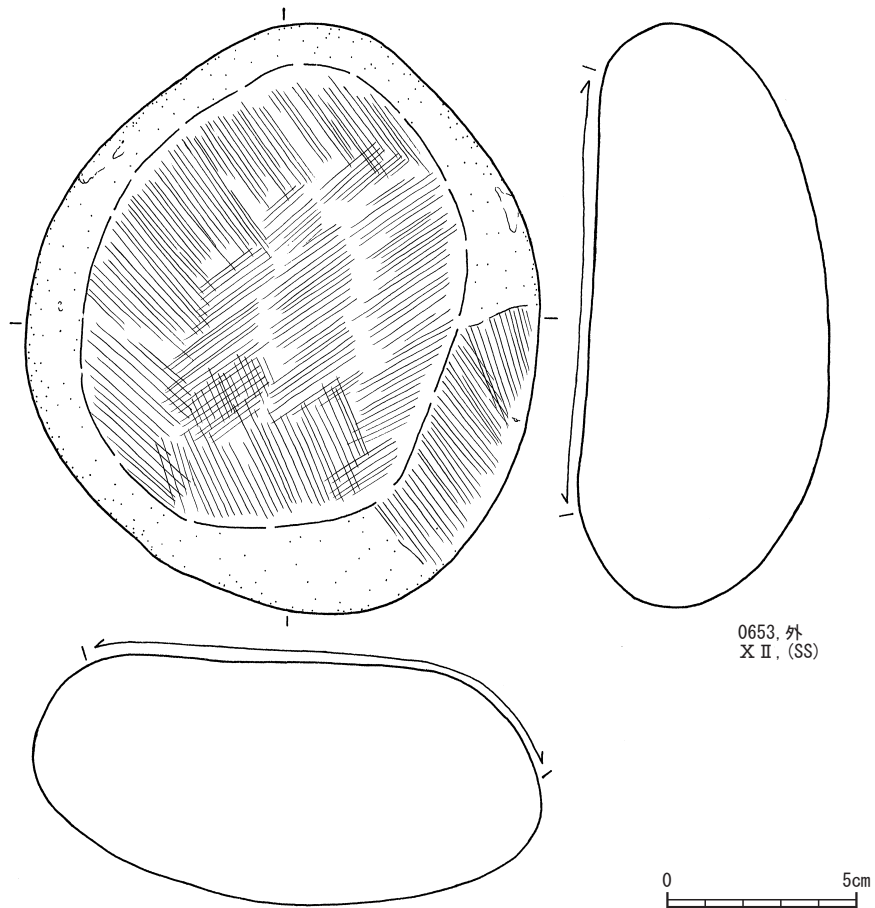
0653の石材は砂岩で、中央部が摩耗し浅い皿状に窪んでいる。

エリア外(第170図)

エリア外から石皿1点(0653)を採取している。円礫を用い、正面の平坦面中央部が摩耗し若干窪む様相を呈している。

第47表 第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器観察表

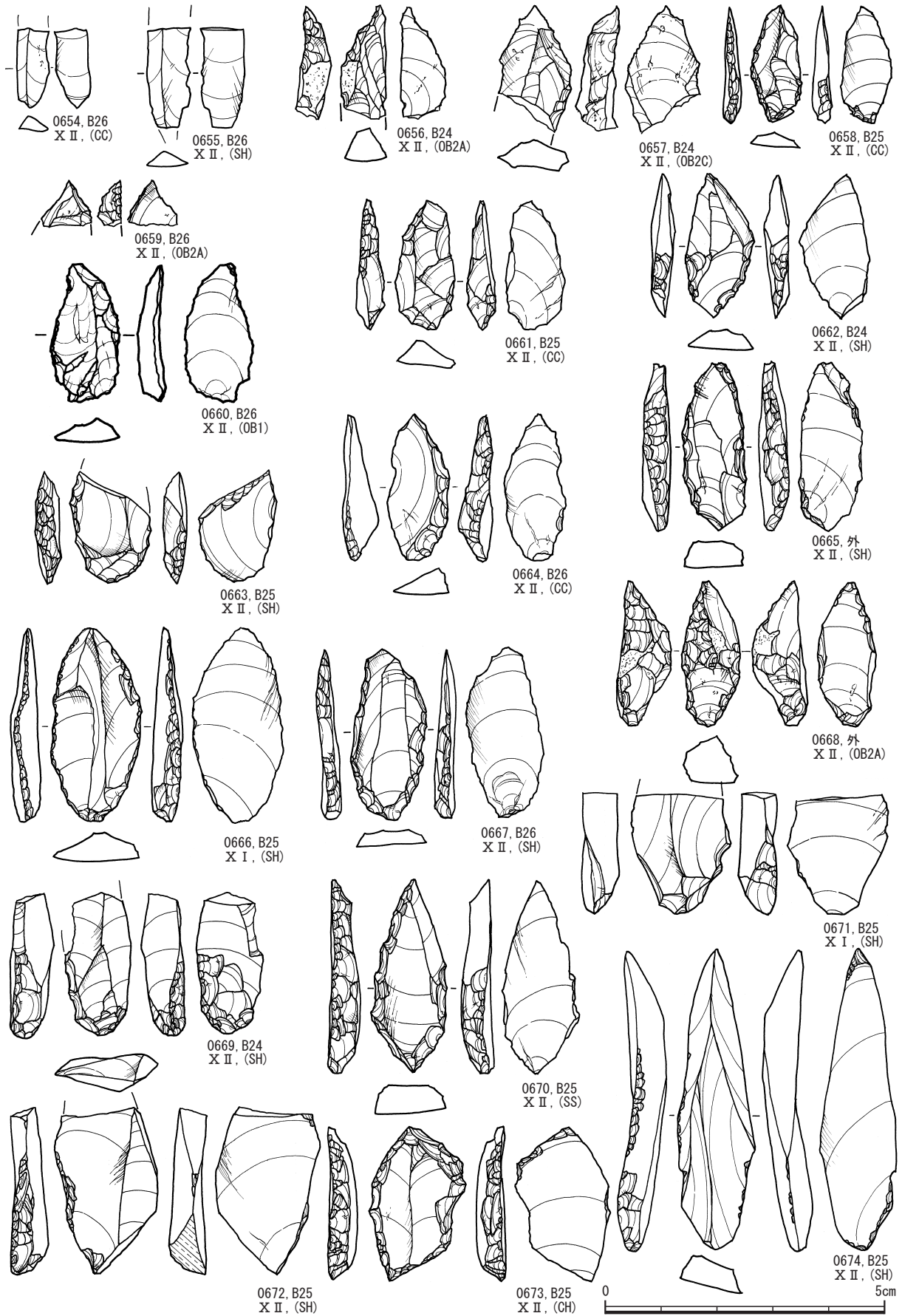
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
166	0625	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U8	A15	B23	OB3	-	(14.1)	(4.4)	(2.5)	(0.12)	14501	X II	G-15	-
	0626	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	(18.0)	(10.6)	(6.7)	(0.59)	14486	X II	G-15	-
	0627	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	25.5	14.5	8.0	2.22	14470	X II	G-15	-
	0628	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A15	B23	OB3	-	22.7	13.7	7.2	1.75	15904	X II	G-15	-
	0629	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A15	B23	SH	-	33.7	18.8	7.2	3.62	14502	X II	G-15	-
	0630	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	18.3	11.0	4.0	0.60	14715	X II	F-15	-
	0631	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	54.7	24.7	10.3	10.50	14480	X I	G-15	-
	0632	石器	三稜尖頭器	-	Ⅲ	U8	A15	外	OB2	A	27.2	14.3	10.0	2.73	14681	X II	G-14	-
	0633	石器	楔形石器	-	Ⅲ	U8	A15	外	OB2	A	20.2	15.2	7.2	1.86	14680	X II	G-14	-
	0634	石器	スクレイパー	削器	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	32.8	25.8	12.0	10.08	14591	X II	F-14	82
	0635	石器	楔形石器	-	Ⅲ	U8	A15	B23	OB1	-	26.5	23.3	11.2	4.11	14716	X II	F-15	-
	0636	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U8	A15	B23	OB2	A	17.7	11.4	6.0	0.84	14496	X II	G-15	-
	0637	剥片	スクレイパー	-	Ⅲ	U8	A15	B23	SH	-	29.0	32.2	11.0	10.53	14704	X II	F-15	83
	0638	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	SH	-	35.5	27.1	11.2	10.38	14485	X II	G-15	66
0639	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	42.7	18.2	14.1	9.85	14499	X I	G-15	66	
167	0640	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	(14.2)	(17.3)	(5.2)	(0.87)	14482	X II	G-15	-
	0641	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	19.3	18.9	3.8	0.96	14487	X I	G-15	-
	0642	剥片	剥片	調整剥片	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	33.9	14.0	14.0	4.96	14592	X II	F-14	82
	0643	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	37.7	16.1	12.0	3.97	14726	X II	G-15	-
	0644	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	42.5	24.1	10.5	7.95	14469	X II	G-15	-
	0645	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	37.5	34.8	10.0	10.03	14712	X II	F-15	-
	0646	石核	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	20.8	20.9	22.1	8.30	14471	X II	G-15	-
	0647	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	外	SS	-	70.3	38.3	18.1	28.12	14500	X I	G-15	-
168	0648	剥片	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	CC	-	40.4	37.0	12.1	11.37	14723	X II	G-15	-
	0649	石核	-	-	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	27.7	47.9	30.0	32.13	14587	X II	F-14	-
	0650	石核	-	-	Ⅲ	U8	A15	外	SH	-	34.2	49.5	27.8	47.29	14586	X II	F-14	-
169	0651	石核	-	-	Ⅲ	U8	A15	B23	SH	-	121.0	82.3	88.2	1,132.00	14727	X II	G-14	-



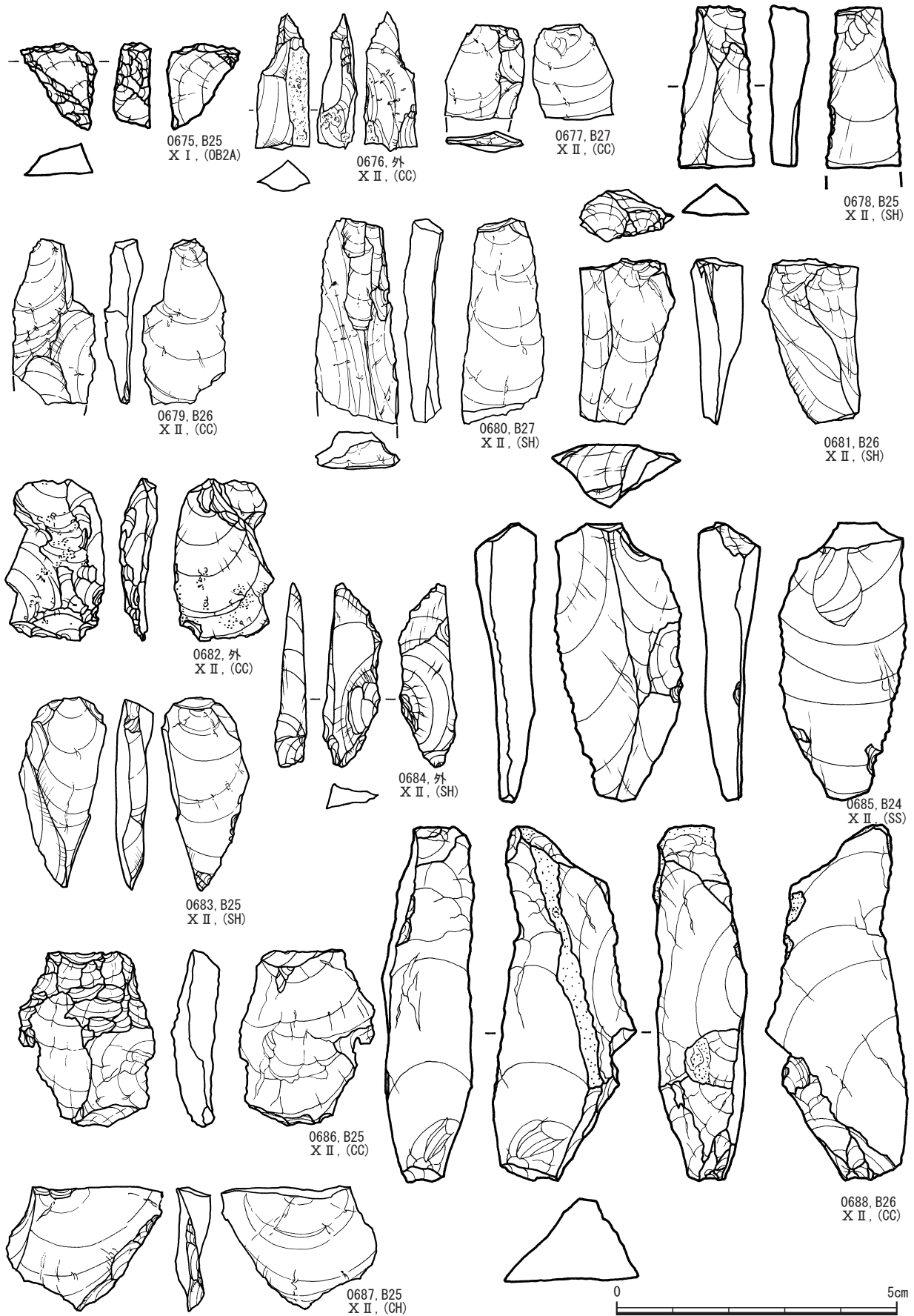
第170図 第Ⅲ文化層第8ユニットエリア外出土石器実測図

第48表 第Ⅲ文化層第8ユニットエリア外出土石器観察表

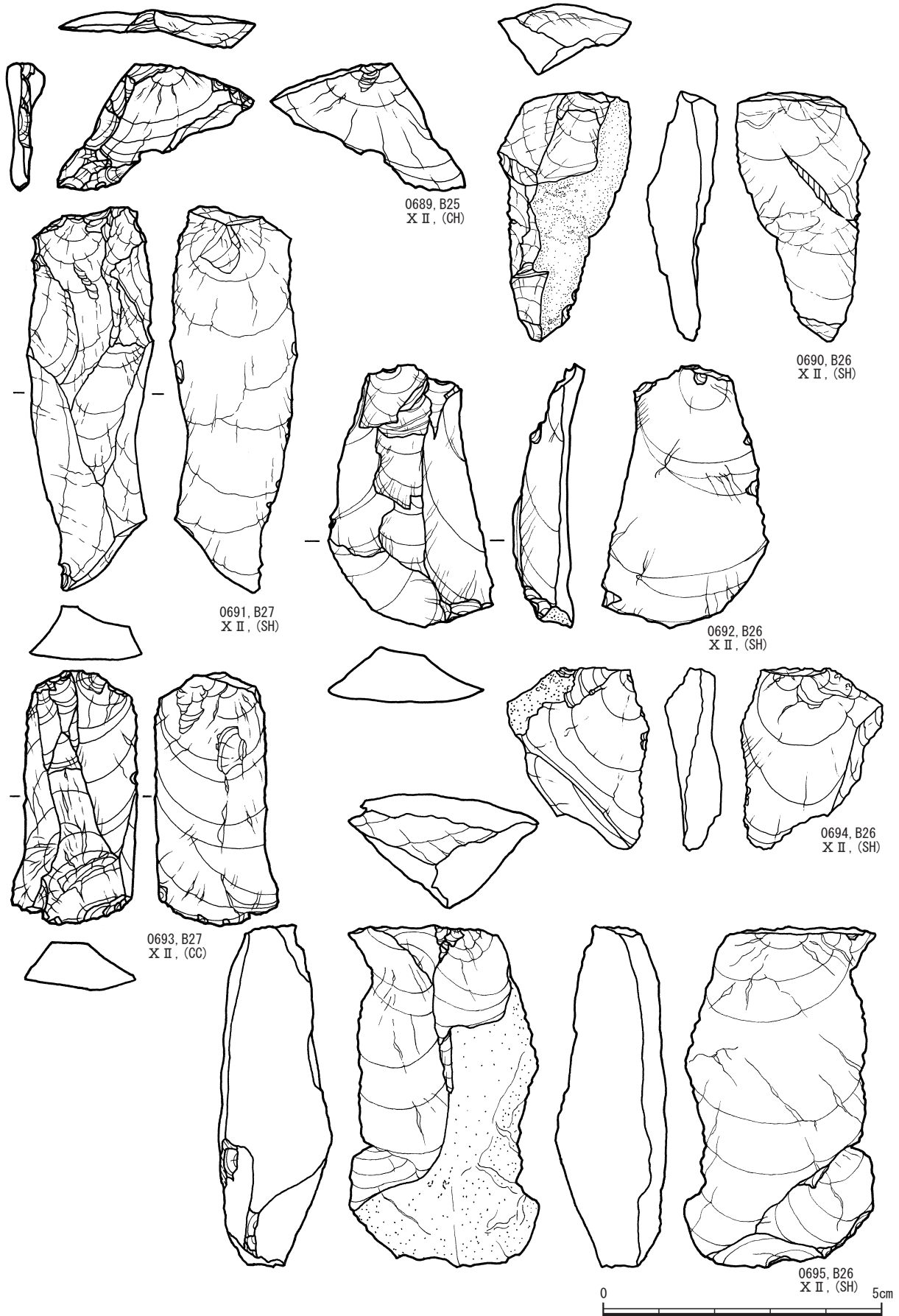
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
170	0653	石器	石皿	-	Ⅲ	U8	外	外	SS	-	156.1	136.0	66.4	2,100.00	15393	X II	F-15	-



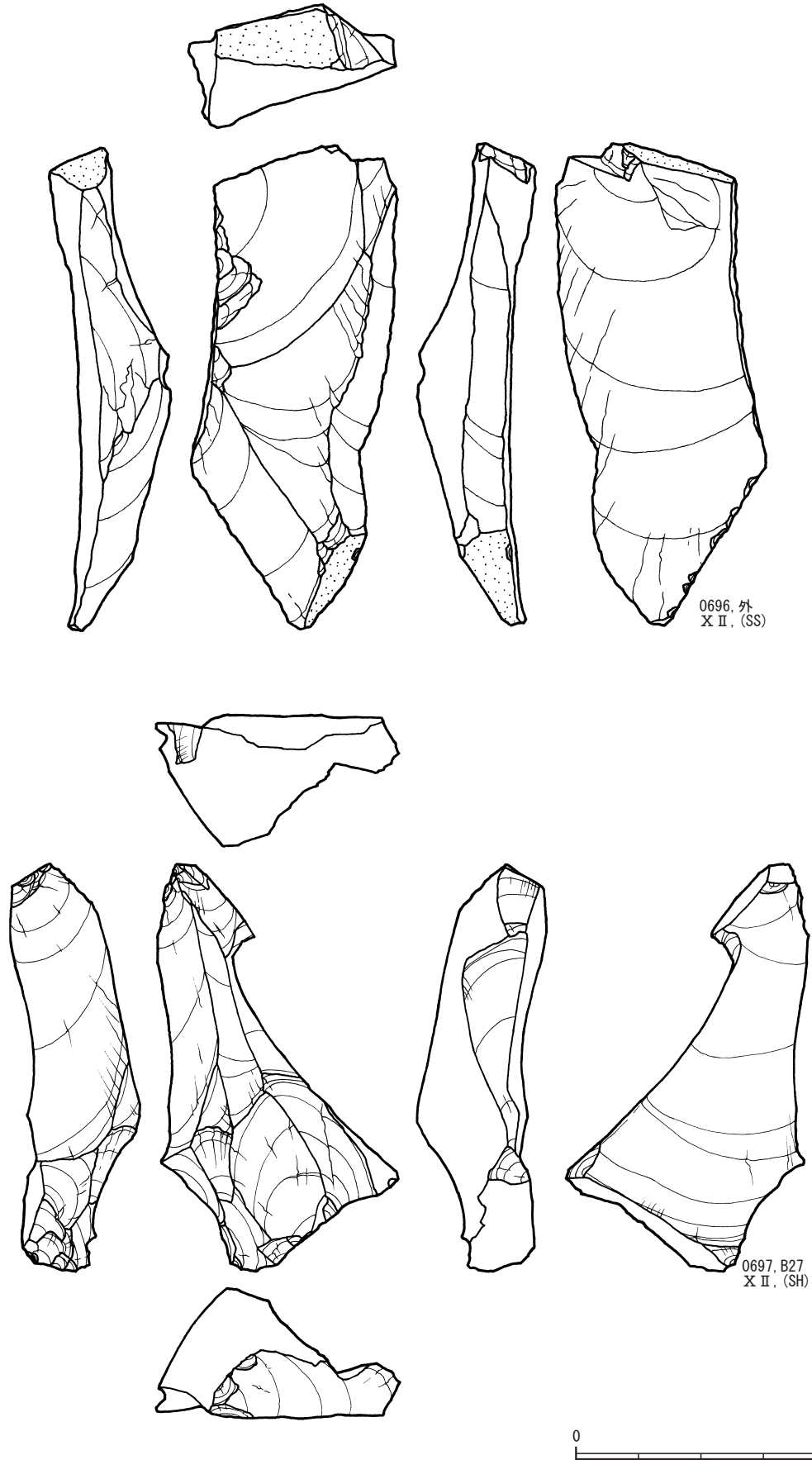
第172図 第三文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(1)



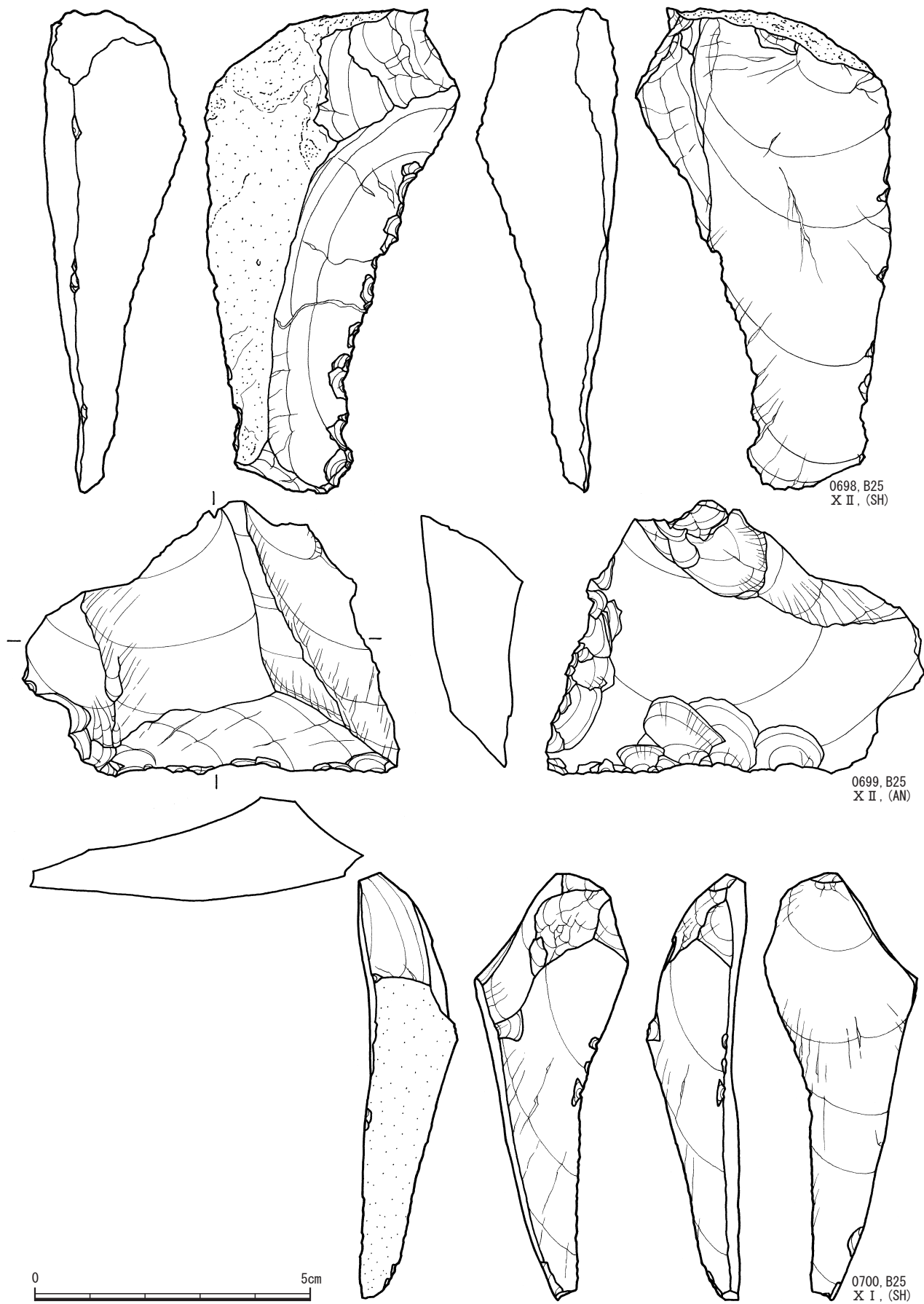
第173図 第三文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(2)



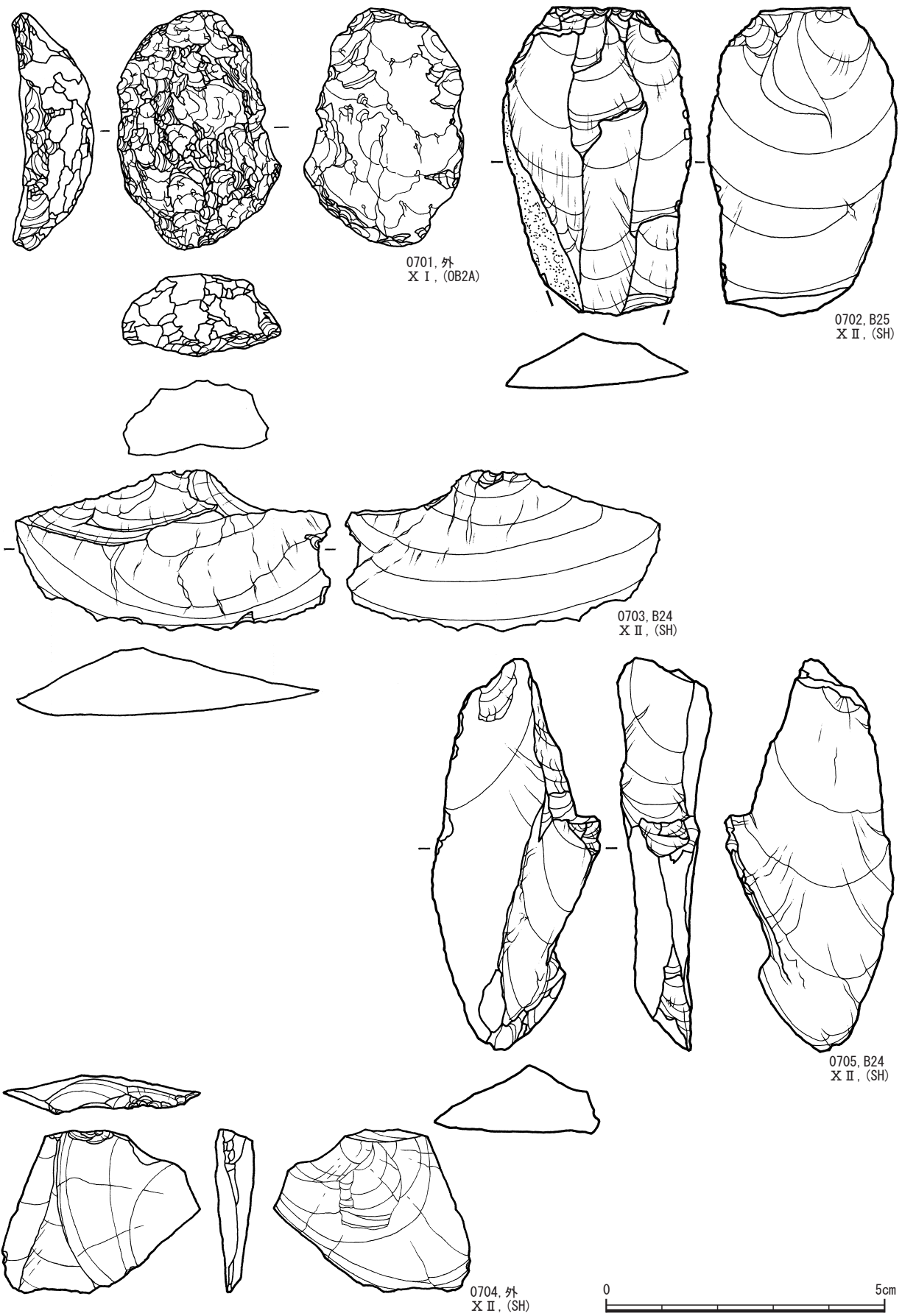
第174図 第三文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(3)



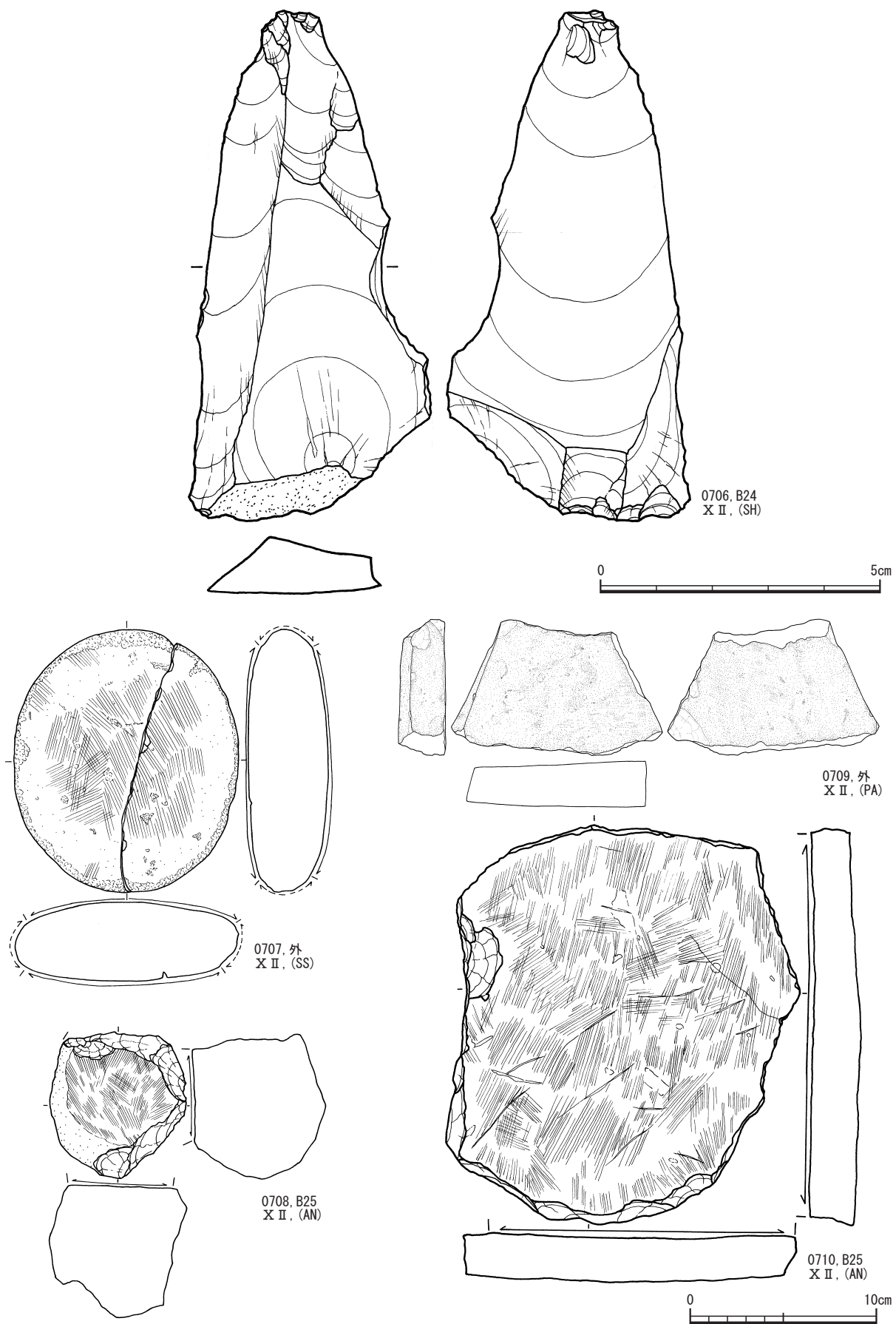
第175図 第三文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(4)



第176図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(5)



第177図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(6)



第178図 第三文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(7)

素材剥片から、剥片剥離で打点移動が頻繁に行われたことが観察される。

使用石材により剥片の形状が、0656, 0660, 0661, 0662は部分加工, 0669, 0671, 0672, 0674は基部加工, 0665～0668, 0670は二側縁加工, 0664は一側縁加工ナイフ形石器と区分できる。なお、0663は先端部が欠落した後、再加工した可能性がある。

0699のスクレイパーは削器, 0701は搔器と判断している。

石皿の出土が注目される。0710は扁平な安山岩を用い、その全面に摩耗痕が明瞭に観察できる。0709も同様で、両面が明らかに摩耗する。0708は礫素材の平坦な一面に摩耗面が残るもので、石皿と判断できる。0266は扁平な円礫の両面が激しく摩耗し、その側縁には敲打痕が残され、磨石と敲打の両機能を持つと見られる。

剥片類では、安定した大型の縦長剥片や折断剥片が見られる。

第16エリアでは、まず、ナイフ形石器が多数存在する特徴がある。石器剥離面や採取した剥片の観察から、大小の縦長剥片、横長剥片、不定形剥片等が見られ多彩な剥片剥離技術を見ることができる。

ナイフ形石器の剥離面から素材剥片を復元すると、剥片の規格、使用石材は大略以下のように集約できる。小型縦長剥片は黒曜石、打点移動を持つ小型縦長剥片はギョクズイ、やや大型化する縦長剥片は頁岩を使用する傾向がある。

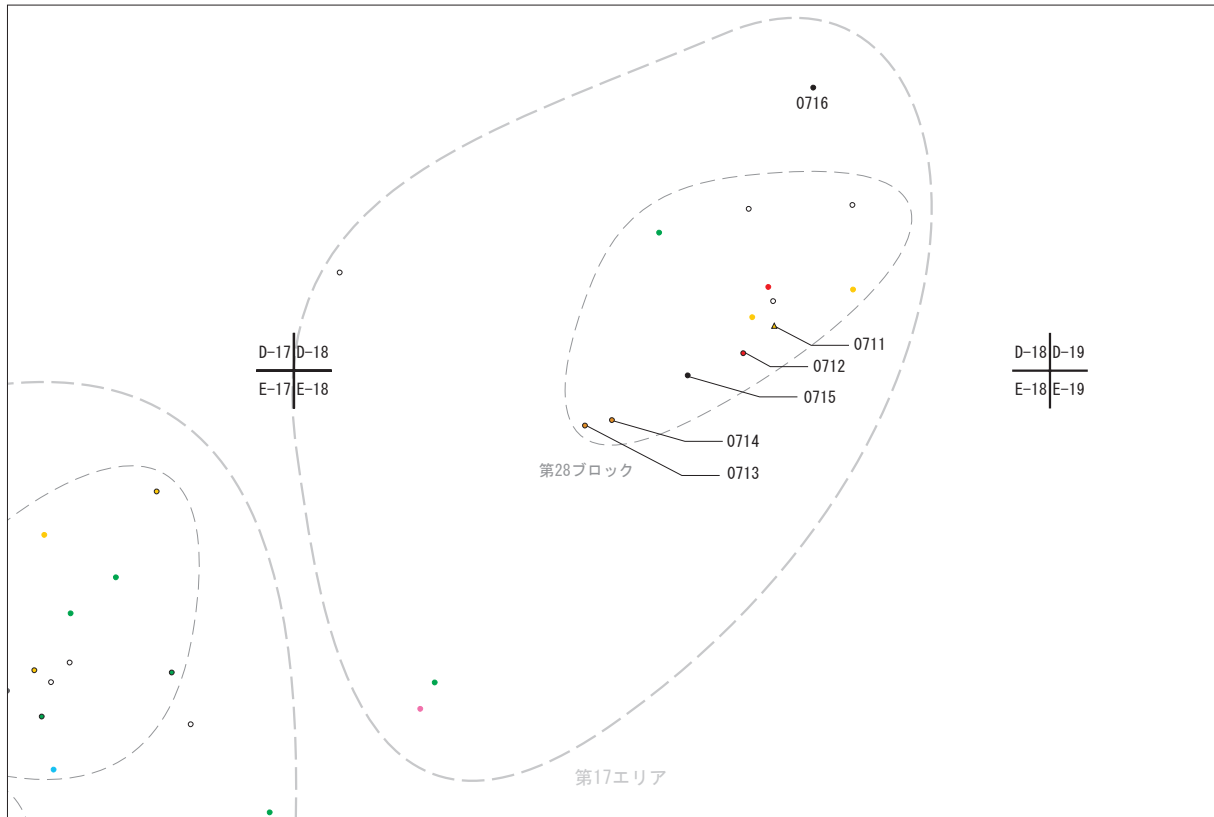
一方、石核は存在していない。さらに、石器製作に直接関わるプランティングチップやチップは極めて少ない。

これらのことから、ナイフ形石器がエリア内で製作された根拠は極めて薄いと言える。したがって、ナイフ形石器は完成品として持ち込まれた可能性が高く、ナイフ形石器同様運び込まれた縦長剥片への二次加工は行われなかった可能性が高い。

また、石皿の存在も気になるところである。

第49表 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器観察表(1)

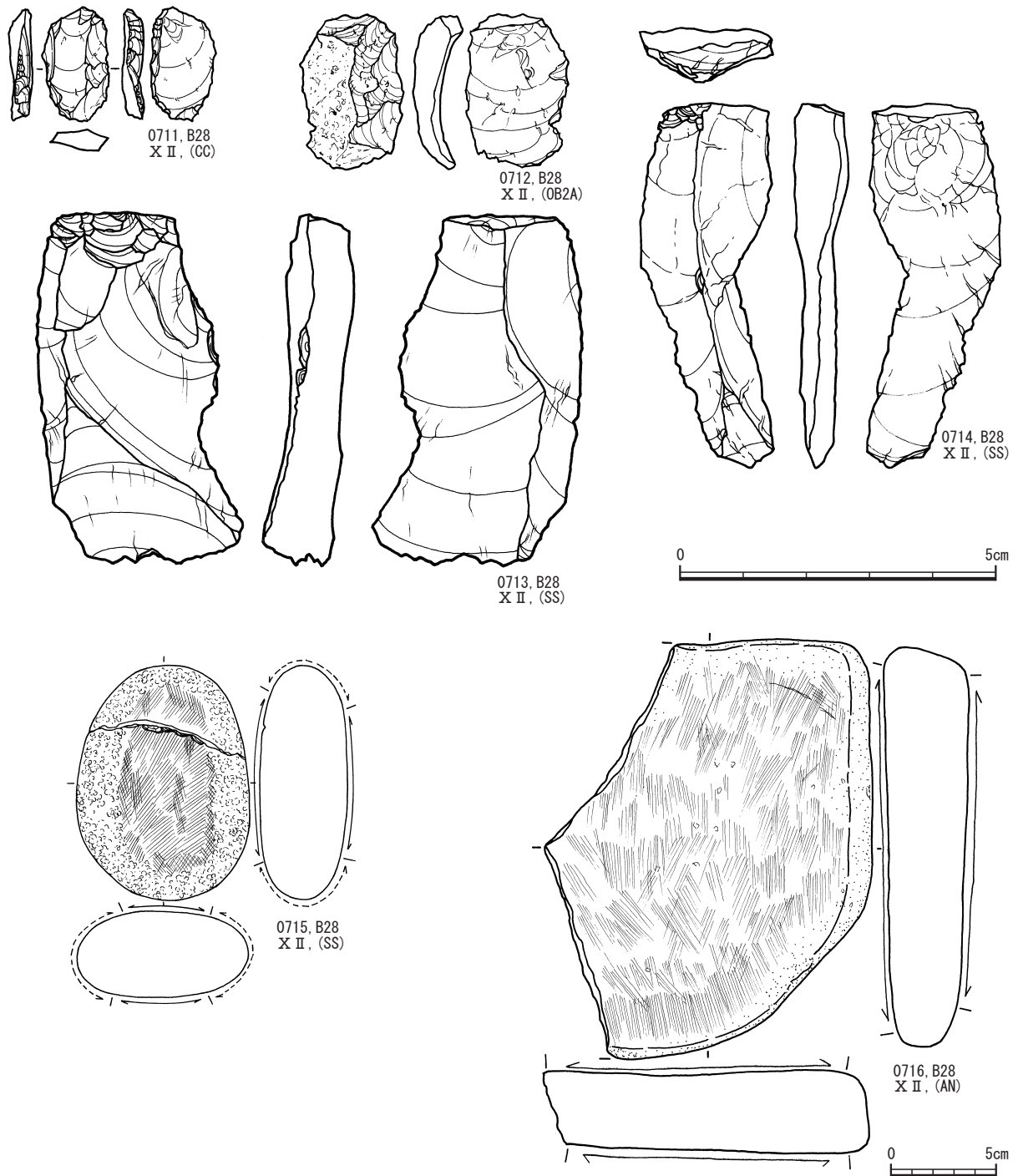
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	フロッグ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
172	0654	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U9	A16	B26	CC	-	(14.3)	(6.0)	(2.4)	(0.17)	8874	X II	E-17	-
	0655	剥片	細石刃	-	Ⅲ	U9	A16	B26	SH	-	(18.1)	(8.0)	(2.6)	(0.37)	8885	X II	E-17	-
	0656	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B24	OB2	A	(20.4)	(8.4)	(6.2)	(0.73)	15266	X II	F-16	-
	0657	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B24	OB2	C	22.7	13.3	7.9	1.43	15433	X II	F-16	-
	0658	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	CC	-	21.0	9.4	3.5	0.58	16406	X II	F-17	-
	0659	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B26	OB2	A	(8.5)	(9.2)	(4.1)	(0.18)	8872	X II	E-17	-
	0660	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B26	OB1	-	25.0	12.8	5.4	1.14	8864	X II	E-17	-
	0661	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	CC	-	(23.2)	(10.9)	(5.1)	(0.96)	16423	X II	F-17	-
	0662	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B24	SH	-	25.9	12.6	4.5	1.02	15270	X II	F-16	-
	0663	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	(20.1)	(14.8)	(5.0)	(1.16)	15457	X II	F-17	-
	0664	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B26	CC	-	26.3	11.4	6.8	1.12	8834	X II	E-17	-
	0665	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	外	SH	-	30.1	11.8	5.2	2.18	15394	X II	F-15	-
	0666	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	34.8	16.3	5.6	3.05	15278	X I	F-17	-
	0667	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B26	SH	-	30.7	13.8	4.8	1.61	8879	X II	E-17	-
	0668	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	外	OB2	A	26.3	10.7	10.0	2.30	16395	X II	F-17	-
	0669	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B24	SH	-	(25.6)	(12.1)	(8.1)	(2.58)	15670	X II	F-16	-
	0670	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SS	-	34.7	13.9	6.1	2.87	15467	X II	F-17	-
	0671	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	(21.6)	(18.0)	(7.0)	(2.23)	15518	X I	F-17	-
	0672	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	(29.8)	(18.7)	(7.0)	(3.15)	16427	X II	F-17	-
	0673	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	CH	-	27.7	17.5	5.5	2.74	15702	X II	F-17	-
0674	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	53.9	13.9	9.0	4.52	16424	X II	F-17	-	
173	0675	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A16	B25	OB2	A	15.6	13.8	7.1	1.01	15197	X I	F-17	-
	0676	石器	錐状石器	-	Ⅲ	U9	A16	外	CC	-	24.4	10.0	7.0	1.23	15142	X II	E-17	-
	0677	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U9	A16	B27	CC	-	(17.1)	(14.3)	(4.0)	(0.79)	8822	X II	E-17	-
	0678	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	(29.2)	(13.9)	(7.5)	(1.94)	15478	X II	F-17	-
	0679	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U9	A16	B26	CC	-	(29.7)	(14.9)	(7.1)	(1.61)	8836	X II	E-17	-
	0680	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	U9	A16	B27	SH	-	(36.8)	(15.0)	(7.2)	(3.07)	8831	X II	E-17	-
	0681	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A16	B26	SH	-	29.8	17.2	9.5	3.54	8899	X II	F-17	-
	0682	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A16	外	CC	-	28.8	17.9	7.0	2.45	15717	X II	E-16	-
	0683	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A16	B25	SH	-	34.0	15.8	7.0	2.54	16401	X II	F-17	-
	0684	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U9	A16	外	SH	-	32.9	10.8	6.0	1.52	8848	X II	E-17	-



第179図 第三文化層第9ユニット第17エリア遺物出土状況図

第50表 第三文化層第9ユニット第16エリア出土石器観察表(2)

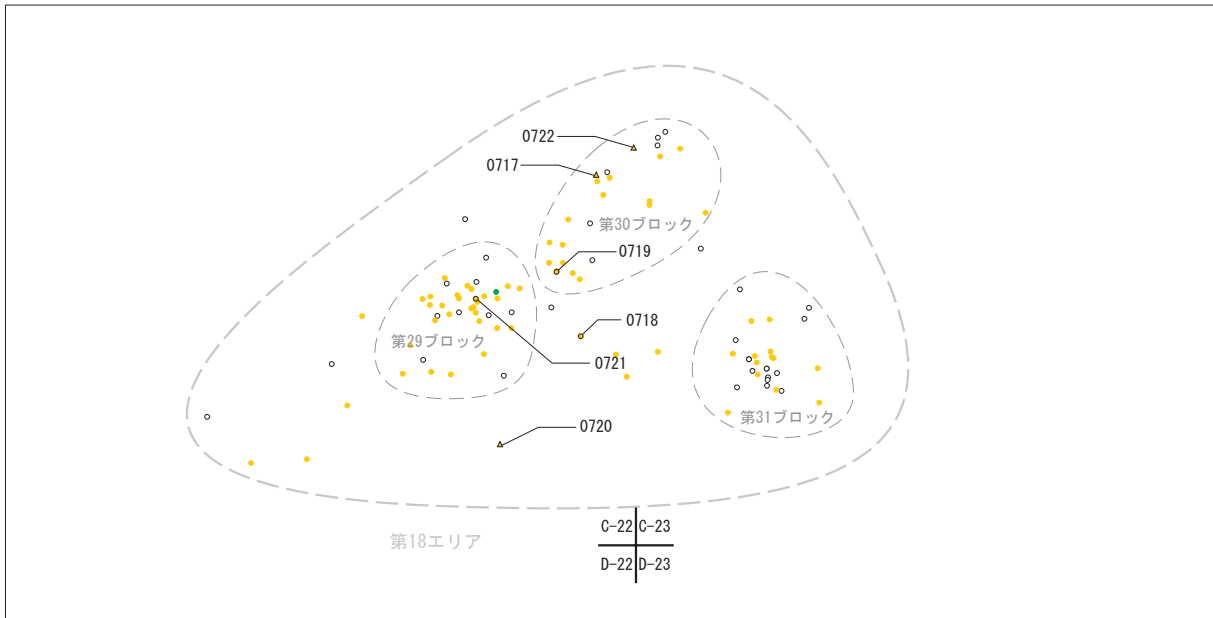
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
173	0685	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SS	-	49.7	23.1	11.2	9.04	15279	X II	F-17	-
	0686	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	CC	-	31.3	24.5	8.8	4.77	15713	X II	F-17	-
	0687	チップ	ブランティングチップ	-	III	U9	A16	B25	CH	-	22.2	28.1	6.2	1.77	15471	X II	F-17	-
	0688	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	CC	-	63.2	25.9	17.0	21.32	8856	X II	E-17	-
174	0689	チップ	ブランティングチップ	-	III	U9	A16	B25	CH	-	22.9	35.5	7.2	1.80	15455	X II	F-17	-
	0690	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	44.8	24.1	13.0	8.61	8855	X II	E-17	-
	0691	剥片	-	-	III	U9	A16	B27	SH	-	68.9	23.1	14.0	13.72	8829	X II	E-17	-
	0692	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	47.4	29.9	13.1	12.14	8858	X II	E-17	-
	0693	剥片	-	-	III	U9	A16	B27	CC	-	45.8	23.0	10.2	11.14	8804	X II	E-17	-
	0694	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U9	A16	B26	SH	-	32.7	25.7	10.9	5.30	8896	X II	E-17	-
	0695	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	61.5	34.5	21.0	38.47	8835	X II	E-17	-
175	0696	剥片	-	-	III	U9	A16	外	SS	-	77.5	33.3	19.5	30.73	15716	X II	E-16	-
	0697	剥片	-	-	III	U9	A16	B27	SH	-	65.3	38.8	21.0	24.83	8803	X II	E-17	-
176	0698	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	87.8	46.5	26.0	63.59	16422	X II	F-17	-
	0699	石器	スクレイパー	削器	III	U9	A16	B25	AN	-	50.1	68.5	24.2	57.16	15704	X II	F-17	-
	0700	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	77.3	28.1	18.0	21.82	15469	X I	F-17	-
177	0701	石器	スクレイパー	搔器	III	U9	A16	外	OB2	A	43.0	29.6	15.0	16.85	15204	X I	F-17	-
	0702	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	(55.6)	34.1	(9.6)	(20.25)	15448	X II	F-17	-
	0703	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SH	-	29.0	56.6	14.0	18.49	15258	X II	F-16	-
	0704	剥片	-	-	III	U9	A16	外	SH	-	29.4	35.8	7.2	5.25	15392	X II	F-15	-
	0705	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SH	-	70.3	30.5	17.0	14.41	15666	X II	F-16	-
178	0706	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SH	-	91.2	43.6	18.4	46.91	15265	X II	F-16	-
	0707	石器	磨石 / 敲石	-	III	U9	A16	外	SS	-	140.9	120.6	41.9	945.00	8811	X II	E-17	-
	0708	石器	石皿	-	III	U9	A16	B25	AN	-	(78.8)	(73.5)	(72.3)	(530.00)	15506	X II	F-17	-
	0709	石器	石皿	-	III	U9	A16	外	PA	-	72.6	113.4	25.1	311.53	16414	X II	F-17	-
	0710	石器	石皿	-	III	U9	A16	B25	AN	-	214.1	189.9	26.2	1,765.00	16403	X II	F-17	-



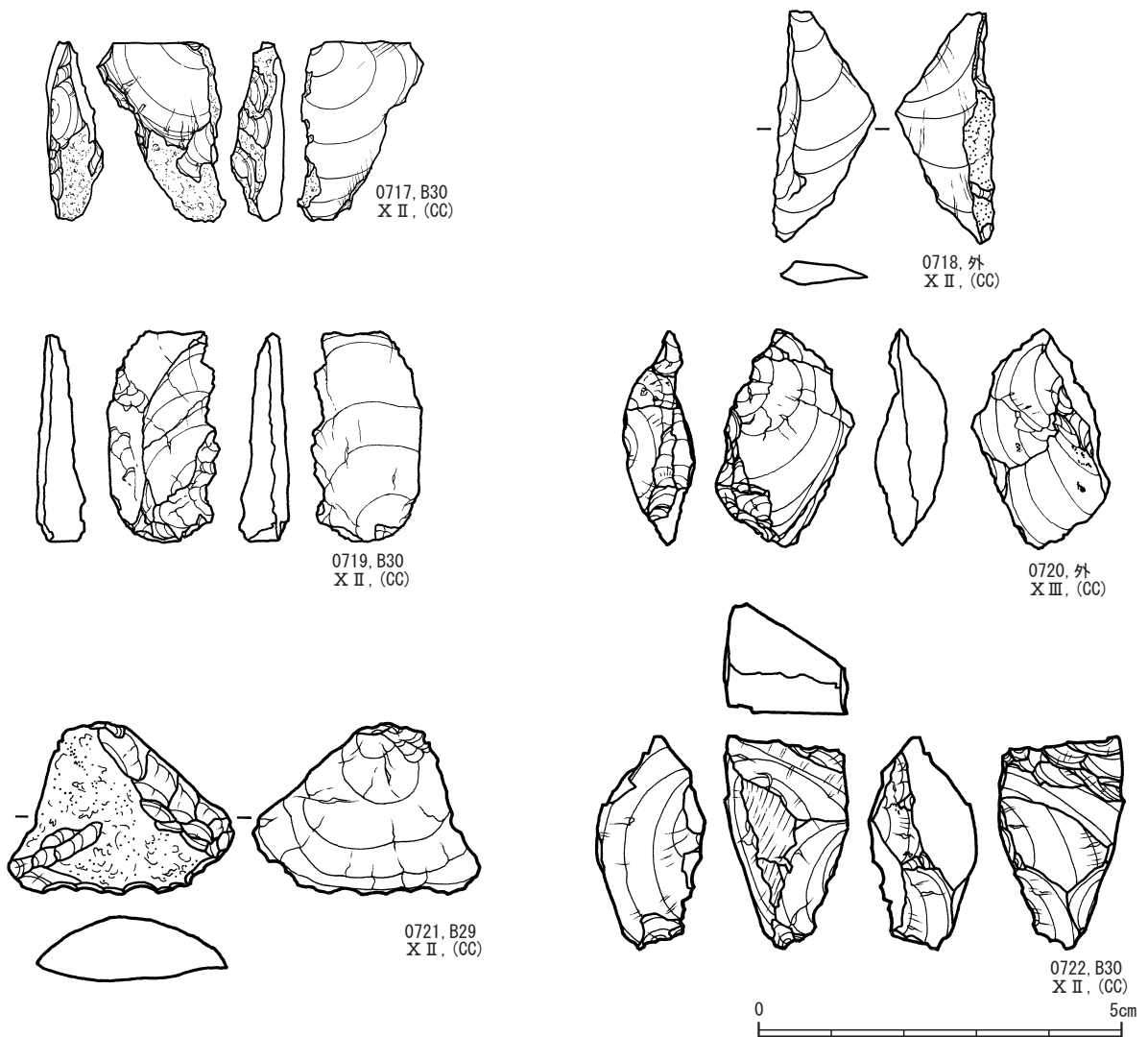
第180図 第三文化層第9ユニット第17エリア出土石器実測図

第51表 第三文化層第9ユニット第17エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
180	0711	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A17	B28	CC	-	18.2	10.8	4.0	0.69	8781	X II	D-18	-
	0712	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A17	B28	OB2	A	24.7	16.6	8.0	2.31	8783	X II	D-18	-
	0713	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A17	B28	SS	-	55.7	32.9	14.0	15.07	8787	X II	E-18	-
	0714	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A17	B28	SS	-	57.8	21.4	9.0	5.89	8786	X II	E-18	-
	0715	石器	磨石 / 敲石	-	Ⅲ	U9	A17	B28	SS	-	111.6	82.4	40.9	520.00	8784	X II	E-18	-
	0716	石器	石皿	-	Ⅲ	U9	A17	B28	AN	-	194.8	155.5	41.8	1,982.00	8773	X II	D-18	-



第181図 第三文化層第10ユニット第18エリア遺物出土状況図



第182図 第三文化層第10ユニット第18エリア出土石器実測図

第17エリア(第179図, 第180図)

D, E-18区にあり13点が確認され, 第28ブロックを持つ。砂岩, ギョクズイ, 黒耀石II-A類, 頁岩の石材が点在する。

ナイフ形石器1点(0711), 剥片3点と磨石1点(0715), 石皿1点(0716)を図示した。

0711は剥片の両側縁を刃潰ししたもので, 小型ナイフ形石器である。剥片からは縦長剥片指向が読みとれる。

磨石は扁平な円礫の両面を磨の作業面に, 側縁を敲打機能に用いている。石皿は, 扁平礫の両面が摩耗面として残されている。

剥片は2点とも砂岩を使用した, 縦長剥片である。

第18エリア(第181図, 第182図)

主体を占める石材はギョクズイである。

ナイフ形石器1点(0717)と剥片が確認できる。

ナイフ形石器は, 不定形剥片の両側縁に刃潰し加工を持つ台形状石器である。

出土している剥片も不定形剥片に属する。

ユニット外エリア外(第183~187図)

ナイフ形石器5点(0723, 0728, 0731, 0733, 0738), 三稜尖頭器2点(0724, 0730), 二次加工のある剥片8点(0726, 0727, 0732, 0734, 0739, 0746, 0748, 0759), スクレイパー2点(0743, 0744), ハンマーストーン1点(0757), 石核2点(0754, 0756), 錐状石器2点(0725, 0729)と剥片等が出土している。

ナイフ形石器は, 0728と0733以外は不定形剥片の一部を刃潰し加工している。0728は素材とした縦長剥片に刃潰し加工を加えたもので, 打瘤を除去し, 二側縁を背部としている。0733は大型剥片の形状を大きく変えることなく利用している。0731と0738は先端部を欠落し, 基部と背部が残されている。

0724の三稜尖頭器は, 最小の規格と判断している。0730は先端部を欠くが, 腹面も周辺から調整剥離が加えられる。

0725は錐状石器の先端部, 0729は先端部特に, 腹面と側縁の加工から判断した。

0743のスクレイパーは4面に鋭角な刃部を持ち, 搔器と判断できる。

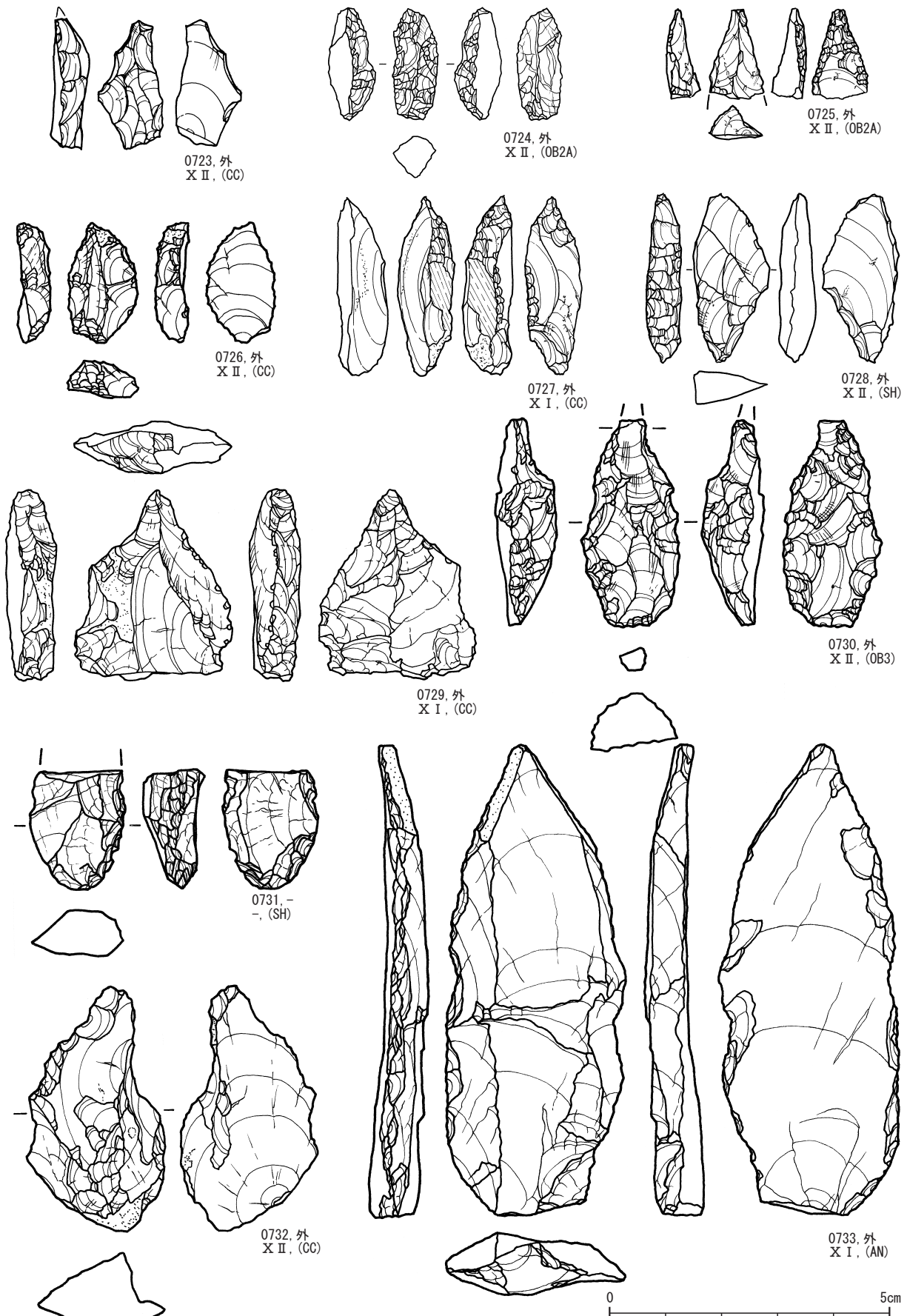
二次加工のある剥片の0727の右側縁と腹面には微細な調整剥離がみられ, 先端部を意識している。0732は稜上剥離と先端部に加工痕を持つ。0746と0748は側縁からと稜上からの剥離がみられ, 三稜尖頭器の製作初期関連資料の可能性はある。

0754の石核は, 交互剥離しながら打点移動を頻繁に行っている。

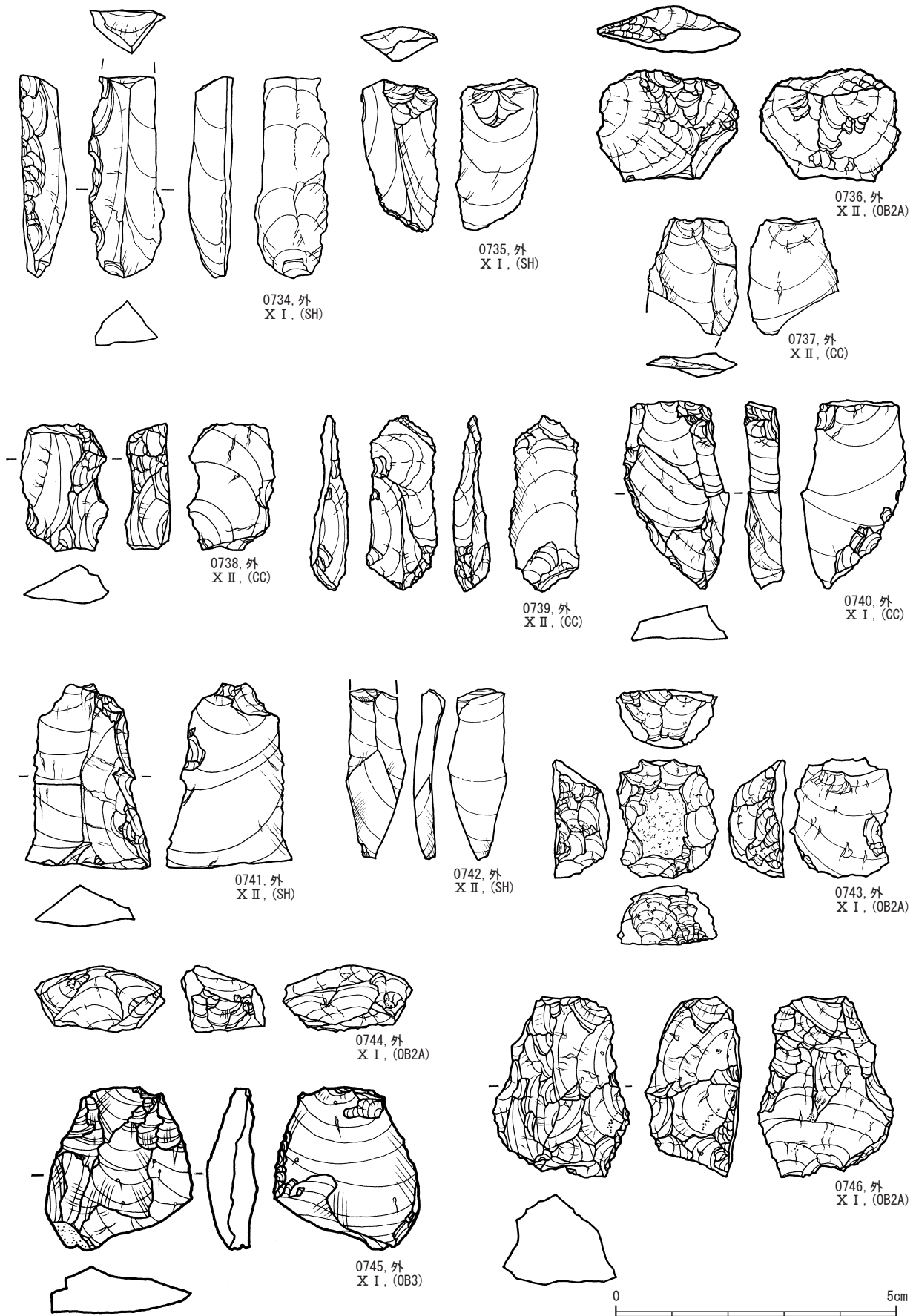
0757のハンマーストーンは握り心地の良い棒状で, 上下両端にハンマー特有の使用痕がみられる。

第52表 第Ⅲ文化層第10ユニット第18エリア出土石器観察表

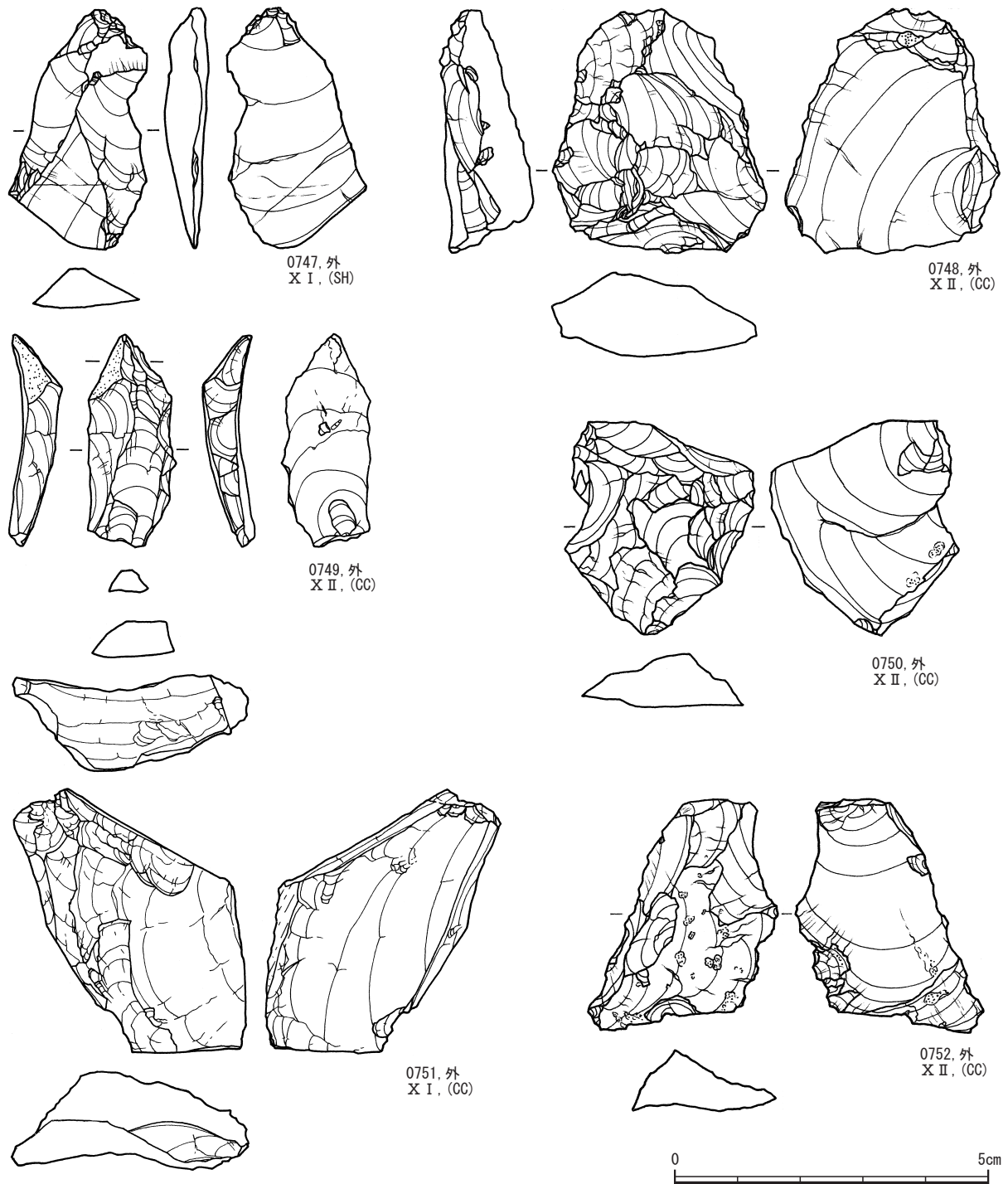
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
182	0717	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U10	A18	B30	CC	-	24.8	17.9	8.0	2.06	8618	X II	C-22	-
	0718	剥片	-	-	Ⅲ	U10	A18	外	CC	-	31.9	14.4	4.5	1.13	8631	X II	C-22	-
	0719	剥片	-	-	Ⅲ	U10	A18	B30	CC	-	29.2	15.8	7.0	2.26	8626	X II	C-22	-
	0720	剥片	-	-	Ⅲ	U10	A18	外	CC	-	29.9	19.3	10.0	3.10	8641	X III	C-22	-
	0721	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	U10	A18	B29	CC	-	24.0	31.3	10.2	5.47	8655	X II	C-22	-
	0722	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	U10	A18	B30	CC	-	29.5	17.4	15.0	6.21	8610	X II	C-22	-



第183図 第三文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(1)



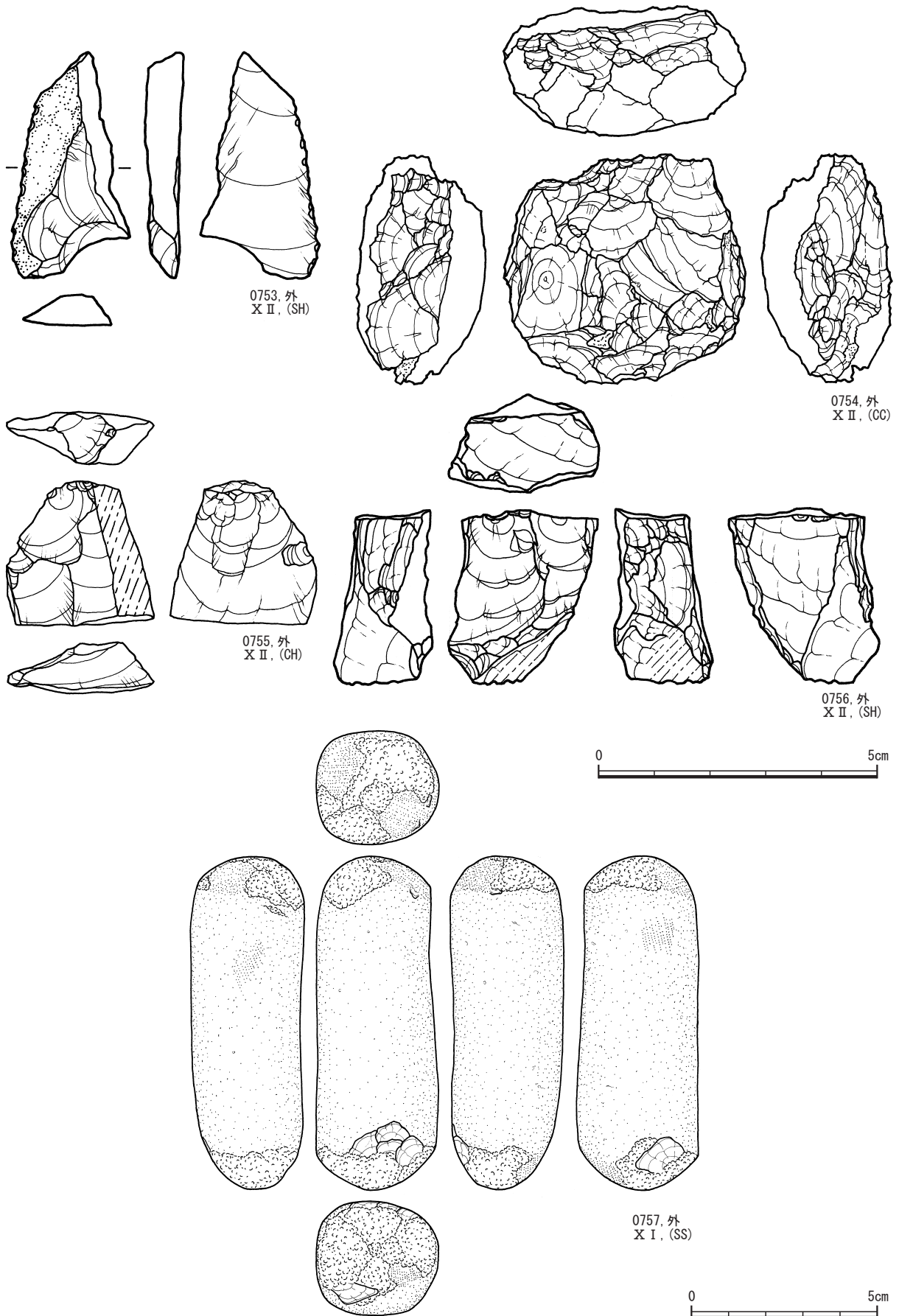
第184図 第三文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(2)



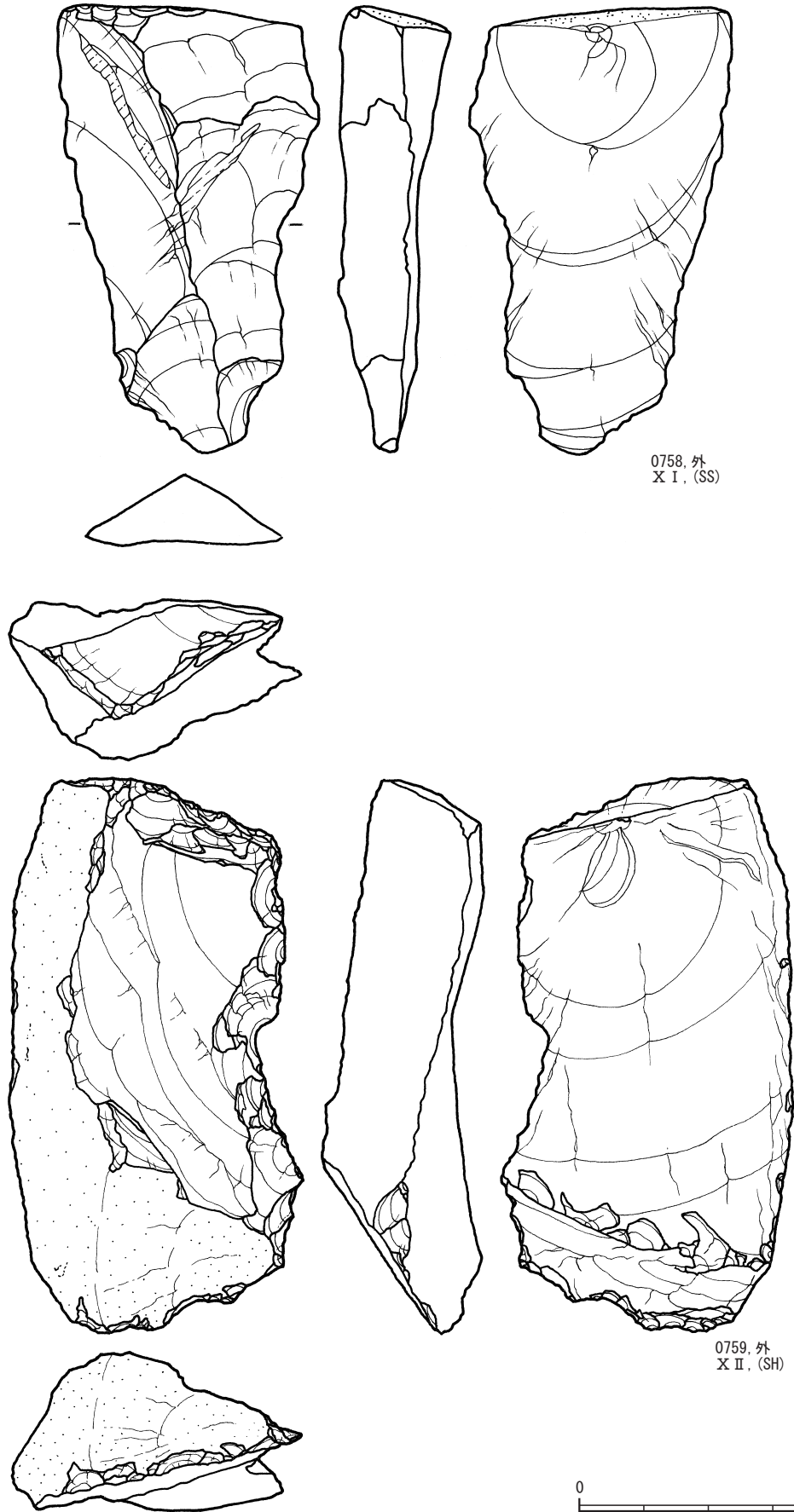
第185図 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(3)

第53表 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表(1)

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
183	0723	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	(23.0)	(11.7)	(7.0)	(1.49)	6498	XⅡ	D-8	-
	0724	石器	三稜尖頭器	-	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	20	8.1	8.5	1.09	13887	XⅡ	G-14	-
	0725	石器	錐状石器	-	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	(16.1)	(9.9)	(6.0)	(0.56)	14571	XⅡ	G-14	-
	0726	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	21.7	12.8	6.2	1.28	23314	XⅡ	D-7	-
	0727	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	32.1	10.4	9.0	2.48	23208	XⅠ	C-4	-
	0728	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	30.1	13.9	6.5	2.60	23522	XⅡ	C-6	-



第186図 第三文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(4)



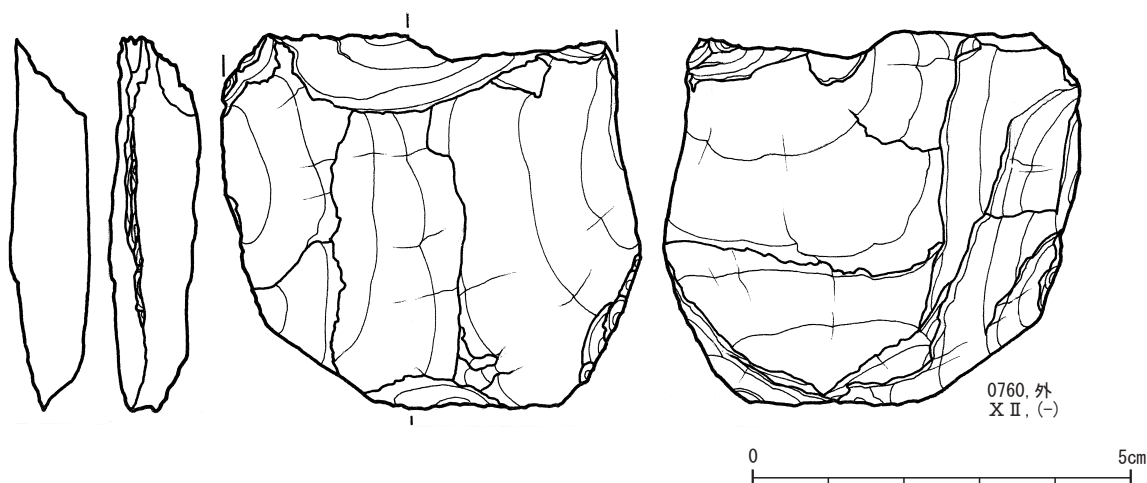
第187図 第三文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(5)

第54表 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表(2)

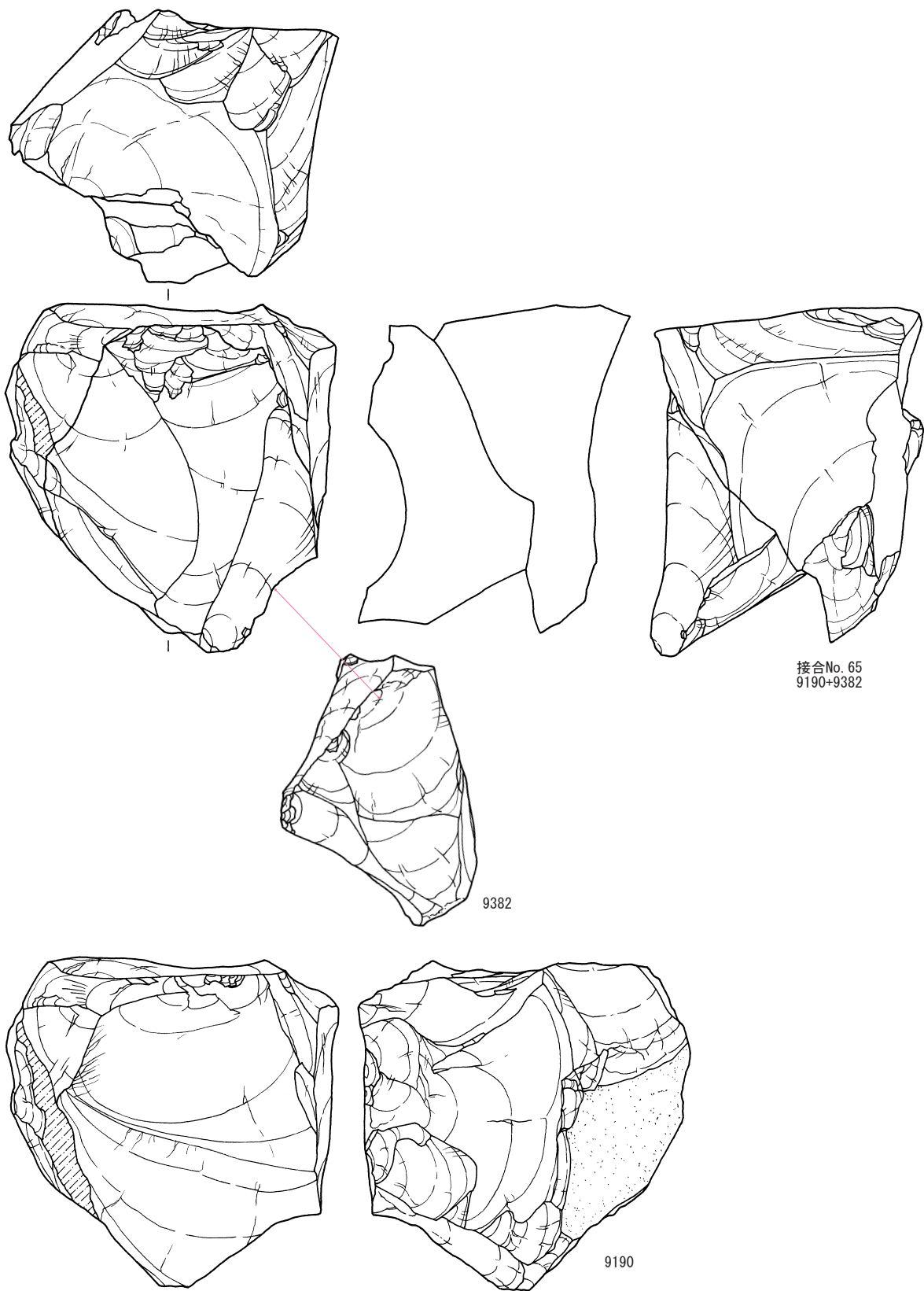
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
183	0729	石器	錐状石器	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	34.0	28.4	9.0	6.88	6029	X I	A-10	-
	0730	石器	三稜尖頭器	-	Ⅲ	外	外	外	OB3	-	(37.3)	17.9	(11.0)	(5.67)	15661	X II	F-3	-
	0731	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	-	-	-	SH	-	(21.5)	(17.4)	(10.7)	(4.10)	一括	-	-	-
	0732	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	43.9	25.0	13.8	11.44	6217	X II	B-8	-
	0733	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	外	外	外	AN	-	84.1	32.5	11.0	28.32	23613	X I	B-7	-
184	0734	石器	二次加工痕のある剥片	スクレイパー	Ⅲ	外	外	外	SH	-	(36.0)	(13.7)	(9.0)	(3.57)	6296	X I	B-8	-
	0735	剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	27.4	14.1	6.5	1.67	23591	X I	B-7	-
	0736	剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	20.3	25.6	8.5	3.48	23298	X II	E-6	-
	0737	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	(21.1)	(16.2)	(4.3)	(0.99)	9493	X II	F-12	-
	0738	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	22.9	15.8	8.5	2.80	6496	X II	D-8	-
	0739	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	31.1	13.0	7.0	1.67	23213	X II	D-4	-
	0740	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	33.7	19.0	7.3	4.43	5801	X I	B-12	-
	0741	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	33.0	22.5	9.7	6.22	6026	X II	C-11	-
	0742	剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	(30.2)	(10.9)	(5.5)	(1.00)	15860	X II	H-14	-
	0743	石器	スクレイパー	搔器	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	21.4	18.1	10.5	4.03	23524	X I	C-6	-
	0744	石器	スクレイパー	-	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	11.9	23.4	15.0	3.12	23705	X I	B-7	-
	0745	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	OB3	-	29.4	26.5	9.0	5.61	6127	X I	C-10	-
	0746	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	32.4	24.6	17.0	10.80	6160	X I	B-9	-
	185	0747	剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	38.3	22.2	7.0	4.28	6054	X I	B-10
0748		石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	39.0	34.3	15.0	14.97	6030	X II	A-10	-
0749		剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	33.9	14.4	8.7	2.69	6036	X II	B-14	-
0750		剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	34.1	30.4	8.8	7.91	5924	X II	B-9	-
0751		剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	42.2	37.2	15.5	16.38	6043	X I	B-10	-
0752		剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	36.9	30.5	10.0	8.83	6430	X II	C-8	-
186	0753	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	40.7	21.6	7.0	4.00	23286	X II	C-4	-
	0754	石核	-	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	41.4	43.5	23.5	42.78	23261	X II	E-6	-
	0755	剥片	折断剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CH	-	26.1	26.7	9.5	6.39	23311	X II	D-7	-
	0756	石核	-	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	31.5	27.1	18.0	13.94	6001	X II	B-11	-
	0757	石器	ハンマー	-	Ⅲ	外	外	外	SS	-	89.8	33.4	31.5	153.79	15590	X I	H-2	-
187	0758	剥片	-	-	Ⅲ	外	外	外	SS	-	69.6	40.8	17.2	33.22	6037	X I	B-10	-
	0759	石器	二次加工痕のある剥片	スクレイパー	Ⅲ	外	外	外	SH	-	86.2	45.8	25.5	86.64	23496	X II	C-7	-

第55表 第Ⅲ文化層出土位置不明石器観察表

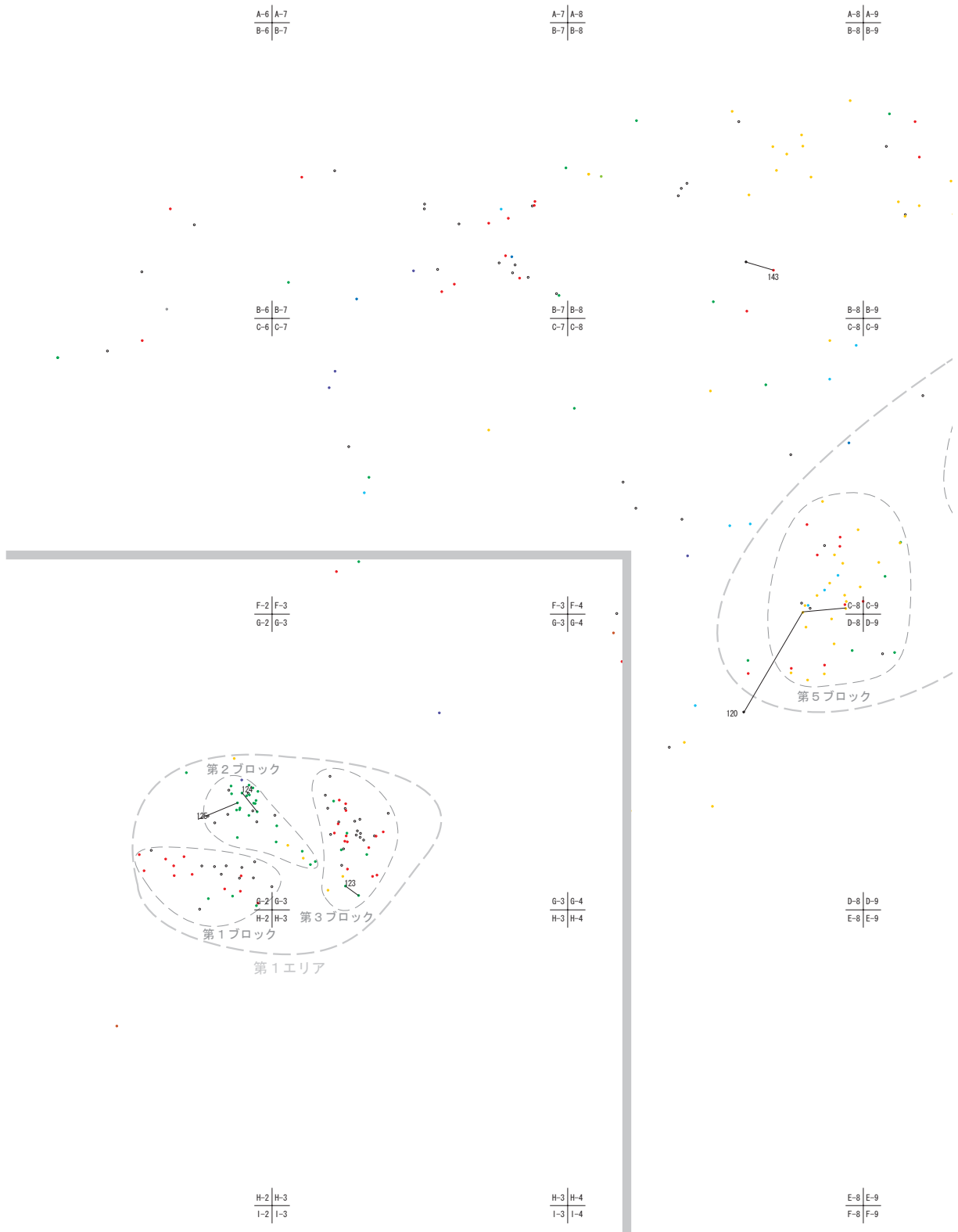
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
-	0760	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	-	-	49.8	55.5	12.0	-	17330	X II	F-10	-



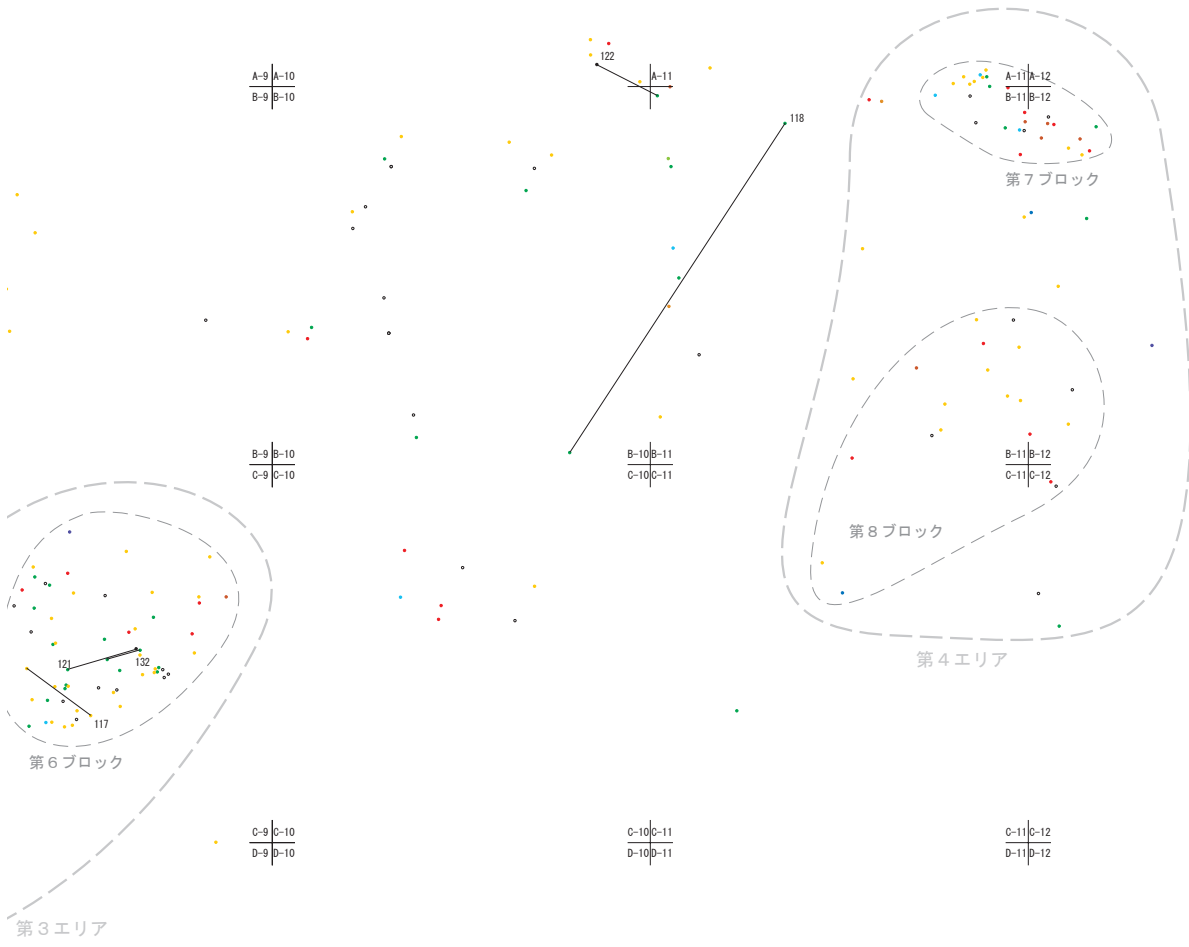
第188図 第Ⅲ文化層出土位置不明石器実測図

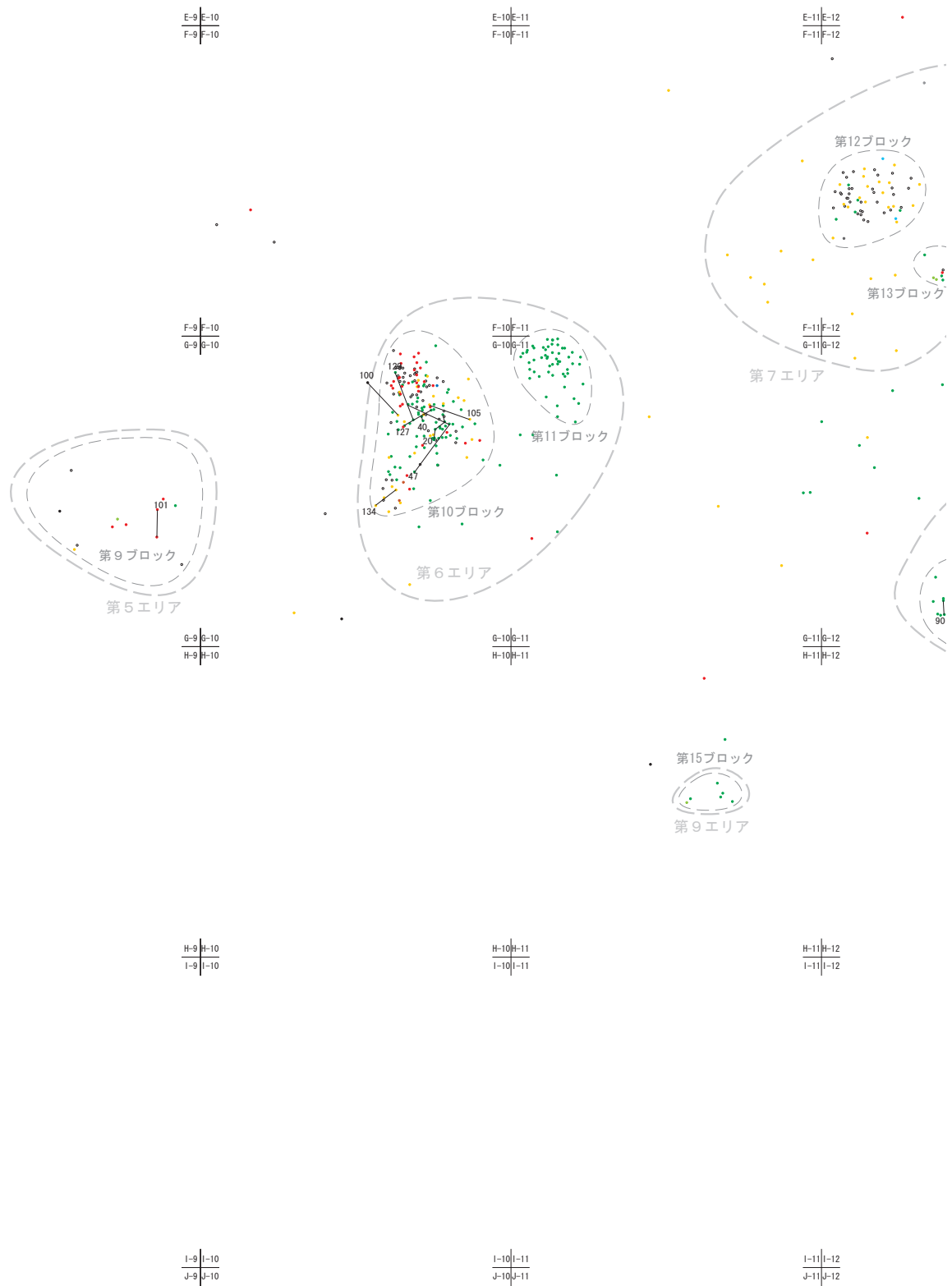


第189图 第三文化層接合遺物実測図(1)

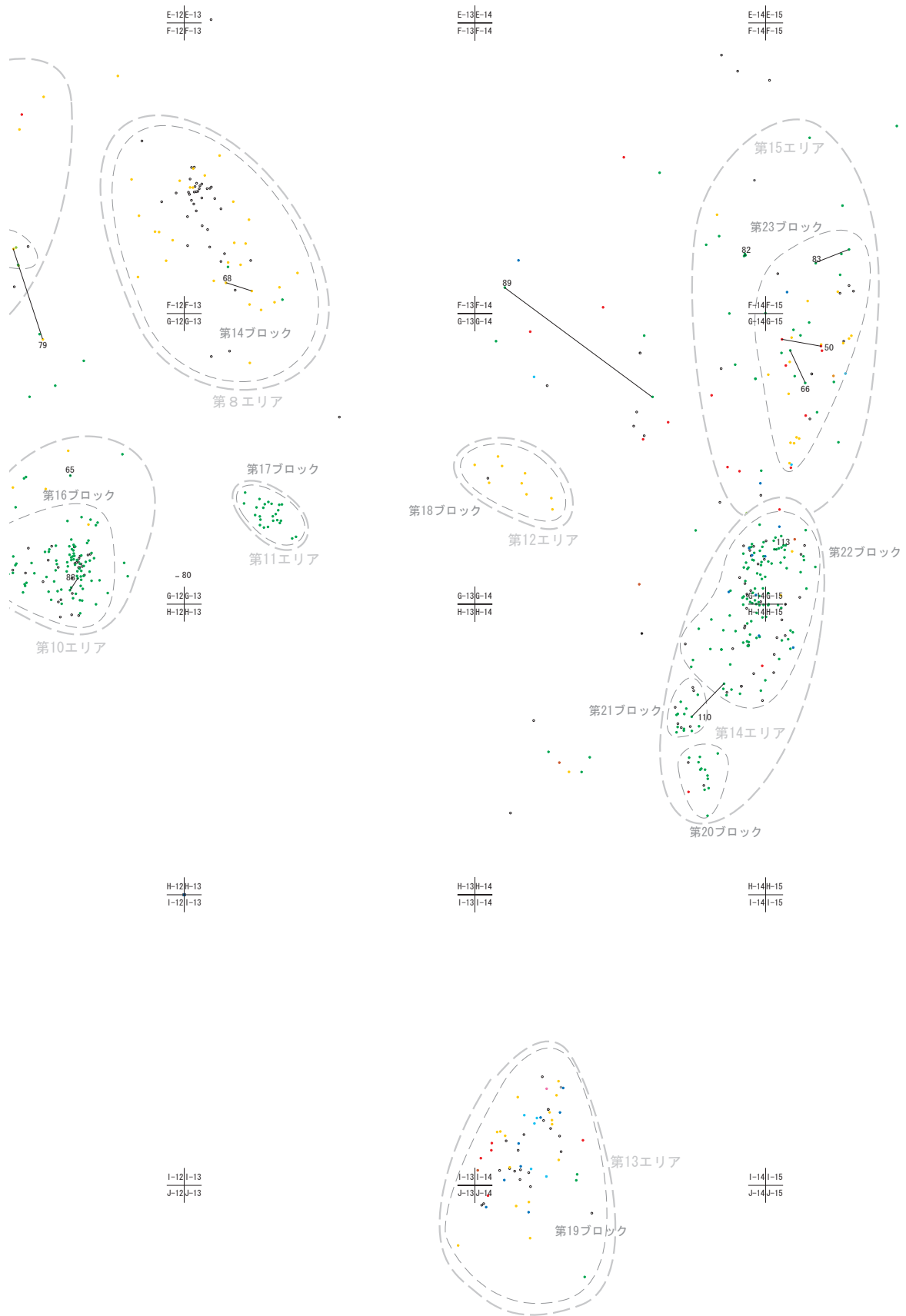


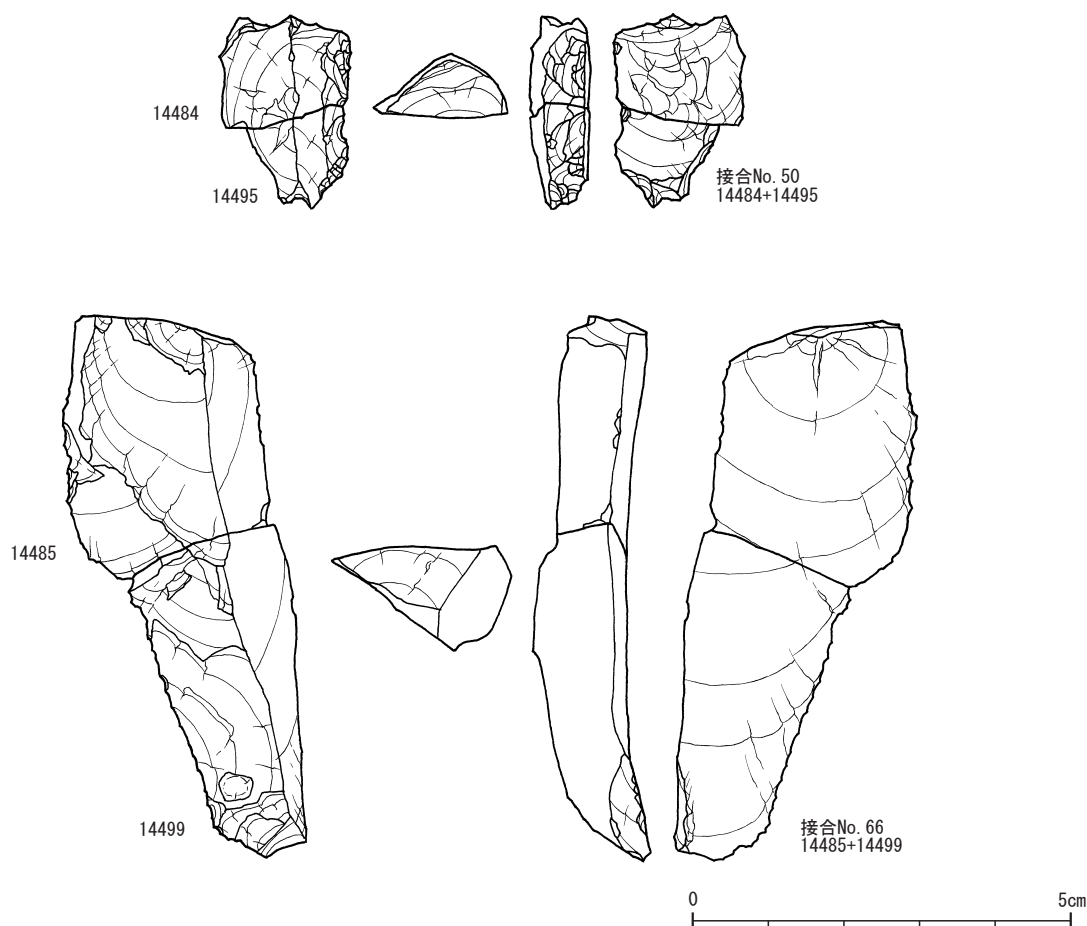
第190図 第Ⅲ文化層石器接合状況図(1)





第191図 第Ⅲ文化層石器接合状況図(2)





第192図 第三文化層接合遺物実測図(2)

接合資料(第190, 191図)

第三文化層の出土遺物について接合作業を行った。ここでは、このうち実測作業の進行した分を記載した。接合遺物の接合位置については第190, 191図を参照されたい。

接合No. 65

頁岩[第10エリアブロック外]

2点の接合で、石核(9190, 第151図0558)と石核9382の接合である。

石核9190の打面は、単剥離打面で9382は剥片を目的として加撃された可能性が高いが、鋭角に加撃されたことによりヒンジクラフチャーを生じ、下方が分厚く剥ぎ出される結果となっている。9382が分厚く取り出されたことにより、右側縁下位を打面に3回以上の剥片剥離を行っている。

なお、9190の石核は、打面転移の痕跡を残している。

接合No. 50

黒曜石Ⅱ-A類[第15エリア第23ブロック]

2点の接合で、二次加工のある剥片(14484)と(14495)の接合である。

腹面方向からの入力により、分割している。

接合No. 66

頁岩[第15エリア第23ブロック]

2点の接合で、剥片(14485)と剥片(14499)の接合である。

縦長剥片が分割したもので、折断剥片の可能性が高い。背面にパンチ痕とみられる痕跡を確認できる。

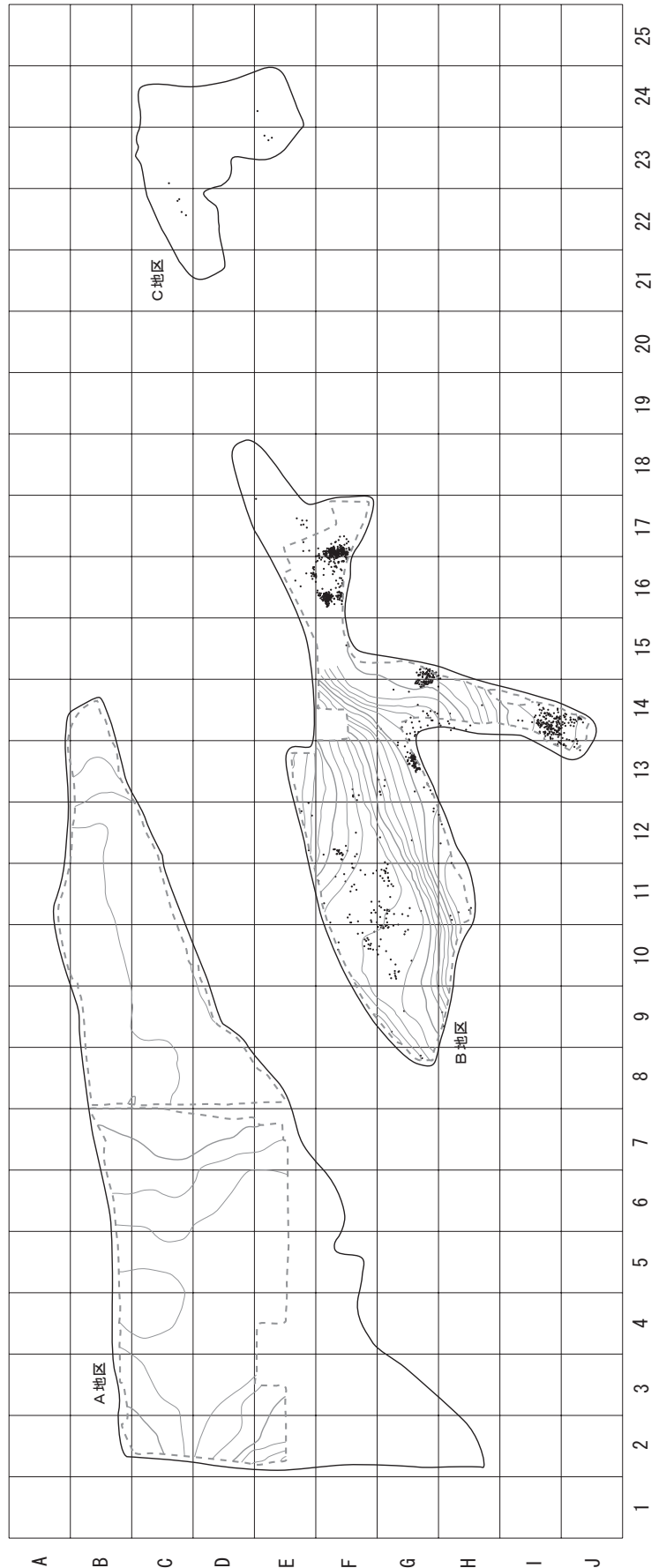
第4節 第IV文化層の調査

1 調査の方法と概要

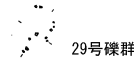
第IV文化層では発掘調査でXI層から出土した遺構や遺物を中心に扱った。ただし、A地区においてはD-4区で小規模な礫群1基を検出したものの、XI層単独で有意な遺物集中がみられなかった。そのため、XI層出土遺物については第III文化層において取り扱った。個々の遺物については、第III文化層の観察表の層位を参照されたい。

一方、B地区においてはいくつかの遺物集中が認識される。しかし、第II文化層及び第III文化層で積極的に利用されたF、G-9、10、11、12区の階段状の平坦面には大きな遺物集中がみられず、より下位の平坦面を利用する傾向が強いことが読みとれる。

第IV文化層は検出位置が分散しており、ユニット構成を判断できないことから、それぞれで単体のブロック認定とエリア設定を行った。



第193図 第IV文化層ユニット配置図及び遺構位置図

$\frac{C-3}{D-3} \mid \frac{C-4}{D-4}$ $\frac{C-4}{D-4} \mid \frac{C-5}{D-5}$ $\frac{C-5}{D-5} \mid \frac{C-6}{D-6}$ 

29号礫群

 $\frac{D-3}{E-3} \mid \frac{D-4}{E-4}$ $\frac{D-4}{E-4} \mid \frac{D-5}{E-5}$ $\frac{D-5}{E-5} \mid \frac{D-6}{E-6}$

第194図 第IV文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)

2 遺構

第IV文化層ではA地区に1基、B地区に5基、合計6基の礫群を検出した。遺構のほとんどは地区内南側のかなり下った部分に分布する。

26号礫群(第195図)

G-15区で検出した。砂岩を使用し、小型の礫が多い。一部の礫に被熱による黒変がみられる。
(礫群I類)

27号礫群(第195図)

H-14区で検出した。安山岩を使用し、頁岩がわずかに混ざる。中型と小型の礫が多い。一部の礫は被熱により赤化がみられる。わずかに南側に傾斜して礫が残る。
(礫群III類)

28号礫群(第195図)

I-14区で検出した。安山岩を使用し、中型から小型の礫が多い。礫形状は角礫、扁平礫である。
(礫群III類)

29号礫群(第195図)

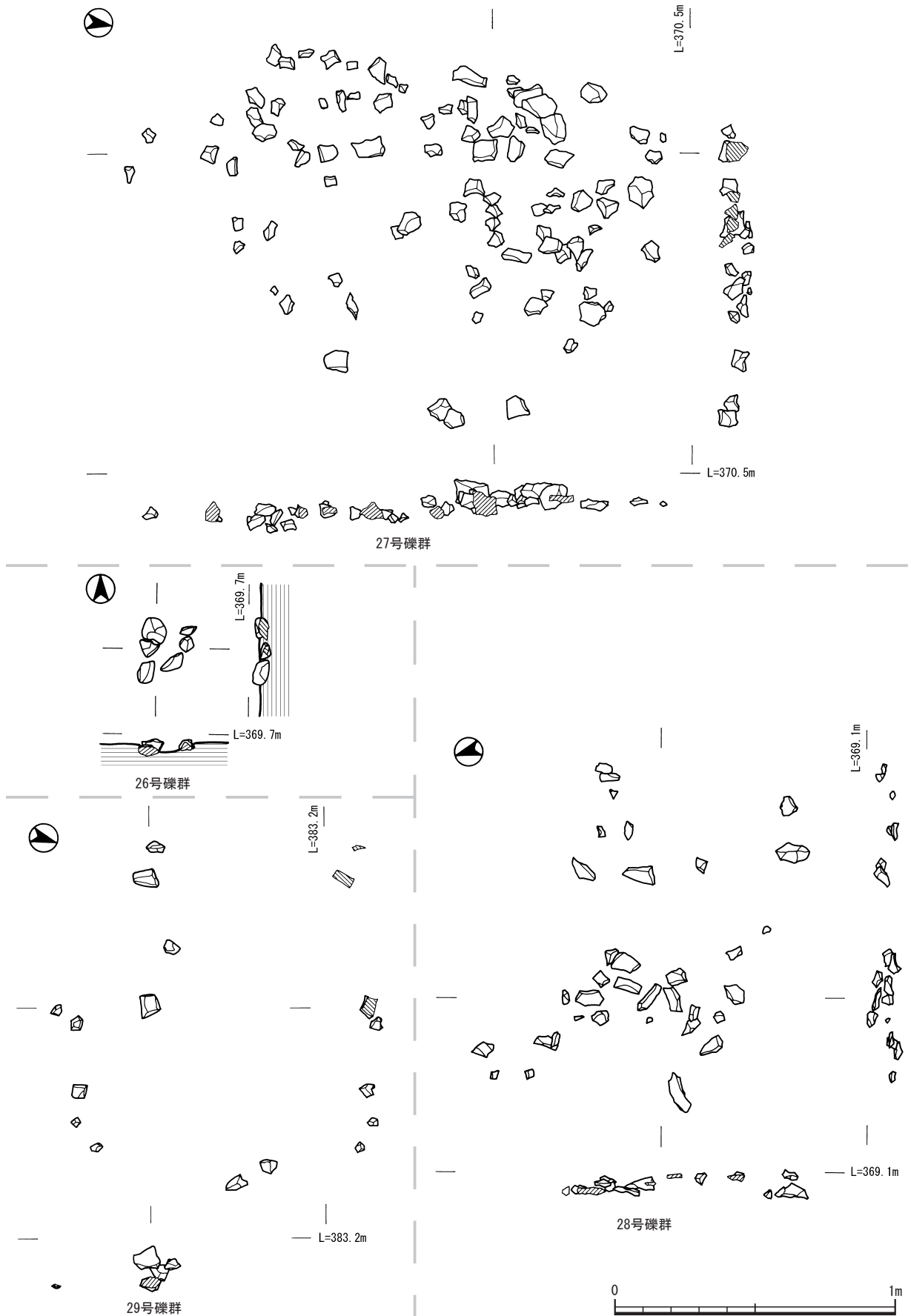
D-4区で検出した。安山岩を使用し、小型の礫が多い。礫は被熱により赤化がみられ、熱破碎した小礫もみられる。周辺にチップが数点みられたがブロック等は検出されていない。
(III類礫群)

30号礫群(第197図)

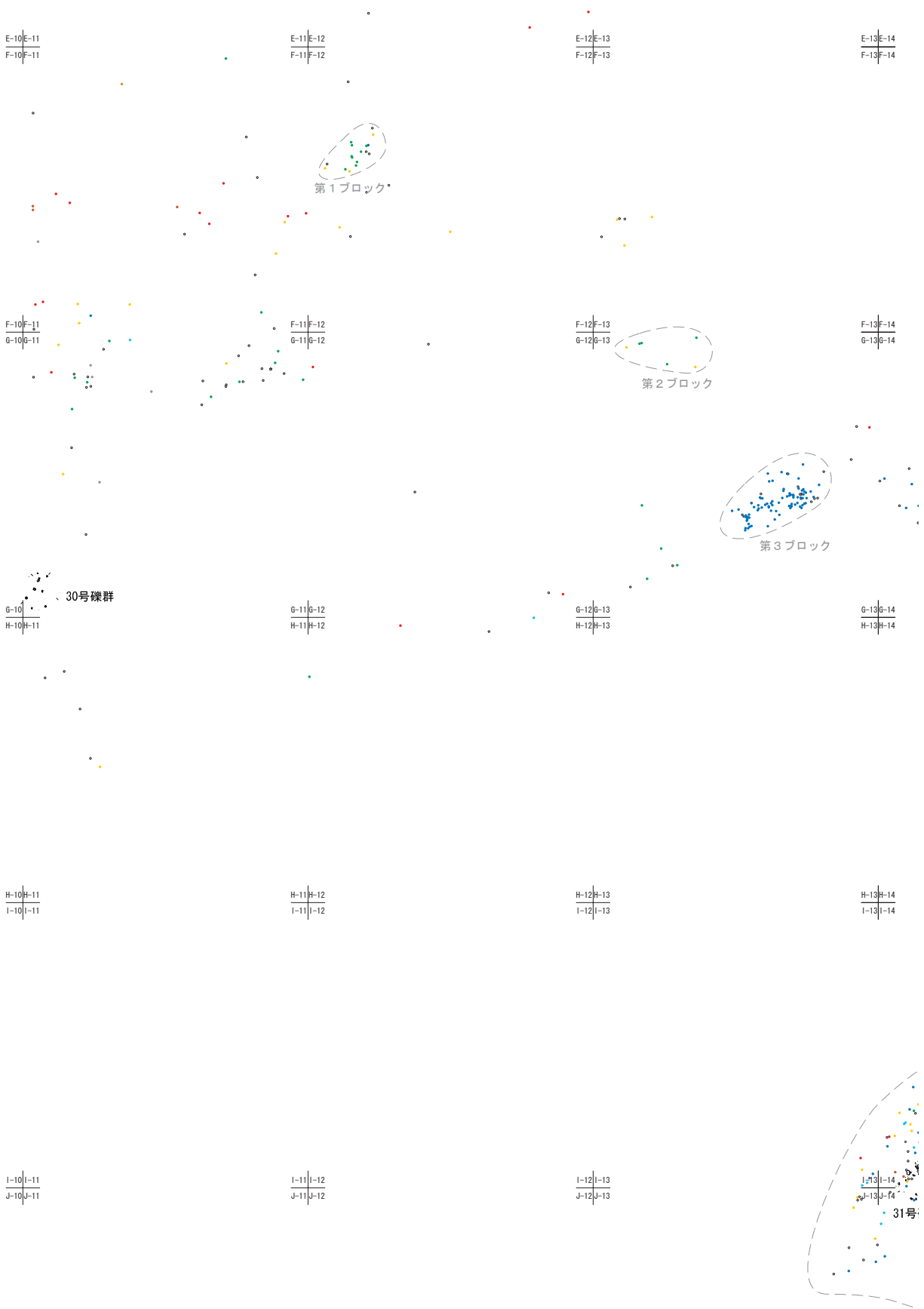
G-11区で検出した。砂岩を使用し、小型の礫が多い。礫は被熱により赤化がみられ、一部は熱破碎している。やや南側に傾斜しながら礫が残る。
(礫群III類)

31号礫群(第197図)

I-14区で検出した。角礫の安山岩を使用している。大型と小型の礫が多い。被熱の様子はほとんどうかがえない。
(礫群III類)



第195图 第四文化层遺構実測図(1)

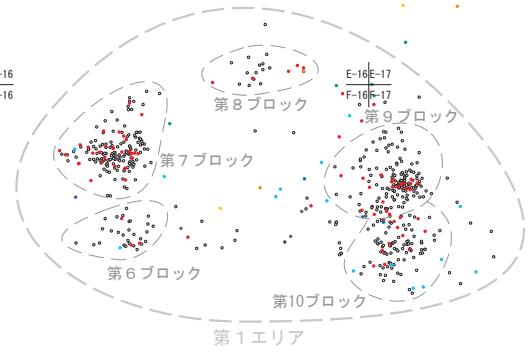


第196図 第IV文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)

E-14|E-15
F-14|F-15

E-15|E-16
F-15|F-16

E-16|E-17
F-16|F-17

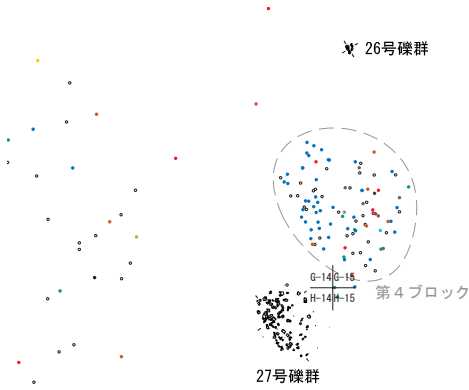


F-14|F-15
G-14|G-15

F-15|F-16
G-15|G-16

F-16|F-17
G-16|G-17

26号礫群



G-14|G-15
H-14|H-15

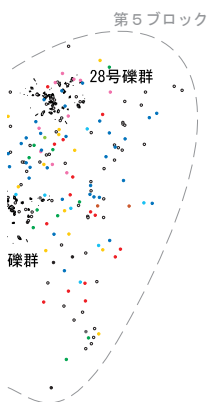
G-15|G-16
H-15|H-16

G-16|G-17
H-16|H-17

H-14|H-15
I-14|I-15

H-15|H-16
I-15|I-16

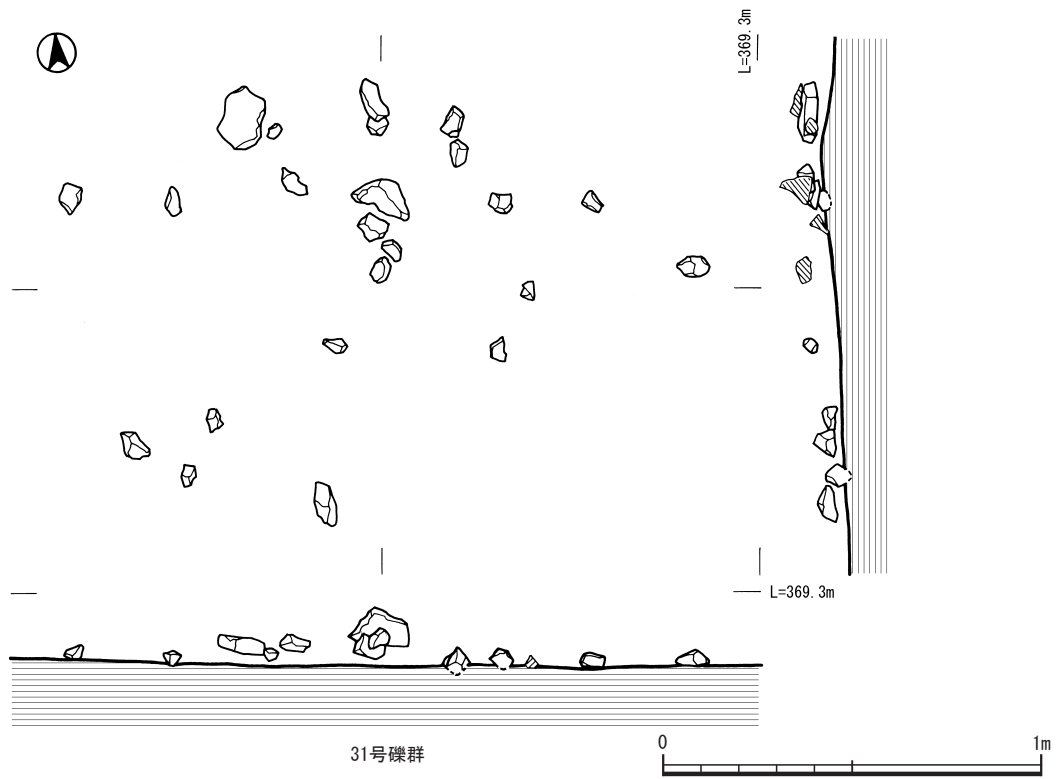
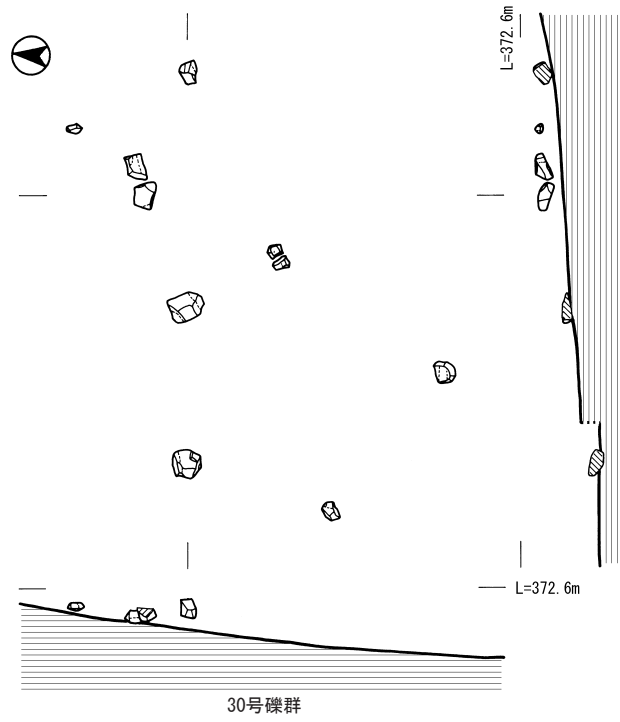
H-16|H-17
I-16|I-17



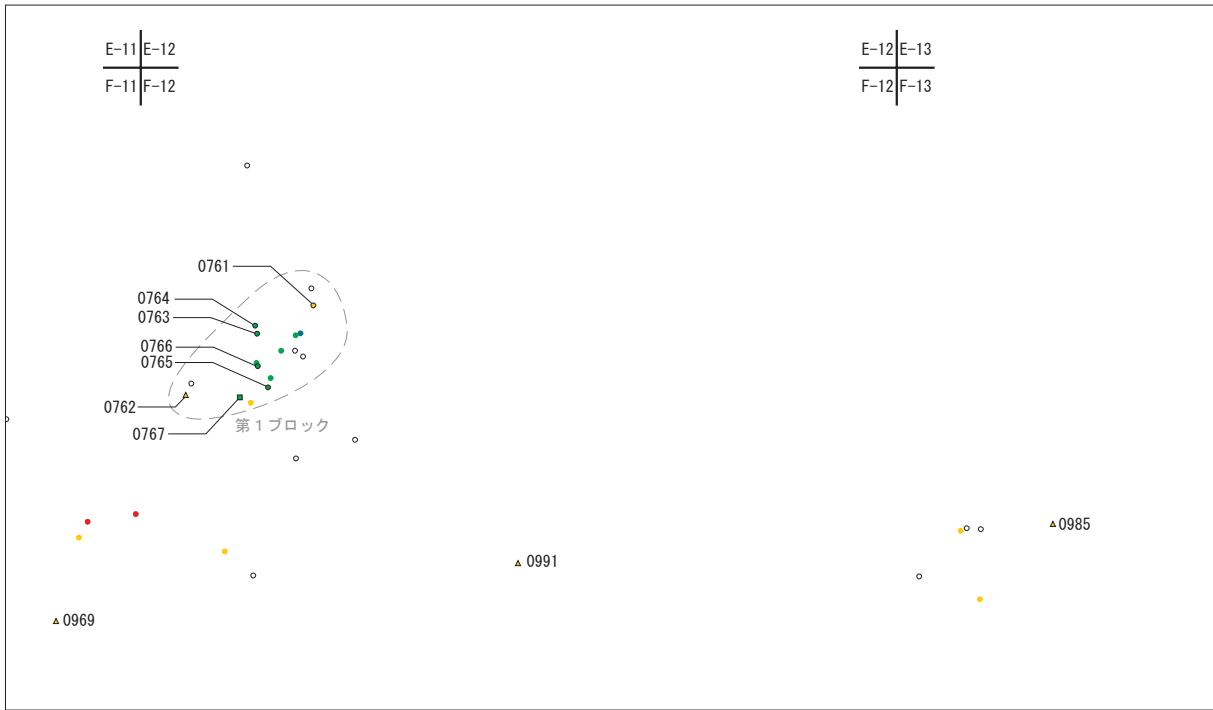
I-14|I-15
J-14|J-15

I-15|I-16
J-15|J-16

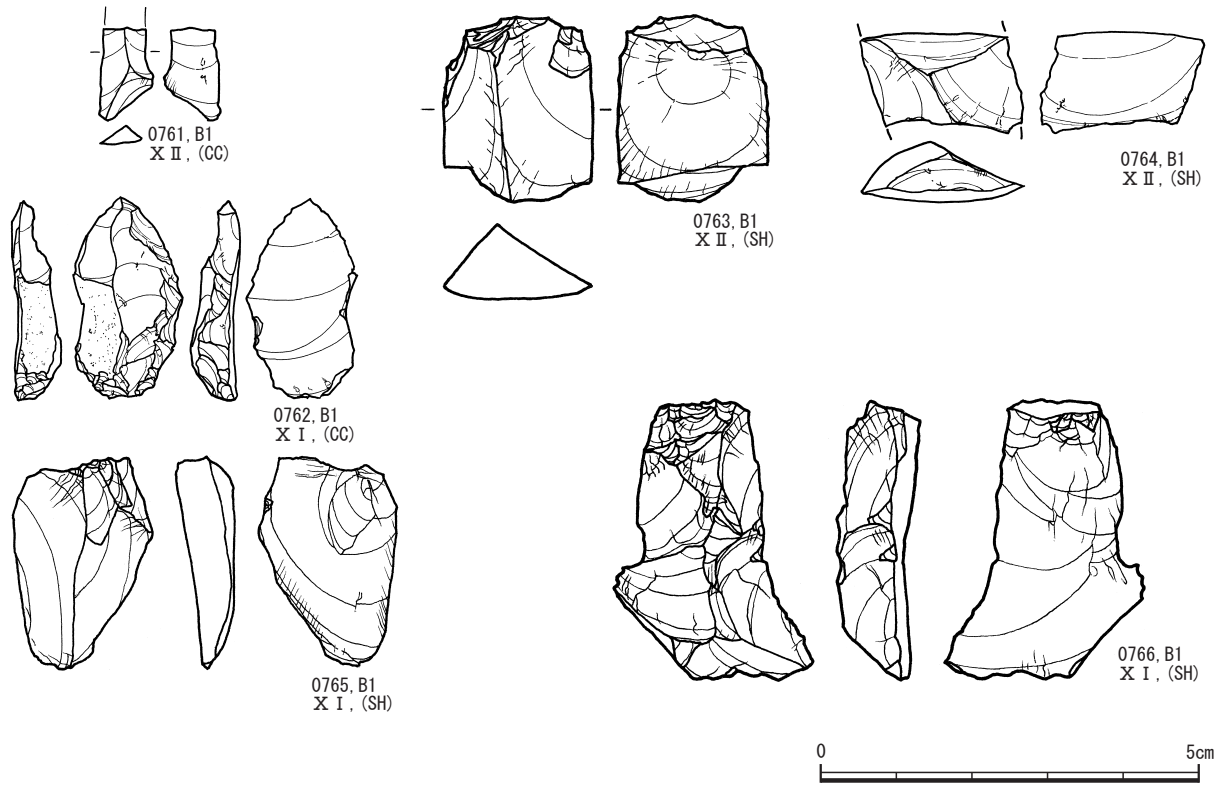
I-16|I-17
J-16|J-17



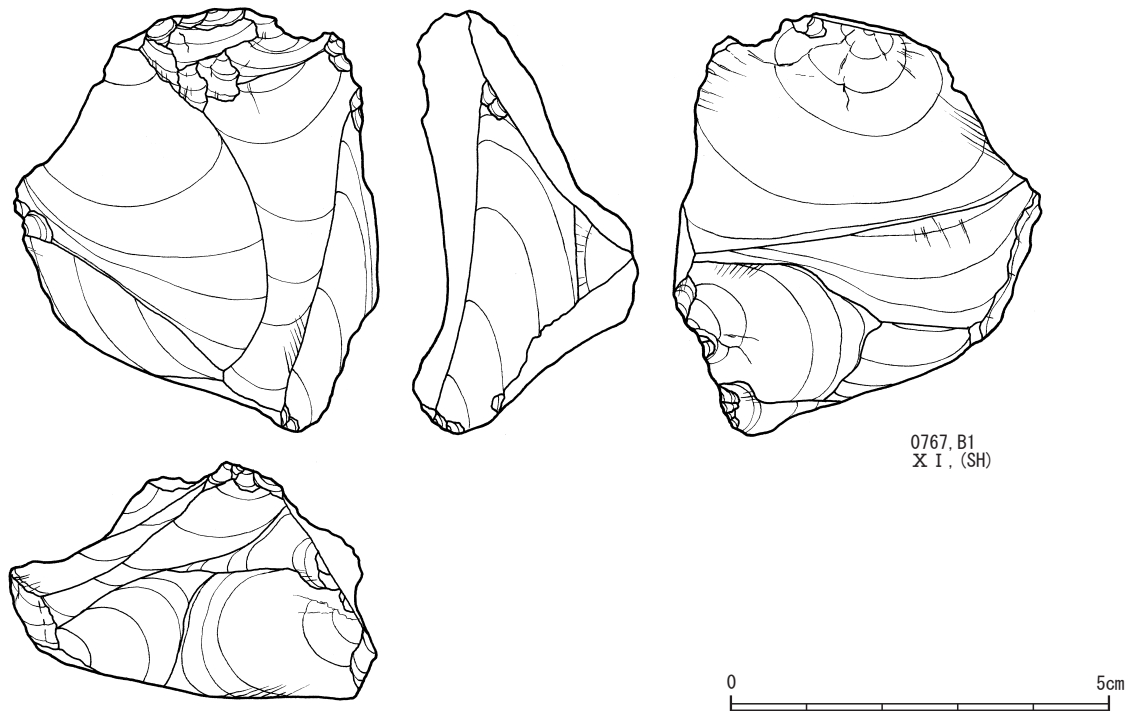
第197図 第IV文化層遺構実測図(2)



第198図 第IV文化層第1ブロック遺物出土状況図



第199図 第IV文化層第1ブロック出土石器実測図(1)



第200図 第IV文化層第1ブロック出土石器実測図(2)

3 遺物

第1ブロック(第198図, 第199, 200図)

F-12区に分布し、頁岩を主体にギョクズイと黒耀石VI類がそれぞれ3点, 1点含まれる。

細石刃1点(0761), ナイフ形石器1点(0762), 石核1点(0767)と剥片4点を示した。

細石刃は分割した尾部の1点である。

ナイフ形石器はやや厚手の剥片の打点側を刃部とし、基部と右側縁に刃潰し加工がみられる。使用石材は、ギョクズイである。

石核は打点が移動するもので、良質の頁岩を使用している。

剥片の0763, 0764は図示した後、接合することが判明し、3分割した頭部と中間部である。

第2ブロック(第201図, 第202図)

G-13区にあり、F-13区との境界に位置する。ブロックは、頁岩4点とギョクズイで構成する。

ナイフ形石器1点(0768), 二次加工のある剥片1点(0770)と剥片を確認している。

ギョクズイ使用のナイフ形石器は小型で一側縁を刃潰ししている。

二次加工のある剥片0770は側縁に微細な刃潰し加工状の剥離があり、先端部腹面からの調整剥離がみられる。尖頭状石器としているが、疑問も多い。

第3ブロック(第203図, 第204図)

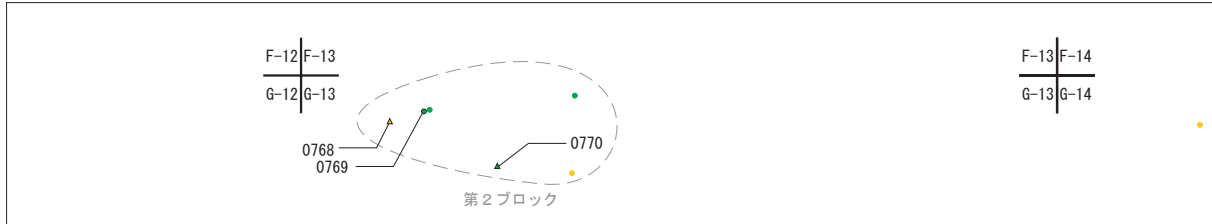
黒耀石I類単独で構成し、G-13区のほぼ中央部に位置する。

細石刃63点(0771~0832, 0835)が集中して採取されている。62点のうち頭部26点, 中間部9点, 尾部26点で、細石刃の分割が認められる。使用石材は全て黒耀石I類である。

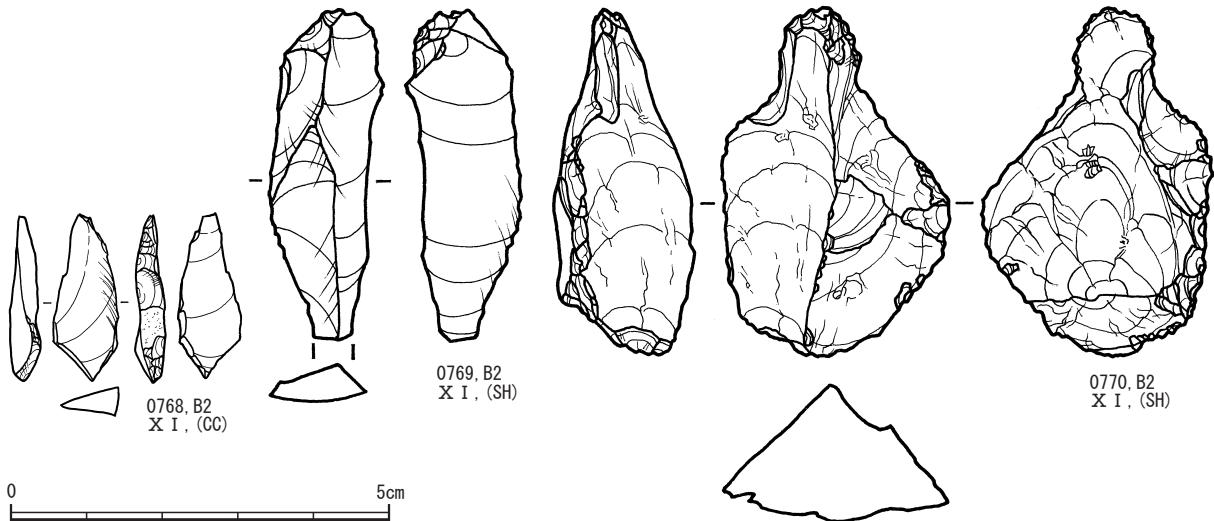
0833, 0834は、調整剥片とみられる。

第56表 第IV文化層第1ブロック出土石器観察表

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
199	0761	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B1	CC	-	(12.4)	(7.3)	(2.0)	(0.13)	9365	X II	F-12	-
	0762	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B1	CC	-	26.7	14.6	7.2	1.97	9389	X I	F-12	-
	0763	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B1	SH	-	24.8	20.1	10.8	4.91	9361	X II	F-12	39
	0764	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B1	SH	-	(13.4)	(21.7)	(8.0)	(2.03)	9362	X II	F-12	39
	0765	剥片	-	-	IV	外	外	B1	SH	-	28.1	18.6	8.1	2.76	9379	X I	F-12	-
	0766	剥片	-	-	IV	外	外	B1	SH	-	37.2	26.6	11.6	7.31	9381	X I	F-12	-
200	0767	石核	-	-	IV	外	外	B1	SH	-	56.0	48.3	31.9	31.90	9382	X I	F-12	65



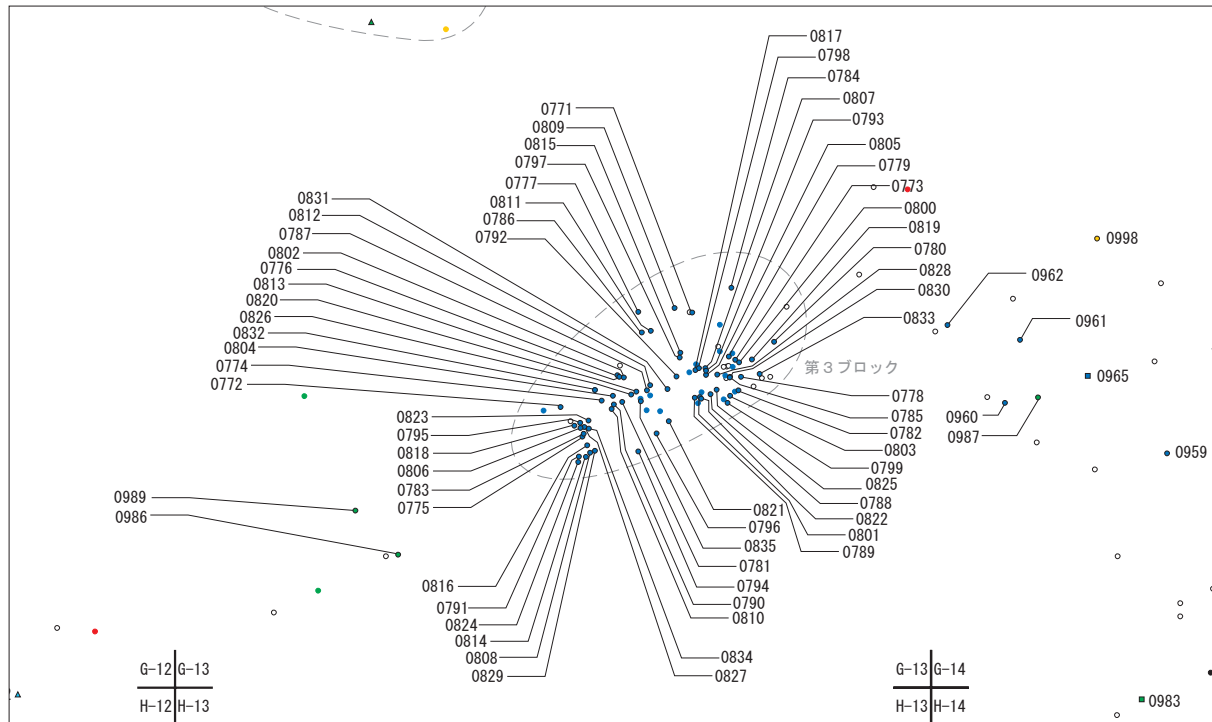
第201図 第IV文化層第2ブロック遺物出土状況図



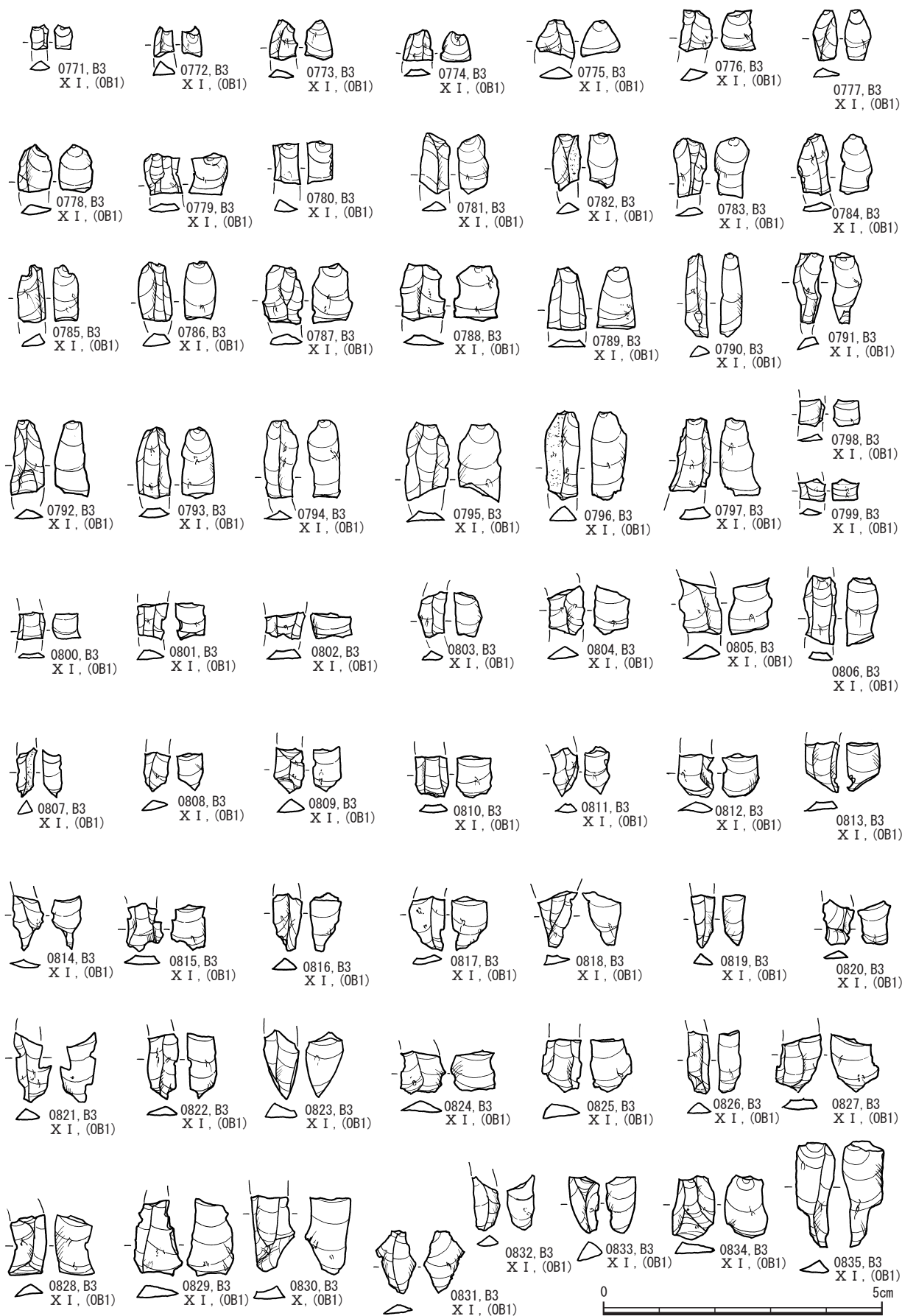
第202図 第IV文化層第2ブロック出土石器実測図

第57表 第IV文化層第2ブロック出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
	0768	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B2	CC	-	21.8	8.6	4.0	0.56	9572	X I	G-13	-
202	0769	剥片	-	-	IV	外	外	B2	SH	-	(43.9)	(15.5)	(5.2)	(3.80)	9573	X I	G-13	-
	0770	石器	二次加工痕のある剥片	尖頭状石器?	IV	外	外	B2	SH	-	46.4	30.5	19.3	17.95	9579	X I	G-13	-



第203図 第IV文化層第3ブロック遺物出土状況図



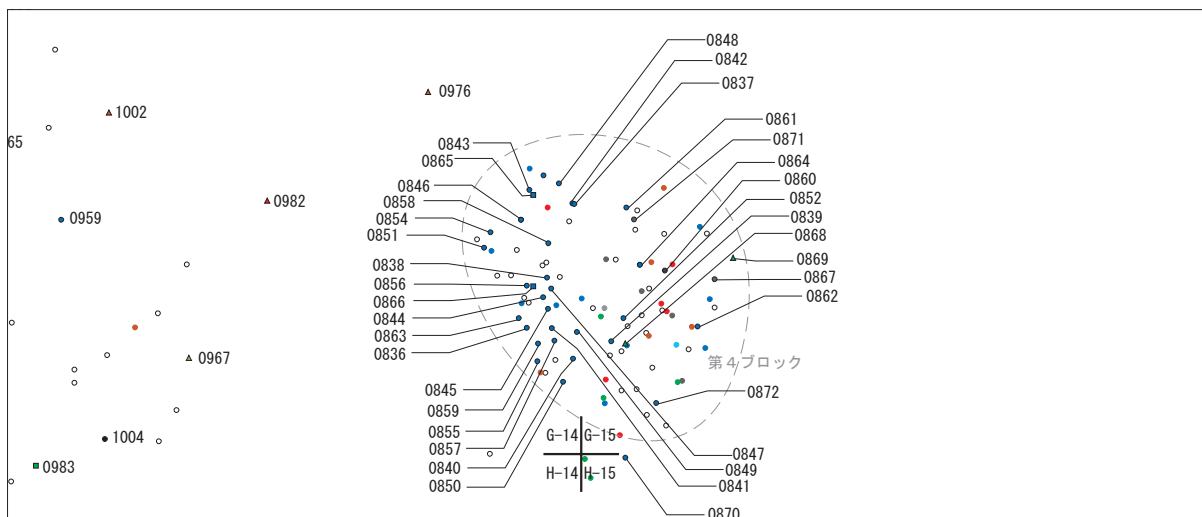
第204図 第IV文化層第3ブロック出土石器実測図

第58表 第IV文化層第3ブロック出土石器観察表(1)

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
204	0771	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(4.7)	(3.4)	(1.5)	(0.02)	9009	X I	G-13	-
	0772	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(5.6)	(3.8)	(2.1)	(0.03)	8982	X I	G-13	-
	0773	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.4)	(5.2)	(1.1)	(0.03)	9038	X I	G-13	-
	0774	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(5.6)	(5.5)	(1.5)	(0.04)	8983	X I	G-13	-
	0775	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.2)	(7.1)	(1.5)	(0.06)	8976	X I	G-13	-
	0776	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.6)	(6.2)	(2.2)	(0.06)	8989	X I	G-13	-
	0777	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	9.1	4.6	1.2	0.04	9007	X I	G-13	-
	0778	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.6)	(6.4)	(1.8)	(0.06)	9045	X I	G-13	-
	0779	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.6)	(7.1)	(2.1)	(0.10)	9037	X I	G-13	-
	0780	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.6)	(5.1)	(1.0)	(0.05)	9036	X I	G-13	-
	0781	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(11.0)	(5.6)	(2.0)	(0.09)	8986	X I	G-13	-
	0782	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.3)	(5.3)	(1.8)	(0.07)	9032	X I	G-13	-
	0783	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.8)	(6.1)	(1.8)	(0.10)	8977	X I	G-13	-
	0784	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(11.1)	(6.1)	(2.1)	(0.11)	9010	X I	G-13	-
	0785	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.4)	(5.2)	(3.0)	(0.10)	9065	X I	G-13	-
	0786	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.7)	(6.2)	(2.1)	(0.13)	9006	X I	G-13	-
	0787	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.7)	(7.5)	(2.1)	(0.16)	8993	X I	G-13	-
	0788	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.4)	(8.2)	(1.7)	(0.12)	9067	X I	G-13	-
	0789	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(11.4)	(7.1)	(2.0)	(0.17)	9027	X I	G-13	-
	0790	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	15.2	4.3	2.0	0.09	9056	X I	G-13	-
	0791	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(12.8)	(5.6)	(2.5)	(0.11)	8975	X I	G-13	-
	0792	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(13.7)	(6.2)	(1.9)	(0.10)	9016	X I	G-13	-
	0793	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(12.8)	(6.4)	(2.0)	(0.14)	9071	X I	G-13	-
	0794	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(14.2)	(6.3)	(1.8)	(0.08)	8998	X I	G-13	-
	0795	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(14.1)	(8.1)	(1.9)	(0.17)	8980	X I	G-13	-
	0796	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(16.1)	(6.4)	(3.0)	(0.24)	8999	X I	G-13	-
	0797	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(13.4)	(7.7)	(2.7)	(0.18)	9012	X I	G-13	-
	0798	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(5.1)	(4.9)	(0.8)	(0.02)	9020	X I	G-13	-
	0799	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(4.2)	(5.0)	(0.9)	(0.01)	9029	X I	G-13	-
	0800	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(5.1)	(5.1)	(1.0)	(0.02)	9039	X I	G-13	-
	0801	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(6.7)	(5.8)	(1.8)	(0.03)	9026	X I	G-13	-
	0802	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(5.0)	(7.3)	(1.8)	(0.05)	9070	X I	G-13	-
	0803	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.3)	(5.4)	(2.0)	(0.05)	9030	X I	G-13	-
	0804	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.9)	(6.8)	(1.5)	(0.08)	8984	X I	G-13	-
	0805	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.1)	(7.7)	(1.8)	(0.11)	9022	X I	G-13	-
	0806	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(12.5)	(6.1)	(1.4)	(0.11)	9054	X I	G-13	-
	0807	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.9)	(3.8)	(2.1)	(0.05)	9021	X I	G-13	-
	0808	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.2)	(4.9)	(2.2)	(0.03)	8972	X I	G-13	-
	0809	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.4)	(5.5)	(2.4)	(0.08)	9008	X I	G-13	-
	0810	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.5)	(6.2)	(1.2)	(0.08)	8985	X I	G-13	-
	0811	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.9)	(5.1)	(1.4)	(0.04)	9005	X I	G-13	-
	0812	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.9)	(6.6)	(1.1)	(0.05)	8995	X I	G-13	-
	0813	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(9.2)	(6.3)	(1.1)	(0.08)	9058	X I	G-13	-
	0814	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.1)	(5.7)	(1.4)	(0.04)	8971	X I	G-13	-
	0815	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.8)	(6.7)	(1.2)	(0.08)	9011	X I	G-13	-
	0816	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.4)	(5.4)	(2.0)	(0.09)	8974	X I	G-13	-
0817	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(9.8)	(6.6)	2.0	(0.08)	9018	X I	G-13	-	
0818	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.3)	(7.3)	(2.1)	(0.07)	9072	X I	G-13	-	
0819	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(9.7)	(4.4)	(2.1)	(0.05)	9041	X I	G-13	-	
0820	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(8.3)	(5.8)	(1.4)	(0.05)	8991	X I	G-13	-	
0821	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(12.7)	(6.9)	(2.0)	(0.12)	9002	X I	G-13	-	
0822	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(11.9)	(5.8)	(1.3)	(0.07)	9068	X I	G-13	-	
0823	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(12.6)	(6.5)	(2.1)	(0.12)	8979	X I	G-13	-	
0824	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(7.8)	(8.3)	(1.8)	(0.09)	8970	X I	G-13	-	
0825	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(9.6)	(7.3)	(2.2)	(0.16)	9024	X I	G-13	-	
0826	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(11.3)	(4.2)	(1.9)	(0.08)	8990	X I	G-13	-	

第59表 第IV文化層第3ブロック出土石器観察表(2)

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
204	0827	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(10.6)	(8.4)	(1.5)	(0.14)	8978	X I	G-13	-
	0828	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(11.0)	(7.1)	(1.9)	(0.13)	9023	X I	G-13	-
	0829	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(13.8)	(8.8)	(2.0)	(0.20)	8973	X I	G-13	-
	0830	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(13.7)	(8.2)	(3.1)	(0.24)	9046	X	G-13	-
	0831	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	11.4	7.3	2.1	0.09	9003	X I	G-13	-
	0832	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	(9.8)	(5.1)	(1.3)	(0.05)	8997	X I	G-13	-
	0833	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B3	OB1	-	10.3	5.6	3.0	0.11	9061	X I	G-13	-
	0834	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B3	OB1	-	11.6	7.8	2.2	0.20	9055	X I	G-13	-
	0835	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	OB1	-	19.0	7.2	2.0	0.20	8992	X I	G-13	-



第205図 第IV文化層第4ブロック遺物出土状況図

第4ブロック(第205図, 第206図)

G-14, 15区の境界に位置し、構成する石材の主体は黒耀石I類で、黒耀石II-A類、黒耀石II-B類、黒耀石II-C類、黒耀石III類、黒耀石IV類、黒耀石V類が1点から6点の範囲で加わる。

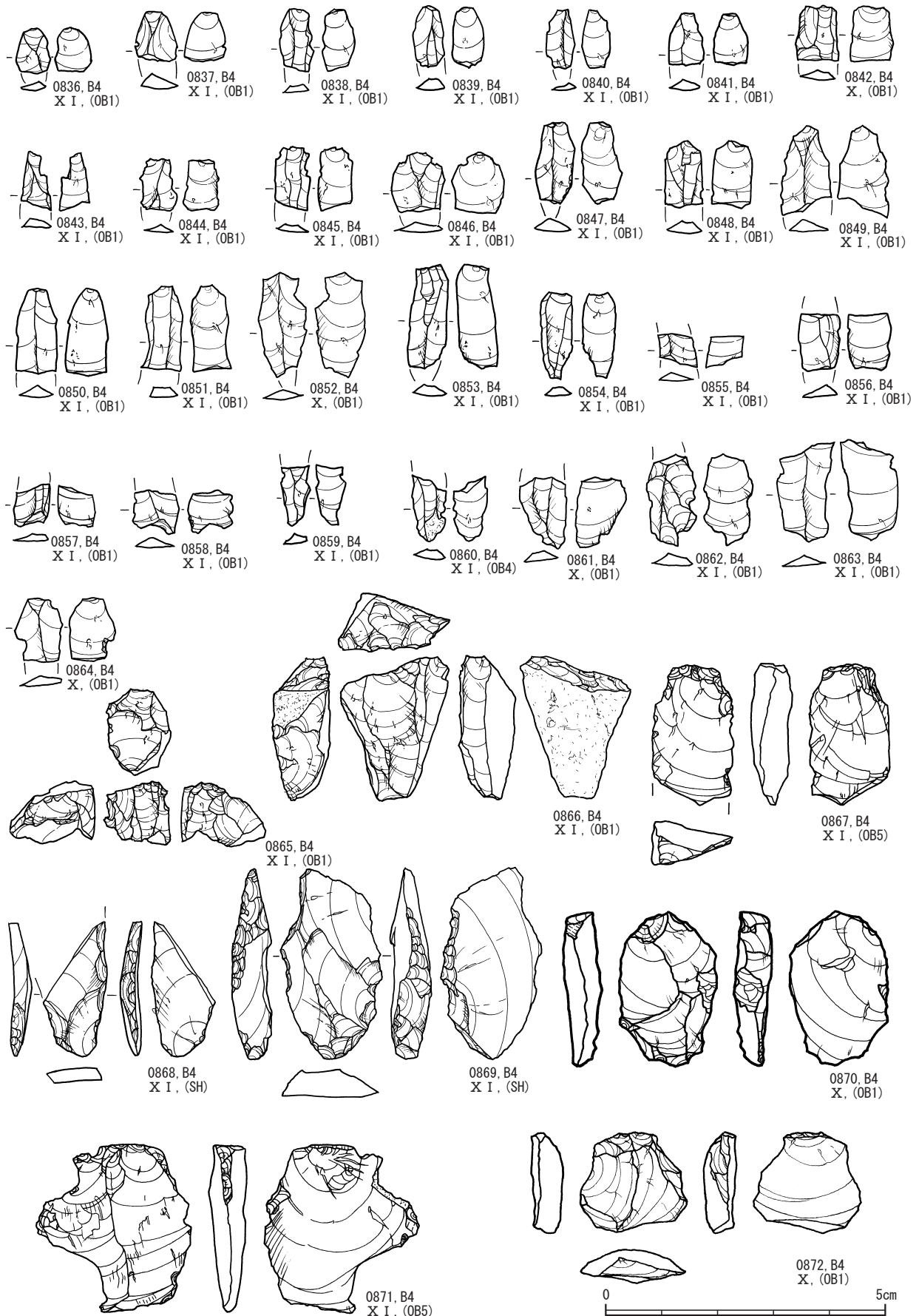
細石刃28点(0836~0863)、細石核2点(0865, 0866)、ナイフ形石器2点(0868, 0869)、折断剥片(0872)と剥片を検出している。

細石刃(0860)の1点が黒耀石IV類で、他は全て黒耀石I類を使用している。第3ブロックと同じように、細石刃の分割が見られるが、採取した中では中間部2点と少ない。

2点の細石核も黒耀石I類を使用し、0865の下端部ははじけ飛んでいるが、剥片素材と見られる。0866は左側縁と裏面に礫皮面を残したまま使用し、打面調整も認められる。

2点のナイフ形石器は頁岩を使用し、素材剥片は0868は縦長剥片で、0869は横広剥片である。刃潰し加工は全て腹面方向から行っている。0868は二側縁加工、0869は両側縁加工の切出形である。使用石材は、良質の頁岩である。

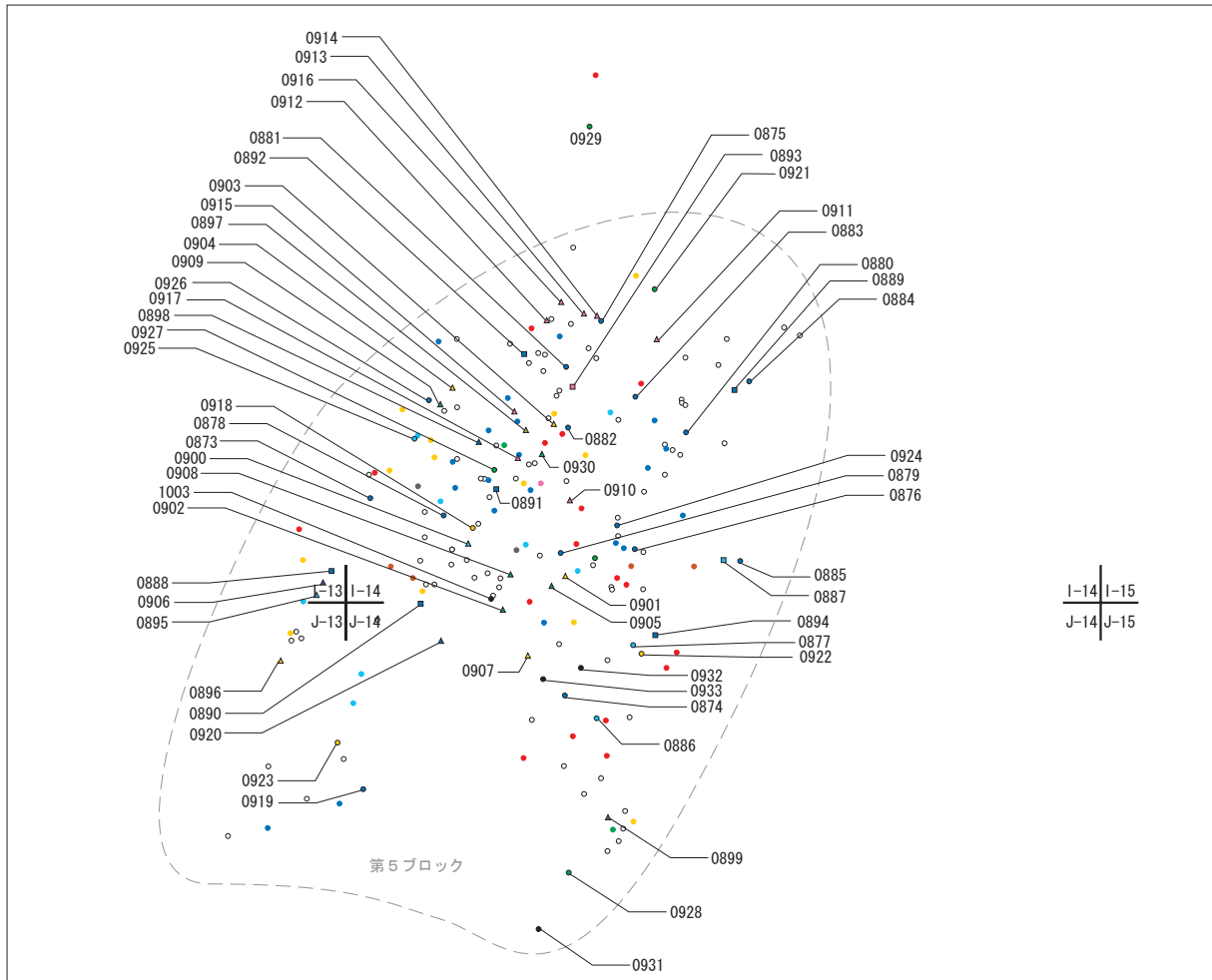
このブロックにおいては、細石刃および細石刃核とナイフ形石器が平面的に重複した状態で検出されている。この細石刃および細石刃核とナイフ形石器が共伴関係を持つのかどうかについては、今後慎重に検討を行う必要がある。



第206図 第IV文化層第4ブロック出土石器実測図

第60表 第IV文化層第4ブロック出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	エント	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
206	0836	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(8.3)	(6.4)	(1.1)	(0.06)	14663	X I	G-14	-
	0837	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(9.1)	(7.7)	(2.5)	(0.13)	14468	X I	G-14	-
	0838	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.4)	(6.3)	(1.5)	(0.10)	14448	X I	G-14	-
	0839	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.1)	(5.8)	(2.4)	(0.11)	15156	X I	G-15	-
	0840	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.8)	(5.4)	(1.4)	(0.06)	14440	X I	G-14	-
	0841	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(9.6)	(6.5)	(1.2)	(0.07)	14444	X I	G-14	-
	0842	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.0)	(8.0)	(2.4)	(0.21)	9698	X	G-14	-
	0843	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.7)	(5.6)	(1.8)	(0.07)	14465	X I	G-14	-
	0844	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(9.4)	(6.8)	(1.6)	(0.08)	14668	X I	G-14	-
	0845	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.5)	(6.6)	(1.2)	(0.09)	14446	X I	G-14	-
	0846	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.8)	(9.8)	(1.9)	(0.17)	14461	X I	G-14	-
	0847	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(14.7)	(7.3)	(2.1)	(0.22)	14667	X I	G-14	-
	0848	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(12.1)	(7.1)	(2.6)	(0.21)	14676	X I	G-14	-
	0849	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(16.1)	(9.2)	(2.5)	(0.32)	14441	X I	G-14	-
	0850	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(15.4)	(7.6)	(2.4)	(0.24)	14432	X I	G-14	-
	0851	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(15.3)	(7.7)	(2.0)	(0.25)	14457	X I	G-14	-
	0852	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(18.8)	(8.8)	(2.2)	(0.32)	9690	X	G-15	-
	0853	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(18.8)	(7.5)	(2.8)	(0.31)	14467	X I	G-14	-
	0854	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	15.8	6.0	1.3	0.13	14460	X I	G-14	-
	0855	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(6.2)	(7.2)	(1.7)	(0.06)	14435	X I	G-14	-
	0856	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.4)	(7.7)	(2.4)	(0.16)	14672	X I	G-14	-
	0857	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(7.8)	(6.7)	(1.3)	(0.06)	14443	X I	G-14	-
	0858	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(8.1)	(8.5)	(1.6)	(0.10)	14454	X I	G-14	-
	0859	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.9)	(5.5)	(1.6)	(0.08)	14438	X I	G-14	-
	0860	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB4	-	(12.1)	(6.3)	(1.6)	(0.11)	15735	X I	G-15	-
	0861	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(12.9)	(8.6)	(1.8)	(0.21)	9694	X	G-15	-
	0862	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(16.5)	(9.1)	(2.4)	(0.30)	15761	X I	G-15	-
	0863	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	17.8	10.5	2.7	0.35	14445	X I	G-14	-
	0864	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.6)	(8.8)	(2.0)	(0.17)	9693	X	G-15	-
	0865	石核	細石核	-	IV	外	外	B4	OB1	-	11.2	11.2	15.0	1.70	14464	X I	G-14	-
	0866	石核	細石核	-	IV	外	外	B4	OB1	-	26.0	19.5	10.2	4.23	14449	X I	G-14	-
	0867	剥片	-	-	IV	外	外	B4	OB5	-	(25.2)	(14.8)	(7.8)	(2.42)	15730	X I	G-15	-
0868	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B4	SH	-	24.0	11.8	4.0	0.85	15755	X I	G-15	-	
0869	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B4	SH	-	34.0	18.3	7.5	4.13	15729	X I	G-15	-	
0870	剥片	-	-	IV	外	外	B4	OB1	-	27.8	17.8	7.1	2.96	9680	X	H-15	-	
0871	剥片	-	-	IV	外	外	B4	OB5	-	30.0	27.8	6.6	3.90	15740	X I	G-15	-	
0872	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B4	OB1	-	18.0	19.3	5.7	1.95	9683	X	G-15	-	



第207図 第IV文化層第5ブロック遺物出土状況図

第5ブロック (第207図, 第208~212図)

I, J-13, 14区境界にあり, I-14区に分布の広がりがみられる。ブロックの主体石材は黒耀石 I 類で黒耀石 II-A 類, 黒耀石 II-C 類, 黒耀石 III 類, 黒耀石 V 類, 安山岩, ギョクズイ, チャート, 水晶, 頁岩, 砂岩が混在して構成する。

細石刃14点(0873~0886), 細石核 8 点(0887~0894), ナイフ形石器15点(0896~0909), 楔形石器 9 点(0910~0917, 0920), ハンマーストーン 3 点(0931~0933)等がみられる。

細石刃の使用石材は黒耀石 I 類が主体で, 黒耀石 III 類が 2 点加わる。やはり分割手法が認められ, 頭部片が多く残されている。

細石核では0887が黒耀石 III 類, 0893が水晶で他は黒耀石 I 類を用いている。

0889, 0891は礫を分割し, 分割面をそのまま打面としている。0887, 0888, 0890, 0893, 0894も分割礫を用い, 分割面の一面を打面とすることに変わりはないが, 裏面の整形に横方向(側縁側)からの調整剥離が特徴的に加わる。

次に, 前者は作業面の正面観が逆三角形をなし, 後者はやや幅広の方形状をなす。また, 前者は平坦打面,

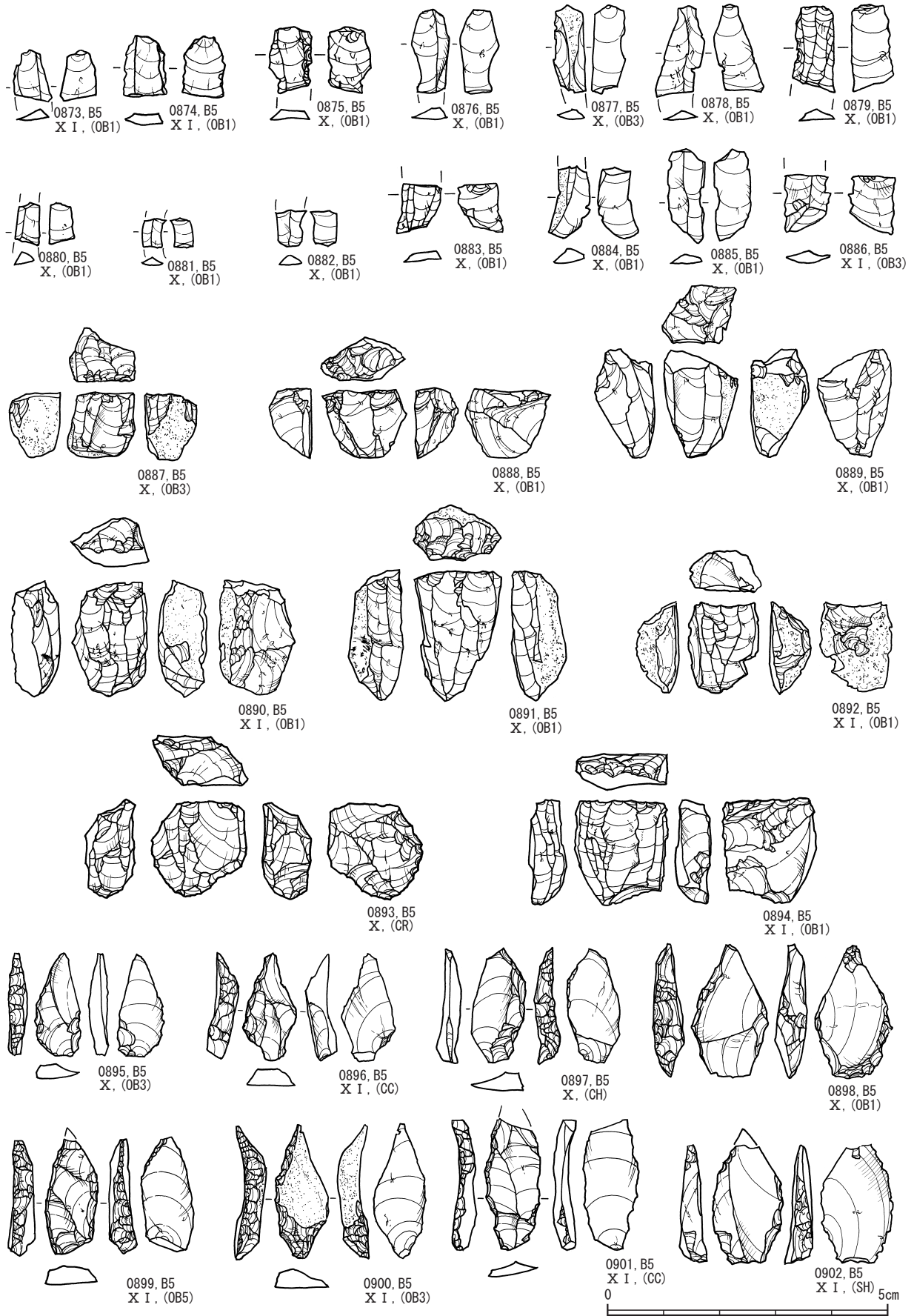
後者は傾斜打面を成す傾向もみられる。

小型のナイフ形石器が定着している感がある。0896と0897は一側縁加工, 0898, 0899は両側縁加工, 0895, 0900, 0901, 0902は基部と一側縁加工, 0904, 0905, 0907~0909は基部加工, 0903, 0905は部分加工ナイフ形石器となる。

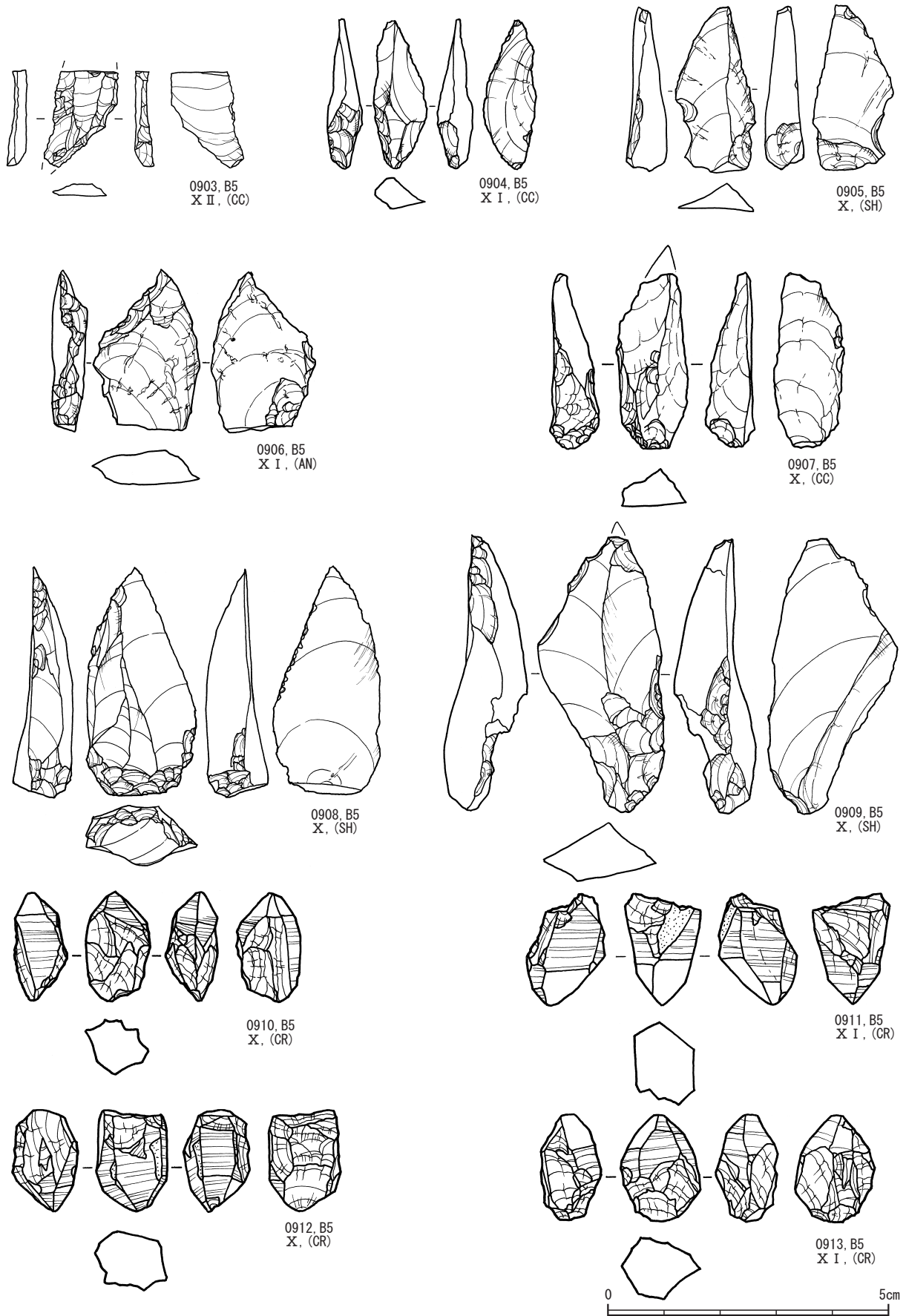
素材となる剥片剥離も多様であり, 0898, 0902, 0904は横剥ぎ剥片, 0987, 0900, 0901, 0903, 0905が小型縦長剥片, 0908, 0909がやや大型の縦長剥片, 0895, 0896, 0899が打点移動を繰り返す不定形剥片である。基部加工中心の0905, 0907, 0908, 0909は素材剥片の特徴を活かし, 素材剥片の形状を大きく変えることなく製品を作り出している。

楔形石器とした 8 点0910~0917は水晶の特長(結晶)を活かしたと判断し器種認定したもので, その結果, 敲打痕やそれによるダメージ破損の観察できるものである。0914, 0915, 0917はその使用により, 破碎したものと解している。

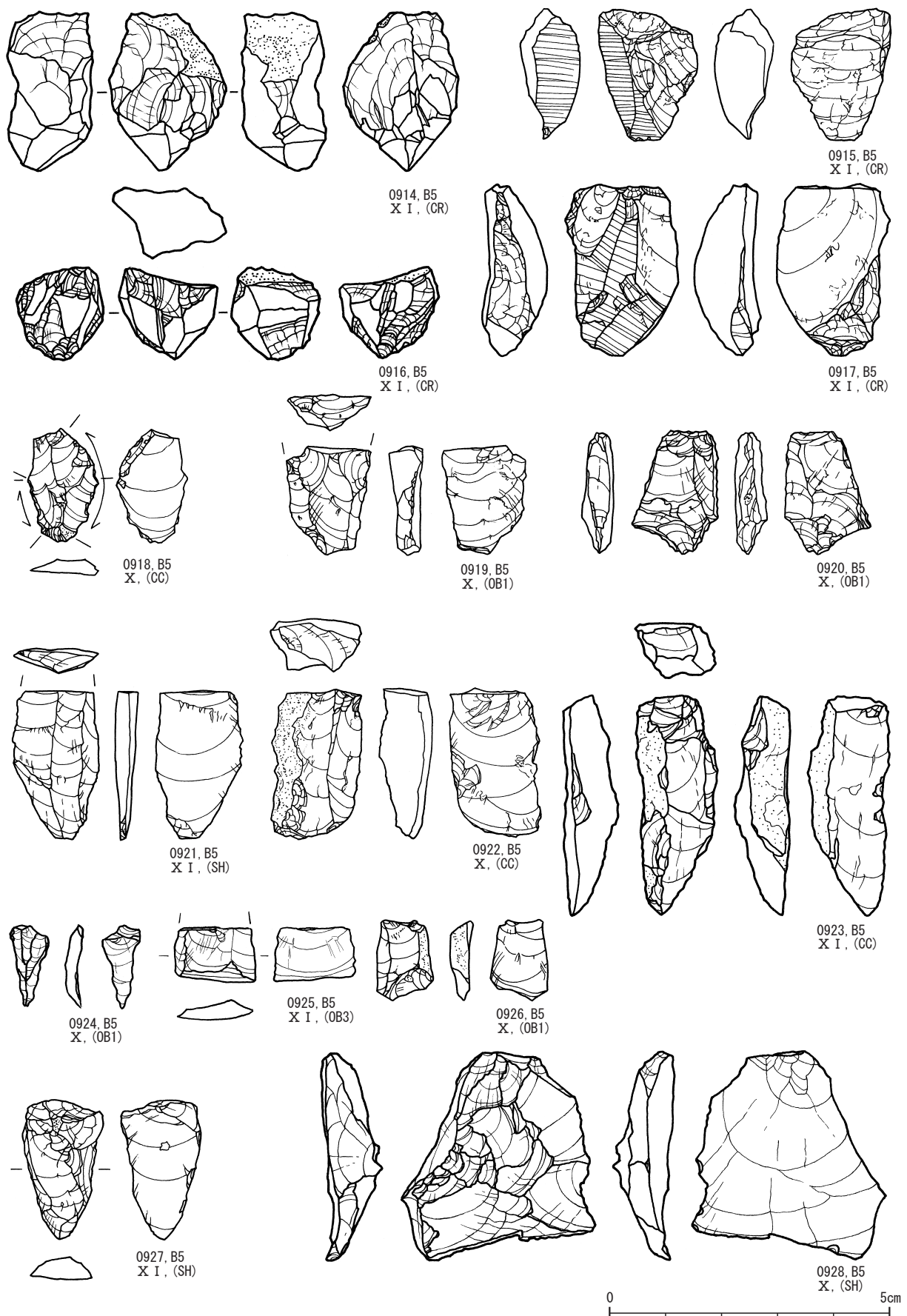
3 点のハンマーストーンは円礫を使用し, 上下, 側縁部を使用部としている。



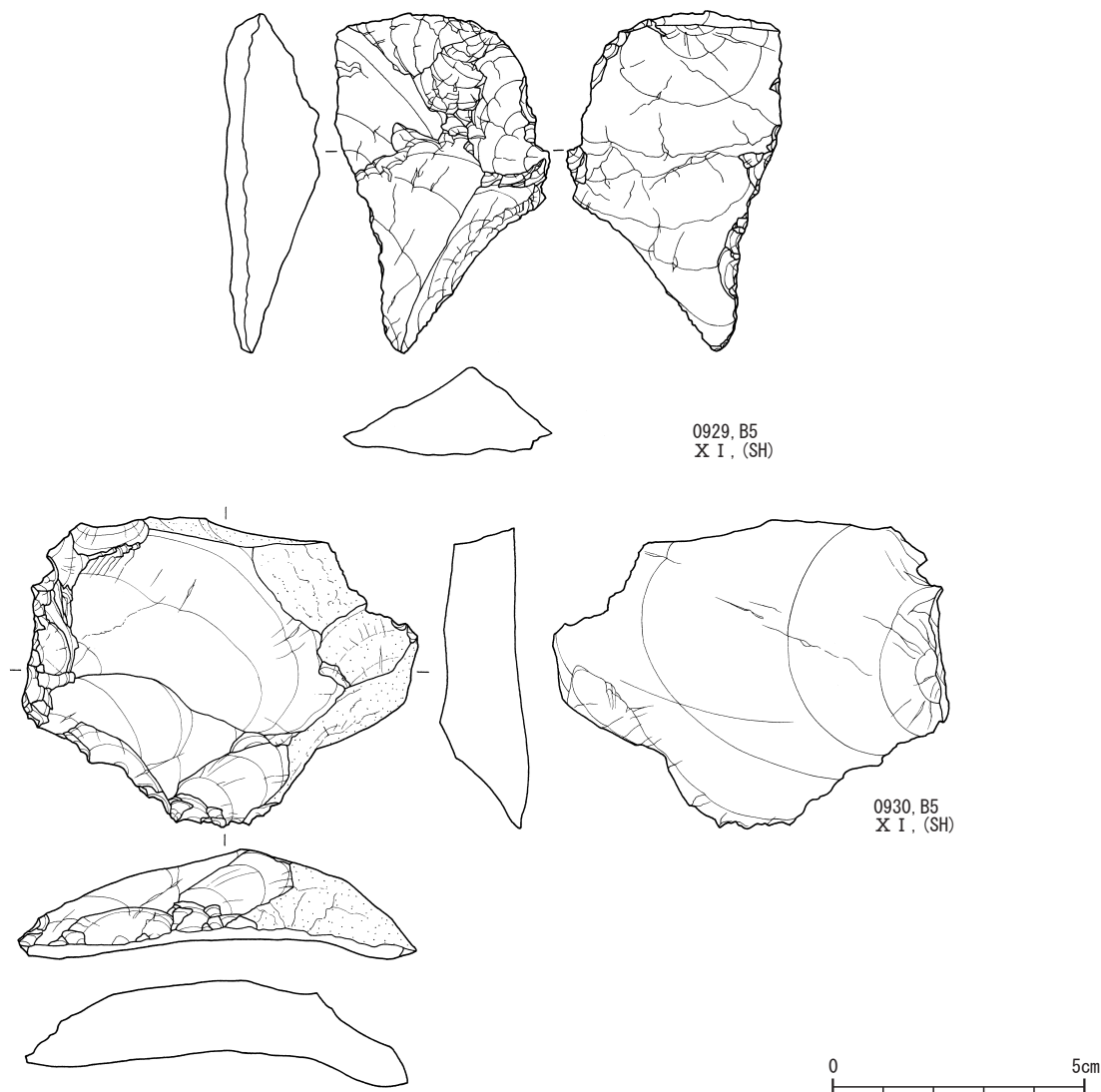
第208図 第四文化層第5ブロック出土石器実測図(1)



第209図 第四文化層第5ブロック出土石器実測図(2)



第210図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(3)

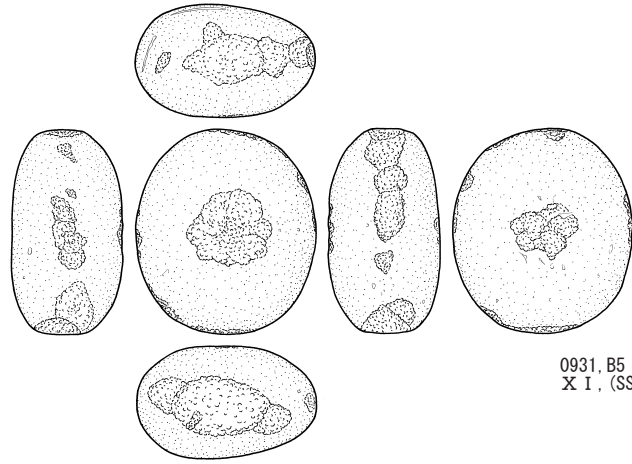


第211図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(4)

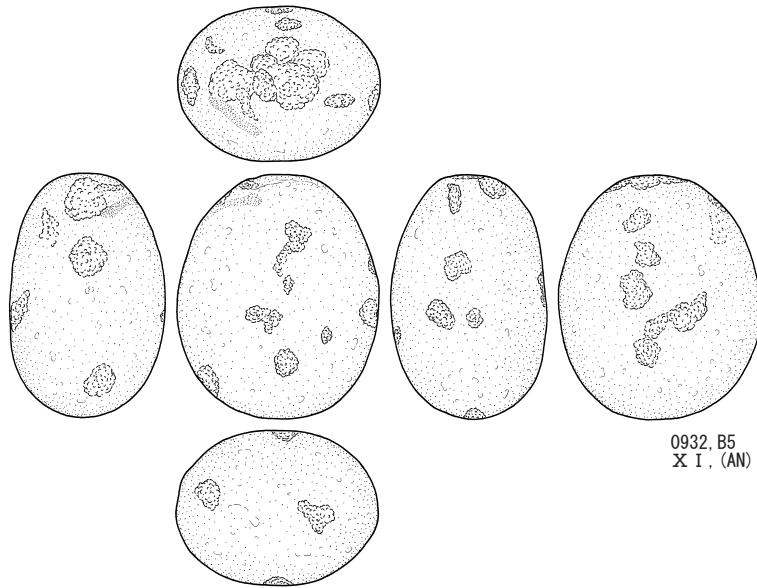
出土している剥片類は小振りなものが多く、ナイフ形石器の規格と整合する観がある。ナイフ形石器の使用石材は多種であるが、やや大型とした0908, 0909は頁岩を用いている。

細石核では、横方向から裏面整形する特徴がみられ、いわゆる位牌塔型細石核に属す。

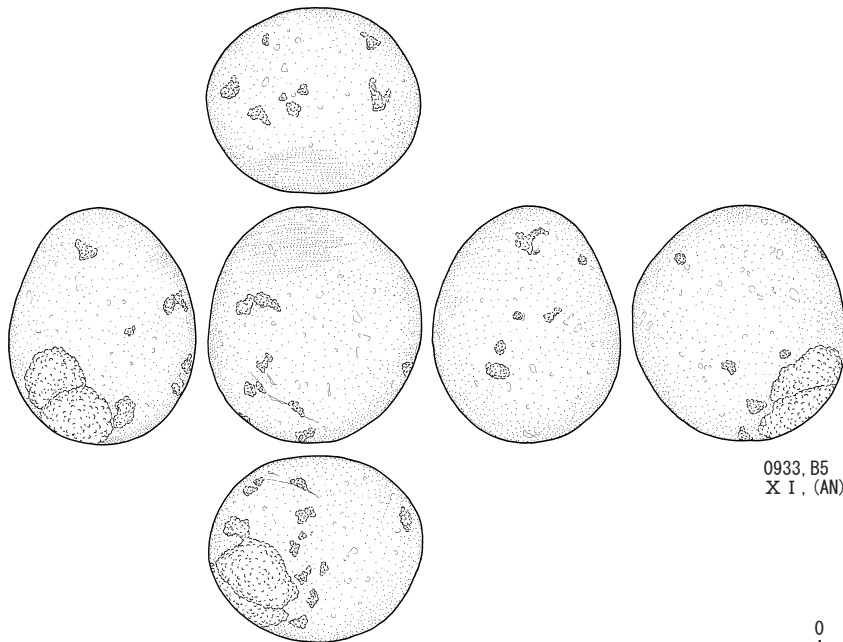
第5ブロックの第1の特徴は、細石器群(細石刃、細石核)とナイフ形石器が出土していることである。次に、水晶の楔形石器が集中して加わることである。細石器は位牌塔型細石核が安定して存在することから、時期認定については、ほぼ限定できそうである。一方、ナイフ形石器は小型化の方向性を示しているが、ナイフ形石器の編年が確立していない現状では、その位置付けに関しては慎重にならざるを得ない。また、細石刃および細石刃核とナイフ形石器の関係についても、それぞれが形態的に安定していることから、今後さらに慎重な検討が必要であろう。



0931, B5
X I, (SS)



0932, B5
X I, (AN)



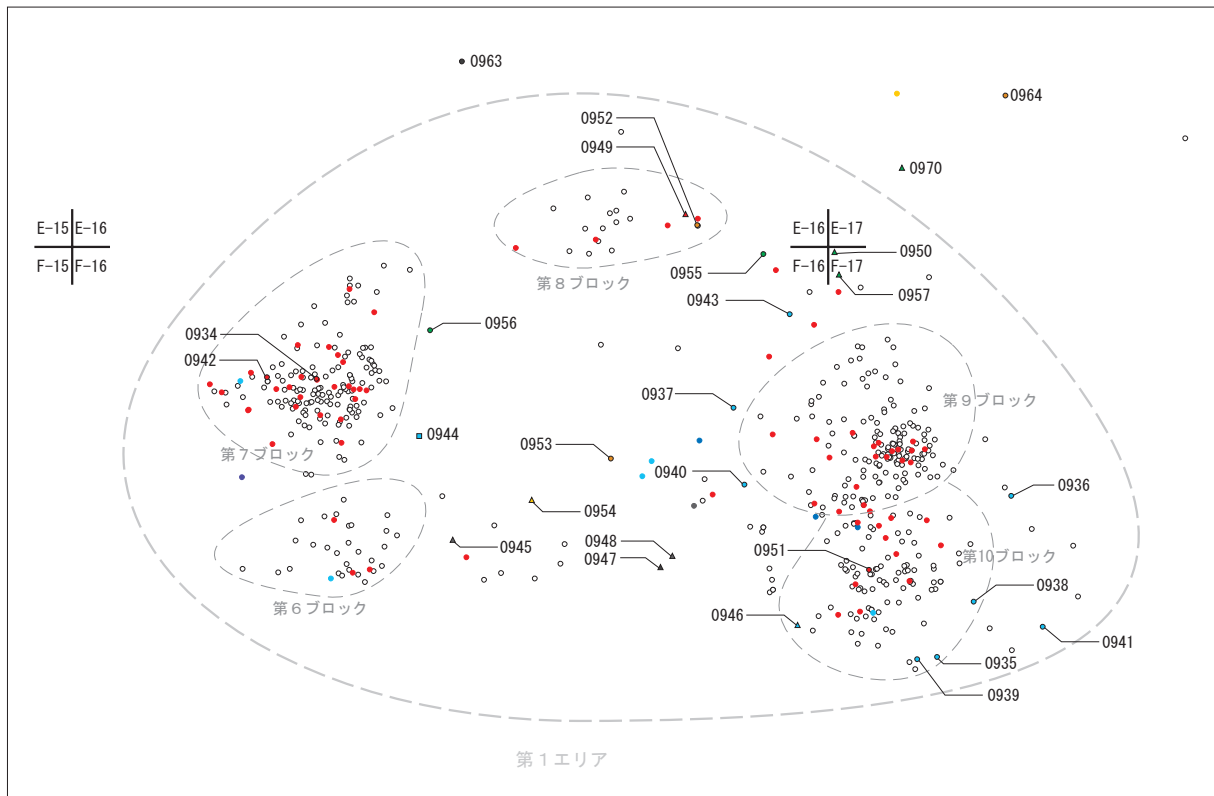
0933, B5
X I, (AN)



第212図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(5)

第61表 第IV文化層第5ブロック出土石器観察表(1)

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	エント	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
208	0873	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(9.3)	(7.1)	(1.3)	(0.07)	16373	X I	I-14	-
	0874	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	11.1	7.9	2.3	0.17	16246	X I	J-14	-
	0875	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(12.0)	(7.8)	(1.7)	(0.16)	16085	X	I-14	-
	0876	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(15.0)	(6.9)	(2.5)	(0.25)	16026	X	I-14	-
	0877	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB3	-	(15.8)	(6.0)	(2.8)	(0.19)	16239	X	J-14	-
	0878	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(16.1)	(9.3)	(1.8)	(0.16)	16060	X	I-14	-
	0879	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(15.5)	(7.8)	(2.6)	(0.27)	16228	X	I-14	-
	0880	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(7.9)	(4.7)	(1.7)	(0.05)	16209	X	I-14	-
	0881	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(5.4)	(4.5)	(1.1)	(0.02)	16078	X	I-14	-
	0882	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(6.8)	(5.8)	(1.6)	(0.04)	16303	X	I-14	-
	0883	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(9.0)	(8.2)	(2.1)	(0.16)	16205	X	I-14	-
	0884	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(13.1)	(7.5)	(2.7)	(0.21)	16017	X	I-14	-
	0885	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	16.9	6.8	1.3	0.16	16021	X	I-14	-
	0886	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB3	-	(10.4)	(8.5)	(2.3)	(0.15)	16041	X I	J-14	-
	0887	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB3	-	11.8	12.3	9.5	1.56	16022	X	I-14	-
	0888	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB1	-	12.3	15.2	8.0	1.51	16268	X	I-13	-
	0889	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB1	-	19.3	13.4	10.6	3.21	16018	X	I-14	-
	0890	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	OB1	-	20.5	13.6	8.8	2.56	16271	X I	J-14	-
	0891	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB1	-	23.3	15.8	10.0	4.12	16286	X	I-14	-
	0892	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	OB1	-	16.4	12.8	8.0	1.45	16594	X I	I-14	-
	0893	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	CR	-	17.3	17.2	9.1	2.01	16307	X	I-14	-
	0894	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	OB1	-	18.8	16.9	7.0	2.50	16238	X I	J-14	-
	0895	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB3	-	18.5	8.4	3.8	0.41	16267	X	I-13	-
	0896	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	19.2	9.5	6.0	0.62	16654	X I	J-13	-
	0897	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CH	-	20.6	9.9	4.4	0.66	16295	X	I-14	-
	0898	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB1	-	23.8	13.9	6.0	1.73	16067	X	I-14	-
	0899	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB5	-	(20.5)	(9.3)	(5.0)	(0.90)	16255	X I	J-14	-
	0900	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB3	-	24.0	9.5	6.0	0.80	16364	X I	I-14	-
0901	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	(23.5)	(10.2)	(4.8)	(0.71)	16350	X I	I-14	-	
0902	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	(21.3)	(12.8)	(5.1)	(0.94)	16368	X I	J-14	-	
209	0903	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	(17.0)	(13.1)	3.3	0.55	16604	X II	I-14	-
	0904	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	27.2	9.5	6.4	1.10	16621	X I	I-14	-
	0905	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	29.5	14.2	7.3	1.90	16032	X	I-14	-
	0906	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	AN	-	28.8	19.2	6.5	3.11	16649	X I	I-13	-
	0907	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	(31.4)	(13.0)	(9.0)	(2.88)	16037	X	J-14	-
	0908	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	40.9	20.0	11.0	7.70	16276	X	I-14	-
	0909	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	(49.5)	(22.0)	(15.0)	(10.24)	16070	X	I-14	-
	0910	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	19.8	11.9	10.0	1.85	16221	X	I-14	-
	0911	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	20.1	13.8	14.1	3.46	16195	X I	I-14	-
	0912	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	18.3	13.0	12.0	3.24	16081	X	I-14	-
	0913	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	19.2	14.6	11.1	2.79	16591	X I	I-14	-
210	0914	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	28.4	21.2	15.5	8.07	16313	X I	I-14	-
	0915	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	23.6	17.9	11.0	3.39	16383	X I	I-14	-
	0916	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	16.6	18.0	16.0	4.20	16592	X I	I-14	-
	0917	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	30.7	20.5	12.0	6.55	16293	X I	I-14	-
	0918	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	CC	-	(20.4)	(12.7)	(4.0)	(0.74)	16280	X	I-14	-
	0919	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(19.5)	(15.3)	(6.1)	(1.66)	16049	X	J-14	-
	0920	石器	楔形石器	-	IV	外	外	B5	OB1	-	22.2	15.6	6.0	1.94	16051	X	J-14	-
	0921	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B5	SH	-	(26.6)	(15.7)	(4.4)	(1.51)	16194	X I	I-14	-
	0922	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	CC	-	26.8	16.4	10.0	4.18	16035	X	J-14	-
	0923	剥片	-	-	IV	外	外	B5	CC	-	39.3	14.9	10.2	5.20	16696	X I	J-13	-
	0924	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B5	OB1	-	14.6	7.2	3.3	0.15	16225	X	I-14	-
	0925	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B5	OB3	-	(10.1)	(14.8)	(3.1)	(0.43)	16623	X I	I-14	-
	0926	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B5	OB1	-	14.4	10.3	4.1	0.44	16072	X	I-14	-
	0927	剥片	-	-	IV	外	外	B5	SH	-	25.0	14.5	5.6	1.88	16062	X I	I-14	-
	0928	剥片	-	-	IV	外	外	B5	SH	-	37.3	34.8	11.2	8.94	16260	X	J-14	-



第213図 第IV文化層第1エリア遺物出土状況図

第1エリア(第213図, 第214, 215図)

E, F-16, 17区に分布し, 第6から第10の5つのブロックを構成する。

第6ブロックは, 黒曜石Ⅱ-A類に黒曜石Ⅰ類を1点含む石材利用がみられる。

第7ブロックの石材構成は, 黒曜石Ⅱ-A類が主体で黒曜石Ⅰ類が1点含まれる。

第8ブロックと第9ブロックは, 黒曜石Ⅱ-A類の石材利用がみられる。

第10ブロックの石材も黒曜石Ⅱ-A類主体であるが, 黒曜石Ⅰ類を1点, 黒曜石Ⅲ類を3点含んでいる。

器種構成は, 細石刃10点(0934~0943), 細石核1点(0944), ナイフ形石器6点(0945~0950), スクレイパー1点(0957), 二次加工のある剥片1点(0954)の他微細剥離痕のある剥片2点(0956, 0951)等である。

細石刃は中間部が無く, 頭部片と尾部を欠損したものが目立つ。使用石材は, 0942が黒曜石Ⅱ-A類で他の9点は黒曜石Ⅲ類である。

0944の細石核は黒曜石Ⅲ類を使用し, 円錐形で全周が

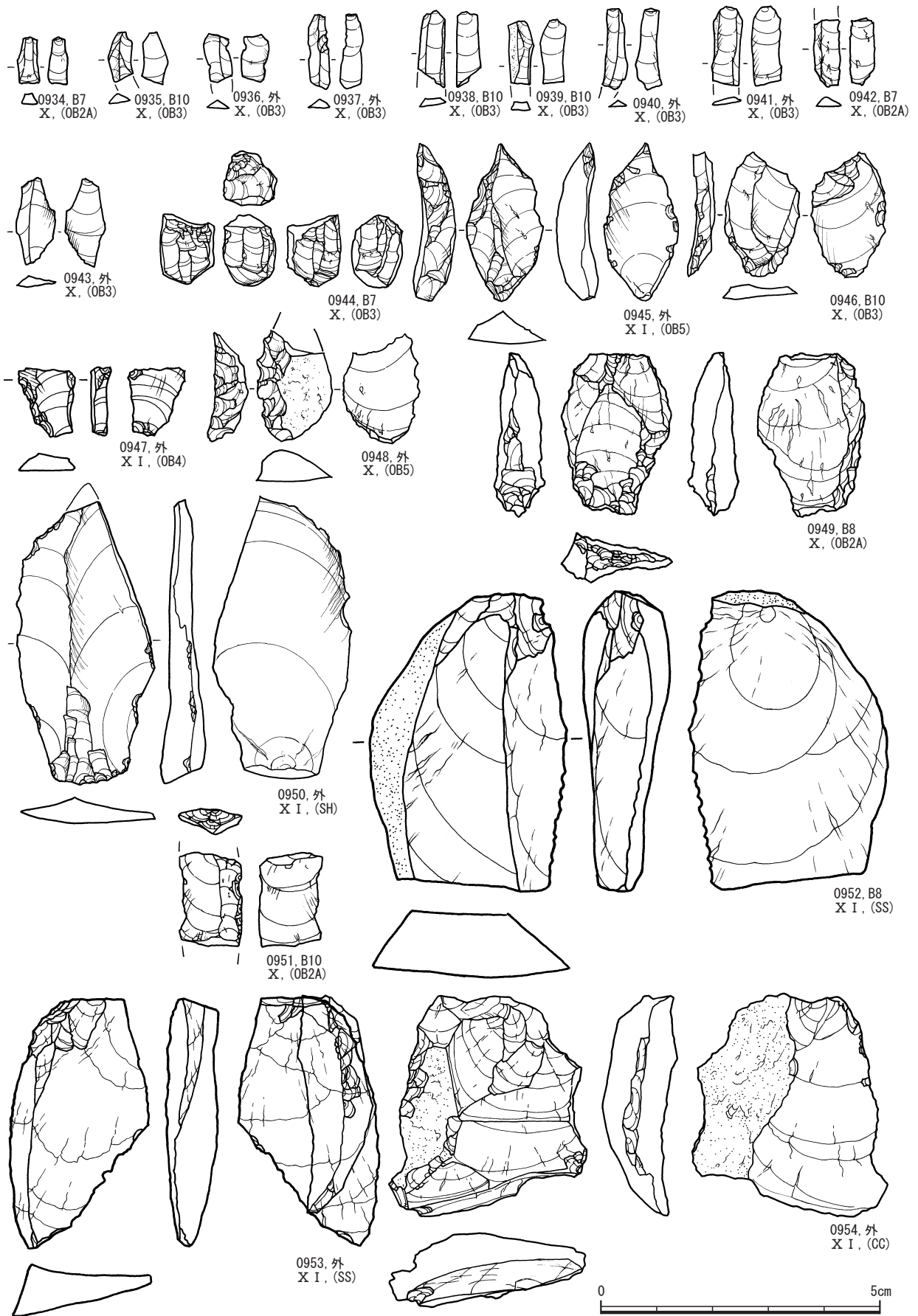
作業面の対象となる。

ナイフ形石器の0945は先端部の一部に, 0946, 0949, 0950は基部に, 0948は一側縁に刃潰し加工がみられる。0949, 0950以外は, 小型ナイフ形石器と区分できる。0950に使用した縦長剥片は単剥離打面で, 良質の頁岩を用いている。他のナイフ形石器も, 剥離面観察からは基本的に縦長剥片を使用していると判断できる。

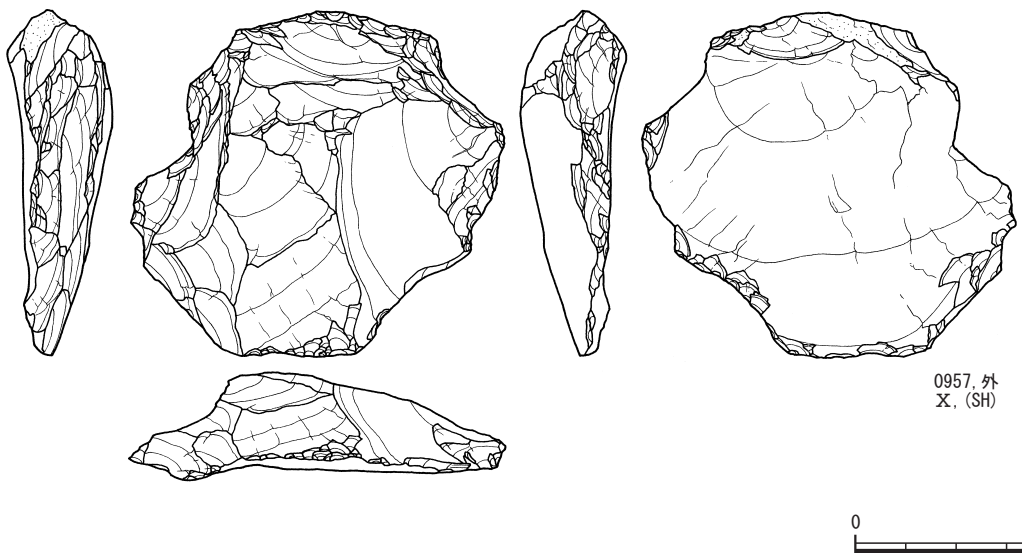
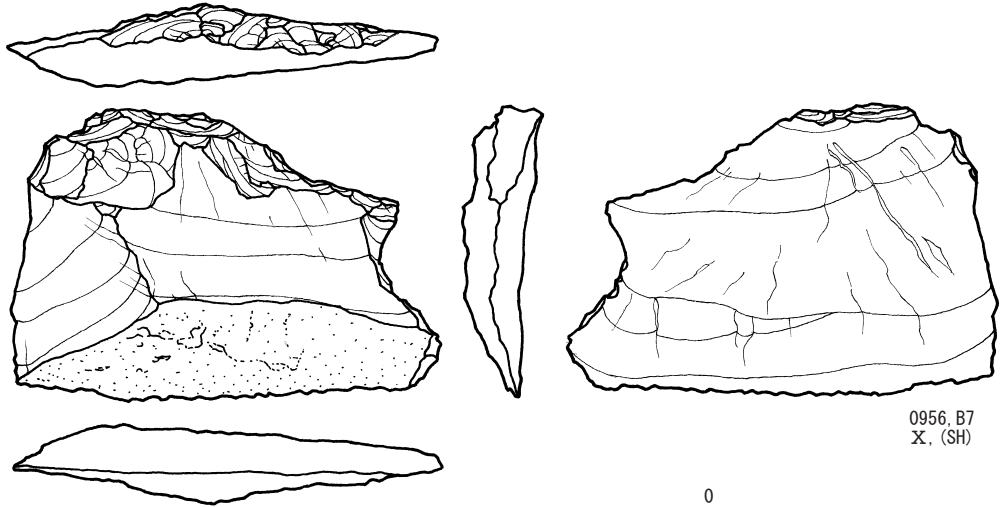
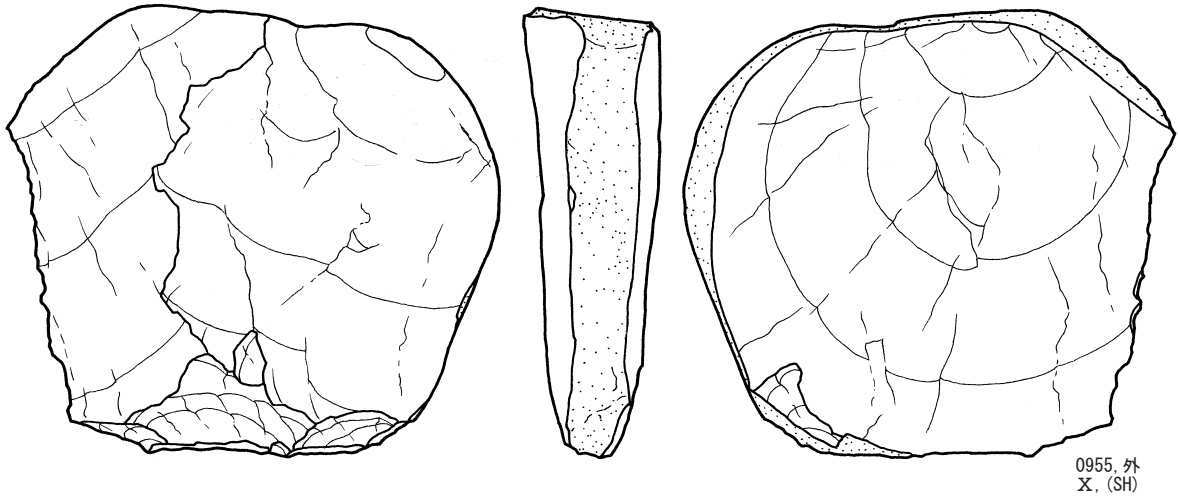
0957のスクレイパーは, 剥片のほぼ全周に削器状の刃部を残している。

第62表 第IV文化層第5ブロック出土石器観察表(2)

挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
211	0929	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	SH	-	67.5	42.9	19.5	38.55	16087	X I	I-14	-
	0930	石器	スクレイパー	-	IV	外	外	B5	SH	-	61.7	78.8	22.0	86.42	16389	X I	I-14	-
212	0931	石器	ハンマー	-	IV	外	外	B5	SS	-	54.3	48.0	30.0	109.57	16354	X I	J-14	-
	0932	石器	ハンマー	-	IV	外	外	B5	AN	-	64.8	53.6	41.6	139.30	16241	X I	J-14	-
	0933	石器	ハンマー	-	IV	外	外	B5	AN	-	62.5	56.6	49.8	218.70	16250	X I	J-14	-



第214図 第IV文化層第1エリア出土石器実測図(1)



第215図 第IV文化層第1エリア出土石器実測図(2)

エリア外ブロック外 (第216～219図)

細石刃 6 点 (0958～0963), 細石核 1 点 (0966), 残核 1 点 (0965), ナイフ形石器 12 点 (0967～0975, 0978, 0979, 1000), 三稜尖頭器 6 点 (0977, 0980～0982, 0984, 1002), 二次加工のある剥片 6 点 (0976, 0985, 0990～0992, 0999), ハンマーストーン 1 点 (1003), 磨石 1 点 (1004) 等を確認している。

細石刃と細石核の石材に関しては, 細石刃0958と0963が黒耀石IV類, 他の4点は黒耀石I類を使用し, 細石核と残核が黒耀石I類であることから, 黒耀石I類が優先するとみられる。

細石核は厳密に区分すると作業面再生剥片と言える。

ナイフ形石器の0967～0969, 1000は, 不定形剥片素材の特徴を活かした小型ナイフ形石器である。0970～0972は基部加工, 0973は両側縁加工, 0975は部分加工となる。0979は断面三角形の厚手の剥片を使用し, 基部と一側縁

に急角度の刃潰し加工を施している。0970, 0974, 0979の3点は頁岩を使用し, 安定した縦長剥片を確保している。

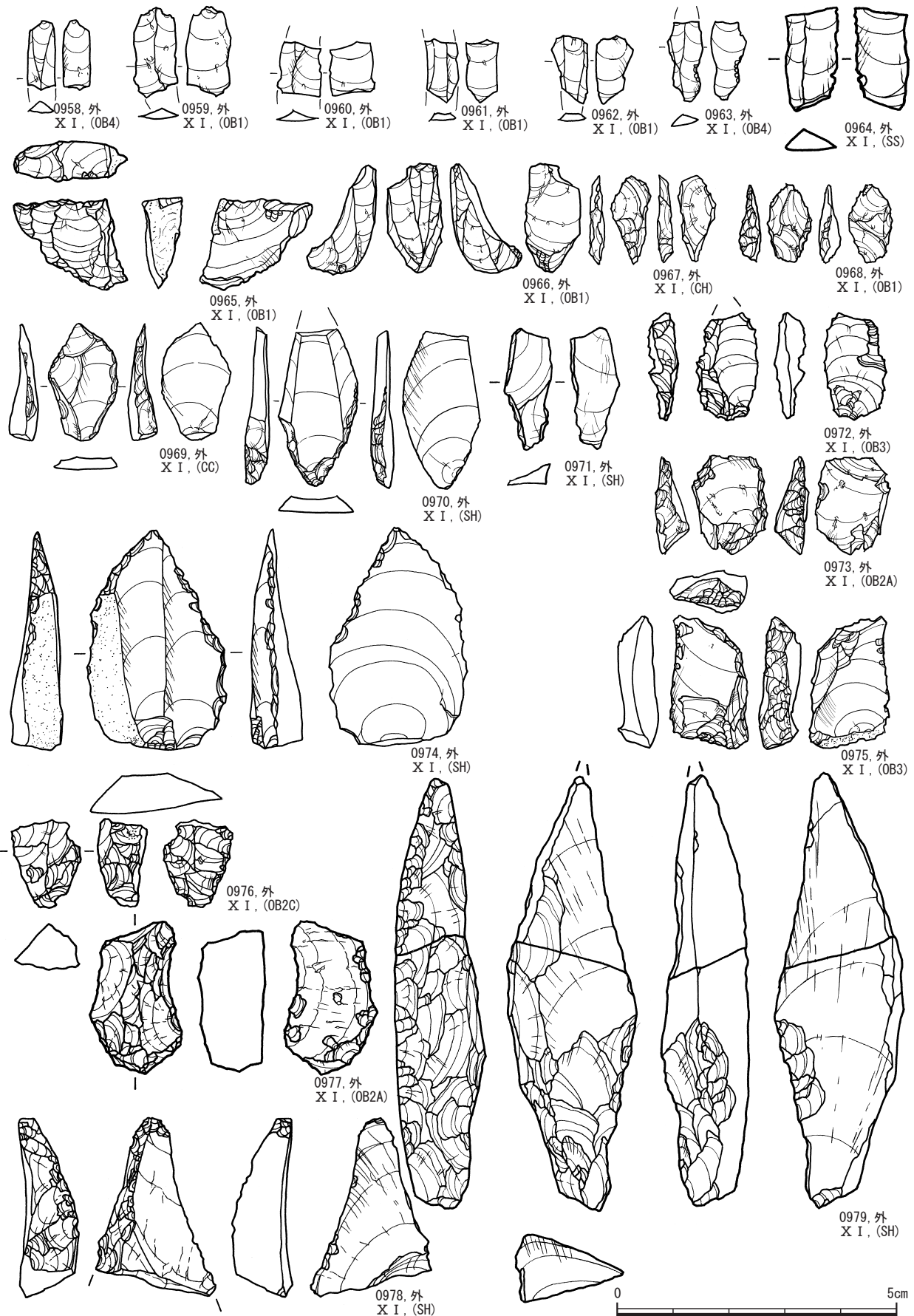
三稜尖頭器0982は下端部の一部を欠落するが, 稜上調整も丁寧に行い完成品に近いとみられる。00981は腹面の打点を残したままで, 中央部の稜上剥離で器高を減少している。0984は打瘤の除去は行っているが, 左右非対称で, おそらく製作途上とみられる。0980は基部破片品, 1002は製作途上とみられる。

磨石とした1004は, 円礫の側縁部は敲打で使用し, 正面と裏面には摩耗面が残される。

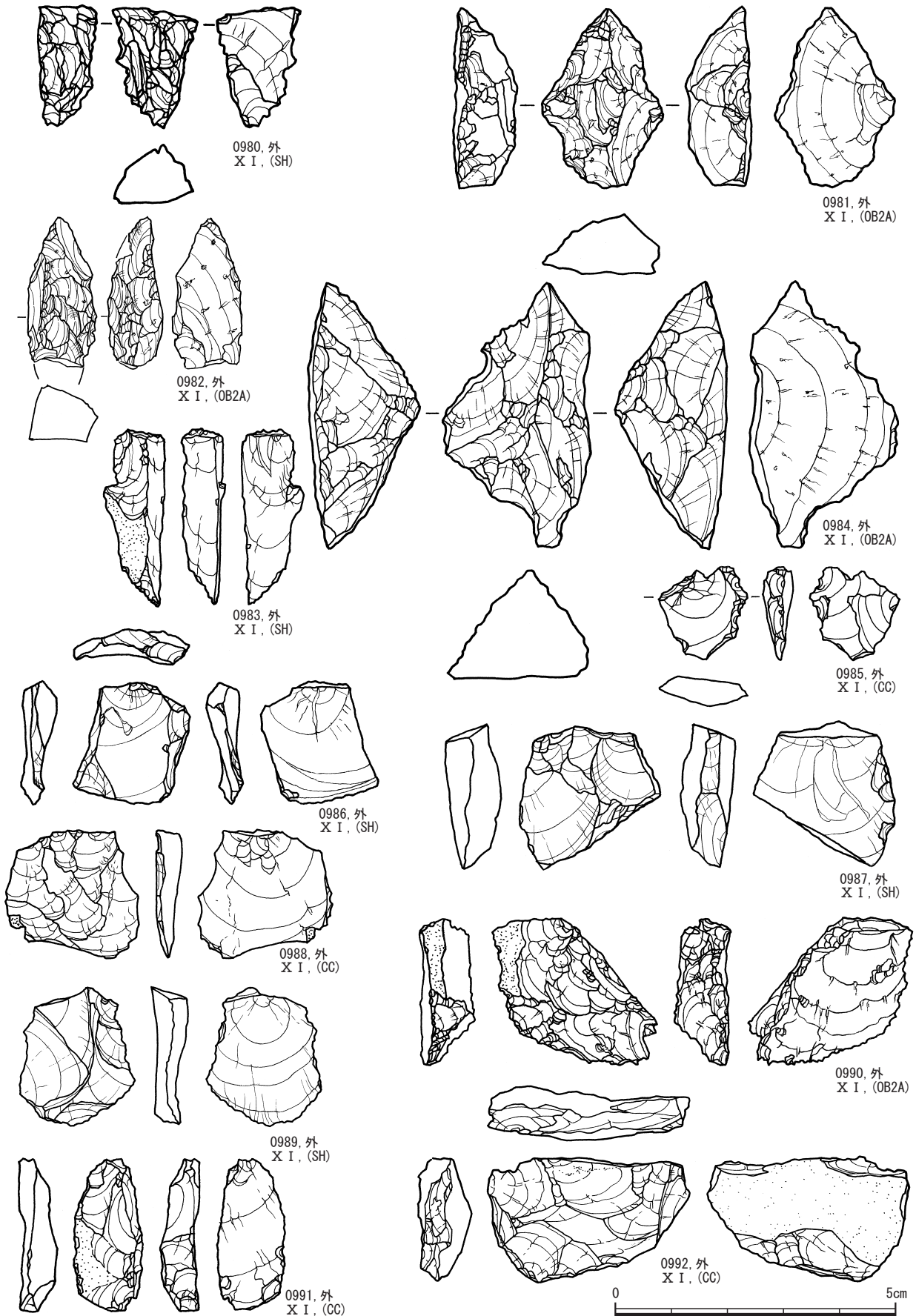
細石器, 不定形剥片の小型ナイフ形石器, 縦長剥片のナイフ形石器, 大型ナイフ形石器, 三稜尖頭器と多彩な器種構成である。エリア外の広い範囲からの出土で, それぞれの関係については今後の課題であろう。

第63表 第IV文化層第1エリア出土石器観察表

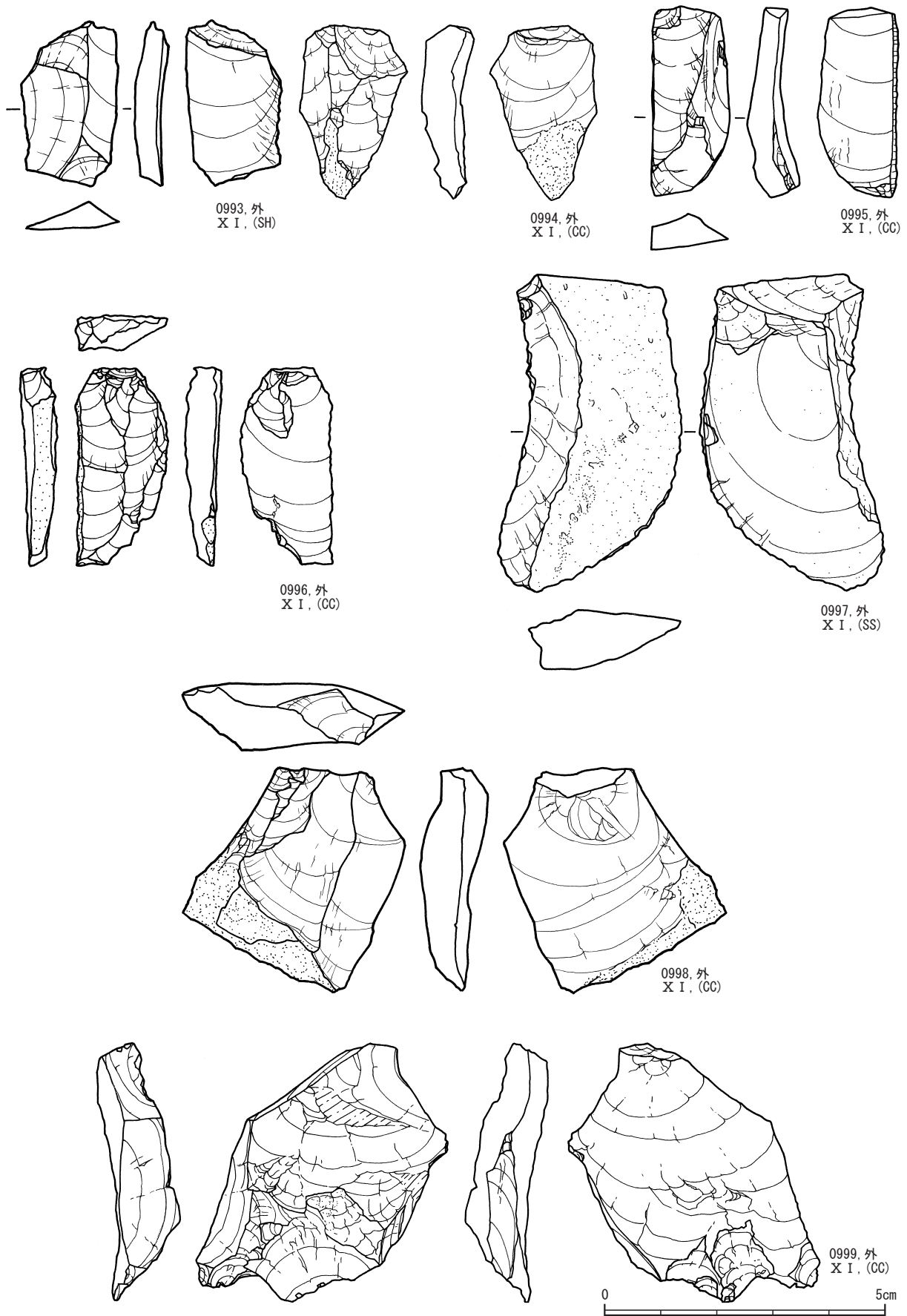
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
214	0934	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B7	OB2	A	8.5	4.2	1.8	0.05	15324	X	F-16	-
	0935	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B10	OB3	-	(9.1)	(4.7)	(1.6)	(0.05)	14835	X	F-17	-
	0936	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	OB3	-	(8.9)	(5.3)	(1.2)	(0.05)	14744	X	F-17	-
	0937	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	OB3	-	13.6	4.1	1.7	0.06	14846	X	F-16	-
	0938	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B10	OB3	-	(14.0)	(5.0)	(1.6)	(0.09)	14837	X	F-17	-
	0939	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B10	OB3	-	(11.5)	(4.8)	(1.6)	(0.09)	14834	X	F-17	-
	0940	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	OB3	-	(14.6)	(4.8)	(1.1)	(0.05)	14842	X	F-16	-
	0941	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	OB3	-	(14.3)	(5.7)	(1.5)	(0.12)	14739	X	F-17	-
	0942	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B7	OB2	A	(12.1)	(5.0)	(1.5)	(0.08)	14927	X	F-16	-
	0943	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	OB3	-	15.7	7.2	1.8	0.15	14869	X	F-16	-
	0944	石核	細石核	-	IV	外	A1	B7	OB3	-	13.0	9.7	10.0	1.74	14859	X	F-16	-
	0945	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	OB5	-	28.2	13.4	8.0	1.75	15039	X I	F-16	-
	0946	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	B10	OB3	-	22.3	13.6	5.1	1.07	14839	X	F-16	-
	0947	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	OB4	-	12.5	10.4	4.0	0.42	15048	X I	F-16	-
	0948	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	OB5	-	(20.0)	(13.7)	(7.2)	(1.29)	14853	X	F-16	-
	0949	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	B8	OB2	A	28.9	19.8	9.3	3.45	14877	X	E-16	-
	0950	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	SH	-	(51.0)	(24.4)	(8.1)	(7.32)	16390	X I	F-17	-
	0951	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	A1	B10	OB2	A	(17.0)	(11.4)	(4.2)	(0.77)	14814	X	F-17	-
	0952	剥片	-	-	IV	外	A1	B8	SS	-	53.5	35.6	16.0	30.46	15079	X I	E-16	-
	0953	剥片	-	-	IV	外	A1	外	SS	-	44.9	25.2	10.0	7.96	15044	X I	F-16	-
0954	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	A1	外	CC	-	39.5	35.6	13.8	12.91	15042	X I	F-16	-	
215	0955	剥片	-	-	IV	外	A1	外	SH	-	59.7	64.5	18.4	74.88	15715	X	F-16	-
	0956	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	A1	B7	SH	-	38.8	57.0	11.0	18.55	14978	X	F-16	-
	0957	石器	スクレイパー	-	IV	外	A1	外	SH	-	68.6	74.1	21.0	78.82	15714	X	F-17	-



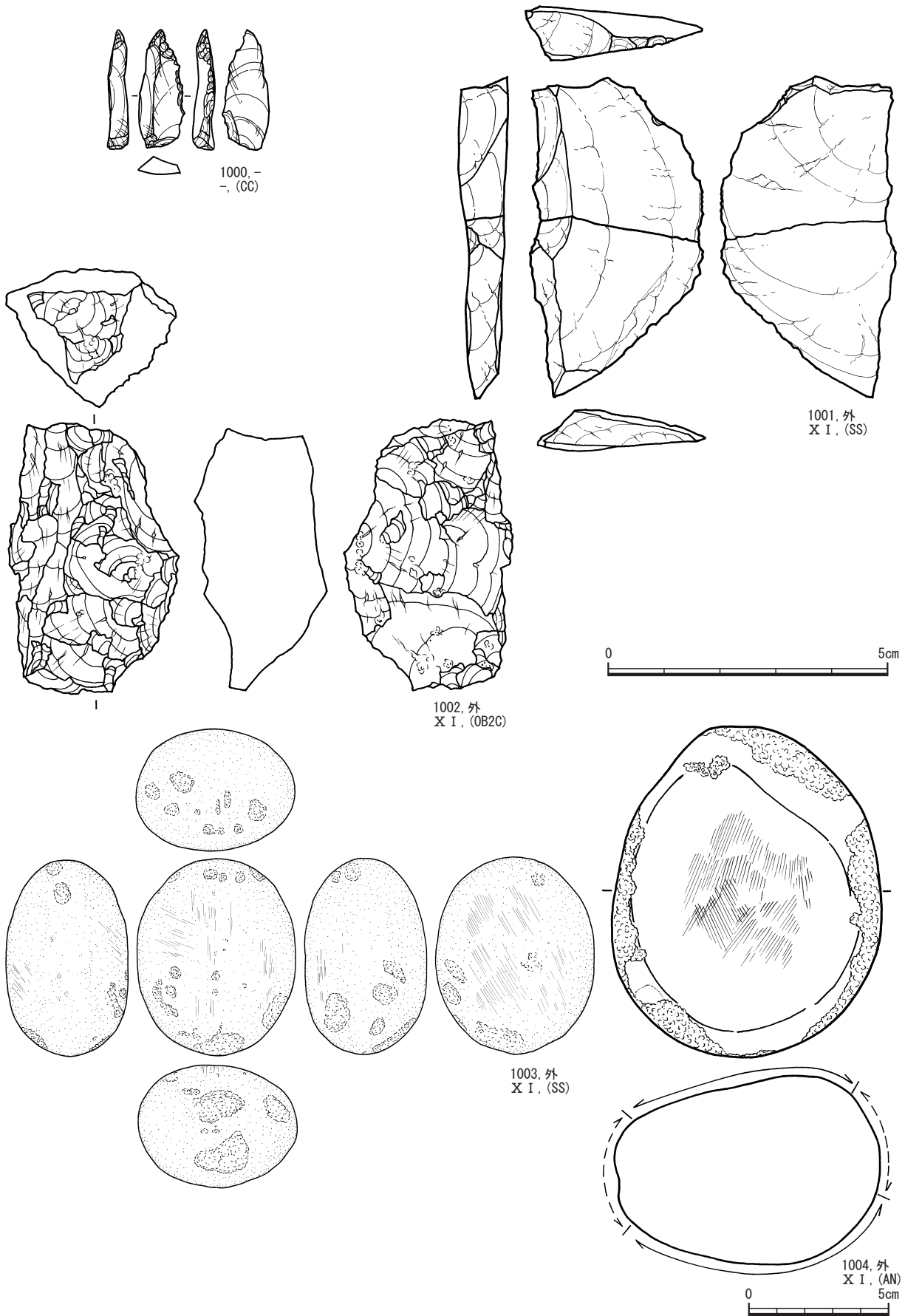
第216図 第四文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(1)



第217図 第四文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(2)



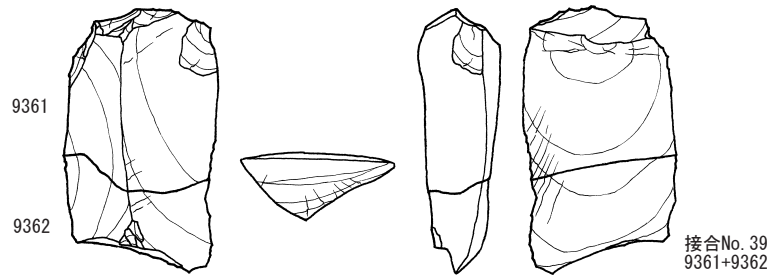
第218図 第四文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(3)



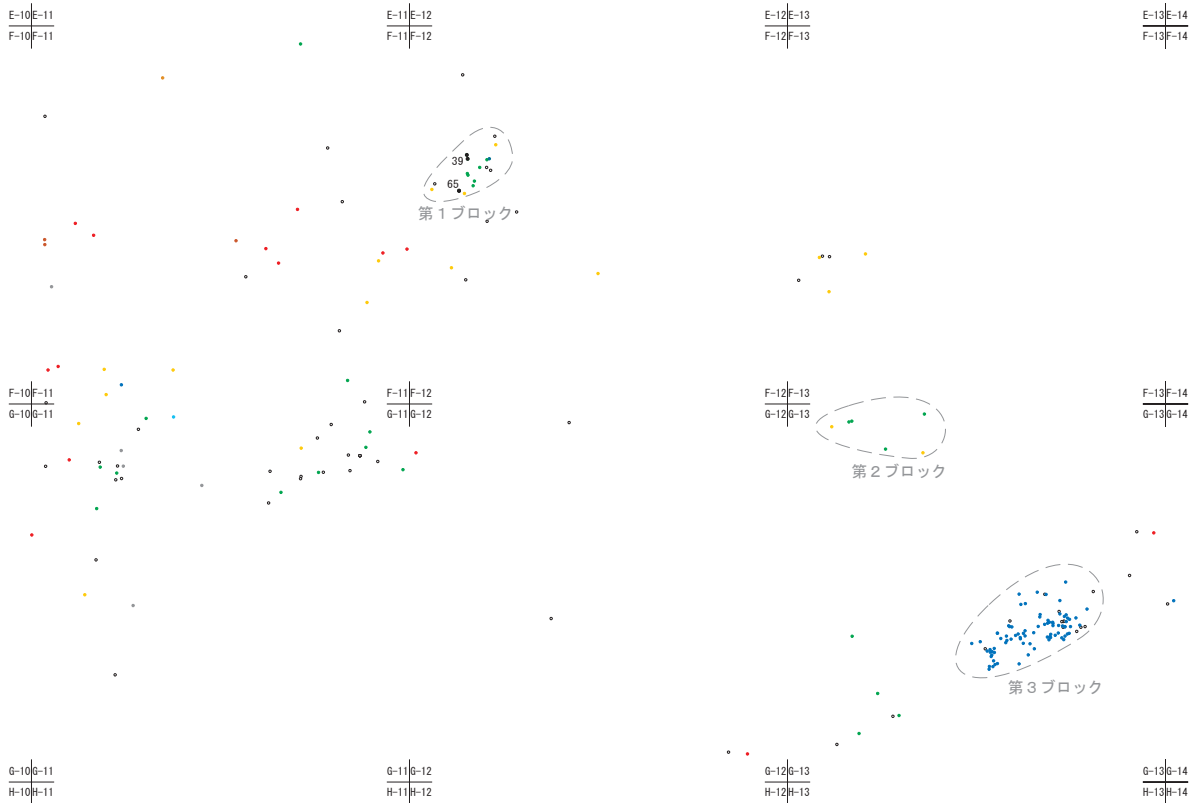
第219図 第IV文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(4)

第64表 第IV文化層エリア外ブロック外出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
216	0958	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB4	-	(12.5)	(5.2)	(1.9)	(0.10)	15485	X I	E-16	-
	0959	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(16.3)	(8.1)	(2.3)	(0.27)	18286	X I	G-14	-
	0960	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(10.1)	(8.1)	(2.0)	(0.16)	17709	X I	G-14	-
	0961	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(11.5)	(6.2)	(1.7)	(0.11)	18318	X I	G-14	-
	0962	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(12.4)	(6.7)	(1.5)	(0.10)	18337	X I	G-14	-
	0963	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB4	-	(14.4)	(6.5)	(1.8)	(0.10)	15486	X I	E-16	-
	0964	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	18.7	9.7	3.4	0.60	15137	X I	E-17	-
	0965	石核	残核	-	IV	外	外	外	OB1	-	16.5	20.6	7.3	1.85	17713	X I	G-14	-
	0966	石核	細石核	-	IV	外	外	外	OB1	-	19.8	10.2	13.0	1.55	8987	X I	-	-
	0967	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	CH	-	16.0	7.4	3.0	0.21	14550	X I	G-14	-
	0968	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	OB1	-	14.1	8.2	4.0	0.31	16875	X I	G-9	-
	0969	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	CC	-	21.0	12.8	5.2	0.97	17787	X I	F-11	-
	0970	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	(23.0)	(14.2)	(4.2)	(1.59)	15083	X I	E-17	-
	0971	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	21.9	8.7	4.5	0.72	19866	X I	G-10	-
	0972	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	OB3	-	(19.3)	(11.3)	(6.0)	(0.85)	8952	X I	H-12	-
	0973	石器	ナイフ形石器	台形石器	IV	外	外	外	OB2	A	17.8	13.7	6.2	1.11	19882	X I	G-10	-
	0974	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	39.4	25.1	9.8	8.15	8790	X I	E-17	-
	0975	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	OB3	-	23.9	14.2	7.8	2.17	20125	X I	G-11	-
	0976	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	OB2	C	15.9	12.7	9.1	1.24	14509	X I	G-14	-
	0977	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	27.5	16.8	12.0	4.89	17768	X I	F-11	-
0978	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	(31.9)	(21.6)	(10.3)	(4.06)	16760	X I	F-11	-	
0979	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	(77.8)	(23.7)	(16.1)	(20.91)	17803	X I	F-11	-	
217	0980	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	SH	-	21.7	15.4	11.0	3.30	18818	X I	H-14	-
	0981	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	32.1	21.9	12.1	5.83	17825	X I	F-11	-
	0982	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	(26.8)	(12.5)	(10.1)	(3.04)	14504	X I	G-14	-
	0983	石核	細石核	-	IV	外	外	外	SH	-	31.7	11.2	8.1	1.87	18250	X I	H-14	-
	0984	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	47.4	26.7	20.1	15.40	17811	X I	F-11	-
	0985	石器	二次加工痕のある剥片	台形石器?	IV	外	外	外	CC	-	16.7	16.1	6.0	1.03	9534	X I	F-13	-
	0986	剥片	-	-	IV	外	外	外	SH	-	21.8	21.1	7.0	1.85	8965	X I	G-13	-
	0987	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	外	SH	-	26.0	25.4	10.0	5.07	17710	X I	G-14	-
	0988	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	22.9	24.0	5.0	2.23	8854	X I	E-17	-
	0989	剥片	-	-	IV	外	外	外	SH	-	24.7	20.8	7.0	2.26	8963	X I	G-13	-
	0990	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	OB2	A	26.3	29.6	10.2	5.43	19944	X I	F-10	-
	0991	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	27.3	12.6	7.1	2.02	10326	X I	F-12	-
	0992	石核	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	22.4	36.2	10.0	7.36	8851	X I	E-17	-
218	0993	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	外	SH	-	29.6	17.6	6.2	2.54	8870	X I	E-17	-
	0994	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	31.0	19.4	9.2	3.68	17806	X I	F-11	-
	0995	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	33.8	14.2	10.0	3.51	16894	X I	G-10	-
	0996	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	35.4	16.9	7.0	3.75	20137	X I	G-11	-
	0997	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	56.7	32.9	12.5	19.30	16762	X I	F-11	-
	0998	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	40.2	39.8	12.5	12.89	18370	X I	G-14	-
	0999	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	46.2	44.9	15.5	17.05	8853	X I	E-17	-
219	1000	石器	ナイフ形石器	-	IV	-	-	-	CC	-	21.6	8.3	4.1	0.61	一括	-	-	-
	1001	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	57.3	31.3	9.2	12.33	8867	X I	E-17	-
	1001	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	57.3	31.3	9.2	12.33	8937	X I	E-24	-
	1002	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	C	48.5	30.6	25.0	33.37	14559	X I	G-14	-
	1003	石器	ハンマー	-	IV	外	外	外	SS	-	70.7	56.9	44.5	235.99	16370	X I	I-14	-
1004	石器	磨石 / 敲石	-	IV	外	外	外	AN	-	118.7	97.0	68.0	1,069.00	14543	X I	G-14	-	



第220図 第IV文化層接合遺物実測図



第221図 第IV文化層接合状況図

接合資料

接合を確認し、図化できた1点を示した。

接合No. 39 (第220図)

頁岩[第1ブロック]

2点の接合で、折断剥片(9361)と(9362)の接合である。
3分割の可能性の高いもので、頭部と中間部の接合で、
尾部は採取されていない。

第5節 第V文化層の調査

1 調査の方法と概要

本遺跡第X層の出土遺物を、一括して第V文化層として取り扱った。第X層は、薩摩火山灰直下(黒褐色ローム)に該当する。

A地区では、遺物分布に有意な集中は認められなかったため、ブロック等の設定は行っていない。B地区ではブロックを一つ設定し、その他の散在する遺物群については一括して取り扱っている。C地区では、集中の傾向が明瞭に観察されることから、エリア設定を行い、2つのブロック(第2ブロック、第3ブロック)を認定した。

2 遺物

A地区(第223図～第225図)

A地区は、G-2区からB-11区方向に帯状に散在しながら分布し、視覚的に集中する様相は把握されない。したがって、X層一括として取り扱い、ユニット、ブロックの設定はしていない。

器種構成は、石鏃6点(1005～1010)、細石核1点(1011)、錐状石器1点(1015)、二次加工のある剥片2点(1017, 1016)、ハンマーストーン1点(1027)、ナイフ形石器2点(1012, 1013)、楔形石器1点(1014)、石核1点(1026)の他微細剥離のある剥片3点(1020, 1021, 1025)、剥片、ブランディングチップからなる。

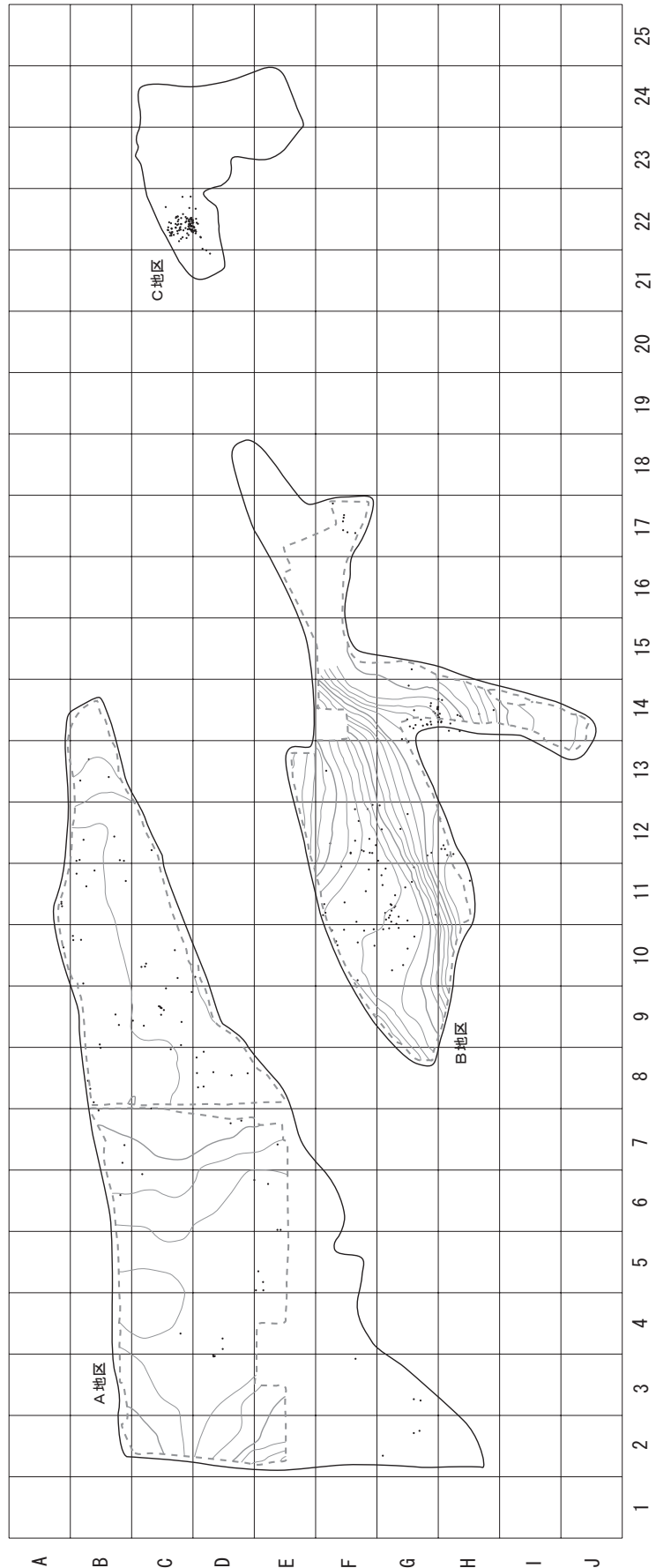
6点の石鏃については、これらが原位置をなすかどうかの課題が残される。ちなみに、本県におけるこれまでの調査データを元に形態比較すると、1005, 1007, 1008は縄文時代早期の特に前半に特徴的な石鏃形態と近似している。1010には礫皮面が残り先端部も厚みが残ることから、製作途上と考える。

細石核の1010はやや厚手の剥片を素材とし、石核形状調整は主に打面方向から行い、打面は素材剥片の特徴から傾斜する。

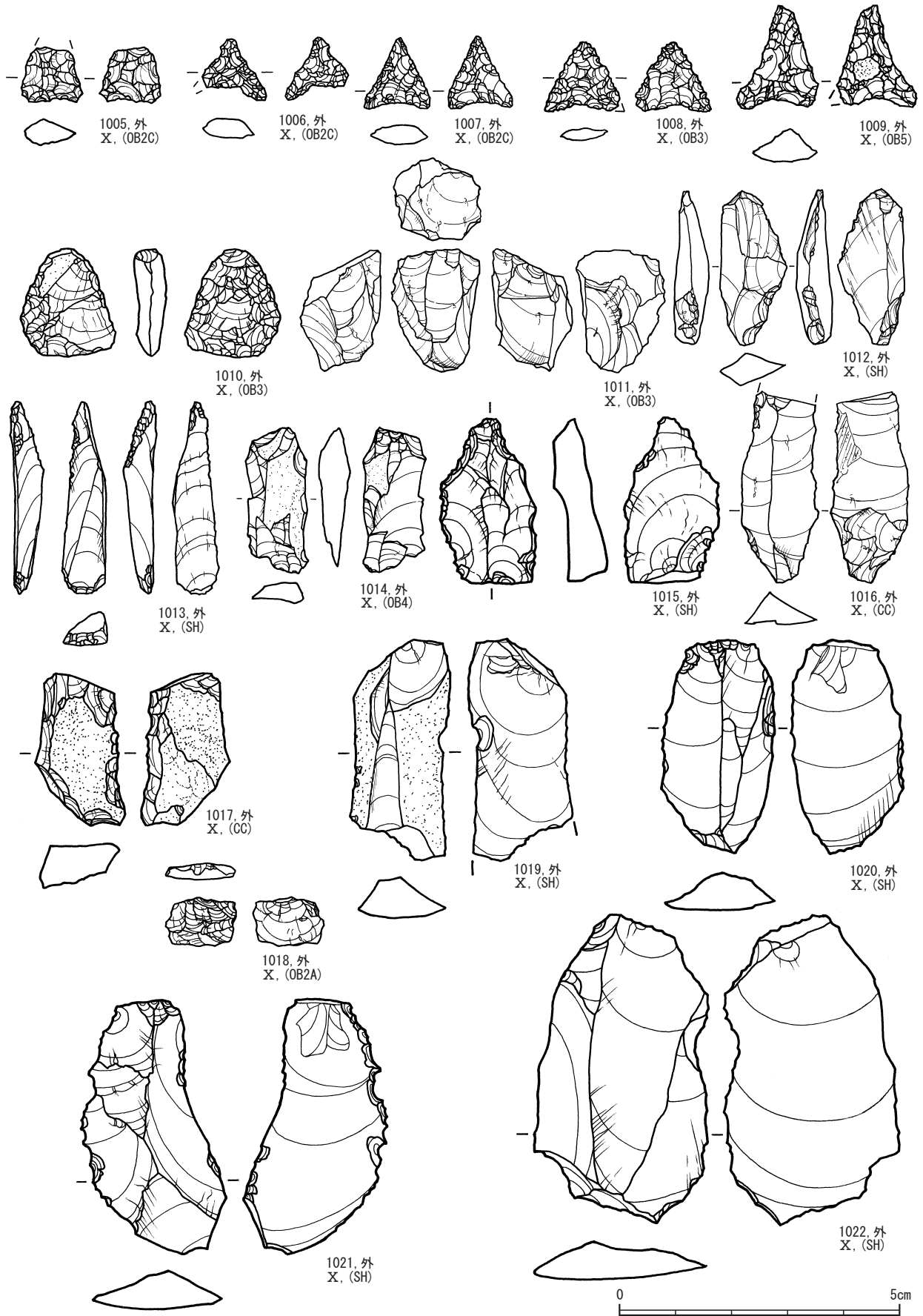
錐状石器とした1015は剥片の先端部に調整加工が集中し、先端部が意識され両面が尖頭状に作られることから判断した。

ナイフ形石器とした1013は細身の剥片を用い、基部と先端部に微細な刃潰しがみられる。1012は小型の不定形剥片の基部に刃潰し加工が認められる。

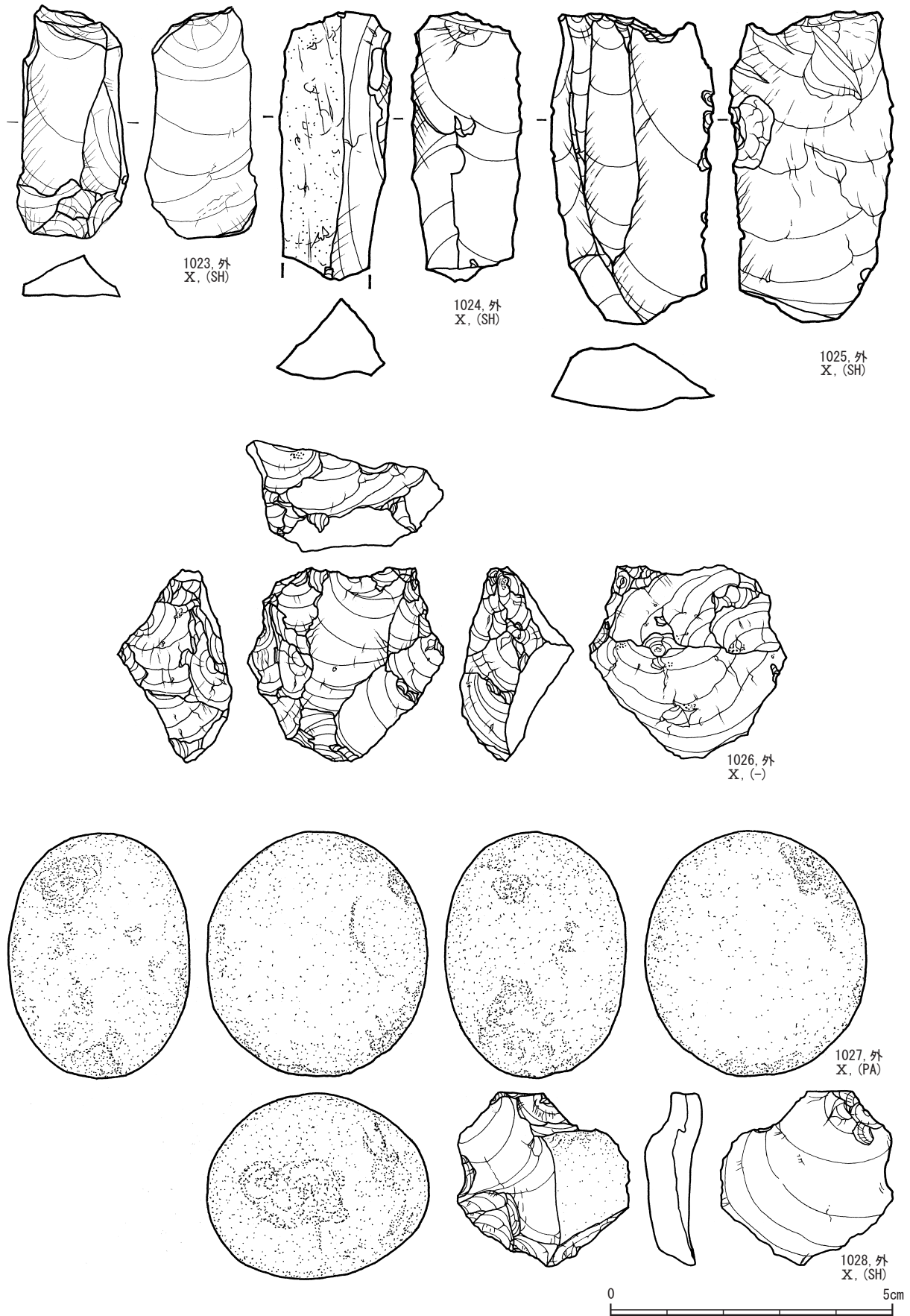
二次加工のある剥片1016は縦長剥片の右側縁上部と下端部、さらに下端部の腹面に平坦剥離がみられる。1017は両側縁に二次加工が



第222図 第V文化層ユニット配置図及び遺構位置図



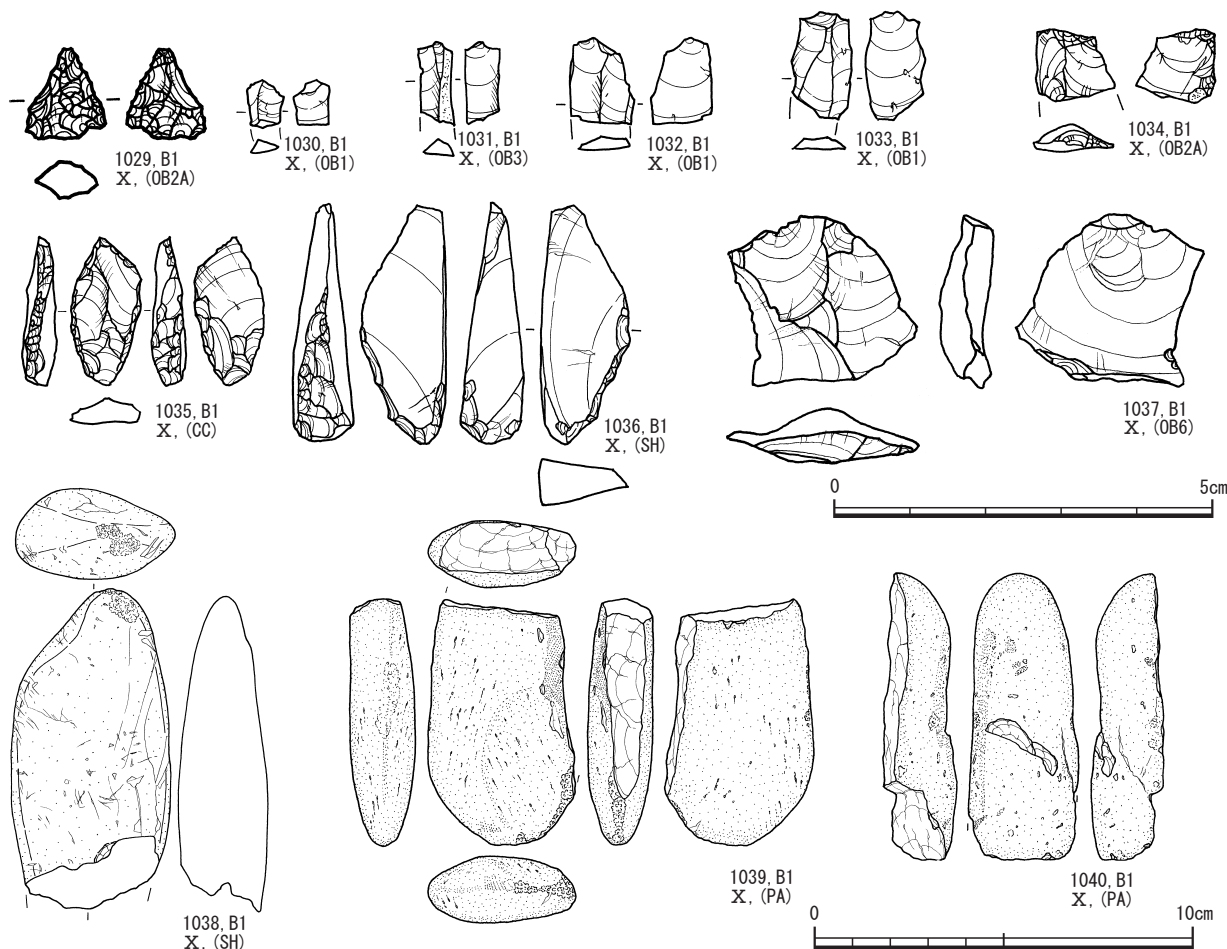
第223图 第V文化层A地区出土石器实测图(1)



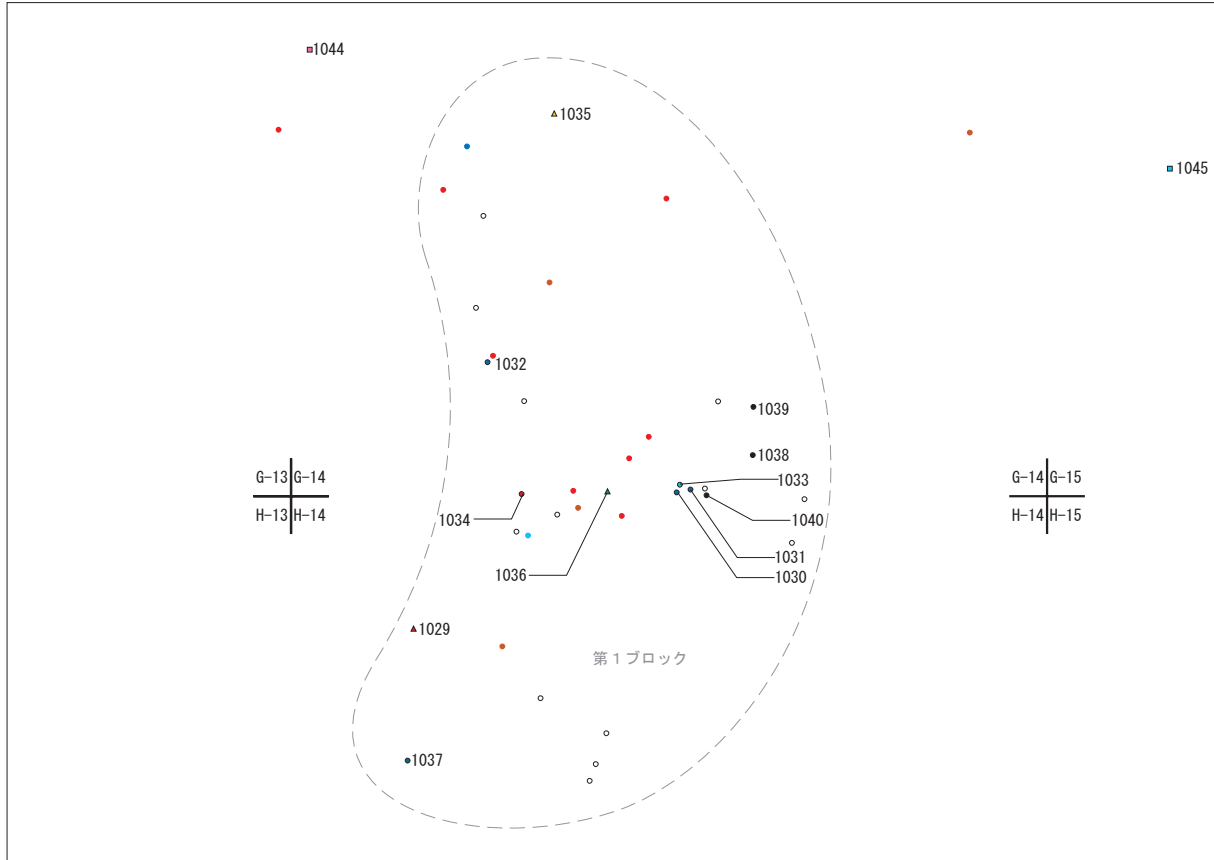
第224图 第V文化层A地区出土石器实测图(2)

第65表 第V文化層A地区出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
223	1005	石器	石鏃	-	V	外	外	外	OB2	C	(10.1)	(11.2)	(4.5)	(0.42)	23262	X	E-6	-
	1006	石器	石鏃	-	V	外	外	外	OB2	C	(11.1)	(12.5)	(3.3)	(0.22)	5496	X	B-13	-
	1007	石器	石鏃	-	V	外	外	外	OB2	C	12.8	12.0	3.4	0.27	5524	X	C-10	-
	1008	石器	石鏃	-	V	外	外	外	OB3	-	(12.6)	(13.5)	2.2	0.24	23305	X	D-7	-
	1009	石器	石鏃	-	V	外	外	外	OB5	-	(18.6)	(14.8)	(6.4)	(0.90)	25102	X	C-8	-
	1010	石器	石鏃	-	V	外	外	外	OB3	-	19.4	17.2	6.0	1.61	23590	X	B-7	-
	1011	石核	細石核	-	V	外	外	外	OB3	-	22.0	15.9	14.5	4.70	5494	X	B-13	-
	1012	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	SH	-	(27.7)	(12.1)	(6.3)	(1.54)	15599	X	G-3	-
	1013	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	SH	-	34.3	8.2	6.2	1.30	23532	X	C-6	-
	1014	石器	楔形石器	-	V	外	外	外	OB4	-	26.2	11.2	7.1	1.72	5525	X	C-10	-
	1015	石器	錐状石器	-	V	外	外	外	SH	-	29.7	17.4	9.7	3.17	5542	X	C-9	-
	1016	石器	二次加工痕のある剥片	-	V	外	外	外	CC	-	(34.1)	(14.0)	(6.7)	(3.08)	5519	X	B-10	-
	1017	石器	二次加工痕のある剥片	-	V	外	外	外	CC	-	27.4	16.3	7.9	3.50	5506	X	B-11	-
	1018	チップ	ブランティングチップ	-	V	外	外	外	OB2	A	8.9	12.8	2.7	0.30	15594	X	F-3	-
	1019	剥片	折断剥片	-	V	外	外	外	SH	-	(39.5)	(18.2)	(9.9)	(5.75)	23753	X	B-7	-
	1020	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	38.2	20.6	7.2	6.03	5694	X	B-8	-
	1021	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	45.5	26.2	7.7	5.88	5540	X	C-9	-
	1022	剥片	-	-	-	V	外	外	外	SH	-	55.2	31.7	8.5	13.84	5518	X	B-10
224	1023	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	41.7	21.8	9.5	6.55	15545	X	G-2	125
	1024	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	(47.7)	(20.3)	(14.2)	(13.47)	5695	X	B-8	-
	1025	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	55.2	29.0	11.8	23.03	5538	X	C-9	-
	1026	石核	-	-	V	外	外	外	-	-	34.3	35	20.5	-	5517	X	B-10	-
	1027	石器	ハンマー	-	V	外	外	外	PA	-	43.5	39.3	32.5	77.02	23165	X	D-3	-
	1028	剥片	-	-	-	V	外	外	外	SH	-	31.0	30.6	10.5	6.34	15542	X	G-2



第225図 第V文化層第1ブロック出土石器実測図



第226図 第V文化層第1ブロック遺物出土状況図

残される。

微細剥離痕のある剥片の1020は均整のとれた縦長剥片の右側縁に、1021は両側縁に、1025は右側縁に微細な剥離痕が観察できる。剥片1022の下端部は折断した可能性がある。

1027のハンマーストーンは、各側縁部に使用痕が明瞭に残る。

1020～1025の存在からは、比較的安定した大型の縦長剥片が取り出されたことが推測できる。

B地区

B地区とした遺物は、F、G-10区から17区にのほぼ東西に分布している。

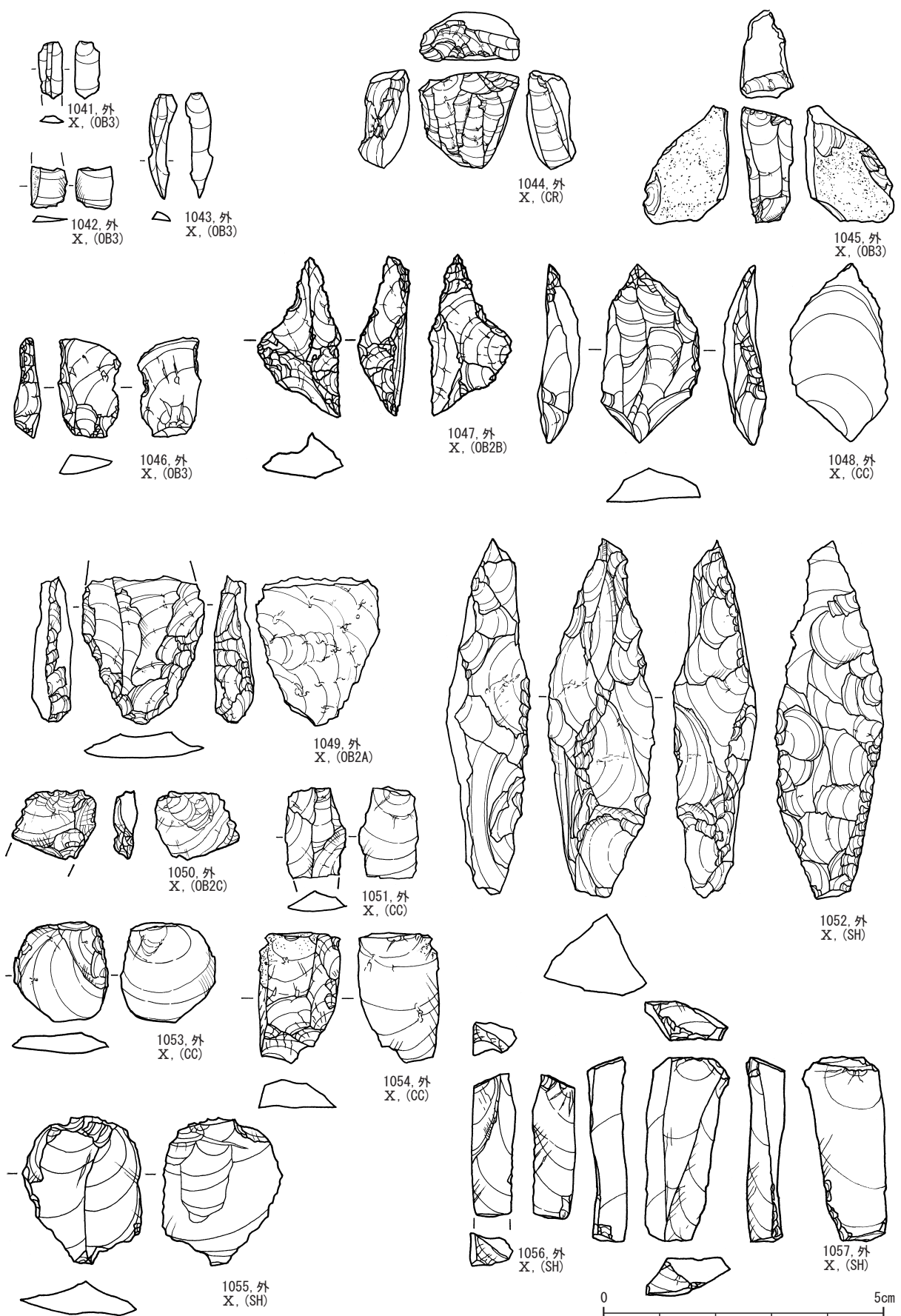
第1ブロック(第226図, 第225図)

G、H-14区に遺物の集中が認められ、第1ブロックと認定した。このブロックでは、頁岩、ギョクズイ、黒耀石II-A類、黒耀石I類、黒耀石III類等の石材が使用されている。

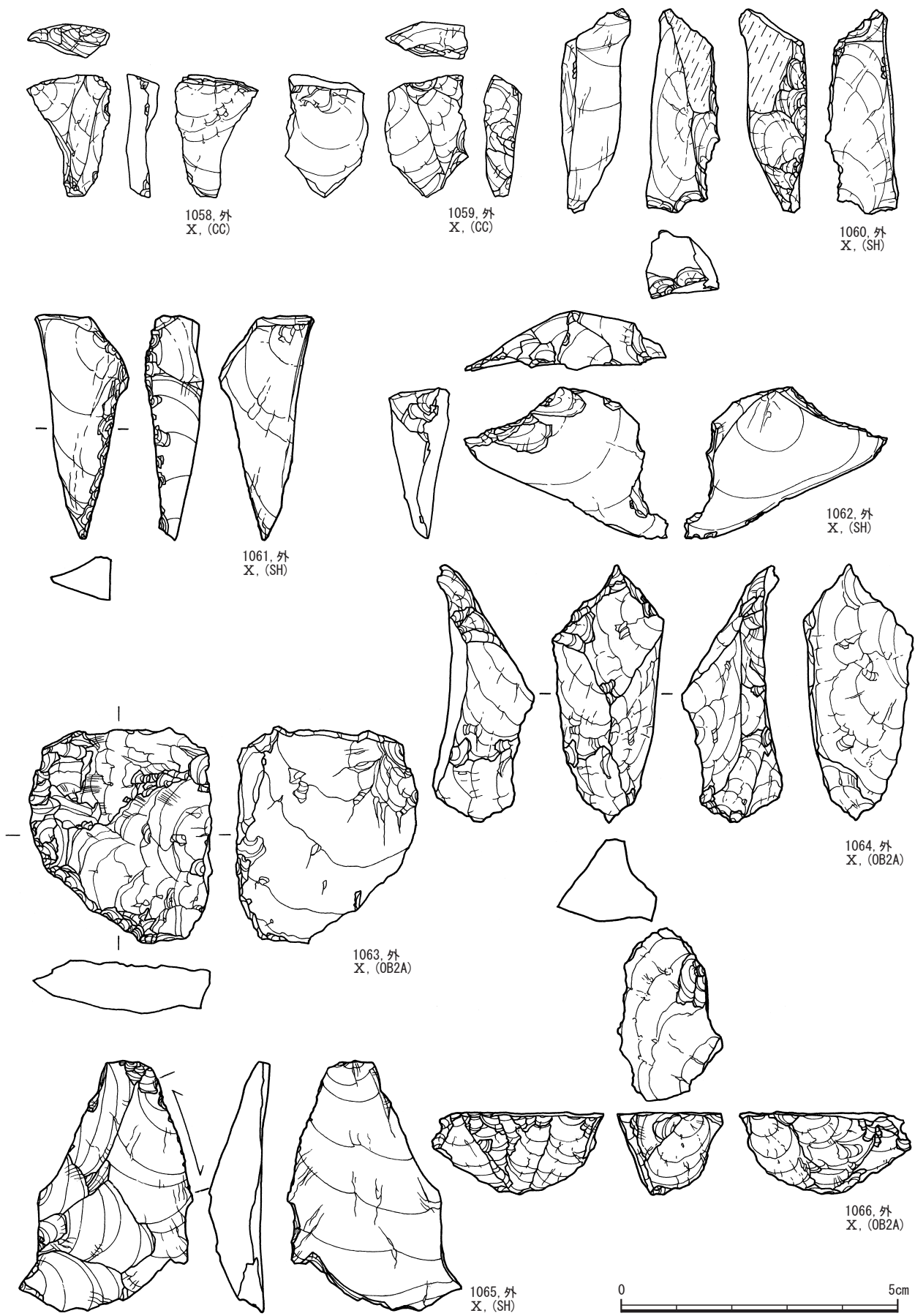
器種構成は、石鏃1点(1029)、細石刃4点(1030～1033)、ナイフ形石器2点(1035, 1036)、ハンマーストーン

第66表 第V文化層第1ブロック出土石器観察表

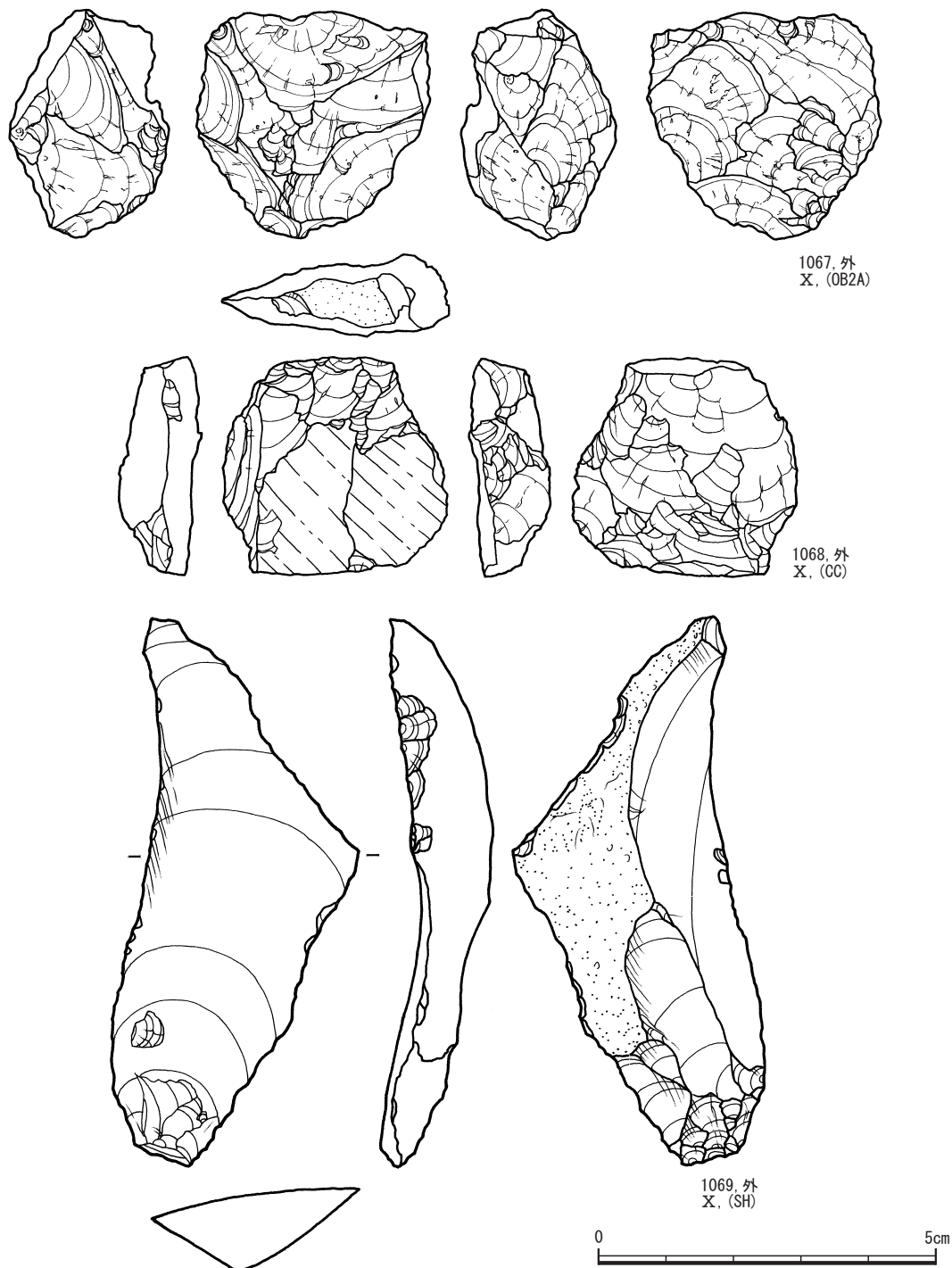
挿図No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
225	1029	石器	石鏃	-	V	外	外	B1	OB2	A	12.3	10.9	4.4	0.35	17731	X	H-14	-
	1030	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	OB1	-	(6.6)	(5.1)	(2.1)	(0.06)	15890	X	G-14	-
	1031	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	OB3	-	(11.2)	(5.1)	(2.7)	(0.10)	15889	X	G-14	-
	1032	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	OB1	-	(11.5)	(8.7)	(2.0)	(0.18)	17717	X	G-14	-
	1033	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	OB1	-	(14.4)	8.2	(2.6)	(0.26)	15888	X	G-14	-
	1034	剥片	折断剥片	-	V	外	外	B1	OB2	A	(9.7)	(10.6)	(3.5)	(0.22)	17725	X	G-14	-
	1035	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	B1	CC	-	19.7	9.6	4.9	0.78	9642	X	G-14	-
	1036	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	B1	SH	-	(31.2)	(12.0)	(8.3)	(2.80)	9653	X	G-14	-
	1037	剥片	折断剥片	-	V	外	外	B1	OB6	-	22.9	26.2	7.2	2.15	17733	X	H-14	-
	1038	石器	ハンマー	-	V	外	外	B1	SH	-	(84.5)	(42.3)	(23.8)	(98.66)	9649	X	G-14	-
	1039	石器	ハンマー	-	V	外	外	B1	PA	-	65.0	39.3	17.3	58.87	9648	X	G-14	-
1040	石器	ハンマー	-	V	外	外	B1	PA	-	75.5	29.4	19.1	49.20	15945	X	G-14	-	



第227図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(1)



第228図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(2)



第229図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(3)

ン3点(1038~1040)と剥片等である。

1029の石鏃は縄文時代早期の特徴を備えており、原位置の判断は厳しい。

4点の細石刃は分割した頭部片で、使用石材は黒耀石Ⅰ類3点、黒耀石Ⅲ類1点である。

1035のナイフ形石器は薄手で剥離方向の異なる剥片を素材とし、二側縁に丁寧な刃潰し加工を施している。また、腹面基部には平坦剥離もみられ、装着を意識したものであろう。1036は横長剥片を素材とした、基部中心の

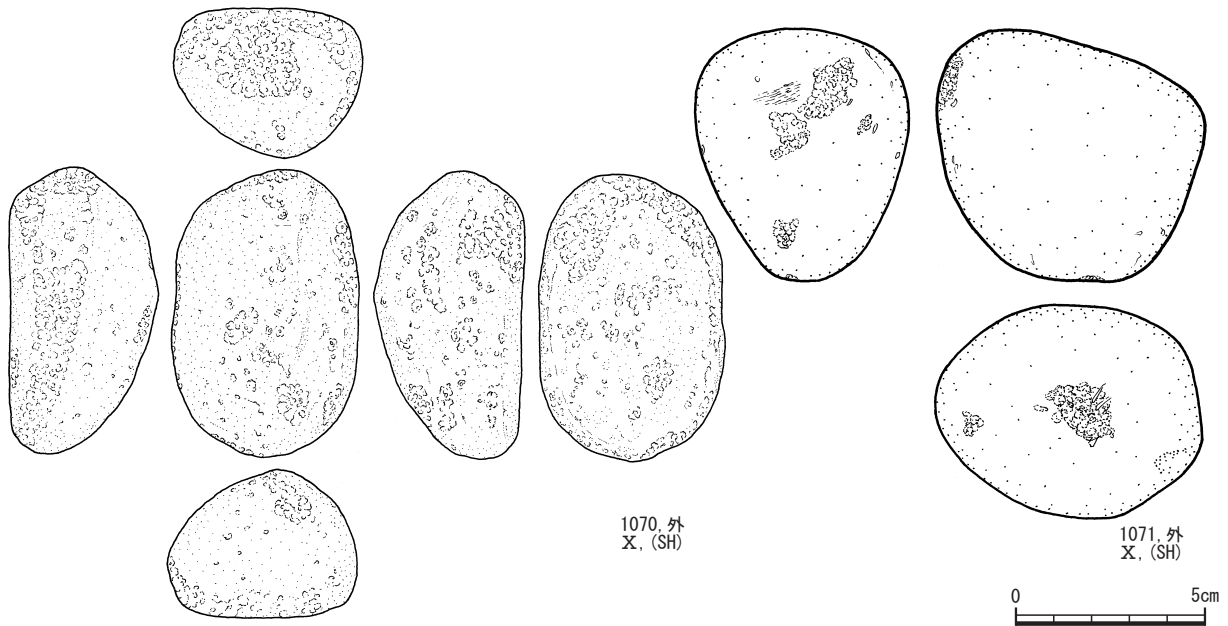
加工である。

欠損した1040のハンマーストーンは側縁に、1039は下端部と側縁に敲打痕が残る。1038には微細な線刻が多数残され、ストーンリチャッターの可能性が高い。

1037は折断剥片の可能性が高い。

B地区ブロック外(第227~230図)

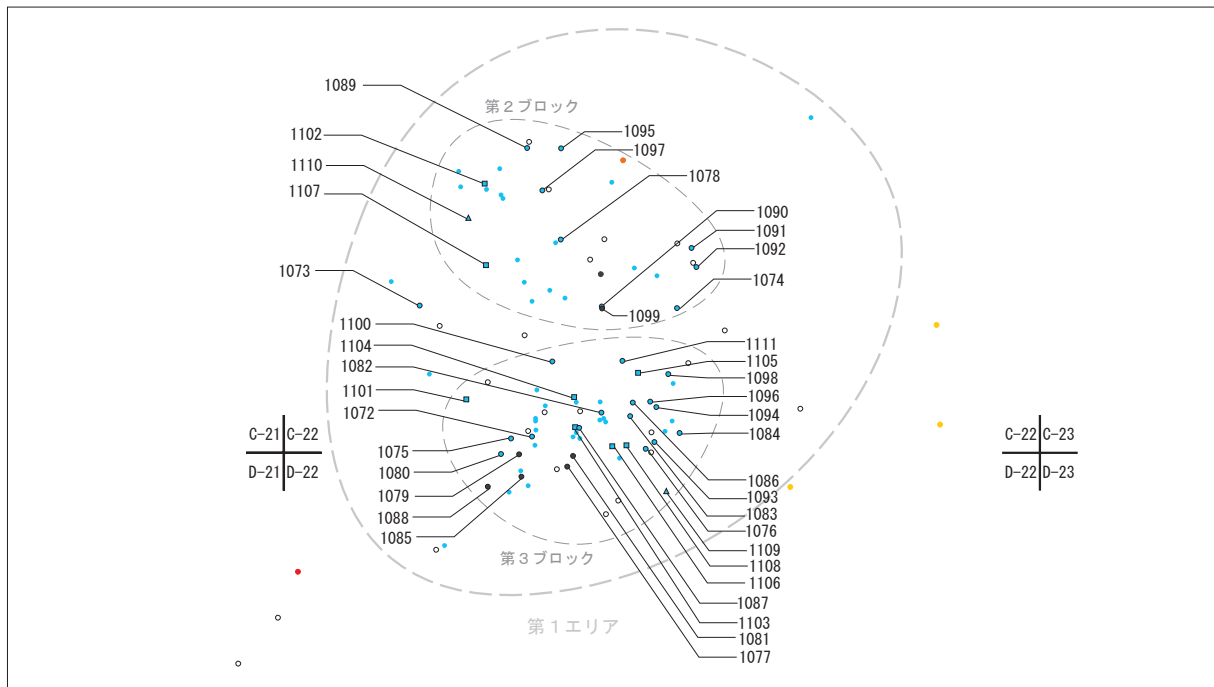
細石刃3点(1041, 1042, 1043)、細石核2点(1044, 0889)、ナイフ形石器3点(1046, 1048, 1049)、三稜尖頭



第230図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(4)

第67表 第V文化層B地区ブロック外出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
227	1041	剥片	細石刃	-	V	外	外	外	OB3	-	(10.3)	(4.5)	(1.4)	(0.06)	16788	X	F-10	-
	1042	剥片	細石刃	-	V	外	外	外	OB3	-	(7.6)	(6.6)	(1.3)	(0.05)	8753	X	H-12	-
	1043	剥片	細石刃	-	V	外	外	外	OB3	-	18.8	5.2	2.5	0.09	19947	X	F-10	-
	1044	石核	細石核	-	V	外	外	外	CR	-	17.5	18.0	9.0	3.64	9050	X	G-14	-
	1045	石核	細石核	-	V	外	外	外	OB3	-	20.8	9.5	15.5	3.47	9697	X	G-15	-
	1046	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	OB3	-	17.8	11.4	5.0	0.69	221	X	F-12	-
	1047	石器	不明	-	V	外	外	外	OB2	B	28.6	15.1	9.7	1.85	17858	X	G-11	-
	1048	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	CC	-	31.9	17.8	7.8	3.30	8746	X	G-12	-
	1049	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	OB2	A	(26.6)	(21.9)	(7.5)	(3.75)	16408	X	F-17	-
	1050	剥片	折断剥片	-	V	外	外	外	OB2	C	(12.5)	(15.1)	(4.5)	(0.57)	16724	X	F-10	-
	1051	剥片	折断剥片	-	V	外	外	外	CC	-	(16.4)	(11.0)	(4.0)	(0.68)	9507	X	F-12	-
	1052	石器	三稜尖頭器	-	V	外	外	外	SH	-	63.9	19.3	15.0	14.11	22227	X	G-11	-
	1053	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	CC	-	17.6	16.9	5.5	1.17	17791	X	F-11	-
	1054	剥片	-	-	V	外	外	外	CC	-	23.4	14.8	6.2	2.15	9510	X	F-12	-
	1055	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	26.5	21.5	6.7	2.99	218	X	F-12	-
1056	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	(25.7)	(8.0)	(6.0)	(1.19)	9567	X	G-12	-	
1057	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	32.8	15.2	7.1	3.23	14737	X	F-17	-	
228	1058	剥片	-	-	V	外	外	外	CC	-	22.1	15.3	6.0	1.17	224	X	F-12	-
	1059	剥片	-	-	V	外	外	外	CC	-	22.1	15.3	7.0	2.08	222	X	F-12	-
	1060	石器	二次加工痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	36.9	13.5	12.6	5.45	8758	X	G-12	-
	1061	石器	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	40.7	17.2	10.9	4.82	8737	X	F-12	-
	1062	剥片	調整剥片	-	V	外	外	外	SH	-	27.5	36.9	11.0	6.20	217	X	F-12	-
	1063	石器	スクレイパー	-	V	外	外	外	OB2	A	39.2	33.2	10.2	13.76	16765	X	F-11	-
	1064	石器	二次加工痕のある剥片	錐状石器	V	外	外	外	OB2	A	46.6	20.4	18.5	10.31	19972	X	G-11	-
	1065	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	45.4	31.5	11.0	8.81	16761	X	F-11	-
1066	石核	-	-	V	外	外	外	OB2	A	15.2	19.3	31.3	7.00	16722	X	F-11	-	
229	1067	石核	-	-	V	外	外	外	OB2	A	33.7	34.8	24.0	20.74	8743	X	F-12	-
	1068	剥片	-	-	V	外	外	外	CC	-	32.5	33.5	12.3	13.65	16410	X	F-17	-
	1069	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	81.3	36.9	17.3	22.25	8727	X	F-13	-
230	1070	石器	ハンマー	-	V	外	外	外	SH	-	76.0	49.8	39.1	177.18	16400	X	F-17	-
	1071	石器	ハンマー	-	V	外	外	外	SH	-	67.0	71.5	56.7	347.00	14892	X	E-16	-



第231図 第V文化層C地区第1エリア遺物出土状況図

器1点(1052), 二次加工のある剥片2点(1060, 1064), 微細剥離痕のある剥片(1053, 1055, 1057, 1061, 1065, 1069), ハンマーストーン2点(1070, 1071)と石核2点(1066, 1067)の他剥片がみられる。

3点の細石刃は、黒耀石I類を用い、分割手法が認められる。

細石核1044は透明度の高い水晶を使用し、裏面の整形剥離方向は観察が難しい。1045の細石核は扁平な角礫を分割して使用し、両側縁には礫皮面がそのまま残る。作業面は素材の制約上狭小である。

ナイフ形石器の1046と1048は部分加工、1049は欠損しているが基部加工とみられる。

三稜尖頭器1052は稜の高い断面三角形の剥片を素材とし、整形加工と調整加工が確認できる。また、腹面は広域に平坦剥離がみられ、素材剥離面は先端部に一部残る。調整加工は、側縁と稜上加えられる。

二次加工のある剥片の1060は、剥片の右側縁に刃潰し加工状の剥離痕を持つ。1064は剥片の先端部に、腹面方向からの小剥離を持つ。錐状石器の用途を想定している。

1066の石核は単剥離打面を持ち、やや幅広の縦長剥片を、1067は求心状に打点が移動しているもので、幅広の不定形剥片を産出したと思われる。

1063のスクレイパーは、剥片の下端部から左側縁に削器状の刃部がみられる。

微細剥離痕のある剥片の1055は右側縁と下端部に、1057と1065は右側縁に、1069は両側縁に剥離痕を観察できる。

2点のハンマーストーンは円礫を素材とし、上下両端や側縁を作業部としている。

C地区第1エリア(第231図, 第232図)

C, D-22区付近に分布している。

細石刃28点(1072~1099), 調整剥片1点(1100), 細石核8点(1101~1108)と微細剥離痕のある剥片3点(1109~1111)を確認できる。

細石刃の使用石材は、黒耀石Ⅲ類が22点、黒耀石Ⅳ類が6点である。細石刃の分割手法の存在が認められるが、頭部片が中心で、中間部は1点採取されている。総じて、規格が小さい感がある。

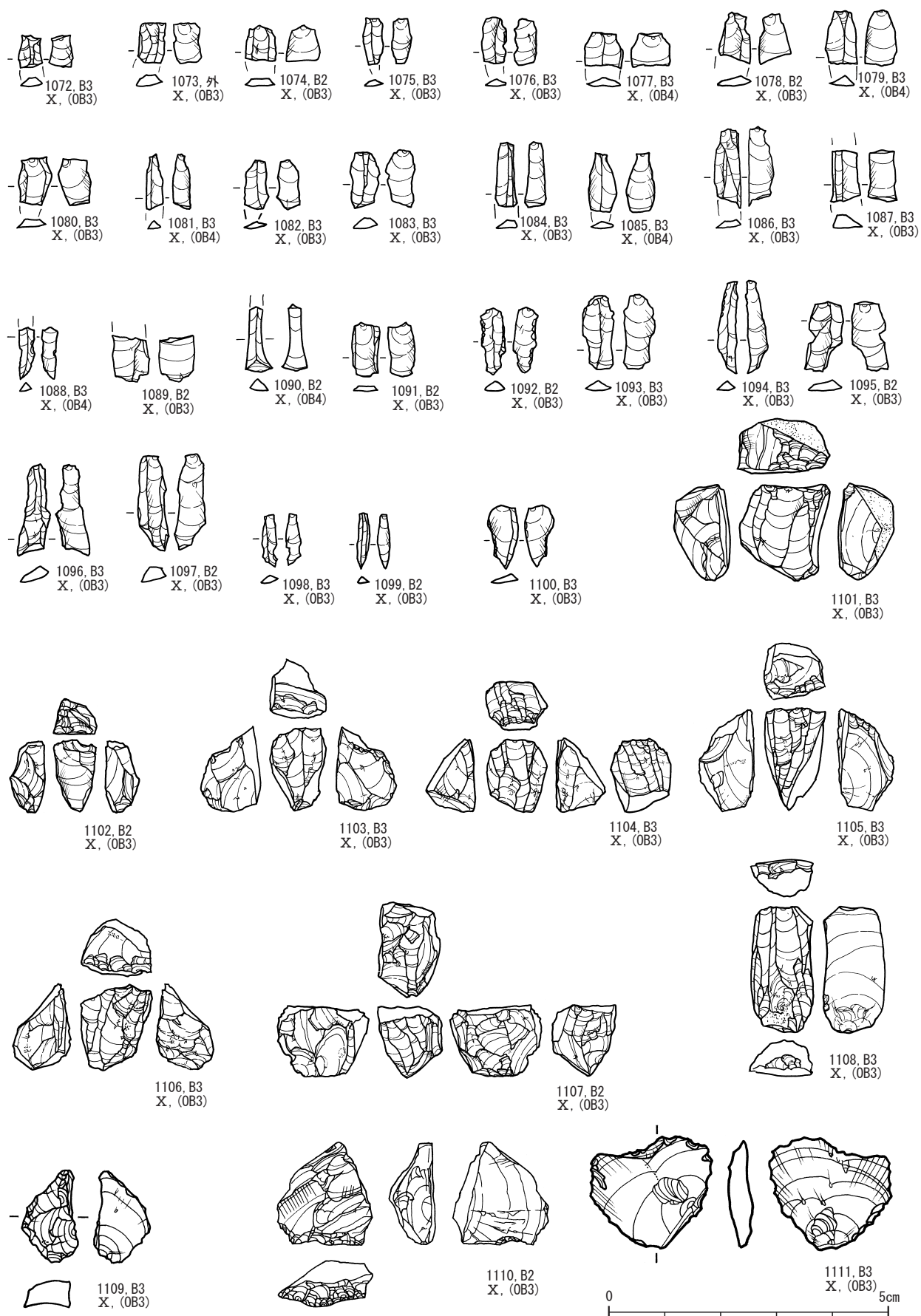
細石核の1101には打面の一部と裏面に礫皮面がみられるが、他は全て剥片素材と判断できる。1105は素材剥離面が多く残されるが、他の6点では打面方向以外の周辺部からの石核整形剥離が観察される。なお、細石核の使用石材は全て、黒耀石Ⅲ類である。

いずれも両側面に剥離面を残しており、石核素材に剥片を用いていることがわかる。0908では、剥離面がそのまま側面を形成し、1103, 1106では底面からの小剥離が観察でき、整形剥離の可能性もある。1104では表裏2面に作業面が設けられている。

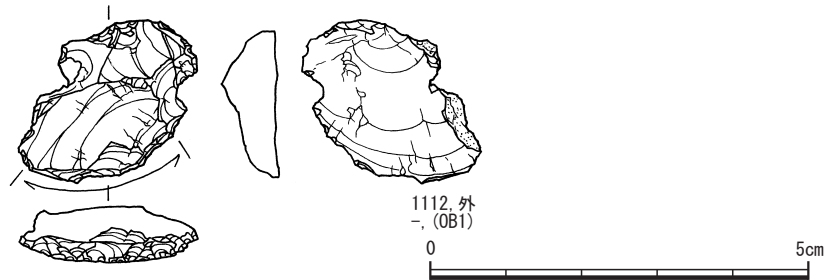
1108は石核で取り扱ったが底面方向からの加撃による、作業面再生剥片であろう。

二次加工のある剥片の1109は刃潰し状の、1110は削器状の加工がみられる。

遺物の組み合わせから、細石刃・細石核が安定してエリアを形成していると判断できる。したがって、この第1エリアは、細石器の典型的なエリアと言える。



第232図 第V文化層C地区第1エリア出土石器実測図



第233図 第V文化層出土位置不明石器実測図

第68表 第V文化層C地区第1エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
232	1072	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(6.0)	(4.5)	(1.2)	(0.02)	8510	X	C-22	-
	1073	剥片	細石刃	-	V	-	A1	外	OB3	-	(7.3)	(5.2)	(2.2)	(0.06)	8457	X	C-22	-
	1074	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	(6.5)	(5.7)	(1.0)	(0.05)	8482	X	C-22	-
	1075	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.5)	(3.9)	(1.0)	(0.02)	8511	X	C-22	-
	1076	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.4)	(4.6)	(0.9)	(0.03)	8495	X	C-22	-
	1077	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(6.7)	(7.1)	(1.8)	(0.06)	8520	X	D-22	-
	1078	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	(9.3)	(5.8)	(1.0)	(0.03)	8474	X	C-22	-
	1079	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(9.7)	(5.9)	(1.4)	(0.07)	8525	X	D-22	-
	1080	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.9)	(6.2)	(1.4)	(0.05)	8526	X	D-22	-
	1081	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(10.1)	(3.2)	(0.9)	(0.02)	8519	X	D-22	-
	1082	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.9)	(4.5)	(0.7)	(0.03)	8498	X	C-22	-
	1083	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	10.2	(5.5)	1.3	0.05	8491	X	C-22	-
	1084	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(11.6)	(4.1)	(1.3)	(0.06)	8540	X	C-22	-
	1085	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(10.7)	(5.2)	(0.9)	(0.04)	8523	X	D-22	-
	1086	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(14.3)	(4.9)	(1.2)	(0.08)	8490	X	C-22	-
	1087	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(9.4)	(5.6)	(1.7)	(0.08)	8502	X	C-22	-
	1088	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(9.4)	(3.1)	(1.0)	(0.02)	8546	X	D-22	-
	1089	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	(8.5)	6.9	(1.1)	(0.05)	8446	X	C-22	-
	1090	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB4	-	(11.8)	5.0	(2.0)	(0.04)	8480	X	C-22	-
	1091	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	9.8	5.2	1.0	0.05	8439	X	C-22	-
	1092	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	12.0	4.6	1.1	0.06	8440	X	C-22	-
	1093	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	13.4	5.7	1.7	0.07	8493	X	C-22	-
	1094	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	16.6	3.8	1.7	0.06	8486	X	C-22	-
	1095	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	12.7	7.1	1.7	0.08	8445	X	C-22	-
	1096	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	16.5	6.1	3.2	0.11	8487	X	C-22	-
	1097	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	17.1	5.8	3.5	0.22	8448	X	C-22	-
	1098	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	9.4	3.0	1.2	0.01	8543	X	C-22	-
	1099	剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	10.1	2.5	0.8	0.01	8481	X	C-22	-
	1100	剥片	調整剥片	-	V	-	A1	B3	OB3	-	11.5	5.6	1.1	0.05	8465	X	C-22	-
	1101	石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	17.4	16.3	10.4	3.72	8550	X	C-22	-
	1102	石核	細石核	-	V	-	A1	B2	OB3	-	13.0	7.9	7.1	0.80	8453	X	C-22	-
	1103	石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	15.0	10.2	10.9	1.64	8503	X	C-22	-
1104	石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	13.2	11.0	9.1	1.48	8501	X	C-22	-	
1105	石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	18.5	11.1	10.1	1.99	8488	X	C-22	-	
1106	石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	15.5	12.9	10.5	1.88	8517	X	C-22	-	
1107	石核	細石核	-	V	-	A1	B2	OB3	-	12.9	11.7	17.0	3.23	8471	X	C-22	-	
1108	石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	22.6	11.3	7.8	2.23	8496	X	C-22	-	
1109	石器	微細剥離痕のある剥片	-	V	-	A1	B3	OB3	-	16.7	10.3	7.3	0.82	8548	X	D-22	-	
1110	石器	微細剥離痕のある剥片	-	V	-	A1	B2	OB3	-	18.6	17.1	8.5	2.08	8456	X	C-22	-	
1111	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	-	A1	B3	OB3	-	20.3	22.0	3.9	1.32	8489	X	C-22	-	

第69表 第V文化層出土位置不明石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
233	1112	石器	スクレイパー	-	V	外	外	外	OB1	-	21.7	23.8	7.3	2.78	一括	-	-	-

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 60
東九州自動車道建設（末吉 IC～国分 IC間）に伴う発掘調査報告書

城ヶ尾遺跡

発行日 平成 15 年 3 月 31 日
発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒 899-4461
鹿児島県国分市上之段 1175 番地 1
印刷 ○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○

